頁
八一　日本海々戰ニ於ル東郷大將ノ戰術（フレマントル）（一九〇五年八月十日發刊「ネーヴアル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）……三百三十
八二　日本海々戰ニ於ル無線電信ノ効用及ヒ速力ノ價値（一九〇五年八月二十五日發刊「エンヂニアリング」所載）……三百三十一
八三　日本海々戰（在東京「タイムス」通信員）（一九〇五年八月二十三日發刊「タイムス」所載）……三百三十五
八四　日本海々戰（兩軍主將ノ心算及ヒ合戰圖調製ノ困難）（一九〇五年八月三十一日發刊「ネーヴアル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）……三百五十四
八五　日本海々戰（一九〇五年十月發刊「エヂンバラ、レヴユー」所載）……三百五十七
八六　日本海々戰ニ於ル水雷艇ノ効果（一九〇五年十一月四日發刊「アーミー、アンド、ネヴヰー、ジヤーナル」所載）……三百七十六
八七　東郷トネルソンノ比較（一九〇五年十二月四日發刊「濠洲レビウ、オフ、レビウス」所載）……三百七十七
八八　日本海々戰（ジヨン、レーランド）……三百八十六
八九　對馬海戰ニ由テ得タル教訓（「英國海軍本部ノ退歩」編者）（一九〇六年二月發刊「ブラツクウツド、マガジン」所載）……三百九十九

明治三十七八年海戰史

第十二部　附錄文書

卷二十二　外人ノ評論

第一章　英國人ノ評論

一　開戰前及ヒ戰役第一期

一　日露兩國ノ戰略（軍事批評家）（一九〇四年一月十九日發刊「タイムス」所載）

一　日本ノ戰略

戰時交戰國カ作戰上如何ナル方針ニ出ツヘキヤヲ推斷セントスルニハ其ノ國民ノ性情ヲ研究シ其ノ國體ヲ知曉シタル後ナラサルヘカラス戰爭ハ數理的ノ科學ニアラスシテ一種ノ技術ナリ又所謂「軍事諜報」ノ蒐集解釋及ヒ判斷ノ結果ナリ今ヤ絶東ニ於テ未曾有ノ大戰起ラントスルニ當リ英國人中ニモ日本人ノ之ニ對スル氣力、忍耐及ヒ謹愼ニ對シテ確固タル意見ヲ吐露シ得ル人士甚タ少ク僅ニ在日本英國領事館ニ多年其ノ職ヲ奉シ其ノ事情ニ精通スル者數名ノ存スルアルノミ故ニ吾人ハ目下切迫セル事件ニ對シテハ吾人ノ既ニ描クル輪廓ノ內部ヲ充實スルヲ得ル好地位ニ達スルマテハ吾人ヨリ進ンテ批評ヲ下サヽルヲ可トス然レトモ日本參謀部ノ面前ニ横ハル軍事問題ニ關シテハ吾人ハ之ヲ言フヲ憚ルノ必要アラス何トナレハ戰略原則ハ古今相異ラス又天下普通ノモノタレハ東京及ヒ聖彼得堡ニ於テ目下討議中ト思ハルヘキ戰略問題ヲ推察シテ兩國參謀部カ如何ナル方針ヲ執ルヘキヲ私議スルハ敢テ日露兩國ノ作戰上ニ何等ノ迷惑ヲ掛クルノ憂アラサレハナリ

凡島國ニ取テ最大緊切ナル戰略上ノ一原則ハ敵艦ノ未タ全ク掃蕩セラレサル海上ニ軍隊ヲ輸送スルノ危險ヲ確認シ決シ

ヲ之ヲ忘ルヘカラサルニ在リ然レハ歐洲ノ一大强國ニ對シテ多年雄圖ヲ懷キ且萬事精究細査ノ特能ヲ有スル日本國民ニシテ海陸共同作戰ニ關スル此ノ一大原則ヲ悟ラサルモノナランヤ故ニ日本ハ一箇師團ノ兵ト雖モ大陸ニ派スルニハ必ス先ツ制海權ヲ獲得セント百方之ヲ努ムルモノト視テ可ナリ日本軍司令官ハ露國軍艦ノ或ハ擊沈セラレ或ハ捕獲セラレ又其ノ羽翼ヲ挫カレテ其ノ港內ニ封鎖サルヽニ至ルマテ遠征軍隊ノ海上輸送ヲ危險ト認ムルヤ明ナリ然レトモ露國主力艦隊ノ態度如何ニ至リテハ其ノ事實上ニ現ルヽ間際マテ高等司令官部ノ嚴密ニ祕スル所ノ軍機タルカ故ニ何人モ豫メ之ヲ確言スルコト能ハス元來露國ハ其ノ版圖ノ宏大及ヒ其ノ海軍ノ優勢ヲ誇ルト同時ニ此ノ敬愛スヘキ日本人ヲ輕侮シテ「黃色邪教徒」ト稱スルニ至レリ故ニ事一タヒ破裂セハ露國軍艦或ハ傲然トシテ港外ニ出動シテ決戰スルニ至ランモ亦知ルヘカラス露國ニシテ此ノ勇斷ヲ採ランカ縱ヒ敗ルヽモ亦世ノ尊敬ヲ博スルニ足ルヘシ露國ハ攻勢主義ヲ其ノ人民各個ノ心裏ニ確固扶植シ又精神教育中ニハ間斷ナク之ヲ鼓吹シ又教科書ノ各卷ニハ必ス之ヲ記載シ以テ此ノ主義ヲ累世傳襲セシカ故ニ列國環視ノ中ニ立チテ此ノ幼齡ナル絕東ノ海軍國ニ對シ一八五四年ノ露土戰爭ニ於ルセバストーポル要塞堅守ノ先例ヲ再演スヘシトハ信セラレサルナリ故ニ其ノ自尊心ニ驅ラレテ彼等ハ出動シ自國港灣ニ敵ヲ誘致シ味方ニ有利ナル位置ヲ擇ヒテ合戰セント努ムルナランモ果シテ然ラハ其ノ戰ハ忽ニシテ決シ其ノ戰果ハ有力ニシテ恐ラクハ最終ノモノタルヘク制海權ノ得喪ハ實ニ此ノ一擧ニ在ラン

然レトモ又一方ヨリ觀察スレハ露國ハトーリントン（編者曰ク一六九〇年六月三十日佛國海軍中將ツールビール伯ハ軍艦七十八隻火船二十二隻ノ一大艦隊ヲ率井英吉利海峽ニ來攻セリ當時英國艦隊ハ和蘭艦隊ト聯合シタレトモ其ノ勢ハ六十隻ニ滿タス海軍中將トーリントン卿之カ司令長官タリ兩軍同海峽ノビーテー、ヘッドニ相見ユルヤ和蘭艦隊全部先鋒トシテ之ニ當リ中時間ヲ經テ後英國艦隊ノ一部隊敵ノ殿隊ト戰ヒシカトーリントン中將直率ノ主力艦隊未タ戰線ニ就カサル內ニ和蘭艦隊ハ敵艦隊全部ノ砲擊ニ暴露シ甚シク損害ヲ被リ其ノ六隻廢艦ト爲リ二將之ニ死セリ然ルニトーリントン中將衆寡敵セサルヲ知リ更ニ戰ヒテ徒ラニ我カ艦隊ノ亡滅ヲ賭センヨリハ一時敵ヲ避クルニ如カスト爲シ東走シテームス河ニ退守セリ中將ハ後ニ軍法會議ノ審問ヲ受ケ無罪ヲ宣告セラレタレトモ其ノ職ヲ免セラレタリ）ヲ學ハンモ亦知ルヘカラス何トナレハ戰艦々隊ハ啻ニ最大威力ノ武器タルノミナラス政治上亦一大要具ナルカ一タヒ破壞セラルレハ長日月ヲ經ルニアラサレハ補充スルコト能ハサルカ故ニ徒ラニ躁急ニ失シテ之ヲ暴殄センカ將來永ク其ノ競爭國ニ對シテ自國海軍ノ弱勢ヲ憂ヘサルヘカラサルニ至ルト同時ニ其ノ同盟國ニハ不安ノ念ヲ起サシメ條約ノ効力ヲ危ウセンモ亦知ルヘカラサレハナリ然レハ露國ハ旅順口ニ於ル主力艦隊ヲ「現存艦隊」トシテ養ヒ置キ陸軍ノ力ニ依テ攻勢ヲ取ラシコトヲ謀ルヘシト觀ルモ亦故ナキニアラサルナリ曩ニ露國ハ旅順口東北方ニ其ノ軍隊ヲ駐屯セシムヘシトノ報アリシカ最近ノ報道ニ據レハ旅順口遼陽間鐵道線路ノ要點ニ軍隊ヲ集中シ以テ清韓兩國ヲ威壓シ旁旅順口ニ來攻セントスル日本軍ニ備ヘント計畫セルコト明ナルニ至レリ露國軍隊ハ斯ク艦隊ト共ニ敵ノ來攻ヲ待ツト同時ニ鴨綠江若クハ同江以南ニ進軍シ韓國ノ獨立保護ヲ口實トシテ之カ軍事的占領ヲ行ハントナスナルヘク又清國ニ對シテハ露國ノ慣用手段ヲ以テ彼ノ黃龍旗ニ其ノ頭ヲ擡クルニ遑アラシメサルノ策ニ出ツルコト亦敢テ難キニアラサルヘシ日本若シ露國ノ爲ス所ニ放任センカ是先ツ其ノ第一著ヲ敵ニ輸スルモノニシテ數週ナラスシテ韓國ハ露國ノ手中ニ落ツヘク又清國ハ其ノ威壓ヲ受ケテ事事其ノ言フ所ニ從ハサルヘカラサルニ至ラン故ニ斯カル場合トナリテハ日本ハ縱ヒ敵ニ艦隊戰鬪ヲ行ハシムルヲ得サルマテモ兎ニ角決然タル行動ヲ執ラサルヘカラス

日本參謀部ハ以上ノ問題ヲ處スルニ二法アリ其ノ何レヲ擇スヘキカハ露國主力艦隊ノ行動如何ニ依テ決スヘキモノナリ彼若シ外洋ニ出動セシカ日本艦隊擧テ之ヲ破ラハ陸軍兵ノ海上輸送ニ著手スルニ容易ナルヲ得ヘシ然ルニ其ノ揚陸地點ニ至テハ之ヲ韓國南部ノ海岸ニ擇ヒ其ノ名義上獨立國ナルモ而モ特ニ日本ニ對シテ歡待ノ意アラサル領土四百五十哩ヲ進軍シテ同國ノ北端ニ露軍ト會セントスルカ如キハ是唯名聞ヲ輝スノ行動ニ過キス其ノ實際ニ至テ徒ラニ疲憊ヲ招クアルノミ要スルニ此ノ場合ニ於テハ日本參謀部ハ兵馬砲車ヲ陸揚シ得ヘキ安全ノ一地點又ハ數地點ヲ擇ヒ露軍ノ來攻セサル內ニ其ノ陣地ニ築壘スルニ足ルノ兵力ヲ上陸セシメント謀ルナルヘシ此ノ地點ハ敵ノ要塞地タルト敵兵ノ集合地タルトヲ問ハス總テ日本ノ作戰目標ニ對シ愈近ケレハ其ノ計畫ヲ遂行スルニ愈便利ナルヘシ清國若シ日本ニ對シテ好意中立ノ態度ヲ取リ場合ニ由テ或ハ日本軍ニ投合スルコトニ決心セハ日本ハ露軍ト清國トノ間ニ介在シ得ヘキ位置若クハ露國ノ北京ニ對スル彈壓ヲ輕減シ得ヘキ位置ニ上陸地點ヲ擇ヒ大ニ利スル所アルヤ明白ナリ然レトモ露國若シ旅順艦隊ニハ戰ヲ避ケテ旅順港內ニ嬰守セシメ專ラ其ノ陸軍ヲ以テ韓國及ヒ清國ヲ壓迫センコトヲ謀ランカ問題ハ一層困難ヲ釀

サヽルヲ得ス何トナレハ日本ハ敵艦隊ノ港外ニ出動シ得ヘキ虞アル間ニ大陸ニ陸軍兵ヲ輸送セントスレハ途中ノ海上ニ於テ重大ナル危險ニ會セサルヲ得サレハナリ拿破翁ノ果斷ヲ以テスルモ敢テ此ノ原則ヲ犯サヽリシナリ然レトモ日本ハ時日ヲ遷延スレハ何等獲ル所ナキヲ思ヒ又戰地ノ地形ヲ明ニシ善ク用心スレハ悖則ノ弊害ヲ輕減スルヲ得ヘシト斷シ敢テ此ノ危險ヲ顧ミサルノ決心ニ出ツルモノナルニ似タリ言フマテモナク旅順口ハ日本ノ主タル作戰目標ニシテ日本若シ之ヲ占領スルトキ露國艦隊尚港内ニ在泊センカ其ノ獲ル所ノ戰利品極テ大ナルヘケレハ日本ヲシテ黄海ノ此ノ港灣ニ對シ垂涎ニ堪ヘサラシムルヤ必然ニシテ即チ一八〇一年ニ於ルコーペンハーゲン及ヒ一七九九年ニ於ルヘルダルノ事蹟ハ日本海軍將校ノ頭腦ニ浮ヒ來タラサルヲ得サルヘシ然レトモコーペンハーゲンニ於テネルソンカ丁抹艦隊ト戰ヒ其ノ十八隻ヲ捕獲若クハ破壞セシハ戰略上ヨリ云ヘハ急奇襲ナリキ又ヘルダルニ於テ英將アベルクロームビーカ和蘭戰列艦十二隻ト其ノ商船十三隻ヲ捕獲セル場合ハ二年前既ニ英將ダンカンカカムパーダウンニ於テ和蘭艦隊ヲ擊破セシ結果ニ依テ之ヲ爲シ得タルノミ今ヤ旅順口ニハ健全ナル艦隊ノ錨泊シテ時機ヲ窺ヒ居リ又附近諸島ニハ幾多水雷艇ノ潛伏スルアリ然ルニ日本カ黄海ノ北方ニ向ク操縱容易ナラサル一大輸送船隊ヲ護送セントスルハ險擧ノ甚シキモノナレハ日本ハ遺憾ナカラ之ヲ避ケサルヘカラス

是ニ於テカ日本ハ已ムナク韓國港灣ヲ利用セサルヲ得ス韓半島ノ海岸ニハ軍隊ノ上陸地點トシテ適當ナル港灣頗ル多シ同國ノ道路ハ日清戰役中日本軍行進ノ當時ニ於テハ粗惡ニシテ甚シク運動ヲ遲緩ナラシメタリト雖モ今日ニ至リテハ昔日ノ比ニアラス其ノ改良著シキモノアリ又各地方ノ地理ノ如キ大小漏サス圖ニ上セラレ其ノ研究ノ綿密ナル、伯林參謀本部諜報局ヲシテ感歎セシメタリ故ニ日本ハ必スヤ同國ノ一港若クハ數港ヲ選擇シテ軍隊ヲ揚陸セシメ以テ鴨綠江ニ向ヒ行進ヲ開始スヘシ日本軍ハ旅順口若クハ浦鹽斯德占領前ニ露國野戰軍ト會戰シテ之ヲ打破セハ外部ヨリ甚シキ妨害ヲ受クルコトナクシテ徐ニ要塞ノ攻圍ヲ始ムルノ利アルヘシ此ノ時ニ迨ヒテモ尚露國艦隊出動ノ危險ヲ免レスト雖モ旅順口ヨリ馬山浦マテノ距離ハ五百浬ヲ超ユルカ故ニ露國艦隊朝鮮海峽ニ達スルニハ往復ニ少クトモ三日ヲ要スルナラン然ルニ露國艦隊ノ載炭量劣等ナルカ故ニ最大經濟速力ヲ以テ進航スルニアラサルヨリハ到底遠航ノ行動ヲ企ツルコト能ハサルヘシ而モ日本ハ嚴密ニ露國艦隊ノ行動ヲ監視センカ爲メ此ノ際必スヤ韓國海岸ニ水雷艇隊ヲ配置スヘシ然レハ戰艦艦隊ニシテ此ノ威力アル艇隊ノ航續距離内ニ連續三夜ヲ送ル如キハ何ソ變災ノ起ラサルヲ保證スルコトヲ得ン然レトモ鑑眼辣腕ノ海軍々人ハ夜中能ク其ノ艦隊ノ安全ヲ保スルコトヲ得ヘキカ故ニ旅順艦隊ハ朝鮮海峽ニ出現セシモ亦知ルヘカラス

然ルニ此ノ海峽ハ日本ノ所領タル對馬壹岐ノ諸島ニ由テ水道ヲ分斷セラレ海峽中最廣部ト雖モ尚二十五浬ニ過キサレハ斯ノ如キ狹隘ナル海面ニ進航シタル敵艦隊ハ其ノ危險甚シキコト勿論ナリ日本ハ此ノ海峽ニ其ノ全力ヲ携ヘ來ルヲ得ヘク自國港灣ト呼應ノ間ニ戰鬪スルノ便アルノミナラス且其ノ海岸ノ彎入部多キト島嶼散在シ島間航路ノ縈回スルトハ其ノ壯烈ナル水雷艇隊及ヒ驅逐艦隊ノ爲メニ最有利ナル作戰場裡タリ又日本ニシテ結局清國ノ助力ヲ得ヘキモノトセハ大陸ニ於ル日本軍ノ情勢ハ縱ヒ海上交通ヲ威嚇セラルヽノ虞アルニセヨナイル海戰後埃及ニ於ル奈破翁ノ境遇ト同一視スヘキモノニアラサルナリ故ニ若シ日本參謀部ニシテ各兵家經驗ノ結果一致シテ是認セル一大原則ニ拘泥セサルノ意圖アリトセハ是必ス此ノ大危險ヲ顧ミルニ遑アラサル有力ナル理由アルヲ認ムヘキナリ

二　露國ノ戰略

以上ハ單ニ旅順艦隊ノ運動ト日本上陸軍トノ間ニ起ルヘキ問題ヲ示スニ過キス浦鹽巡洋艦隊並ニ目下東航中ノ露國軍隊及ヒ之ニ隨航スル陸兵滿載ノ義勇艦隊汽船ノ事ニ關シテハ未タ之ニ言及セサリシカ今此ノ祕密ヲ訐キテ以テ露國參謀部ヲ一驚セシメントス先ツ此等艦船ノ任務如何ヲ問フニ無線電信ノ事ハ姑ク之ヲ措キ唯蒸氣ト電信トノ効力ノミヲ見ルモ今日ニ於ル海上連結ノ便ハ到底昔日ノ夢想ニタモ及ハサル所ナリ而テアレキセイエフ大將ハ此ノ便利ニヨリ目下海上數千浬ヲ距ル二個ノ艦隊ヲ合一セシメントシ開戰前ニ到着シ得ヘキ限リノ艦艇ヲ西洋ヨリ招キテ我カ羽翼ノ下ニ集メントスルモノヽ如シ然レト彼ハ此ノ二艦隊ノ聯合ヲ朝鮮海峽ニテ行ハントスルカ如キ樂觀ヲ抱クコトナカルヘシ何トナレハ

日本ノ地理上位置及ヒ其ノ艦艇ノ優數ハ其ノ聯合計畫ヲ打破スルニ何等ノ困難ヲ感セサルコトヲ知悉スレハナリ近頃旅順浦鹽兩艦隊ノ若干隻カ聯合ノ目的ヲ以テ出動シ而テ其ノ報道露國電線ニ由テ傳ヘラルヽヲ許セリ然レトモ吾人ハ之ヲ以テ寧ロアレキセイエフ大將ノ日本ヲ愚弄シテ敵ノ如何ナル監視ヲ行ヒ居ルカ又如何ナル艦艇ヲ以テ其ノ任ニ當ラシメ居ルカヲ試ミントスルニアリシモノナリト斷セサルヘカラス何トナレハ彼カ其ノ作戰計畫ヲ豫メ發表スヘシトハ思ハレス又後日ノ勢力集中ニ支障ヲ生スル斯ノ如キ兒戲的運動ヲ演セシカ爲メ特ニ浦鹽ヲ擇ヒテ其ノ艦隊中重要ノ一部隊ヲ置キタルモノトモ思ハレサレハナリ露國海軍省カ日本ト戰爭ノ起ルヲ期スル爰ニ年アリ尚近著ノ報ニ據レハ浦鹽巡洋艦ハ今ヤ皆出航準備ヲ整ヘタリ又露國艦船ハ相次テ徐々ト絕東ニ向ヒ回航シツヽアリ是等ハ皆一定ノ目的ヲ有スルモノタルヲ斷言セサルヲ得ス此等回航中ノ巡洋艦及ヒ汽船ハ何レモ皆其ノ凌波力及ヒ載炭量著大ナルカ故ニ能ク長途ノ航海ニ堪フヘシ右ノ外ニモ最良ノ英炭ヲ滿載セル多數ノ運炭船浦鹽斯德ニ集合シツヽアリ日露ノ商議尚遷延スレハ歐洲發ノ汽船ハ今後間斷ナク絕東ノ露領港灣ニ到達スヘシ巴里電報ハ日々船舶ノ旅順口ニ向ヘルヲ繰返シ居レリ其ノ報道ハ是迄ノ處ニテハ皆事實ナリ然レトモ若シ戰端一タヒ啓カハ此等船舶ハ忽チ其ノ航路ヲ變更シ其ノ進退知ルヘカラス而テ浦鹽艦艇及ヒ東航中ノ艦艇ハ皆日本ノ海上貿易ヲ劫シ其ノ交通線ヲ破壞セントスルノ任務ニ就クコト、ナルヘシ此等露國巡洋艦ノ多クハ特ニ貿易破壞ノ目的ヲ以テ計畫セラレタルモノナレハ此ノ際最其ノ作用ヲ逞ウスルノ時機ナリ在浦鹽軍艦ハ在旅順軍艦ニ比スレハ航續力逈ニ優レリ右ノ外ニ六七隻ノ船舶ハ既ニ東航ノ途ニ上リ或ハ黒海ニテ發航準備中ナリ此等ハ何レモ大船ニシテ千二百人乃至二千六百人ノ兵ト多量ノ軍需品ヲ搭載セリ風說ニ據レハ今後尚此ノ種ノ船舶增發サルヽヲ豫期セリト云フ又曩ニウイレニアス艦隊ニ隨航シ地中海ヲ發シタル運送船隊ノ一部分ハ既ニ蘇士運河ヲ通過シタリ目下東航中ノ運送船ニ乘組メル兵員ハ總計一萬五千ナリト云フ蓋事實ナラン

露國カ斯ク徐々ニ人目ヲ眩マシテ實施スル行動ノ巧ミナルニ至テハ歎賞スルニ餘リアリ何トナレハ若シ一大船隊ヲ以テ一時ニ增發兵ノ全部ヲ輸送シ軍艦ヲシテ之ヲ護衛セシメハ世ノ視聽ヲ動カスコト頗ル大ナルヘケレハナリ

日本ト外界トノ通商本線ハ西南ハ新嘉坡、印度、歐洲ニ、南ハ濠洲ニ、東ハ米洲ニ亙レリ露國ハ之ニ對シ恐ラクハ既ニ太平洋中ニ散布スル島嶼ノ內航洋汽船ノ船跡ニ遠サカリ又安全ナル錨地及ヒ良水ヲ有シ又防禦工事ニ適スルモノヲ選ヒ此ノ處ニ艦船、給炭船、倉庫船等ヲ集合シ又兵員及ヒ砲熕ヲ揚陸シテ以テ假根據地タラシムルノ計畫ヲ起セシナラン日本ノ海上貿易ニ使用スル汽船ハ目下約六十萬噸ニ達ス此等ヲ破壞スルト同時ニ臺灣及ヒ日本本國ノ海岸ヲ掠略センカ日本ノ財政上ニ自ラ恐慌ヲ生セシメ政治上ニ動搖ヲ來サシムルハ必然タリ臺灣ノ主要地點ヲ衝クニハ露國ハ目下海上ニ輸送中ノ兵力ヲ以テセハ綽々餘裕アリト云フヘシ左ナキタニ叛服常ナキ臺灣島民ノ事ナレハ露國之ヲ煽動セハ大ニ効アラン日本モ亦能ク敵ニ貿易破壞ノ計畫アルヲ看破シタルモノヽ如ク公海航行ノ自國船舶ニ歸港ヲ命シ日本郵船會社所有船ニハ定期航海ヲ中止セシメ日本ハ一時其ノ海上貿易ヲ放棄セントスルノ意ヲ示セリ露國ハ斯ノ如クシテ海上ニ日本商船旗ノ影ヲ絕チ日本ノ財政上ニ大損害ヲ蒙ラシメハ一部分ノ其ノ作戰目的ヲ遂スルト雖モ露國巡洋艦ハ如何ニシテ敵國ノ商船ヲ索メントスルカ彼等ノ見ル所ノモノハ皆中立國ノ旗章ヲ揭ケテ日本ニ向ハントスル船舶ノミ而モ各中立國ハ戰時禁制品ニ關シテ各其ノ見解ヲ異ニスルカ故ニ彼等ハ唯日本ノ沿海都市及ヒ沿岸貿易ニ對シテ危險ヲ加フルヲ得ヘキノミ而モ日本ハ之ニ對シテハ史ニ鑑ミ宜シク考フル所アルヘシ看ヨ英國ハ是迄屢斯ノ如キ場合ニ遭遇シ之カ爲メニ損害ヲ蒙リタルニハ相違ナシト雖モ而モ實際ノ被害高ハ微々タリシナリ當時我カ敵ハ貿易破壞事業ニ軍艦ヲ派セスシテ艦隊決戰場裡ニ全力ヲ集中シタランニハ或ハ敗ヲ轉シテ勝トナシタランモ亦知ルヘカラサルニ事ノ本末ヲ顚倒シタルハ我カ敵ノ戰略上ノ一大缺點タリシナリ敵ノ貿易破壞艦何樣侵掠ヲ逞ウスルモ到底彼ハ永續ノ戰果ヲ遺スコト能ハサルモノナレハ日本亦英國ニ倣ヒ之ニ對スルニ平然タル態度ヲ以テシ凡斯ノ如キハ何レノ海戰ニモ免ルヘカラサル出來事ナリト知ルヘキノミ露國ニシテ幾多ノ貿易破壞艦ヲ以テ來侵スルモ國家ノ運命ニ大打擊ヲ與フルハ人心恟々風聲鶴唳ニ驚キ爲メニ恐慌ヲ來シ終ニ分離不滿動亂相次テ起ル時ニ限ルノミ

要スルニ本論ノ目的ハ英國人民ノ脈搏ヲ高メシメテ以テ今ヤ將ニ其ノ眼前ニ迫レル問題ノ重大ナルヲ感知セシメ且此ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

問題ノ解決ハ一大海國タル英國ニ多大ノ利益ト多大ノ關係アル教訓ノ伏在スルモノアルコトヲ指示セントスルニアリ夫ノ拿破翁戰爭ノ終局以來幾多ノ戰爭ナキニアラスト雖モ未タ曾テ目下破裂セントシツヽアル極東戰爭ノ如クニ英國ノ注意ヲ喚起スルモノハアラサルヘシ其ノ政治上ニ及スヘキ莫大ナル影響ハ姑ク之ヲ措キ唯近世式海戰ニ關スル一切ノ學說ハ玆ニ始テ大ナル試驗ニ遭遇スルモノニシテ從來我カ大海軍ノ爲メニ費セル幾百萬億ノ金額ハ果シテ吾人ノ豫期セル如ク實際國家ノ安寧ヲ保スルニ足ルヤ否ヤノ如キ問題モ亦合ハセテ充分ニ解決スルコトヲ得ヘキナリ

二　露國太平洋艦隊增勢ノ眞意　（軍事批評家）

（一九〇四年一月二十三日發刊「タイムス」所載）

今ヤ絶東ニ事起ラントスルニ際シ露國カ今日迄漸次兵力ヲ增大セシ歷史ヲ略敍スルハ蓋無益ノ業ニアラサルヘシ一九〇二年ノ末、露國太平洋艦隊ニ屬スル各種ノ軍艦ハ合計二十六隻、各種口徑砲合計六百七十九門、將校兵員八千四百名ニ過キサリシカ同年十二月中露國政府カ艦隊增大ニ決セシ以來別ニ二十隻ヲ增遣シ總數四十六隻トナリ砲數ハ千九十三門、將校兵員ノ數ハ約一萬四千人ニ達シ排水量約二十萬噸ヲ算スルニ至レリ斯カル艦隊ノ暴增ハ決シテ虛喝ヲ目的トシタルモノニアラス眞ニ此ノ勢力ヲ利用シ以テ自ラ絶東ノ海王タランコトヲ期シタルモノナリ此ノ點ニ就テハ一九〇二年十二月露國新聞「ノウオスチ」ニ見エタル論文充分之ヲ證明セリ其ノ論文ハ太平洋面軍事上ノ形勢ヲ敍述シテ後將來戰爭ノ起ルヘキ局面ハ太平洋ナリト斷シ其ヨリ同紙ハ露國カ日清戰爭ノ終期ヨリ更ニ戰備ヲ充實シタル事實ヲ示シ今ヤ太平洋上ニ其ノ地位ヲ固定シ得タルヲ誇稱シ且曰ク露國ハ大ナル政治上ノ結果ヲ欲望シ又之ヲ確持セント期スルヲ得ヘシ又吾人ハ最困難ナル問題ヲ解決スルヲ得ヘキ兵力ト資源トヲ有スト

斯テ滿洲撤兵期ノ愈近ツクニ及ヒ更ニ艦隊ヲ增遣シ撤兵ヲ完了セサルヘカラサル當日ニハ絶東現在ノ艦艇及ヒ回航中ノモノ（義勇艦隊汽船ハ之ヲ除ク）ヲ合スレハ五十九隻ヨリモ少カラサルニ至リ各種口徑砲ハ通シテ千三百五十門ヲ算シ將校兵員ハ一萬八千人ニ達シ此ノ外ニ勢力ハ微弱ナレトモ三十三隻ヨリ成ル西伯利艇隊ノ存スルアリ是決シテ虛喝ニアラス實力ヲ示スノ大集團ナリト云フヘシ露國ハ此ノ示威ニ依リテ日本ヲ慴伏セシメ以テ細大其ノ指願スル所ニ從ハシメントシタルモノニテ其ノ他ニモ彼ノ野心ヲ看破スルニ足ルヘキ事項頗ル多シ一九〇六年八月十二日新ニ極東太守ノ職ヲ創設シタルカ如キ其ノ一ナリ露國新聞「ウイードモスチ」ノ無遠慮ニ論シタルカ如ク此ノ新職ヲ設ケタルハ「露國カ東洋ニ開キタル立脚地ヲ確立セシカ爲メ已ムヘカラサルニ出テタル最後ノ手段」タリシモノナリ同紙ハ同時ニ撤兵協約ニ就キ冷罵ヲ與ヘテ曰ク撤兵協約ハ政治上ノ過誤ナリ既ニ其ノ過誤タルヲ知ラハ何ソ必スシモ之ヲ履行セサルヘカラサルノ理由アランヤト露國ハ日本トノ關係ニ於テ一八一二年拿破翁カ露國ニ對シテ行ヒタルト同一ノ過誤ニ陷リタルモノニシテ是畢竟一方カ其ノ對手國ノ鞏固ナルヲ知ラス且其ノ性質ヲ輕視スルニ起ルモノナリ

日本ハ露國海軍力ノ示威ニ驚カス其ノ固有ノ沈著ナル自信ヲ以テ之ニ對セリ日本ノ外交ハ露國新艦ノ絶東ニ來著シタルカ爲メニ鈍リタルコトナク却テ益〻彼ノ枉クヘカラサル意圖ト屈スヘカラサル決心トヲ激勵シタリ蓋古來曾テ露國外交ノ全然失敗ニ終リタルコト此ノ如ク甚シキハナシ露國ノ行爲ハ戰爭ヲ意味シ又ハ企圖スル所ニアラサルコトハ確實ニシテ彼カ此ノ武力ヲ誇示スル眞ノ目的ハ全ク戰爭ヲ未然ニ防クト同時ニ其ノ太平洋ニ於ル企畫ヲ貫徹スルニ在リ故ニ露國政府ハ平和ノ神ヲ尊信スル皇帝ノ嗜好ト國民ノ野心トヲ調和スルニハ右ノ策ニ出ツルノ外ナカリシナリ然レトモ露國ハ今ニ至リテ漸ク優勢ナル艦隊ノ示威ノミニテハ未タ海上ノ優勝權ヲ確ムルモノニアラサルヲ發見セントスルニ至レリ船渠及ヒ造兵廠ノ設備並ニ熟練ナル技師及ヒ工手其ノ他海軍工廠ニ必要ナル一切ノ物資モ亦制海權ヲ獲ルニ缺クヘカラサル要素ナレハ疾クニモ之ヲ完成スヘキ筈ナルニ露國ハ既ニ旅順口ノ狹隘ナル錨地ニ大艦ヲ浮ヘツヽアルノ今日始テ之カ所要ニ應スル設備ノ不充分且不秩序ナルヲ悟リタルハ時既ニ晩シ狹隘ナル旅順口根據地ハ恰モ普佛戰爭中佛城メッツカ元帥バゼーヌノ軍隊ヲ容ルヽニ足ラサルト同一般ニシテ戰略上恐ルヘキ一大瑕瑾タリ要スルニ優大ナル露國太平洋艦隊ハ無謀ニモ其ノ居ルヘカラサル位置ニ在ルモノニシテ一モ此處ニ居ルノ必要ヲ認メス東洋ニ於ル自國ノ修船機關ニ不相當ナル大艦隊ヲ派遣スルノ弊ハ之カ增大計畫ヲ起シタル當時ニ於テハ未タ充分ニ之ヲ感知セサリシカ今ニ至リテ漸ク顯レタリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三　旅順艦隊ノ出動及ヒ其ノ港外泊地ニ就テ（軍事批評家）（一九〇四年二月八日發刊「タイムス」所載）

旅順艦隊ハ一月三十日深夜到達シタル命令ニ依テ遽ニ活氣ヲ呈シ來レリ其ノ命令ハ即チ豫備艦部編入ノ各艦ニ即時發航ノ準備ヲ整ヘ全艦隊ヲ擧ケテ出港スヘシト云フニアリタリ由是觀之所謂豫備艦部編入ノ各艦ハ實用上ニ於テハ現役艦ト殆ド相異ナルナキコトヲ知ラレタリ港口水道ノ航行困難ナルト露國將校ノ運用術拙劣ナルトハ艦隊ノ出港ヲ稍難業ナラシムルコト既ニ世ニ知ラレタリ露國軍艦ハ其ノ乘組將校ノ下ニ自艦ノ汽力ヲ以テ旅順口ニ出入スルニアラス其ノ地方ノ水先案內ニ依リ曳船ニ引カルヽモノナリ是ヲ以テカ西港及ヒ東港ヨリ艦隊ヲ引出スノ業ハ一月三十一日早朝ヨリ二月三日午後ニ至リタルモノナレハ其ノ港外ニ出動スル爲メニ費ス所實ニ三日間ナリ然ルニ其ノ艦隊ノ內少クモ一部分ハ出港後僅ニ二十四時間ヲ經テ旅順港外泊地ニ歸リ要塞掩護ノ下ニ在リタリ

艦隊ハ四日山東高角東岸ノ沖ニ遊弋スルヲ視認セラレタリ其ノ時ノ艦數ヲ算スルニ二十六隻アリタリ內一隻ニ關シテハ疑ナキ能ハスト雖モ露國ノ貝艦ハ盡ク出動シタルモノナルカ如シ

抑此ノ最短航海ノ目的ハ果シテ何ニ在リシヤ各艦ヲ編隊出動スルハ固ヨリ必要ノ訓練事業タルニ相違ナシト雖モ夫以外ニ何カ目的ノ存スルアリトセハ今日ノ處ニテハ未タ之ヲ詳ニスルヲ得ス風說ニ據レハ其ノ時日本艦艇六十隻同方面ニ向ヒ近ツキ來レリト云フ是或ハ露國艦隊ノ急遽要塞掩護ノ下ニ歸還シテ用愼スルニ至リタル原因ニアラサルナキカ疑ナキヲ得ス

今假ニ此ノ艦隊ヲシテ英國艦隊ナラシメ又露京海軍統帥部ニ我カセシト、ヴイレヤント卿ノ如キ將帥アラシメハ此ノ艦隊カ開戰ノ場合ニ於テ執ルヘキ行動ニ關スル命令ハ如何ナル事ナルカ之ヲ推察スルニ難カラスト雖モ總テ大陸軍國ニ於テハ陸軍ノ行動ニ關スル問題先ツ起リ海軍ハ陸軍ノ作戰目的ニ隨伴スルニ過キサルコト屢之アルヲ以テ吾人ハ先ツ陸軍側ノ戰略問題如何ヲ說キテ後チ此ノ海軍運動ヲ判斷セサルヘカラス

旅順口ヲ首メトシ其ノ大連灣ニ延長スル外衛幷ニ大陸ニ聯結スル地頸部ニ於テハ約二万五千人ト見ルヘキ強大ナル守備隊アリ數日前其ノ內ヨリ精兵九千人ヲ拔キ其ノ一部分ハ鐵道ノ保護ノ爲メ一部分ハ鴨綠江集合軍隊ニ勢援セシカ爲メ派遣セラレタリ其ノ跡ヲ補充スルニ此ノ程舊要塞砲兵隊ヨリ編成セラレタル東部西伯利狙擊兵ノ四個聯隊ヲ以テセリ

露國ハ今日ノ處ニテハ守勢ヲ取ラサルヘカラサルモノニシテ必スヤ其ノ兵ヲ各所ニ散布セサルヲ得ス日本軍來襲ノ憂ハ露國ニ此ノ防禦策ヲ取ルノ止ムヲ得サルニ出テシムルモノニシテ日本ノ計畫如何ニ關セス露國軍隊ハ鋭意之ヲ抗拒シ得ヘキ位置ニアル如クセントスルモノナリ此ノ故ヲ以テ露軍ノ優勢ナル部隊ハ牛莊遼陽間鐵道ノ各地點ニ配置サレタリ此ノ部隊ハ即チ海方ヨリノ侵襲ニ對シ鐵道ヲ保護スルト同時ニ日本軍カ奉天、哈爾賓間鐵道線ニ大攻擊ヲ加フル場合ニハ之ヲ防禦セシカ爲メ同鐵道線ヲ跨リテ配置スヘキ軍隊ニ合セントスルモノナリ鴨綠江方面ニハ既ニ著シキ運動ヲ起シタリ其ノ目的ハ韓國ヨリ北上スル各道路ヲ制扼スルニ足ルヘキ兵力ヲ配置セントスルニアルヤ明ナリ其ノ守備線ハ頗ル擴延シ鴨綠江口附近ノ安東縣ヨリ起リテ三水ヲ越エ鴨綠江ノ水源ニ至リ茲ニ浦鹽斯德ヨリ分遣スル枝隊ト聯絡ヲ保チ居ルカ如シ此ノ守備線ノ大部分ハ北方ヘ小部隊ノ侵入ヲ防止セシカ爲メニ設ケラレタル哥薩克兵ノ監視哨ノ一連鎖タルニ過キサルヤ疑ナシ清韓境界ヲ橫貫スル數條ノ道路ハ一層優勢ノ枝隊ヲ以テ保護シ鴨綠江下流ニハ前衛ヲ置ケリ此處ヨリ韓境ニ通スル一條ノ道路アリ此ノ道路ハ清韓ニ跨ル各條ノ通路ノ中ニテ最良ノモノナリ鴨綠江下流ニ駐屯スル露兵ハ二萬ヨリ少カラサルモノヽ如シ此ノ部隊ハ海路開通スル間ハ海方ヨリ其ノ供給ヲ受ケ海路遮斷ノ曉ニ至ラハ遼陽ヨリ給道ヲ通スルコトヲ得ヘシ遼陽ヨリハ毎日百輛ノ貨車ヲ前進陣地ニ發スルト云フ如何ナル通信員モ未タ曾テ鴨綠江陣地ニ至リタル者アラサルカ如クナルヲ以テ此ノ地點ニ關スル數字上ノ計算ハ是迄ノ處ニテハ精密ナルモノニアラス然レトモ目下ノ場合ニ於テハ鴨綠江畔ノ陣地ニ關スル地勢ヲ詳細ニ論述スルノ必要ナシ爰ニ此ノ陣地其ノ物ハ軍事上各般ノ急要ニ應スルヲ得ヘキ正確ノ所見ヲ以テ選擇セラレタルモノヽ如シト述フレハ即チ足レリトス日本ニシテ若シ遼東灣カ朝鮮灣ニ揚兵ヲ敢テセサルヘカラサルモノナリトセハ其ノ兵ハ抵抗ニ遇ハンコト必セリ日本軍隊ノ揚陸及ヒ其ノ後ノ行進ハ無論

時日ヲ要スルノ事業タルヲ以テ日本軍參謀ハ如何ナル方面ヲ攻撃線トシテ擇フニ關セス哈爾賓及ヒ其ノ他ノ地點ニ配置シアル露國豫備隊ハ必ス其ノ直接侵入軍隊ニ抗シ居レル勢力ニ合スルノ時ヲ得ヘシ今日ハ是以上ニ軍事上ノ問題ヲ論究スルノ要ナシ

露國ノ軍事上位置ニ關スル以上ノ事實ヨリ推斷スルニ露國ハ韓國西北部ニ於テモ亦他ノ部分ニ於ルト等シク守勢ヲ執ルコトハ自然ノ勢ナリ斯ノ如クシテ韓國ヨリ進軍ヲ防キ且他ノ地點ニ於ル侵入軍ニ抗スルヲ得ヘキ軍隊ヲ配置セントスルニアリ露國ハ此ノ方策ニ依テ其ノ政治上ノ德義ヲ行ハントシ其ノ行爲ノ謙讓耐忍ナルヲ誇ラントスルモノナリ然レトモ強制ゼラレテ始テ執ラサルヲ得サルニ至レル行爲ニハ毫モ自發ノ德義ナルモノヲ認ムル能ハス露國ニハ今ヤ右ノ方策ヲ措キテハ他ニ執ルヘキ餘裕ナキカ故ニ其ノ艦隊ニシテ海戰ニ決勝ヲ得ルニアラサルヨリハ必ス守勢ニ居ラサルヘカラサルナリ艦隊既ニ決勝ヲ得ハ露國陸軍ハ韓國ニ侵入セソコト殆ト疑ナシ然レトモ露國ハ韓國域内ニ其ノ軍ヲ進メタレハトテ己ニ何等ノ利スル所アラスシテ却テ種々ノ弊ヲ醸スモノナルニ似タリ故ニ露國ノ此ノ策ニ出ツルコトハ姑クコレナキモノト豫期シテ可ナリ然レトモ日本カ軍事上ノ必要ヨリ韓國港灣ヲ占領スルニ至ラハ露軍ハ徒ラニ其ノ事實的占領境界線ヲ株守スルヲ止メ港灣占領ノ抗拒ニ其ノ鋒ヲ轉スルハ固ヨリ言ヲ俟タサルナリ（中略）

是ヨリ海軍問題ニ移ラソニ露國陸軍カ前述ノ如ク守勢ヲ採ルニ當リ其ノ艦隊ハ果シテ如何ナル任務ヲ帶フルモノナルカ日本艦隊運送船護送中ナレハ素ヨリ論ヲ俟タス縱令運送船ヲ伴ヒ居ラサルモ彼挑戰セハ勢力ニ於テ大差アラサル限リハ之ニ應セサルヘカラス然ルニ露國艦隊旅順口水道ヲ通過スルニ三日間ヲ要スルモノトセハ遂ニ其ノ機會ヲ逸スヘキハ明白ナリ日本ハ一八九四年ノ戰役ニ於テスラ一個師團ノ兵ヲ三日以内ニ上陸セシムルノ伎倆ヲ顯セリ今ヤ其ノ陸兵揚陸事業ハ前回ノ戰役ニ比シ恐ラクハ更ニ進歩ヲ加ヘタルヘケレハナリ是ヲ以テ露國艦隊ハ港外泊地ニ錨泊スルカ或ハ更ニ其ノ目的ニ便ナル他ノ港内ニ留ルカ或ハ海上ニ游弋シ居ラサルヘカラス一八九四年大山大將ノ統率セル第二軍旅順攻撃ノ爲メ上陸ノ際貔子窩ノ東花園河口ヲ上陸地點ニ選擇シ護衛艦隊ハ海岸ニ對シテ哨兵ヲ張ルカ如キ地勢ヲ成セル裏長山列島ヲ利用シ此ノ運動ヲ掩護セリ海洋島象登灣ニハ好錨地アリ露國水雷艇隊ハ此ノ地點ニ在リテ斷エス監視ヲ行ヒ居レリ象登灣ハ日本ノ上陸運動ニ對抗スル地點ニ採リテ利用スル所アルニハ相違ナケレトモ全局ノ上ヨリ之ヲ觀ルトキハ旅順口海正面砲臺ノ重砲掩護ハ旅順艦隊司令長官ノ歸泊ヲ促ス一大誘因ト爲ルモノニシテ今ヤ同司令長官ハ浦鹽巡洋艦ト連絡ヲ絶タレ又地中海ヨリ東航中ノ増遣艦隊ハ途尚遠キニ在ルニ當リテハ恐ラクハ長ク海岸砲臺ノ視界外ニ去ルカ如キ躁急ノ擧動ヲ執ルコトナカルヘシ吾人ノ推斷シ得ル所ニ依レハ露國艦隊ハ狹隘ナル港口ニ存スル舊清國防材ノ外側ニ投錨シ第二ノ防材ハ東港ヲ閉鎖シ此所ニハ移動防禦ノ水雷艇ヲ繫維スルモノヽ如シ右ノ如クニシテ艦隊ハ敵衝ニ暴露シ否寧ロ敵衝ヲ誘致スルノ姿ナルカ而モ哨艇ト偵察艦ヲ港外ニ配置シ以テ敵ノ奇襲ニ備ヘ錨泊中ノ各艦ニハ水雷防禦網ヲ張リテ魚形水雷ヲ防キ居ルハ疑ナカルヘシ旅順口海岸防禦ノ極テ要害ナルト其ノ砲臺幾許ハ瞰下ノ位置ニ在ルト砲臺ノ砲門數多ニシテ其ノ口徑多クハ十吋及ヒ十二吋ナルトハ露國艦隊ヲ掩護スルニ最有力ニシテ之ヲ其ノ現在ノ位置ニ攻撃スルハ一大冒險ノ擧タルヲ感セシムルモノアリ旅順口トアブーキル灣（一七九八年八月一日ネルソンカ佛國艦隊ヲ撃滅シタルナイル海戰ノ行ハレタル河口灣）トノ間ニハ毫モ類似ノ點ナシ日本海軍カ斯ノ如ク明白ナル大不利ヲ冒シテ交戰スルノ外ハ之ト其ノ力ヲ爭フノ機會ナシトハ何人モ信スル能ハサル所ナリ

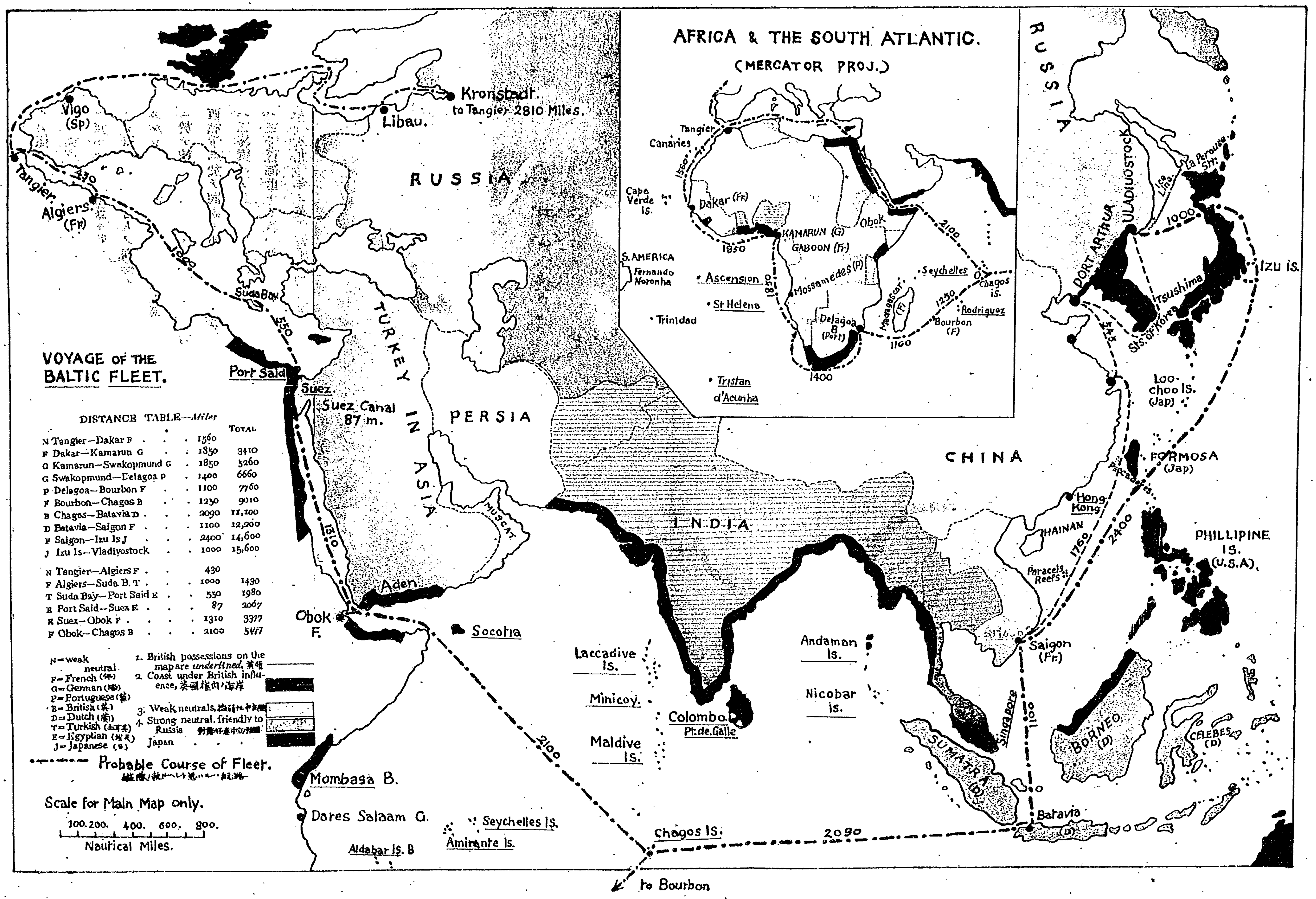
日本政府カ其ノ軍事上ニ關スル計畫ハ勿論其ノ兵ノ一部ノ所在地ヲモ新聞紙上ニ揭載スルヲ禁シタル手際ニ至テハ吾人ノ赤心賞讃スル所ナリ凡島國ハ軍機保護ノ點ニ於テ豫メ其ノ手段ヲ施セハ陸續キノ邦國ト異リテ殿ニ其ノ秘密ヲ保チ得ヘキ特利ヲ有スルモノナリ此ノ豫防ハ今回日本ニ於テハ遺憾ナク遂行セラレタリ其ノ結果タル一朝戰端啓カルヽヤ敵ヲシテ絶エス疑惑ト恐怖トノ間ニ彷徨セシメ佯攻モ尚且正攻タルカ如クニ誤ラシメ日々變換極リナキ狀況ヲ示シ敵ヲシテ之ニ應セシカ爲メ行進命令ニ次クニ反對行進若クハ取消命令ヲ頻發セシメ以テ其ノ軍隊ノ奔命ニ勞レ混亂ニ陷ルニ乘シ敵ノ未タ一彈モ發射セサル内ニ其ノ陣地ヲ先制セハ半ハ利ヲ得ルコトヽナルヘシ嗚呼先制ハ苟モ海陸軍人タル者ニ在テハ何レモ皆常ニ希望スル所ニシテ殊ニ戰備充實セル島國ノ手ヲ以テ之ヲ揮ヘハ實ニ恐ルヘキ武器ト爲ルモノナリ

四　仁川海戰

（一九〇四年二月十二日發刊「ジャパン、デーリー、メール」所載）

瓜生海軍少將麾下艦隊ノ編制ニ就テハ巷說區々トシテ定ラスト雖モ想識ヲ按スルニ一等巡洋艦淺間其ノ他新高、浪速、千代田及ヒ須磨四隻ノ僚艦ナリシヤ明ナリ而テ露艦ハ僅ニ二隻ナルヲ以テ其ノ相敵セサリシハ固ヨリ言ヲ俟タサルモ戰鬪短時間ナリシコト及ヒ「コレーツ」ノ八吋砲或ハ「ワリヤーグ」ノ六吋速射砲ノ日本軍艦ニ何等ノ損害ヲモ加ヘサリシコトハ吾人ノ解スルニ苦ム所ナリ

最怪ムヘキハ露艦カ外交關係破裂後恬然トシテ韓國ノ一海港ニ碇泊シ居リシコト是ナリ絕東太守アレキセイエフカ交戰狀態ノ發表ヲ知レルハ遲クモ六日ノ夕ナリト認メサルヲ得ス太守若シ之ヲ「ワリヤーグ」艦長或ハ在仁川露國領事ニ通信スルコトヲ得タリシナランニハ此ノ二艦ハ七日又ハ八日午前徐ニ旅順ニ歸港スルヲ得タリシナルヘシ吾人ノ推斷ニシテ誤ナクンハ太守ハ極テ樂天的ニ時局ノ經過ヲ觀察セシモノト云フヘク敗報達シタルトキハ必スヤ一驚ヲ喫セシナラシ彼ノ艦隊配備ノ方針ヲ按スルニ彼ハ其ノ艦隊ヲ以テ何時ニテモ日本艦隊ヲ擊破スルノ力アリト確信シ爲メニ味方ニ不利益ナル形勢ヲ看取スルニ迂濶ナリシヲ知ルニ足ルヘシ其ノ麾下艦隊ハ徒ラニ分離セラレタルカ爲メニ薄弱ノモノトナレリ即チ有力艦十八隻中「ワリヤーグ」ハ仁川ニ、「グロモボイ」「ロシーヤ」「リユーリク」ハ浦鹽斯德ニ、砲艦「コレーツ」ハ仁川ニ、同「マンヂウール」ハ上海ニ、其ノ他浦鹽斯德ニ尙巡洋艦或ハ砲艦ト思ハル丶モノ一隻ヲ置キタリ危機一髮ノ際ニ斯ク勢力ヲ分割シ各孤立無援ノ姿ニ陷ラシメタルハ吾人ノ理解スル能ハサル所ナリ思フニ在浦鹽巡洋艦モ今將ニ起ラントスル大決戰ニ參加スル能ハサルハ既ニ在仁川ノ二艦ニ於テ見ル所ト相異ラサルヘシ吾人ノ觀ル所ヲ以テスレハ太守ハ日本ヲシテ無益ナル外交文書ノ往復ニ時日ヲ空費セシメンコトヲ期シ且日本カ果シテ戰フノ意アルヤ否ヤヲ疑ヒ彼恐ラクハ露國ノ如キ雄邦ト兵ヲ交ヘントスルモノニアラサレハ結局如何ナル妥協ヲモ甘諾スヘシト思料セシナルヘシ太守ハ一且外交破レタル後ト雖モ尙外國仲裁ニ望ヲ屬シ其ノ成功ヲ期セシナラン之ヲ要スルニ太守ハ作戰上兵力集中ノ至大至急



DISTANCE TABLE—*Miles*

		TOTAL
N Tangier—Dakar F	1560	
F Dakar—Kamarun G	1850	3410
G Kamarun—Swakopmund G	1850	5260
G Swakopmund—Delagoa P	1400	6660
P Delagoa—Bourbon F	1100	7760
F Bourbon—Chagos B	1250	9010
B Chagos—Batavia D	2090	11,100
D Batavia—Saigon F	1100	12,200
F Saigon—Izu Is J	2400	14,600
J Izu Is—Vladivostock	1000	15,600
N Tangier—Algiers F	430	
F Algiers—Suda B. T	1000	1430
T Suda Bay—Port Said E	550	1980
E Port Said—Suez E	87	2067
E Suez—Obok F	1310	3377
F Obok—Chagos B	2100	5477

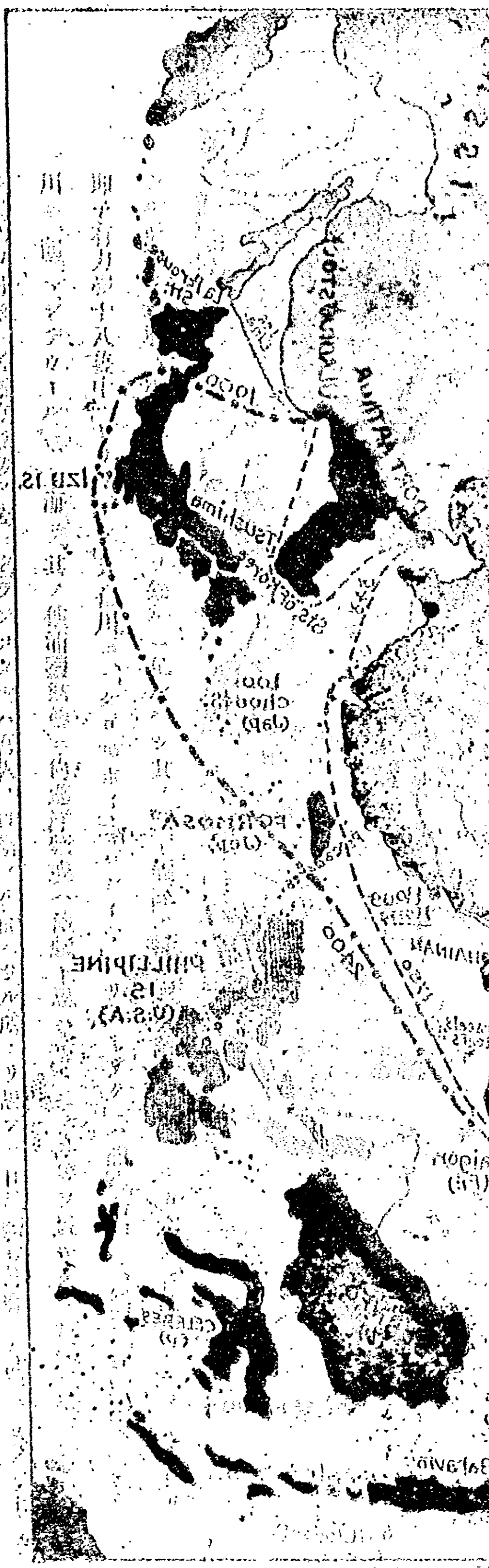
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ナル所以ヲ藐視シ何等ノ計畫ヲ定メサリシカ如シ今日ノ戰術ハ後裝砲時代前ニ比スレハ全ク趣ヲ異ニスルニ拘ラス戰略ハ遠クハ鉾及ヒ楯ヲ用ヒシ時代ヨリ今日ニ至ル迄其ノ原則同一ナルカ夫ノ「交戰ニ方リ部下ノ兵力ヲ分ツコト勿レ」トノ全破霸ノ要訣ハ今尙其ノ眞理タルヲ失ハス此等ノ問題ハ姑ク措キ今回在仁川露艦ニ對スル攻擊ノ神速勁烈ニシテ能ク其ノ機ヲ逸セサリシハ實ニ日本人ノ智勇ノ致ス所ト云フヘシ東京及ヒ聖彼得堡ニ於テ外交談判破裂ノ發表セラレシトキ仁川ニ輸送スル軍隊（吾人ハ其ノ員數ヲ明言スルヲ得サルモ數千人ニ上リシハ疑ヲ容レス）ハ全部乘船ヲ結了シ三十時間以內ニ發スルノ準備已ニ整ヒ而テ之ト同時ニ日本ノ全艦隊亦戰場ニ向ヒテ進發シ殊ニ東鄕中將麾下ノ主力艦隊ハ迅速旅順口外ニ直航シ三十時間ヲ出テスシテ茲ニ第一次攻擊ヲ開始スルコトヲ得タリ

五　仁川沖海戰

（一九〇四年二月發刊「コレヤ、レビウ」所載）

一、人多クハ「ワリヤーグ」及ヒ「コレーツ」ノ仁川港外ニ突進シタルヲ勇敢無比ノ壯擧ト爲シ兩艦長ノ剛勇膽略ヲ稱揚シテ措カスト雖モ吾人ノ見ル所ハ大ニ之ニ異レリ二艦若シ到底勝算ナキヲ知リテ尙且奮進日本艦隊ニ當リタルモノナランニハ正シク稱揚ニ値スト雖モ吾人ハ其ノ然ルヲ認ムルコト能ハス蓋外國人ハ未タ日本艦隊ノ戰鬪伎倆ヲ知ラス往年日本ハ支那艦隊ヲ擊破セシコトアリト雖モ外國人ハ之ヲ以テ對手ノ支那人ナルカ爲メナリトシ一般ニ露國人ノ伎倆ヲ以テ日本人ノ上ニ在リト承認セリ試ニ想ヘ英艦二隻（其ノ一隻ハ有力ナル巡洋艦）仁川港ニ在リ支那ノ軍艦六隻之ヲ港外ニ要シテ出港ヲ迫リ英艦ハ出港ヲ肯セスシテ砲擊ヲ受クルカ出テヽ戰ヲ交フルカ二者其ノ一ヲ擇ハサルヘカラサル窮境ニ陷リタルニ際シ若シ戰ヲ交ヘテ一方ニ血路ヲ開キ逃走セハ安全ナル避難地ニ到ルノ希望十分ナランニハ英艦何ソ挑戰ヲ快諾セサルノ理アランヤ果然リ「ワリヤーグ」「コレーツ」兩艦長ノ日本艦隊ヲ見ルコト亦英艦艦長ノ支那艦隊ヲ見ルカ如ク突進一蹴數時間ナラスシテ安然旅順ニ到達スルノ希望ヲ持シテ出戰シタルヤ疑ヲ容レサルナリ既ニ逃走ノ成算ヲ持シテ出戰ス何ノ勇カ之アラン



二、露艦ノ所爲ニシテ若シ勇トスルニ足ラハ日本艦隊ノ爲セル所ハ乃チ俠タラサルヲ得ス瓜生少將麾下ノ軍艦ノ數幾何ナリシヤヲ確知セスト雖モ而モ六隻若クハ五隻ヲ下ラス然ルニ露艦ト戰ヲ交ヘタルモノ僅ニ二隻ニ過キサリシニ非スヤ夫レ一方ノ將タランモノ敵ニ對シテ成ルヘク大ナル力ヲ用フルハ兵法ノ原則ニシテ力ヲ集ムルコト益々大ナレハ將帥ノ功績益々大ナリ若シ「ワリヤーグ」及ヒ「コレーツ」若クハ其ノ何レカ一隻カ血路ヲ開キテ逸走シタランニハ瓜生少將ハ世界ノ物嗤ト爲リ畢ラン然モ少將ハ深ク自ラ信スル所アリ毅然トシテ此ノ危險ヲ冒シ「鷄ヲ割クニ何ソ牛刀ヲ用ヒンヤ」ノ諺ヲ實踐ス俠ニ非スシテ何ソヤ

三、人或ハ淺間ノ備砲有力ニシテ「ワリヤーグ」ハ有效射程內ニ入ルコトヲ得サリシヲ說クリ成程淺間ハ八吋砲四門六吋砲十四門ヲ有スルニ「ワリヤーグ」ハ六吋十二門ヲ備フルニ過キサルヲ以テ其ノ間ニ至大ノ逕庭アルハ事實ナリト雖モ千代田ハ最大備砲僅ニ四吋七ナルニ非スヤ「ワリヤーグ」ノ六吋砲ニシテ淺間ニ有效ナル彈着ヲ爲シ得サリシトスレハ千代田ノ四吋七砲何ソ「ワリヤーグ」ニ達スルヲ得ン然ラハ則チ此ノ海戰ハ一艦對艦隊ノ戰鬪ニ非スシテ單艦ノ決鬪ナリ「ワリヤーグ」ハ六吋砲十二門ヲ有シナカラ四十五分ニ亙レル單艦ノ決鬪ニ於テ一戰ヲモ淺間ニ酬フルコトヲ得サリシハ寧ロ奇ト謂フヘシ又之ヲ單艦ノ決鬪ト云フハ「コレーツ」ヲ除外シタル話ナレトモ同艦ハ八吋砲二門六吋砲一門ヲ有シ其ノ八吋砲ハ淺間ノモノト同一ノ効力ヲ有スル筈ナレハ決シテ除外スヘキモノニ非ス乃チ此ノ戰鬪ハ「ワリヤーグ」及ヒ「コレーツ」ノ八吋砲二門及ヒ六吋砲十三門ヲ以テ淺間ノ八吋砲四門六吋砲十四門ニ當リタルモノナレハ砲力ノ間ニ大ナル差ナシ然ルニ露國ノ二艦カ其ノ對手ニ些少ノ損害ヲモ加ヘ得サリシハ不思議ト謂フヘシ

四、又露國二艦艦長ハ仁川ノ中立ヲ侵害スルコトヲ氣遣ヒタル爲メニ十分ニ戰フコトヲ得サリシナラント云フモノアレトモ其ノ辯護ハ成立セス蓋二月八日午後日本ノ巡洋艦及ヒ水雷艇運送船三艘ヲ護衛シテ仁川ニ入リ同四時ヲ以テ軍隊ノ上陸ヲ始メタレハ同港ハ其ノ時ヨリ中立港タル性質全ク消滅シタレハナリ二艦長ハ日本軍隊ノ上陸ヲ袖手傍觀シ居タリ軍隊上陸ノ何事ヲ意味スルカハ二艦長豈之ヲ知ラサルノ理アランヤ

六　旅順口第一次攻擊ニ於ル水雷艇及ヒ戰艦ノ効力（軍事批評家）

（一九〇四年二月十一日發刊「タイムス」所載）

日本水雷艇隊ノ著大ナル成功ハ頗ル輿論ヲ動カシ延テ戰艦ノ價値及ヒ之カ一切ノ動作ヲ輕視スル傾向ノ早クモ生シ來リタルハ已ムヲ得サル所ナリトス佛國海將オーブ及ヒシヤールメー氏ヲ首領トセル少壯派ハ思フニ其ノ豫言ノ盡ク明白ニ事實ノ上ニ現レタルヲ喜ヒ狂セントスル狀アルナラン此ノ一派ノ機關紙タル海軍雜誌「マリーヌ、フランセーズ」ハ此ノ機ニ乘シ其ノ得意ノ健筆ト論法トヲ用ヒテ敵派ニ最後ノ打擊ヲ與ヘントスルコト蓋察スルニ難カラサルナリ然レトモ英國ニ在リテハ經驗アリ伎倆アル者ノ倘且水雷ノ効力及ヒ其ノ危險ヲ輕視スルノ狀アルハ爭フヘカラサル事實ナリ從來水雷有効論者ノ主張ト反對論者ノ唱道スル所トニ對シ裁決ヲ與フルニ足ルヘキ明確ナル實戰ノ存シタルコトナシ演習ニ當リテ少壯ノ一少佐カ旗艦ニ水雷襲擊ヲ試ミ以テ其ノ司令長官ヲ海底ニ沈メシコト固ヨリ思ヒモ寄ラス其ノ主張スル所ニシテ一度審裁官ノ拒否スル所トナラハ少壯士官ハ唯々トシテ退キ獨リ其ノ肩ヲ聳シテ若シ之ヲシテ實戰ナラシムレハ其ノ結果ノ大ニ異ルモノアラサルヘカラサルヲ思ヒ自ラ慰ムルノ外ナカルヘシ既往ノ戰爭ニ於テ少壯海軍將校等カ拔群ノ功績ヲ顯セルハ彼ノ端艇急襲擊ニアリシカ今ハ彼等ハ一切ノ氣慨ト膽略トハ移シテ之ヲ水雷戰鬪ニ利用スヘク此ノ點ニ於テ水雷戰鬪ハ彼等ノ功名ノ爲メニ盡クルコトナキ機會ヲ與フルモノナリ旅順口ノ實例ニ據レハ水雷成功ノ結果ハ殆ト外洋ニ於ル艦隊戰鬪ノ勝利ニモ匹敵スルニ堪ヘタルモノアリ是ヲ以テ旅順口ニ於ル日本勝利ノ結果ハ自ラ水雷有効論者ヲシテ其ノ熱心ヲ倍增セシメ益々其ノ擴張ヲ講シ且之ヲ戰鬪ニ用フル方法ヲ謀ルニ至ラシムヘシ然レトモ虛心平氣ニ觀察スレハ旅順口ノ襲擊ハ今日マテ未知ニ屬セシモノヲ聊モ啓發シタルニアラス又從來ノ事態ニ何等ノ變更ヲ與ヘタルモノニアラス

新式水雷ノ發射距離增大シ其ノ進路モ破壞力モ亦頗ル精密猛烈ヲ極ムルニ至レルコトハ我カ海軍界一人ノ之ヲ知ラサル

者アルナシ從テ我ニハ近距離ニ活動セル敵ヲ控ヘナカラ完全ニ其ノ襲擊ニ備フル所ナク廓開セル錨地ニ密集碇泊シテ以テ味方十四隻ノ軍艦ヲ危ウセントスルカ如キモノアランヤ要スルニ旅順口ノ襲擊タル單ニ近時學術ノ駸々タル進步ハ智識晩レタル國ニハ新式ノ兵器ヲ利用スルコト能ハサルニ至ラシメタリトノ事實ヲ示スノ外何等ノ實驗ヲ表明スルモノニアラス此等ノ國民ニ取リテハ今日ノ鋭利ナル戰艦タルト帆前船時代ノ三段備砲軍艦タルト將タ又水雷タルト石火矢タルトノ間ニ寸毫ノ區別アラサルナリ

當時旅順艦隊ノ現狀ヲ見ルニ二月四日露國艦隊ハ聖彼得堡ヨリノ命令ニ基ケルモノナルカ一タヒ港外ニ出動シ後チ歸リテ陸上要塞掩護ノ下ニ投錨セリ超エテ五日日本ハ外交商議ヲ絶チ露國ニ向ツテ自己ノ迫害セラレタル利益ヲ防護スヘキ行動ヲ執ランコトヲ通告セリ此ノ事現ニ載セテ六日ノ露國官報ニアリ是蓋開戰スルモノナリ然ルニ露國艦隊ノ運動ハ殆ト信シ難キ迄ニ不活潑ヲ極メ又港口燈臺ハ常ノ如クニ輝キ又海上偵邏ニ僅ニ三隻ノ水雷艇ヲ派遣シタルノ外ハ何等ノ警戒タモ加ヘス快走艦モ皆港内ニ退泊セシカ故ニ露國主力艦隊ハ其ノ全部ヲ擧ケテ敵手ニ委スルノ狀態ニ在リタリ尙當夜ハ空晴レ海靜ニシテ月サヘ明ナリシト云フ其ノ歸著スヘキ所蓋推知スルニ難カラサルナリ斯テ日本軍艦ノ果シテ此處ニ現ルヽヤ露國艦隊ノ其ノ現レシヲ覺知セシハ水雷ノ觸擊ヲ蒙リタル後ニ在リタリ

露國軍艦ハ失敗ニ重ヌルニ失敗ヲ以テシ匆忙トシテ其ノ探海燈ヲ點セリ是暗中ニ軍艦ノ影ヲ漏ラシ日本水雷艇ヲシテ爲メニ益〻標的ヲ明ニスルヲ得セシメタルモノナリ然モ露國艦艇ハ曉天ニ至ルマテ一モ運動セス此ノ一大貴艦隊ヲ空シク運命ノ弄スル處ニ委シタリ日本艦隊カ敵ノ最貴軍艦ヲ目懸ケテ順次ニ鐵槌ヲ下シタルハ固ヨリ其ノ所ニシテ夫ノ結果ハ既ニ吾人ノ知ル所ノ如シ要スルニ殆ト制海力ノ過半ハ此ノ一夜内ニ授受セラレタルナリ

斯ノ如キ狀態ノ下ニ在リシ艦隊ニ於テ此ノ結果ヲ見シハ理ノ當然ニシテ若シ此ノ以外ニ出テタランカ夫ハ寧ロ不思議ト云ハサルヘカラス縱令今日ノ戰艦ニアラスシテ昔時ノ三段備砲軍艦タリ又水雷艇ニアラスシテ昔日ノ石火矢船タリトスルモ其ノ結果ハ尙且斯ノ如ケン而テ其ノ罪ヲ司令長官ノ曠職ニ歸シ其ノ首ヲ刎ヌヘシト論スルモノアリトモ軍艦其ノ物ヲ非ナリトスルモノハアラサルヘシ然レトモ戰艦ノ作戰要具タル効力ハ今尙昨ト聊モ異ルコトナク今回水雷襲擊ノ成功セリトテ爲メニ其ノ價値ニ些ノ影響ヲ及スモノニ非ス

露國軍艦ハ何故外洋ニ出テサリシカ戰術上ヨリ見レハ是日本海軍ヲ恐怖シタルニ因ルモノニシテ即チ優勢ナル敵ノ主戰艦隊ト會戰セサルヲ得サリシカ故ナリ換言スレハ露國艦隊カ斯ノ如キ災害ヲ受ケタル原因ハ敵ノ優勢ナル戰艦カ之ヲ脅迫セシカ爲メナリト云フコトヲ得ヘシ然レトモ此ノ理由ヲ以テ吾人ハ又直ニ水雷艇ノ價値ヲ沒却スルモノニアラス何トナレハ作戰機關ハ一物ト雖モ其ノ特能ナキハナク又其ノ特能ヲ利用スル機會ヲ有スレハナリ

七　旅順口第一次攻擊（英國海軍少將ジョン、イングルス）

（一九〇四年二月十二日發刊「デーリー、テレグラフ」所載）

東郷司令長官ノ報告ニ死者四名傷者五十四名トアルヲ見レハ日本艦隊カ何等ノ損害ナクシテ引揚ケタリトモ思ハレス尙司令長官ハ當時未タ各艦ヨリノ報告ヲ得ルニ遑アラスト記載シアレハ各艦ノ報告長官ノ許ニ到ルノ日ハ其ノ損害ヲ知ルコトヲ得ン八日夜ノ大膽ナル水雷攻擊ニハ一水雷艇モ何等ノ損害ヲ受ケサリシカ如シ此ノ水雷ハ五百碼ノ處ヨリ發射シタルナラントノ說モアリシカ余ノ見ル所ヲ以テスレハ日本水雷艇ハ或ハ百碼ノ處マテ接近シ三十浬ノ速力ヲ以テ露國軍艦ノ戰列ヲ通過シ精確ノ照準ヲ以テ發射シタルナラン然ルニ水雷艇ハ其ノ高速力ナルト其ノ距離餘リ近キ爲メ露艦ノ備砲俯角ノ度ヲ過キ照準スル能ハサリシトヲ以テ敵彈ヲ免レ得タルモノト想ハル然レトモ水雷艇ハ露艦ノ戰列ヲ突過スル際二艇相衝突シタリト云フ其ノ艇體ハ頗ル薄キ銅板ヲ以テ製造シタルモノナレハ相當ノ損害ヲ受ケタルナラン

八　旅順口夜襲ニ於ル水雷ノ効力及ヒ日本人ノ氣質賞讚

（一九〇四年二月十二日發刊「エンジニヤリング」所載）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

多年世ノ期待セル日露戰爭ハ終ニ開始セラレタリ吾人ハ二月九日マテハ猶ニ樽俎ノ折衝ニ一縷ノ望ヲ屬セシカ終ニ其ノ効ナク世界ハ再ヒ一大慘劇ヲ目撃セントス惟フニ今日ノ文明ヲ以テシテ尚平和手段ニ依リ國際紛議ヲ決スル能ハス遂ニ日露兩國ハ其ノ完備スル精鋭ノ兵器ヲ借リ貴重ナル人命ヲ犠牲ニ供シテ以テ勝敗ヲ決セントス慨嘆ニ堪フヘケンヤ然リト雖モ事既ニ是ニ至ラハ速ニ斯カル痛威ヲ脱セサルヘカラス何トナレハ濺血ハ固ヨリ蛇蝎視スヘキモノナルモ之ヲ避ケントセハ國家ハ尚一層大厄ヲ蒙ルノ恐アルヲ以テ寧ロ難ノ小ナルモノヲ忍ハサルヲ得サレハナリ要スルニ人類カ今日ヨリ一層高尚ナル地位ニ達シ而テ列國會議ノ上理想家ノ所謂「世界ノ制裁所」ナルモノヲ設立スルノ日ニ至ル迄ハ互ニ兵器ヲ以テ自國ノ國權ヲ擁護スルノ備ナカルヘカラス故ニ吾人ハ道德上ヨリ戰爭其ノ物ノ是非如何ヲ査察セス戰爭ノ經驗ニ由テ自ラ裨益センコトヲ努メ常ニ兵備ヲ修メ以テ戰爭ヲ未然ニ防カサルヘカラス幸ニ今回ノ戰爭ハ我カ同胞ニ生命財產ヲ失ハシメスシテ我ニ教ワル所アルヲ感謝セスンハアラス

吾人ハ開戰後間モナク先ツ一教訓ヲ得タリ他ナシ吾人カ本誌ニモ屢次陳述シタルコトアル夫ノ水雷ノ効力絕大ナルコト是ナリ今日迄ニ到達セル日本水雷艇ノ旅順口襲擊ニ關スル戰報ハ言簡ニシテ意盡サ、ル所アリト雖モ其ノ間大體ノ教訓ヲ看取スルニ難カラス兎ニ角戰勝者ハ何等ノ損傷ヲ被ルコトナク水雷ヲ以テ一大勝利ヲ博シ得タリ而テ此ノ勝利タルヤ或ハ日露戰爭全局ノ勝敗ヲ決スルノ効果アリタリト云フヲ妨ケスト雖モ吾人ハ又一方ニハ此ノ一回ノ成功ヲ以テ水雷ノ價値ヲ過重視スルノ危險ヲ避ケサルヘカラス抑水雷攻擊ノ任務ハ主トシテ奇襲ヲ行フニ在リ而テ戰爭中之カ奇襲ヲ蒙リタル艦艇アラハ是其ノ艦艇カ警戒ヲ怠ニシタルモノト推斷セサルヲ得ス歷史上水雷攻擊ノ成功ハ僅々數回ニ過キス而モ皆敵ノ不意ニ乘シテ功ヲ奏シタルモノナリ露國ノ戰報ニハ「日本水雷艇ノ近ツキ來ルヤ我カ諸艦ハ機ヲ逸セス之ニ集彈發射ヲ加ヘタリ」トアリ然ルニ他ノ情報ニ據レハ露國ハ當時二三日內ニ日本水雷艇ノ攻擊アルヘシトハ豫期セサリシコト又露艦ハ尚燈火ヲ點シ且燈臺モ亦平常ノ如ク點燈シ居リシコト又露艦ノ發砲及ヒ探海燈ノ使用ニ先タチ確ニ水雷艇ト認ムヘキモノ、爆音三回聞エタリト此等ノ事情ニ就テハ「ニユーヨーク、ヘラルド」通信員ノ報道極テ詳細ニシテ又甚タ事實ニ近シ彼ハ一商船ニ乘組ミ居タルヲ以テ戰鬪ノ爲メニ心動キ意亂ル、カ如キコトナシ況ヤ彼ハ其ノ翌朝迄前夜ノ射擊ヲ以テ唯演習ノ爲メナルヘシト思料シタリシニ於テヲヤ

苟モ兩交戰國ノ事情ニ通曉セル人士ナランニハ「ニユーヨーク、ヘラルド」通信員ノ報道ノ最眞ニ近キコトヲ承認シ而テ機敏ニシテ熱心ナル日本海軍々人カ躍然蹶起夫ノ遲鈍ナル敵ヲ襲擊シタラントノ想像ヲ下スヲ得ヘシ要スルニ此等問題ノ解決ハ人員ノ伎倆如何ニ歸着ス即チ近世科學ニ依リ驚クヘキ程度マテ發達セル一切ノ兵器ノ原動力トナルモノハ人種ノ氣質ナリ日本ハ夙ニ海軍行政ノ制度ヲ刷新シ嚴正ナル紀律ヲ保持シ又事ニ處シテ熱心ナリ日本海軍々人ハ興味ト愉快トヲ以テ其ノ職務ニ鞅掌シ不撓不屈萬難ヲ排シテ以テ自ラ樂トス是實ニ英米海軍々人ノ特質ト一致スル所ノモノナリ吾人ノ觀察スル所ニ據レハ其ノ餘ノ海軍々人ニシテ此ノ特質ヲ之ト同一ノ程度マテ具備セルモノハアラス此等特質ノ發揮セラル、ハ殊ニ水雷艇襲擊（即チ近世ノ海戰ヨリ謂ヘハ昔時ノ端艇急襲（カッチング、アウト、エキスペヂシヨン）擊ニ代リタルモノ）ノ際ニアリ若シ戰ニ臨ミ此等ノ性能ヲ有シ且大膽不敵ナランカ此等軍人ハ陸海軍ヲ通シテ完全無缺ノ模範者ナリト謂フヲ得ヘシ日本人ノ特性此ノ如クナルニ露國人ノ性質ハ全ク其ノ趣ヲ異ニス勿論同國カ版圖尨大ニシテ人種ノ相異ルニ隨ヒ其ノ特質ノ一ナラサルハ固ヨリ其ノ所ナリ唯同國兵役ノ制度ハ極テ峻嚴ナルヲ以テ其ノ兵卒ヲ陶冶シテ一個ノ典型ニ歸一セシムルノ風アリ史ヲ閲スルニ露國兵士ノ堅忍不撓ト絕大ナル膽勇トヲ顯セル事蹟ハ枚擧ニ遑アラス露國兵士ハ些ノ怨言ヲ吐カスシテ極度ノ艱苦ニ堪ヘ命令ノ如キハ其ノ旨趣ヲ誤ルコトナキニアラサルモ實際何事モ明文通リニ遵奉スルヲ常トス切言スレハ命令ノ旨趣ヲ解セスシテ之ヲ遵奉スルト云フモ可ナリ然レトモ此等ハ露國軍人ヲ簡單ニ實見シタル有樣ニ過キス彼等ヲシテ若シ實戰ニ臨マシメ且近世式戰具ヲ操縱セシメンカ到底日本人ノ如クスルコト能ハサルヘシ水雷艇ノ操縱ノ如キ殊ニ然ルモノナリ吾人ハ信ス露兵一度戰鬪ニ處シテ其ノ意氣激昂センカ其ノ堅忍ノ特質ハ忽チニシテ狂暴ト變スヘキコトヲ斯ノ如キハ敵ヲ轟沈シ殺戮シ殲滅セントスル制勝ノ慾望即チ沈勇ノ資ヲ失フモノナリ而モ此ノ沈勇ヲ具フルモノコソ最優勝ナル人種ト云ハサルヘカラス

抑人員問題ハ概ネ世人ノ看過スル所ノモノナリ之ヲ酷評セハ最講究ヲ怠レル所ノモノナリト雖モ其ノ實一國ノ海軍ヲ組織スル唯一ノ大要素タリ是吾人カ玆ニ先ツ該問題ニ就キ説述セント欲スル所以ナリ惟フニ時人カ該問題ヲ看過スルハ平時ニ於テハ之ヲ講究スヘキ機會アルナク彼ノ蒸氣並ニ施條砲發明時代以降未タ一ノ大海戰ノ起ルアリテ之カ研究ノ資ニ供セサルニ由レルナラン夫戰艦及ヒ巡洋艦ノ隻數ヲ計算スルハ易シ而モ是唯戰鬪力總計中ノ一部ニ過キス之ニ反シテ二國海軍軍人ノ優劣ヲ推測スルニハ獨リ諸般ノ名簿及ヒ統計表ノミニ依頼スヘカラス必スヤ實戰ニ依テ以テ爭フヘカラサル成績ノ報告出ツルノ日ヲ待タサルヘカラス然レトモ功ノ成ルハ成ルノ日ニ成ルニアラス必ス由テ來ル所アリ勝敗ノ數ハ宣戰前既ニ自ラ分岐スル所アリ實戰ノ如キハ唯其ノ證據タルニ過キサルコトヲ銘記セサルヘカラス此ノ理ニ由テ人員及ヒ材料即チ將卒並ニ艦艇砲熕問題ヲ解釋スルヲ得ヘシ例之良職工ノ劣等ナル機械ヲ以テスル仕事ハ拙劣ナル職工カ良機械ヲ以テスルモノニ優レルカ如ク優秀ナル軍人ノ劣等ナル軍人ヲ打破セントコトハ戰爭前業ニ已ニ明瞭ナリトス

日本人カ近頃購買セシ裝甲巡洋艦二隻ヲ極東ニ回航シ得タルハ幸運ト云フヘシ而テ又彼等ハ近時ノ戰捷ニ依リ海上ニ於テ明ニ優勝ノ地位ヲ占メタリ即チ露國艦隊中ノ至大至強ノ戰艦二隻「ツェザレウヰチ」及ヒ「レトウヰザン」並ニ近年ノ製造ニ係ル防護巡洋艦「パルラーダ」ハ日本ノ水雷襲撃ノ爲メニ撃破セラレ遂ニ廢艦ト爲リタリ此ノ一事ノミニテモ優劣地ヲ易ヘシムルニ足ルヘシ加之其ノ後到達セシ數回ノ戰鬪報告ニシテ誤ナクンハ一八九八年竣工シタル一二、〇〇〇噸ノ大戰艦「ポルターワ」、一九〇二年竣工シタル六、六三〇噸ノ巡洋艦「ヂイヤーナ」之ト略噸數ヲ同シウスル一九〇一年竣工ノ巡洋艦「アスコリド」及ヒ同艦ト同型艦ニシテ一九〇〇年竣工セシ一巡洋艦モ亦撃摧セラレテ戰鬪ニ堪ヘサルモノトナリシカ如シ尚之ニ加フルニ仁川港内ニ沈沒シタル「ワリヤーグ」及ヒ「コレーツ」ノ二艦ヲ以テセサルヘカラス惟フニ此等軍艦中ノ一隻ニテモ開戰ノ劈頭ニ於テ之ヲ撃破シ以テ廢艦同樣トナラシムルヲ得ハ旣ニ顯著ナル勝利タリ況ヤ確報ニ據レハ前記諸軍艦カ戰鬪ニ堪ヘサルモノトナリシニ於テヲヤ斯ノ如キハ海戰史上ニ比類ナキ大勝利ト云ハサルヘカラス被害艦ノ多クハ修理セラレント疑ナシト雖モ好都合ノ情況ノ下ニ於テスラ尚長時日ヲ要スヘシ況ヤ旅順口ニハ唯一個ノ船渠アルニ過キス而モ到底大工事ヲ行フニ足ラスト云フニ於テヲヤ露國モ亦勿論其ノ水雷艇隊ヲ利用シ彼我勢力ノ權衡ヲ均シカラシメント圖ルニ相違ナシト雖モ日本海軍ハ必スヤ敵ニ其ノ好機ヲ得セシメサルヘシ

今ヤ日本ハ略同型ノ諸艦ヲ以テ編成セル新式艦隊ヲ有シ其ノ勢力敵ニ優ルカ故ニ必スヤ一時東亞ノ制海權ヲ領握スヘキヤ疑ヲ容レス唯吾人ノ要フル所ハ露國カ曩ニ侮慢セシ敵ノ爲メニ災殃ヲ蒙リシヲ慨シ鋭意戰鬪ニ堪フル一切ノ海軍力ヲ東洋ニ集中シ且意ヲ決シテ條約ヲ蹂躙シダーダネルス海峽ヲ通過シテ黑海艦隊ヲ遣東スルニ至ルヘキ虞アルコト是ナリ此ノ行動ハ如何ナル影響ヲ世界ニ及スヘキヤハ人ノ略知ル所ナリ即チ夫ノ拿破翁ノ野心ニ依リテ起リタル大亂ヨリモ宏大ナル世界未曾有ノ戰爭ヲ誘起スルニ至ルヘシ此ノ時ニ當リ合衆國政府カ日露兩國ノ戰爭ニ干與セス明ニ不偏不黨ノ態度ヲ執ランコトヲ努メ且歐洲列國モ之ニ贊同ヲ表スルニ至リタルハ喜フヘキ現象ト云ハサルヘカラス

若シ東洋ニ在ル露艦ニシテ自國軍港内ニ蟄伏シ居ルモノトセハ(是疑ヲ容ルヘカラス)吾人ハ之ヲ以テ近時マハン大佐ノ著書ニ依リ大ニ世ノ注意ヲ喚起シタル夫ノ海上權力ナルモノヽ優越ナル所以ヲ現實ニ證明シタルモノナリト云フヲ憚ラス東洋ニ在ル露國陸軍カ刻下主トシテ其ノ勢力ヲ集中スルハ韓半島ノ根頸ヲ横斷シテ南流スル鴨綠江口附近ナリ露國艦隊ニシテ撃破セラレスシテ今尚現存シタランニハ縱令日本艦隊ハ露國ニ比シ較强鋭ナル勢力ヲ有スルト雖モ露軍ノ陣地ハ旅順口ニ集中シアル艦隊ノ爲メ其ノ西側ヲ擁護セラルヽコトヲ得ヘク又日本軍ハ危險ヲ冒サスシテ露國海軍根據地ニ接近スル黃海沿岸ニ軍隊ヲ上陸スルコトハ能ハサリシナルヘシ從テ日本軍ハ露軍ト會戰スル爲メ韓國ノ東岸ヨリ上陸シ而テ鴨綠江ニ到ルマテ約二百哩ノ間困難ナル行軍ヲ爲サヽルヘカラス然ルニ露國艦隊ノ精鋭ナル一部既ニ戰鬪ニ堪ヘサルモノト爲レルヲ以テ日本ハ自ラ軍隊上陸ノ地點ヲ選定シ而テ何物ヨリモ重要ナル前進根據地ヲ該東岸ニ設クルコトヲ得ヘシ

之ニ反シテ露軍ハ唯一條ノ西伯利鐵道ニ依頼シテ以テ援兵又ハ需品ヲ輸送セサルヘカラス惟フニ此ノ鐵道カ果シテ何レノ日マテ遮斷セラレサルヤニ就テハ南阿戰爭中英國側ニ生セシ交通上ノ困難ヲ記憶セル人士ハ容易ニ判斷スルヲ得ヘシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

成程滿洲鐵道ハ南阿戰爭ノ際ニ於ル我カ交通線ノ如クニ直接ニ敵地ヲ通過スルコトナシ然レトモ由來鐵道線ハ極テ破壞セラレ易キモノナリ且數千哩ノ鐵道ヲ守リ以テ冒險敢爲ノ氣象アル敵ノ來襲ニ備ヘント欲セハ多大ノ軍隊ヲ要シ到底之ヲ全ウスルコト能ハサルヘシ

日本カ開戰後勝利ヲ博セル數回ノ海戰ノミヲ目撃シテ以テ海軍ニ關スル興味ハ既ニ此ニ盡キタリトシ又爾來各國ノ海軍戰略家ハ再海戰ニ就テ自ラ學フノ機會ナカルヘシト推斷スルハ大早計ト云ハサルヘカラス然レトモ近キ將來ニ於テ戰鬪トナルヘキ許多ノ資料ハ陸軍ノ方ニアルヘク而テ世ノ耳目モ亦一轉シ主トシテ此ノ方面ニ集注スルナラン陸戰ハ一擧ニシテ勝敗ノ決ヲ告クル能ハサルヘシト雖モ荏苒久シキニ彌リテ尚決セサルカ如キコト亦アラサルヘシ隨テ諸國ヲシテ爲メニ何時大兵亂ヲ誘起センモ知ルヘカラサルノ懸念ヲ抱カシムルコトナク能ク平和ノ結末ヲ收ムルヲ得ヘシ惟フニ日本陸軍々人ハ必スヤ其ノ海軍々人ノ如ク良成績ヲ擧クルナラン夫ノ北淸事變ノ際日本陸軍々人ハ崇高ナル軍事的德義ヲ顯揚セリ就中彰著ナリシハ彼等ノ克己力ヲ有スルニアリ當時日本陸軍々人カ基督敎國外ノ人種トシテ列國ノ軍隊ト共ニ此ノ事變ニ與リ吾人カ常ニ基督敎ノ賜ト信スル所ノ忠誠及ヒ仁愛ノ德操ニ富メルコトヲ表示セシハ大ニ注目スヘキナリ

九　旅順口第一次攻擊ニ於ル兩交戰國ノ公報對照

（一九〇四年二月十三日發刊「ジヤパン、デーリー、メール」所載）

二月十一日柴棍發ニテ東京佛國公使館ニ到着シタル聖彼得堡公報左ノ如シ

二月八日日本ノ旅順口ニ對スル夜襲ニ於テ戰艦「ツエザレウヰチ」ハ舵機ニ、戰艦「レトウヰザン」ハ喞筒機械ニ、巡洋艦「パルラーダ」ハ其ノ船体ノ中腹ニ損傷ヲ被リシモ三艦倶ニ尙浮ヒ居リ目下此等ヲ內港ニ曳入ルヽノ手段ヲ採レリ

翌九日午前十一時戰艦及ヒ巡洋艦十五隻ヨリ成レル日本艦隊旅順口ヲ砲擊シ海岸砲臺及ヒ露國艦隊之ト應戰セシカ日本艦隊ハ砲擊一時間ノ後南方ニ退却セリ交戰中戰艦「ポルターワ」巡洋艦「ダイヤーナ」同「アスコリド」同「ノーヰク」ハ水線下ニ損傷ヲ被リタリ

砲臺ニ加ヘラレタル損害ハ輕微ナリ又負傷者ハ將校二人水兵四十一人戰死者ハ九人

同日柴棍發電第二公報左ノ如シ

聖彼得堡發電ニ據レハ「ツエザレウヰチ」及ヒ「レトウヰザン」ノ被リタル損傷ハ重大ナラス兩艦倶ニ翌日旅順防禦ニ參加セリ「パルラーダ」ハ不日航海ヲ爲シ得ルニ至ルヘシ旅順口攻擊ノ際艦隊及ヒ砲臺ニ加ヘラレタル損害ハ左シテ重大ナラス

吾人ハ今ヤ旅順口海戰ニ關スル日露兩國ノ公報ヲ見テ是迄接受セシ戰鬪記事ニ大修正ヲ加フルノ必要ヲ感セリ巷說ノ出處ハ詳ナラス或ハ全然虛構ニ出ツルモノアリト雖モ或ハ稍事實ヲ言ヒ中テタルモノアリ八日以後十一日午後ニ至ルマテハ戰地ヨリノ通信ハ絕東太守アレキセイエフノ電報ト偶旅順口沖ヲ通過セル商船ノ齎セシ不確實ノ報道トノ外ハ一モ來ラサリシニ稍言ヒ中テタルモノアルハ不思議ナリシカ今ヤ事態稍分明トナリ日本聯合艦隊司令長官東鄕中將ノ驅逐艦ヲ以テ戰端ヲ開キタルコト明ナルニ至レリ中將ハ夜襲ニ赴カシメタル驅逐艦ノ隻數ヲ明言セサルモ既ニ發表セラレタルアレキセイエフ太守ノ公報ニ據レハ八隻又ハ九隻トス恐ラクハ之ト大差ナカルヘシ此ノ襲擊ノ夜露國艦隊司令長官以下多數ノ將校ハ演劇觀覽ノ爲メニ上陸セリト或ハ曰ク曲馬ナリト何レニシテモ將校不在ノ爲メ其ノ艦隊カ警戒ヲ怠リタル折柄日本驅逐艦ハ射距離以內ニ進ミ露國戰艦二隻巡洋艦一隻即チ「レトウヰザン」「ツエザレウヰチ」及ヒ「パルラーダ」ニ首尾能ク水雷ヲ射中セリ東鄕中將ハ水雷ノ命中シタル露艦ヲ明示セントスルノ意ナク其ノ公報ハ極テ沈着ニシテ用語甚タ愼メリ中將ハ我カ驅逐隊ノ水雷ニ罹リシモノ「ポルタワ」型一隻巡洋艦「アスコリド」外二隻アリシト認ムト言ヒシニ過キサルモ敵ニ少カラサル損害ヲ與ヘタルモノト信スト言明セリ此ノ句ヤ語リ得テ眞ヲ穿テリ何トナレハアレキセイエフ太守ノ報告ハ概子事實ニ基クル如クナルモ三艦ノ被リタル損傷ヲ最小ノ程度ニ揑造スルノ觀アレハナリ而テ損傷ハ喞筒機械及ヒ舵機ニ加ヘラレタルニ過キスト言ヒ以テ一時世人ヲ惑ハサント欲スルモ同公報ノ末段ニハ三艦尙浮ヒ居レリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

目下此等ヲ内港ニ曳入ルヽノ手段ヲ採レリト言フニアラスヤ是損害ノ大ナルヲ明白ニ自證スルモノニアラスシテ何ソヤ

露艦ハ實際磨艦同樣ト爲ルマテ撃破セラレタルモノナルヘシ故ニ聖彼得斯堡ノ最近公報ニハ其ノ損傷左シテ重大ナラストアレトモ吾人ハ敢テ之ヲ否認ス惟フニ最初巷説ノ傳フルカ如ク露艦ハ事實沈沒セシモノニアラス又其ノ艦體ニ故障ヲ生シタル爲メ旅順港内ニ入ルコト能ハサルモノニモアラサルヘシ然レトモ露艦ハ外部ノ援助ナクンハ行動スルコト能ハサルモノトナリ又恐ラクハ今後數ケ月間ハ再戰線ニ加ルコト能ハサルヘシ此等ノ露艦カ本戰役中實際再就役シ得ルニ至ルヘキヤ否ヤハ浦鹽斯德ノ船渠ニ送致スルニアラスンハ確ニ檢定スル能ハサルヘク之ヲ浦鹽斯德ニ送致スルノ一事ハ刻下ノ情勢ニ照ラスニ蓋言フヘクシテ行ハレサルノ業ナリ世人ノ日本驅逐艦及ヒ其ノ勇敢ナル乘組員ノ成行如何ヲ詳知センコトヲ欲スルハ固ヨリ其ノ所ナリ顧フニ日本海軍々人ハ有効ニ水雷ヲ用フルノ特能ヲ具有スト云フヘク通常ノ日本人ニシテ苟モ一定ノ任務ヲ帶フルニ至ラハ所謂大和魂ナル自己ノ信念ニ依リ或ハ奉公ノ本分ニ依リ己ノ目的ヲ達センカ爲メニハ生命ヲ鴻毛ノ輕キニ比シ勇往邁進スルヲ以テ水雷ノ如キ死生ヲ賭シテ使用セサルヲ得サル利器ノ操縦ニ最適スル者ナリ今ヲ距ル九年前夫ノ威海衛攻撃ノ擧ニ徴スルモ日本海軍々人及ヒ其ノ水雷艇ノ奇功ヲ樹ツヘキコトヲ知ルニ足ルヘシ本月八日水雷艇ノ決行セシ夜襲ノ業ハ日本ニ取リ極テ價値アルモノナルモ諸艇ノ運命ニ關シテハ未タ確報ニ接セス東郷中將ノ報告ハ唯極テ簡單ニ言及スルニ過キス即チ中將ハ本月十一日ノ報告ニ其ノ大部ハ既ニ本隊ニ合セリト云ヘルノミ然レハ驅逐艦ノ幾隻ハ覆滅セリト推論スルヲ得ヘシ何トナレハ若シ全部無事ナランニハ八日正午ヨリ十一日正午マテノ時間ヲ以テセハ其ノ艦隊ニ歸投スルニ充分ノ餘裕アル筈ナレハナリ然レトモ又一縷ノ望ナキニ非ス東郷中將ノ公報末文ニ今朝來風波アリテ艦船艇間ノ交通不通ナル爲メ未タ各艦ヨリノ詳報ニ接セストアルコト是ナリ思フニ驅逐艦中ニハ或ハ風歇ムマテ避難港ニ入泊セシモノモアルヘク或ハ艦隊ニ接近セシモ其ノ歸着ヲ報スルヲ得サリシモノモアランカナレトモ前後ノ事情ヲ査察スルニ驅逐艦ノ若干隻ハ奮闘力戰中ニ覆滅セシヤ疑ナシ初メ艦隊ト共ニ發航セシ驅逐艦及ヒ水雷艇ハ合計十九隻アリシカ其ノ内驅逐艦ハ幾隻水雷艇ハ幾隻ナリシヤ其ハ未タ詳ナラス

九日正午過キ東郷中將ノ麾下艦隊ハ旅順口ニ直航セリ其ノ艦隊ハ戰艦六隻、一等巡洋艦五隻、二等巡洋艦四隻、砲艦一隻合計十六隻ヨリ成レリ其ノ内戰闘シ得サルモノハ一隻ノミ露國艦隊勢力ニ關シテハ確ナル筋ヨリノ詳報ニ接セスト雖モ十二隻ナリシカ如ク其ノ内六隻ハ戰艦ニシテ即チ「レトウヰザン」「ツェザレウヰチ」「ポルターワ」「ペトロパウロウスク」「ペレスウェート」及ヒ「ポベーダ」ナリ又他ノ六隻ハ裝甲巡洋艦「バヤーン」防護巡洋艦「アスコリド」「ヂィヤーナ」「パルラーダ」「ノーウヰク」及ヒ「ボヤーリン」是ナリ其ノ内「ボヤーリン」ノ在否ハ詳ナラス故ニ露國ノ總隻數ハ十一隻ナリト謂フヲ穩當トス十一隻中三隻ハ八日ノ夜襲ノ爲メニ磨艦ト爲リシヲ以テ日本艦隊ト砲火ノ間ニ相見ユルコトヲ得ルモノハ僅ニ八隻ノミ八日暮旅順口ヲ拔錨セシ諸威汽船ノ報スル所ニ依レハ當時砲臺内ノ露兵ハ意氣旺盛ニシテ日本艦隊若シ來ラハ一撃ノ下ニ必ス之ヲ殲滅センコトヲ期セリト然リト雖モ露國ノ戰術ハ敵自ラ來リテ破壞セラレンコトヲ望ムニ非サル限リハ我ヨリ進ミテ之ヲ破壞シ得ヘカラサルモノト思ハレタリ露國艦隊ハ自ラ貶シテ旅順口要塞ヲ構成スル一部ナリト思惟シ砲臺掩護ノ下ニ蟄居シ其ノ司令長官ハ自ラ機先ヲ制シ進テ戰ヲ開クノ意ナカリキ其ノ曲馬觀覽ノ如キ到底曠職ノ譏ヲ免レサルヘク劈頭第一ニ水雷ノ爲メ二隻ノ大艦ヲ擊摧セラレシハ退嬰主義ノ致ス所ト云ハサルヲ得サルヘシ東郷中將ハ其ノ砲火ヲ開始セシトキノ射距離何米突ナルヤヲ報セスト雖モ强力ナル海軍砲臺即チ日本戰艦ノ備砲ニ比シ一層射程ノ砲熕ヲ戴架スル砲臺ヲ背後ニセル敵艦隊ヲ攻撃スルニ方リテハ必スヤ遠距離ヲ擇ヒシナルヘシ砲戰ノ約一時間繼續セリト云フ點ニ關シテハ兩軍ノ公報符合セリ然ルニ絶東太守ノ公報ニハ日本艦隊ハ南方ニ「引上ケタリ」(Drew off)ト云ヒ佛國電報ニハ「退却」(Se retirent)セリト云ヘリ日本艦隊ニシテ若シ苟モ退却セシモノトセハ露國艦隊ノ之ヲ追擊セシモノト推定スヘキヤ言ヲ俟タサル所ナリ故ニ太守ハ「引上ケタリ」ト云ヒシモノト思料セサルヲ得ス然レトモ東郷中將ノ公報中ニハ正午ヨリ攻擊ヲ開始セシカ敵ハ漸次港内ニ逃走セルモノヽ如シ午後一時戰闘ヲ止メ引上ケタリトアリ而テ吾人ハ寧ロ露艦港内ニ入リシモノト信セント欲ス何トナレハ露國側ノ公報ニ據ルモ殘艦八隻中其ノ四隻ハ此ノ時水線下ヲ擊

タレ戰闘ニ堪ヘサルニ至リタレハナリ其ノ四隻トハ戰艦「ポルターワ」巡洋艦「ヂィヤーナ」同「アスコリド」同「ノーウヰク」即チ是ナリ日本艦隊側ニ在リテハ若シ驅逐艦ニ損害ヲ被リタルモノアリトセハ其ノ模樣未詳ナルカ故ニ姑ク之ヲ除キ既ニ知ラレタル損害ノミヲ擧クレハ磐手ハ其ノ高架圓材索具ヲ傷ツケラレ八雲、吾妻及ヒ出雲ノ三艦ハ各一彈ヲ受ケタリ而モ孰レモ其ノ損害輕少ニシテ日本艦隊ハ之カ爲メ寸毫モ戰闘力ヲ減セス之ニ反シテ露艦八隻ハ廢艦トナレリ是兩交戰者ノ砲術ニ於ル巧拙ヲ證スル一著例ト視テ可ナリ露國人ハ艦隊及ヒ海正面要塞ノ兩勢力ヲ併セ有セシニモ拘ラス其ノ効果ノ觀ルヘキモノナク一時間ノ砲戰中日本軍艦ノ船体ニ三發ノ彈丸ヲ射中セシメ微傷ヲ被ラシメタルニ過キス又日本艦隊カ海岸要塞ノ射距離以內ニ進航セシコトハ要塞ノ之カ爲メニ砲撃セラレタル事實ニ徵シテ明白ナレハ爰ニ贅セス」

之ヲ要スルニ日露外交關係斷絕後三日間ニ於テ露國軍艦ノ毀傷セラレタルモノヲ列擧スレハ下ノ如シ

「ワリヤーグ」	六、五〇〇噸
「コレーツ」	一、二一三噸
「レトウヰザン」	一二、七〇〇噸
「ツエザレウヰチ」	一三、一〇〇噸
「ポルターワ」	一〇、九五〇噸
「パルラーダ」	六、六三〇噸
「ヂイヤーナ」	六、六三〇噸
「アスコリド」	六、五〇〇噸
「ノーウヰク」	三、〇〇〇噸
合計　九隻	六七、二二三噸

一〇　旅順口第一次攻撃ニ於ル水雷ノ効力

（一九〇四年二月二十日發刊「ジャパン、デーリー、アドヴァータイザー」北清日報ヨリ轉載）

各種ノ兵器ハ日露戰爭前既ニ實戰ニ依リテ其ノ効力如何ヲ證明セリ榴彈ノ穿貫力ハ幾回ノ試驗ニ徵シ撞頭ノ衝破力亦近ク「カムパーダウン」對「ヴイクトリヤ」衝突事件ニ於テ明ナルニ至レリ獨リ水雷ニ至テハ未タ其ノ試驗ニ適當ナル機會ヲ得スシテ今日ニ至リシカ端ナクモ今回旅順港外水雷襲撃ノ勇擧ハ吾人ヲシテ之カ研究ノ好機會ヲ得セシメタルヲ以テ須ラク其ノ價値ヲ精究セサルヘカラス從來世界各國ノ海軍ハ何レモ水雷ノ効力ヲ認メサルニハアラサレトモ實際豫期スル程ノ効果ヲ奏スルモノニアラストノ說モ尠カラス加之水雷ノ構造ハ極テ細緻敏感ナルカ故ニ之ヲ取扱フ者ニシテ若シ少シク誤レハ不良ノ結果ヲ生スルノ恐ナキニアラサリシモ今回露國海軍中至艮ノ三艦カ之カ爲メニ廢艦同然ノ有樣トナリシヲ以テ觀レハ海上權力ナルモノハ啻ニ夥多ノ巨艦ヲ有スルノ一事ノミニシテ足レリトナスヘカラサルヲ知ルヘシ要スルニ露國ハ「レトウヰザン」「ツエザレウヰチ」及ヒ「パルラーダ」三隻ニ水雷ヲ受ケタルノ結果大ニ其ノ主力ヲ殺カレタルナリ水雷襲撃ハ敵ヲシテ心膽ヲ寒カラシムルモノナリ數隻ノ水雷艇相合セシカ機ニ乘シ敵ニ肉薄シ水雷ヲ發射シ彼等ヲ擾亂セシムルコトヲ得ヘシ惟フニ今回日本水雷艇ハ其ノ發見セラルヽニ先タチ敵ノ諸艦ノ間ニ闖入シ露艦ヲシテ之ヲ擊攘セントセハ却テ僚艦ヲ傷ツクルノ恐ヲ生セシメ以テ其ノ發射ヲ掣肘セシナルヘシ

一一　旅順口第一次攻撃ニ於ル水雷ノ効力（英國海軍大將エドマンド、フレマントル）

（一九〇四年三月十日發刊「チーヴアル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）

世人多クハ海戰ニ於ル魚雷ノ眞價ヲ誤解ス故ニ余ハ聊カ今回旅順口外ニ於テ成功セル日本ノ水雷攻撃ニ就テ所見ヲ述ヘン

艦隊ハ勿論單艦ト雖モ決シテ水雷艇ノ襲撃ニ利スル露開ノ錨地ニ碇泊スヘカラス必ス深ク港內ニ入リテ敵ノ水雷艇ノ侵入ニ備ヘサルヘカラストハ我カ海軍將士ノ千古ノ箴言トシテ眷々服膺スル所ノモノナリ縱令哨艇ヲ配置スルトモ敵艇ノ

來襲スルニ當リ傍艇ト敵艇トヲ識別スルコト困難ナルヲ以テ其ノ効力ヤ蓋自ラ制限アリ又水雷防禦網アリト雖モ今日ハ水雷先端ニ截網器ヲ附シ又多量ノ猛烈ナル爆發藥ヲ裝塡スルカ故ニ其ノ効力大ニ減セサルヲ得ス哨艇ト云ヒ防禦網ト云ヒ何レモ其ノ効力ニ制限アルコト右ノ如シト雖モ然モ尙多少ノ防禦力ヲ有スルヤ言ヲ俟タス知ラス露艦ハ之ヲ備ヘ而テ之ヲ使用シタリヤ否ヤ是余ノ知ラント欲スル所ナリ而テ余ハ露國戰艦モ我カ戰艦ト同シク之ヲ備ヘ居ルコトヲ信セサルヲ得ス

近頃我カ老朽戰艦「ベルアイル」ニ就テ行ヘル試驗及ヒ其ノ以前行ハレシ數度ノ試驗ニ依レハ水雷一タヒ軍艦ニ命中スレハ槪ネ之ヲ沈沒セシメ縱令然ラサル迄モ一大修理ヲ要スル損害ヲ與ヘ得ルコトヲ證明シタリ然ルニ今回ノ水雷攻擊ニ於テ「レトウヰザン」ハ確ニ非常ナル損害ヲ蒙リ「ツエザレウヰチ」ノ被害モ之ヨリ少シク輕キノミニテ是亦一大損害ヲ受ケタリト雖モ獨リ「パルラーダ」カ其ノ被害サシテ大ナラサルモノヽ如キハ是一ノ疑問ナリトス要スルニ專門家ハ此ノ水雷攻擊ノ成功著シキヲ思ハス寧ロ其ノ結果ノ案外小ナルニ驚キタリ然レトモ余ハ魚雷ノ價値ヲ藐視スルニアラス唯其ノ眞價ヲ明ニシ世人ノ誤解ヲ匡正セントスルニ外ナラサルナリ

試ニ魚雷ト砲熕トヲ比較センニ最新ノ魚雷ハ速力三十海里有効距離三千碼ニシテ「ジヤイロスコープ」(縱舵調整器)ノ採用セラレシヨリ以來之カ爲メニ命中極テ精確ト爲リタリ又最新ノ砲熕ハ初速三千呎秒ナリ此ノ數字ニ由テ比較スレハ砲彈ノ速力ハ水雷ノ速力ノ六十倍ニシテ彈丸カ三秒時間ニテ敵艦ニ中ル場合ニハ水雷ハ三分時間ヲ要ス而テ三分ノ間ニハ敵艦ハ槪ネ故意ニ若クハ偶然ニ其ノ針路又ハ速力ヲ變スヘク而テ一度之ヲ變センカ巧ニ照準シテ發射シタル水雷モ遂ニ命中ヲ誤ルヘシ

以上說キタル所ハ略正確ナリト信ス而テ余ノ此ノ言ヲ爲シタル所以ハ今回ノ水雷攻擊ノ効果モ將タ又水雷其ノ物ノ性質モ決シテ水雷ノ砲熕ヲ凌駕スルコトヲ證明セス此ノ両個ノ武器ハ輔車脣齒ノ關係ヲ有スルモノナルコトヲ明ニスルニ在リト知ルヘシ

一二　旅順口夜襲ニ於ル水雷ノ効力ト露國將校ノ瀆職(英國海軍ノ一將校)

(一九〇五年一月十九日發刊「ネーヴアル、アンド、ミリタリー、レコード」所載)

日露戰爭ハ眞ニ近世式海軍戰鬪ノ嚆矢ナリト謂フヲ得ヘシ米西戰爭ニ於テハ二者海軍力ノ優劣餘リニ隔絕シタルカ爲メニ充分ナル敎訓ヲ得ル能ハサリキ又日淸戰爭ニ於テハ雙方共有力ナル近世式艦隊ヲ有セス其ノ戰鬪モ多少舊式ノ譏ヲ免レサリキ然ルニ今回ノ戰爭ハ雙方ノ武力相匹敵シ開戰當時露國ノ極東艦隊ハ日本艦隊ニ比シテ優勢タラストモ少クトモ之ト同等タリシカ故ニ此ノ戰爭ノ結果ヲ批判シ幾多ノ敎訓ヲ索ムルハ特ニ興味ナクンハアラス

日露海戰ノ結果ニ於テ最顯著ナリト認ムヘキハ恐ラク魚雷カ今日再其ノ効力ヲ彰明シタル一事ニ在ランカ當初水雷ノ發明アルヤ何人モ皆以テ猛激ナル破壞機關ト爲セシカ慽ラクハ其ノ精確ナル射程ノ比較的短近ナルト新式砲熕ノ遠距離射擊カ益〻精確トナレルトニ因リ爾後其ノ信用漸ク失墜セシカ今ヤ一躍シテ舊時ノ聲譽ヲ回復セントスルノ勢アルハ注目スヘキ事實ナリ

二月八日深夜日本驅逐艦ノ旅順港外露艦ニ對スル襲擊ハ突如トシテ水雷ノ恐ルヘキ効力ヲ表明セリ是歐洲ニ傳ハレル初度ノ戰鬪ナリシハ既ニ世人ノ知ル所ノ如シ日露戰爭ノ到底避クヘカラサルハ以前ヨリ既ニ明白ナリシモ日本カ劈頭第一ニ夜襲ヲ以テ捷利ヲ博シタルハ世人ヲ驚駭セシメタリ

數多ノ海軍將校ハ是迄水雷ノ効力ヲ輕視シタルニ拘ラス日本水雷艇隊カ自ラ何等ノ損害ヲ蒙ラスシテ强大ナル戰艦二隻ヲ毀壞シタルヲ聞クニ及ンテハ何人カ水雷ノ威力ニ驚カサルヲ得ンヤ思フニ其ノ愕然タリシハ水雷ノ効力其ノ意表ニ出テタルカ故ニアラスヤ今假ニ露國側ノ言ヘルカ如ク日本ハ初度ノ旅順夜襲ニ於テ驅逐艦ノ幾隻ヲ失ヒタリトスルモ其ノ收メ得タル効果ハ之ヲ償ヒテ餘リアリト云フヘシ何トナレハ日本ハ其ノ主力艦隊ヲ損セスシテ敵ノ戰艦々隊ヲ摧戕シ少クトモ一時其ノ勢力ヲ失墜セシメタレハナリ露國艦隊ニ於テモ列國海軍社會ニ於ルト等シク水雷ヲ輕侮シ居リタルモノ

ナルヘシ當時ノ事情ヲ察スルニ露國艦隊司令長官ハ假ニ事實上ノ開戰ヲ知ラストスルモ戰鬪行爲ヲ始ムルハ僅々數時間內ニアルヘキヲ看取スル筈ナリ然ルニ水雷襲擊ニ對シテ其ノ艦隊ヲ防護スルニ急ナラサリシハ畢竟水雷ヲ輕侮シ警戒ヲ怠リ居タルカ故ニアラサルナキカ

今其ノ警戒ヲ怠リタル事實ヲ列擧センニ第一ニ艦隊司令長官タル者旅順口ノ如キ要塞掩護ノ下ニ在ル港灣附近ニ在ルトキ或ハ敵對行爲ニ出テンモ知ルヘカラサル紛爭國ノ水雷艇隊近ツキ來ルノ恐アル場合ニハ決シテ其ノ艦隊ヲ港外露開ノ泊地ニ留メ敵ニ曝露スヘカラサルハ明白ナリ然レトモ事宜ニ依リ露開ノ泊地ニ停留セサルヲ得サル場合ナキニアラス此ノ場合ニハ司令長官ハ驅逐艦ノ線列ヲ數段ノ距離ニ配置シ幾重ニモ艦隊ヲ周護セシメ其ノ外線ノ驅逐艦隊ヲシテ中間線ヲ通シテ旗艦ト通信セシメ縱令敵ノ艦艇カ無難ニ第一線ヲ通過スルモ更ニ第二線第三線ヲ以テ之カ障礙タラシメサルヘカラス其ノ他司令長官ハ種々手段ヲ盡クシテ其ノ艦隊ヲ護衛セサルヘカラス旅順攻擊ノ際露國驅逐艦ハ實際艦隊ノ周圍ヲ警戒シツヽアリシニ拘ラス日本人カ能ク敵ニ悟ラレスシテ侵入スルヲ得タルハ其ノ警戒尚不充分ナリシニ因ル此ノ事實ハ益々哨艦（驅逐艦水雷艇將タ假裝艦孰レヲ用フルトモ）ヲシテ各種ノ距離ニ於テ艦隊ノ周圍ヲ警戒セシムルノ必要缺クヘカラサルヲ證明セリ

第二ニ探海燈ノ使用モ亦最有效必要ナル警備ニシテ善ク之ヲ使用セハ速ニ敵艇ノ來襲ヲ發見シ之ヲ擊攘スルコト能ハサルナキ筈ナルニ然モ當時旅順艦隊ニ於テハ巡洋艦一隻纔ニ一個ノ探海燈ヲ使用シ四方ヲ探射シツヽアリシカ如シ若シ露艦ニシテ多數ノ探海燈ヲ規則正シク使用セハ日本水雷艇隊カ有效距離ニ入ルニ先タチ之ヲ發見シ得タリシナラン

第三ニ露艦ハ一般普通ノ警戒ヲモ怠リ大ニ敵ノ襲擊ヲ佑ケタリ彼等ハ舷窓ヲ鎖サヽリシカ故ニ燈火ハ舷外ニ洩レ好個ノ標的ヲ呈シタリ當夜四面暗憺加フルニ少許ノ濛氣ヲ以テス露艦ニシテ右ノ如ク燈火ヲ露サヽリセハ日本水雷艇隊ハ容易ニ其ノ所在ヲ發見スル能ハサリシナルヘシ是程ノ警戒ハ何人モ皆必要ト認ムルモノナルニ拘ラス露人カ戰機逼迫ノ場合ニ於テ之ヲ怠リシハ奇怪ト云フヘシ

當時ノ事情ヲ察スルニ露國艦隊ハ全ク不意ノ襲擊ヲ受ケタルカ如シ露國將校ノ多數ハ其ノ際陸上ニ在リシトノ報道當初世間ニ流布シ其ノ後此ノ報道ハ多少打消サレタレトモ戰地特派員ノ通信ニ依レハ其ノ事實ナリシコト愈明白トナレリ元來露國將校ノ風紀ハ甚シク敗頽シ意外ノ事實往々之アリシヲ聞ク今其ノ一例ヲ擧クレハ戰機切迫ノ場合ニ於テ屢次婦女ヲ艦內ニ伴ヒテ食ヲ供ニシ甚シキハ數日間モ逗留セシメタルコトアリト云フ我カ英國海軍ニ於テハ平時ニテモ固ヨリ此ノ如キ事アルヲ許サス兎ニ角責任アル人士カ露國將校ノ中ニ斯ノ如キ行爲アリシコトヲ言明セルヲ思ヘハ決シテ事實無根ニハアラサルヘシ

露國將校ノ狀態右ノ如クナリシニ拘ラス下士卒ノ却テ風紀嚴正ニシテ軍人ノ躰面ヲ保チシハ奇トスヘキナリ若シ此等下士卒ニシテ日本海軍ノ如キ熱誠堪能ナル將校ノ指揮ノ下ニ在ラシメハ大ニ用フルニ足リシナルヘシ

一三　日本ノ宣戰前旅順口襲擊ニ就テ

（一九〇四年二月二十四日發刊香港「アーリー、プレッス」所載）

露國政府ハ例ノ如ク問題ノ一方面ノ外ハ觀察セサル慣習ヲ墨守シ日本カ宣戰前ニ旅順口攻擊ヲ開始シタル事實ヨリ何カ自已ニ都合宜キ辭柄ヲ案出セント焦慮シツヽアリ然レトモ露國ハ其ノ實好機ノ乘スヘキアラハ一八五三年十一月三十日シノーブ港（黑海ノ一港）ニ於ル土耳其艦隊擊滅ノ際執リタルト同一ノ策略ヲ用ヒテ日本艦隊ノ不意ニ乘セントシツヽアリシモノナルハ殆ト疑ヲ容レス同年十一月下旬露帝ニコラス一世ハ唯挑戰ニ應シタルモノナルヲ示ス爲メニ一片ノ布告ヲ發シテ曰ク「此ノ如クナルヲ以テ土耳其政府ヲシテ條約ヲ尊重セシメンニハ一ニ深ク天帝ニ信賴シテ旗鼓ノ間ニ見ユルノ外策ノ施スヘキモノナシ云々」ト論セリ是正シク一種ノ宣戰ト見做サレ得ヘキモノニシテ而モ其ノ後ニ於ル露國ノ曖昧ナル態度ナカリセハ之ヲ宣戰トシテ承認スヘキモノナリシヤ論ナシ爾後數日ヲ經テ十月三十日ニ至リ外務大臣ネツセルローデ伯ハ歐洲各國駐剳ノ自國公使ヲ通シテ同文通牒ヲ發シテ曰ク露國ハ一タヒ宣戰シタレトモ露帝ノ威嚴並ニ利益ノ許ス限リハ攻勢ヲ採ルコトヲ止メ唯露國ノ要求ニ對スル補償ヲ得ルニ至ル迄土耳其領內ニ於ル目下ノ位置ヲ維持ス

ルヲ以テ滿足セント英佛聯合艦隊ハ此ノ明確ナル證言ニ信頼シ十一月二十二日コンスタンチノープル迄來リシニ拘ラス土耳其艦隊司令長官ノ請求ヲ郤ケ黑海ニ入ルカ如キ處置ニ出ツルコトヲ拒メリ此ノ時ニ當リ露國艦隊ハシノープ港附近ヲ巡航シ土耳其艦隊ノ位置ヲ偵察シツヽアリシカ土耳其艦隊司令長官ハ此ノ擧動ヲ以テ攻擊ノ前提ト解釋セシハ蓋正當ナリト謂ハサルヘカラサルナリ而テ英佛連合艦隊ハ露國政府ノ證言ニ信ヲ置キ土耳其司令長官ノ杞憂ヲ看過セシカ十一月三十日露國司令長官ナヒーモフハ終ニ敵ノ虚ニ乘シテ在港土耳其艦隊ヲ粉碎全滅シタリ

翻テ今回ノ事件ヲ見ルニ露國艦隊ハ上記ノ如キ擧動ヲ再演スルノ企アリシヲ察スルニ足ルモノアリ唯日本艦隊司令長官ノ敏捷ナル能ク露國ヲ凌駕スルモノアリシカ爲メ此ノ計畫ヲ實行シ得サラシメシノミ二月五日栗野公使ハ露國政府ニ通告シテ曰ク露國ハ日本ノ最後通牒ニ對シテ其ノ回答ヲ遷延スルコト既ニ二十二日而テ此ノ間露國ハ其ノ戰備ヲ勵行シツツアルヲ以テ日本ハ此ノ上協商ノ延引スルヲ拒絶スト又其ノ翌日日本外務大臣ハ東京駐剳露國公使ニ通告スルニ日露外交關係ノ終ニ茲ニ斷絶セルコト並ニ日本ハ最早露國ニ通牒セスシテ自由行動ヲ採ルヘキ旨ヲ以テセリ而テ一方ニ於テ露帝ニコラス二世ハシノープ鏖殺前夜ニ於ル其ノ皇祖父ノ例ニ倣ヒテ上帝ノ冥護ニ訴フルノ喜劇ヲ演セルヲ見タリ是ニ由テ之ヲ觀ルモ兩國ハ事實上既ニ互ニ宣戰シ其ノ適當ト考フル時機ニ於テ直ニ實戰ヲ開始スヘキコトヲ世界ニ向ケ公布スル手續ヲ完了セルモノト云フヘシ露國實際ノ行動ヲ見ルニ露國ハ日本ノ承諾シ得ヘキ條件ヲ提供スヘシト言フト同時ニ極東ノ增援軍ヲ續發シツヽアリシモ對手國ハ此ノ行爲ヲ以テ國際慣例ニ違反スルモノトナサヽリキ而テ兩國ノ關係ハ六ケ月前頃ヨリ危機ヲ呈シ兩國共ニ戰備ニ汲々トシ何時ニテモ令下二十四時間以内ニ砲火ヲ交フルニ至ルヤモ計ラレサル狀態ニ在リシナリ二月初旬頃ヨリ露國ハ直ニ開戰シ得ル地點ニ其ノ艦隊ヲ配置セリ露國ハ開戰第一着ニ仁川港ヲ占領スヘキハ殆ト掩フヘカラサル事實ニシテ日本カ露國ト一切ノ外交斷絶ノ通告ヲ發シタルニ當リ同港在泊ノ露艦二隻ハ此ノ目的ノ爲メニ頗ル便宜ナル位置ニアリタリ然レハ日本ハ海戰法規ニ拘泥シ仁川港ヲ中立港ト視テ武力ヲ用フルヲ憚リ此ノ二艦ヲ其ノ儘港内ニ放棄セスシテ遂ニ海戰ヲ開始スルノ勇斷ニ出テ其ノ豫想ヨリモ容易ニ勝利ヲ博スルヲ得タリ而テ日本艦隊司令長官ハ戰略上ノ定則ニ據リ戰勝ノ好機ヲ逸セス大膽ニモ旅順口襲擊ニ向ヘリ然レトモ此ノ際日本艦隊司令長官ハ露國艦隊ノ要職將校カ皆上陸觀劇ニ餘念ナカリシトハ毫モ思及セサル所ナルヘシ蓋アレキセイエフ太守ハ戰鬪ノ事乃公ノ敢テ關知スル所ニアラストナセシモノヽ如ク海陸軍將校ハ奇禍ノ目前ニ逼ルナキヲ見テ寸暇偸安ノ好機逸スヘカラスト思惟セシナルヘシ要スルニ夜襲ノ際旅順口ハ全ク之ニ應戰スルノ用意ナカリシモノヽ如ク天未タ明ケサルニ巍然タル三隻ノ艨艟ハ全ク戰鬪力ヲ失フニ至レリ此ノ如キ奇績ハ往々幸運ノ致ス所ナルヘキハ疑ナキモ苟モ艦隊ニ於テ平時ニテモ警戒ヲ採ラサルヘカラサルニ危機一髮ノ際專ラ天惠ヲ恃ミ饗宴ニ耽リ遂ニ如此失敗ヲ取ルハ固ヨリ其ノ所ニシテ而モ天命ヲ批難スルハ少シク酷ナリト謂ハサルヘカラス

一四　旅順口第二次攻擊

（一九〇四年二月十八日發刊「ジャパン、デーリー、メール」所載）

二月十四日日本驅逐隊ハ旅順口外ノ敵艦隊ニ夜襲ヲ加ヘントシテ出發セシカ彼等ハ果シテ何處ヨリ發航セシヤ吾人之ヲ詳ニセスト雖モ同艇隊カ通宵大風雪ヲ冒シテ航走セシコトハ明ナリ而テ途上各艦相失シ之カ爲メ協同運動ヲ爲ス能ハス唯艦首ヲ回ラシテ艦隊ニ合スルノ外ナカリシモノヽ如ク想ハレタリ然ルニ朝霧速鳥ノ二艦ハ各單獨ニ前進ヲ續ケタリ露國側モ毫モ周章狼狽ヲ再セス敏活ニ探海燈ヲ照ラシテ二個ノ高角ニ在ル砲臺及ヒ港外ノ艦隊ハ猛火ヲ朝霧ニ加ヘシカ此ノ二小艦ハ毫モ屈セスシテ港口ニ突進シ水雷ヲ發射シタル後チ無事ニ歸還シタリ艦長ハ夜闇ノ爲メ襲擊ノ効果如何ヲ審ニセサレハ之ヲ明言スル能ハスト報告シタルヲ以テ其ノ敵艦ニ加ヘタル損害ノ程度判然タラスト雖モ兎ニ角其ノ行動ノ豪膽ニシテ又功績ノ顯著ナリシコトハ何人モ激賞ヲ禁スル能ハサル所ナルヘシ之ニ引替ヘ露人ハ探海燈ヲ用ヒテ直ニ此ノ二小艦ヲ照破シ全ク殺活ノ權ヲ握リシニ拘ラス而モ之ヲ擊沈シ若クハ廢艦ト爲ス能ハサリシハ無能無力ト譏笑セラルヽモ亦拒ムコト能ハサルヘシ朝霧ノ攻擊ヨリ二時間ノ後チ速鳥ハ毫モ僚艦ノ行動ヲ知ラスシテ港口ニ近接セリ惟フニ日本ハ最初ノ襲擊ニ對シテハ敵之ニ備フル所アリトスルモ二時間ヲ隔テヽ再行スル襲擊ニ對シテハ或ハ備フル所ナカルヘシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ト推測シ前後二回ノ襲擊ヲ企テタリトセハ其ノ策ヤ賞讃スヘキモノアリ然レトモ速島ノ近ツキシ時モ露人ハ尙警戒ヲ怠ラス此ノ再襲擊ニ對シテモ巧ニ探海燈ヲ用ヒテ發砲ニ力メタリ唯其ノ防戰ノ効ナカリシハ前回ト異ラス反テ此ノ際速島ノ發射シタル水雷カ敵艦ニ命中シ彼ニ損害ヲ加ヘタルハ幾ト疑ヲ容ルヘカラサル如シ然レトモ以上ノ事實ヲ見テ此ハ水雷ノ効力ニ關スル一新教訓ヲ世界ニ示スモノナリト斷言スルヲ得ス何トナレハ露人ノ如キ海洋ニ於テ無能無力ナル敵ハ常規ヲ以テ律スルコト能ハサルト共ニ日本人ノ如キ大膽不敵ナル攻擊者ハ世界ノ何處ニモ求メ難ケレハナリ日本人若シ一度其ノ身ニ任務ヲ帶ヒンカ專心一意之カ遂行ヲ期シ死生固ヨリ問フ所ニアラス其ノ勝ヲ制スル亦宜ヘナリト云フヘシ

一五　日本戰勝ノ主因（英國海軍諸將ノ論評）

（一九〇四年二月十八日發刊「セアーヴアル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）

倫敦諸新聞ノ代表者ハ英國海軍諸將ヲ歷訪シ叩クニ日本艦隊ノ博シ得タル前後數回ノ成功ニ關スル所見ヲ以テセリ今其ノ意見ノ要領ヲ列擧スル左ノ如シ

海軍大將サー、エトモンド、フレマントルハ旅順口外泊地ニ於ル三隻ノ露艦ニ對スル襲擊ニ就キ語リテ曰ク

勿論露艦ハ危險ノ位置ニ在リタルモノナレハ外交關係斷絕ノ際何時ニテモ攻擊セラルヽコトヲ豫期スヘキ筈ナリ旅順港内ニ堅氷ヲ結ヒシヲ以テ港外泊地ニ赴カサルヲ得サルニ至リシト言フモノアレトモ余ハ未タ曾テ內港ノ氷結セシコトヲ聞カス故ニ余ハ此ハ港內ニ防波堤ヲ築造セシヨリ生シタル結果ナリト推斷セサルヲ得ス何レニシテモ露艦ハ何時ニテモ發航ニ差支ナキ準備ヲナスヘキ筈ナルニ全ク注意ヲ加ヘサリシコソ是實ニ日本水雷艇襲擊ノ好標的トナリタル所以ナリ日本人ハ勇往敢爲ノ氣象ニ富ミ而テ機敏輕捷ナル固ヨリ露人ノ敵ニアラス又兩國艦隊人員ノ優劣ヲ比較スルニ諸種ノ重要ナル點ニ於テ日人ハ迥ニ露人ニ勝ル所アリ露國海軍將校ハ學理ニ於テハ堪能ナリ然レトモ實地ニ至テハ其ノ敵日本人ニ及ハサルコト遠シト

海軍大將サー、ジョン、オー、ホプキンズ曰ク

日本水雷艇カ其ノ根據地ヲ距ルコト一千海里ノ遠キニ突進シ露國ノ戰艦及ヒ巡洋艦ニ對シ襲擊ヲ加ヘシ壯圖ハ賞スルニ餘リアリ其ノ奏功セル亦宜ヘナリト謂フヘシ之ニ反シテ露人ハ敵カ水雷艇ニ富ミ而テ其ノ必ス之ヲ利用シテ來ルヘキコトヲ熟知セシニ拘ラス自國艦隊ヲ港外防禦ノ區域內ニ錨泊セシメシカ如キハ一大失策ト謂ハサルヲ得ス開戰ノ曉ニ於テ恪守スヘキ教訓ハ一切ノ變ヲ慮リテ之ニ備ヘ又敵ノ實力ヲ審ニスルニ在リ然ルニ露人ハ兩ナカラ之ヲ忽諸ニ附セシモノヽ如ク劈頭第一其ノ不注意ニ由リ絕東ノ制海權ヲ日本人ノ掌裡ニ委シ延テ露國ハ戰爭ノ初期ヨリ盤根錯節ニ遭遇セサルヲ得サルニ至レリト

海軍少將ウイリヤム、マンハ日本人ノ戰術如何ノ問ニ對シ答ヘテ曰ク

日本ノ行動ハ海軍戰術家ノ常ニ說ク所ヲ現實ニシタルモノニシテ毫モ間然スル所ナシ抑旅順口附近ハ容易ニ航海シ得サル箇所ナリ而モ日本海軍々令部ハ能ク此ノ方面ノ地理ニ通曉セルカ故ニ巧ニ露艦ノ所在地ヲ發見セルカ如シ惟フニ水雷艇ハ艦隊ニ尾隨スルコト能ハサルヘケレハ日本カ露國艦隊ノ所在ヲ確メタルハ偵察巡洋艦ヲ以テセシナラン水雷ハ三發命中シ一ハ旗艦ヲ擊破シ一ハ最良ノ一戰艦ヲ廢艦タラシメ一ハ速力二十海里ノ巡洋艦ヲ浮塞ノ姿ニ陷ラシメタリ此ノ急擊ハ細心熟慮シテ畫策シ神速且確實ニ遂行シタルモノト謂ハサルヲ得ス日本人ハ勇武ノ氣象ニ富ミ命令ヲ遂行スルニ當テハ險ヲ恐レス難ヲ辭セス加フルニ愛國ノ念燃ユルカ如シ水雷襲擊ヲ決行セシコト毫モ怪ムニ足ラサルナリ日本人ハ吾等英人ト同シク「殉難報國ハ士ノ譽ニシテ又樂ト爲ス所ナリ」トノ古語ヲ以テ精神トナスモノナリ又日本軍艦ハ英國造船會社ノ製造ニ係リ其ノ設計亦英國造船家ノ手ニ成ル而テ日本海軍々人ハ我カ英人ヲ師トシテ砲術並ニ運用術ヲ學ヒ即チ半ハ我カ海軍ノ模範ヲ倣ヒ半ハ我ノ直接教授ヲ受ケタルモノナリト

海軍少將ジョン、イングルスハ日露戰爭ノ經過ニ關スル評論ヲ「デーリー、テレグラフ」ニ寄セテ曰ク

日露開戰ノ少シク前ニ日本ハ自國ノ防備完全ナル諸軍港內ニ艦艇ヲ繋留セントスル各種ノ誘因アリシニ拘ラス斷然之ヲ排シ遂ニ敵ノ前哨線ヲ以テ味方ノ境界線ト爲スノ戰略ヲ採リタリ其ノ豪膽ナル點ニ於テハ第八世紀ヨリ第十世紀マ

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

テ歐洲海岸ヲ侵掠シテ各處ニ移住シタル北海男兒ノ勇マシキ振舞ニ劣ラサルナリ此ノ戰略ハ攻勢ニハ相違ナシト雖モ其ノ實守勢戰略ニシテ即チ攻勢防禦ト稱スヘキモノナリ惟フニ英國人ハ同盟國ノ博シ得シ赫耀タル戰捷ノ詳報ニ接シ往時日本海軍ノ基礎ヲ定メントスルニ際シ吾人カ彼ノ爲メニ致セル盡力ノ徒勞ニ歸セサリシヲ榮トナサン方今機械的時代ノ戰爭ヲ以テ古代ノ戰爭ニ比スルハ或ハ穩當ヲ缺クノ嫌ナキニアラスト雖モ蕞爾タル日本島國カ他ノ援助ヲ仰カス單獨以テ北方ノ大國ニ對抗スル行動ニ至テハ實ニエリザベスノ世ニ於テ我カ英國海軍將士カ强大ナル西班牙艦隊ヲ邀擊セシトキノ快擧ト比肩スルニ足ルモノト云フヘシ昔者海軍中將ドレークカ敵ヲ邀擊セントスルニ臨ミ英王ニ奏シテ曰ク「此ノ役ヤ臣誓テ西班牙國王陛下ノ鬚指ヲ焚燒セン」ト今ヤ英武ナル東鄕中將モ亦日本皇帝陛下ニ復奏シテ云ハン曰ク「臣既ニ露旂ノ柔毛ヲ焚燒セリ」ト

一六　旅順艦隊ノ敗因（通信員C、B）

（一九〇四年二月二十二日發刊「デーリー、テレグラフ」所載）

余以爲ラク露國海軍ニシテ若シ其ノ將校ヲ束縛スル命令ヲ下サヽランカ將士ハ必スヤ自ラ決スル所アルヘシ若シ露艦旅順港ヲ出テスンハ彼等ハ何等ノ害ヲモ敵ニ加フルコト能ハサルノミナラス竟ニ捕獲セラルヽコト猶嚢裡ノ鼠ノ如クナルヘシ今ヤ旅順艦隊ハマカロフ中將著任前ニ壯擧ヲ行ハントスル志望旺盛ナルモノヽ如シ海軍將校中ニハ重圍ニ落チ糧盡キ氣餒ヘ或ハクリミヤ戰爭ニ於ル露國海軍ノ覆轍ヲ踏マンヨリ寧ロ一死以テ敵ヲ破ルニ如カスト爲ス勇者アルヘシ惟フニ彼等カ今回ノ失敗ヲ招キシ主因ハ自暴自棄ニ在リ而テ此ノ自暴自棄ハ海軍將校カ陸軍側ヨリ擯斥セラレ居ルコトヲ知リシヨリ生セシモノナリ今回ノ失敗ニ由リ露國海軍ニ與ヘタル損害ノ尠少ニアラサルヤ固ヨリ言ヲ俟タサレトモ露國ノ如キ尊大自ラ持セルモノニシテ安ソ其ノ耻ヲ雪クコトナクシテ止ムヘケンヤ而テ其ノ耻ヲ雪クノ道ハ他ナシ彼等海軍將士ハ出戰シテ以テ出來得ルタケ害ヲ敵ニ加ヘ若シ旅順口ニ歸港スルコト能ハスンハ艦艇ト共ニ海底ノ藻屑トナランコト即チ是ナリ斯セハ垢ヲ蒙リ辱ヲ受ケ空シク港內ニ蟄伏スルニ優ルコト萬々ナルヘキモ然ラサレハ彼等ハ出戰ヲ避ケ蟄伏ヲ擇ンテ死シテ榮ヲ冀ハス生キテ辱ヲ甘スルノ譏ヲ受クルモ將タ復何ノ辭アランヤ敢テ問フ彼等海軍々人ハ斯テモ尙恬トシテ陸上ノ人々ニ相見エントスルカト

余ハ最近ノ紙上ニ露國海軍ノ腐敗及ヒ訓練ノ闕如セルコトヲ說キシカ尙他ニ陳フヘキモノ多々アリ聞ク日本水雷艇カ旅順口ニ奇襲ヲ行ヒシ夜露國海軍將校ハ司令長官スタルク中將夫人ノ招ニ應シテ其ノ讌ニ列シ深更歸艦セシカ其ノ大半ハ勤務スルコト能ハサルマテニ泥醉セリト「男兒固ヨリ痛飮セサルヘカラス」トノ舊思想ハ今尙露國海軍部內ニ存セリ是ヲ以テ外國將校ニシテ露艦ヨリ午餐ノ招待ヲ受クルトキハ事ニ託シテ之ヲ辭スルモノ多シト云フ數年前ポーツマス軍港ニ於テ二三ノ露國海軍將校警察官ヲ毆打セシ廉ヲ以テ司法官ノ糺問ヲ受ケシコトアリシカ犯則ノ原因ハ全ク酒癖悪シキニ在リタリ惟フニ海軍ノ如キハ各種ノ業務中殊ニ大酌痛飮ヲ許スヘカラサルモノナルニ露國海軍部內ニ依然醉客酒徒多キハ嘆スヘキノ至リナラスヤ又旅順口ニ在ル露國海軍將校カ其ノ部下及ヒ陸軍側ノ擯斥ヲ受ケテ威令ノ行ハレサルハ同シク留意スヘキ事柄ニシテ聞クマカロフ中將ハ人ニ語リテ「旅順口ニハ人ナシ是余カ行カント欲スル所以ナリ」ト曰ヘリト願フニ彼等トテ前日ノ汚辱ヲ雪カントスルノ決心アルヘケレハ假令士氣沮喪スト云フト雖モ尙未タ快戰ヲ試ムル能ハサルニアラサルナリ

露國若シ旅順口ニ多量ノ石炭ヲ貯藏セシト欲セハ目下使用セサル分ヲ海水中ニ涵置スルヲ良シトス鹹水ハ爲メニ石炭ヲ變質セシメサルヘク又能ク其ノ可燃性ヲ存續シ且砲火ヲ蒙リ爆燃スルノ惧ナカルヘシ又市街ノ大半ハ寧ロ自ラ破壞シ倉庫及ヒ船渠ハ沙嚢ヲ以テ防護スルヲ可トス余ノ曾テ日本陸軍顯官ヨリ傳聞スル所ニ據レハ日本ハ夙ニ旅順口ニ於ル官紀紊亂及ヒ其ノ供給缺乏ノ事ヲ知悉セルカ如シ

一七　日本艦隊ノ浦鹽斯德ニ對スル砲擊（軍事批評家）

（一九〇四年三月九日發刊「タイムス」所載）

日本艦隊ハ二月二十五日旅順口沖ノ戰鬪後二十六、二十七ノ兩日間同港ヲ距ルコト遠カラサル處ニ留リ二十八日ニ至リ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

テ遂ニ引揚ケタリ我カ東京通信員ノ發電ニ據ルニ海洋島ハ二十九日右艦隊ノ占領スル所ト爲リタリト云フ日本艦隊ノ一支隊ハ同島ノ西岸象登慕內錨地ニ於テ一時風波ヲ避ケタルコト最早疑ヲ容ルヘカラス三月六日午前日本軍艦七隻浦鹽斯徳沖ニ現レ午後ニ至リ同港ニ對シ砲撃ト云ハンヨリハ寧ロ示威運動ヲ行ヒタルコトハ自然露人ヲシテ東郷艦隊ノ北航シタルヲ思ハシメ尚日本軍艦ヨリ十二吋砲ヲ浦鹽要塞ニ向ケ發射シタル事實ハ益々東郷艦隊ノ戰艦モ亦此ノ砲撃ニ加リタルヲ信セシムルニ至レリ然レトモ吾人ハ夫ノ閉塞船カ尚露國戰艦ノ旅順港口通航ヲ阻礙スルニ足ルヤ否ヤ又露國軍艦中若干隻ノ損害ノ現狀如何ニ就テハ多少ノ疑ヲ存スル折柄未タ遽ニ日本カ其ノ主力艦隊ヲ千海里ノ遠キニ移スモ差支ナキ程ニ露國艦隊ノ能力ヲ貶視スルニ至リタルヲ信スル能ハス況ヤ日本ハ旅順口ヲ距ルコト近キ地點ニ軍隊ノ揚陸ヲ行ハントスルコト愈明白ナル今日ノ場合ニ於テヲヤ故ニ東郷司令長官ハ旅順口ヨリ適當ノ距離ニ止リ露國ノ來襲ヲ豫期セサル尠モ萬一ニ備フル所アルモノト信スヘキナリ然レトモ東郷司令長官ハ運送船掩護ノ爲メ既ニ其ノ艦艇ヲ處々ニ散置セルモノト思フハ亦不可ナリ何トナレハ日本運送船ニ對スル迫害ハ露國艦艇ノ繫泊セル二軍港方面ヨリ來ルノ外ハ一モコレアラサルニ依リ日本ハ唯此ノ兩港口外ニ哨艦ヲ置ケハ其ノ一事ニテ充分ニ危險ヲ豫防スルニ足ルヘシ換言セハ東郷司令長官ハ露國最良軍艦カ己ノ目ニ觸ルヽコトナクシテ又己ト鬪フコトナクシテハ決シテ外洋ニ出動シ得ヘカラサルヲ確ムルヲ得ハ其ノ業ハ既ニ成レルモノナリ縱ヒ若干隻ノ露國驅逐艦カ晩冬ノ夜陰ニ乘シテ竊ニ逸出スルコトアルトモ各運送船隊ニ附スルニ二三等巡洋艦一隻ト一二隻ノ驅逐艦トヲ以テセハ優ニ之ニ抗戰セシムルニ足ラン

極東太守アレキセイエフノ報スル所ニヨレハ浦鹽斯徳沖ニ現レタル日本艦隊中ニハ裝甲巡洋艦出雲アリ八雲アリ其ノ他ノ軍艦ニ至リテハ當時露國將校之カ艦名ヲ知ル能ハサリシト云フ思フニ日進、春日ノ二艦之ニ加リシナラン此ノ二艦ノ型式ハ露國將校或ハ之ヲ知ルコト能ハサリシナルヘシ其ノ二艦ノ日本ニ到着以後ノ日數ニ由リテ之ヲ算スルニ何レモ去月中旬頃ニ於テ早ク役務ニ就クヲ得タリシ筈ナリ

露國側ヨリ出テタル其ノ後ノ報ニ據レハ右日本艦隊ハ一隻ノ戰艦四隻ノ裝甲巡洋艦及ヒ二隻ノ防護巡洋艦ヨリ成リタリト云フ或ハ然ラン此ノ艦隊ハ烏蘇利灣ヨリ浦鹽斯徳ニ近接シゴールデン、ポシニ至ルノ路ナル東ボスフオールノ海峽ノ東南面ニ向ヒテ航進シ午後一時二十五分五隻中ノ七隻ハスクロフ、リチーウヰツチ兩砲臺ニ向ケ又港市及ヒ其ノ南側ナルオビアスチニヤ河口附近錨地ニ向ケテ發砲シ五十五分間ニシテ打方ヲ止メ南方ニ退キタリ同時ニ日本驅逐艦二隻ハアスコルド島及ヒマイテル岬（此ノ岬ハ烏蘇利灣ノ東南ニ位シ浦鹽要塞ヲ距ル約三十海里ノ處ニアリ）附近ノ海岸線ヲ捜索セリ七日ニ至リ同艦隊ハ再浦鹽斯徳沖ニ現レ正午頃前日來リテ砲撃ヲ行ヒタル箇處ニ近寄リ來リタルモ轉シテ外洋ニ向ヒ去レリ春尚淺キ今日ニ於テ斯ノ如ク結氷ノ妨クル所トナラス浦鹽斯徳ノ近距離マテ接近シ得タルハ聖彼得堡ニ於テスラ又意外トスル所ナリ尚オビアスチニヤ河口附近ハ要塞掩護ノ下ニ在ル地帶中最要害ノ部分タルニ斯ク砲撃セラレタルハ露國公報ノ辯疏ノ如何ニ拘ラス同國ヲシテ浦鹽要塞ノ不備ヲ悟ラシメ轉タ不安ノ思ナキヲ得サラシム

オビアスチニヤ河口附近即チ港市ノ南側面ニハ數多ノ兵營アリ而テ其ノ河口附近ハパトロクラス灣（東ボスフオール海峽ノ北東側ニ位スル三灣中最東ノ灣）ノ海岸ヲ距ル二海里ノ處ニアリ故ニ露國砲臺カ日本艦隊ヲシテ斯ノ如ク要塞地帶中最奥ノ地ニ其ノ榴彈ヲ注クニ擅ナラシメ敵ニ應砲スルコトナク且敵ニ何等ノ損害ヲ與ヘ得サリシハ異常ノ事トナサヽルヘカラス此ノ方面ノ備砲ハ射程短キ制式ナルカ或ハ砲其ノ物ニ未タ應戰準備アラサリシカ何レニスルモ浦鹽守備隊ニ取リ又露國ニ取リテ不名譽ノ事タルヲ免レス

日本艦隊ノ行動ハ威力偵察以外ニ何等ノ作戰目的ヲモ有セサリシヤ明白ナリ何トナレハパトロクラス灣ハ浦鹽市街及ヒ內港ニ對シ有効ナル砲撃ヲ行ヒ得ヘキ地點ニアラス思フニ浦鹽內港ヲ端ヨリ端ニ至ルマテ最有効ニ掃盡セントセハ西側及ヒ亞毋爾灣ヨリ砲撃セサルヘカラス日本ハ浦鹽要塞ニ對スル砲撃準備今ヨリ一層捗ラハ此ノ行動ニ出ツルヤ疑ナシ今ヤ此ノ要塞中如何ナル部分モ敵ノ砲撃ヲ免ルヽコト能ハサルノ事實既ニ斯ノ如ク現レタル以上ハ市街ハ甚シク不安ノ念ヲ懷カサルヲ得ス

日本艦隊ノ浦鹽砲撃中露國巡洋艦ハ同港內ニアリシヤ將又外洋出動中ナリシヤハ未タ詳ナラス東京ニ於テハレイツエン

シテイン大佐ノ巡洋艦隊二月二十九日ヲ以テ外洋ニ出テタリト信スルモ數日前浦鹽斯德ヨリ函館ニ着シタル墺國汽船ノ報道以外ニ一モ此ノ種ノ報道ヲ聞カス或ハ同艦隊ハ二月二十九日ヨリ三月六日ニ至ル間ニ歸港シタランモ亦知ルヘカラス是等ノ問題ハ姑ク措キ東ボスフォール海峽ニハ東西両口アリ日本ハ現在ノ實力ヨリハ一層強大ナル力ヲ以テスルニアラサレハ露國軍艦ノ同海峽出入ヲ遮斷スルハ容易ノ業ニアラサルナリ

一八　日本艦隊ノ浦鹽要塞ニ對スル砲撃（通信員C、B）

（一九〇四年三月九日發刊「デーリー、テレグラフ」所載）

惟フニ中外幾多ノ戰評ハ事實ト齟齬スル所多ク為メニ信ヲ措ク能ハサル所以ノモノハ他ナシ戰評家ハ必要ナル通信員ヲ有セサルヲ以テ戰局ノ眞況ヲ洞察スルコト能ハス日本モ亦露國ト同シク作戰上誤ル所アルモ之ヲ濫賞シ又露國ハ交戰上不利ノ點アルモ其ノ不利ハ極大ノモノニアラサルニ之ヲ過貶スルコト之ナリ夫ノ日本艦隊ノ約一時間浦鹽斯德ヲ砲撃スルヤ露都發電ハ實際何等ノ損害ナシト聲明スルモ日本ハ此ノ電報ヲ以テ虚偽ト為シ又日本艦隊ハ公報中ニモ「大ニ敵ノ志氣ヲ沮喪セシム」ト云フカ如キ稍曖昧無益ノ言辭アリ之カ為メ戰評家ヲシテ五里霧中ニ徘徊シ眞相ヲ知ルニ苦マシム余ノ觀ル所ヲ以テスレハ近時日本艦隊ハ為ス所アラントシテ屢企畫行動スル所アリシモ勞シテ功ナク其ノ結果著シク勢力ヲ減殺セシナルヘシ何トナレハ同艦隊ハ彈藥ヲ費消セリ而テ彈藥ノ缺乏ハ運送船ニ依テ補給スルコトヲ得ルトセハ敢テ不可ナカルヘキモ艦砲ノ命中精度ヲ減シ又其ノ命數ヲ縮メタレハナリ夫封鎖作業ヲ以テ軍需供給ノ道ヲ絶ツカ如キ萬全有効ノ法ヲ採ラスシテ徒ラニ演劇類似ノ小策ヲ弄セントスルカ如キハ兵戰ニ於テ極テ危險ナルノミナラス又嚴ニ戒ムヘキ事ナリトス然ルニ此ノ企圖ニ對シテハ輿論モ亦大ニ責ヲ負フヘキモノアリ蓋輿論ノ多クハ那破翁戰爭中夫ノ英將コリンウオーリスノ佛港ニ對スル長期封鎖ノ如キ海軍々人ノ練達ト堅忍トヲ發揮セシ行動ヨリモ一擧ニシテ大捷ヲ收ムルカ如キ壯業ヲ激賞スルノ癖アレハナリ此ヲ以テ戰評家タルモノハ職トシテ輿論ヲ利導シ而テ至要ノ國防力タル兵軍ヲ勝算歴々タル場所ニ於ル緊要ナル作戰ニ專用スヘキコトヲ説示スルヲ任トスヘキナリ今本戰役中ノ作戰ヲ例擧センニ仁川港外ノ戰闘水雷艇ノ旅順口襲撃及ヒ旅順港内ノ露國艦隊ニ對スル遠戰ノ如キ又旅順口閉塞行動ノ如キハ毫モ主要ノ艦隊ヲシテ危地ニ出入セシムルモノニ非サルカ故ニ此ノ計畫ハ策ノ最宜シキヲ得タルモノト謂フヘシ若シ夫余カ是迄數回繰返シタル意見ノ如ク特別艤裝ノ汽船數隻ニ搭載スルニ射程六七海里ノ砲熕ヲ以テセハ優ニ浦鹽斯德船廠ノ砲撃ヲ決行スルコトヲ得ヘク而テ之カ為メ毫モ其ノ大艦巨艨ヲ喪フノ惧ナカルヘシ願フニ日本ノ諸要塞ニハ現下全ク不用ニ屬スル砲熕及ヒ彈藥多カルヘキヲ以テ前記ノ目的ニ利用スルコトヲ得ヘシ

一九　浦鹽砲臺ノ日本艦隊ニ對スル態度（其一）

（一九〇四年三月九日發刊「ジヤパン、デーリー、メール」所載）

聖彼得堡發電ハ一昨六日午後日本艦隊ノ浦鹽ヲ砲撃スルコト二百發ノ多キニ達スルモ同港砲臺ハ絶エテ之ニ應戰セスト云フ日本側ノ公報ハ今（八日午前八時）尚到達セス惟フニ今日中ニハ公報ニ接スルナラン蓋浦鹽ヲ砲撃セル日本艦隊ノ打電スヘキ最近電信局ハ函館（元山ノ電信ハ不通ト假定ス）ニシテ其ノ距離四百海里ヲ超ユルカ故ニ打電ノ為メニ派遣セラルヽ軍艦ハ八日ノ夕又ハ夜ナラテハ到着スルコト能ハサルナリ抑浦鹽ノ港タルヤ海面ヨリ攻ムルコト甚タ難ク港ノ瀕在スル亞毋爾灣ハ狹クシテ（幅僅ニ二海里半）深ク陸地ニ入込ミ而モ灣口ヨリ約三分ノ二ノ處ニテ急ニ曲折ス然レトモ日本艦隊ハ精確ナル浦鹽防備圖ヲ携帶シタルニ相違ナク其ノ圖面ニ照ラシテ五海里ノ距離ヨリ砲撃シタリトスレハ如何ソ同港ニ損害ヲ被ラシメサルコトアラン現ニ旅順砲撃ノ際ノ如キ更ニ遠距離ヨリ砲撃シテ甚大ナル損害ヲ與ヘタルニ非スヤ今ヤ露京發電ニ曰ヘル如ク浦鹽砲臺ニシテ全然應砲セサリシトセハ其ノ一事ハ吾人ノ解釋ニ苦ム所ナラサルヲ得ス蓋其ノ砲臺タルヤ巨大ナル砲ヲ備ヘ居ルニ相違ナク而テ其ノ位置高キカ故ニ其ノ發射ハ必スヤ軍艦ノ發射ヨリモ一層猛烈ナルヘシ又敵ノ未タ我カ砲ノ位置ヲ知ラサル時之ヲ秘スルノ必要アルニ方リテハ敵ノ砲撃ニシテ至大ノ損害ヲ與ヘサル限リ成ルヘク忍ヒテ發射ヲ控フルノ得策ナル場合ナキニ非スト雖モ敢テ砲ノ位置ヲ秘スルノ必要ナキ永久砲臺ニシテ而モ敢テ砲ノ二三發ノ精確ナル發射ハ敵艦隊ニ非常ナル損害ヲ與ヘ得ヘキモノナリ然ルニ敵カ二百發ノ多キヲ放ツ間ニ一發

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ臆羞ヲモ爲サヽリシトハ千古未曾有ノ珍事ニシテ其ノ戰術ノ迂愚陋劣ナル智者ヲ待タスシテ明ナリ
又露京發電ニヨレハ日本艦隊ノ發射セル榴彈ノ爆發セルモノ少シト云フト雖モ吾人ハ之ヲ信スル能ハス又同電報中日本榴彈ノ炸藥ニハ「リツダイト」ヲ使用ストアレトモ事實相違ニシテ之ニ填充スルニ下瀬火藥ナルモノヲ以テス聞クカ如キハ其ノ爆發力ハ世界ノ火藥中唯「パルスチング、ゼラチン」ニ一歩ヲ輸スルノミ然レトモ「パルスチング、ゼラチン」ハ未タ砲彈ニ使用スル能ハサルヲ以テ一モ下瀬火藥ノ右ニ出ツルモノアラサルナリ成程如何ナル要塞ニ對スル砲撃又ハ海戰ニ於テモ爆彈ノ發セスシテ終ルモノ敢テ珍シカラスト雖モ然モ二百發ノ榴彈カ大部分爆裂セサリシト云フカ如キハ中等以下ノ成績ナルカ故ニ吾人ハ聖彼得堡發電ノ虛僞ナルヲ確信シ日本公報ノ來ランコトヲ鶴首シテ待ツモノナリ

二〇　浦鹽砲臺ノ日本艦隊ニ對スル態度（其二）

（一九〇四年三月十一日發刊「ジャパン、デーリー、メール」所載）

在上海露國領事ノ發電ニ據レハ浦塩斯德ヲ攻撃セシ日本艦隊ハ六「ウエルスト」ノ距離ニ於テ砲火ヲ開ケリ榴彈ノ大半ハ爆發セス其ノ一彈ハ婦人一名ヲ斃シ新兵五名ヲ傷ツケタリ砲撃ハ四十分ニ彌レリ日本艦隊ハ其ノ翌朝再現レ而テ後チ引上ケタリ露國ノ諸砲臺並ニ諸艦ハ毫モ應戰セサリキ
一「ウエルスト」ハ一千一百七碼ナリ故ニ六「ウエルスト」ノ射程ハ四海里未滿ニ相當ス浦塩斯德ノ諸砲臺ハ少クトモ十吋砲ヲ裝備スルヤ必セリ而テ四海里ニ於テ十吋砲ノ砲火ハ巨害ヲ敵ニ加フルコトヲ得ヘシ八吋砲モ亦此ノ射程ニ於テハ眞ニ有效ナリ而テ「グロモボイ」「ロシーヤ」及ヒ「リユーリク」ハ各八吋砲四門ヲ裝備シ合計十二門アリ然ルニ何カ故ニ浦塩斯德ハ斯ノ如キ射程ニ於テ晏然トシテ己ヲ敵ノ砲撃ニ委セシカ又斯ノ如キ行爲ニ就キ揚々トシテ自ラ誇ルカ
惟フニ今回浦塩斯德ノ砲撃ノ擧ハ日本艦隊一支隊ノ日本海巡航ヨリ偶然起リシモノニシテ全ク副位的作戰目的タルニ過キス而テ其ノ司令長官上村中將ノ日本海ニ到リシ所以ハ一ハ露國巡洋艦ヲ搜索シ一ハ露艦ノポシエット灣及ヒ朝鮮海岸ニ出沒スルヲ防遏スルニ在リ又信スヘキ筋ヨリ出テタリト思ハルヽ一說ニ據レハ中將ハ砲撃後發電シ得ヘキ某地ニ赴キタリシモ敢テ之ヲ爲サヽリシハ已ノ行動ヲ以テ報告スルニ足ルノ値アリト思料セサリシニ由リテナルカ將又己ノ所在地ヲ隱蔽セント欲セシニ由リテナラン倫敦發電ニ據レハ砲撃ノ際露國巡洋艦隊ハ浦塩斯德ニ在ラサリシト云フ果シテ然ラハ今後日本海上一場ノ戰闘ヲ見ルニ至ラン
倫敦發電ハ浦鹽斯德砲臺ノ應砲セサル所以ニ就キ露國ノ辯疏ヲ報シテ曰ク砲臺自ラ其ノ位置ヲ洩スコトヲ好マサリシカ爲メナリト是吾人カ三月九日ノ紙上ニ於テ推察セシ所ナリ然ルニ日本ハ固ヨリ諸砲臺ノ位置ヲ知悉セルカ故ニ此ノ辯疏ハ理由薄弱ナリト謂ハサルヲ得ス縦令一歩ヲ讓リ之ヲ以テ眞ナリトスルモ斯ノ如キ思慮ハ敵艦數隻ヲ撃破シ若クハ轟沈スルノ利アルニ如カサルヘシ借問ス港灣ニ砲臺ヲ設クルハ抑何ノ爲メソ砲臺ハ自ラ隱匿スル爲メナルカ顧フニ是露人ヲ鼓舞スル精神ノ如何ナルモノナルカヲ窺知スルニ足ルヘキ一例ニシテ其ノ奇怪ナル固ヨリ言ヲ俟タス若シ夫清國戰略家ナランニハ或ハ此ノ如キ方略ヲ運ラスヘキコトアランカナレトモ武力強大ナル露國ノ砲臺ニシテ其ノ所在地ノ發見セラレンコトヲ畏レテ數隻ノ敵艦ニ應砲セサルニ至テハ其ノ戰闘伎倆ノ雋秀ナルニ驚歎セサラント欲スルモ豈得ヘケンヤ

二一　旅順口ニ對スル間接砲撃及ヒマカロフ中將ノ境遇（英國海軍大將フレマントル）

（一九〇四年三月十七日發刊「ネーヴアル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）

海軍大將フレマントルハ此ノ程「セントラル、ニユース」記者ノ質問ニ對シ日本艦隊旅順砲撃ノ目的及ヒ其ノ效果ニ關シ說キテ曰ク
日本艦隊ハ軍艦ノ力ヲ以テ旅順ノ守ヲ失ハシメント期スルモノヽ如シ又マカロフ中將カ時々其ノ艦隊ヲ港外ニ出スハ其ノ勢力ノ尚以テ守ルニ足ルモノアルヲ示スニ外ナラス露國艦隊ノ內港ニ密集スルハ其ノ不利益甚シト云フヘシ近頃日本艦隊ハ旅順港ヲ砲撃シタルカ此ノ砲撃ハ極テ遠距離ヨリ發射セラレタルニ拘ラス大ニ敵艦隊ノ士氣ヲ沮喪セシメタルナランマカロフ中將ハ示威運動以上ノ活動ヲ爲スヘキ必要ニ迫ラレ居ルモノナレトモ艦隊ヲ提ケテ決戰ヲ試ムル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

コト難カルヘク敗殘ノ艦隊ハ此ノ擧ヲ敢テスルニ勢力餘リニ弱シ乃チ彼ハ今非常ニ不利益ナル境遇ニ在ルニモ拘ラス更ニ大々的ニ其ノ勢力ヲ顯示セサルヘカラサル境遇ニアルナリ日本艦隊ハ砲撃ニ次クニ砲撃ヲ以テシテ能ク旅順ヲ陷レ得ヘキヤ否ヤ余ハ之ヲ覺束ナシト思惟ス史ヲ閲スルニ砲撃ノミニ由テ斯カル金城鐵壁ヲ攻取シ得タル例アルヲ見ス然レハ若シ日本艦隊ニシテ砲撃ニ由テ旅順ノ守ヲ失ハシメンカ是實ニ戰術上ニ一新機軸ヲ出スモノナリト雖モ一八七〇年普佛戰爭ニ於ルストラスブルクノ砲撃ト云ヒ巴里ノ攻撃ト云ヒ何レモ市民ヲ震駭騒擾セシメタルニ止リ未タ之ヲ降スニ至ラサリシナリ又日本艦隊ハ砲臺ニ非常ナル損害ヲ與ヘ得ヘシトモ思ハレス近距離砲撃ヲ以テスレハ或ハ之ヲ壞滅シ得ルノ望ナキニシモアラサレトモ遠距離砲撃ヲ以テ旅順ノ如キ堅塞ヲ壞滅セントスルハ蓋成シ難キノ業ナルヘシ」

日本艦隊ノ操縦ノ妙ナル眞ニ歎賞スルニ堪ヘタリ其ノ艦隊及ヒ其ノ支隊ニハ適宜ニ水雷艇ノ分附セラルヽアルカ故ニ敵ノ奇襲ヲ受クル虞アラス其ノ編制モ亦宜シキニ適ヒ巡洋艦ハ水雷艇ヲ掩護シ水雷艇ハ軍艦ヲ守禦シ未タ曾テ機宜ヲ失セルコトナク巡洋艦ト云ヒ水雷艇ト云ヒ何レモ必要ノ時機ニ必要ノ場所ニ現レサルコトアラサルナリ

マカロフ中將ハ孜々トシテ士氣ヲ興奮セシメンコトヲ勗ム其ノ武勇ヤ威スヘク其ノ忍耐ヤ賞スヘシ彼ハ海軍兵法家トシテ世界有數ノ士ナリ然レトモ彼ハ理論家タルト同時ニ能ク實際家タルヤ否ヤ是今將ニ試驗セラレントスル問題ナリ彼ノ任務ヤ極テ困難ナリ余ハ彼カ此ノ難局ニ處シテ一生面ヲ開キ得ヘシト信セス彼ハ有力ナル艦隊ヲ得ルニ非サレハ到底敗勢ヲ挽回スル能ハス大廈ノ將ニ覆ラントスル一木ノ能ク支フル所ニ非サルナリ人或ハ彼ノ境遇ヲ以テ南阿ニ於ルロバート、キチネル兩將軍ニ擬ス當ラスト謂フヘシ蓋兩將軍ノ南阿ニ戰フヤ精兵鋭卒陸續來援シタルニ反シ彼ハ一艦一艇ノ援ヲ得ルコト能ハサレハナリ若シ彼ニシテ開戰ノ當時旅順ニ在リタランカ或ハ露國海軍ノ面目ヲ保持シ得タルナラン然レトモ今ヤ既ニ晩ク日本艦隊ノ大々的失策ヲナスニアラサルヨリハ彼ハ遂ニ何等ノ施スヘキ策ヲ有セサルナリ而テ日本艦隊豈爾ク大ナル失策ヲ敢テスルモノナランヤ

二三　旅順艦隊ノ實況今果シテ如何（軍事批評家）（一九〇四年三月十九日發刊「タイムス」所載）

日本ハ二月九日後續々旅順艦隊ニ大打撃ヲ加ヘタルカ其ノ後ハ久シク双方共較無爲ニ經過セシカ爲メ露國新聞モ自ラ其ノ論調ヲ變シ戰局形勢モ亦幾分カ以前ノ如キ活氣ヲ呈セサルニ至レリ然レトモ所謂日本ノ無爲ハ畢竟表面ニ現レシ現象ノミ日本ハ露國艦隊ニ對シ攻撃ヲ加ヘサル間韓國ニ於ル自國ノ地盤ヲ堅メ其ノ陣地ヲ北方遠ク安州ニ進メタリ餘寒未タ去ラス加フルニ天候久シク不良ナリシハ日本運送船隊ノ出帆ヲ遲延セシメタレトモ近報ニ由レハ何レモ氷ノ融ケ初メタルヲ云ハサルナクレハ遼東海灣北部ノ諸港ハ本月二十八日頃迄ニハ開航ヲ許スノ期トナルナラン

日本カ其ノ主力ヲ以テ此ノ方面ニ打撃ヲ加フルトセンカ時候ト天候ノ狀態ハ頗ル之ニ影響ヲ及スモノト見ルモ而モ日本カ決勝的行動ニ出ツルノ機迫レリトノ報ハ諸方ヨリ來レリ此ノ時ニ當リテ露國艦隊實際ノ威嚇力果シテ如何ト云フニ今ヤ旅順口内ノ實狀ハ巧ニ韜マシタルヲ以テ吾人ハ漠然タル推察ヲ下スノ外アラス東郷中將ハ三月十日ノ戰況報告中ニ確言シテ曰ク分遣艦隊中ノ一艦ハ二月二十五日鳩灣ニ於テ我カ砲火ニ依テ擊沈シタル驅逐艦「ウヌシーテリヌイ」ノ殘骸ヲ發見シタリト然レトモ二月二十六日附絕東太守アレキセイエフノ報告ニハ同艦ハ遠距離ヨリ射撃セラレタレトモ無事ニ遁逃シタリトアリテ擊沈セラレタリトハ言ハス又同太守ノ三月十一日附奉天發電ニハ十日ノ砲撃ニ依リテ受ケタル我カ艦ノ損傷ハ輕微ナリトアリ然レトモ日本艦隊ハ此ノ日四時間ノ久シキ冷靜沈著ニ砲撃ヲ行ヒタレハ其ノ結果ハ太守ノ謂ヘル如キモノト思ハレス太守カ事情上其ノ損害ノ程度ヲ秘スル固ヨリ不可ナシ唯吾人ハ露國敗餘ノ艦隊カ海上ニ於テ今尚若干ノ威嚇力ヲ有スルヤヲ計量スルニ最早其ノ最信スヘキ筋ヨリ出テタル報ナリト云フモノヲ信セスシテ各方面ヨリ漏聞スル消息ノ斷片ヲ集メ之ヲ戰局全般ノ明白ナル事實ニ照ラシテ自ラ之カ判斷ヲ下スノ外アルナシ聞クカ如クンハ三月十六日マテノ計算ニテハ旅順艦隊中九隻若クハ十隻ハ被害艦若クハ廢艦トナリ其ノ内二隻ハ一等戰艦ナリ外ニ四隻ハ故障ヲ生シ内二隻ハ其ノ後修理成レリト云フ「ポルターワ」果シテ戰闘ニ堪フルヤ否ヤ頗ル疑フヘシト雖モ假ニ之ヲ其ノ役務ニ就キ得ルモノトシテ計算セハ露國ハ尚五隻ノ戰艦ト三隻又ハ四隻ノ巡洋艦二隻ノ砲艦及ヒ使用ニ堪フヘキ十二隻

許ノ驅逐艦ヲ有スヘシ此ノ敗殘艦隊ハ健全無疵ノ日本海軍ト茫洋ニ對戰シテ其ノ成功ヲ期スヘカラサルヤ明ニシテ露國海軍將校下士卒ノ士氣及ヒ自信力モ亦今ヤ六週日間ノ戰況ニ依リテ甚シク沮喪シタルコトヲ知ルニ難カラス

「ワリヤーグ」「ポヤーリン」「ストレグーシチー」ニ「スコールイ」ノ喪失ハ露國海軍々人ノ士氣ヲ損スル一大打撃タリ加之堅鋭ナル軍艦カ數回ノ戰鬪ニ於テ受ケタル損害モ亦頗ル彼等ノ膽ヲ寒カラシメシナラン其ノ水雷ヲ受ケタル軍艦ニシテ自國ノ海岸ニ乘セ上クルノ便ヲ有セサリシ以上ハ三隻トモ全乘組員ノ大半ヲ損失シタルナルヘシト想像スルハ當然ニシテ此ハ露國兵員ノ能ク察知シ得ル所ナルヘシ之ニモ倍シテ士氣ヲ殺キタルハ日本砲彈ノ破壞力猛烈ニシテ露國軍艦及ヒ砲臺ノ砲彈遠ク之ニ及ハサルノ事實歷々彼等ノ眼前ニ證明サレタルニアリ日本艦隊ノ大損害ニ關スル誇張ノ戰報ハ常ニ露國兵員ノ間ニハ喧傳セラルヽモ將校ハ是等ノ樂觀的報道ニ欺カレス敵ノ未タ一艦タモ失ハサルヲ知レルナルヘシ剩ヘ露國艦隊ハ武勇ト決心トヲ缺キ其ノ港外ニ出動スルヤ敵之ヲ邀撃スレハ之ニ耐ヘスシテ匆忙遁逃シ敵ノ追窮スル所トナリ損害モ亦其ノ都度之ニ伴フヲ例トセリ是等ノ事情ヲ考慮セハ露國ノ戰報ハ容易ニ信スヘカラス東郷中將ニシテ余ハ斷シテ旅順艦隊ヲシテ日本兵ノ揚陸事業ヲ妨害セシメサルヘシト云ハヽ其ノ言ヤ必ス信スヘキモノアラン何トナレハ東郷中將ハ吾人ヨリモ旅順港内ノ實狀ニ通曉スルモノナルヲ以テ中將ノ報告ハ據リテ以テ露國艦隊ノ劣弱ヲ認ムルニ足レハナリ

二三　旅順口第二回閉塞事業（通信員C、B）

（一九〇四年三月二十八日發刊「デーリー、テレグラフ」所載）

日本ノ旅順港口第二回閉塞事業ハ或ハ次テ來ルヘキ陸兵運送事業ニ連接スルモノト思ハル今回ノ擧タルヤ露國人カ一旦閉塞事業ニ對シテ排除行爲ヲ示シタル以上ハ其ノ行爲ノ展開ヲ防クカ爲メ更ニ閉塞ヲ必要トセシニ出ツ假令東郷中將ハ大ニ自ラ艦隊ヲ指揮シテ直ニ雌雄ヲ決スルヲ好ムト雖モ亦此ノ戰爭ニ於テ常ニ一毫モ敵勢ヲ增强セサルヲ以テ念トセリ此ノ秋ニ當リ婆羅的海ヨリ來ルヘキ艦隊ハ戰場ニ現レテ日本艦隊ヲ威嚇スヘク而テ露人ハ其ノ新艦ノ乘員ニハ他ノ諸國ヨリモ又自國ノ舊艦ヨリモ一層熟練ノ人物ヲ用ヒ且其ノ工事ハ日夜間斷ナク促進シ居レリ其ノ結果トシテ余ハ今日從來ノ所見ヲ改メ且早秋ニハ戰艦「アリヨール」ノ一隻モ出航準備或ハ整フモノトシテ增遣艦隊「ボロヂノ」「インペラートル、アレクサンドル」三世及ヒ「クニヤージ、スウオーロフ」ノ諸艦ニ追加セサルヘカラス若シ東郷中將カ單ニ旅順ヲ封鎖シ且日本軍隊カ九月以前ニ之ヲ陷落スルトセハ中將ハ婆羅的ノ增派艦隊ヲ擊破スルニ何ノ難キコトカ之アラン其ノ時ニハ旅順ノ露國艦隊モ終ニ日本海軍ノ手ニ歸スヘシ今回ノ旅順港口閉塞事業ノ更ニ失敗ヲ重ネタルモ其ノ計畫ニ就テハ毫モ責ムル所ナシ其ノ前回ニ比シテ一層困難ナルコトハ疑ヲ容レサル所ニシテ是全ク露人カ前回ニ比シテ更ニ警戒ヲ加ヘタルト其ノ經驗ニ因テ學フ所アリシトニ由ル今回露人ハ其ノ艦船ヲ以テ敵ノ艦船ニ當リ其ノ驅逐艦「シーリヌイ」ヲ以テ全ク敵ノ事業ヲ蹉跌セシメ先ツ其ノ目的物タル敵ノ先頭船ノ來ルヲ圖リテ巧ニ之ニ水雷ヲ發射セリ余ハ日本ノ失敗ヲ以テ其ノ計畫上餘リ儉約ヲ爲シタルニ歸セント欲ス閉塞ノ事業ハ特ニ迅速ニ行ハサルヘカラス且從テ高速力ヲ出シ得ヘキ新式ノ汽船ト共ニ全ク其ノ汽船ノ機關ニ慣レタル機關部員ヲ用ヒサルヘカラス若シ最初日本人ニシテ旅順口ヲ閉塞シ得タラシニハ其ノ後ハ總テ船舶ヲ運送ニ用フルヲ得タリシナラン第二回閉塞ノ時ニテモ十八海里ノ速力ヲ有スル最新郵船三隻ヲ使用スル亦職シトセサルナリマカロフ中將ノ公報中ノ一節ニ疑フヘキモノアリ曰ク「シーリヌイ」艦長クリニズキー大尉ハ敵艦ノ砲火ヲ冒シ突進シ來ランコトヲ恐レ進ンテ敵ヲ攻撃シテ敵ノ先頭船ノ船首ヲ破壞ス是ニ因テ同船ハ右方ニ轉回シ後續船二隻之ニ隨ヒ結局三隻ノ汽船ハ港口ノ右岸ニ擱岸シ第四船ハ其ノ右方ニ進ミテ航路ノ外側ニ沈沒セリト其ノ先頭船カ水雷ノ發射ヲ受ケテ右方ニ轉回シタルニ他ノ汽船ハ何故ニ前續船ノ通跡ヲ追ヒタルヤ實ニ此ノ事業タルヤ專ラ一隻ノ汽船ノミヲ以テ爲シ得ヘキモノニ非サレハ第二及ヒ第三ノ汽船カ第一汽船ノ行動ニ倣フカ如キ行動ヲ取ルコトハ有ルマシキ筈ナル日本人カ右ニ謂フ所ノ如キ擧ニ出テタリトハ甚タ訝シキナリ

東洋ヨリ聖彼得堡ニ達シタル通信ニ依レハ當時鎭南浦ニハ四隻以上ノ軍艦及ヒ運送船アリト此ノ時コソ實ニ露國水雷艇ニ取リテ旅順攻擊ニ報復スヘキ好機會ナリシナルヘシ此ノ時迄ハ日本艦船ハ未タ何處ニ投錨碇泊スヘキカ其ノ確報ナク

又此ノ季節ニハ韓國海岸ニ濃霧多ク日本運送船及ヒ艦隊ノ行動ハ之カ爲メニ惱マサレタリ然レハ此ノ時コソ露國ノ乘スヘキ機ニアラスヤ既ニ劣勢トナレル海軍國ハ假令其ノ水雷艇ヲ利用スルニ大困難ヲ免レスト雖モ運送船等ヲ掩護スルノ煩ナキカ故ニ日夜自由ニ遊弋スルヲ得ルノ便宜アルニ引替ヘ日本ハ之ト同樣ノ自由ヲ以テ行動スル能ハサリシナランソ今若シ日本人ノ如キ勇敢ナル者ノ手ヲ以テ露國水雷艇ヲ操縱セシナランニハ濃霧及ヒ夜陰ニ乘シテ其ノ影ヲ韜マシ著シキ成功ヲ現シタルナランソ韓國海岸ニハ水雷艇ノ隱レテ働クヘキ場所甚タ多ク又若シ水雷艇ニシテ其ノ甲板ニ煉炭ヲ積マハ補充ノ爲メ旅順ニ急キ歸ルノ必要モナカルヘシ是素ヨリ冒險ノ策タルヲ免レスト雖モ之ヲ措テ取ラサレハ劣勢海軍國ハ終ニ戰勢ヲ挽回スルノ期ナカルヘシ今露國ノ爲メニ計ルニ旅順ニ在テ係蹄ニ罹リシ鼠ノ如ク徒ラニ捕ヘラレンヨリハ寧ロ潔ク出戰シテ勝敗ヲ一擧ニ決スルノ快ナルニ如カサルナリ

二四　日本カ旅順口陷落ヲ急ク理由（チャーレス、グリーグ）

（一九〇四年三月三十一日「ネーヴァル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）

今茲ニ旅順口ノ運命ヲ以テ非常ニ重大ナリトナスノ理由ヲ考究スルハ興味アル事ナリ兵戰ノ原則ニ暗キ實業家ハ旅順口ノ陷落カ何故ニ日本ニ取リテ重要ナルヤヲ正確ニ理解スルハ恐ラク困難ナルヘシ或ハ説ヲナシテ曰ク日本人ハ或感情ヨリシテ旅順口征服ニ力ヲ盡スナリト剛毅ナル日本人ハ露西亞佛蘭西及ヒ獨逸三國ノ干渉ニ因テ十年以前ニ旅順ヲ讓リタル汚辱（若シ之ヲ汚辱ト言ヒ得ルナラハ）ヲ拭フヲ望ムト言フモノアリ然レトモ旅順口征服ハ感情ノ目的ニアラスシテ日本ニ取リテハ殆ト戰略上ノ必要ニ出ツルモノナリ

吾人ノ見ルカ如ク旅順口ハ日本艦隊及ヒ水雷艇隊ニ因テ既ニ數次ノ攻撃ヲ受ケタリ港口閉塞ノ勇敢ナル計畫ハ茲ニ遂行セラレ假令高價ナル軍艦ハ遠距離射撃ニ因テ往々危キヲ冒スコトアリト雖モ東郷中將ハ旅順要塞ニ向テ此ノ射撃ヲナセリ此等ノ攻撃ハ尚繰返サルヘク且今ヤ强勢ナル日本陸軍カ要塞征服ノ爲メニ其ノ艦隊ニ應援スルハ明ナリ鐵道ハ破壞セラルヘク又既ニ切斷セラレシナランソ合圍ハ或ハ始リシナルヘク且要塞ハ多分饑餓ノ爲メニ陷落セラレシナランソ日本人ハ何故ニ旅順口ニ此ノ强烈ナル勢力集中ヲナスヤ

今旅順口ニ於ル露國守備兵ノ勢力ハ精確ニ知ラスト雖モ其ノ守勢ハ陸戰ヲ作スニ足ラス其ノ守備兵トシテ二萬ノ軍隊アリトスルモ之ヲ露國ノ滿洲野戰軍及ヒ西伯利鐵道輸送中ノ軍隊ニ比スレハ甚タ少數ニシテ其ノ勢力知ルヘキノミ陸軍ハ此ノ隔絶セル守備兵ノ降服ニ因テ深ク影響ヲ蒙ラサルヤ必セリ何トナレハ若シ西伯利鐵道ニシテ運輸ヲ逞ウセハ露國ハ戰地ニ四十萬ノ大軍ヲ集中シ得ヘケレハナリ然レトモ此ノ隔絶セル要塞ノ征服ハ日本ニ取テハ最大緊急ナリトス其ノ理由ハ旅順港内ニハ尚水雷攻撃ヲ免レタル五隻ノ露國軍艦ト少數ノ新式巡洋艦ノ現存スルニ在リ

露國ハ目下婆羅的ニ於テ新式戰艦四隻並ニ舊式戰艦一隻及ヒ快速力ノ驅逐隊ヨリ成ル艦隊艤裝中ナルカ其ノ聲明スル所ニ依レハ此ノ艦隊ハ六月ヲ以テ發航シ八月ニハ絶東ニ達スルヲ得ヘシト又現ニ紅海ニアルウイレニアス艦隊ハ新設艦隊ニ合スル爲メ婆羅的海ニ回航ヲ命セラレタリ然レハ此ノ多少制式ヲ異ニセル戰艦ヨリ成ルモ勢力ニ於テ優大ナル艦隊ハ六七月頃ニハ東航準備ヲナスヘシ故ニ若シ旅順口ニシテ六ケ月間固守スルヲ得ルカ又ハ婆羅的艦隊カ其ノ炭庫ニ石炭ヲ充實シテ東洋ニ達シ得ルトセハ日本ハ海軍敗績ノ恐アリ

既往十五年間英國及ヒ外國艦隊ハ平時演習ヲ執行セリ斯カル演習ハ分離セル艦隊ノ相合スルト否トヲ以テ殆ト常ニ成敗ノ分ルヽ所トセリ若シ露國ニシテ豫定ノ通リ婆羅的艦隊ヲ派スルヲ得ハ東郷中將ノ任ハ同艦隊ヲ旅順艦隊ニ合セシメサルニアリ日本ノ全海軍ハ實力噸數火薬等ニ於テ婆羅的艦隊ニ比シ大ニ優ル所ナシ今若シ露國カ旅順口附近ニ於テ其ノ艦隊ヲ合シ得タリトセンカ其ノ聯合ハ露國ヲシテ戰艦三隻及ヒ裝甲巡洋艦三、四隻ヲ有セシメ以テ夫ノ勢力小ナレトモ效力大ナル日本海軍ニ拮抗セシムルコトヽ爲ルヘシ

世ニハ種々ノ理由ヨリ推シテ露國二艦隊聯合ノ不成立ヲ豫言スル者アリト雖モ若シ其ノ聯合ニシテ成立セハ日本海軍ハ敗北スヘク其ノ陸軍ハ本國ヨリ遮斷セラレ露國ハ最後ノ勝利ヲ得ヘシ絶東ノ海上武力ハ日本ニ取リテ死活ノ分岐スル所

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ナリ那破翁ハ埃及ニ其ノ陸軍ヲ上陸セシメシトキ海上武力ノ教訓ヲ知ラス其ノ軍隊ハ埃及ヲ蹂躙セシモナイル敗戰ノ爲メニ其ノ本國ニ歸ルヲ妨ケラレタリ今日ニアリテ海上武力ノ教訓ハ一般ノ知ル所トナレリ是故ニ日本ノ決心ハ旅順ヲ陷落スル一刻モ其ノ機ヲ失ハサルニ在リ

余ハ此ノ戰局ヲ察スルニ到底幸運ハ露國艦隊ノ聯合ヲ迎ヘスト斷言シテ憚ラス海軍社會ニ於ル一般ノ意見モ亦斯ノ如シ旅順口ノ防守ニシテ久シキニ堪フレハ其ノ艦隊ノ擁護ヲ繼續スヘシト雖モ若シ其ノ要塞カ八月以前ニ陷落セハ港内ノ艦隊ハ或ハ降伏スルカ或ハサンチヤゴ海戰ニ於ル西班牙巡洋艦ト同一ノ運命ニ陷ルヘシ故ニ旅順艦隊司令長官ハ最後ニ出戰センコト疑ナシト雖モ其ノ艦隊ハ日本艦隊ニ及フヘクモアラス而テ其ノ敗績ハ何人モ明ニ豫言シ得ル所ナリ假令旅順艦隊ハ敗餘ノモノタルモ日本艦隊之ト戰ハヽ爲メニ多少ノ損害ヲ蒙ルヘシ若シ此ノ時ニ當リ波羅的艦隊漸ク東航シ黃海附近ニ達シ得ヘシトセハ戰局ハ日本ニ取リ容易ナラサルモノアリ

然レトモ波羅的艦隊カ如何ニ其ノ炭庫ニ石炭ヲ貯藏シテ黃海ニ達スルヲ得ヘキヤハ大ナル疑問ナリ若シ途中ノ中立港ニ於テ國際法ヲ嚴守スルトキハ艦隊ハ一ニ自己ノ給炭船ヲ待タサルヘカラス且航海中ノ載炭ハ屢出來得ヘカラサルコトアリ露國ハ紅海及ヒ絕東洋間ニ一ノ貯炭所ヲ有セサルカ故ニ波羅的艦隊司令長官ハ石炭補充ヲ畫策スヘキハ明白ナリ然ラサレハ同艦隊ノ急派ハ全ク無用ナルヘシ旅順ノ堅守久シキニ亙レハ日本艦隊ハ之ニ懸念シ永ク其ノ附近ヲ去ラサルヘシト雖モ一旦要塞陷落シ旅順艦隊降服シ若クハ挫碎セハ東鄉中將ハ波羅的艦隊ニ向テ其ノ全力ヲ注クヲ得ヘシ是吾人カ日本ノ旅順口ニ對スル作戰ヲ重要視スル所以ナリ何トナレハ將來日本カ制海力ヲ獲取スルト否トハ一ニ旅順要塞ノ存否ニ關スルカ故ニ旅順陷落ハ日本ニ取リテ必要缺クヘカラサルナリ

二五　旅順港外海戰ニ於ル戰艦ノ効力（通信員C、B）

（一九〇四年四月十八日發刊）
（「デーリー、グラフイック」所載）

二月九日以來ノ日露海戰ニ於テハ日本戰艦ハ未タ著シク直接ノ效力ヲ發揮セス驅逐艦水雷艇及ヒ敷設水雷獨リ其ノ用ヲ專ニシタリト雖モ然モ日本ニ強大ナル戰艦々隊ノ後援アルニアラサレハ到底終局ノ勝利ヲ保スヘカラス若シ之ナカリセハ波羅的艦隊愈々絕東ニ赴援スルトキ如何ソ之ニ應スルヲ得ンヤ

英國海軍中將ピー、エッチ、コロムハ一八九五年四月發刊ノ北米評論ニ「海戰ニ於ル魚雷ノ將來」ナル論ヲ揭ケ戰艦賴ムヘカラサルヲ稱道セリト雖モ若シ中將ニシテ這回ノ海戰ヲ實見シタル後チ之ヲ草シタランニハ全ク其ノ論旨ヲ異ニスルヤ必セリ三年ノ評議モ終ニ一日ノ實見ニ如カストハ夫之ヲ謂フカ余ハ此ノ論ヲ讀ミタルトキ我カ海軍ノ爲メニ憂慮措ク能ハサリキ當時我カ海軍ハ恰モ戰艦七隻ノ建造ニ著手セシトキコロム中將ノ如キ海軍兵家ノ泰斗ヲ以テ目セラルヽ人ノ口ヨリ「戰艦ノ末期迫レリ全盛ハ衰微ノ第一歩ニ非スヤ」ノ言ヲ聞ク聽者憂心忡々タラサラント欲スルモ豈得ヘケンヤ中將ハ一八九七年ニモ英國海陸軍聯合協會ニ於テ戰艦ヲ建造スルノ不利ナルヲ論シテ曰ク「戰艦一隻ノ製造費ハ以テ能ク驅逐艦二十五隻ヲ造ルニ足レリ驅逐艦二十五隻ニテ戰艦一隻ヲ攻擊セハ戰艦何ソ免ルヽヲ得ンヤ」トコロム中將ノ此ノ立案ハ專ラ軍艦ノ製造費ノミニ着目シ他ニ軍艦ニ要スル所ノ經費ヲ顧ミサルモノヽ如シ成程軍艦ニ要スル所ノ經費ハ其ノ製造費之カ主目タルニ相違ナシト雖モ之ニ年一年價格ノ減却スル割合、乘員及ヒ需品ノ費用其ノ他維持費等ヲ算入シテ得タル一年ノ平均費額ニ據ルニ非スンハ確實ナル比較ヲ爲スコト能ハサルナリ又戰艦一隻ノ製造費ヲ以テセハ驅逐艦二十五隻ヲ造リ得ヘシト言フト雖モ二十五隻ヲ絕エス就役セシムルコト能ハス然ラハ其ノ內幾隻カ戰時在役艦タルヲ得ヘキヤハ實際ノ經驗ニ因ルニ非スンハ斷言スルコトヲ得スト雖モ恐ラクハ多クモ十二隻ニ過キサルヘク兎ニ角中將ノ所謂「一隻ノ戰艦豈二十五隻ノ驅逐艦ニ敵センヤ」トノ主張ハ到底貫クヘカラサルナリ加之中將ハ驅逐艦カ戰艦ノ掩護ヲ待テ其ノ破壞力ヲ逞ウスル場合多キヲ看過セシヨリ海軍少將エッチ、ジェー、メー氏ハ驅逐艦ハ戰艦ヲ助クルコトヲ得ヘキ場合ナキニハアラサルモ戰艦ノ爲メニ助ケラルヽ場合多キヲ擧示シテ之ニ注意ヲ促シタリコロム中將曰ク「戰艦ニシテ敵ノ戰艦ニ出會スルヲ目的トセサルニ於テハ之ヲ出動セシムル必要果シテ那邊ニ在ルヤ」ト然ルニ這回ノ海戰ハ此ノ問ニ對シテ遺憾ナク答辯ヲ與ヘタリ日本戰艦ハ巡洋艦及ヒ驅逐艦水雷艇ノ移動根據地タルト同樣ノ任務ヲ以テ出動ス畢竟露國

戰艦ノ遠ク旅順口外ニ出テサリシ所以ノモノハ敢テ日本驅逐艦及ヒ水雷艇ヲ恐レシニ非ス其ノ戰艦ヲ恐レタレハナリ露國戰艦旅順港外ニ出動セサレハ其ノ驅逐艦及ヒ水雷艇ハ旅順口ヲ根據トスルノ外ナキヲ以テ日本ノ水雷艇ノ如キ戰艦ノ掩護ヲ缺キ夜陰ヲ以テ唯一ノ掩護トス其ノ戰機ヲ捉フル能ハサル固ヨリ其ノ所ナリト謂フヘシ若シ夫日露地ヲ異ニシ露國ニシテ優勢ナル戰艦々隊ヲ有シ而テ其ノ他ノ事情全ク同一ナランカ旅順ノ海上交通ヲ保タン爲メ爭テカ日本艦隊ト戰ヲ交ヘサルコトアランヤ之ニ反シテ露國假令驅逐艦ニ於テ優勢ナリトモ如何ソ之ヲ利用スルヲ得ンヤ以テ健全ナル艦隊ニ戰艦ノ缺クヘカラサルコトノ明ナルヲ知ルヘシ聞クマカロフ中將ハ新戰艦五隻、老戰艦三隻ヨリ成ル增遣艦隊ノ到着スルニ先ンシテ日本主戰艦隊ノ勢力ヲ殺キ其ノ來援ニ依テ勝ヲ制セント經營慘憺タリシト云フ以テ戰艦ハ海軍力ノ骨子ナルコトヲ知ルニ足ルヘシ世ニ裝甲巡洋艦ヲ推スモノアレトモ其ノ任務ハ戰艦ノ耳目タルニ在リ其ノ砲力、裝甲保護共ニ劣ルカ故ニ戰艦ト戰ヒテ勝ヲ制スルコト難シ通常ハ已ト同種ノ軍艦ヲ敵トシ已ムヲ得サル場合ニ劣勢ノ戰艦ニ當ルニ過キサルナリ

二六　戰艦「ペトロパウロウスク」ノ爆沈ニ就テ（通信員C、B）

（一九〇四年四月十八日發刊「デーリー、グラフイツク」所載）

戰艦「セワストーポリ」カ四月十二日ニマカロフ中將麾下ノ不運ナル艦隊ト共ニ出港セサリシハ大ニ注目スヘキ點ニシテ此ノ事實タルヤ偶同艦カ他艦ト衝突シタリシトノ報道ヲ確實ナラシメタルモノト謂フヘシ戰時斯ノ如キ災厄ニ罹リ味方ノ戰闘力ヲ減殺スルノ一大失策ハ之カ原因ヲ職トシテ訓練ノ缺乏ニ歸セサルヘカラス熟々我カ英國及ヒ他列强ノ海軍ニ於ル軍艦衝突ノ場合ヲ考フルニ十中ノ八九ハ指揮官タル將校カ新參ナルカ若クハ其ノ艦ノ就役後間モナキカ二者其ノ一ニ在ルコトヲ發見スヘシ露國海軍ニ於ル這回ノ椿事ハ畢竟其ノ海軍ノ組織カ一年僅ニ四箇月ノ訓練ヲ爲スニ止リ實地ニ艦隊演習ヲ行ハサル直接ノ結果タルニ外ナラスマカロフ中將カ此ノ弱點ニ對シテ憂心忡々タリシハ固ヨリ其ノ所ナリトス若シ夫マカロフ中將ニシテ東郷中將ノ其ノ部下ヲ信頼スル如ク麾下將校ニ對シテ滿腔ノ信任ヲ置キタランニハ焉ソ夜間親シク哨艦（驅逐艦？）ニ坐乘スルノ理由アランヤ吾人ハ未タ曾テ東郷中將カ躬親ラ下級將校ノ職務ヲ執ル爲メ其ノ乘艦ヲ去レルコトヲ聞カサルナリ試ニ四月十一日夜ニ於ル旅順口第七次攻擊ヲ見ヨ萬般ノ動作一モ間然スル所ナキニアラスヤ一隻ノ臨時水雷敷設船ハ敵ノ驅逐艦ニ備フル爲メ驅逐隊掩護ノ下ニ陰雲暗雨ニ乘シテ旅順口外ニ航進シ機械水雷ヲ沈置セシカ偶大雨ナリシヲ以テ探海燈モ同船ノ運動ヲ發見スルニ由ナカリキ該船ハマカロフ中將カ每次港内ニ歸航ノ際必ス通過シタル航路ニ注意シ十分其ノ位置ヲ測リテ水雷ヲ沈メタリ勿論此ノ事業ニ從ヒタル兵員ノ危險ハ實ニ名狀スヘカラサルモノアリシト雖モ之ヲ日本艦隊ノ消長ニ比較スレハ其ノ輕重殆ト言フニ足ラサルナリ「ペトロパウロウスク」ノ爆沈シ又「ポベーダ」ノ戰闘力ヲ喪失セシニ拘ラス日本海軍大臣ハ東郷司令長官ニ對シテ麾下ノ貴重ナル裝甲艦ハ未タ其ノ任務ヲ完了セサルヲ以テ尙一層ノ注意ヲ加フヘキ旨ヲ訓示シタリ是露國カ婆羅的ニ增援艦隊ヲ有シ且旅順港内ニモ尙一艦隊ヲ存スルカ故ナリ此ノ時マカロフ中將ハ巡洋艦「パヤーン」「アスコリド」「ヂイヤーナ」及ヒ「ノーウヰク」ヲ統率シテ出動セシカ此ノ場合港内ニアル老汽船中ノ一隻ヲ以テ港口附近ノ先導船タラシムルハ當然ノ措置ナルニ中將ノ策此ニ出テサリシハ實ニ千秋ノ恨事ト云ハサルヘカラス而テ其ノ先頭船ハ船首部内兩側ヨリ梁材ヲ張出シ以テ三十呎以内ニ在ル機械水雷ヲ爆發シ得ルカ如クスヘシ一隻ノ老汽船及ヒ一人ノ下級士官ヲ失フハ堂々タル戰艦及ヒ著名ナル司令長官ヲ亡スト孰レソヤ要スルニマカロフ中將ハ大ニ味方ノ機械水雷ヲ危惧スルノ理由アルヲ以テ連日水道ノ掃海ヲ試ムルハ必スシモ無用ノ戒心ニアラサリシナリ當時露軍ノ損失ハ單ニ以上記スル所ニ止ラス驅逐艦「ストラーシヌイ」モ亦單獨航行ノ際日本驅逐隊ノ發見スル所ト爲リテ擊沈セラレタリ

マカロフ中將ノ旗艦ハ日本ノ機械水雷一個右舷側ニ爆發シタル結果艦内ノ危險物爆發シ爲メニ火災起リ其ノ火焔導火トナリテ爆發ニ次クニ爆發ヲ以テシ忽チ沈沒シタルモノナルヤ疑ナキカ如シ元來「ペトロパウロウスク」ハ重量節約ノ爲メニ二重底ヲ備ヘタルカ如シ即チ我カ英國戰艦ノ如ク一艦ノ内ニ一艦ヲ重塡シタルカ如キ構造ニアラス斯カル戰艦ハ魚雷

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

及ヒ敷設水雷ノ破壞力ニ對シ其ノ抵抗力極テ微弱ナルヲ免レサルナリ

二七　「ペトロパウロウスク」ノ沈沒及ヒ露國海軍將校ノ無能（軍事批評家）

（一九〇四年四月十九日發刊「タイムス」所載）

日本聯合艦隊ノ四月十一日ヨリ十四日ニ至ルマテ旅順口外ニ於ル行動ノ公報ハ無線電信通信船海門號ニ在ル我カ特派員ノ詳報ニ依テ增補セラレタリ此ノ攻擊中十二日夜水雷敷設船蛟龍丸ニ依テ小田海軍中佐以下乘員ノ遂行シタル事業ハ本戰役中日本ニ其ノ名ヲ成サシメタル行動中最巧ナルモノナリトス港口十海里以內ノ處ニ機械水雷ヲ縱横ニ敷設スルノ任務ハ之ヲ全ウスルコト頗ル危險ナリ何トナレハ爆發藥ヲ滿載スル無裝甲船ヲ以テ露國探海燈ノ射光圈內ニ沈着ニ行動シ又其ノ船ヲ敵ノ驅逐艦及ヒ水雷艇ノ衝ニ暴露セサルヘカラサルヲ以テ成功ノ機會頗ル乏シケレハナリ然ルニ蛟龍丸ハ日本驅逐隊ノ勇敢ナル掩護ニ依リ完全ニ且巧妙ニ其ノ任務ヲ遂行セリ日本驅逐隊ハ今回モ亦敵ノ沈置水雷及ヒ砲彈ニ罹ラスシテ無事ニ牽制運動ヲ行ヘリ孰モ軍事上ニ於テ受命ノ任務ヲ果スノ大切ナルヲ思フ者ハ誰カ此ノ壯擧ヲ激賞セサルモノアランヤ

露國艦隊出動シ日本ノ水雷敷設面ヲ無事ニ航過シタルトキ之ヲ見タル日本ノ誘致艦隊ノ失望ハ察スルニ餘リアリシカ其ノ歸航中終ニ之カ陷穽ニ罹リ一大慘景ヲ現出スルニ至テハ其ノ滿足亦自ラ知ルヘシ吾人ハ未タ此ノ奇禍ニ關スル露國側ノ詳報ニ接セスト雖モ司令長官マカロフ中將ノ旗艦「ペトロパウロウスク」ノ爆發轟沈及ヒ戰艦「ポベーダ」ノ大損害ハ露國艦隊ニ恐慌ヲ惹起シ盡ク其ノ秩序ヲ紊シ周圍ノ海面ヲ亂射シテ倉皇港內ニ退却シ僅ニ此ノ上ノ災害ヲ免ルヽヲ得タルモノナルコトハ最早疑フヘカラサルモノヽ如シ日本カ巡洋艦隊ヲ以テ露國艦隊ヲ東南ノ方向約十五海里ニ誘致シ主力艦隊ヲ以テ之ヲ其ノ歸路ニ遮斷セントスルノ計畫殆ト成功セントスルニ際シ露國艦隊ハ遽然艦首ヲ轉シ港內ニ向ヒ背進セシヲ以テ之ヲ追窮シテ港前ニ壓迫セルトキ此ノ一大椿事ハ起レリ露國艦隊カ斯ク遽然歸航シタル所以ノモノ未タ之カ說明ヲ得ルニ至ラスト雖モ或ハ海正面高地ニ於ル露國ノ望樓早クモ日本主力艦隊ヲ濛氣中ニ瞥見シ之ヲ旗艦ニ通信シタルヲ以テナラシカ然レトモ日本カ今回ノ攻擊ニ於テ戰艦一隻ヲ亡シ又其ノ一隻ヲ廢艦タラシメタルハ開戰當夜ノ襲擊ニ於ル奇績ニ次クノ大功ナリトス尙後報ヲ得ルニ從テ日本ノ此ノ戰果ハ益〻重要視セラルヘシ

本戰役中海上ニ起レル一切ノ出來事ヲ通覽スルニ人ヲシテ夫ノ佛國政治家リシュリユーノ格言ノ中レルヲ思ハシムルニ足ルモノアリ彼曰ク不幸ト不謹愼トハ之ヲ論窮スレハ其ノ實同一點ニ歸着スヘキナリト今ヤ露國艦隊ニ於テ之ヲ見ル其ノ行動ハ活潑敢爲敏捷ナラサルヘカラサル時ニ當リテ優柔、姑息、靜止ノ態度ニ流レ警戒疑察ヲ要スヘキ機ニ際シテ危地ニ向ヒ妄進盲入セリ海軍ノ敗衄ハ武勇ト愛國心ニ乏シキカ爲メニアラスシテ外交上ノ失策ヨリ來セル第一ノ結果トセハ不幸ニシテ其ノ懲罰ハ當然其ノ責ニ任スヘキ者ノ頭上ニ落チスシテ實際戰局ニ當ル者ニ加ル是政策非ナレハ其ノ戰勢亦非ナリト云フノ語アル所以ナリ開戰前吾人ハ露國太平洋艦隊ノ危地ニ集泊スルヲ斷言セシカ聖彼得堡ノ官民ハ之ヲ顧ミス唯一ノ「ノーヴォエ、ウレーミヤ」カ時ニ吾人ノ論ニ對シ世ニハ幽靈ヲ描キテ我等ヲ恐怖セシメントスル論者アリト冷評セシノミ然ルニ今ハ實際絕東ニ於テ幽靈ナルモノ出現セリ此ノ幽靈ハ即チ無謀無功ノ戰爭ノ爲メニ犧牲トシテ既ニ其ノ命ヲ致シタル勇敢ナル露國海軍軍人ノ死シテ瞑セサル迷魂ナルヲ如何セン凡戰局ノ情勢ヲ咀嚼シ戰務ノ準備ヲ整ヘ作戰ヲ簡易ナラシムルハ即チ外交當局者ノ業ナリ故ニ初戰ハ武力ノ競爭試驗ニアラスシテ寧ロ兩交戰國政府及ヒ顯要職員ノ技倆試驗ナリトス然レトモ本戰役ニ於テハ露國ハ外交ノ失策ニ重ヌルニ海軍其ノ物ノ失策ヲ以テシ戰局ノ形勢ヲシテ更ニ一層ノ危險ニ陷ラシメタルモノト認メサルヘカラス巡洋艦「バヤーン」及ヒ「ノーウヰク」兩艦長ハ常ニ能ク其ノ任務ヲ遂行シ驅逐艦「シーリヌイ」艦長モ亦其ノ國ニ盡ス所尠カラス其ノ他ノ將校ニ至リテハ露國ヲシテ世界ノ海軍國ニ列セシムルニ足ルヘキ何等ノ武德ヲモ發揮シタルヲ見ス「ワリヤーグ」ノ行動ハ壯烈ナリ而モ之ヲ目シテ戰鬪ト稱スヘカラス同艦ハ快速力ヲ有スルノミナラス同艦長ハ仁川沖ノ情勢ヲ知リタル後空シク十二時間ノ夜陰ヲ經過シタリ然ルニ同艦ハ「コレーツ」「スンガリー」ノ二隻ノ乘組員ヲ收容シ此等二隻ヲ自爆自沈セシメ以テ出港逸脫スルノ擧ニ出テス徒ラニ曉天ヲ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

待チ僚艦ヲ伴ヒ出動シテ必ス其ノ破壞ヲ免ルヽ能ハサル途ヲ追ヘリ露國砲術ノ拙劣ナルハ軍艦ニ於テモ砲臺ニ於テモ均シク是迄幾度モ其ノ效力ヲ試ミタルニ關セス未タ敵ノ一艦ニタニ重大ナル損害ヲ與ヘタルコトアラス日本巡洋艦隊カ平然トシテ旅順口外近距離マテ近ツクハ即チ其ノ海正面要塞及ヒ沈置水雷ヲ恐レサルヨリ起ルモノヽ如シ今日マテ其ノ損害ヲ蒙ラサルヲ以テ之ヲ觀レハ其ノ之ヲ恐レサル固ヨリ其ノ所ナリ當時ニ於ル露國驅逐艦及ヒ哨艇ノ能力如何ヲ考フルニ此等小艦艇ノ從來蒙レル損害ハ數隻ニ止リ即チ旅順口ニハ尙十八隻ノ驅逐艦存在スル筈ナルヲ以テ十二日ノ夜小田海軍中佐カ港前一海里以內ノ處ニ來リテ而モ時間ヲ要スル行動ヲ試ムルヲ知ラハ忽チ出動シテ之ニ妨害ヲ加フヘキ筈ナルニ此等小艦艇ハ何レモ港內ニ蟄伏シテ此ノ無上ノ好機會ヲ逸シタル結果露國海軍ニ取リテ斯カル一大凶殃ヲ惹起スニ至レリ

二八　旅順口ニ對スル海陸軍聯合攻擊及ヒ婆羅的艦隊ニ就テ

(一九〇四年四月二十日發刊「デーリー、グラフイツク」所載)

本社員ハ此ノ程日本公使館附武官ヲ訪問シ該將校ノ頭腦靈敏ニシテ又海軍戰略ニ關スル原理原則ニ造詣スル所深キコトヲ知レリ初メ余ハ日本艦隊カ自國陸軍ノ爲メニ犧牲トナランコトヲ心竊ニ憂ヒシカ今此ノ日本將校ヨリ旅順口ニ對スル海陸軍ノ聯合攻擊ニ關スル說話ヲ聞キ益〻日本人カ英國海軍少將ダンダスノ覆轍ヲ蹈マンコトヲ恐ルヽニ至レリ按スルニダンダス少將ハ當時彼ト共ニ黑海ニ派遣セラレタル陸軍諸將ノ爲メニ其ノ行動ヲ掣肘セラレ我カ海軍ノ名聲ヲ犧牲トシ意ヲ枉ケテセバストーポルノ攻擊ニ向ヒタリ然レトモ當時幸ニ敵ニハ我カ艦隊ヲ阻遏シ得ヘキ程ノ海軍力ナカリシカ故ニダンダスハ麾下ノ諸艦ヲシテ危地ニ出入セシムルモ之カ爲メ敢テ全局ノ勝敗ヲ賭スルカ如キ虞ナカリシカ今ヤ東鄉中將ノ立場ハ大ニ之ト其ノ趣ヲ異ニシ中將カ充分ナラサル兵資ヲ利用シテ偉功ヲ奏セシハ中將ノ練達ト露國海軍將校ノ庸劣之ヲ然ラシメタルモノナルコトハ東鄉中將自身モ之ヲ認ムル所ナルヘシ惟フニネルソンモ亦佛國革命及ヒ那破翁時代ノ佛西兩國海軍將士ニ關シ之ト同一ノ感ヲ懷キシナルヘシ佛將ウイルニユーヴハトラフアルガーノ海戰ニ於テ佛西聯合艦隊ノ司令長官タリシカ嘗テ自白シテ曰ク「我等ハ歐洲ノ物笑ト爲レリ」ト當時其ノ統率セル聯合艦隊ノ孱弱ナリシコト以テ知ル可キナリ

今ヤ露國ハ婆羅的艦隊ノ新乘員ヲ訓練スルニ尙五ケ月餘ノ時日ヲ有ス故ニ若シ晩近列國カ海軍將校下士卒ヲ訓練スルカ如ク其ノ艦隊ノ將卒ヲ訓練シ絕エス外洋ニ於テ實地練習ヲ勵マシメ日夜(殊ニ夜間ヲ以テ)演習ヲ行ヒ鋭意艦砲射擊ヲ教ヘ乘員ヲシテ各自ノ分業ヲ熟知セシメハ極テ强銳ナル艦隊ヲ編制スルコトヲ得ヘシ加之此等新艦ヲ極東ニ派遣スル途上ノ時日モ尙八週間ノ餘裕アルヲ以テ之ヲ利用シテ益〻訓練スルコトヲ得ヘシ又露國海軍省ノ爲メニ謀ルニ同省ハ此ノ際艦隊ニシテ尙モ夜間作業ニ熟セハ晝間課程ノ如キハ左ノミ勞セスシテ成ルヘシトノ理ニ基キ危險ヲ冒シテ夜間作業ヲ行ハシムルコソ刻下ノ急務ナリト云ハサルヘカラス露國ハ尙旅順口ニ於テ一二ノ戰艦ヲ修理スルコトヲ得ヘシ現ニセバストーポルニ在ル「デーリー、グラフイツク」通信員ノ報スル所ニ據レハ目下黑海海鎭ヨリ船匠師及ヒ職工千五百人、婆羅的海軍工廠ヨリ二千人ヲ旅順口ニ派遣シタリ彼等ハ該地ニ於テ損傷艦ヲ修理スルノ外ニ驅逐艦建造ノ爲メニ使役セラルヘシト云フ

二九　旅順口第三回閉塞(軍事批評家)

(一九〇四年五月九日發刊「タイムス」所載)

吾人ハ今旅順口第三回閉塞事業ニ關シテ日本ヨリノ來報ニ接セリ東鄉中將ノ不撓ナル努力ハ遂ニ之ニ相當スル應酬ヲ得日本ノ八隻ノ老朽汽船(通計一萬七千噸)ノ內五隻以上ハ敵ノ沈置水雷陸岸砲臺乃至魚雷ヲ冒シテ港口ニ突進シ遂ニ其ノ豫定地點ニ到達スルヲ得タリト云ヒ而モ內二隻ハ防材ヲ破リ正中航路ニ進ミテ爆沈シ水雷艇ヨリ大ナル艦船ヲシテ最早旅順口ヲ出入スルコト能ハサルニ至ラシメタリト云フ是果シテ事實ナラハ目下大規模ヲ以テ進行中ナル日本ノ揚兵動作ハ益〻安全ニ行ハルヽナラン勇氣凜烈タル日本將校及ヒ水兵ノ閉塞行動タル實ニ是海軍戰史上超群ノ快擧ニシテ此ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

事ヲ以テスルモ日本ノ海軍ハ最良ナル海軍ニ伍スルニ足ルヘシ閉塞隊百五十九名ノ兵員中將校八名水兵三十六名ノミハ無事歸着シタレトモ其ノ他二十名ノ將校九十五名ノ下士卒ハ或ハ戰死シ或ハ負傷若クハ行衞不明トナレリ蓋其ノ行動ノ成功シタレハコソ其ノ歸還ヲ困難ナラシメタル所以ニシテ且天候不良ナリシカ爲メ水雷艇ヲシテ之ニ附隨セシメ以テ沈沒後ノ乘組員ヲ收容スル能ハサラシメタリ此等ノ損害タル誠ニ悲ムヘシト雖モ吾人ハ斯ノ如ク勇壯ナル行動ヲ遂行シ得タル海軍ト斯ノ如キ健兒ヲ有スル國民ノ幸福ニ對シ滿腔ノ祝意ヲ表セサルヲ得ス

旅順口ニ殘存スル驅逐艦ハ尙日本ニ取テ危險ノ因タルヲ免レサルハ事實ナリト雖モ此ハ最早深ク患ヲナスモノニアラサルニ似タリ日本ノ軍隊ハ既ニ貔子窩ニ上陸シ尋テ金州及ヒ復州ノ両地ニモ各一萬ノ兵ヲ揚陸セシメタリト云ヒ又金州上陸ノ際ニハ十六隻許ノ軍艦軍隊ヲ掩護シ其ノ半島ノ地勢狹隘ナル地頸ヲ作スヲ以テ之ヲ防禦スル敵兵ヲ両側ヨリ貫射シタルモノヽ如シ其ノ揚陸兵ノ幾何ナリシヤハ確否容易ニ判スヘカラスト雖モ兎ニ角日本軍ノ滿洲侵入ノ擧ハ今ヤ其ノ全力ヲ以テ行ハレ居レルコト明白ナリトス

三〇　日露海戰ト英國々會

（一九〇四年五月十八日發刊「セツナメン、ガセツト」所載）

四月十二日英國國會ニ於テ海軍豫算討議ノ際議員ノ質議及ヒ政府委員答辯ノ要點左ノ如シ

ギブソン、ボールズ君　新ニ設計セラレタル裝甲巡洋艦ノ兵備ハ勢力十分ナラス宜シク九吋二砲ヲ備フヘシ若シ之ヲ備フレハ戰艦ニ劣ラサル有力ナル巡洋艦ヲ得ン日露戰爭ノ結果ハ海岸要塞ニ對スル重砲ノ效力偉大ナルヲ證シ而モ旅順ノ砲擊ハ巡洋艦ニテモ其ノ備砲大ナル以上ハ此ノ種ノ作戰上敢テ戰艦ト擇ハサルコトヲ證明シタルニ非スヤ

ルカス君　我カ海軍ハ宜シク大ニ水雷術ノ練習ヲ獎勵スヘシ旅順ノ露艦ハ水雷ノ爲メニ沈沒セルモノ五隻ニ及ヘルニ拘ラス砲火ノ爲メニハ未タ一隻モ沈沒セサルニ非スヤ

サー、チャールス、ヂルク君　陸軍省ハ陸戰視察ノ爲メ日本軍ニ從軍將校ヲ派遣スル準備ヲ爲シ鉅額ノ經費ヲ要求シタルニ拘ラス海軍ニテハ未タ此ノ準備ヲ爲サヽルモノヽ如シ是甚タ遺憾ナリ吾人ハ日本海軍ノ事業就中其ノ火藥ニ關シ大ニ學フ所アラサルヘカラス日本火藥ハ特種ノ新火藥ニシテ日本ノ外之ヲ用フルモノナシ當局者須ラク此ノ火藥ノ效力ニ就テ詳細ナル報道ヲ得ンコトヲ謀ルヘシ當局者ハ此ノ火藥ノ性質及ヒ其ノ戰時ノ效力ヲ知悉スヘキ手續ヲ了リシヤ又手續中ナルヤ我々調査委員ハ之ヲ確メンコトヲ欲ス

サー、ジエー、コロム君　海軍當局者ハ絕東ノ海戰ニ關スル有益ナル報道ヲ蒐集センカ爲メ如何ナル手段ヲ運ラセシヤ又現ニ運ラシツヽアルヤ吾人カ今日迄ニ知リ得タル事實ハ固ヨリ甚タ不十分ニシテ未タ確乎タル原理ヲ推斷スル能ハストニ雖モ戰爭ノ終局迄ニハ至大ノ戰訓ヲ得ヘキヤ言ヲ俟タス現ニ日本海軍省ノ認許ヲ經テ出版セル日清戰史ハ我カ海軍ニ益スル所多ク戰鬪材料及ヒ人員ノ點ニ於テ殊ニ然リトス若シ將來ノ海戰ニ於ル我カ海軍ノ方針ニシテ出來得ル限リ敵艦隊ヲ其ノ港灣ニ封鎖シ若クハ其ノ海岸ニ壓歷スルニ在リトスレハ砲ノ仰角ヲ大ナラシメサルヘカラス然ラサレハ港內ニ避匿スル敵艦ニ對シ大ナル效果アラサルナリ

政府委員海軍政務次官プレティマン君ハ砲術問題ニ答辯シテ後日本海軍ニ從軍將校ヲ派遣セサル所以ヲ述ヘテ曰ク我カ海軍ハ特ニ之ヲ派遣スルノ必要ヲ認メス何トナレハ支那海ニハ我カ艦隊アリ信賴スヘキ海軍將校アリテ有ラユル手段ヲ盡シテ詳細ナル報道ヲ蒐集シツヽアレハナリ日本軍隊ニ從ヒ陸戰ヲ觀ルト日本軍艦ニ乘リテ海戰ヲ觀ルトハ其ノ間大ニ事情ヲ異ニスルモノアルヤ明ナリ

三一　初瀨ノ沈沒ニ就テ（軍事批評家）

（一九〇四年五月二十三日發刊「タイムス」所載）

日本カ夫ノ壯麗ナル初瀨ヲ失フテ其ノ戰鬪力六分ノ一ヲ減シタルハ天命ノ然ラシムル所禍福ハ誠ニ測ルヘカラサルモノアリ日本艦隊ハ苟モ人智ヲ以テ防止シ得ル限リノ手段ヲ盡シタルハ勿論海軍任務上必要ナル注意ハ一トシテ怠ラサリシニ似タリ蓋斯ノ如キ事變ハ如何ナル戰鬪ニモ有勝ナル不幸ノ一ニシテ人力ノ救フ能ハサル所ノモノナリ同日吉野カ春日

ノ撞頭ニ罹リ數百ノ勇敢ナル海軍軍人ト共ニ沈沒セシハ亦是吾人ノ哀悼ニ堪エサル所ニシテ殊ニ吾人ハ同盟國民トシテ日本カ今日ノ場合容易ニ補充シ得ヘカラサル一等戰艦ヲ喪失セルニ對シ深甚ノ同情ヲ表セサルヲ得ス初瀨ノ罹レル水雷ハ日露孰レノ手ヲ以テ沈置セシモノナリヤ此ノ點ニ至テハ強イテ問フヲ要セス兎ニ角水雷沈置競爭ノ盛ニ行ハレタルハ明白ニシテ又兩交戰國ハ其ノ存在ヲ偵察スレハ鋭意其ノ掃去或ハ破壞ニ從事シタリ此ノ掃海作業ニ加ヘテ天候ノ屢不良ナリシカ爲メ多數水雷ノ遂ニ浮流スルニ至リシハ事實ナルヘク當時黄海海上ハ航行艦船ニ對シテ甚タ危險ナリシヤ疑ナシ

日本軍艦ノ旅順口附近ニ遊弋セル理由ハ着々進行中ナル作戰計畫ノ性質ニ依テ窺知スルヲ得ヘシ即チ一方ニ於テ包圍軍隊ハ益々旅順口ニ迫リ其ノ方面ニ於ル有力ナル海軍ノ助力ヲ要スルト共ニ他ノ方面ニ於テ滿洲野戰本部隊モ亦日本ヨリ增發軍ノ來着スルヲ待チ居ルカ故ニ其ノ輸送揚陸ニ對スル迫害ノ生シ得ヘキ場所ニ海軍ノ絶エス出現シ以テ之ヲ掩護セシコトヲ欲シタルナラン要スルニ初瀨ハ其ノ固有ノ海軍任務ヲ遂行スルカ爲メヨリハ寧ロ陸軍戰略ヲ幇助スル必要上ヨリ其ノ犧牲トナリタルモノナリト謂フモ可ナリ

吾人ハ假ニ以上ノ理由ヲ認容スルモ戰艦艦隊ヲシテ當時嚴密ニ封鎖中ナル要塞ヲ距ル斯ノ如キ近キ地點ニ游弋セシムルノ必要アリタルヤ否ヤ又旅順口ノ如キ海面要塞ノ前面ニ於テハ海軍ノ行動ハ絶エス其ノ狀態ヲ變スルヲ以テ可ナリトセサリシヤ否ヤ此等ノ點ニ就テハ自ラ疑ナキ能ハス大戰艦ハ洋上之ト同等ノ敵艦ト戰ハシメンカ爲メニ建造セラルヘモノニシテ海岸任務ニ當ラシメンカ爲メニアラス又要塞或ハ沈置水雷ト戰ハシトスルハ素ヨリ其ノ適スル所ニアラサルナリ故ニ以上ノ如キ狀態ノ下ニ一等戰艦ヲ立タシメテ以テ損傷破壞ヲ招キ徒ラニ海軍力ヲ暴殄スルハ所謂海上權力ナルモノノ意義ヲ無意味ニ解スルモノヽ措置ナリト云ハサルヲ得スタヒ要塞ノ防禦力ヲ慴伏セシメタル後ハ敵ノ軍港近傍ニ沿ヒテ決シテ一等戰艦ヲ用フヘキモノニアラス一等戰艦ハ一隻ニ付百萬磅以上ノ製造費ヲ要ス此ノ高價ナル戰艦ヲ以テ海正面ノ要塞ニ對シテ十二吋砲ヲ發射セシメサルモ他ニ又之ニ處スルノ手段ナキニアラサルヘシ制海權獲得後ノ行動トシテ海軍兵術上以上ノ如キ手段ニ重キヲ置キタルノ例ハ吾人ノ未タ曾テ聞カサル所ナリ

蓋其ノ後ノ行動ニ至リテハ自ラ他ノ武器ヲ要シ他ノ手段ヲ要ス之ヲ陸軍ニ喩フレハ榴彈野砲ハ卓拔ナル武器タルニ相違ナキモ騎兵師團ニ附屬セシメテ之ヲ用ヒントスルモノナキカ如シ

水雷艇ハ昔時ノ火船ニ代ル恐ルヘキ武器トシテ傳ヘラルヽニ至レリト雖モネルソン及ヒ其ノ部下ノ屢之ヲ利用シ效果ヲ收メントシテ而テ能ハサリシ所ノモノナリ臼砲砲艦モ一時ハ盛ニ行ハレシモ近世ノ艦隊ハ決シテ接戰ヲ試ミサルヨリ終ニ時代後レノモノトナレリ思フニ軍艦各種ノ兵器皆一得アレハ一失アリ今日ニテハ未タ完全ノ域ニ達セスト雖モ刻下ノ要ハ其ノ外海ニ於テ優勝ナランコトヲ期スルニ在リ敗餘艦隊ノ潜伏地ニ對シテ攻撃ヲ加フルノ一事ハ未タ曾テ深ク研究セラレサルカ故ニ之カ精究ノ決定ヲ見ルマテハ如何ナル海軍ト雖モ單獨行動ニ依テ當初成功ノ結果ヲ收メンコト甚タ確實ナリト云フヘカラス換言スレハ其ノ振勢域内ニアリテハ必勝ヲ得ヘキモ其ノ以外ニ力ヲ及サンカ或ハ之カ爲メ當初ノ成功ヲ危險ニ陷ルヲ免レサルヘシ初瀨ノ喪失ニ依テ戰局ニ及ス結果ハ唯露國ヲシテ婆羅的艦隊ヲ急派シ攻勢ヲ取ラントスルノ氣概ヲ起サシメタルノ一事アルノミ隨テ日本ハ旅順口ニ對スル攻撃ヲ取急クニ至ルヘシ然レトモ其ノ餘ニハ之カ爲メ絶東ノ形勢ニ變遷ヲ來シ日本ノ旅順口ニ對スル監視ヲ弛緩ナラシメ又運送船ノ運動ヲ停止シ得ヘキモノニアラス要スルニ初瀨ノ沈沒ハ日本ニ取リテハ單ニ一不幸ニ止リ露國ニ取リテハ直接ニ利益スル所アラサル成功ナリ若シ之カ爲メニ與ヘラレタル教訓如何ト云ハヽ目下異域ニアリテ大行動ヲ執リツヽアル露國陸軍ヲシテ今回ノ戰爭モ亦是迄他ノ島國カ行ヘル戰爭ト均シク其ノ海軍力ヲ以テ制海權ヲ完全ニ保持セシニ依テ開始シ之カ繼續又之カ終結共ニ一ニ島國ノ手ニ存スルモノナルコトヲ悟得セシメタルニアリト答ヘンノミ

三三　初瀨ノ沈沒ニ就テ

（一九〇四年五月二十五日發刊「サウス、チャイナ、モーニング、ポスト」所載）

日露開戰以來日本陸軍ハ稀有ノ效果ヲ收メ海軍亦連戰連捷ノ勢アリト雖モ此ノ如キ幸運ハ終始渝ルコトナク繼續スヘシ

ト豫期スヘキモノニ非ス蓋日本人ト雖モ亦之ヲ豫期セサリシヤ明ナリ

敵國ノ艦艇ノ大半沈沒或ハ破壊シ其ノ海軍力衰ヘシ曉ニ至リ日本艦隊ノ始テ厄難ニ罹リシハ洵ニ奇ナリト謂フヘシ而テ此ノ事タルヤ既ニ海岸ニ於テ優越ナル勢力ヲ獨占セル國民ト雖モ敷設水雷ノ如キ純然タル海岸防禦ノタメ尙且自國艦艇ヲ喪ヒ若クハ傷ツクルコトアルヲ免レス又自國艦艇ヲシテ危キヲ冒シ敷設水雷ニ接近セシメサルヲ得サルカ如キ情勢生スルコトアルヲ知ルニ足ルヘシ唯吾人カ問ハント欲スル所ハ當時ノ情勢ハ巨艦初瀨ノ如キモノヲシテ夫ノ觸發水雷ノ撒置亂設セラレ一切ノ艦船カ危險ヲ感スル所ノ海岸附近ニ出現セシムルノ必要アリシヤ否ヤノ一事ニ在リ

勿論當時ノ情勢及ヒ日本聯合艦隊司令長官ノ計畫如何ヲ知悉スルニアラスンハ此ノ疑問ヲ決定スル能ハスト雖モ海軍將校一般ノ說ニ據レハ日本人ハ必スヤ海陸兩面ヨリ一時ニ旅順口ヲ攻撃スルノ計畫若クハ之ニ類似セル計畫ヲ遂行セントシ此ノ時此處ニ前記戰艦ノ出現ヲ以テ緊急缺クヘカラサルコトヽナセシナルヘシ

然ラハ日本人ハ旅順港内若クハ老鐵山高角ノ要塞ニ對シ數彈ヲ射擲スルタメ濫ニ自國艦隊中ノ大艦ヲ危地ニ入ラシメタルモノニシテ輕擧妄動亦極レリト云フヘク而テ若シ日本人カ敵ノ敷設水雷偵察ノ爲メ敢テ此等ノ軍艦ヲ危險ナル海上ニ派遣セシモノトセハ其ノ責ヤ更ニ大ナリ何トナレハ前記ノ任務ハ砲艦及ヒ驅逐艦ノ如キ小艦ヲ以テセハ危險極テ小ニシテ而モ能ク其ノ效果ヲ奏スルコトヲ得ヘケレハナリ

然リト雖モ當時ノ情況ヲ審ニスルコト能ハサルヲ以テ此ノ點ニ關シ聯合艦隊司令長官ノ擧措ニ關シ妄評ヲ試ムルコト能ハス又這回ノ喪失ハ悲ムヘシト雖モ彼等日本人カ自國艦隊ヲ以テ牢乎トシテ破ルヘカラサルモノナリト過信セシコトノ非ナルヲ悟ラシムルノ效アリ且彼等ヲ戒メテ將來再斯カル大ナル災殃ニ罹ルコトナカラシムヘシ若シ初瀨ノ沈沒ニシテ彼等過信ノ罪ナリトシテ自ラ戒ムル所アラハ此ノ敎訓モ亦空シカラスト云フヘシ之ニ反シテ今後尙濫ニ無益ノ危險ヲ冒スコトアラハ更ニ覆轍ヲ蹈ミ[illegible]ノ禍殃モ亦全ク一時ノ變災ニ非サルコトヽナルヘシ

三三　初瀨沈沒其ノ他ノ問題ニ就テ

（一九〇四年六月四日發刊「アーミー、アンド、ネヴィー、ガゼット」所載）

近時極東ニ於ル日露戰爭ニ徵シテ一二ノ事項ヲ擧ヒ以テ異日吾人カ之ト同一ノ場合ニ處スヘキ指針ト爲サントスルノ趨勢アルハ蓋當然ノ事ナリト雖モ一二ノ事迹ヲ以テ直ニ全體ヲ類推スルカ如キ速斷ハ愼ミテ之ヲ避クルヲ要ス是マハン大佐ノ趣味津々タル論文及ヒロウレンス氏（英國グリーニッチ海軍大學校國際法講師）ノ中立問題ニ關スル講莚ノ要旨ナリ日露戰爭ノ吾人ニ敎ユル所多カルヘキハ西米戰爭ニ譲ラサルヘシ然レトモ此ノ戰役中ニ發生セル諸般ノ情形ヲ將來ニ適用シテ裨益スル所アラシトスルニ當リ先ツ留意シ置クヘキハ此ノ兵力伯仲ノ間ニアル兩交戰國ノ戰局經過中戰爭其ノ物ノ外ニ研究スヘキ問題ノ存スルコト是ナリ故ニ吾人ハ豫メ此ノ二種ノ顯象アルコトヲ記憶シテ以テ戰爭ニ關スル諸家ノ言說ヲ對照スルノ要アリ即チ評論家ニ二派アリテ甲ハ發生セシ事件毎ニ專門家ノ見地ヨリ觀察シ以テ彼等ノ之ニ對スル軍事的態度ヲ定メントスルモノ乙ハ專ラ國際公法上ヨリ事迹ノ經過ヲ查察シ諸中立國及ヒ兩交戰國相互ノ權利ヲ論究スルモノナリ近時浮漂水雷ノ問題起ルニ及ヒ兩派評論家活動ノ範域ハ彼等ノ各問題ニ對スル態度ニ徵シテ益々明ナルニ至レリ前者ハ心竊ニ將來自國ノ行動ヲ束縛スルカ如キコトナカランコトヲ期スルカ故ニ單ニ機械水雷ノ實效並ニ戰局ノ進捗ニ對スル其ノ可能的結果如何ヲ論述スルニ止メ機械水雷ヲ敵ノ游弋スル海上ニ漂流セシムルノ可否ニ就テハ若シ中立國ノ艦船ニシテ自ラ作戰區域内ニ入ラハ危害ノ逼レルコトヲ自認セサルヘカラスト表明スルノ餘地ヲ存スルニ後者即チ國際公法學者ニ至リテハ假ニ中立國ノ一軍艦カ漂流水雷ノ爲メ爆沈スル所トナルコトアランニハ得意ノ言說ヲ逞ウシ以テ大ニ辯難攻撃スル所アルヘシ然レトモ此ノ問題タルヤ畢竟水雷敷設者ニ於テ陳謝辯疏スルアラハ其ノ被害者ハ唯寛恕スルノ外如何トモスル能ハサルモノナリ例之今英國ノ一砲艦威海衛附近ニ於テ敷設水雷ノ爲メ不幸ニシテ沈沒シタリトセンカ其ノ結果日露兩國政府ハ各自其ノ海軍將校ニ嚴命スルニ全力ヲ擧ケテ其ノ敷設シタル水雷ノ漂流ヲ防止シ之ヲシテ害ヲ中立國ニ及サヽラシムヘキ旨ヲ我ニ通告シ且罹災ニ對シ同情ト弔意ヲ表スルニ過キサルヘク而テ我カ政府ニ於テモ其ノ通告ヲ承認スルノ外他ニ施スノ術ナカルヘシ何トナレハ我カ國ハ此ノ事由ニ依テ輕擧ニ開戰スルコトナカルヘク

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

又此ノ如キ事情ヲ以テ賠償問題ヲ提出スル能ハサルヘケレハナリ

抑開戰當初ニ最必要ナルハ戰備ノ完整ニアリ海軍方面ヨリ之ヲ觀ルニ露國ノ蹉跌セシ所以ハ海戰ノ要訣タル攻勢ヲ取ル能ハス又取ルノ意ナカリシ事ニ職由セスンハアラス加之露國ノ軍事當局者ハ海軍力ノ眞個ノ目的及ヒ其ノ活用法ヲ解セサリシモノヽ如シ蓋軍事智識ノ缺如セル斯ノ如キ陸軍國即チ主トシテ陸軍ヲ用ヒテ以テ國威ヲ耀カセル邦國ニハ此ノ弊ノ往々存スルヲ觀ルナリ此等ノ邦國ニ於テハ勢ヒ陸軍ヲ本位トシテ之ニ重キヲ措キ而テ海軍ヲ副位トシ之ヲ輕視スルノ傾キアルヲ常トス若シ極東ニ於ル露國艦隊ニシテ其ノ兵力ヲ集中シ又敵ノ如クニ其ノ行動神速ナリシナランニハ今回ニ於ル戰爭ノ大勢ハ今日吾人ノ觀ル所ノモノニ比スレハ大ニ趣ヲ異ニセシ所アリシナラン露國ニシテ假ニ攻撃ノ態度ヲ取リタリトセンカ露國カ海戰ニ於テ蒙ルヘキ損害ハ或ハ前ニ日本驅逐隊ノ强襲ニ依リ受ケシモノト相等シキモノアルヘシト雖モ又一方ニ於テハ敵ニモ同樣ノ損害ヲ加ヘ得失相償フコトヲ得ヘク加フルニ露國側ハ此ノ如キ損害ヲ蒙ルモ豫備艦隊ノ以テ之ニ補充スルコトヲ得ヘキモノアルカ故ニ寧ロ策ノ宜シキヲ得タルモノト云フヘシ看ヨ縱ヒ交戰進捗セシ今日ニ於テスラ初瀨沈沒ノ一事ハ日本ニ取リテ尙不尠不利ヲ免レサルコトヲ何トナレハ交戰ノ前途尙遼遠ニシテ初瀨ニ待ツ所多大ナルモノアレハナリ其ノ沈沒若シ開戰初期ニ於テ生シタリシナランニハ日本海軍ニ與フル打撃ノ程度果シテ幾許シヤ日本連勝ノ眞因ハ開戰初期ニ於テ日本艦隊カ隻數實力兩ナカラ優越ナリシニ在リ日本ヲシテ恰好ノ時機ニ恰好ノ場處ニ其ノ陸軍ノ兵數及ヒ實力ヲ活用スルコトヲ得セシメタルモノハ實ニ其ノ海軍ノ優越ナリシカ故ナリ而テ好時機ト好地點ニ所要ノ兵力ヲ集中スルハ巧妙ナル戰略ノ骨子ナリ又海戰ノ勝敗ハ戰運ノ幸不幸ニ繫ルコト少カラス時トシテハ一個ノ敷設水雷若クハ魚雷ノ奏功ニ由リ不祥ノ結果ヲ生スルコトアルヲ思ヘハ國民タルモノ多大ノ海軍豫備力ヲ持續シ以テ不時ノ凶變ニ對スル設備ヲ全カラシメサルヘケンヤ而テ此ノ設備ヲ全ウセント欲セハ專ラ海上權力ヲ扶植スルノ策ヲ採ラサルヘカラサルナリ

國際公法家ノ提起シタル諸種ノ問題ハ多少興味ナキニ非スト雖モ海軍ノ見地ヨリスレハ軍事問題ノ如クニ重要ナリト云フ能ハス今試ニ其ノ一二ヲ擧ケテ之ヲ論セン中立國ノ行動例之襲ニ仁川港ニ於テ發生セシカ如キ事變ニ際會セルトキ中立國ノ處置ハ如何ニスヘキヤ豫メ之ヲ一定シ置クヲ得ハ便宜鮮少ナラサルヘシ斯カル場合ノ處置ニ關シテハ從來議論一定セス「第三國軍艦ニシテ戰鬪ノ際兩交戰國軍艦ノ間ニ介在シ而テ海中ニ漂フ交戰國ノ兵員ヲ救助セハ直接對敵行爲ト看做サル〔ヘシ〕」トノ說一時行ハレタルコトアリ此ノ說ト仁川港ニ於ル中立國ノ處置（該港ニ於テハ露艦ノ乘組員等ハ自ラ中立國諸艦ニ投シテ以テ俘虜トナルコトヲ免レタリ）トノ間ニハ自ラ一大逕庭ノ存スルアリ原則ヨリ之ヲ觀ハ既ニ武力ヲ失ヒタル戰鬪員ハ宜シク交戰國ノ一方ニ交付スヘキモノナリ或ハ彼等ヲ救助セシ者ハ彼等ヲシテ交戰中再戰鬪ニ參加セシメサル旨ヲ保證スヘキモノトス新聞通信員及ヒ無線電信使用ノ問題ニ至テハ國際仲裁々判所ノ宣言ヨリモ寧ロ當時ノ情況如何ニ依テ其ノ是非ヲ決スヘシ且無線電信ノ應用日尙淺キヲ以テ吾人ハ中立國カ之ヲ使用スルノ際果シテ幾何ノ不利ヲ交戰國ノ一方ニ與フヘキヤヲ判決スル能ハスト雖モ兎ニ角無線電信ノ使用ヲ以テ不可ナリトスル趣旨ニ至テハ之ヲ看取スルニ難カラス即チ其ノ要旨ハ「敵ノ爲メニ自由ニ遮遏セラレ又竊讀セラルヽ機關ニ依テ新聞通信ヲ傳達スヘカラス」ト云フニ在ルヘシ苟モ此ノ趣旨ヲ貫徹セント欲セハ中立國ノ權利ヲ制限セサルヘカラスト雖モ國際會議ニ依リテ議決シタル條規ナリトモ優勢ナル兵力ノ後援ナクンハ能ク實行セラルヽモノニ非ス惟フニ我カ英國ノ無線電信ニ對スル政策ハ輕々ニ海戰例規ノ一新法ヲ協賛シ自縄自縛以テ海軍將校ノ行動ヲ箝制シ其ノ實力並ニ活用ヲ減殺スルコト猶夫ノ浮流水雷問題ニ對スルト同一ナルヘシ

三四　初瀨ノ沈沒ニ就テ（英國海軍ノ一將校）

（一九〇四年六月二十三日發刊「ネーヴァル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）

今ヤ日露兩國戰ヲ交フルノ時ニ方リ吾人カ其ノ與國ノ爲メニ好ム所ニ阿ルハ固ヨリ自然ノ情ナリト雖モ余ノ觀ル所ヲ以テスレハ英國人ハ露國ノ行動ヲハ實際ノ事實ヨリハ誇張シ且之ヲ罪科視スルノ癖アリ而モ一朝地ヲ換ヘ吾人ヲシテ若シ

戰時露國ト同一ノ立場ニ在ラシメハ吾人亦露國ヲ學ハンモ知ルヘカラス今日マテノ處ニテハ日本ハ初瀬ノ沈沒ニ關シ未タ何等ノ問題ヲモ提起スルニ至ラス日本ハ國家ノ存亡ヲ賭シテ戈戟ヲ執リシヲ以テ不測ノ危害ノ生スヘキコトヲ豫期セリ故ニ縱令時ニ或ハ利ヲ失フコトアルモ之カ爲メニ怨聲ヲ發スルコトナク否ハ其ノ失敗ニ對スルコト恰モ其ノ成功ニ處スルトキト同一ノ精神ヲ以テシ夫ノ巧妙ナル遊獵家ノ如ク一成一敗ノ爲メ敢テ心ヲ動カサス事破ルヽモ意沮マス事成ルモ氣傲ルコト莫シ

英國及ヒ米國ニ於テハ露國カ水雷ヲ濫設シ初瀬ヲ爆沈セシメタル行動ニ對シ新聞紙ヲ以テ或ハ外交手段ヲ以テ抗議ヲ試ムルハ毫モ不可ナシ然レトモ今日ノ情況ヨリ之ヲ見レハ前顯露國ノ行動ナルモノカ果シテ聊ニテモ國際法ノ精神若クハ其ノ條文ニ違犯セル所アリシヤ否ヤニ至テハ大ニ疑チ存スル所ナリ抑海上公法ハ既往數百年ノ間ニ於テ漸次ニ發生セシモノニシテ世々變遷シ夫ノメヂヤ及ヒ波斯法典ノ如ク一定不易ノモノニ非ス此ヲ以テ唯先例ノミニ基キテ制定セラレタル法規ハ戰爭アル毎ニ必スヤ多少ノ變改アルヲ免レサルモノナリ故ニ苟モ國際法ヲ正當ニ解釋セント欲セハ三海里領海ヲ以テ永久不變且不可侵的限界ナリト輕信スルコトナク須ラク先ツ所謂先例ナルモノヽ性質如何ヲ講究セサルヘカラス

英國大審院長コックバーン嘗テ謂ヘラク「三海里領海説ハ英國古代ノ法律ニハ未知ノ主義タリシナリ」ト而モ實際ニ於テ此ノ領海ハ昔時ヨリ英國歷代ノ皇帝カ要請セシ司法權ノ一大限界ニシテ一時ノ如キハ狹窄ナル海ヲ以テ境界トセル他國ノ權利ヲ顧ミス該海ノ全部ニ對シ主權アリト主張セシコトスラアリタリト英國ニシテ此ノ主權ヲ勵行スルコトヲ得タリシ間ハ此ノ主義モ亦行ハルヽコトヲ得タリ然レトモ此ノ主義ノ眞ニ行ハレシ局處ハ即チ自國ノ勢力ノ實際ニ及ヒシ範圍ナリ之ニ反シテ英國軍艦カ自國ノ要請スル主權ヲ勵行セサル狹窄ナル海上ニ於テ行ハレタル所爲ハ遂ニ何等ノ問題ヲモ惹起スルニ至ラサリキ國際公法家ベーカーハ一言以テ該問題ヲ言ヒ悉セリ其ノ言ニ曰ク「我カ國家カ自ラ海上ノ優越權ヲ有スト信シテ要請セシ權利竝ニ義務ハ當時ノ形勢如何ニ由リ他ノ列國ノ認諾スル所ト爲リ或ハ拒絶スル所トナリタリ」ト語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ列國ハ已レノ國力强鋭ナリト自信スル間ハ之ヲ峻拒シ又劣弱ナル時ハ之ヲ甘諾セリ

爾來星移リ物換リ海上ニ於ル領土裁判權ニ關スル法規漸ク定リ而テ遂ニ三海里限界ヲ以テ一定ノ限界ト爲シ此ノ限界以外ニ於テハ主權ヲ行フコト能ハサルモノトナレリ然レトモ遡リテ此ノ限界ヲ置キタル所以ノ理由ヲ尋ヌルニ理義極テ明白ナルモノアリ曰ク當時彈着距離ハ海上一「リーグ」(即チ三海里)ヲ超ユルコト能ハス故ニ自國ノ主權ハ封鎖ノ際ト同シク此ノ限界以內ニ於テハ有效ニ行フコトヲ得ヘシト

國際公法家チエルムズフオード卿嘗テ曰ク「三海里限界ノ制ハ國際法ノ一條規ニ基クモノナリ各國ハ之ニ由リテ海岸ヨリ砲彈ノ到達シ得ル距離以內ハ自國海岸ヲ洗フ所ノ海ニ於テ領土所有權及ヒ裁判權ヲ有スルモノト看做サレタリ」ト海上ニ於ル此ノ主權ノ限定ハ利害相半シ交戰國ノ双方ニ於テハ勿論中立國等ニ於テモ一得一失ノ感アリ今一方ノ交戰國ノ軍艦カ敵艦ニ追窮セラレタリトセンカ該艦ハ恰モ一中立國ニ入リシ時ト同一ノ情況ニ於テ一中立國ノ領海ヲ以テ好箇ノ避難地ト爲スヲ得ヘシ然ルニ當該中立國ニシテ現場ニ於テ追躡艦ヲ砲撃シ自國ノ主權ヲ勵行スルノ實力アルニ非スンハ交戰國ハ此ノ中立權ヲ敬重セサルヘシ況ヤ被追躡艦ハ拿捕ヲ免レンカ爲メ前記領海ヲ濫用スルノ虞アルニ於テヲヤ試ニ極端ノ例ヲ想定シテ之ヲ謂ハン茲ニ一英船アリ英國ヲ發シテヂブラルターニ赴クトセンニ同船ハ英佛海峽航過後極度ニ三海里主義ヲ濫用シ佛、西、葡三中立國ノ海岸ニ沿フテ航駛シ以テ拿捕ヲ脱シ遂ニヂブラルターニ到着スルコトアルヘシ加之同船ハ國際法ニ據リテ享受スル通常ノ制限以上ノ長時間內此等諸國ノ領海ニ停泊スルコトアルヘシ此ノ場合追躡艦ハ之ヲ以テ該領海內ニ侵入スル正當ノ理由ト爲サント百方努力スヘキハ勿論ナルモ到底其ノ志望ヲ果スコト能ハサルヘシ何トナレハ局外中立カ侵害セラレタルヤ否ヤヲ監視スルハ當該中立國ノ權能ニシテ孰レノ交戰國モ此ノ權能ヲ有セサレハナリ且苟モ自國ノ海面ナリト稱スル邦國ハ其ノ勢力縱令諸海國ノ末班ニ在ルモノト雖モ已レノ領海內ニ於テ一方ノ交戰國カ搜索權ヲ行使スルコトヲ嫌惡スルモノナリ故ニ他ノ一方ヨリ之ヲ觀レハ此ノ不定領海域ノ存スルコトハ中立國ノ爲メニ一大便益ト謂ハサルヘカラス

韓國仁川港外ノ水面ニハ同國所屬ノ島嶼碁布羅列シ幾ト公海ト領海トノ實際境界ヲ判別スル能ハス余ノ閲讀セシ諸報告

ニ徴スルニ「ワリヤーグ」及ヒ「コレーツ」カ果シテ事實韓國領海以外ニ出テシヤ否ヤ疑ヲ存セサルヲ得ス然ルニ日本人ノ行動ニ對シテハ在仁川外國軍艦艦長等カ提出セシ形式的抗議ヲ除キテハ我カ英國モ合衆國モ亦何等ノ抗議ヲモ試ミス殊ニ當時仁川ニ在リシ米艦艦長ノ如キハ連名抗議ニモ加入セサリキ往年我カ英國ハ葡萄牙ノ局外中立ヲ否定スルノ已レニ便アリシ際ニ於テハ未タ一度モ其ノ中立ヲ敬重セシコトアラサリシヲ以テ見レハ我カ英人タルモノ又實ナキニ非ス翻テ法理上ヨリ之ヲ論スルニ一國ノ中立ハ交戰國ノ宜シク敬重スヘキモノナリ而テ其ノ中立ヲ勵行スルト否ラサルトハ當該中立國ノ強弱如何ニ依リテ異ルモノニアラス切言スレハ中立ヲ勵行スルハ一ニ其ノ國元首ノ大權ニ出テ而テ此ノ大權ノ發動ニヨリ侵スヘカラサルモノト認メラルヘキモノナリ

吾人ハ茲ニ或二強國ノ行動ニ就テ其ノ是非曲直ヲ論センカ甲國ハ要塞ニ據リ乙國ハ公海ヲ利用シテ該要塞ヲ攻撃シ前者ハ敵ニ封鎖セラレタルノ狀態ニアリ即チ少クトモ曩ニ自國艦隊カ大損傷ヲ蒙リタル爲メ領海ニ出テ、敵ト雌雄ヲ決スルコト能ハサルノ狀態ニアリ是日露兩國海軍現時ノ有樣ニテ普ク世ノ知ル所ナリ此ノ公海タルヤ萬國船舶カ齊シク平時戰時ニ使用シ得ル所ノモノナリ而テ露國領海ト其ノ對岸ナル直隸灣頭ノ英清二國ノ領海トノ間ニハ幅約六十海里弱ノ海峽アリ

露國ハ日本ノ故智ニ倣ヒ機械水雷ヲ夫ノ公認セラレタル三海里限界以外ノ場所ニ沈置シ日本ハ之カ爲メ一隻ノ戰艦ヲ失ヘリ當時日本艦隊ハ要塞ト交戰スルノ意志ヲ懷キ舳艫相銜ンテ同處ヲ通過セントシ偶此ノ奇禍ニ罹リタルモノナリ然レトモ中立國ノ船舶ハ左迄ニ長時間ヲ徒費スルコトナク遠ク旅順口ノ南方ヲ航駛スルコトヲ得ルヲ以テ自ラ好ンテ此ノ擴延セル危險界ヲ通過スルノ要ナク強イテ旅順口附近ヲ航行セハ露ノ手段ニ罹リテ損害ヲ蒙ルノ惧アリ而テ不幸ニシテ之ニ罹リタリトスルモ何等ノ抗議ヲモ試ムルコト能ハサルヘシ其ノ理由如何ト云フニ露人カ其ノ砲熕ヲ極端ノ彈著距離マテ發射シ又旅順口附近ヲ航過スル疑ハシキ船舶ニ對シテ發砲シ得ルコトハ確乎疑フヘカラサル權利ナルヲ以テ何人モ之ニ對シテ抗議ヲ提供スル能ハサルモノナレハナリ之ヲ要スルニ交戰國自衞權ノ有無如何ヲ疑ヒ或ハ或艦船（敵艦ナルコトアルヘシ）カ領海即チ要塞ヨリノ射距離以內ニ入リタル場合ニ領海ノ主權者タル交戰國カ其ノ武力ヲ行使シ得ルヤ否ヤヲ疑フハ不道理ノ太甚シキモノナリ

露國要塞備砲ノ彈著距離ヲ標準トセハ同國カ其ノ主權ヲ行ヒ得ヘキ距離ハ果シテ幾何ナリヤ日本人ノ測算セシ所ニ據レハ露國ハ一萬六千米突ノ射程ヲ以テ發砲シ而テ當時其ノ砲彈ハ敵艦ヲ越エテ水中ニ墜チ又機械水雷ノ沈設セラレアリシ場所ハ海岸ヲ距ルコト九海里ノ沖ニシテ一萬五千八百四十碼ニ相當セリト云ヘリ一萬六千米突ハ一萬七千四百九十七碼ニ等シキヲ以テ差引一千六百六十七碼即チ約一海里ノ間ハ機械水雷ノ沈設セラレタル場所以外ノ危險界ニシテ此處マテハ優ニ著彈シ得ルモノナリ

抑三海里限界ノ制ハ絕對的ノモノニアラス即チ國家ハ三海里以外ノ處ニモ「財務並ニ防務上ノ目的ノ爲メ換言セハ自國ノ收稅法勵行及ヒ邊海ニ出沒スル匪徒ヲ防ク爲メ司法權ノ一部ヲ行使スルヲ得」ヘシ近クハ英王ジョルジ第三世ノ時ニ於テ我カ英國ハ匪徒ヲ防ク爲メ一百「リーグ」ノ間ハ武力ヲ用フルコト、ナセリ平和的目的ノ爲メニ概ネ三海里限界說ヲ適用スルヲ得ヘシト雖モ苟モ作戰上ノ目的ニ關スルモノニ至テハ吾人ハ敷設水雷若クハ潛水艇ニ依リ施シ得ヘキ一切ノ手段ヲ採リ以テ自國ノ主權ヲ行フコトヲ得ヘシト確信ス（因ニ云フ潛水艇ノ如キハ自國ノ防禦及ヒ攻擊手段ニ用ヒテ全ク敷設水雷ト異曲同巧ノモノナルヲ以テ特ニ之ヲ加ヘタリ）

不幸ニシテ中立國若シ災ニ罹ラハ我等ハ必ス其ノ損害ヲ賠償スヘシ然レトモ其ノ罹災アリシカ爲メニ我カ國ノ自衞權ヲ否認スヘキモノニアラス而テ海軍力ニ依リ把握セラレタル公海ノ一部分ト作戰上ノ目的ヲ有スル陸軍部隊ノ占據セル中立國ノ一部分トハ幾ト異同ナキモノナリ故ニ兵力ヲ以テ占領シタル土地ハ海陸何レタルヲ問ハス此ノ處ニ自國ノ主權ヲ樹立シ恰モ自國ノ領土ニ於ルト同一樣ノ行動及ヒ戰鬪ヲ爲スコトヲ得ヘシ國際法ハ由來先例ヲ基準トシテ立論セルモノニ過キス而テ世ノ公法家ハ動モスレハ自ヲ爲メニスル所アリテ夫ノ今日ニ比スレハ事情全ク異レル過去ニ於テ一時定メラレタル限界ヲ云爲シ敢テ牽強附會ノ說ヲ逞ウスルコトアリ然ルニ近世式砲熕ノ力愈發達シ之カ爲メニ舊時ノ條規ハ時

代後レトナレルヲ以テ露國今回ノ行動ハ一新例ト爲ルヘキノミナラス遂ニハ不易ノ條規トナルニ至ルヘシ

三五　旅順港外海戰ニ於ル驅逐艦ノ効力（通信員C、B）

（一九〇四年五月三十日發刊「ジャパン、メール」所載）

旅順口外ノ海戰ハ吾人ヲシテ日本海軍ニ學ハシムル所二三ニシテ止ラスト雖モ其ノ最重要ナルハ驅逐艦ノ用法ニ若クモノハアラス吾人曾テ以爲ラク驅逐艦ハ屢炭庫ヲ補充シ又三日每ニ乘組ヲ新ニセサルヘカラス之ニ糧食清水其ノ他ヲ給スル爲メ母艦ヲ附セサルヘカラス將校ヲ休息セシムル爲メ晝間ハ成ルヘク他ノ艦船ヲ以テ曳行カサルヘカラス然レトモ我カ驅逐艦カポートサイドヨリ古倫母迄三千五百五十海里ヲ航續シテ尚炭庫ニ若干ノ石炭ヲ剩シ二日若クハ三日ノ後ニ再航途ニ上レルヲ聞クニ及ンテ吾人ハ始テ驅逐艦ノ價値ヲ過小視シタルヲ悟リシカ今ヤ日本海軍ハ吾人ニ敎フルニ更ニ大ニ驅逐艦ニ依頼シ得ルコトヲ以テセントス若シ吾人ノ聞ク所ノ如ク地中海ノ佛國水雷艇配備港ヲ封鎖スルニ其ノ一港ニ對シテ驅逐艦八隻ノ一隊ヲ要シ又別ニ豫備隊一個ヲ備フヘシトナサハ一朝佛國ト事ヲ構フルニ當リテハ敵ノ水雷艇配備港ノミニ對シテモ四十八隻ヲ配置セサルヘカラス驅逐艦ハ實際斯ノ如ク多數ヲ以テセサレハ水雷艇配備港ヲ封鎖シ能ハサル程效力少キモノナルヤ吾人ハ驅逐艦ノ眞價果シテ如何ヲ確知セサルヘカラス

制海權ヲ掌握シ若クハ海戰ノ勝敗ヲ決スルモノハ戰艦ニシテ巡洋艦及ヒ驅逐艦ハ之カ補助タルニ過キス然ルニ英國海軍ニ於テハ此ノ補助力ニ對スル費額カ其ノ主力タル戰艦ニ對スルモノニ二倍スルハ奇ト謂フヘシ若シ露國ニシテ「ボロヂノ」型ノ戰艦五隻ヲ增遣スルコトヲ得テ旅順ニ戰艦十二隻ヲ有シ而テ將卒各其ノ智識ト技倆トニ頼ム所アラハ焉ソ旅順ニ蟠居シ驅逐艦ノ好餌タランヤ一歩ヲ進メテ之ヲ言ヘハ日露ノ間何ソ必スシモ釁ヲ啓クニ至ランヤ

東鄕中將ハ去年十月二十一日以來自己ノ抱負セル所ニ由リ遺憾ナク麾下ノ艦隊ヲ訓練シ得タルニ反シマカロフ中將ハ遂ニ其ノ機會ヲ得ス唯机上ノ訓練ノミニテ此ノ點ニ就キ部下艦隊ヲシテ毫モ見ルヘキノ效果ヲ収メシムルコトヲ得サリシナリ又軍艦ヲシテ旅順ヲ出入セシムルニモ水先案内及ヒ曳船ヲ用ヒタルハ甚タ緩慢ノ至リニシテ殊ニ進退ノ自由ヲ失ヘル軍艦ノ如キハ時間ヲ要スルコト非常ナラサルヲ得ス即チ二月八日ノ襲撃後露國軍艦ハ悉皆港内ニ入ルニ同日ヨリ同十日ニ渉レル損傷艦ヲ収容スルニ敵前ニ在リテスラ斯ノ如ク緩慢ナリ蓋東郷中將ハ此ノ虚ニ乗シ九日ノ夜更ニ水雷攻撃ヲ繰返サヽリシヲ遺憾トナスナランヽ

三六　日本ノ小型水雷艇利用及ヒ水雷母艦ノ設備ニ就テ

（一九〇四年五月三十一日發刊新嘉坡「フリー、プレス」所載）

日本海軍カ旅順口襲撃ニ於テ啻ニ驅逐艦ヲ使用セシノミナラス小型水雷艇ヲモ此ノ行動ニ參加セシメタル一事ハ深ク注目スヘキ價値アリ旅順口ハ日本ノ最近船渠ヲ距ルコト五百海里以上ノ遠キニモ拘ラス此ノ蕞爾タル脆弱艇ハ此ノ要害堅固ナル敵港ノ正面ニ航シ來リテ其ノ任務ヲ盡セリ開戰ノ當時世人ハ日本海軍ニハ海岸防禦用水雷艇數多アルモ艦隊ニ隨伴シテ攻戰ニ參加シ得ヘキ驅逐艦ノ比較的少數ナルヲ危ミ之ヲ以テ日本海軍ノ一大不利ト爲セリ最近ノ日本發信ニ據レハ日本海軍ニハ二百七十九噸乃至三百七十三噸ノ驅逐艦十三隻、百十五噸乃至二百二噸ノ一等水雷艇七隻、八十噸乃至百十噸ノ二等水雷艇二十隻、五十三噸乃至八十三噸ノ三等水雷艇二十九隻アリ日本ハ水雷艇中少クモ大型ノモノヲ本國ノ根據地ト遙ニ隔絶スル現在ノ戰地ニ利用シ居ルカ其ノ故障起ルトキハ如何ニシテ之ニ修理ヲ加ヘ如何ニシテ軍需品ヲ積入ルヽヤハ秘密ニシテ知ルヘカラスト雖モ目下ノ處ニテハ旅順口ヨリ程遠カラサル或集合地點恐ラクハ海洋島象登群ニ在ル水雷母艦此ノ任務ニ當ルモノヽ如シ二十六年前英國ニテ製造シタル四千百二十噸ノ商船豐橋ハ開戰前水雷母艦タリシモノニテ同船ハ四吋砲二門、三斤砲六門及ヒ母艦ニ必要ノ設備ヲ有シ本國ヨリ水雷艇ヲ遠距離ニ運ヒ又之ニ小修理ヲ施セリ該母艦ハ平時ノ演習ニ於テ好結果ヲ奏セシヲ以テ更ニ蛟龍丸ヲ傭ヒ上ケ之ヲモ水雷母艦ニ艤裝シ此等二隻ノ母艦ニ依リ東鄕司令長官ハ大小各種ノ水雷艇ヲ本國ノ船渠所在地ヨリ遠距離ニ伴ヒ行クコト自在ニシテ若シ水雷艇ニ損所ヲ生セハ母艦ニ就テ一二時間ニ修理ヲ了シ得ヘク母艦内ニハ各般ノ修理工具、糧食、彈藥及ヒ水雷ヲ貯藏ス斯ノ如キハ實ニ

日本海軍ノ特色ナリ日本若シ歐洲ノ海軍ヲ其ノ儘ニ應用セシナランニハ最大驅逐艦ノ外ハ遠征ノ行動ニ隨航セシムルカ如キコトアラサリシナルヘシ然ルニ日本ハ自家特獨ノ一流ヲ開キ其ノ速力ニ準シテ水雷艇モ艦隊ニ編入シ一團トナリテ共動シ得ヘキ樣ニナセリ要スルニ日本ハ歐洲式ノ材料ヲ採用セシモ歐洲人ノ利用セル範圍內ニ止ルヲ足レリトセスシテ更ニ一歩ヲ進メ一種ノ新機軸ヲ開キ以テ其ノ效用ヲ顯著ナラシメシモノナリ

三七 日露海戰ニ於ル人員及ヒ材料ノ比較（フレッド、ジェーン）

（一九〇四年五月發刊「ウオーヅ、ワーク」所載）

編者曰ク「ウオーヅ、ワーク」ハ友露黨ノ名ヲ以テ世ニ知ヲレタル All the Russia 著者ヘンリー、ノルマンヲ主筆トスル月刊雜誌ニシテフレッド、ジェーンハ海軍兵棋ノ作案者タリ又年刊ノ「全世界軍艦」ノ編者ナリ

日露戰爭ニ由テ學フ所トシテ世ニ多ク稱道セラルヽハ「魚雷ノ勝利」ニシテ海戰ヲ論スル者輙モスレハ此ノ說ヲ固執セントス然レトモ吾人ノ觀察ハ全然之ト反對ニシテ世人魚雷ノ効力ヲ貴フコト愈ゝ大ナレハ余ハ愈ゝ之ヲ貶スルニ躊躇セサルナリ

今回ノ海戰中魚形水雷ノ成功シタリト稱セラルヽ場合ニ於テスラ尙且其ノ効力ノ不充分タルヲ免レス況ヤ其ノ他ノ場合ニ於テヲヤ旅順艦隊ノ失敗ノ如キモ恐ラク其ノ源因ハ魚雷其ノ物ノ無効力ニ歸セサルヲ得ス此ノ言或ハ無理ナルカ如ク聞エン然モ試ミニ開戰以來ノ出來事ヲ一瞥スレハ自ラ釋然タルモノアルヘシ魚雷ノ成功シタルハ二月八日ノ奇襲アルノミ當時襲擊ニ參加セシ驅逐艦ハ十隻ニシテ發射セシ魚雷ノ數ハ二十發ナリシカ如シ（少クトモ夫丈ケハ發射セサルヘカラス）露國艦隊ハ艦隊トシテ碇泊スヘカラサル位置ニ碇泊シ居リタリ而テ日本驅逐艦ハ巧ニ露國ノ信號ヲ使用シテ以テ豫定ノ如ク首尾好ク行動スルコトヲ得タリ日本驅逐艦ハ露艦ノ位置ヲ精密ニ知リ居タリシニモ拘ラス其ノ內ノ數隻ハ敵艦ヲ發見スル能ハサリキ而テ其ノ發射シタル水雷中敵ニ多少ノ損害ヲ加ヘタルハ僅ニ三發ニ過キス且損害ハ豫想ノ程度ヨリ遙ニ少カリシナリ然レトモ假ニ襲擊當時ノ實地ニ臨ミテ其ノ狀況ヲ目擊シタリトセンカ誰カ露艦ノ全滅ヲ豫言セサリシモノアラン

爾來日本ノ水雷襲擊計畫ハ其ノ都度失敗シタリ露國ノ計畫モ亦然ルノミナラス日本艦隊ヲ發見セントシ反テ損害ヲ被リ大ニ水雷艇ノ數ヲ減却シタリキ巡洋艦「バヤーン」艦長カ勇猛以テ水雷艇ノ退却ヲ掩護スルナクンハ露國水雷艇ハ恐ラクハ全滅セシナラン、日本艦隊ハ英國流ノ水雷防禦法ヲ正シク蹈襲シ巡洋艦ヲ以テ水雷艇隊ヲ掩護シ常ニ敵ノ魚雷ヲ使用セントスル勞ヲ空シクセシメタリ露國將校カ成功ノ爲メニ死ヲ辭セサルノ氣慨ヲ有スルハ吾人ノ忘ルヘカラサル所ナリ然モ日本艦隊カ何ノ苦モナク彼等ヲ擊破シ去リタルハ抑何ノ故ソ是日本カ露國ヨリモ優勢ナル巡洋艦隊ヲ有スルニ依レリ然レトモ一歩ヲ進メテ考究スレハ皆是戰艦ノ効ニ歸セスンハアラス何トナレハ後援ナキ水雷艇隊ハ到底主戰艦隊ノ第一防禦線內ニ侵入スルコト能ハサルヲ以テ全然無用ノ長物タルニ終ルヘケレハナリ

以上ハ戰術上爭フヘカラサル原則ナレトモ此ノ理カ未タ世人ノ留意スル所トナラサルハ彼ノ驍勇ナル「バヤーン」艦長ウイレン大佐カ露國小艦隊ヲ保護セル非凡ノ動作ニ蔽ハレ爲メニ其ノ光芒ヲ現サヽルカ故ノミ彼ハ一小艦ヲ以テ幾度トナク日本巡洋艦隊ヲ喰止メ味方ノ驅逐艦カ擊沈セラレテ沈沒セントスルヲ救援セリ是實ニ沈勇果斷ナル武夫ハ優勢ナル強敵ニ對スルモ尙能ク爲シ得ル所アルヲ示スノ一例トシテ見ルヘキモ之ヲ以テ前陳戰術上ノ眞理ヲ動カスモノニアラス我カ國ニ於テハ日本ニ對スル同情熾ナルヲ以テ新聞紙上ノ戰報ノ如キモ「バヤーン」及ヒ其ノ艦長ノ功績ニ言及スルモノ少ク自ラ稀ナリ是吾人ノ洵ニ遺憾トスル所ナリ何トナレハ凡敎訓ヲ得ンニハ問題ノ兩側ヲ見ルコト最肝要ナレハナリ吾人ハ「バヤーン」及ヒ露國驅逐艦ニ關スル記事ヲ讀ムト雖モ唯甲者ノ出港シ乙者ノ歸港セリト云フノ外ニハ何事ヲモ聞カス日本人ハ海戰ニ熟セルハ恰モ魚ノ水ニ於ルカ如シ彼等ノ面前ニ於テ水雷艇掩護ノ任務ヲ遂行シタル「バヤーン」艦長ハ熟練、決斷、勇武ナラスシテ能ク此ノ如クナルヲ得シヤ然ルニ世ノ耳目ヲ以テ任スル新聞記者ニシテ往々之ヲ看過セントスルモノアルハ何ソヤ惟フニ若シ露國ニシテ三隻ノ「バヤーン」ヲ有シタランニハ同國水雷艇ノ働キ方ノ尙大ニ見ルヘキモノア

リシナラン是吾人カ常ニ中等大ノ裝甲巡洋艦ヲ必要トスル所以ナリ

「パヤーン」ノ甲帶ハ厚大ナラス大砲ノ裝甲保護亦薄弱ナリト雖モ同艦ノ活動力ニ打擊ヲ加ヘ得ルモノハ獨リ戰艦ノ大砲アルノミ是同艦カ屢出港シ屢負傷セルニ拘ラス沈沒セスシテ歸港シタル所以ナリ

常ニ戰艦ヲ以テ海戰ノ一大要素ト爲セル論者ハ今回ノ海戰ニ徴シテ其ノ所見ノ誤ラサルヲ誇ルニ足ル露國ハ二月八日ノ夜襲ヲ蒙リシ以來其ノ戰艦隊ハ劣勢トナリ常ニ攻擊セラルヽヲ待ツノ位置ニ陷リタリ偶露國ヨリ攻勢ヲ執レハ日本巡洋艦ハ退却シテ萬能ナル戰艦ノ蔭ニ隠レ露國艦隊ハ勦絶セラルヽカ退却スルカ二者何レカヲ擇ハサルヘカラサリキ凡此ノ如ク今回ノ戰役中起リタル出來事ハ一トシテ戰艦ノ增勢ヲ主張スル理由トナラサルナシ戰艦ニシテ水雷艇ノ急襲擊ヲ蒙リ廢艦トナルコトアルモ之ヲ以テ戰艦ノ不用ヲ說クハ苟モ常識アル者ノ取ラサル所ナリ何國ノ海軍ニ於テモ戰列ヲ作ルニハ戰艦コソ其ノ最必要トスル所ノモノナリ

今回ノ海戰ニ依テ得タル經驗上殊ニ重要ト見做スヘキハ射擊ノ巧妙ナランコト是ナリ日露兩國共ニ射擊ハ拙劣ナリ日本砲員ハ未タ第一流ノ射手トナスニ足ラス露國海軍ニハ絶好ナル射手アリト雖モスタルク中將ハ彼等ニ演習ノ機會ヲ與ヘサリシナリ射距離モ亦極テ遠カリキ開戰前日本軍艦ハ遠距離射擊ヲ爲シタレトモ其ノ伎倆ハ未タ熟セサリキ若シ一隻ナリトモ練達セル遠距離射手ヲ乘組マシメタル軍艦アリシナラハ敵ヲシテ悉ク戰鬪力ヲ失ハシムルコトヲ得タルナルヘシ要スルニ兵員ニハ戰鬪距離ニ於ル射擊ヲ訓練セシメサルヘカラス其ノ他ノ距離ニ於テスルモノハ遊戯ト異ナラス

日露兩國ノ軍人ノ優劣ニ就テ言ハンニ指揮官ハ別問題トシ日本軍人ハ露國ニ比シ敢テ優越ナルニアラス我カ日本協會會頭アーサー、ディオシー氏ノ如キハ俗評ニ動カサレ日本軍人ノ能力ヲ過言スルモノヽ如シ余ハ日本海軍將校ニ幾多ノ知己ヲ有シ如何ニモ彼等ノ愛國ノ念強ク多大ノ勞働、無限ノ苦痛ニ堪フルヲ知ルト雖モ眞ニ天才ト稱ス可キ程ノ將校ヲ見タルコトナク水兵中ニハ往々機敏ナルモノナキニアラサルモ斯カル輩ハ寧ロ推重セラレス却テ愚鈍ニシテ順良ナル者コソ上官ノ愛ヲ蒙ルモノヽ如ク要スルニ日本ノ優越ナル特質トモ見ルヘキハ單ニ其ノ耐忍力ヲ有スルニ在リ

露國軍人ノ無能ニ至リテハ英國新聞紙上既ニ說ク所アリ然レトモ是未タ露國軍艦ニ就テ實見セサル者ノ言ノミ露國將校モ英國將校ト均シク彼等ノ團体中ニハ勿論賢愚ヲ混同セリ唯彼ハ其ノ賢愚ノ懸隔ノ度我ヨリ一層甚シキノミ即チ彼ノ賢ハ我カ賢ヨリモ一層賢ニシテ彼ノ愚ハ我カ愚ヨリモ一層愚ナリ其ノ艦隊司令長官ノ如キモ亦此ノ如ク時ニ或ハ英國將校モ及ハサル程ノ者其ノ任ニ當ルコトナキニアラス露國ノ兵員ハ極テ愚鈍ニシテ其ノ思想ノ程度ハ恰モ小兒ニ均シキカ故ニ若シ複雜ニ涉リテ彼等ノ當惑スヘキ職務アレハ成ルヘク之ヲ簡單ニ理解セシムル方法ヲ講シテ以テ彼等ヲ利用セサルヘカラス例之「パヤーン」ノ如キ同艦ノ乘組水兵ハ社會ニ容レラレサリシ失敗者ニアラサルハナシ然モ今回ノ戰役ニ當リウイレン大佐ノ指揮下ニ在リシ彼等ハ一人トシテ機敏ノ動作ヲナサヽルハナシ故ニ個人毎ニ觀察スレハ日露兩艦隊ノ軍人ハ二者何レモ特ニ優ル所ナルニアラス然レトモ戰鬪材料ニ至ツテハ全ク之ト異リ日本軍艦及ヒ兵器ハ總テ露國ニ優リ殊ニ彈藥ニ於テ其ノ然ルヲ見ル而テ數字上ノ優勢モ亦日本ノ方ニアリ日本獲捷ノ源因實ニ玆ニ存ス

日本艦隊ノ操縱ハ宜シキヲ得タリト雖モ東鄉中將對マカロフノ取組ヲ以テ嘗テ英將ドレークノ西班牙大艦隊ニ對シ蘭將、オプ、ツロンプ同デ、ユ、ルーテルノ英國艦隊ニ對シ、英將ネルソンノ佛西聯合艦隊ニ對シ、米國內亂中南軍ノ將ファーラグットノ北軍艦隊ニ對セル場合ニ比較スルハ未タシ何トナレハマカロフハ東鄉中將ヨリモ一層ノ天才ナレハナリ斯ク兩將ヲ品評スレハトテ敢テ日本司令長官ノ功名ヲ剝クニアラス吾人ハ却テ日本カ今日最良ノ材料ヲ有スルニ至レル機敏ヲ稱揚シ且材料ト數量ハ作戰ノ一大要素タル所以ノ適證ヲ得タルヲ喜フモノナリ今スタルクヲ日本艦隊ノ司令長官ト爲シ露人ノ手ヲ以テ之ヲ操縱セシメハ其ノ功ヲ收ムルコト東鄉中將ニハ及ハサルヘシト雖モ若シマカロフ中將ヲ以テ之ニ替ヘハ東鄉中將同樣若クハ其以上ノ事ヲ成シタランモ知ルヘカラス故ニ今回ノ戰爭ハ吾人ニ敎フルニ人ヨリモ物ノ選擇ノ必要ナルヲ以テス然レハ吾人ノ海上ニ於ル將來ノ運命ハ一ニ繫リテ軍艦、兵器、彈藥ノ良ヲ擇ヒ又其ノ量ヲ豊ニセンコトヲ努ムルト否トニアリ

機關ノ事ニ就テモ學フヘキコトアリ日本海軍ノ二大功績ヲ收メ得タルハ軍艦カ故障ナク運動セシメタル機關ノ堅良ナリ

シニアリ即チ其ノ軍艦ニ「ベルビル」式汽罐ヲ採用セシカ故ナリ勿論石炭ノ經濟的使用モ大ニ與リテ力アルニ相違ナシト雖モ尙使用ニ堪フル圓墻式汽罐ヲ備フル舊式軍艦數隻ヲ除クノ外ハ各艦同種齊型ノ水管式汽罐ヲ備ヘタルヲ以テ一艦ヨリ他艦ヘ機關兵ヲ轉乘セシムルモ其ノ取扱上ニ差支ナカリシコト亦成功ノ一因タリシニ相違ナシ

露國艦隊ハ未タ海上ノ危險ニ遭逢セル經驗ニ乏シキカ故ニ實地ニ當リ日本艦隊ノ如ク巧ニ險難ヲ凌キ得ルヤ否ヤ疑ヘシ露國艦隊ノ汽罐ハ四種以上アリ隨テ其ノ取扱方ヲ異ニスルカ故ニ機關部員ヲ一艦ヨリ他艦ヘ轉乘セシムルコト殆ト難シ一兩年前ノ事ナリシカ我カ國ニテハ各種汽罐ノ得失ニ就テ筆舌戰其ノ極ニ達シ其ノ結果當局者ハ諸式ノ汽罐ヲ軍艦ニ据附ケ比較試驗ヲ行ヘルコト再三ニ及ヒシカ今回ノ實戰ハ遂ニ其ノ優劣ヲ判定スルノ機會ヲ授ケタリ「ベルビル」式ハ「チエツク、バルブ」ヲ有スルカ故ニ汽罐ニ故障起ルモ管水ノ循環狂フコト無キハ一種ノ特長ニシテ此ノ外ニハ各種水管式汽罐ニ比シ別ニ優ル所アラサルモノヽ如シ即チ「ベルビル」式ノ所謂特長ハ各種汽罐ニ比シ之ヲ利用スルニ最容易ナルニアリテ我カ英國機關部員ノ過半ハ此ノ式ノ取扱ニ練熟セリ然ルニ此ノ式ハ一時大ニ英國軍艦ニ採用セラレタルニ拘ラス其ノ後實驗ヲ積マサル學說家ヨリ成レル汽罐調査委員會ノ決議ニ由リテ廢棄セラレタリ今ヤ日本カ制海權ヲ維持スルニ利用シタルハ單ニ此ノ「ベルビル」一式ノミナリシコト又露國艦隊數十ノ軍艦中能ク快走シ得タル「バヤーン」「ヂイヤーナ」「グロモボイ」「アスコリド」「ノーウヰク」等種々數隻ノ軍艦ハ「ベルビル」又ハ「ソーニークロフト」式ノ汽罐ヲ据附ケシモノナルコトヽハ大ニ我カ海軍當局者ニ反省ヲ促サヽルヲ得ス

敷設水雷ニ就テ言ハンニ今回ノ戰役ハ此ノ兵器ニ就キ多大ノ注意ヲ喚起セシメタリ敷設水雷ハ是迄作戰上ニ何等ノ爲ス所無ク隨テ之カ效力ヲ信スル者ナカリシカ水雷敷設船「エニセイ」戰艦「ペトロパウロウスク」ニ來セル災厄、巡洋艦「ボヤーリン」戰艦「ポベーダ」ノ蒙レル損害ハ今ヤ全ク敷設水雷ヲ恐ルヘキ一大利器ト視ルニ至ラシメタリ「エニセイ」「ボヤーリン」ハ味方ノ水雷ニ觸レタルモノナリ「ペトロパウロウスク」「ポベーダ」ハ敵ノ敷設水雷ニ觸レタルモノニシテ若シ老朽艦ヲシテ先導セシメハ或ハ兩艦ヲ救ヒ得タランモ知ルヘカラス然レトモ味方ノ水雷ニ觸レタリトノ事實ニ由リ又敵ノ敷設水雷モ能ク之ヲ掃去スルノ方法アリト云フヲ以テ余ハ敷設水雷ノ効力ヲ貶セントスルモノニアラス

尙今回ノ戰役ニ由リ吾人ニ與ヘラレタル一教訓ハ防禦側ニ立ツモノハ水雷ヲ敷設スルナク宜シク其ノ敷設費ヲ以テ大口徑ノ新式海岸砲ヲ備附クルノ優レルニ若カサルコト是ナリ防禦者ハ其ノ沿岸ニ水雷ヲ敷設セサルモ敵ハ矢張リ敷設シアルモノト想像シテ近寄リ來ルコトナシ夫ノ「ペトロパウロウスク」ノ擊沈ハ露國自身カ敷設シタル水雷ニ間接ノ原因ヲ歸スヘキナリ何トナレハ旅順艦隊ハ其ノ自ラ敷設シタル水雷ヲ避クル爲メナルカ若クハ敵ニ敷設水雷アル狀ヲ嚇示センカ爲メナルカ往復常ニ同一ノ水道ヲ採リシカ故ニ日本艦隊ハ爰ニ見ル所アリ容易ニ敵ノ常航水道ニ水雷ヲ敷設スルコトヲ得タレハナリ若シ旅順口ニシテ敷設水雷ヲ以テ防衛ノ一策トナサヽリシナランニハマカロフ艦隊ハ同一ノ水道ヲ通航スルカ如キコト無ク縱横ニ港外ニ遊弋スルコトヲ得タルナルヘク隨テ敵ニ攻勢的敷設水雷ニ依テ功ヲ奏スルノ機會ヲ與フルコト極テ尠少ナリシナラン

兩艦隊指揮官ノ事ニ就テハ既ニ言及スル所アリシカ終ニ尙一言センニ吾人カ今回ノ戰役ニ依テ得タル一大教訓ハ司令長官ニ其ノ人ヲ得ルト得サルトハ一事ノ成敗ニ大關係アルコト是ナリアレキセイエフ、スタルク兩將ノ無能ハ「ワリヤーグ」「コレーツ」ノ爆沈ト「レトウヰザン」「ツエザレウヰチ」「パルラーダ」ノ損害ヲ惹起セル直接ノ原因ニシテ東郷中將ノ才能ハ日本軍艦ヲシテ露國ノ魚雷襲擊ヲ免レシメタルヤ疑ナシ今ヤ精良ナル材料ヲ擇ハンコトハ乘組員ノ人選ニ比シテ一層重キヲ措クヘキモノアリト雖モ司令長官其ノ人ヲ精選スルノ必要ニ至リテハ從來ヨリハ一層其ノ度ヲ進ムルトモ決シテ之ヲ減スルモノニアラス其ノ一大器械ヲ統轄シ材料ト人員トヲ左右シ圓滿ナル運用ヲ期スルハ司令長官ノ任ニシテ昔日ニアリテハ良艦長、良艦員ノ以テ司令長官ノ缺點ヲ償フコトヲ得タルモノアレトモ今日ハ全ク其ノ事情ヲ異ニス要スルニ露國今回ノ失敗ハ專ラアレキセイエフ、スタルクノ無能ニ歸スヘキモノナリ彼等トテモ出來得ヘキ限リ盡力セリ其ノ志ヤ殊勝ナリト雖モ奈何セン其ノ器凡庸ニシテ平時ハ兎ニ角一旦事起ラハ到底其ノ衝ニ當ルニ足ラサルナリ然レハ吾人ハ我カ國ニ在リテモ司令長官ノ選擇ニハ良將中ヨリ其ノ粹ヲ拔クヘキ方法ヲ設ケンコトヲ主張セサルヲ得ス曾テアーノ

ルド、ホワイト氏ノ提案シタル彼ノ司令長官ヲ艦隊ニ公選セシムルノ策ノ如キハ亦大ニ參考ニ資スヘキ價値アリ現時英國海軍ハ何故ニ幾多ノ東郷ヲ採ラスシテ幾多ノスタルクヲ容レツヽアリヤ吾人ハ其ノ原因ヲ一ニ「スタルク」式ナル上官ノ嫉妬心ニ歸セサルヲ得ス之カ爲メ良將名士ハ其ノ位地ヲ得ス空シク恨ヲ呑ミテ閑地ニ在リ今ヲ距ル十年前地中海ニ派遣セラレタル一良將ノ身上ニ生シタル件ノ如キハ此ノ弊ヲ示セル一著例ニシテ此ノ弊ヤ今日ニ至ルモ尙毫モ矯正セラレサルナリ吾人ニシテ若シ此ノ儘ニテ之ヲ放擲センカ我モ亦露國海軍ノ如ク事ニ當テ初テ良官ノ庸材タルヲ知リ晩時ニマカロフ、スクルイドロフヲ急派スルノ狼狽ヲ演スルノ日ナキヲ得ンヤ故ニ吾人ハ之ヲ以テ日露戰役ノ與ヘシ一大敎訓トシ先ツ平時ニ在リテ良司令長官ヲ選任シテ以テ他日ニ於ル制勝ノ基礎ヲ作ラサルヘカラス

三八　浦鹽艦隊ノ朝鮮海峽附近出現（「タイムス」社說）

（一九〇四年六月十六日發刊「タイムス」所載）

海軍中將スクルイドロフ（編者曰ク同中將ハマカロフ戰死後太平洋艦隊司令長官ニ補セラレタルモ終ニ旅順口ニ着任スル能ハスシテ浦鹽ニ滯在セリ原文ニ同中將浦鹽艦隊ヲ直率シテ出動シタルモノトス姑ク之ニ從フ）カ浦鹽艦隊ヲ率ヰテ朝鮮海峽附近ニ出現シ又巡洋艦「ノーウヰク」カ旅順港外ニ出動セシハ今復タ世人ヲシテ海戰ニ注意セシムルニ至レリ「ノーウヰク」及ヒ其ノ姉妹艦カ久シク港内ニ蟄伏シタル後「ノーウヰク」ノ出動ヲ見ルニ至レルハ浦鹽旅順兩艦隊ノ聯合ヲ策セントスル爲メナルヤ否ヤハ姑ク措キウヰトゲフト少將カ白晝同艦ヲ出シ沿岸砲臺ノ掩護ノ下ニ三時間港外ヲ巡航セシメタル目的ハ果シテ那邊ニ在ルカ想像ニ苦ムモノアリウヰトゲフト少將ニシテ果シテ浦鹽艦隊ト相合スルノ目的ヲ有シタリトセハ日本水雷艇隊及ヒ驅逐隊監視ノ下ニ白晝出港スルカ如キコトアラサルヘク晴夜荒天若クハ濃霧ノ時敵艦ノ在ラサルニ乘スルヤ必セリ日本艇隊ハ努メテ「ノーウヰク」及ヒ之ニ伴ヘル水雷艇十隻ヲ誘致セント試ミタレトモ「ノーウヰク」ハ「ペトロパウロウスク」ノ先例ニ鑑ミ少時砲火ヲ交ヘタル後歸港セリスクルイドロフ中將若シ浦鹽艦隊ヲ以テ旅順艦隊ト相合セシメ得ヘシト期セハ則チ餘リニ自ラ信スルニ失セン然レトモ其ノ浦鹽ヲ出テ朝鮮海峽ニ南下シ遠ク壹岐ニマテモ進航シ得タルハ事實疑ナキモ如何ニシテ露國艦隊カ上村中將ニ發見セラルヽコト無ク又追擊セラルヽコト無クシテ壹岐ニマテモ遂シ得タルカハ今一ノ疑問タリ蓋ニ日本兵ノ武勇ヲ全世界ニ驚嘆セシメタル金州丸ノ慘劇後未タ日アラサル今日吾人ハ日本艦隊ノ敵ノ來襲ニ對スル監視ハ二倍ノ嚴密ヲ加ヘ居ルコト、推測セサルヲ得ス當時速力二十海里ノ露國巡洋艦カ上村中將ノ目ヲ竊ミ金州丸ヲ擊沈シタル事實ハ同中將ヲシテ斯カル快速力軍艦ハ己レニ有利ナル事情ノ下ニハ巧ニ其ノ影ヲ韜スノ容易ナルヲ悟ラシメタルナルヘシ蓋ニ上村中將ハ金州丸ノ運兵船タルニモ拘ラス水雷艇數隻ノ外何等ノ護衞ナクシテ北進セシメ以テ自ラ好ンテ危險ヲ賭シタリ後ニ及ヒテ其ノ過ヲ覺ルモ既ニ晩シ然ルニ此ノ同一ノ露艦カ今又朝鮮海峽監視ノ任ニ當レル上村艦隊ノ發見スル所トナラスト云フニ至テハ上村中將ハ前日ノ訓鑑ヲ牢記セサルモノニ似タリ浦鹽斯德ハ二港口ヲ有シ之ヲ監視スルコト極テ難ク且金州丸擊沈ノ時浦鹽艦隊ノ行動ヲ祕ケタル濃霧ハ重ネテ同艦隊今回ノ出動ニ利セシヤモ知ルヘカラス今回ノ出動ハ日本運送船ニ如何ナル損害ヲ加ヘタルヤ未タ詳ナラサルモ其ノ二三隻ハ擊沈セラレタルモノヽ如シ日本運送船カ何等ノ護衞ナクシテ航行中敵艦ノ來襲ニ遇ヒシハ日本ニ取リテハ如何ニ其ノ擧ノ不意ニ出テシヤヲ知ルニ足ルヘク又スクルイドロフ中將ニ取テハ浦鹽艦隊出動ノ成功ニ得意滿々タルヘシ然レトモ其ノ歸航ハ或ハ來航ノ時ヨリモ困難ナルヲ見ン壹岐發電ニ據レハ日本軍艦數隻ハ既ニ之ト會戰スト云フ即チ此等ノ日本軍艦ハ速力及ヒ兵器ニ於テ浦鹽巡洋艦ニ劣ルモノタルニモセヨ有力艦之ニ馳セ加リ互角ノ勢力ヲ以テ浦鹽艦隊ト對戰スルニ至ルマテ之ヲ控制スルハ敢テ難キニアラサルヘシスクルイドロフ中將ハ蓋此ノ出動ヲ試ムルニ當テハ初ヨリ其ノ危險ヲ覺悟セシナルヘク即チ中將ハ港内ニ蟄伏スルノ不名譽ヲ受ケンヨリモ寧ロ危險ヲ擇ヒタルモノナルヘシ

三九　浦鹽艦隊ノ朝鮮海峽附近出現（軍事批評家）

（一九〇四年六月十六日發刊「タイムス」所載）

英國人ハ必ス浦鹽艦隊ノ朝鮮海峽ニ出現セル機功ト剛膽トヲ稱揚スルナラン日本人ハ必ス此ノ畫策ニ富メルスクルイドロフ中將ニ止メヲ刺サント極力爲ス所アルヘク一電報ニ據レハ日本軍艦ハ既ニ戰ヲ交ストニ云フ其ノ結果ハ固ヨリ未タ知

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ルヘカラス露國ハ開戰以來殆ト自ラ攻勢ヲ執ルノ勇ナケレハスクルイドロフ中將ノ襲撃ハ其ノ實價以上ノ歡迎ヲ博スルヲ疑ハスト雖モ之カ爲メニ戰局ノ大勢ニ何等影響ヲモ及サス又二三隻ノ商船ヲ捕獲セシカ爲メニ其ノ最良巡洋艦ヲ危地ニ陷ラシムルハ或ハ暴擧ノ譏ヲ免レサルヘシ然レトモ驍勇ナルスクルイドロフ中將ノ剛膽冒險ハ固ヨリ世界ノ同情ヲ惹クニ足ルモノアリ若シ能ク追撃ヲ免レテ其ノ根據地ニ歸ラハ中將ノ崇奉スル露國海軍ニ新活氣ヲ勃興セシメ又露國幷ニ世界ニ向ヒ是迄露國皇陛帝下ノ海軍ニ災厄ヲ蒙ラシメタルモノハ海軍其ノ物ノ罪ニアラスシテ他ニ其ノ責ニ任スヘキ者アルコトヲ證明スルコトヲ得ヘキナラン

四〇　上村艦隊ノ浦鹽艦隊ニ對スル行動　（軍事批評家）　（一九〇四年六月二十日發刊「タイムス」所載）

浦鹽斯德艦隊ノ逍走及ヒ日本艦隊ノ之ニ對スル追撃ハ海上別働戰贊否ノ世評ヲ嘖々タラシメ各海軍國ノ注意ヲ喚起セル一大問題ト爲レリ「グロモボイ」「ロシーヤ」「リューリク」ノ要目ハ既ニ世ニ知ラレタレハ爰ニ贅セス唯右三巡洋艦ノ排水量ヲ順ヲ追フテ記スレハ一ハ一萬二千三百三十六噸一ハ一萬二千二百噸一ハ一萬九百四十噸ニシテ其ノ有力ナル備砲ノ舷側發射彈量ハ千二百乃至千三百斤公稱速力ハ十八乃至二十海里ナルヲ記憶シ居レハ足レリトス

「リューリク」ハ三艦中恐ラクハ速力最緩効力最劣ナラン而テ編隊同航中全隊ノ速力ハ最緩艦ノ速力ニ準スルヲ常トス然レトモ此等巡洋艦ハ久シク休養シ且其ノ根據地ニハ完備ノ船渠ヲ有セシカ故ニ戰鬪航海ノ役務ニ堪フヘキ良況ニテ出發シタルモノナルヘク隨テ「リューリク」ト雖モ尙十五海里以上ノ航續速力ヲ出シ得ヘキモノト視ルモ妨ナシ此ノ巡洋艦隊朝鮮海峽附近ヲ去リテ後其ノ取レル航程ヨリ推セハ十一海里半ノ平均速力ヲ以テ航走セシモノナルコトヲ知ルヲ得ヘシ又信スヘキ筋ヨリ聞ク所ニ據レハ同艦隊ハ浦鹽斯德ヲ發シタル後先ツ東方ニ航シ次テ南方ニ轉シタリト云フヲ以テ司令長官（ベゾブラーゾフナラン）カ浦鹽艦隊ヲ率ヰテ出發シタルハ六月十一日夕ナルヘシ夫ヨリ三日間經濟速力ニテ進航シタリトセハ對馬ノ近傍ニ達セシハ十四日ノ夕ナリト云フヘシ斯テ同島沖ニ一夜ヲ送リ下ノ關海峽ノ門口タル門司ヲ距ルコト四十海里ノ海面ニ現レ時間ノ許ス限リ力ノ及フヘキ一切ノ暴戾ヲ行ヘリ而テ同艦隊ノ玄海灘ニアリトノ報傳ヘラレタルハ十五日ノ午後四時頃ナリキ此ノ間上村中將ハ何事ヲ爲シツヽアリタルカ吾人ハ正確ナル報道ヲ聞知セスト雖モ先ツ信據スヘキモノト思ハルヽ通信ニ由リテ察スルニ同中將ハ十五日午前九時三十分ヲ以テ追撃ノ途ニ上レルカ如シ尙他ノ筋ヨリ聞ク所ニ據レハ別ニ數隻ノ日本軍艦モ同日露艦ヲ追撃セントシテ佐世保ヲ出發シタリト傳フ其ノ正否ハ固ヨリ判スヘカラスト雖モ右ノ二報ヲ綜合シテ推考セハ露艦來襲ノ警報アリシ時上村中將ハ佐世保ニアリタルモノヽ如シ露國艦隊ノ斯ク久シク玄海灘ニ在リタルハ頗ル危險ヲ冒セルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ日本ニシテ若シ能ク豫メ戰局ノ所要ニ應スルノ準備成リ居リシナランニハ露國巡洋艦ハ十五日ノ午後ヨリ其ノ夜ニ至ル間ニ於テ日本水雷艇又ハ軍艦ノ攻撃ヲ蒙ルカ然ラサルモ其ノ追躡及ヒ有効監視ヲ免ルヘカラサレハナリ

浦鹽斯德艦隊ニ對スル日本ノ行動ハ不思議ニモ當初ヨリ盡ク不運ニシテ上村中將ハ二タヒ敵ヲ逸シ其ノ都度我ニハ著大ナル損害ヲ加ヘラレ彼ニハ何等ノ損害ヲ與フルニ至ラサリキ日本ハ浦鹽艦隊ニ對シテ幾隻カノ有力艦ヨリ成レル艦隊ヲ備フルアリ其ノ勢力敵ニ比スレハ優力ナルノミナラス無線電信ノ便宜ヲモ有スル等ノ事情ヨリ考フレハ上村中將ノ行動ニ就キ自ラ失望ノ念ナキ能ハス露國司令長官ハ日本近海ノ中心ニ入リテ其ノ島國人ヲ侮蔑セリ而モ充分之ヲ侮蔑スルヲ得ヘキ時間ヲ測定シタルモノヽ如シ當時露國司令長官タルモノ上村中將ノ佐世保ニアリシヲ知ラハ同中將カ部下ノ艦隊ヲ率ヰテ出動シ猛烈ナル砲火ト假借ナキ追撃トヲ加フヘキコトヲ知リシ筈ナリ露國艦隊ハ勢力劣弱ナルニ加ヘテ根據地ハ遠ク六百五十海里ノ彼方ニアリ此ノ時ニ當リ露國司令長官ハ如何ナル態度ヲ取リタルカ浦鹽斯德ヘノ航程ヲ顧ミレハ日本軍艦ハ速力優等ナルヲ以テ途中浦鹽艦隊ニ追及スルカ然ラサレハ或ハ我ヨリ先キニ浦鹽斯德ニ達セントモ亦知ルヘカラス是ニ於テカ彼ハ巧ニ東北ニ汽走シテ沖ノ島沖四海里ノ海面ニ出テ途ニ一隻ノ帆船ヲ捕獲スルヲ得タリ時恰モ十六日ノ午後三時ナリ後彼ハ津輕海峽ノ西口ニ向ケテ其ノ針路ヲ取リ十八日午前五時三十分同海面ニ達セリ即チ六十一時間半ニシテ曩ニ暴戾ヲ行ヒタル地點ヲ距ル七百海里ノ所ニ達シタルモノニシテ依テ以テ其ノ航續速力ノ十一海里半ナルヲ算ス

ルヲ得ヘシ彼ハ日本司令長官ニシテ露艦最早朝鮮海峽ニアラストノ報ニ接セハ果シテ如何ナル行動ニ出ツヘキヤニ思及シ朝鮮海峽ニ其ノ敵ヲ發見スルコト能ハスンハ必スヤ全速力ヲ以テ進ンテ浦鹽斯德ニ至ルナラント推斷セルモノヽ如シ」

朝鮮海峽ノ北口附近ニハ多數ノ島嶼散點シ恰モ哨兵線ヲ張ルカ如クナルヲ以テ日本ニシテ此等ノ島嶼ヲ無線電信所ニ利用シタランニハ海上ノ消息ヲ網羅スルコトヲ得ヘク從テ今囘ノ如キ損失ハ一切防止スルヲ得タルナラン

此等ノ島嶼ハ朝鮮海峽ノ北方二百五十海里ニ亙リテ自ラ一連ノ監視地點ヲ作シ無線電信所ニハ誠ニ理想上ノ地勢タリ即チ鬱陵島、竹島、沖ノ島等ノ間ニ無線電信ヲ通シ其ノ兩側ヲ朝鮮及ヒ日本ノ陸上電信ニ連結シ補フニ夜間哨戒任務ヲ行ハハ右ノ一地點ト其ノ隣地點トノ距離ハ何レモ百海里ノ上ニ出ツルモノナキヲ以テ如何ナル敵艦ト雖モ之カ目ニ觸ルヽコトナクシテ此ノ間ヲ通過スルコト能ハサルヘキナリ

浦鹽艦隊ノ津輕海峽西口ニ達シタル時ハ出港後既ニ六日半ヲ經タルモノニシテ約千五百海里ノ間ヲ航走シタルモノナリ帆走時代ニアリテハ貿易破壞戰爭ハ一ニ帆ニ賴リテ長日數ノ間續行シタルモノニシテ艦船ハ無風乄天候ニ遇ハサル限リハ其ノ推進力ニ何等ノ制限ヲ受クルコトナク而モ無風ノ結果ハ敵味方共ニ等シク感スル所ナリ然レトモ今日ニ於ル貿易破壞戰爭ハ一ニ石炭ノ爲メニ其ノ行動ヲ制限セラレ昔時トハ全然戰鬪ヲ別個ノ基礎ニ置クモノナリ吾人ハ是迄ノ經驗ニ徵シ之ヲ判斷スレハ露國巡洋艦ハ最大經濟速力ニテ汽走シタリトシ之ヲ計算セハ「リューリク」ハ十八日ノ朝ニハ既ニ其ノ炭庫全量ノ半ヲ消費セサルヘカラサル筈ナリ即チ同艦ノ貯炭高二千噸ノ中九百噸乃至一千噸ハ既ニ焚了シタルナラン故ニ更ニ石炭ヲ補充スルカ若クハ投錨スレハ兎ニ角然ラサレハ同艦ハ六月二十四日ニ至リテ絕命ノ期ニ到ルヘシ僚艦モ亦石炭補充ヲ受ケサレハ恐ラクハ之ト同日ニ同運命ニ陷リ共ニ自滅シタルナルヘシ

此ノ石炭補充問題ハベゾブラーゾフカ浦鹽出港前既ニ考察シタル所ナルヘシ然ルニ同人カ今日ニ至ルマテ敵ノ抑制スル所ト爲ヲサリシヲ以テ見レハ其ノ計策ハ尙豫定通リニ進行シ居ルモノト云フヘシ彼ハ果シテ如何ナル計策ヲ用ヒタルカ之ヲ探究スルハ頗ル興味アル問題ナリトス而テ博濶多樣ノ經驗ヲ有スル海軍軍人ニシテ初テ之カ推定ヲ下シ得ルモノナリトセハ爾餘ノ海軍軍人ノ如キハ之ニ依リテ新式ノ海上作戰カ無量ノ困難ニ圍繞サルヽモノナルヲ悟ルナラン

先ツ第一ニ注意スヘキ事實ハ浦鹽艦隊カ去十八日朝西北ニ向ケ進航スルヲ認メタリト云フニアリ其ノ目的果シテ何ノ爲メナリヤ同艦隊若シ此ノ針路ヲ保續シタリトセハ韃靼海灣ニ入ルカ若クハ宗谷海峽ヲ經テ大洋ニ出ツルモノト見做サヽルヘカラス韃靼海灣ハ五月末ニ至ル迄ハ全部開航ノ期ニ到ラス蓋浦鹽艦隊ノ長ク港內ニ滯泊シ居タルハ之カ爲メナリ何トナレハ之ヨリ早キ季期ニ在リテハ未タ此ノ遡路ノ開通セサリシヲ以テナリ浦鹽斯德ニハ義勇艦隊ヨリ買上ケタル「レーナ」ノ如キ船舶アリ倉庫船又ハ給炭船トシテ用ヒ得ヘキカ故ニ艦隊ト共ニ出港シ相別レテニコライエフスク又ハ其ノ他ノ所ニ集合シ居タランモ亦知ルヘカラス又開戰以來既ニ日ヲ經タルカ故ニ其ノ間ニハ露國海軍省ハ歐米ヨリ若干ノ石炭船ヲ備入レ北太平洋上往來稀ナル島嶼ニ送リテ浦鹽艦隊ニ會セシメ石炭ヲ補充シタランモ亦知ルヘカラス

移動根據地ナルモノハ或海軍國ニ於テハ深ク之ニ注意ヲ拂ハスト雖モ其ノ價値大ニ觀ルヘキモノアリ解合自在ノ裝置ヲ有スル浮船渠ノ如キハ曳船ニ由リ一日百海里ヲ航シ得ルノ事實既ニ知ラレタリ之ニ加フルニ倉庫船、石炭船等總テ巡洋艦隊ノ所要ニ應スヘキ設備ヲ以テセハ往來稀ナル島嶼又ハ港灣ヲ變シテ至良ノ根據地タラシメ大ニ其ノ用ヲ作スト同時ニ其ノ所在ヲ世ニ秘スルニ便ナリ然レトモ露國海軍省カ果シテ此ノ事業ヲ遂行スルニ必要ナル技倆及ヒ忍耐ヲ有スルヤ否ハ何人モ判知スヘカラサル問題ニシテ之ニ使用スル地點ハニコライエフスクト北太平洋中ノ一島ナルカ露國若シ石炭船ヲ備ヘ居ラハニコライエフスクノ方其ノ集合地ニ選定セラレタルラシク思ハル

然レトモ露國司令長官ハ一タヒ津輕海峽沖ニ現レタル以上ハ其ノ出現及ヒ北去ノ事實ハ直ニ東京ニ電報セラルヘキヲ承知シ居ルモノト推察セサルヘカラス故ニ若シ同司令長官ニシテ窃ニニコライエフスクニ隱ルヽカ又ハ洋中ニ其ノ影ヲ沒セント欲セハ自ラ陸方ノ視界外ニ遠サカルヘキ筈ナリ然ルニ海峽附近ニ彷徨セル一二ノ汽船ヲ捕ヘント欲シテ此ノ邊ニ近寄ルカ如キハ徒ラニ自ラ其ノ影ヲ漏ラスノ愚ヲ免レス何トナレハ露國艦隊ノ十四日出現ノ警報函館ニ達スルヤ日本諸船舶ノ出港ハ即刻差止メラレタレハナリ然レトモ露國司令長官ハ其ノ北航ノ報十九日或ハ二十日ニ浦鹽港外ニ監視中ナ

ル上村艦隊ニ達セシカ上村艦隊ハ必スヤ去リテ北向スルナラマイト豫期セシナルヘシ

斯ノ如キ事情ナルヲ以テベゾブラーゾフ中將若シ其ノ根據地ニ歸著セント欲セハ或ハ十八日ノ夕ニ至リ再其ノ踵ヲ廻シテ南方ニ急航シ敵ヲ誘ヒ去ラシメタル頃ヲ見計ラヒ二十日又ハ二十一日ノ夜ニ及ンテ竊ニ浦鹽ニ入港セシコトヲ謀リタルナルヘシ

思フニ「パヤーリン」「ノーウヰク」其ノ他速力優等ナル幾隻ノ軍艦ニシテ若シ目下切迫シ居ル運命ヲ遁レンコトヲ試ミタランカ浦鹽艦隊ノ津輕海峽附近ニ於ル牽制ハ必スヤ或程度マテハ日本艦隊追擊ノ壓力ヲ減殺スルコトヲ得タルナルヘシ夫カアラヌカベゾブラーゾフノ出動中十四日「ノーウヰク」ノ突然旅順港外ニ出現シタル事實ハ吾人ヲシテ東西相應セントスルノ計畫ナリシカヲ思ハシムルニ足ルモノアリシカ意外ニモ同艦ハ遂ニ港内ニ退却シ其ノ後ニ逸出ノ形跡アルヲ見ス此ノ逸出計畫ハ指揮者其ノ人ヲ得且天運ノ之ヲ祐クルアラハ之ヲ敢テシテ必スシモ成功セストハ言ヒ難シ

今ヤ百事ハ上村ノ行動如何ニ繋レリ上村若シ智將ナラハ二十四日又ハ二十五日ノ朝ニ至ルマテ必スヤ浦鹽斯德附近ニ止ルナランベゾブラーゾフ若シ其ノ日ニ至ルモ歸リ來ラサランカ彼ハ何カ別ニ計畫スル所アリ又石炭補充ニ就テモ何カ別ニ手段ヲ備フルモノト視做サヽルヘカラス巡洋艦ニシテ若シ餘儀ナク避難港ニ入ルコトアリトセハ此ノ避難港ハ却テ其ノ巡洋艦ニ不利ニシテ敵ハ直ニ其ノ所在ヲ探知シ早晩必ス之ニ攻擊ヲ加フルニ至ルヘシ浦鹽斯德ニ對スル日本ノ行動ハ、日本海軍戰略中最拙ナリトノ批評ハ既ニ久シ然レハニヤ「ペトロパヴロウスク」ノ爆沈以來上村ハ援ヲ得テ銳意其ノ任務ヲ行ヒ北方ノ敵港ニ對スル監視ヲ嚴ニスルヲ得ルニ至リタルカ如シ去十八日ノ紙上ニ揭載セラレタル我カ博通多識ナル在東京通信員ノ有益ナル報道ハ上村艦隊ノ勢力增援ヲ證示ス東鄉ハネルソント同シク世ニ稀ナル傑帥ナリ英國ニ唯一ノネルソンアリタルカ如ク日本ニ於テモ亦結局傑帥トシテハ東鄉獨リ其ノ名ヲ專ニスルニ至ラン然ラハ此ノ點ニ於テハ日本海軍史ハ好ク我カ海軍史ト一致スル所アリ

凡海軍力ヲ以テ敵ヲ避難港ニ確ニ閉込メンカ之ニ次テ必ス採ラサルヘカラサル唯一ノ眞策ハセント、ヴィンセント卿ノ言ヘルカ如ク「窟中ニ入リテ獅子ノ髯ヲ攫マハ決シテ其ノ手ヲ弛ムルナ」ニ在リ東鄉カ露國太平洋艦隊ノ主力ヲ實際ニ破壞スルヲ得タルハ此ノ原則ヲ固守シタルカ故ナリ然ルニ日本海方面ニ於テハ之ヲ忽諸ニ附セシカ爲メ我カ同盟國ハ此ノ悲ムヘキ大損害ヲ被ルニ至レリ

造船學、機關學、化學ハ兵術上至重至要ノ科目ナレトモ終局ニ至テハ「人員」ト稱スル一大要素ニ俟タサルヘカラス世人ハ海軍軍人或ハ陸軍軍人ヲ呼ヒテ提督ト云ヒ或ハ將軍ト云フハ恰モ凡庸ノ技術者ヲ呼ヒテ官立技術會員（ローヤル、アカデミヤン）ト云フト同一般ニシテ其ノ名必スシモ其ノ實ヲ伴フヘキモノニアラスト思惟スヘキ理由ノ存スルアリ吾人ハ機關ノ實馬力ヲ計算スルカ如クニ人智ノ實量ヲ算示スルコト能ハス兵術ト稱スヘキ一種ノ妙能ハ此ノ所謂實智力ノ中ニ存スルモノニシテ成敗利鈍ハ兵術家其ノ人如何ニ係ルモノナリ

四一　旅順艦隊ノ大擧出動

（一九〇四年六月二十七日發刊北清日報所載）

今回旅順艦隊ノ大擧出動セル事實ハ少クトモウヰトゲフト少將カ其ノ本國政府ニ各艦ノ修理竣工セリト打電セルコト強チニ誇張ノ言ニアラサリシヲ證スルニ足ルモノナリ米國「インヂヤヂポリス、ニウス」ノ特派員アーラー氏（譯者曰ク同人ハ六月六日「ツヤンク」ニテ芝罘發同十一日双島灣ニ上陸シ同日哨兵ニ發見セラレ旅順口ニ護送セラレ同十三日著五日間拘留ノ後退去ヲ命セラレ同十二日芝罘ニ著セリ）カ旅順口ニ冒險的旅行ヲ爲シテ齎セル報道ニヨレハ彼ハ獄窓中ヨリ五隻ノ戰艦ト五隻ノ巡洋艦カ其ノ修理ヲ終ヘテ試運轉ヲ爲スヲ見タリト云フコトナルカ東鄉司令長官ノ公報ニハ六隻ノ戰艦ト五隻ノ巡洋艦ヲ認メタリトアレハアーラー氏ノ旅順ヲ去レル後「ツエザレウヰチ」モ亦其ノ修理竣工都合六隻トナリシナラン

旅順ニ於テ絶エス聞エタル爆發ノ響ハ疑モナク閉塞船破壞ノ爲メナリシナリ露艦カ今回港口水道ヲ開キテ出動セルヲ見テ日本閉塞事業ノ失敗ニ終リシヲ速斷スルハ不可ナリ何トナレハ日本陸軍ノ遼東半島ニ無事上陸スルヲ得タルハ全ク閉塞事業ノ効果ナレハナリ若シ港口ノ閉塞ニシテ實行セラレサランカ日本陸軍兵ノ輸送船隊ハ浦鹽艦隊ノ暴行ニ數倍セル

損害ヲ蒙ラサルヲ得サリシナランノ

軍艦ノ修理竣工セハ試運轉ノ爲メニ短航海ヲ爲スハ各海軍國ノ常トスル所ナリ然レハウヰトゲフト少將カ其ノ軍艦ヲ率ヰテ出港セルコト必スシモ他ロニ遁入セントト企テシカ故ニアラス少シク南方ニ航下シテ後引返シ砲臺掩護ノ下ニ碇泊セントト爲シタルナラン彼ハ全ク試運轉ノ爲メニ出動セシモノナレハ固ヨリ日本艦隊ト一大決戰ヲ試ムルノ覺悟アリシニアラス然ルニ不幸ニシテ機敏勇敢ナル日本海軍ノ襲擊ニ依テ再多大ノ損害ヲ蒙ルニ至レリ勿論露國艦隊ハ日本水雷艇ノ襲擊ヲ豫期セシナランモ較大ノ水雷艇ハ如何ニ猛烈ナル砲擊ト探海燈ノ射光トヲ以テスルモ之ヲ擊沈スルコト能ハサリシナリ以テ水雷艇ノ効力ノ如何ニ大ナルカヲ見ルヘシ或ハ曰クウヰトゲフト少將ハ今ヤ日本戰艦ハ僅ニ朝日三笠ノ二隻ヲ存スルノミ他ノ三隻ハ沈沒シ富士ハ大破損ヲ受ケテ用ヲ爲サストノ情報ヲ信シ大膽ニモ外海ニ於テ日本艦隊ニ挑戰シタルナラント此ノ情報ノ事實無根ナルハ既ニ明ナルモ彼尚之ヲ疑ヒ其ノ虛實ヲ確メンカ爲メニ大擧出動ヲ試ミタルモノトセハ東鄉大將カ總艦船ヲ率ヰ出戰セルヲ見テ更ニ一驚ヲ喫シタルナラン勿論東鄉大將ハ旅順口沖ニハ露國機械水雷ノ澁設シアルヲ知リ大艦ヲ港外ニ近ク進メス敵艦ノ動靜ヲ監視スルノ任務ハ一ニ之ヲ小艦艇ニ任シタリ過日ノ奇功ハ則チ此ノ計畫ノ全ク頁策ナルヲ示スノ一例タリ

四二　旅順艦隊ノ大擧（軍事批評家）（一九〇四年六月二十七日發刊「タイムス」所載）

去十九日露國政府ハ絶東太守アレキセイエフノ電奏セル太平洋艦隊司令長官ウヰトゲフト少將ノ報告ヲ發表シテ曰ク太平洋艦隊ハ全部修理ヲ了シ充分其ノ戰鬪力ヲ囘復スルニ至レリト此ノ公報ハ稍事實ニ近キモノヽ如シ然レトモ歐洲ニ於テハ絶東太守ノ此ノ電奏ニ重キヲ置ク者頗ル少シ何トナレハ其ノ聲明ハ世人ヲシテ餘リニ多クヲ信セシメントスルノ狀アリテ今假ニ其ノ言フ所ヲ事實トシテ各艦修理成レリトスルモ日本ノ手ニテ旅順港口ニ沈メタル閉塞船ハ尚大艦ノ出港ヲ阻礙スルニ足ルヘシト思ハレタレハナリ

然レトモ雖ニ損傷ヲ受ケタル各艦艇カ六月二十三日ノ戰鬪ニ參加セルヲ以テ見レハアレキセイエフ太守ノ言モ或點マテ其ノ正確ヲ失ハサルモノト云フヘク縱令外洋ニ出テサリシトスルモ兎ニ角艦隊カ其ノ全力ヲ集メテ港外ニ出テシハ事實ナリ

旅順口ノ修繕事業ハ世ヲ擧ツテ其ノ成功ヲ期セサリシニ婆羅的ヨリ派遣セラレタル技師職工等ノ手ニ由リテ機敏ニ遂行セラレシハ衆人ノ喫驚セシ所ナリ

然レトモ警眼常ニ怠ラサル東鄉司令長官ノ旅順口外ニ於ル哨艦ハ六月二十三日午前十一時「ペレスウェート」外七艦ノ驅逐艦九隻ヲ率ヰテ旅順口附近ニ出ツルヤ忽チ之ヲ發見シ無線電信ニテ東鄉司令長官ニ警報セリ而テ司令長官ハ此ノ飛信ヲ接スルト共ニ例ノ如ク敏捷ニ部下ノ諸艦艇ヲ擧ケテ旅順港外ニ直航セリ

斯テ大將ハ同日日中露國艦隊ノ視界内ニ相接近シタルモノヽ如ク敵ノ艦隊ノ戰艦六隻巡洋艦五隻驅逐艦十四隻通シテ二十五隻ヨリ成レルヲ發見セリ

露國戰艦中今日マテニ其ノ損害ヲ免レタルハ唯「セワストーポリ」「ペレスウェート」ノ二隻アルノミ又他ノ四艦ニシテ若シ戰艦タルニ相違ナシトセハ即チ其ノ内ノ一隻ハ二月九日榴彈ニ依テ損傷シタル「ポルタワ」又一隻ハ二月八日ノ夜水雷ノ難ニ罹リタル「ツエザレウヰチ」及ヒ「レトウヰザン」又他ノ一隻ハ「ペトロパウロウスク」ト同日ニ沈澱水雷ヲ罹リタル「ポベーダ」ナラサルヘカラス五隻ノ巡洋艦ハ「バヤーン」「アスコリド」「ノーウヰク」「ヂイヤナ」「パルラーダ」ナルヘク何レモ是迄ノ戰鬪ニ多少損害ヲ受ケタルモノニテ殊ニ「パルラーダ」ヲ然リトス

此等ノ破艦ヨリ成レル艦隊カ一タヒ南下ヲ試ミントスルカ如キ形狀ヲ示シタル後日沒ニ至リ重ネテ其ノ危險ナル港外泊地ニ假泊シタル當時ノ狀態果シテ如何ナリシカ吾人ノ知ル能ハサル所ナルモ誰モ聞ク如ク同艦隊ハ夜陰ニ乘シ再ヒ奔遁セントスルコトヲ謀リタリト云フ

午前十一時露艦ノ出港當時ト東鄉司令長官ノ現場ニ達シテ之ヲ目擊シタル時ト其ノ隻數ニ差違アルヲ以テ察スレハ露艦

ハ拂曉ヨリシテ出航ヲ始メシモ航海ハ困難ナルカ爲メ其ノ運動ニ終日ヲ要シタルモノナルヲ知ルヘシ
露國艦隊カ果シテ夜中南走セントス欲シタルモノナルヤ將タ又天明ヲ待チテ快戰ヲ試ミントス欲シタルモノナルヤハ判知ス
ヘカラスト雖モ唯東郷司令長官カ四ケ月前ノ舊敵ヲ再其ノ前敗ノ陣地ニ發見シ前回ト同一ノ方法ニ依リ之ニ攻撃ヲ加ヘ
ンコトヲ決意シタルハ明白ナル事實ナリトス
要スルニ露人ハ日本人ニ斯ノ如キ快速ノ決斷アルヲ豫期セス又斯ノ如キ果敢ナル行動ニ出ツルノ勇ナキヲ期シタルモノ
ナルヘシ何レニスルモ日本カ特有ノ勇氣ヲ以テ夜陰ニ乘シ其ノ驅逐艦及ヒ水雷艇ノ全力ヲ盡シテ行ヒタル攻撃ハ正シク
大効アリシヲ疑ハス而テ東郷司令長官ノ公報ノ言フ所ニテハ少クモ一隻ノ戰艦ハ水雷ニ罹リテ轟沈シタルモノ、如シ此
ノ戰艦ハ恐ラク「ペレスウエート」ナルヘシ又同公報ニ據レハ「セワストーポリ」若クハ「ポルターワ」ノ内一隻ハ進退ノ自
由ヲ失ヒ「パルラーダ」若クハ「ヂイヤーナ」ノ内一隻モ亦戰鬪力ヲ喪失シタルモノヽ如シ
日本艇隊ハ唯輕微ノ損傷ヲ受ケタルノミニテ此ノ夜ノ襲撃モ亦一隻ノ艦艇ヲモ失フコトナク又其ノ襲撃ハ唯一回ノミナ
リシカ如クナルモ其ノ有効ナリシハ二十四日ノ朝ニ至リ敵ノ損傷艦カ曳船ニ依リ港內ニ入レルニ徵シテ知ルヘキナリ
其ノ後ノ事實ニ就テハ何等ノ報道ニ接セスト雖モ芝罘ヨリノ報ニ依レハ二十四日朝モ前夜ト同シク旅順口方面ニ方リテ
盛ナル砲聲起ルヲ聞ケリト云ヘリ
ウヰトゲフト少將及ヒ其ノ部下ノ將校カ外洋ニ突出シテ以テ宿昔ノ怨ヲ敵ニ報スルコト能ハス却テ少クトモ二隻ノ軍艦
ヲ損失シ（若クハ其ノ戰鬪力ヲ喪ヒ）殊ニ艦隊中僅ニ無疵ナルヲ得タリシ二隻ノ戰鬪艦ヲモ其ノ損失艦中ニ加ヘラルヽニ
至リタルハ畢竟露國ノ不運ナリト云フノ外ナク之カ爲メ露國艦隊カ其ノ計畫ヲ廢棄スルニ至リタルハ自然ノ勢ナリト云
フヘシ
事情ノ如何ハ兎ニ角露國艦隊カ損傷艦ノ修理ト港口ノ開通ニ成功シ且逸脫ヲ試ミタルノ勇ニ至リテハ多トスヘキモノア
リ縱令露國ノ東洋政策ニ反對シタル論者ト雖モ尙同國海軍ノ此ノ不幸ニ對シテハ同情ノ念ヲ禁セサルヘシ必竟此等ノ過

失ヲ致サシメタルハ露國外交上ノ失策殊ニ犯罪ヨリ一層甚シキ悖德ノ行爲ヨリ起リシコト明ナリ世ニ或ハ東郷司令長官
カ當ク敵ノ爲スニ委シテ外洋ニ於テ堂々タル海戰ヲ行ハサリシヲ惜ム者アルヘシト雖モ敵艦隊ノ戰艦ヨリ成レルニセヨ
其ノ戰艦ハ六隻アリテ日本ノ有スル所ヨリモ實ニ一隻ノ多キヲ加フ之ヲ個々ニ比較スレハ日本軍艦ハ優勢ニシテ尙日本
側ニハ別ニ強大ナル巡洋艦隊ヲ有スルカ故ニ其ノ必勝ハ必勝ニ相違ナシト雖モ之ヲ購ハンカ爲メニハ極テ高價ヲ拂ハサ
ルヲ得ス「アレキサイエフ」太守ノ電奏ニ所謂ウヰトゲフトノ報告ナルモノハ如何ニシテ旅順口ヨリ之ヲ接受セシカ交通ノ
路既ニ絕エタル筈ナレハ無線電信カ若クハ地下電信ニ依リテ得タルモノナリトスルヨリ想像ノ及フ所ニアラサレトモ此
ノ問題ハ姑ク措キ今其ノ言フ所ニ從ヘハ當時日本ノ有シタル九隻ノ大艦中戰艦ハ三隻ノミナリシト若シ之ヲ確報ナリト
セハ露國艦隊ノ運動ノ拙劣ナル眞ニ驚カサルヲ得ス日本側ヨリ云ヘハ國家ノ目的ヲ達スルノ途尙他ニ存スルニ自カラ求
メテ高價ナル戰艦ヲ冒險ノ位置ニ陷ルカ如キハ其ノ業ニアラサルヘシ日本ハ外洋ノ戰鬪ニ勝利ヲ得ルトスルモ重ネテ他
ノ初潮ヲ失ハンカ其ノ戰勝ノ名譽ハ高價ヲ拂フテ購ヘル名譽ナリ故ニ東郷司令長官カ堅ク其ノ野心ヲ抑ヘテ專ラ國家政
策終局ノ目的ヲ重ンスルニ至テハ其ノ功績洵ニ尠少ニアラサルナリ日本戰鬪力ノ特長ハ其ノ陸海軍ノ各部カ實戰ノ經驗
ニ由テ如何ナル任務ニモ容易ク應スルヲ得ルニアリ若シ吾人ヲシテ露國人ノ位置ニ立タシメレハ先ツ第一ニ感スル不安
ノ念ハ必ス其ノ敵ノ實力ヲ測知シ得ヘカラサルノ點ニアルヘシ
海上ニアリテハ日本軍艦ハ露國艦隊ノ抵抗ニ由リテ未タ何等ノ損害ヲ受ケタルコトアラス陸上ニ於テ日本步兵ハ露國陣
地ヲ包ミテ途ニ之ヲ奪ヒ歐洲大陸ノ最有名ナル步兵ヲ掃蕩スルコトヲ得タリ又其ノ砲兵ハ縱ヤ砲個々ニ於テハ劣勢ナリ
トモ能ク敵ノ一門ニ對シテ味方ノ二門ヲ用フルコトヲ得險惡ナル道路ヲ凌キテ榴彈砲ヲ輸送シ急射撃ヲ以テ敵ノ砲壘ヲ破
壞スルヲ得タリ
歐洲人ノ輕視シタル日本ノ騎兵モ亦其ノ行動尙依賴スルニ足ルヘキモノアリ五月三十日瓦房溝ノ戰ノ如キ僅々二大隊ノ
獨立部分ハ全滅ヲ覺悟シテ哥薩克ノ全旅團ヲ衝キテ而モ之ヲ免ルヽコトヲ得タリ然レハ水雷艇ノ一小艇隊ヲ以テ二十五

隻ノ露國軍艦ヲ攻撃シ損害ヲ負フコトナクシテ敵ノ最重要ナル軍艦少クモ三隻ヲ攻破シタルカ如キ毫モ異トスルニ足ラサルナリ斯ク日本カ常ニ成功ヲ得テ誤ラサルハ今後トテモ吾人ヲシテ容易ニ其ノ手腕ヲ期セシムルコトヲ得ヘシ今回ノ襲撃タル近クモ二月八日ノ夜襲ニ比スレハ更ニ巧妙ナリト云ハサルヘカラス何トナレハ此ノ場合ニ於テハ最早急襲撃云々ナロ[illegible]スル能ハサルヘク露國艦隊ハ少クトモ日本ノ襲撃アラシコトヲ期シタレハナリ吾人ハ露國驅逐艦カ味方ノ大艦ヲ保護シ且之カ復讐ノ為メニ何事ヲモ為シ能ハサリシヲ意外ナリトセサルヲ得ス [illegible]

金州得利寺ノ敗戰後海上決戰ノ機既ニ熟セリトハ必スヤ露國海軍省ノ認メタル所ナルヘシ戰艦巡洋艦混同ノ力ヲ以テシテヲハ敵ニ勝利ヲ讓ラサルヘカラストスルモ尚敵ヲシテ其ノ勝利ニ對シテ高價ヲ拂ハシメントシタルハ至當ノ方針ナリト云フヘシ吾人ハ雖モ露國艦隊カ不吉ナル港外錨地ニ徒ラニ假泊シテ自滅ヲ招キタルニ比シ今回ソレカ史上ニ留ムヘキ近時ノ最大海戰アルヘキコトヲ期望シタリ故ニ露國艦隊ノ跼蹐夫ノ如キヲ見ルヤ其ノ如何ナル故ナルヲ解スルコト能ハサルナリ東郷司令長官出現シタルカ為メニ露國艦隊ハ俄ニ怯魔ニ魅セラレ優柔不斷ト為リシカ或ハ敵ノ沈置水雷若クハ水雷艇ノ來襲ヲ恐レテ天明マテ交戰ヲ見合セタルカ為メカ或ハ艦隊中一二隻カ其ノ列ヲ保ツ能ハサリシ為メカ或ハ或原因ニ由リ其ノ軍艦ノ航續スル能ハサリシ為メカ蓋以上ノ理由何レカノ結果ナリシナルヘシ [illegible]

佛國革命戰爭中佛西聯合艦隊ハ久シク出勤セスシテ造船廠内ニ在リシカ既ニ戰爭ニ疲レ暴風ニ揉マレテ連續航海セル英國艦隊ト對戰スルヤ此ノ休養ヲ長クセル聯合艦隊ノ戰備カ當時如何ニ疎漏ナルモノニテアリシカハ吾人ノ具ニ知ル所ナリ然レトモ今ヤ海軍ノ作戰機關一新シタル今日ニ在テモ尚這般ノ事情存スヘキカ思フニ是等ノ問題ハ両交戰國ノ秘密ヲ悉皆知リ得タル後ニ至リテ更ニ推究セント欲スル要點ナレトモ唯外形上ニ現レタル事實ノミニ徵スレハ尚舊時ノ事情ノ存續セルヲ認メ得ヘキモノアルカ如シ海上ニ慣レタル海軍ハ自カラ其ノ目的トスル所ニ鞏固ニシテ而モ事ニ處シテ斷乎トシテ疑ハサルノ概アリ之ニ反シ蟄伏ニ慣レタル艦隊ハ自信ニ乏シク為メニ猜疑ノ狀アルヲ免レサルニ似タリ

夫ハ兎ニ角旅順口ノ港口ハ今再開通シ露國ハ尚明ニ戰闘ニ堪フヘキ四隻ノ戰艦ヲ有ス吾人ハ此ノ太平洋艦隊カ無為港内ニ留リ徒ラニ不名譽ノ末路ニ甘スルモノニアラスシテ早晩再脱出ヲ謀ルナランコトハ略之ヲ豫期スルニ難カラサルナリ

終リニ旅順第十回襲撃以來旅順口艦隊ニ就キ言述筆論セラレタル世評ヲ一々觀察スルニ吾人ハ「タイムス」紙上ニ現レタルナパシ大佐ノ所論（「ペトロパウロウスク」沈沒後ノ評論）ノ特ニ正鵠ヲ誤ラサルヲ感セスンハアラス曰ク日本ノ海上危險ハ敵ノ一大戰艦喪亡ノ為メニ多少減少セラレタレハ日本ハ或期間ハ其ノ手腕ヲ擅ニスルヲ得ヘシ然レトモ若シ露國軍艦ニシテ入渠修理セラレンカ日本ニ利スル此ノ景況ハ變改センモ亦知ルヘカラス要スルニ興ノ形勢ハ未タ曾テ革新シタルニアラス唯戰局ニ永續的ノ影響ヲ及ホスモノハ獨リ戰艦「ペトロパウロウスク」轟沈ノ一事アルノミ何トナレハ戰艦ノ喪失ハ本戰役ノ繼續期間内ニハ到底恢復シ得ヘカラサレハナリト [illegible]

[illegible]

四三　日露海戰ノ實驗ニ依テ得タル教訓（アーチバルド、ハード）

[illegible]（一九〇四年六月發刊「フオートナイトリー、レヴユー」所載）

構兵未タ央ナラサルノ時ニカカリ極東ニ於ケル海戰ニ鑒ミ以テ完全ノ教訓ヲ求メントスルハ時機尚早シト雖モ顯著ナル事實ノ既ニ徵スヘキモノ一ニシテ足ラス而テ是等ノ事實ハ海戰ノ勝敗ハ邦家ノ興廢ト極テ重要ナル關係ヲ有スルコト及ヒ陸軍ノ行動ニ大影響アルコトヲ明ニセリ殊ニ日露戰爭ハ近世式兵器ノ發明セラレシ以來未曾有ノ大兵戰ニシテ所謂「制海權」ノ本義、其ノ效果、並ニ實力ト經濟力トヲ具有セル編制及ヒ戰備トハ如何ノ問題ヲ解決シ且一部私人ノ頑迷ニ陷ラレカ徒ラニ局地海防ニ汲々タリシモノハ兵理ニ據リ正々堂々ノ陣ヲ進メタルモノハ敵ニ非サルコトヲ明ニセリ而テ日露戰爭ノ如ク簡ク其ノ立證ノ明瞭的確ナルハ蓋稀ナリ [illegible]

日本ハ目下ノ交戰ニ就キ準備セシヤ爰ニ十年ナリ日本カ此ノ準備ニ拮据經營セル際ニ當リ一八九四、五年ノ日清戰爭前在東京露國公使館附武官タリシコトアルアレキセイエフ中將カ太平洋艦隊司令長官ノ職ニアリシコト及ヒ目下露軍ノ總指揮官タルクロパトキン大將カ昨夏日本カ戰備ニ汲々タル際觀光ノ為メ同國ニ在遊セシコトハ茲ニ特筆大書スルノ値アリ

其ノ極東太守ニ任セラレタルアレキセイエフハ事物ヲ未然ニ洞察スルノ機ニ出會セサルニアラス彼ハ嘗テ一タヒ日本人ノ間ニ生活シ又一九〇〇年團匪事變ノ際日本軍人ト相親炙セリ而モ日本人ノ意嚮ヲ看破シ得サリシノミナラス又日本人カ露國ノ嚴命ニ依リ一八九五年旅順口ヲ還附セシ後直ニ經始シタル軍事計畫ノ眞意ヲ悟ル能ハサリキ彼ノ露國公使館職員タル居常日本人ヲ侮蔑シ其ノ列強ノ班ニ伍セントスル志望ト經營トヲ觀テ嘲笑ヲ極メツヽアリシ際アレキセイエフカ東京ニ駐剳シ而テ反省スル所ナカリシハ露國ノ爲メニ深ク惜ム所ナリ夫露國ハ從來彼ト輪贏ヲ決センコトヲ試ミタル西歐ノ經世家ヲ頓挫セシメ遂ニ彼等ヲシテ遷般ノ觀念ヲ斷絶スルニ至ラシメタル程ノ雄邦ナルヲ以テアレキセイエフ太守ハ最後マテ日本ヲ見視シ此ノ北方ノ巨人ト戰フノ意ナキモノト爲セリ既往二三箇月間新聞紙上ニ散見セシ諸論評ヲ通覽スルニ日露兩國ノ海軍力ハ相匹敵スルニ足ルモノト思惟セラレタルカ如シ然ルニ其ノ實露國海軍ハ天下唯英國及ヒ佛國ノ海軍ニ比シテ遜色アルノミ日本海軍ニ至リテハ世界七大海軍國ノ末班ニ位シ第六等國ナル伊國海軍力ノ半ニ逮セルニ過キス即チ露國ハ一等戰艦十六隻(其ノ他幾ト竣工セシモノ二隻アリ)及ヒ舊式ノ戰艦五隻ヲ有ス之ニ反シ日本ハ僅ニ一等戰艦六隻及ヒ舊式ノ戰艦一隻アルノミ若シ裝甲巡洋艦ニ至リテハ露國ノ有セシ數ハ敵邦ニ比シテ多キコト二隻ナリ然レハ「平素露國ノ勢力」ノ無限ヲ信セシ幾多ノ批評家ハ聲明シテ曰ク縱令日本ハ戰初區々タル戰捷ヲ博スルアランモ露帝ハ增援艦隊ヲ陸續送遣シテ以テ渺タル日本海軍ヲ殲滅スルコト易々タルヘシト又曰ク島帝國ノ艦隊ハ一種ノ舶來品ニ過キス若シ泰西ノ一海軍國ト砲火ノ間ニ相見エンカ交戰一番倏チ其ノ擊滅スル所トナランノミト或者ハ又頻ニ揚言シテ曰ク日本ノ戰艦巡洋艦ノ全部並ニ驅逐艦及ヒ水雷艇ノ大部ハ外國ノ建造ニ係リ且竣成後日猶淺キカ故ニ東京海軍省ハ此等ノ機械的戰具ヲ操縱シテ以テ戰鬪ニ參與シ得ルカ如キ素養アル將校下士卒ヲ配乘スルコト能ハサルヘシ況ヤ最後ニ竣工セル戰艦三笠ノ如キハ昨春マテハ未タ其ノ授受ヲ了セサリシニ於テヲヤト其ノ他中庸ノ論議ヲ爲ス者ト雖モ尚百年前露國海軍ノネルソント砲火ヲ交ヘシ當年ヲ追想シテ今ニ露國艦隊ヲ崇敬スルノ傾アリ吾人ヲ以テ之ヲ觀レハ此等ノ露國崇敬者ハ風力ト人力トニ依リテ航駛セシ前世紀ノ艦船カ汽機ト機械的手段トヲ用ヒテ活動スル艦船ト新陳代謝セルコトヲ忘レタルモノト云フヘシ露國ハ技術ニ於テ練達セル邦ニ非ス往年海岸防禦ノ爲メ微々タル艦隊ヲ波羅的海及ヒ黒海ニ泛ヘ以テ自カラ足レリトシ未タ嘗テ一タヒモ遠洋蒼海ヲ蹴破セシコトナシ而テ露國海軍ヲ以テ攻勢態度ニ出テサリシ此ノ時代ニ於テハ比較的才幹素養アリ且勇武果敢ノ將士ヲ艦船ニ配乘セシムルコトヲ得タリ爾來星移リ物換リテ一八九八年ニ迨ヒ極東ノ風雲急ナルヲ視ルヤ遽ニ外國造船技師ヲ招致シテ以テ新艦建造ニ着手シ從來ニ比シテ二倍ノ戰鬪力ヲ保有スルニ至リ(當時露國カ意中ノ敵ハ日本ニ在ラスシテ英國ナリキ)其ノ結果露國艦隊ハ新艦ヲ率キテ初テ艫艫相銜シテ外洋ニ出ツルヲ得タルモ之ト同時ニ其ノ乘組員ニ適當ノ將士ヲ得ルノ手段ヲ悉サヽリシナリ露國ハ亞細亞諸國ニ其ノ強大ヲ誇ラン爲メ軍艦ヲ極東ニ派遣セリ然ルニ其ノ乘組員中機關兵極テ寡ク又水兵ハ啻ニ海上生活ニ慣レサルノミナラス機械ニ關スル初歩ノ智識スラ有セサルモノニシテ現ニ露國海軍ノ一將校ノ自白スル所ニ據レハ彼等ハ全ク「田間ノ農夫ニ過キス」ト云ヘリ日露戰ヲ交フルヤ歐洲海軍專門家一般ノ意嚮ハ露國ノ豫備艦隊ヲ陸續送遣スルヲ得ヘキニ依リ結局日本ハ海戰ニ於テ全敗ノ窮境ニ陷ルヘシト云フニ在リタリ且彼等ハ在極東露國艦隊ノミニテモ日本艦隊ニ比シテ彼我優劣ナシト思料セリト雖モ英國海軍將校ノミハ獨リ日本カ戰略上重要ナル長所ヲ有セルコトヲ確認セリ開戰ノ際極東ニ於ル日露兩國海軍ノ形勢ハ大要左ノ如シ

	露西亞	日本
戰艦	七	六
裝甲巡洋艦	四	六
防護巡洋艦	七	二〇
無防護巡洋艦	—	九
驅逐艦	二四	一九
水雷艇	二〇	八二

欧洲ヨリ東航中ナリシ日露兩國ノ援隊

戰艦一隻、裝甲巡洋艦一隻、防護巡洋艦二隻、及ヒ若干ノ驅逐艦水雷艇東航ノ途次紅海ニ在リタリ

亞爾然丁共和國ヨリ買收セシ裝甲巡洋艦二隻ゼノアヲ發シテ日本へ廻航ノ途ニ在リタリ

前ニ述ヘタルカ如ク日本ハ啓釁當時ニ於テハ世界七大海軍國ノ末位ニ在リタリ露國海軍ハ昨年中約一千一百萬磅ヲ費消セシニ日本ハ艦艇建造ノ爲メ臨時ニ五十萬磅ヲ支出セシ外海軍全體經費トシテ僅ニ二百三十八萬五千磅ヲ費消セシニ過キス故ニ露西亞カ其ノ海軍ノ爲メニ費消スル金額ハ其ノ敵手ノ約四倍ニ相當セリ而テ日本カ海軍全體ニ費消スル總額ハ英國艦隊カ石炭、塗料及ヒ油ノ爲メ費消スルモノニ過キス日本ハ露國ヨリ一八九五年ノ遼東半島還附ヲ强ヒラレタル侮辱ヲ復讐セシカ爲メ時機ノ到ルヲ俟チシ間ニ於テ巨額ノ國帑ヲ擲チ以テ戰捷ヲ期セント圖ルノ念ナキニ非サリシナラン然レトモ日本ノ經世家ハ國家財政ノ基礎ヲ危クスルノ不可ナルヲ認メ海軍省亦其ノ意ヲ諒シ露國カ太平洋ニ備フル艦隊ニ比シ較優勢ナリト思ハルヽ艦隊ヲ保有スルヲ以テ足レリトセリ日本海軍將校殊ニ多年露國ニ在リテ同國ノ海軍組織及ヒ艦隊實力ノ標準ヲ精察セル將校等以爲ラク苟モ材料ニ於テ彼ニ讓ル所ナクンハ日本將士ノ訓練、科學的技能及ヒ其ノ敏捷ヲ以テセハ勝ヲ制スルヤ必セリト昨年露國ハ自國ノ海陸軍ニ關シ四千八百萬磅ヲ支出セリ（惟フニ實際ハ之ヨリ多大ナルヘキモ此ノ數字ハ政府ノ計算ナルカ故ニ姑ク之ヲ擧ク）而テ日本ハ僅々七百五十萬磅ヲ費消シタルノミ

抑日本カ成功セシ所以ハ用意周到國防ノ利器ヲ採擇シ又鉅額ノ經費ヲ投シテ海運事業ノ發達ヲ鼓舞シ一旦緩急アルヤ商港ノ間軍隊輸送船ヲ徵發スルニ足ルヘキ手段ヲ採リシニ職由セスンハアラス請フ左ニ之ヲ說カン

日清戰爭ノ際清國ハ數隻ノ裝甲艦ヲ有シ日本ハ舊式ノ戰艦一隻ヲ有セシニ拘ラス優勢者ハ劣者ノ破ル所トナレリ若シ彼ノ元老院議員ヘトルヲシテ之ヲ許セシメハ彼ハ戰艦及ヒ裝甲巡洋艦ヲ以テ無用ノ長物ナリト論斷スヘシ又若シ彼ヲシテ日本ノ貴族院議員タラシメナハ日本ハ戰艦ヲ建造スルノ要ナシ戰艦ハ水雷艇ノ襲撃ニ對シテ全ク用ヲ爲サス」トナシ恰モ彼カ嘗テ合衆國元老院ニ於テ日露戰爭中ノ數事蹟ヲ引證シテ自說ヲ主張セシ時ト同一ノ論鋒ニ出ツルヤ必セリヘトル氏ハ哲人風ノ立法家ナリ彼ハ斷言シテ曰ク「戰艦ハ傷ツキ易クシテ恃ミ難キカ故ニ此ノ種ノ軍艦ヲ增造スルハ策ノ得タルモノニ非ス戰艦ニシテ若シ其ノ水線下ヲ貫徹セラレナハ重心ヲ失ヒ乍チ轉覆シテ乘員盡ク溺沒スヘキナリ」ト要スルニヘトルノ所說ハ數年前佛國海軍社會ニ一派ノ論者カ唱道セシ非戰艦論ト其ノ趣旨ヲ同シウス日本ハ斯ノ如キ淺慮速斷ナル空論家ニ耳ヲ借サヽリシナリ露人ハ當時日本人ヲ輕侮スルノ傾向アルニ反シ日本人ハ當年ノ敗者タル清人ニ對シテスラ侮蔑ヲ加フルコトナク日清戰役ノ際ノ如キモ彼我兵員ノ技倆ニ優劣ナキモノト豫定シテ備フル所アリタリ日本人ハ遂ニ露國ト構兵ノ止ム能ハサルヲ達觀シ日清戰役ノ經驗ニ鑑ミ（一）巨艦ノ建造ニ着手シ（二）艦ノ裝甲ヲ厚クシ（三）敵艦ト同等ノ攻防力ヲ具備シ且大ナル航續力ト速力ヲ有セシメ以テ彼ニ凌駕スヘキモノヲ建造セリ日本人ハ又大巡洋艦ヲ建造シ戰艦ノ如キ裝甲ト砲員防護ノ方法トヲ施シ必要ニ應シ主戰艦隊ノ戰列ニ參加セシムルコトヽ爲セリ日本人ノ資性ハ殊ニ水雷戰闘ニ適セリ此ヲ以テ日本海軍省ハ許多ノ驅逐艦及ヒ水雷艇ヲ建造スルノ議ヲ決シ更ニ此等ノ艦艇ノ活用ニ鑑メ常ニ乘員ノ教練ニ怠ナカリシノミナラス尚主戰艦隊ノ「耳目」ト爲リテ行動スヘキ艦船ノ準備ニ吝ナラサリシナリ日本人ニシテ若シ英國ノ海軍政策ヲ踏襲セシカ彼等ハ徒ラニ鉅額ノ國帑ヲ糜シテ以テ過半ハ無甲帶ニシテ砲員防護ノ設備ナキ而モ速力ナキ（戰艦ト差等アラサル）大巡洋艦ヲ得ルニ過キサリシナルヘシ

世人動モスレハ日ク日本人ハ模倣者ノミト是誤謬ノ見ナリ如何ニモ日本人ハ海軍一般ニ關スル智識ヲ泰西ノ指導ニ仰ケルニテハ相違ナシト雖モ又一方ニ於テハ自カラ一機軸ヲ出セリ即チ一八九五年以降一切ノ先例ニ拘泥セサル一種特得ノ艦隊ヲ創設セリ此ノ戰闘單位タル戰艦ノ構造如何ニ就テハ今之ヲ喋々スルノ要ナシ唯茲ニ一言シ置クヘキコトハ其ノ內最初建造セシ戰艦ニハサー、ウイリヤム、ホワイトノ設計ニ係ル「ローヤル、ソヴアレン」型ヲ模範トシ之ニ多少ノ改良ヲ施シ次ノ戰艦ニハ同氏ノ手ニ成レル「マジエスチック」型ヲ採用シテ又之ニ改良ヲ加ヘ最後ニ竣工セシ三笠ニハ裝甲鈑ノ配置及ヒ砲熕ノ防護ヲ兩ナカラ完備セシメ遂ニ世界ニ冠タルモノタラシメタリ（日本人カ三笠ノ如キ速力優等裝甲堅

牛ノ良戰艦ヲ設計セシハ英艦ノ制式ニ改良ヲ加ヘタルモノナリト雖モ實際ハ當時安社ノ造船技師長タリシ「フイリップ、ワッツ」其ノ敏腕ヲ以テ之ヲ助ケ安社ノ理事ノ一人タル「ジェー、ダン」氏之カ設計者タリシコトヲ忘ルヘカラス)要スルニ日本人ハ最新ノ艦型ヲ擇ハンコトニ汲々タルモ又善ク其ノ實際ニ適スルヤ否ヤヲ識別スルノ能アリ日本人ハ斯ク近世式戰艦六隻ヲ建造シテ宇内ノ賞讃ヲ博セシノミナラス又同數ノ裝甲巡洋艦ヲモ製造セリ蓋世界何レノ諸海軍國モ日本ノ如ク裝甲巡洋艦ヲ重視シ戰艦ト同數ノ裝甲巡洋艦ヲ製造セシモノハアラス此等ノ裝甲巡洋艦ハ啻ニ二十節乃至二十三節ノ優速力ヲ有スルノミナラス其ノ防禦甲板及ヒ舷側裝甲共ニ頗ル强厚ナリ各艦共ニ八吋砲ヲ裝備シ其ノ彈重ハ二百十听副砲ハ六吋速射砲十二門乃至十六門ニシテ水雷防禦用トシテ輕砲二十門ヲ有ス排水量ハ九千四百噸乃至九千七百五十噸ニシテ其ノ戰鬪力ハ優ニ獨逸戰艦「カイゼル」型ト頡頏スルニ足リ又英國戰艦「ロイヤル、ソヴアレン」ニ匹敵スルコトヲ得ヘシ日本人カ斯ノ如ク水線甲帶三吋半乃至七吋、防禦甲板二吋乃至三吋舷側上部裝甲五吋ヲ有シ速力優等載炭量豐富ニシテ火力猛鋭ナル良巡洋艦ヲ製造スルノ時ニ方リテ我カ英國政府ハ頻ニ巡洋艦ヲ增加スルノ方針ヲ執リ「パワーフル」「テーリブル」ノ二隻並ニ「パワーフル」型ノ改良式巡洋艦八隻ヲ製造セリ其ノ內「パワーフル」ノミハ實際九吋二砲二門ヲ裝備スト雖モ他ノ八隻ニハ六吋ヨリ大ナル口徑ノ砲煩ナシ又帶甲ヲモ備ヘサルナリ而テ公試運轉ノ時ニ出セル至高速力モ二十一節六ヲ超エス唯其ノ日本軍艦ニ比シテ優レタルハ較載炭量ノ大ナルニ過キス之トテモ日本艦ノ排水量ハ一萬噸以下ナルニ「パワーフル」ハ一萬四千二百噸其ノ他ノ八隻モ一萬一千噸ナリ然レハ苟モ公平ナル造船家ナランニハ日本ノ設計ノ適當ナルヲ認ムルト共ニ必スヤ英國ノ製艦計畫ヲ非難スルナラン否多數ノ專門家ハ一艦ニ付六十萬磅以上七十五萬磅ヲ支出シテ此ノ種ノ巡洋艦八隻ヲ建造セシハ英國海軍本部造船政策ノ一大過失タルヲ斷言シテ憚ラサルヘシ(「パワーフル」及ヒ「テーリブル」ハ例外ナリ)日本人ハ百事範ヲ泰西諸邦ニ盜ムノ鄙陋漢ナリト稱セラル而モ彼ハ未タ曾テ英國ニ模倣シテ一等防護巡洋艦ナルモノヲ製セス若シ前顯英艦ノ如キ巨艦ヲ製造シ之ニ裝甲ヲ施サルヽアランカ彼ハ斷チ曰ハン是愚ニ非スンハ狂ノミト日本人カ艦隊ノ「耳目」ト爲セル軍艦ハ製造費廉價ナル小形ノ快走艦ニテ其ノ多數ハ從來英國海軍ノ採用セシ「偵察艦」ト略大サヲ同シウセリ其ノ巡洋艦十二隻ハ排水量三千噸乃至五千噸ニシテ就中大型巡洋艦ニハ主砲トシテ八吋二門若クハ十二吋半砲一門ヲ備ヘ其ノ他ノ巡洋艦ニハ中口徑砲ヲ据エタリ日本人ハ右ノ外小型ノ非防護巡洋艦九隻ヲモ製造セリ斯ノ如ク日本海軍當局者ハ一定ノ方針ニ依リ出來得ル限リ低額ノ經費ヲ以テ戰艦及ヒ裝甲巡洋艦合セテ十二隻並ニ偵察艦三十九隻ヨリ成レル艦隊ヲ創設シ之ト同時ニ水雷艇八十二隻及ヒ驅逐艦十九隻ヲ製造セリ而テ日本水雷艇及ヒ驅逐艦ノ特色ハ噸數ヲ小ニシテ隻數ヲ增加シタルニ在リテ斯ノ如キハ世界何レノ國ニモ見サル所ナリ當初歐洲海軍專門家ハ日本人ノ將來露國ト黃海ニ於テ干戈相見エントスルノ意アルヲ知リ彼ニ告クルニ(一)小水雷艇ハ沿岸防禦ニ効アルヘキモ本國根據地ヲ距ル遠キ處ニ於テハ利用シ難キコト(二)此ヲ以テ水雷艇ハ攻勢的海軍力ノ一部ト看做スヘカラサルコトヲ以テセシナラン然ルニ日本人ハ敢テ自說ヲ曲ケス斷然特得ノ方針ニ由レリ

日本人ハ艦隊組織ニ就テモ亦特種ノ方針ヲ執レリ日本海軍ハ財政上ノ都合ニ由リ其ノ軍艦ヲ終歲在役セシムルモノ僅ニ其ノ一部ニ過キス故ニ曩ニ風雲急ヲ告クルノ時ニ當リテサヘ就役中ノモノハ數隻ノ練習艦ヲ除クノ外唯常備艦隊アリシノミ此ノ艦隊ニ編入セル諸艦ハ敷島、八島、初瀨、朝日、三笠ノ戰艦及ヒ巡洋艦十隻トス獨リ水雷艇及ヒ驅逐艦ノミハ斷エス役務ニ從事セリ此等ノ艦艇ハ昨冬十一月上旬危機迫リシ際ニ日本ノ動カシ得ヘキ全海軍力ニシテ自餘ノ諸艦ハ皆豫備ニ編入シアリタリ而テ此等ノ豫備艦ハ極テ精鋭ニシテ大ニ用ヲ爲スモノナリ日本ハ淸國ヨリ得タル償金ノ一部ヲ以テ新海軍ヲ創設スルヤ時々艦隊全部ノ演習ヲ行ヒ其ノ敎訓ニ據リ陸海軍ノ協同戮力ノ必要ナルコト實戰上各司令官陣歿シタル際ニ其ノ後任者ヲ補缺スルノ方法等之カ應用ノ道ヲ講セリ例之日本海軍ハ每年ノ演習ニ豫備艦艇ノ實力ヲ査閱スルノミナラス此ノ機ヲ利用シテ海軍高級武官ヲ諸艦ニ配乘セシメ以テ運用術及ヒ戰術ニ就キ裨益スル所アラシメ又若干ノ陸軍將校ヲモ便乘セシムルヲ常トセルカ如キ是ナリ一九〇〇年ノ海軍大演習擧行セラルヽヤ乘組將校ノ外之ニ參與セシ將校ニハ海軍少將四人海軍大佐七人海軍中佐及ヒ少佐二十人機關少監以上ノ機關監十一人ニシテ大機關士以下ノモノハ各艦ノ機關部ニ就テ作業ヲ視察シ自カラ啓發スル所アラシメ又陸軍參謀本部部員等二十三人ハ或ハ乘艦シ或ハ要塞ニ入リ

ヲ此ノ演習ニ參與シタリ請フ吾人ヲシテ進ンテ日本海軍ノ實戰前後ノ狀況ヲ說カシメヨ昨年十月下旬東郷海軍中將ノ新ニ常備艦隊司令長官ニ補セラルヽヤ日露兩國ノ外交談判進捗中ナルニ拘ラス艦隊ヲシテ間斷ナク艦砲射擊ヲ練磨セシメタリ而テ各鎭守府司令長官ハ同時ニ豫備艦隊ノ出師準備ニ着手シタリ凡此等ノ行動タル沈靜秘密ノ裡ニ遂ケラレシヲ以テ之ニ關シ一二ノ寓言諷示ノ新聞紙上ニ現レサルニアラサリシモ眞ノ消息タル殆ト杳トシテ知ルニ由ナカリシナリ若シ地ヲ換ヘ假ニ英國ニ於テ出師準備ノ決行セラレタリトセンカ新聞紙ニハ毎日之ニ關スル詳報ヲ掲載スルナラン否往々事實ヨリ誇張敷衍セルナルヘシ而テ無責任ノ國會議員等ハ爭ウテ質問ノ矢ヲ政府ニ放チ此等ノ行動ヲ目シテ濫ニ戰ヲ挑ムモノナリト傚サシ戰爭ノ機微ヲ保ツニ於テ日本憲法ノ規定ハ實ニ英國ニ優レルモノアリ即チ日本ハ列强ノ爲メ其ノ行動ヲ悟ラルヽコトナク忽然トシテ大兵ヲ動カスコトヲ得タリ今其ノ一例ヲ擧ケン昨年十月下旬東郷司令長官ノ艦隊ヲ率ヰテ發航スルヤ當時公ニセラレタル報道ニ據レハ唯艦隊ハ「某地ニ向テ」出發セリト云フニ過キス（其ノ某地ノ果シテ何處ナリシヤニ就テハ吾人ハ今日之ヲ臆測スルニ難カラス日本ハ當時既ニ外長山列島ニ前進根據地ヲ設クルノ準備ニ着手セリ而テ日本艦隊カ此ノ根據地ニ在リタルハ其ノ勝ヲ制スルニ與リテ其ノ力多キニ居ル）而テ東郷司令長官ハ外交談判ノ荏苒トシテ決セサル間ニ既ニ出戰ノ基礎ヲ確立シ日々陸續トシテ各海軍工廠ヨリ戰鬪材料ヲ受領セシナリ

米國ノ如キ民政國ハ勿論甚シキハ帝政國タル英國ニ在リテモ其ノ國民ハ畢生海軍兵學研究ニ委ヌル宿將ノ作戰計畫案スラ擅議妄評スルヲ憚ラス故ニ若シ日本ニシテ英米同樣ノ邦國タラシカ東郷中將ハ多少ノ建策ヲ提セラルヘク其ノ取捨ノ結果ハ怨聲四モニ起リ爲メニ其ノ位地スラ危ウスルニ至リシナルヘシ東郷中將ハ開戰前日本艦隊ノ全部ヲ佐世保軍港ノ內外ニ集中シ而テ四周海ヲ環ラセル英國ノ海岸線ト略相等シキ日本島國ノ全海岸線ヲ無防禦ノ儘ニ委シ又臺灣守備ノ爲メ分艦隊スラ派遣セサリキ要スルニ日本帝國ノ全沿岸ハ佐世保及ヒ其ノ附近ヲ除クノ外ハ何等ノ局地防禦ヲ施サヽリシモノト云フヘシ米西戰爭ノ際セルヴェラ艦隊ノクーブ、ヴァアード諸島附近ニ遊弋スト思料セラルヽヤ合衆國ノ大西洋沿岸ニ棲息セル人民ハ當局者カ邊海ノ防備ヲ忽ニシ彼等ヲ危地ニ委棄スルコトヲ怨ミ囂々トシテ其ノ非ヲ鳴セリ然ルニ民

政國ニ於テハ第一流ノ戰略家ト雖モ妄怨ヲ無視スル能ハス此ノ大西洋沿岸住民ノ抗議ニ依リ作戰委員ノ作戰計畫遷延決スル能ハサラシメシノミナラス又文官ノ掣肘スル所トナリテ之ヲ變改スルノ已ムナキニ至レリ抑國家ニ軍艦ヲ備フルノ目的ハ自國ノ邊海ヲ以テ戰場ト爲スコトヲ避ケテ敵國沿岸ヲ以テ已レノ疆界線ト爲サントスルニ在リ然ルニ納稅者タル公衆ハ軍艦ヲ以テ專ラ海岸防禦ノ用ニ供スルモノナリト誤解スルコト以上西米戰爭ニ於ル米國國內ノ民情ヲ通觀セハ思半ニ過クルモノアラン日本ニハ幸ニシテ民政國ノ如ク妄ニ海陸軍當局者ノ企畫ニ干涉スル者ナシ日本ノ新聞ハ始ヨリ沈靜自カラ持シ而テ政府ハ事苟モ軍機ニ關スル事項ハ堅ク口ヲ緘チ聲ヲ出サス殊ニ日本ハ海底電線ノ揚陸終點ニ當レルカ故ニ秘密ニ畫策スルノ便宜ヲ有シ又戰爭ヲ開始決行スルノ任ニ當レル者ハ他ノ掣肘ヲ受クルコトナク專心一意以テ軍務ニ鞅掌スルヲ得タリ凡斯ノ如キハ言論及ヒ出版ニ無限ノ自由ヲ有スル邦國ノ夢想シ得サル所ナリ開戰ノ兆現ルヽノ際沈默ノ貴フヘキコト金玉ノ如シ日本カ荐ニ戰捷ヲ博取セル所以ノモノハ海陸軍ノ宿將老帥カ有害無益ノ干涉ヲ受ケスシテ其ノ規畫ヲ遂行スルコトヲ得タルコト與リテ力アリト云フヘシ

東郷中將カ麾下艦隊ヲ各所ニ分遣セスシテ之ヲ集中シ得ヘキ位置ニ在リシハ謀略宜シキヲ得タルモノナリ蓋勝敗ノ由テ岐ルヽ所ハ海陸軍共ニ機ニ乘シ其ノ各部隊若クハ艦艇ヲ集中シ大攻擊ヲ敵ニ加フルト否ラサルトニ在リ是獨逸海軍政策ノ基礎ニシテ[illegible]ヲ[illegible]スル艦艇カ常ニ北海若クハ波羅的海ニ集合セラルヽ所以ノモノ此ノ政策ヲ守ルカ爲メニ非スヤ獨逸ハ英國艦隊ノ半ニタモ及ハサル海軍力ヲ備フルニ過キスシテ而モ尚憂フルノ色ナキハ是何レノ大海國モ自國ニ對シテ其ノ全兵力ヲ集中シ得ルカ如キ地利ヲ有スルモノナシトノ想定ノ上ニ基キタルモノナリ獨逸ノ秘訣ハ「集中」ナリ東郷中將ノ戰略亦然リ中將ハ麾下艦隊ノ露國全海軍ニ比シ實ニ劣レル所アルヲ知ルト雖モ波羅的艦隊ハ遠ク一萬二千海里ノ外ニ在ルカ故ニ若シ全力ヲ提ケテ敵ヲ急擊セハ露國ノ增援艦隊カ歐露ノ海洋ヨリ極東ニ到ルニ先タチ大ニ爲スアルノ餘地アルコトヲ諦レルナリ

日本ハ露國ノ詭辯ニ欺カレタルニアラス露策ノ荏苒決セサルヲ憤リ二月六日ヲ以テ外交談判ヲ斷絕スルヤ當時東郷中將

ハ日本ノ出征艦隊全部ヲ擧シテ佐世保ニ在リ日本政府ハ即時ニ露京駐箚公使ヲ召還シ東京駐箚露國公使「フォン、ローゼ」男ニモ其ノ信任状ヲ還附スルト同時ニ一大軍令ヲ東郷聯合艦隊司令長官ニ下セリ司令長官ハ此ノ命令ヲ領スルヤ直ニ艦隊各司令官及ヒ艦長ヲ旗艦ニ召集シテ徹宵議ヲ凝シ天明ニ至テ散會セシカ細大ノ要務此ノ一夜ノ中ニ全ク整ヘラレタリト云フ是ヨリ先キ日本人ハ第一ニ露艦ノ配置方如何ヲ審ニシ又其ノ艦底掃除ノ爲メ久シク入渠セサルニ依リ實際ノ戰鬪力ヲ打算シ又露艦中ニハ乘組定員充實セサルモノアリ及ヒ其ノ毫モ實戰ノ經驗ナキコトヲ知悉シ開戰前ニ在テハ司令長官スタルク中將カ艦隊ノ主力ヲ旅順港外ノ泊地ニ置キテ游弋ヲ試ミツヽアリシコト敵カ在京城露國公使ノ懇請ニ依リテ巡洋艦一隻砲艦一隻ヲ仁川ニ分遣シ居ルコト又敵艦隊中ノ裝甲巡洋艦三隻及ヒ防護巡洋艦一隻カ入渠修理ノ爲メ浦鹽斯徳ニ泊スルコト又砲艦「マンヂウール」ノ上海ニ在ルコトヲ探知セリ當時ノ情況夫斯ノ如シ日本人若シ民政主義ヲ奉スル自唱自決ノ過敏ナル人民ナラシニハ彼等ハ浦鹽斯徳ニアル強鋭ノ巡洋艦カ航行數時間ニシテ日本ノ北方海岸ニ砲擊ヲ加ヘ得ルカ故ニ此ノ海岸ノ防備ヲ忽諸ニスルノ極テ不可ナルコトヲ海軍省ニ稟申セシナラン臺灣總督モ亦其ノ統轄セル新領土警備ノ爲メ軍艦ノ派遣ヲ要請セシナラシカナレトモ東郷中將ハ幸ニシテ此等ノ憂ナカリシナリ中將ノ胸裏ニハ露國艦隊全滅ヲ考フルノ外一物ノ蟠ルモノナシ在浦鹽露艦ハ或ハ外海ニ出テヽ一二ノ市邑ヲ砲擊スルコトアランカナレトモ此ノ如キ行動ハ日本ノ邊海ヲ騷カスノミニテ戰局ノ大勢ニハ何等ノ影響ヲ及スモノニアラスト爲セリ此ヲ以テ中將ハ斷然孤立ノ浦鹽艦隊ヲ顧ミス全力ヲ擧ケテ露國艦隊ノ首力ヲ殲滅スルノ方策ヲ採リタリ

東郷中將ハ二月六日ニ至リ詳細ナル作戰計畫ヲ立テ諸般ノ命令ヲ關係將校ニ下シ直ニ活潑ナル攻擊的行動ヲ執ラシカ爲メ日本海岸ヲ離レ其ノ目的地ニ向テ進航セリ其ノ日本海岸ヲ離ルヽハ是自國海岸ヲ防護スル所以ナリ旗艦ニ乘組メル艦隊參謀松村大尉ノ語ル所ニ據レハ日本艦隊ハ四戰隊ヨリ成リ驅逐隊ヲ隨ヘ六日ヲ以テ進發シ韓國木浦沖ニ至リ第四戰隊指揮官瓜生少將ハ仁川ニ分遣セラレタリ發スルニ臨ンテ衆皆「萬歲」ヲ唱ヘ樂隊ハ嚠喨タル軍樂ヲ奏シ東郷聯合艦隊司令長官ハ「勉メ其ノ隊ノ成効ヲ祈ル」ト信號セリ同夜他ノ三戰隊哨兵ヲ增配シタリ時恰モ風浪極テ險惡本隊ニ尾航セシ驅逐艦ノ如キハ波間ニ轉々搖蕩シ大ニ乘員ヲ惱マセリト大尉ハ又旅順口ニ派遣セラレタル驅逐隊當時ノ光景ヲ說テ曰ク

八日朝風靜ニ空晴レタリ艦隊ハ敵ニ發見セラレサランカ爲メ山東高角ニ直航セスシテ圓島ノ方向ニ進航セリ此ノ時第三戰隊ハ偵察ノ爲メ先發シ第一第二戰隊之ニ次キ驅逐隊之カ翼タリ午後六時ニ至リ驅逐隊ヲシテ敵ヲ攻擊セシムルコトニ決セリ

司令長官ハ「今ヨリ進擊セヨ、一同ノ成功ヲ祈ル」ト信號セリ

驅逐艦ノ中ニハ「確ニ成功ヲ期ス」ト答信シ或ハ「殊死シテ戰フヘシ」ト云ヒタルモノアリ

驅逐隊ノ戰隊ニ別ルヽニ臨ミ戰隊ハ總員登舷禮式ヲ以テ戰士ノ行ヲ送リ三回祝聲ヲ發セリト

當時未タ開戰ノ宣言アラサリシヲ以テ友露黨ハ司令官スタルク中將カ敵ノ不正手段ニ依リテ襲擊セラレタリト唱道セリ然ルニ之ヲ事實ニ徵スルニ日本人ハ當時紅海ニ在リシウイレニユース少將麾下ノ赴援艦隊カ東航ノ途ニ在リシヲ以テ早クモ露人ニ開戰ノ行動及ヒ企圖アルヲ察知セルモ之ニ反シテ露人ハ日本ノ動靜ヲ知ルニ迂遠ナリキ例之日本艦隊ノ發航セシ當日東京ニ於ル露國公使館員及ヒ在京城露國公使パウロフ氏ハ毫モ時局ノ急轉セシコトヲ悟ラス氏ノ漸ク日本ノ意嚮ニ就キ疑ヲ挾ミタルハ其ノ後ニシテ會二月八日砲艦「コレーツ」ヲシテスタルク中將ニ與フル警報ヲ齎シテ將ニ仁川ヲ發セシメントシタル際ハ瓜生分遣艦隊ト會戰セサルヲ得サル場合ナリシナリ此ノ支隊ハ日本陸軍先發部隊ノ仁川揚陸掩護ノ任務ヲ帶ヒテ仁川ニ到ルモノナリ此ノ砲艦及ヒ巡洋艦「ワリヤーグ」ノ擊滅セラレシ狀況ハ既ニ世ノ知悉スル所ナルヲ以テ玆ニ之ヲ贅セス唯一言スヘキハ日露戰爭ノ第一彈ヲ放チシモノハ日本軍艦ニアラスシテ此ノ露國砲艦ナリシコト是ナリ然ルニ友露黨ハ此ノ發砲ヲ以テ偶然ノ出來事ニ過キスト言ヘリ是詭辯ノ太甚シキモノナリ凡戰爭ニ於テハ縱令其ノ發砲カ年少未熟ナル水兵ノ所爲ニ出ツルト雖モ苟モ他國ノ軍艦ヲ砲擊セハ毫モ假借スルヲ要セス「コレーツ」ハ此ノ如ク港外ニ於テ敵對行動ヲ開始スルノ愚ヲ演シタル後チ港内ニ退キ日本軍艦ニ追ハレテ遂ニ滅亡セリ惟フニ韓國皇帝カ自國ノ中立權ヲ防護スル能ハサリシノ故ヲ以テ仁川ヲ中立港ニ非スト看做スヘキヤ否ヤハ一疑問ナリ日本人ハ仁川ヲ占取シテ之

ヲ根據地ト爲サント欲セシモノナレハ若シ韓國皇帝及ヒ其ノ大臣等ニシテ之ヲ以テ直ニ交戰行爲ナリト認メタリシナランニハ理論上何人モ之ニ異議ヲ挾ムコト能ハサリシナルヘキモ自カラ其ノ主張ヲ支フルノ武力ナキヲ奈何セン日本ハ此ノ桃源夢裡ノ半島國モ露國ト合セテ敵トシテ戰ヲ開キシモノニテ彼ノ韓國ヲ視ルヤ恰モ棋局ニ於ル歩兵ト一般ニテ此ノ一弱國ノ局外中立ヲ唱フルト否トハ其ノ意ニ介スル所ニアラサレハ其ノ中立權ヲ尊重セサルノ擧ニ出ツル亦怪ムニ足ラサルナリ

日本カ旅順口外ニ於ル露國艦隊ノ備ナキニ乘シテ水雷襲擊ヲ行ヒ奇捷ヲ制セシハ露國ノ不運ト謂フヘシ當夜露國艦隊ノ將校多クハスタルク中將夫人ノ開催セル命名祝日ノ宴ニ列セン爲メ上陸中ニシテ日本水雷艇カ最初ノ大打擊ヲ加ヘシ時ハ恰モ彼等カ宴方ニ酣ニシテ歡ヲ極メ或ハ新市街ノ劇場ニ赴キ日露戰爭ヲ仕組ミタル演劇ヲ觀覽シ舞臺ニ於ル露軍ノ勝利ヲ拍手喝采シツヽアリシ際ナリシト云フ又縱ヒ當夜多數將校ノ上陸セルハ尙恕スヘシトナスモ高級將校ノ一人タモ艦內ニ在ラサリシト云フニ至テハ迂濶モ亦太甚シト謂ハサルヘカラス觀ヨ世界ノ文明諸國ハ刮目翹趾シテ開戰第一ノ活劇ヲ聞カント欲ス此ノ時ニ方リ露國司令長官ハ悠々陸上ニ留リテ麾下ノ諸艦ヲ港外ニ曝露シ多數ノ將校ハ夜會又ハ劇場ニ遊ンテ而テ怪マス爲メニ敵艇ノ乘スル所トナレリ惟フニ一小事故タリトモ能ク邦家ノ興廢ニ關スルモノナキニ非ス露國海軍ノ失體ノ如キ其ノ適例トシテ深ク後世ヲ戒ムルニ足ルヘシ要スルニ中將ハ極東太守ノ機關紙タル「關東報」ノ樂觀誇大ノ言說ヲ信賴シ外交談判ノ爾々切迫セシヲ悟ラサリシナリ然レハ其ノ麾下ノ諸艦ヲ外泊地ニ置キテ而テ顧ミサリシカ如キ毫モ怪ムニ足ラサルナリ察スルニ提督ハ旅順水道ノ狹隘ニシテ彎曲シ且使用シ得ヘキ水深ニ限リアルヲ以テ艦隊ノ混雜ヲ避ケシカ爲メ港外ヲ選ヒ港內ニ艦隊ヲ碇泊セシメサルヲ可トセシナルヘシ換言セハ彼ハ此ノ手段ノ却テ危險ナリシコトヲ悟ラサリシナリ縱ヒ一歩ヲ讓リ彼能ク時局ノ容易ナラサリシコトヲ悟リ居リタリトスルモ之ヲ輕視シタルノ譏ヲ免ルヽ能ハサルナリ八日ノ夜日本ノ驅逐隊ハ夜暗ニ乘シテ外港ニ突入シ水雷ヲ放チテ露國戰艦「ツエザレウヰチ」「レトウヰザン」及ヒ巡洋艦「パルラーダ」ヲ擊破セリ而テ諸般ノ報道ニ據レハ此等ノ軍艦ハ爾來戰鬪ニ堪エサルニ至リタルヲ知ルヘシ露國側ノ報告ニテハ唯「パルラーダ」ハ修理ノタメ入渠シ「ツエザレウヰチ」ハ泥土中ニ陷入シ「レトウヰザン」ハ船腹ニ孔ヲ生シタルノミナリト云フニアレトモ三艦共ニ擱坐シテ進退意ノ如クナラサリシハ事實ナリ翌朝日本艦隊ハ敵ニ近ツキ砲火ヲ以テ「ポルターワ」「ヂイヤーナ」「アスコリド」及ヒ「ノーウヰク」ニモ損害ヲ加ヘタリ

抑戰爭ハ劈頭第一大ニ敵ヲ破リタル者コソ爾後優勝ノ位置ヲ占ムルヲ恒トス日本カ水雷襲擊ニヨリ一擧ニシテ此ノ位置ヲ占メシハ蓋當然ノ結果ナリ然ルニ世ニハ往々東鄉中將及ヒ麾下將校ノ勇敢奇智ヲ譏評シ彼等ノ盛譽ヲ傷ツケントスルモノナキニアラス然レトモ吾人ハ信ス歷史ハ不偏不黨必スヤ其ノ成功ヲ認ムルニ吝ナラサルヘシト此ノ成功タルヤ當初其ノ勢力日本艦隊ト伯仲ノ間ニ在リタル露國艦隊ヲシテ開戰後數週間ヲ出サル內ニ其ノ隻影スラモ外洋ニ現ス能ハサル迄ニ劣弱ノ低地位ニ陷ラシメ又當時紅海ニ在リタル「ウイレニユース」少將ヲシテ之ト時ヲ同シウシテ東航ヲ中止セシムルニ至ラシメタリ即チ露國太平洋艦隊司令長官ヲシテ此ノ赴援艦隊司令官ト提携策動シ又ハ各單獨行動スルコト能ハサルノ難況ニ陷ラシメタリ以テ旅順艦隊ノ被リタル殺害ノ多大ナリシコトヲ知ルヘシ東鄉中將ハ此ノ第一ノ急襲ニ依リ啻ニ旅順艦隊ヲ擊破セシノミナラス又絕東海上ノ覇者ト爲ルト同時ニ直接關繫アル三方面ノ露國艦隊即チスタルク中將麾下ノ旅順口主力艦隊ウイレニユース少將麾下ノ東洋回航中ノ增遣艦隊フオン、シタケルベルグ少將麾下ノ浦鹽巡洋艦隊相互ノ連絡ヲ絕ツコトヲ得タリ東洋ノ形勢ヲ一變シ嘗テ歐米ノ識者カ試ミシ豫言ハ果シテ事實ト爲リテ現レタリ即チ東鄉中將ハ完全ニ制海權ヲ把握シ爲メニ軍隊ノ輸送揚陸ヲ遂ケシメ又當時伊國ヨリ日本ニ回航中ノ巡洋艦二隻ノ爲メ航途ノ危險ヲ除ケリ

人或ハ二月八日及ヒ其ノ後數次ノ海戰ニテ水雷襲擊ノ成功セルヲ視テ日本ヲシテ縱ヒ一隻ノ戰艦若クハ裝甲巡洋艦ヲ有セシメサルモ單ニ水雷艇ノミニ依リテ奇捷ヲ制スルヲ得タリシナラント思考スル者アリ成程今日迄ニ吾人ノ知リ得タル所ヲ以テスレハ日本艦隊ノ砲熕ハ未タ一隻ノ露艦ニ對シテスラ致命傷ヲ與ヘタルヲ聞カス然ルニ魚雷若クハ敷設水雷ハ數多ノ露國軍艦ニ多大ノ損害ヲ加ヘ就中其ノ一艦ヲ轟沈シ幾ト全乘員ヲ擧テ鏖ニシ水雷艇戰術家ヲ以テ英名世ニ鳴レル

「マカロフ」中將ノ如キ亦殉難者中ノ一人ニ加ヘラレタリ其ノ他巡洋艦「ボヤーリン」水雷敷設船「エニセイ」及ヒ水雷艇數隻ノ爆沈ハ誤テ自災ニ罹レルモノナルニモセヨ兎モ角其ノ源因ハ魚雷若クハ敷設水雷ニ塡裝セル高度爆發藥ノ猛力ニ歸スヘキナリ此ヲ以テ往々軍事評論家中ニハ一隻ノ建造ニ百萬磅乃至百五十萬磅餘ノ巨費ヲ要スル戰艦ニ依賴セサルモ小艦艇ヲ以テ能ク海戰ヲ行ヒ且大捷ヲ獲ヘキニ非スヤト疑フ者アリ然レトモ苟モ交戰ノ經過ヲ詳ニシ又東郷中將ノ報告ヲ精讀セハ水雷ノ有形無形ノ效果ハ大ナルモノアリト雖モ此ノ利器ノ效果ヲ擧クルト否サルトハ一ニ其ノ用法ノ巧拙如何ニアルヲ知ルヘシ日本司令長官ハ夜間水雷艇ヲ放チ之カ掩護ノ爲メ一隊ノ巡洋艦ヲ後援トシテ港外ニ到ラシムルヲ常トシ且戰艦ハ概ネ沖合ニ游弋シ遙ニ之カ聲援ヲ爲セリ即チ旅順艦隊ヲ港内ニ蟄伏セシメ「スタルク」中將ヲシテ外洋ニ出ツルコト能ハサラシメタルモノハ實ニ戰艦裝甲巡洋艦及ヒ其ノ精銳ノ砲力ヲ以テ敵ヲ威嚇セシカ故ナリ又四月十三日「ペトロパウロウスク」及ヒ「ポベーダ」ヲシテ旅順港外ノ航路ニ於テ日本ノ敷設機械水雷ニ罹ラシメタルモ亦之カ使用法其ノ宜シキヲ得タルニ歸スヘキナリ今ヲ距ル四閲月間ニ旅順口主力艦隊ノ鋭鋒ヲ挫キ又浦塩巡洋艦隊ヲシテ攻勢ヲ取ルコト能ハサラシメタルモノハ東郷上村兩中將麾下ノ戰艦及ヒ大巡洋艦ヲ集中セル兵力ノ效果ナリ之ト同時ニ日本艦隊ノ戰術ヨリ按スルニ第一、戰艦及ヒ巡洋艦ハ無防禦ノ儘開濶泊地ニ留ルヘキモノニ非ス第二、一國ニシテ若シ修理ヲ加フヘキ船渠ナク或ハ修理ヲ施スヘキ技師職工ナキニ方リ妄ニ兵ヲ構ヘ艦ヲ用ヒント欲スルハ是自カラ敗滅ヲ招クモノナルコトヲ知ルヘシ苟モ夜間巨艦ヲシテ安全ニ碇泊セシメント欲セハ縱令水雷艇及ヒ驅逐艦ノ襲擊ノ惧ナキ時ト雖モ適宜ノ防禦ヲ施スカ然ラサレハ常ニ漂泊シ居ラサルヘカラス

日本人ハ至小ノ水雷艇ト雖モ其ノ效力ノ宏大ナルコトヲ世界ニ實證セリ又日本人ハ遠洋航海ニ耐ユル驅逐艦僅ニ十九隻ヲ有セシニ過キサリシヲ以テ止ムコトヲ得ス極テ小形ノ水雷艇ヲ以テ數箇ノ艇隊ヲ編制シ本國根據地ヲ距ル五百海里餘ヲ航セシメ而テ嚴冬之ヲ旅順口外ニ放チ遂ニ奇捷ヲ奏セシメタリ而テ此ノ成功ノ要訣ハ他ナシ最初既ニ外長山列島内ノ一港ヲ占獲セシニアリ蓋該港ハ總テノ驅逐艦及ヒ水雷艇ノ根據地ト爲リ所謂「水雷母艦」亦茲ニ在リタリ惟フニ日本人ハ今ヲ距ル十年前ニ於テ既ニ水雷艇及ヒ驅逐艦ニ對スル「母艦」ノ必要ヲ認メ一八九四年舊式ノ一英國商船ヲ購買セリ現今ノ豐橋即チ是ナリ同船ハ四千百二十噸ナルカ日本ハ之ニ四吋七速射砲二門及ヒ輕砲ヲ据ヱ又水雷艇及ヒ驅逐艦ノ修理ニ必要ナル一切ノ機械竝ニ諸種ノ豫備品等ヲ備ヘタリ日本ハ啓釁後間モナク又一隻ノ商船ヲ改裝シテ水雷母艦ト爲セリ此ヲ以テ日本ハ前進根據地ニ此等ノ最有用ナル艦船二隻ヲ有シ其ノ外病院船トシテ博愛丸及ヒ弘濟丸ノ二隻ヲ有セリ此ノ二船ハ各二百九十二名ノ患者ヲ收容スルコトヲ得又日本艦隊ニハ海底電線ヲ把鈎切斷スル目的ヲ以テ建造セラレタル一隻ノ汽船アリ是等ノ諸船ト共ニ許多ノ供給船及ヒ運炭船ハ東郷中將ノ秘密根據地ニ集中セラレアリシヲ以テ其ノ結果中將ハ時宜ト財力ノ許ス範圍ニ於テ艦船修理ノ便ヲ得海底電線ヲ處斷シ艦艇ニ給炭シ負傷者ヲ收容シ之ヲ陸上病院ニ轉送スルコトヲ得タリ

之ヲ要スルニ日本艦隊戰捷ノ秘訣ハ全ク(一)多年今日ノ戰アルヲ豫想シテ之カ研窮ヲ積ミタルト(二)凡百ノ設備經營克ク其ノ目的ニ適應シタルト(三)艦隊ノ戰備完整セシトノ三事ニ在リト云フヘシ曩ニ日本政府カ國家ノ興廢ヲ賭シテ戰ヲ開クノ意ヲ決スルヤ髀肉ノ嘆ニ勝ヘサリシ日本艦隊ハ蹶然邁往立トコロニ第一ノ痛擊ヲ敵ニ加ヘ以テ海上ニ於ル局面ヲ一轉セリ既往三閲月間ノ交戰ニ徴スルニ日本艦隊ナルモノハ敵國海岸ニ遠征スルタメ若クハ自國邊陬ノ局地防禦ノ爲メ若クハ各艦個々ニ孤立シテ策動スル爲メ創設持續セラレタルモノニ非スシテ一旦事有ルノ日戰略的必要ニ應シテ集中セラルヘキモノナリシコトヲ知ルニ足ルヘシ

東郷中將ハ痛快ナル打擊ヲ露國海軍ニ加ヘ尋テ又旅順口水道ヲ閉塞セシヲ以テ日本運送船ハ軍隊ヲ搭載シテ安全ニ黄海及ヒ直隷海灣ヲ航行スルコトヲ得タリ獨リ此ノ事ノミナラス中將ハ旅順口ヲ閉鎖シ以テ露國ヨリ一箇ノ根據地ヲ削キ延テ夫ノ世評高キ婆羅的赴援艦隊ヲシテ旅順港內ニ在ル敗殘艦隊ノ應援ヲ得ルノ望ヲ失ハシメタリ又中將ハ「一國ニシテ艦船ヲ有スルモ其ノ乘員定員ニ滿タス且戰鬪勤務ニ熟セサレハ戰鬪力ナキニ等シ」ト云フ眞理ヲ最分明ニ實證セリ艦隊ノ乘員間然スル所ナク之ヲ統率スル主將亦勇武絕倫深略果斷三軍ノ之ヲ仰クコト神明ノ如クナルモノアリト雖モ苟モ其

ノ背後ニ適良ナル海軍政策ナク又修理力完備ノ各工廠アルニ非スンハ艦隊モ其ノ用ヲ全ウスル能ハサルモノナリ日本ハ海戰ニ於ル實地教訓及ヒ制海權ノ威力アル所以ヲ宇內ニ闡明シ殊ニ善良ナル組織及ヒ完整セル戰備ノ終ニ美果ヲ生スル所以ヲ顯彰セリ日本ハ那破翁スラ尙勝ツコト能ハサリシ强國ヲ屈服セシメタリ豈盛ナリト謂ハサルヘケンヤ

四四 芝罘遁竄艦「レシーテリヌイ」捕獲事件

（一九〇四年八月十三日發刊「ジャパン、ヘラルド」所載）

十日ノ海戰ニ敗レ中立港ニ遁竄シタル露艦ノ內膠州灣ニ逃入シタルモノハ他ノ中立港ニ遁竄シタルモノニ比スレハ較面倒ヲ惹起サヽル無シトセス既ニ芝罘ニ遁レタル驅逐艦機關破損ノ爲メニ出航スル能ハスト言ヒ立テタル由ナルカ膠州灣ニ遁レタル露艦亦同樣ノ口實ヲ以テ獨逸官憲ニ請フ所アランモ知ルヘカラス然ラハ則チ之ヲ如何セシカ此等ノ露艦ハ或ハ「マンヂウール」ノ如ク武裝ヲ解除セシメシカ或ハ武裝ノ儘逃避港ニ留ラシメシカ日本ハ其ノ艦隊ヲ割キテ芝罘及ヒ膠州灣外ニ哨艦ヲ派遣警備セシムルヲ冀フモノニ非サレハ後者ノ如キハ無論日本ノ承諾スル能ハサル所カラン乃チ理ヨリ之ヲ論スレハ若シ中立港ニ遁レタル軍艦ニシテ二十四時間內ニ出港セサルモノハ此ヲ以テ敵ニ降伏セシモノト見做シ關係中立國ハ其ノ軍艦ヲ一方ノ交戰國官憲ニ引渡スコト當然ナランモ此ノ場合ニ際シテ中立國ハ嚴正中立ヲ欲スル心ヨリ斯カル處置ニ出ツルヲ迷惑ニ感スルコトアルヘシト雖モ其ノ理由ハ左ノ如シ即チ淸國政府モ一應ハ夫ノ「マンヂウール」ニ對シテモ上海ヲ去ルカ然ラスンハ敵ニ降ルカヲ以テ之ニ迫リタルコトヽ想ハル今回ノ「レシーテリヌイ」ニ就テハ同政府ハ重ネテ「マンヂウール」事件ニ對スル如キ過失ヲ爲サヽルナランモ芝罘發電ニ據レハ「レシーテリヌイ」艦長ハ其ノ武裝解除ヲ決シ居レルヤニ云フト雖モ武裝解除ハ容易ニ許容スヘカラサル事タリ若シ假ニ日本カ今後海軍ニ失敗ヲ執リ軍艦ノ勢力劣弱トナルトセハ露國ハ或ハ勢ヲ挾ミテ淸國ヲ壓迫シ以テ再此等軍艦ヲシテ戰鬪ニ參加セシムルニ至ルカシトセス此ニ於テ中立國タルモノ其ノ乘員ヲ軍艦ヨリ退去セシムルハ差支ナシト雖モ軍艦ニ對シテハ之カ出港ヲ拒ミ又出港スル能ハサル軍艦ニ對シテハ必ス之ヲ一方ノ交戰國ニ引渡サシコト是其ノ當然ノ義務ナリトス蓋斯カル處置ハ一見當該交戰國ニ對シテ無情ノ如クナレトモ是其ノ宣言シタル嚴正中立ヲ維持スルノ念ヲ證明スルモノニ過キスシテ何等妨クル所ナキナリ

四五 芝罘遁竄艦「レシーテリヌイ」捕獲事件

（一九〇四年八月中旬橫濱發刊英字新聞）

「ジャパン、ガゼット」曰ク「レシーテリヌイ」號捕獲事件ハ之ヲ德義上ヨリ見ルモ又公法上ヨリ論スルモ正當ニシテ毫モ責ムヘキ所ナシ卽チ德義的ノ解釋ヲ以テスレハ日本艦隊カ敵艦ノ中立港ニ竄入シ二十四時間ヲ經過スルモ出テ來ラス又武裝ヲ解カサルノミナラス剩ヘ暴力ヲ以テ抵抗シタルト其ノ上海在泊「マンヂウール」ノ態度ヲ學ハンコトヲ慮ルトヨリシテ之ヲ捕獲シタルハ正當ノ事ニシテ非難スヘキ點無シ而テ國際公法上ヨリ之ヲ論スレハ元來中立港ニ於テハ交戰國軍艦ノ捕獲ヲ許サヽルヲ通則トスルト雖モ交戰國軍艦カ公海ニ於テ戰鬪シツヽアル內ニ一方ノ軍艦カ中立範圍內ニ遁竄シタル場合ニ於テハ除外例ヲ設ケサルヘカラストノ論アリテ公法學者ノ泰斗中ニモ「戰鬪ノ繼續セル場合ニハ中立地域內ニ於ル追蹤捕獲ハ正當ナリ」トノ意見ヲ發表シタル者アリ又他ノ一方ニ於テハ「交戰國軍艦カ敵對ノ目的ヲ以テ中立港ニ入ルハ絕對的不可ナリ」トノ意見ヲ正當トスル者アルモ露艦既ニ二十四時間規定ヲ無視セル以上ハ獨リ日本ヲ咎ムヘキニアラス故ニ問題ハ淸國カ中立ヲ實行スルヲ得タルヤ否ヤニアリ吾人ノ見ル所ヲ以テスレハ淸國ハ中立國トシテ適當ノ處置ヲ執ル能ハス彼ハ露艦ヲシテ武裝ヲ解除セシムル能ハス又二十四時間規定ヲ守ラシムル能ハサリキ故ニ此ノ場合ニハホール博士ノ所謂「中立國ニシテ其ノ權利ヲ行フ能ハサル場合ニハ中立國領海ニ於ル交戰國ノ捕獲ハ其ノ何ノ目的ニ出ツルニ關セス正當ナリ」トノ意見ニ從ヒ「レシーテリヌイ」ノ捕獲ヲ以テ正當ナリト爲サヽルヘカラス

「ジャパン、ヘラルド」曰ク東鄕大將ノ公報ニヨレハ露艦ノ芝罘ニ入リタルハ十一日午前四時ニシテ日本軍艦ノ入港シタルハ十二日午前三時ナリシモ捕獲ヲ行ヒタルハ五時十五分ナリキ日本ハ此ノ行爲ニ於テ多少躁急ノ嫌ナキニ非スト雖モ「マンヂウール」ノ場合ヲ想ヒ淸國ノ中立ヲ勵行スル能ハサルヲ以テ之ヲ觀レハ單ニ日本ヲ非難スヘキニ非ス且淸國ノ

「アスコリド」ニ對スル處置ヲ見ルモ何等ノ損傷ナキ「レシーテリヌイ」ヲシテ芝罘ニ止ラシムルノ結果ハ之ヲ知ルニ難カラス露國ニシテ若シ「ロイテル」ノ報スルカ如ク「レシーテリヌイ」ノ捕獲ヲ以テ違法トシテ抗議ヲ提出スルモノトセハ彼ハ自己ノ違法ヲ措キテ他ノ違法ヲ責ムルモノナリト言ハサルヘカラス之ヲ要スルニ露艦ハ二十四時間ヲ過キテ尚芝罘ニ在リ而テ此ノ間ニ在テ彼ハ其ノ武裝ヲ解除セントモセサリキ然レハ之ヲ捕獲スルハ正當ニシテ英國海軍將校ト雖モ同一ノ場合ニ處シ敵ニシテ武裝ヲ解除セス又降服モセサルニ於テハ日本將官ト同様ノ擧ニ出テタルヘキヲ疑ハス而テ此ノ擧措ハ常識ノ上ヨリ之ヲ離スヘカラサルモ其ノ清國ノ中立ヲ犯シタルハ事實ナリト言フヘキカ

四六　黄海蔚山沖ノ二海戰及ヒ「レシーテリヌイ」捕獲事件ニ就テ

（一九〇四年八月十八日發刊香港「デーリープレッス」所載）

上村中將カ浦鹽二艦ノ逃去スルヲ追縮シ之ヲ擊沈若クハ捕獲シテ以テ充分ニ戰勝ノ効ヲ收ムルヲナサス全力ヲ擧ケテ「リユーリク」乘組員ノ救助ニ盡セシハ道學者流ノ賞讃シテ止マサル所ナルヘシト雖モ若シ海軍々人トシテノ批評眼ヨリ之ヲ觀ルトキハ中將カ彼ノ二艦ヲ逸シタルハ確ニ戰術上ノ過失ト斷セサルヘカラス浦鹽艦隊ハ其ノ實力甚タ微弱ナリト雖モ猶夫ノ北海及ヒ日本海岸附近ニ於ル數度ノ威嚇運動ニ對スル復讐トシテ之ヲ殲滅スルハ日本ニ取リテ一大良策タリ若シ同艦隊ヲシテ全然戰鬪力ヲ失ハシメタランニハ上村中將ハ直ニ東郷大將ト合シ協力シテ旅順ニ向フヲ得タルナラン是實ニ目下ノ戰局狀況ニ照ラシ必要缺クヘカラサル事ニシテ彼ノ敗餘ノ二艦ヲ追擊スルニ急ナルヨリシテ「リユーリク」ノ慘況ヲ顧ミサルモ誰カ其ノ不仁ヲ責ムル者アラン乘員ノ溺死ヲ其ノ儘ニ委シタレハトテ決シテ殘忍暴虐ニ失セルモノニアラス既ニ戰爭ヲ起シテ可ナル以上ハ戰爭ヲ行フノ巧ナルニ何ノ不可カ之アラン世ノ諺ニ「爲スノ價値アルモノハ巧ニ之ヲ爲スノ價アリ」ト云フコトアリブラツセル國際會議及ヒ海牙平和會議ニ於テ議決セラレタル戰爭ノ殘虐ニ對スル制限ハ此ノ諺ヲ戰時ニ適用スルヲ拘束スルノ限ニアラス負傷者ヲ救ハンカ爲メニ停戰スルカ如キハ豫定ノ作戰目的ヲ達シテ然ル後チ始テ之ヲナスヘキナリ若シネルソンニシテトラファルガーノ海戰ニ於テ一隻ノ佛艦ヲ擊沈スルヤ直ニ「發砲中止」ノ號令ヲ下シタランニハ夫ノ赫々タル戰勝ノ光榮ヲ史乘ニ留ムルヲ得サリシナラン隨テ英國海軍史ハ亦大ニ今日ト異ルモノアリシナラン浦鹽殘艦ニシテ一タヒ充分ニ修理サレタル曉ニハ復如何ナル復讐的危害ヲ上村艦隊ニ加フルヤモ知ルヘカラス故ニ空シク二艦ヲ逸シタルハ惜ミテモ餘リアリ然レトモ猶友日黨ノ自カラ慰ムルニ足ルヘキ一事アリソハ今後所謂日本固有ノ野蠻的行爲ヲ吹聽スル者アルモ此ノ仁擧ヲ引證シテ辯護ノ好材料トナスニアリ

旅順口要塞掩護ノ下ニ隱匿シ戰爭ノ終結迄ハ出テ來ルヘシトモ思ハレサリシ露艦カ突如トシテ脫出ヲ企テタル目的ニ關シテハ爾來諸說紛々トシテ未タ詳ナラス或ハ曰ク旅順口陷落ノ機迫リタルヲ以テ幾隻タリトモ其ノ破滅ヨリ救ヒ出サント試ミタルモノナリト或ハ曰ク是死ヲ賭シテ奮鬪スルノ勇アルヲ示サントノ軍人氣質ニ出テタリト或ハ曰ク港内蟄伏ノ各艦背面攻擊ニ使用スル日本重砲ノ仰射ニ堪ヘサルニ起リシモノナリト然ルニ「ロイテル」最近電報ニ據レハ是在浦鹽露國太平洋艦隊司令長官スクルイドロフ中將ノ嚴命ニ基クモノナリト云ヘリ電文簡ニシテ未タ其ノ眞相ヲ知ルニ由ナシト雖モ中立港ニ遁走セル或露國士官ノ言ニ據レハスクルイドロフ中將ノ計畫ハ他ニ恐ラクハ濕手攫粟ノ投機的企圖アリタランモ少クモ其ノ目的ノ一部ハ浦鹽旅順兩艦隊ノ結合ニアリシカ如シ

茲ニ一言セサルヘカラサルハ露西亞ハ中立違反ニ關シテ其ノ爲スヘキ事ト爲スヘカラサル事トニ就キ甚タ不完全ナル智識ヲ有スルコト是ナリ而モ日本ニシテ公法ヲ破ラントスルカ如キ事アル場合ニハ露西亞ハ之ヲ認識スル甚タ敏ナリ彼ノ「鵞ト雁」ノ古諺カ示ス如ク日本ノ爲シテ公法違反ニ該當スルモノハ露西亞之ヲ爲シテ適法ナルノ理ナシ然ルニ露西亞ハ自己ノ公法違反ヲ顧ミスシテ却テ日本ノ正當ナル行爲ヲ責メントス戰爭開始以來清國ノ中立違反ハ「マンヂウール」カ上海ニ於テ不法ノ避難ヲナサントセシニ始ル而テ日本ハ常ニ謹愼ナル態度ヲ以テ公法ヲ遵守セルカ故ニ露西亞モ中立國船舶ニ對シテハ種々抗議スル所アリシモ未タ日本ヲ責ムヘキ言辭ヲ見出ス能ハサリシナリ然ルニ今ヤ北京駐在露國公使レッサルハ「レシーテリヌイ」捕獲事件ニ關シテ激烈ナル抗議ヲ提出シ共犯ノ罪ヲ以テ清國ヲ責ム「ロイテル」電報ニヨレハ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

露國公使ハ臆病譎詐等ノ言辭ヲ用ヒ清國ニ對シテ威談ヲ試ムルモノハ如シ清國ハ例ノ如クレッサル公使ノ恫喝ニ恐レ日本ニ對シ「レシーテリヌイ」ノ還附ヲ要求セリト云フ吾人ハ日本ニ對シ勵聲以テ「還附スル勿レ」ト勸告セサルヘカラス或國際法大家ノ主張スル所ニ據レハ戰闘酣ナルニ際シテ公海ニ於テ開始サレタル追撃ヲ中立國領海面域內ニ繼續スルヲ得ヘシトナス此ノ議論ノ當否ハ姑ク措キ芝罘ニ於テ日本指揮官ノ採レル處置ハ一八六三年ノ米國商船「チェサピーク」號捕獲事件（編者曰ク米國商船「チェサピーク」號組員ヨリ英國ポートランド港ニ向ケ航海中南軍ニ屬スル十六名船長ヲ幽閉シ船員ヲ殺傷シテ船舶ヲ掠奪シ南軍ノ軍用船ト稱シテノヴァスコチヤ沿岸諸港ニ寄泊シ居タリシカ華盛頓政府ハ英米兩國間ノ犯罪人引渡條約ニ依リ同船ヲ逮捕シテ其ノ引渡ヲ爲スヘキコトヲ英領ノヴァスコチヤ政廳ニ依頼シタルト同時ニ同船捜索ノ爲メ巡洋艦ヲ派遣シ其ノ軍艦ハ「チェサピーク」號ハ英領サンブロ港ニ在リタルヲ發見シ之ヲ差押ヘタル中立國權利ノ侵害事件）ニ比シ遙ニ理由ニ富ムモノナリ若シ日本ニシテ斷然該捕獲艦ノ返附ヲ拒絕セハ清國ハ必ス其ノ理由薄弱ナル議ヲ放棄スヘキカ故ニ日本ハ宜シク之ヲ拒絕スルノ手段ヲ採ルヘシ嘗テ佛國大統領ハ英米間ノ紛爭問題ヲ仲裁スルニ際シテ「交戰國軍艦カ中立國領海ニ於テ攻撃サレタルトキ若シ自カラ防禦セントシテ抵抗セハ該中立國ニ對シテ中立違犯ヲ責ムルノ權利ヲ失フ」コトヲ公法ノ原則トシテ示認セリ日本ノ說明スル所ニ據レハ芝罘ニ於テ先ツ敵對行爲ニ出テタル者ハ「レシーテリヌイ」ナリト云フ而テ是ハ明白ナル事實ナリ然ラハレッサル公使ノ抗議ハ甚タ不妥當ト云ハサルヘカラス何トナレハ當時露國ハ「レシーテリヌイ」ヲ先ツ日本ノ捕獲ニ委ネ然ル後其ノ捕獲ヲ不法トシテ外交上ノ手續ニ由リ之ヲ取戾スカ或ハ抵抗ヲ試ミ以テ中立ヲ破ルカノ二途アリシノミ而テ露國ハ終ニ後者ヲ取リタルヲ以テ彼ノ同盟國タル佛國大統領カ立テタル前述ノ原則ニ照ラシテ判斷スルトキハ露國ハ清國ニ對シテ中立違犯ヲ責ムルノ權利ヲ失ヒ隨テ日本カ「レシーテリヌイ」ヲ捕獲セルハ適法ノ行爲ト云ハサルヘカラサルヲ以テナリ若シ夫上海青島及ヒ芝罘ニ遁レタル露艦ニシテ永ク港內ニ止ラント欲セハ武裝ヲ解除セサルヘカラス一八七一年佛國軍隊獨逸ヨリ瑞西ニ遁レシカ瑞西政府ハ彼等ヲシテ武裝ヲ解除セシメタリ近クハ「マンヂウール」上海ニ於テ此ノ例ニ倣ヘリ然ルニ此等逃遁露艦ノ乘組員ハ再其ノ根據地ニ歸來スル目算ナルヲ公言シテ憚ラス暴ト云ハサルヘケンヤ事情斯ノ如キヲ以テ清國ニシテ假令獨逸カ膠州灣ニ於テ爲セルカ如ク露艦ニ對シテ武裝解除或ハ退去ヲ固ク主張スルトモ露國ハ直ニ之ニ從フコトナカルヘク必ス北京政府ニ對シ種々ノ苦情ヲ申込マン然レトモ以上ノ議論ニ由リ露國抗議ノ取ルニ足ラサルハ明白ナリト云フヘシ

四七　黃海及ヒ蔚山沖二海戰ノ效果（軍事批評家）

（一九〇四年八月二十二日發刊「タイムス」所載）

吾人カ八月十日及ヒ十四日ノ海戰詳報ニ接スルハ尙數週日ノ後ナルヘシト雖モ既著ノ不完全ナル報道ニ據リテモ尙或重要ナル訓誡ヲ作ルコトヲ得ヘシ八月十日ノ海戰ハ戰艦終始其ノ力ヲ專ニシタルモノナリ過去六箇月間ニ於ル海戰ノ性質ハ戰艦以外ノ艦種ニ漸次重キヲ爲サシメントスルノ狀アリシカ戰艦ハ實際合戰ニ參加セサリシトキニテモ尙其ノ戰闘ヲ指導シ居タルモノナリ機械水雷ノ沈置ト云ヒ又水雷艇ノ夜襲ト云ヒ皆是日本戰艦ノ優勢ナリシ直接ノ結果ナリトセサルヘカラス敵艦トシテ自カラ其ノ行動ヲ軍港ノ移動防禦ニ屬スル固有ノ任務ニ局限セサルヲ得サルニ至ラシムルニ反シ朔方ノ軍艦ヲシテ單ニ陸上攻撃ノ補助任務ニ出テシメ危キヲ避ケ自重スルヲ得ルニ至ラシムル所以ノモノ一ニ日本戰艦ノ優勢ナリシニ依ルモノナリ

巨艦ノ一タヒ出テヽ戰ヲ交フルニ至ルトキハ他種ノ軍艦ハ忽ヲ其ノ艦隊戰闘ニ於テ當然其ノ執ルヘキ補助ノ位置ニ復セリ露國巡洋艦ハ支離潰散シ其ノ速力優等ナルモノハ遠ク逸走セリ八隻ノ驅逐艦ハ戰線外ニ避ケテ遂ニ戰ニ加ラス東鄕司令長官ハ裝甲巡洋艦ヲ如何ナル程度マテ艦隊戰闘ニ加ラシメタルヤ未タ之ヲ聞クヲ得スト雖モ之ニ與リテ大ニ力アリタルモノイハ如シ然レトモ二等及ヒ三等巡洋艦ニ至リテハ其ノ功績觀ルヘキモノナキニ似タリ彼等ハ終ニ敵ノ有力ナル巡洋艦三隻ノ遁走ヲ遮斷スルコト能ハス日本ノ優勢ナル水雷艇隊モ亦夜陰ニ乘シ港外ニ在ル負傷戰艦五隻ニ對シ何等重大ナル損害ヲ加フルコト能ハサリシカ如シ彼等ハ「パルラーダ」ヲ以テ其ノ襲撃ノ餌トナリシト稱スレトモ是トテモ未タ確實ナラス

斯テ戰闘ノ大任ハ常ニ大艦ニ歸シ爾餘各種ノ艦艇ハ僅ニ補助ノ位置ニ立ツニ過キス露國ハ日本ノ五隻ニ對シテ六隻ノ戰闘艦ヲ有セリ日本ハ其ノ不足ヲ補フニ裝甲巡洋艦ヲ以テシタルカ故ニ戰闘開始ノ際ハ雙方ノ勢力ニ左ノミ差アルニアラ

ス然ラハ日本ハ何ニ依リテ其ノ勝利ヲ得シヤト問ハヽ訓練ノ一事アルノミ速力ハ勝敗ノ決ニ與リテ幾分カ力アリ指揮ノ拙ハ無論之ニ大關係ヲ有スト雖モ當日ノ事ヲ決シタルモノハ砲術ノ優秀ナルニ在リ其ノ發射ノ迅速ニシテ命中ノ精確ナルニアリ數分間ヲ隔テスシテ續々旗艦「ツエザレウヰチ」ニ命中シタル三發ノ十二吋砲彈ハ露國ノ戰列ヲ潰亂セシメ旗艦ハ最早運轉ノ自由ヲ失シ就中一大不幸ハ司令長官ウヰトゲフト少將ノ戰死シタルニ在リ是ヨリ露國艦隊ハ指揮ノ據ル所ナキニ至ルト同時ニ日本ノ砲熕就中最大口徑砲ハ益々驚クヘキ効力ヲ顯セリ

八月十四日ノ海戰亦右ト其ノ趣ヲ同シウス「リユーリク」ハ砲彈ノ為メニ粉碎セラレ二隻ノ僚艦亦四百四十二名ノ死傷ヲ出シ共ニ甚シキ損害ヲ蒙リ數回ノ火災ヲ發セリ

右二海戰ニ於テ日本軍艦ハ一モ大損害ヲ被ラス死傷モ亦敵ニ比較スレハ頗ル輕微ナリ此ノ二海戰共ニ專ラ砲ヲ用ヒ一モ他ノ兵器ヲ試ミサリキ八月十四日ノ海戰ニ於テ了解シ難キ一點ハ何故ニ上村中將カ勝ニ乘シ「グロモボイ」及ヒ「ロシーヤ」ヲ追撃シテ止メヲ刺サヽリシヤニ在リ「ノーウヰク」ハ今ヤ既ニ其ノ末路ヲ告ケタリ然レハ八月十日旅順口ヲ脱出シタル主要ナル軍艦ノ中其ノ運命ノ明ナラサルモノハ唯「パルラーダ」ノ一隻アルノミ

「ツエザレウヰチ」及ヒ之ニ隨從シタル三隻ノ水雷艇ハ本戰役中青島ニ抑留セラレ武裝ヲ解除スルナルヘシ上海ニ遁竄セル「アスコリド」及ヒ之ニ隨從シタル驅逐艦ハ結局「マンヂウール」ト其ノ運命ヲ共ニスルコトナラン日本カ芝罘ニ逃入シタル驅逐艦「レシーテリヌイ」ヲ捕獲シ去リタル行動ニ關シテハ未タ之ヲ是認スルニ足ルヘキ詳報ニ接セス此ノ行動ハ確ニ日本ノ為メニ遺憾トスル所ナリ露國ハ開戰以來中立國ノ權利ト利益ヲ侵害シテ毫モ憚ル所ナキニ引替ヘ日本ハ謙讓謹慎ノ政策ヲ保續シ為メニ武功ニ更ニ一段ノ光耀ヲ發揚セシメタルニ今ヤ何ヲ苦ミテ遽ニ露國ノ顰ニ倣フカ如キ行為ニ出ツルヤ日本ハ必ス反省スル所アルナラン今日マテ吾人ノ知ル所ヲ以テスレハ露國戰艦五隻ハ何レモ旅順口ニ遁入シタルモノヽ如シ斯テ一時強大ヲ誇リタル露國太平洋艦隊モ今ヤ僅ニ其ノ片影ヲ殘スノミ然レトモ其ノ全滅スルト否トハ將來ノ戰局ニ大關係ヲ有スルカ故ニ日本艦隊ハ之カ殲滅ニ全力ヲ集注スルナルヘシ

四八　黄海及ヒ蔚山沖ノ二海戰ニ就テ

（一九〇四年八月二十五日發刊「ゼ、ネーヴアル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）

八月十日ノ黄海々戰及ヒ之ニ次ケル蔚山沖海戰ノ顛末未タ詳ナラサル今日之ニ關シテ確乎タル斷案ヲ下サント試ムルハ甚タ早計ニ失スルノ嫌アリト雖モ唯其ノ顛末ヲ示スニ止メス聊カ自己ノ意見ヲ附スルハ必スシモ無益ノ事ニ非サルヘシ戰報ノ梗概ハ雙方ノ指揮官之ヲ公ニシ信憑スヘキ實見談ノ之ヲ補フモノアリ雙方ノ傳フル所ヲ比較スルニ例ニ依テ著シク相異レル節ナキニ非スト雖モ其ノ敘フル所ハ大體ニ於テ相一致ス露國側ノ戰報ヲ案スルニ旅順艦隊指揮官ウヰトゲフト少將ハ日本艦隊ノ封鎖ヲ逸脱シテ浦港ニ赴クヲ第一ノ目的トシ此ノ目的ニシテ達セスンハ敵彈ヲ避クルニ便ナル一港ニ竄入スルヲ第二ノ目的ト為セシヤ明ニシテ其ノ戰報ノ筆法ハ力メテ事實ヲ矯飾セリト雖モ此ノ兩途ノ目的ヲ有セシコトハ到底掩フヘカラサルナリ旅順艦隊ハ裝甲艦ノ數字上勢力ニ於テ日本艦隊ト略匹敵セルヲ以テ邁往直前戰ヲ決スルコト得策ナリシニ計此ニ出テス彼ノ如キ逃走戰ヲ為シタル結果全艦隊支離滅裂憐ムヘキ狀態ニ陷リ斯テ露國東洋艦隊ハ遂ニ何等ノ為ス所ナクシテ終リタリ決戰ヲ試ミタレハトテ其ノ損害ノ程度ハ反テ逃走戰ニ於テ被リタルモノヨリモ恐ラクハ甚大ナラスシテ而モ日本艦隊ニ多大ノ損害ヲ被ラシムルノ利益アリシヤ必セリ然レハ旅順艦隊ノ失敗ハ啻ニ其ノ計畫ノ成功セサリシカ為メノミニ非ス計畫其ノ者ノ根本的ニ誤レルカ為メナリ然リ同艦隊ハ將校下士卒勇猛驍毅ナラサルニ非サルモ連戰連敗ノ結果士氣全ク沮喪シ復一大決戰ヲ試ムル能ハスシテ逃走ヲ企テタルモノナリ東郷大將ノ報告ハ例ノ如ク言簡ニシテ要ヲ得タリト雖モ旅順口巡洋艦々隊司令官レイツエンシテイン少將ノ報告ハ敗戰ノ辯護ニ力メタル結果其ノ行文ハ「タイムス」新聞ノ一欄ヲ填ムル程長ク然モ讀者ヲシテ事實ノ眞相ヲ悟ラシムルコト少シ此ノ冗長ナル報告ヲ觀ルニ旅順艦隊ハ八月十日午前八時三十分巡洋艦「ノーウヰク」ヲ先頭トシテ出港シ日本艦隊カ水雷ヲ散敷セル海面ヲ航過スル為メニ一時間ヲ費セリ（斯カル海面ヲ航スルニハ一時間ヲ費スコト無理ナラサルモ日本側ニテハ水雷ヲ散敷セシコトナシト主張ス）九時司令長官ウヰトゲフト少將ハ「全艦隊浦鹽ニ赴クヘシ」ト信號セシカ（其ノ眞僞ハ明ナラサルモ少

將ハ斯ク信號セリト主張ス)其ノ後二時間ヲ出テスシテ日本艦隊現レ來リタルヲ以テ「スルーゲ」型艦砲艦及ヒ水雷艇ヲシテ港內ニ還ラシメタリ是蓋此等小艦艇ヲシテ敵線ヲ突過セシムル望アラサルカ爲メナラン正午頃露國艦隊ハ十三海里ノ速力ニテ航走セリ其ノ後戰艦ハ夫以上ノ速力ヲ出セシヤ否ヤニ就テハ何等ノ記スル所ナキヲ以テ見レハ何レモ前數同ノ戰闘ニ汽罐ヲ損シタルヤ明ナリ斯テ日露艦隊ハ十二時三十分頃遠戰ヲ開始シ約二時間ヲ隔テ、二回ノ合戰アリシトアルノミニテ其ノ詳細ヲ記セス唯第一合戰中ニ「アスコリド」ノ汽罐一個使用ニ堪ヘサルニ至リタリト言ヘルアルノミ第二合戰ハ午後五時四十五分、四十鏈(四海里)ノ距離ニテ開始セシカ幾モナク「ツェザレウヰチ」ハ其ノ針路ヲ轉シ戰列ヲ沿ヒテ航進シツ、「司令長官ハ指揮權ヲ移ス」ト信號セリレイツェンシテイン少將カ巡洋艦々隊ヲ率ヰテ戰線ヲ去リシハ恰モ此ノ時ニシテ少將ノ報告ハ之ヨリ以下唯巡洋艦隊ノ慘狀ヲ語ルニ過キス其ノ言ニ據レハ同艦隊ハ逃去ニ際シ猛火ヲ被ルコト二十分時間ニ及ヘリ「パルラーダ」ハ魚形水雷ニ中リテ沈沒セルモノヽ如ク他ノ三艦ハ損害大ナレトモ幸ニ逃去ノ目的ヲ達シタリ要スルニ同少將ノ報告ハ近世ノ一大海戰報告トシテハ頗ル不充分ニシテ又疑フヘキ點尠カラス「マッセウヰッチ」少將ノ報告ハ其ノ後ノ戰況ヲ敍シテ曰ク日本艦隊ハ午後五時頃射距離內ニ達セリ露國艦隊ハ戰艦六隻巡洋艦四隻水雷艇八隻ヨリ成リシカ「ツェザレウヰチ」ハ非常ナル損害ヲ受ケ猛火ノ下ニ四十分時間停止スルノ已ムヲ得サルニ至レリ司令長官ハ榴彈ノ爲メニ殪レウフトムスキー侯代リテ指揮ヲ取レリ五隻ノ戰艦ハ司令長官カ「旅順ニ還ル勿レ」ノ勅命ヲ記憶セヨ」トノ最後ノ信號ヲ發セシニモ拘ラス之ヲ蔑視シ遂ニ「ツェザレウヰチ」ヲ捨テ、旅順ニ向ヘリ「ツェザレウヰチ」ハ辛ウシテ膠州灣ニ至リ後チ武裝ヲ解キタリ戰艦々隊ハ旅順ニ到着セシナラント然レトモ同少將ノ報告中ニ巡洋艦及ヒ水雷艇ノ事ニ關シテハ一モ記スル所ナシ思フニ此ノ海戰ハ露國艦隊ニ在テハ終始逃走戰ニシテ日本艦隊ニ在リテハ其ノ勝利大ハ則チ大ナリト雖モ其ノ程度ハ未タ東郷崇拜者ノ期待セル所ヲ充スニ足ラス蓋是東郷大將カ戰艦ヲ愛惜シ之ヲシテ徒ニ危險ヲ冒サシメサリシニ由ラスンハアラス我カ海軍界ニテハ翹首シテ詳報ノ來ルヲ待チツヽアリ

蔚山沖ノ海戰ニ就テハ上村中將ハ簡短ナル報告ヲナシタルノミナルモアレキセイエフ太守ハ詳細ニ之ヲ傳ヘタリ上村中將ノ報告ニ據レハ浦鹽艦隊ハ直ニ逃走ヲ企テシモ「リユーリク」ノ速力劣レル爲メ意ノ如ク走ル能ハス「ロシーヤ」及ヒ「グロモボイ」ハ數回引返シテ勇敢ニ僚艦ノ救護ニ從事セリト日本艦隊ハ初メ裝甲巡洋艦四隻ナリシヲ以テ兩艦隊ノ砲力ニハ甚シキ優劣ナカリシニモ拘ラス露國艦隊ハ此ノ時スラ甘シテ逃走戰ニ出テタリ然レハ「リユーリク」ノ開戰早々操縦ノ自由ヲ失スルコト莫カリセハ戰闘ナクシテ終リタルヤモ知ルヘカラス斯テ戰闘五時間ニ亙リ日本艦隊ノ諸艦亦多少ノ損害ヲ受ケシカ此ノ時防護巡洋艦二隻來リ合セシヲ以テ「ロシーヤ」及ヒ「グロモボイ」ハ全速力ヲ出シテ逃走シ去レリ而テ「リユーリク」ハ遂ニ沈沒シ日本艦隊ハ溺者ノ救助ニ於テ大ニ博愛主義ヲ發揮シタリ又露國側ノ戰報ニ曰ク戰闘ハ六十鏈(六海里)ノ距離ニテ始リ露國艦隊ハ十七海里ノ快速力ヲ以テ逃走ヲ試ミタリ午前八時即チ戰闘開始ヨリ三時間ノ後司令長官ハ艦隊ヲシテ浦鹽ニ向ケ走ラシコトヲ命ス此ノ時「リユーリク」ハ列後ニ落ツルコト四海里甚シク敵ニ薄ラレタルヲ以テ二艦ハ之ヲ救護スルノ念ヲ絶テリト露國ノ報告ハ同艦ヲ見棄テタル行動ニ關シ巧言飾辭辯疏甚タ力メタリ然レトモ二艦ハ水線下ニ六乃至十廿彈ヲ受ケ又汽罐ニモ損害ヲ受ケ將校ハ全員ノ五割、兵員ハ二割五分ノ死傷ヲ出シタリト云ヘハ戰闘ノ終期ニ退却ノ命令ヲ發シタランニハ決シテ潰戰ノ譏アルヘカラス又戰闘ノ初期ニ適進奮闘セシナランニハ敗ヲ轉シテ勝ト爲シ得タルヤモ知ルヘカラス露國司令長官ハ上村艦隊カ長驅追窮セサリシヲ訝レリ日本艦隊ノ之ヲ敢テセサリシ理由ハ後ニ至リテ判明シタリト雖モ兎ニ角露國ノ二艦カ速力優レル爲メニ虎口ヲ脱シ得タルハ爭フヘカラサル事實ナリ

右二海戰ニ於テ日本艦隊ハ旅順艦隊ニ對シテハ數字上ノ勢力相同シク浦鹽艦隊ニ對シテモ亦甚シキ差ナカリシニモ拘ラス兩度共ニ勝利者ノ名譽ヲ專ニシタル所以ハ正ニ砲手ノ伎倆卓絶ニシテ而モ士氣旺盛ナリシニ由ルモノニシテ砲手ノ伎倆ト訓練トノ砲熕及ヒ裝甲ニ比シテ一層貴フヘキ要素タルコトハ既ニ日清戰役ニ於テ此ノ島國人ノ示シタル重要ナル教訓ナルカ今回ニテ愈々其ノ然ルヲ確メタリ

四九　黄海海戰（大澤海軍中佐ノ實見談ニ據ル）

（一九〇四年十二月一日發刊「ネーヴアル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）

在東京「タイムス」通信員ハ此ノ程八月十日日露兩艦隊ノ戰鬪詳報ヲ郵送セリ此ノ海戰ノ結果ハ其ノ當時既ニ世ニ發表セラレ吾人モ亦之ヲ本誌上ニ掲載シタリ然ルニ今回「タイムス」通信員ノ郵報ハ當時偶東郷大將ノ旗艦ニ便乘シテ圖ラス此ノ戰鬪ヲ目撃シタル大澤海軍中佐ノ談話ニ基クモノナリ然ルニ其ノ記事ハ吾人ニ滿足セシムル程ノ詳報ニアラサレトモ能ク日露兩艦隊ノ戰術並ニ相互ノ射程ヲ記述シ又露艦ノ砲火カ日本軍艦ニ及シタル影響如何ヲモ幾分カ擧示セリ古語ニ「筆ハ劍ヨリモ有力ナリ」ト稱スレトモ日本人ノ筆ハ日本人ノ劍ノ如ク有力ナラスト思ハルヽ跡多シ例之八月十日ノ海戰ハ近世海戰史中最大重要ナルモノニアラスヤ然ルニ日本海軍士官ノ筆ニ成レル右海戰ノ説明ハ「タイムス」新聞ノ紙面ノ一欄ヨリ多カラサルハ何事ソヤ其ノ簡短ナル或ハ恕スヘキモ説明ノ明瞭ナラサルヲ奈何セン然ルニ「タイムス」通信員カ之ヲモ利用シテ海戰記事ヲ作リタルハ大ニ其ノ勞ヲ謝スヘキナリ

其ノ記事ニ依ルニ八月十日ハ朝來天氣快晴南方ノ輕風習々展望十海里ニ達ス後ニ至リテ強風起リ浪ヲ揚クルコト高クシテ遠距離ノ射撃ヲ爲ス能ハサリキ日本ノ哨艦ハ當日早朝ヨリ敵艦脱出ノ計畫アルヲ認メタルモノト見エ直ニ之ヲ東郷大將ニ警報セリ此ノ事實ハ寔ニ吾人ノ注意スヘキ價値アルモノニシテ一方ニハ封鎖艦隊カ一々旅順港内ノ動靜ヲ偵察監視セル用意ノ周到ナルヲ證シ又一方ニハ露國水雷艇長等カ敵ノ偵察ヲ妨害スル能ハサルノ無能ヲ示セリ「タイムス」通信員ノ報道以前ニ著シタル他ノ報道ニ依ルニ東郷大將ハ當日正午頃迄其ノ主力艦隊ヲ敵艦隊ノ視界外ニ措ケリト云フ蓋露國艦隊カ前回ノ例ニ倣ヒ又々港内ニ逃ケ還ランコトヲ恐レタレハナリ正午ヲ過キテ程ナク日露兩艦隊ハ二萬米突ノ距離ニテ相見エタリ當時露國艦隊ハ南方ニ日本艦隊ハ西方ニ向ヒツヽアリ而テ日本艦隊ハ艦數ニ於テ敵ニ劣リタリ即チ東郷大將ハ僅ニ戰艦四隻裝甲巡洋艦二隻ヲ有セシニ過キサリシモ敵ハ戰艦六隻巡洋艦四隻水雷艇或ハ驅逐艦八隻ヲ有セリ東郷大將ハ敵カ斯ク艦數ニ於テ優勢ナルニ拘ラス尚旅順ニ引返サンコトヲ恐レタレハ充分ニ根據地ヨリ隔離セシムル爲メ種々敵ヲ誘致セントシ午後二時ヲ過クル頃迄此ノ目的ニテ艦隊ノ運動ヲナセリ是ヨリ先キ約一時間前ニ遠距離射撃ヲ交ヘタルコトアレトモ別ニ之レソト謂フ程ノ事ハアラス間モナクシテ露國艦隊ハ轉首シテ戰鬪ヲ避ケントシタルヲ以テ東郷大將ハ一時停戰スルノ已ムナキニ至リ貴重ナル白晝ノ二時間ヲ浪費セリ然レトモ當時ノ事情ヲ察スルニ東郷大將ニシテ戰鬪ヲ避クルノ風ヲ裝ハサリセハ露國司令長官ハ旅順ニ引返サントスルノ傾向アリシナラン故ニ東郷大將ハ十六點ニ針路ヲ轉シ一時敵艦隊ヨリ遠サカリシカ此ノ謀計能ク敵ヲ欺キ得タレハ東郷大將ハ午後二時ニ至リ敵艦隊カ無難ニ旅順ニ引返サントスルヲ妨碍スルノ位地ヲ占ムルヲ得タリ日露兩艦隊ハ一時間許殆ト並航シテ東進セシカ其ノ間日本艦隊ハ少シク敵ニ近ツキ午後二時三十分ニハ敵ト八千乃至九千米突以内ノ距離ニ達セリ露國巡洋艦四隻ハ依然戰艦ノ列中ニ在リシカ「アスコリド」ハ午後三時前敵彈ヲ受ケ重傷ヲ負ヘリ是ニ於テ露國艦隊司令長官ハ時晩レシモ巡洋艦ニ戰線外ニ避ケンコトヲ命令セリ斯テ兩艦隊孰レモ戰艦ヲ以テ前線ヲ作リシカ唯日本ノ裝甲巡洋艦二隻ノミハ戰列ニ加リタリ此ノ事實ハ偶以テ裝甲巡洋艦ヲ斯カル場合ニ使用シ得ヘキヲ證セルモノニシテ亦吾人ノ注目ヲ要ス然レトモ此ノ事アレハトテ露國戰艦ヨリモ一層新式又ハ一層有力ナル戰艦ニ對シテモ同樣ニ裝甲巡洋艦ヲ使用シ得ヘシト速斷スヘカラス此ハ自カラ別問題ナリトス東郷大將ハ旗艦三笠ニ在リテ其ノ主力艦隊ヲ指揮セシカ故ニ露國艦隊カ何レモ三笠ニ向ヒテ砲彈ヲ集注セシハ自然ノ結果ナリ然レトモ其ノ照準正シカラサリシヲ以テ午後三時三十分ニ至ルモ一ノ命中彈ナカリキ斯テ露國艦隊ノ前進ヲ始ムルヤ東郷大將ハ速力ヲ十七海里ニ增シ終始敵ニ接近セント勉メシカハ午後五時三十分頃ニハ兩艦隊ノ距離漸ク七千五百米突迄ニ減セリ蓋眞正ノ戰鬪ハ此ノ時ヨリ始レリト謂フヘシ大澤中佐ノ言フ所ニ依レハ日本艦隊ノ左舷砲臺ハ露國艦隊ノ右舷砲臺ト相對シ兩軍孰レモ十二吋砲八門ヲ使用スルコトヲ得タリト但日本艦隊ハ八吋砲八門ニ對シテ露國艦隊ハ僅ニ十吋砲四門ヲ使用シ得タルノミ六吋砲ハ此ノ如キ遠距離ニテハ何等ノ效力ヲ有セサルナリ午後六時露艦ヨリ發シタル十二吋砲彈一個三笠ノ一砲塔ニ中リ一時旋回盤ノ回轉ヲ妨碍シ將校下卒數名ヲ傷ツケタリ然レトモ同艦ハ之ニ屈セス直ニ射撃ヲ再始シ其ノ射程モ漸減シテ七千米突トナレリ其ノ後間モナクシテ日本艦隊ノ砲火ハ敵ニ輕カラサル損害ヲ與ヘ「ペレスウエート」ノ桅檣ハ之カ爲メニ摧折セラレタリ

午後六時過キ露艦ノ一砲彈ハ又モヤ三笠ニ命中シ艦橋ノ少シク前方ニ破裂シ東郷大將ノ間近ニ在リシ將校下士卒數名ヲ傷ツケタリ是ニ於テ乗組將校ハ司令長官ノ身ニ危險アランコトヲ慮リ司令塔内ニ退避セラレンコトヲ勸メタリシモ大將ハ之ニ從ハサリシト云フ惟フニ大將カ危險ヲ避クルヲ欲セサリシハ壯ハ則チ壯ナリト雖モ戰爭中ノ行爲トシテハ愼重ヲ缺クノ譏ヲ免レサルニアラスヤ夫ハ兎ニ角敵ハ戰ヲ避ケントスルニ拘ラス日本艦隊カ高速力ニテ之ニ近接シタルカ故ニ相互ノ距離ハ之ヨリ益ヽ減少シ「ツェザレウヰチ」ハ其ノ舵機ニ三笠ノ十二吋砲彈ヲ崇リ甚シク右舷ニ傾キ突然左舷ニ一回轉シタレハ露國艦隊ノ陣形ハ是ヨリ亂レ始メ終局マテ恢復スルコト能ハサルニ至レリ玆ニ一言シ置クヘキハ午後五時四十分ニ至リ日本ノ裝甲巡洋艦二隻東郷大將ノ麾下ニ赴援シ戰列ニ加リタルコト是ナリ然レトモ戰艦ノ數ニ於テハ露國艦隊依然敵ニ優リシカ「ツェザレウヰチ」カ砲彈ヲ受ケ不規則ノ運動ヲナシタルヨリ艦隊ハ陣形ヲ攪亂シタル前後ニ於テ東郷大將ハ更ニ第五ノ戰艦(二等)一隻ト北方ヨリ馳セ來レル海防艦二隻ノ援助ヲ得タリ是ニ於テ日本艦隊ハ艦數ニ於テモ優勢ヲ占ムルニ至レリ此ノ頃ヨリ射程ヲ三千五百米突迄ニ短縮シタルハ注意スヘキ事實ナリ何トナレハ是迄吾人ノ得タル報道ハ徹頭徹尾遠距離ニテ戰鬪ヲ交ヘタル由ヲ傳ヘ軍事批評家モ亦東郷大將ノ愼慮警戒ヲ賞讃シタレハナリ然ルニ今ニシテ之ヲ見ルニ當日戰鬪ノ後半ニ於テハ相互ノ距離餘リ遠カラス又日本艦隊ハ世ノ想像セシ如ク格別愼重ノ戰術ヲ取リタル次第ニモアラサリシナリ午後六時三十分頃ヨリ八時ニ及ヒ日全ク暮ルヽ迄前線ニ在リシ日本軍艦ハ露國戰艦及ヒ巡洋艦ノ陣形ヲ亂シテ混雜セル一團ヲ包圍攻擊セシカ露國艦隊ノ砲火ハ戰鬪ノ末期ニ至リ益ヽ不規則且微弱トナレリ同八時頃「ツェザレウヰチ」乗組司令官ノ同艦ヲ率ヰテ先ツ突進奔脱ヲ企ツルヤ露國全艦隊ハ四分五裂シ或ハ旅順口ニ還ルアリ或ハ東方ニ奔ルアリテ其ノ混雜名狀スヘカラス然レトモ東郷大將ハ暗夜ヲ憚リテ離散退却セル敵ヲ窮追セス唯驅逐艦ニ命シテ之ヲ追躡セシメタリ當夜日本水雷艇隊ノ敵艦襲擊ハ始ト完ク失敗ニ終リ露國戰艦五隻ハ無難ニ旅順口ニ引返セリ

以上記述スル如ク八月十日ノ海戰ハ日本ノ勝利タルコト固ヨリ確實ニシテ爾來露國艦隊ノ武力ヲ削奪シタルノ功アリト雖モネルソン流ノ戰術ヨリ判斷セハ未タ以テ決戰ト稱スヘカラス東郷大將ニシテ當日戰鬪ヲ開始スル時刻更ニ早キカ若クハ敵ノ近距離ニ入リタランニハ此ノ一戰ヲ以テ露國艦隊ヲ破壞シ得タルヘシト確信スヘキ理由アリ斯ク言ヘハトテ當日午後六時否其ノ後迄モ比較的優勢ナル艦隊ヲ敵トシテ奮戰ヲ續ケタル東郷大將ノ價値ヲ上下セントスル意ニハアラサルナリ

五〇　日露戰爭ニ關スル中立問題（英國綠威海軍大學校國際法講師法學博士 ティー、ジェー、ローレンス）

（一九〇四年五月二十五日英國海陸軍聯合協會ニ於テ講演同八月發刊同協會雜誌所載）

極東ニ於ル戰爭ハ中立國交戰國ノ權利義務ニ關スル種々ノ問題ヲ惹起セリ余カ本論ノ起草ヲ企テタル以後ニ於テスラ已ニ諸種ノ問題相踵キテ起リ一々之ヲ捉ヘテ論スルニ遑ナシ故ニ或ハ不問ニ附シ或ハ簡單ニ之ヲ論シ而テ特ニ我カ國ニ重要ノ關係アリト認メタル二三ノ問題ニ就キテ充分ニ研究セント欲ス先ツ比較的重大ナラサル問題ヨリ述フヘシ比較的重要ナラスト雖モ興味少シトノ謂ニ非ス我カ英國ニ重大ノ關係ナシト云フニ止ル

本論ニ入ルニ先タチ余ハ初瀬沈沒事件ニ伴ヒテ發生セル敷設水雷問題ニ就キテ一言セン余ハ未タ初瀬沈沒當時ノ狀況ヲ詳ニセスト雖モ若シ果シテ露西亞カ故意ニ其ノ領海以外ニ水雷ヲ敷設セリトセハ是公法ヲ無視スルノ甚シキモノト云ハサルヘカラス斯ノ如キハ其ノ先例ヲ見スト雖モ若シ事實ナリトセハ重大ナル公法違反ナリ

余カ本席ニ於テ第一ニ諸君ノ注意ヲ惹カントスルハ左ノ問題ナリ

一　海上ニ於テ中立國ノ交戰國戰鬪員ニ對スル救助ノ件

日露戰爭開始第二日ニ於テ吾人ハ偶然ニモ去ル一八九九年海牙萬國平和會議ヲシテ其ノ解決ニ苦マシメタル問題ノ發生ヲ見タリ該會議ニ於テ米國全權委員ノ一人タルマハン大佐ハ「ジェネーブ」條約即チ赤十字條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約ニ就キ其ノ意見ヲ述ヘタル末ニ「此ノ條約ニハ中立國船舶ニ依テ救助セラレタル者ノ最後ノ處置ニ就テハ何等ノ規定

ナシ」ト喝破セリ其ノ第三條第四條ハ中立國ノ一個人若クハ團體ニ屬スル公認ノ病院船ニハ交戰國ノ負傷者、病者及ヒ難船者ヲ救護扶助スルノ權利ヲ附與セリ又第六條ハ一歩ヲ進メテ中立國ノ商船、遊船若クハ端舟ニシテ交戰國ノ病者、負傷者、難船者ヲ搭載シ又ハ收容スルモノハ此ノ輸送ノ事實ノ爲メニ捕拿セラル丶コトナシト規定ス然レトモ此ノ場合病者負傷者ハ看護ヲ要スルモノニシテ戰鬪力ナキコト明白ナルモマハン大佐ノ所謂「海戰中或ハ海戰後原因ノ如何ヲ問ハス海ニ投スル者」トセル彼ノ難船者ニ至リテハ猶壯健ニシテ戰鬪ニ堪フル者ナランモ亦知ルヘカラス中立國ノ救助者ハ是等ノ難船者ヲ如何ニ處置スヘキカ該條約ハ之ニ關シ何等規定スル所ナシ加之中立國ノ保護ノ下ニ恢復セル病者負傷者ヲ如何ニスヘキカニ就キテモ亦更ニ指示スル所ナシ該條約ハ一方ノ難船者傷者又ハ病者ニシテ他ノ一方ノ權内ニ陷リタル者ハ俘虜タルヘシトシ又彼等ハ中立國地方官憲ノ許可ヲ得テ其ノ一港ニ上陸セシムルコトヲ得トセリ而テ同第十條ハ其ノ上陸シタル場合ニ於テ該中立國ハ被救助ノ所屬國ト反對ノ取極メナキ限リハ彼等ヲシテ再戰鬪ニ加ルコト能ハサラシムル爲メ之ヲ抑留セサルヘカラス而テ其ノ費用ハ被救助者ノ所屬國ニ於テ之ヲ負擔スヘシト立案セラレタリ此ノ一條ハ如何ナル狀況ノ下ニモ應用スルニアラス唯或場合ニ限ラレ其ノ指定スル所甚タ漠然ニシテ不備ナルカ故ニ數大國ノ議纒マラス終ニ該條約批准ノ時削除セラレタリ故ニ此ノ主義ハ從前ニ比シ締盟列強ヲ檢束スル効力ヲ減少セリマハン大佐ハ三個ノ條文ヲ追加シテ此ノ缺點ヲ補ハントセシモ此等ハ單ニ中立國船舶カ難船者ヲ救助スル場合ノミニ關スルモノニシテ曰ク「中立國カ交戰國ノ難船者ヲ救助スルハ中立違反ニ非ス此ノ場合該中立國船舶ハ被救助者ノ引渡ヲ要求スル最初ノ交戰國軍艦ニ之ヲ交附セサルヘカラス而テ之カ爲メ被救助者カ敵手ニ落チテ俘虜トナルトモ又ハ其ノ味方ト合シ再戰鬪ニ加ルトモ之ヲ問フヲ要セス若シ其ノ引渡ヲ要求スルモノナキトキハ被救助者ハ戰鬪力ナキモノト見做サレ正式ニ交換サル丶ニ非スンハ交戰中再服役スルコトヲ得ス」ト

此ノ提議ニ就テ更ニ討議ヲ重ヌルトキハ本會議ニ於テ既ニ遂ケタル成績ヲ空ウスルノ恐アルヲ以テ該提議ハ遂ニ撤回サレタリ而テ各國全權委員ハ「ジェネーブ」條約ヲ改正センカ爲メ滿場一致シテ速ニ瑞西ニ於テ再國際會議ヲ開催スルノ希

望ヲ吐ケリ若シ此ノ如キ會議開カル丶トキハ本年二月九日仁川ニ起レル露兵救助事件ノ如キハ其ノ指導ト爲ルヘキ重要ナル先例タルヘシ此ノ日正午前露西亞巡洋艦「ワリヤーグ」ハ砲艦「コレーツ」ヲ從ヘテ港ヲ出テ約一時間日本軍艦ト戰ヒ軍艦及ヒ乘員共ニ大損害ヲ受ケテ歸港セルハ吾人ノ熟知スル所ナリ然レトモ其ノ後ノ顚末ハ未タ確言スルコト能ハス當時港内ニ碇泊セルハ英艦「タルボット」米艦「ウヰツクスバーグ」佛艦「パスカル」及ヒ伊艦「エルバ」ニシテ皆露兵ノ救助ニ從事セルカ如シ其ノ如何ナル程度迄之ヲ爲セルカハ之ヲ目擊セサル吾人ノ疑惑ニ堪ヘサル所ナリ米艦「ウヰツクスバーグ」艦長ハ三隻ノ端舟ヲ遣シ露兵ヲ助ケテ英伊二艦ニ收容セシメタリト報告ス

其ノ他ノ軍艦モ亦多數ノ露兵ヲ收容セリト雖モ其ノ精確ナル情況ニ關シテハ諸說區々ニシテ一致セス京城駐剳露國公使パブロフハ日ク「「ワリヤーグ」艦長ハ其ノ乘組員及ヒ負傷者ヲ英、佛、伊ノ巡洋艦ニ分乘セシメタリ」ト是ニ由テ之ヲ觀レハ豫メ用意セル方法ニ由リ沈著ニ行動シ少シモ狼狽セサリシカ如シト雖モ佛國海軍大佐ニコルカ其ノ海軍大臣ニ致セル報告ニ據レハ「露兵ハ皆海ニ投シ歐洲三國ノ軍艦ニ救ヒ上ケラレタリ」ト云フ又二月二十九日發刊「デーリー、テレグラフ」所載ノ該海戰實見記ニハ此ノ如キ狼狽ノ狀ニ就キテ一言モ記セス其ノ記者ハ果シテ「タルボット」ノ一士官ナリシヤ否ヤ知ルヘカラサルモ當時ノ情況ヲ目擊スルニ最好ノ機會ヲ有シタル人ナルハ疑ナシ彼ハ記シテ曰ク二隻ノ露艦歸港スルヤ「パスカル」「タルボット」ニ「エルバ」ノ三艦ハ直ニ負傷者ヲ端舟ニ移シ艦内ニ收容シ其ノ後間モナク健全ナル乘組員モ同シク其ノ端舟ニテ運ヒ去レリ此ノ一事ニテモ中立國軍艦艦長ハ局外中立ノ義務ヲ履行シタルモノト爲スヘカラス況ヤ午後四時「コレーツ」ノ爆沈セルトキ「ワリヤーグ」ハ依然トシテ何等ノ異狀ナカリシニ露兵ノ再佛艦ノ端舟ヲ利用シ「ワリヤーグ」艦内ニ入込ミ之ニ火ヲ放チ去ルヲ許スニ於テヲヤト余ハ中立國軍艦カ單ニ救助以上或助力ヲ露兵ニ與ヘタルハ爭フヘカラサル事實ナリト信ス但其ノ如何ナル程度迄之ヲ爲セルヤハ今日之ヲ斷言シ難シト雖モ日本ハ之ニ對シテ何等外交上ノ抗議ヲナサ丶ルヲ見レハ吾人ハ日本ハ英、佛、伊三國艦長ノ行爲ニ由リテ其ノ戰利品及ヒ俘虜ヲ不法ニ奪ハレタリト思惟セサルモノト斷シテ可ナラン然レトモ日本ハ適宜セル露兵ノ引渡ヲ要求セリ各中立國艦長ハ直ニ許容セス荏苒

之ヲ久シウセシカ終ニ該事件ハ滿足ナル解決ヲ見ルヲ得タリ則チ被救助者ハ戰鬪區域以外ニ於テ中立軍艦ヨリ直ニ露船ニ引渡サレ日本政府ハ彼等カ交戰中再服役セサルノ約束ニテ其ノ本國ニ歸ルヲ許セリ

前掲仁川事件ハ今後中立國ノ軍艦、病院船及ヒ其ノ他ノ船舶ノ海上救助事業ニ關シテ一定ノ規定ヲ設ケサルヘカラサルヲ示セリ此ノ規定ノ內容ニ就キテハ猶種々ノ議論生スルコトナランモ余ノ說ハ「健全ナル遁竄者ハ之カ引渡ヲ要求スル最初ノ交戰國軍艦ニ交附セラルヘシ」トノマハン大佐ノ意見トハ反對ナリ若シ遁竄者ヲ其ノ味方ニ引渡ストキハソハ取リモ直サス再彼等ヲシテ戰鬪員タラシメ又之ニ反シテ彼等ヲ敵手ニ渡スハ之ヲ俘虜タラシムルモノニシテ何レモ中立ノ精神ニ背反スルモノナリ然ラハ此等遁竄者ヲ交戰中中立國ノ保護下ニ抑留スヘキカ或ハ彼等ヲシテ再戰鬪ニ加ラサルヲ宣誓セシメテ其ノ味方ニ引渡スヘキカ兩者共ニ主義ニ於テ不可ナキヲ以テ余ハ其ノ選擇ヲ當事者ニ一任シテ可ナラント思考ス此ノ原則ニ據リテ猶交戰國ト中立國トノ間ニ紛擾ヲ生スルカ如キコト萬々ナカルヘシ一八六四年米國南北戰爭中六月十九日佛國セルブール港沖ニ於テ彼ノ著名ナル南軍ノ巡洋艦「アラバマ」北軍巡洋艦「キーアサージ」ノ爲メニ轟沈サレタル際英船「ディーア、ハウンド」ガ「アラバマ」ノ艦長及ヒ乘組員ヲ救助セシニ合衆國ハ英國政府ニ抗議ヲ提出シテ戰鬪中其ノ身ヲ海中ニ投シタル者ヲ第三者カ立入リテ之ヲ救助スルハ一方交戰國ニ對シテ直接ニ敵對行爲ヲナスモノナリト主張セシカ其ノ當時ト今日トヲ比較スルトキハ人ノ思想及ヒ時勢ニ於テ共ニ大ニ變遷セルヲ見ル今日ハ中立及ヒ人道ノ意義ヲ昔時ヨリモ遙ニ嚴正ニ解釋スルモノナリト雖モ區々ノ見解ヲ調和シ歸着スル所アラシメンカ爲メニハ從前ノ如ク國際條約ヲ要ス

二　新聞通信員及ヒ無線電信ニ關スル件

余ハ新聞通信員ト無線電信トノ關係ヨリ起レル嶄新ナル一問題ヲ研究セント欲ス無線電信ハ今回ノ戰爭ニ於テ初テ新聞通信事業ニ使用サレタリ此ノ名譽アル一大進歩ハ實ニ「ロンドン、タイムス」ノ雇用セル汽船海門號ニ「ド、フォレー」式無線電信機ヲ裝置シ其ノ特派員ヲ乘組マシメ同船ヨリノ通信ハ暗號ヲ以テ先ツ威海衛ニ打電シ夫ヨリ中立ノ英國海底電線ニ由テ之ヲ倫敦ニ送ラシム此ノ場合通信船ハ兩交戰國軍艦ノ爲メニ搜索セラルヽヲ以テ、否、現ニ日本軍艦ニハ數回、露艦ニハ一回臨檢セラレタルヲ以テ兩交戰國ノ軍機ニ關スル秘信ヲ發スル如キ奸策ヲ施スニ由ナシ然ルニ何事カ極東太守アレキセイエフノ忌諱ニ觸レシカ同官ハ本年四月布告シテ曰ク關東半島沖其ノ他露國艦隊作戰區域內ニ於テ未タ現行協約ニ規定セラレサル改良器械ヲ使用スル通信者ハ之ヲ間諜ト視做シテ處分シ又其ノ器械ヲ据附ケタル船舶ハ之ヲ沒収スヘシト今若シ間諜ノ所刑ハ死罪ニ當リ而テ其ノ死ハ恐ラクハ銃殺ニ非スシテ絞首ナランコトヲ思ハヽ極東太守ノ恐喝ノ如何ニ甚シキカヲ知ルニ足ラン戰爭ノ運命ハ極東太守ニ不利ニシテ其ノ志望ヲ實行スルノ機會ヲ奪ヒタルヲ以テ該問題ハ時ニ之ヲ論スルノ要ヲ見サレトモ彼ノ地位顯要ナルト其ノ國ノ强大ナルニモ拘ラス斯カル亂暴ナル布告ヲ發セシカ故ニ之ヲ法律ト理論ノ見地ヨリ研究スヘシ幸ニ露國カ必ス尊重遵奉セサルヘカラサル公法ノ規定ニシテ此ノ場合ニ準用スヘキモノアレハナリ

陸戰ノ法規慣例ニ關スル海牙條約第二十九條ニ曰ク一方ノ交戰者ニ通知スルノ目的ヲ以テ他ノ一方ノ作戰地帶內ニ隱密ニ行動シ又ハ虛僞ノ口實ヲ構ヘテ各種ノ情報ヲ收集シ若クハ收集セントスル者ノ外之ヲ間諜ト見做スコトヲ得スト然ルニ新聞通信員ハ公然其ノ職務ニ從事スルモノニシテ決シテ虛僞ノ口實ヲ構ヘス又通信員カ情報ヲ收集セントスルモノハ、廣ク全世界ニ通信セントスルノ目的ニシテ決シテ一方ノ交戰國ノミニ之ヲ通信セントスルモノニ非ス殊ニ露國恐喝ノ目的トスル所ハ海門號ニ乘組メル「タイムス」通信員ニアルモ試ニ看ヨ船舶ヲ海上ニテ隱匿シ又ハ扮裝スルニ非常ノ困難ニシテ陸上個人ノ身ニ於ルカ如ク其ノ跡ヲ韜スヲ得サルナリ海牙條約ハ日露共ニ調印セルモノナルカ故ニ兩國共ニ遵奉セサルヘカラス該條約ノ規定ハ隱密ノ方法ヲ以テ一方ノ交戰者ノ爲メニ情報ヲ收集スル者ヲ間諜ト見做スノミ其ノ收集シタル情報ヲ通知スル方法ニ關シテハ何等ノ規定ナキカ故ニ其ノ方法如何ハ問フヘキ限ニアラス然ルニ極東太守ノ恐嚇ノ由テ來ル所以ノモノハ一ニ此ノ點ニ存ス夫或ハ海牙條約ハ陸戰ニ關シ極東太守ノ命令ハ海戰ニ關スト云ハンカ理論上一ノ間諜ニ對シ海陸其ノ所在ニ隨テ二樣ノ相異リタル定義ヲ下シ得ルノ理ナシ凡間諜ト看做スコトニ就キ認容セラレタル原

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

則ハ列國一般ニ行ハルヽモノニシテ「タイムス」通信員ノ如キハ此ノ定義ノ範圍内ニ擬スルヲ得ス露國ノ恐嚇命令ハ一八七〇年ビスマーク公カ佛國ニ提出セル「輕氣球ニ乘シテ被包圍都市ヲ脱シ信書ヲ傳達セントスル佛人ハ間諜ナリ」トノ抗議ニ酷似ス一八七四年ブラッセル列國會議ハ之ヲ不法トシ海牙條約第二十九條亦之ヲ否定シ如何ナル方面ニ於テモ之ニ異議ヲ挾マサルモノヽ如シ然ラハ今回露國カ無線電信機ヲ有罪トセントセル企圖モ亦恐ラクハビスマーク公ノ抗議ト同樣ノ結果ヲ見ルニ至ラント信スヘキナリ

無線電信機ハ單ニ線條及ヒ使丁ヲ省略スル裝置タルノミ然ルニ之ヲ用ヒタルノミニテ間諜タルノ罪ハ成立スルモノニ非スト雖モ余ハ「タイムス」カ先鞭ヲ著ケタル此ノ新式ノ新聞通信法ニハ多少ノ制限ノ加ヘラルヘキ場合アルヲ信ス然レトモ其ノ制限タルヤ極東太守ノ論據ニ基クニ非ス通信機關ノ發達ハ唯報道ヲ迅速ニスルニアルノミ若シ極東太守ノ如ク是ニシテ害アリトセハ何故ニ先ツ電信、郵便、汽車、郵便船等ヲ罰セサルヤ實ニ露國發令ノ理由ハ其ノ恐嚇ノ亂暴ナルト同時ニ薄弱ナリ然レトモ交戰國ノ陸軍又ハ海軍ニ從屬スル通信員ハ孰レモ其ノ通信ヲ發スルニ當リ所屬軍隊又ハ艦船ノ定メタル條件ニ從ヒ一々檢閲ヲ經ルヲ以テ交戰國ハ通信員ノ早計且不謹愼ナル發信ニ由リテ其ノ國家ニ生スル害毒ヲ防カンカ爲メニ充分ノ注意ヲ取ルコトヲ得ヘシ然ルニ彼ノ私船ニ乘シテ自由ニ海上ヲ航行スル通信員ハ偶臨檢ヲ受クルノ外ハ全然何等ノ制限ヲ被ルコトナキヲ以テ交戰國ニ取リテ甚タ危險ナリ若シ多數ノ私船カ艦隊ノ周圍ニ蟻集シ一擧一動ヲ環視シ其ノ目擊セル所及ヒ想像セル所ヲ自由ニ世界ニ發表セハ如何ニ危險ニシテ如何ニ煩シキヤハ本席議長ハリス中將閣下ノ知悉セラルヽ所ナラン日本官憲カ曩日「タイムス」通信員ニ對シテ芝罘仁川間ニ劃セル一直線ヨリ以北ニ入ルヲ禁セシモ此ノ理由ニ基クモノナリ今後開カルヘキ國際會議ニ於テ海戰ニ關スル規則ヲ制定スルトキハ如上ノ場合ニ就キ規定ヲ設ケサルヘカラス

三　交戰國ノ中立領海利用ニ關スル件

今回ノ戰爭ハ開始以後日尚淺シト雖モ交戰國ノ中立領海利用ニ就キ種々ノ問題起レリ今日迄ニ生セルハ實ニ其ノ一部分ニシテ今後此ノ種ノ問題ハ陸續發生スヘシ然レトモ今後生スヘキ問題ヲ想像シテ一々之ヲ論スルカ如キハ餘白少ク不可能ナルカ故ニ唯既成ノ事件ニ就テノミ論セント欲ス既成ノ事件トハ何ソヤ曰ク開戰後數週間露國海軍少將ウイレニユース艦隊カ取レル行動ナリ戰爭開始ノ當時同艦隊ハ地中海ヨリ極東ニ向ヒ回航中ナリシカ其ノ大部分ハ紅海ノ南方ニアル土耳其領ジエベル、ズックル島（Jebel-Zukkur）ニ他ハ佛領ソマリランドノ首港ジブーテルニ碇泊セリ三四日ノ後全艦隊ハジブーチニ集リ約一週間滯在セルトキ開戰ノ公報同地ニ達シ地方官憲ハ直ニウイレニユース少將ニ退去ヲ要求セリ露國政府モ亦極東ニ向ヒ回航中ノ義勇艦隊各船ト共ニ直ニ引返スヘク同少將ニ命セリ乃チ彼ハ此ノ佛國領海ニ於テ其ノ運炭船ヨリ石炭ヲ積込ミ三十六時間ヲ經テ後チ同港ヲ出發シ途中商船ヲ臨檢搜索シツヽ紅海ヲ航上セリ爲メニ二隻ノ英船、一隻ノ諾威船併セテ三隻ノ中立船舶ハ拿捕サレタリ三隻ハ何レモ軍艦用ノ石炭ヲ搭載スルモノニシテ内一隻ハ日本ニ向テ直航セントシ又一隻ハ中立港ヲ經テ同國ニ向ハントスルコト疑ナシ他ノ一隻ノ最終仕向先ニ就テハ嫌疑ヲ免レサル點アリ露國艦隊ハ其ノ拿捕シタル船舶ヲ拉シテ埃及領海内ナル蘇士海灣ニ入リ約四晝夜碇泊シ其ノ間同海灣ヲ根據ト爲シ中立船拿捕ニ從事セリ埃及政府ハ之ニ對シテ抗議スルト同時ニ露帝ハウイレニユース少將ニ打電シテ前述三隻ノ運炭船拿捕ノ當時石炭ハ未タ正式ニ禁制品ト宣言セサリシ故ニ之ヲ解放スヘシト命セリ其ノ後同艦隊ハ同地ヲ去リ地中海及ヒ婆羅的海ニ向ヘルヲ以テ事重大ナラスシテ止メリ

右ノ場合佛國官憲カ前述ノ如ク三十六時間露國艦隊ヲジブーチニ碇泊セシメ且其ノ出港前各艦ニ石炭庫ヲ充實セシメタル處置ニ對シテ英國人民ハ激甚ナル批評ヲ加ヘタリ其ノ論據トスル所ハ國際法ハ交戰國軍艦カ一時ニ二十四時間以上中立港ニ止ルヲ禁シ又交戰國軍艦ニハ其ノ處ヨリ最近ノ自國港灣ニ達スルマテノ量額以外ニ石炭ヲ供給スルヲ許サスト云フニアリ此ノ論ハ一般ニ主張セラルヽ所ナリト雖モ未タ此ノ點ヲ以テ佛國ノ處置ヲ責ムルニ正當ノ理由ト爲スニ足ラス抑國際法ハ斯ノ如キ場合ニ中立國ノ爲サヽルヘカラサル義務ト其ノ爲シ得ヘキ權利トヲ判然區別ス其ノ義務トシテハ第一ニ中立國ハ其ノ港灣及ヒ領海ニ於テ戰鬪ヲ禁止シ又ハ其ノ港灣及ヒ領海ヲ策源地ニ利用スルコトヲ禁止セサルヘカラ

ス第二ニ中立國ハ其ノ港灣及ヒ領海ニ於テ交戰國軍艦カ兵器彈藥ヲ積込ミ兵員ヲ增加シ其ノ他凡テ戰鬪力ヲ增加スルヲ禁止セサルヘカラス換言セハ交戰國軍艦ハ中立港ヲ出ツルトキハ耐航力ノ增加ト糧食ノ補充トニ由テ己ヲ利スルノ外ハ其ノ中立港ニ入リタルトキヨリモ一層有効ノ具ト爲リテ出ツルヲ得ス次ニ中立國ノ權利ヲ擧クレハ第一ニ中立國ハ其ノ港灣及ヒ領海ニ交戰國軍艦カ碇泊シ得ル時間ヲ制限スルヲ得第二ニ石炭糧食ノ如キ生活及ヒ航海ニ必要ナル物品ノ供給ヲ制限スルヲ得但此等ノ供給ハ全然拒絶スルモ可ナリ以上ノ事項ニ關シテハ如何ナル規定ヲ設クルモ其ノ規定ニシテ不條理ナラサル以上ハ兩交戰國ヲ拘束シ得ルモノニシテ唯該中立國ハ其ノ規定ヲ雙方ニ公平ニ適用セサルヘカラス

今此ノ原則ヲ露國艦隊ノヂブーチ碇泊ノ場合ニ應用センニ國際公法ハ佛國ヲシテ露國艦隊ノ碇泊二十四時間ヲ經過セハ其ノ後ハ直ニ港外ニ退去セシムヘキコトヲ命スルニアラス故ニ佛國ハ開戰ノ公報ニ接スルト否トニ拘ラス斯ノ如キ事ヲ執行スルノ義務アルニアラス然レトモ佛國カ既ニ露國ニ對シテ許セシ所ハ日本ニ對シテモ亦許サヽルヘカラス今後日本艦隊カ或時間內佛國港灣ニ碇泊センコトヲ望マハ日本ニシテ該港灣ヲ潛伏所ト爲シ以テ是ヨリ露艦要擊ノ爲メ突出セントスルニアラサル限リハ佛國ハ之ニ應セサルヘカラス若シ之ヲ拒ミ二十四時間後退去ヲ强ユルトキハ中立違反ノ事ト爲ルヘシ石炭ニ關シテモ亦然リ一九〇四年二月十八日發表セル佛國ノ中立宣言ハ乘組員ノ生活ト航海ノ安全トニ必要ナル限度ニ於テ供給及ヒ修理ヲ許可シ其ノ領海ヲ軍事的行動ニ利用スルヲ禁セリ是漠然タル語ニシテ之カ正解ニ苦ムト雖モ佛國ノヂブーチニ於ル處置ハ果シテ此ノ規定ニ背馳セル點アルカ余ハ之ヲ捉フルヲ得ス露國艦隊ハ充分ニ石炭ヲ供給セラレタリト雖モ其ノ後同艦隊ハ再來港シテ避難ヲ求メス又更ニ給炭ヲ仰カス換言スレハ露國艦隊ハヂブーチヲ以テ根據地トハセサリシナリ今後佛國カ其ノ露艦ニ許セルモノヲ日本ニ拒ムニ非サレハ中立違反ハ成立セス今佛國ヲ責ムルハ早計ナリ

英國ノ中立規則ハ佛國ニ比スレハ嚴酷ナリ一九〇四年二月我カ外務省カ發布セル規則ニ由レハ交戰國軍艦ハ非禁制品ノ積載又ハ修理ノ爲メニ特許ヲ得ルニ非サレハ二十四時間以上英國港灣及ヒ領海ニ碇泊スルヲ得ス且此ノ場合ニハ出港ノ準備出來次第退去セサルヘカラス石炭ハ其ノ本國ノ最近港或ハ其ノ赴カントスル一層近キ指定中立港ニ達スルタケノ分量限リ供給スルコトヲ許ス然シ同軍艦ハ三ケ月以內ニ再其ノ港ニ來リテ石炭ヲ受クルヲ得ス是實ニ當ヲ得タル規定ニシテ佛國ノ漠然タル宣言ニ比シ遙ニ優ルモノト謂フヘク列强亦多クハ之ニ傚フ然レトモ國際法ハ交戰國軍艦ノ中立港ニ碇泊スルヲ許シ而テ石炭供給ノ量額ニ對シテ何等ノ制限ヲ附セサルヲ以テ吾人ハ北隣ノ一友邦カ英國ノ中立規定ニ傚ハサレハトテ之ヲ以テ中立違反ト云フヲ得サルヘシ

石炭ハ一種特別ノ性質ヲ有シ之ニ關スル規則モ現行ノ儘ニテハ甚タ不完全ナルヲ免レス航海ニ蒸氣ヲ用ヒサリシ以前ニ於テハ石炭ハ軍艦ニ取リテハ砂礫ト擇フ所ナク後世其ノ軍事ニ關係ヲ生スヘシトハ當時夢想タモセラレサリキ然ルニ前世紀ノ中葉ニ於テ世界ノ海軍ハ帆船ヨリ汽船ニ變シ石炭ハ忽チ最大緊要品トナレリ然レトモ國際法ハ其ノ基礎ヲ專ロ慣習ニ置キ其ノ因襲ノ久シキ未タ以テ直ニ之ヲ禁制品トナスニ至ラス交戰國軍艦ノ求ニ應シテ自由ニ供給スルヲ許セリ然ルニ一八六二年米國南北戰爭中英國ハ其ノ中立權ヲ行使シ石炭供給ヲ制限スル數ケ條ノ規則ヲ設ケタリ其ノ制限ノ程度ハ今日ト異ル所ナシ爾來英國ハ局外中立ヲ宣言スル每ニ此ノ規則ニ據リ他列國殊ニ米國亦之ヲ採用セリ之ト同時ニ軍艦ハ其ノ大サ及ヒ速力ニ於テ共ニ益〻進步シ石炭ノ需用亦愈〻增加シ其ノ軍事上重要ナルコト食料品ト異ラサルニ至レリ今日ニ於テハ若シ交戰國軍艦カ中立港ニ於テ充分ニ其ノ供給ヲ得ルトキハ非常ナル利益ヲ受クヘシ假令他ノ交戰國軍艦モ同樣ニ之カ供給ヲ受クルヲ得ルトスルモ其ノ需用ノ絕大ナルト同時ニ一度與ヘラレタル供給ノ効果モ亦絕大ニシテ是交戰國ニ助力スヘカラストノ中立精神ニ違反スルモノナリ或ハ又雙方ニ均等ノ助力ヲ與フレハ可ナリトノ說モアランカナレトモ是決シテ「全然助力ヲ與ヘサル」ト同日ノ論ニ非ス今ヤ英國ハ一歩ヲ進メ英國港灣ニ於テハ一切交戰國艦船ニ石炭ヲ供給スルコトヲ禁シテハ如何若シ斯ヽハ英國ハ一八六二年石炭供給ニ制限ヲ附ケタルトキノ如ク他國モ恐ラクハ英國ノ例ニ傚ハン或國ノ如キハ之ニ傚フヲ欲セサルヤ明ニシテ現ニ佛國ノ規定ハ未タ英國ノ四十年前ニ取極メタル標準ニモ達セス其ノ時ノ給炭ニ對スル方針ハ依然ト制限ヲ附セサルカ故ニ俄ニ斯ノ如キ國ヲシテ我ニ傚ハシムルハ容易ニ望ムヘ

カラスト雖モ他列國ノ之ヲ拒絶スルニモ拘ラス獨リ超然トシテ自由供給ノ主義ヲ固守スルハ之カ爲メ其ノ損害ヲ被レル一方ノ交戰國ヨリ苦情ヲ申込マルヽ場合少カラサルヘク英國ノ「アラバマ」事件ノ如キニ遭遇セハ結局佛國ト雖モ其ノ主義ヲ飜シテ英國ニ倣フニ至ルヘシ例令佛國ニシテ終ニ我ニ屈セストモ我ハ飽ク迄我カ是認スル所ヲ遂行セサルヘカラス英國ハ今余カ提出スル給炭拒絶主義ニ由リテ利スル所遙ニ他列國ニ勝レリ給炭ヲ拒絶スルハ其ノ第一ノ結果トシテ交戰國軍艦ハ各自國ノ港灣ニ於テ積込ミタル石炭或ハ自國ノ運炭船ヨリ積込ミタル石炭ノミニ依頼セサルヘカラス而テ英國ハ諸外國ニ比シ遙ニ貯炭所ニ富ミ又運炭船ヨリ絶エス其ノ艦隊ニ給炭スルニ大ニ便ナリ之ニ反シテ今日ノ如ク給炭行ハルレハ英國ハ最不利ナル地位ニアリ何トナレハ英國ハ敵ノ各港ヲ封鎖シテ給炭ノ道ヲ絶ツモ中立港ニ於テ給炭スルトキハ敵國ハ容易ニ二三ノ快速ナル貿易破壞艦ヲ派遣シテ英國ノ通商ヲ脅スヲ得ヘク而テ英國ノ通商ハ至盛至重ナルカ故ニ之ヨリ受クル損害モ亦他國ニ比シ最大ナルヲ以テナリ一九〇四年二月十二日ノ埃及中立宣言ニ曰ク交戰國軍艦々長ハ埃及港灣ニ於テ石炭ヲ得ント欲セハ先ツ其ノ赴カント欲スル次ノ港灣ト其ノ石炭庫ニ殘存セル石炭ノ分量ヲ認メタル書面ヲ當該官憲ニ差出シ所要額ヲ積込ムヘキ許可ヲ得サルヘカラスト是恐ラクハ現時實施シ得ヘキ最良ノ規定ナラン若シ給炭ヲ絶對的ニ禁止セントスルトキハ後章戰時禁制品ニ述フルカ如キ困難アルヲ免レス（原書欄外追記ニ曰ク更ニ考察スルニ此ノ困難ハ必スシモ生セサルコトヲ了知セラレタリト）

露國增遣艦隊司令官ウイレニユース少將カ紅海ニ於テ中立領海ヲ利用セシコトニ關シテハ多言ヲ要セス彼ハ其ノ權利ヲ僭越シ埃及ノ中立ヲ公然蹂躙セルモノナルハ明白ナリ交戰國カ中立國領海ニ於テ戰鬪ニ類似スル行爲ヲナシ又中立國領海ヲ以テ策源地トナスハ國際法ノ禁スル所ナリ加之國際法ニ據レハ中立國ハ狂熱沒道理ノ交戰國軍艦ヲシテ其ノ領海ヲ侵サシメス充分ニ其ノ主權ヲ保護センカ爲メニ條理ニ反セサル限リ如何ナル規定ヲモ設クルノ權利ヲ有シ併セテ交戰國ノ拿捕シタル船舶ノ入港ヲ拒ムヲ得ルモノトス埃及ハ二月十二日ノ中立宣言ニ於テ右ノ如クスルコトニ規定シ又英國ニ倣ヒテ其ノ領海ヲ策源地其ノ他軍事的避泊所ニ利用スルヲ禁止セリ露國司令官ハ既ニ國際法ノ規定ヲ遵奉スヘキ義務アリ殊ニ中立國カ斯ク明白ニ其ノ意思ヲ發表スルニ於テハ猶更ノコトナルニ露國司令官ハ埃及領海内ニテ蘇士港ヲ南下スル約十海里ノ處ニ其ノ拿捕船舶ヲ投錨セシメ己モ亦其ノ麾下艦隊ヲ同處ニ留メ通航ノ商船ヲ進ラシカ爲メ出艦セリ埃及ハ之ニ對シテ早々抗議ヲ申込ミ日露戰爭中再斯ノ如キ暴擧ニ出テシムヘカラサルコト吾人ノ切望スル所ナリ右ニ關聯シテ半ハ法律上ニ係リ半ハ政略上ニ係ル他ノ一問題起レリ即チ蘇士海灣航門ノ狹隘ナルト其ノ全長ヲ通シ可航水道ノ狹小ナルトノ故ヲ以テ之ヲ埃及ノ領海ナリト論スル者アルコト是ナリ然レトモ其ノ灣口ハ幅十二海里ニシテ世論之ヲ公海ノ一部分ト認ムルヲ見レハ之ヲ埃及領海内トスルノ論ハ未タ重キヲ置キ難シ若シ夫之ヲ以テ埃及領海ニ非ストスルモ蘇士運河ハ中立ヲ保護センカ爲メ國際條約ヲ以テセハ埃及領海ト爲シ得サルニ非ス一八八八年ノ列國會議ハ蘇士運河ノ兩口ヲ封鎖シ又ハ水道内及ヒ其ノ兩端ヲ距ル三海里以内ニ於テ敵對行爲ヲナスヘカラサルモノトセリ此ノ規則ハ其ノ條文カ明ニ示ス通リナルニ一ノ艦隊ニシテ蘇士海灣内幅僅ニ八海里ニ過キサル可航水道ニ在泊セハ是事實上一ノ交戰國ノ手ヲ以テ東西兩洋ノ貫通全路ヲ制扼スルモノナリ今回ノ戰爭中露國或ハ日本カ中立國ヨリ艦船ヲ購入シ之ヲ戰鬪ノ目的ニ使用セントセル明白ナル事件ハ未タ發生セス（原書欄外追記ニ曰ク此ノ事ニ關シテハ講演ノ日一九〇四年五月二十五日ナルコトヲ考ヘサルヘカラス）新聞紙ハ頻々トシテ兩交戰國特ニ艦船ヲ切望スル露國ノ購入談ヲ傳フ余ハ裏面ニ於テ進行シツヽアル事情ヲ知ラスト雖モ機敏ナル投機師ハ之ヲ交戰國ノ何レカニ賣附ケ巨利ヲ博センカ爲メ能フ丈ケ精鋭ナル軍艦ヲ買入レントシツヽアルハ想像スルニ難カラス此等ノ投機師ハ賣込ノ宛先ナキニ漠然一攫千金ヲ夢想スルモノト謂フヘシ中立國ニ賣却サルヘキ軍艦ヲ其ノ領内ノ港灣ヨリ發航セシメハ重大ナル公法違反ナリ之ニ關スル公法上ノ論點ハ多岐ニ渉リ且趣味アルモ未發ノ事件ニ係ルヲ以テ本席ニ於テハ之ヲ論セス既ニ新聞紙上ニ傳フル露國ノ買艦談ハ一笑ニ附シ去ルヘキモノアリ露國海軍省如何ニ艦艇ヲ渴望スレハトテ其ノ婆羅的艦隊ニ增勢センカ爲メ獨逸ノ用壞シタル舊式水雷艇ヲ讓受ケ或ハ速力出テサルカ爲メ廢棄セラレタル郵船ヲ購入シテ極東ニ派遣シ此ノ浮蹇跛鴨ノ集團ヲ以テ勝チ誇リタル日本海軍ノ鋭鋒ニ當ルノ愚ニ出テサルハ何人モ想像スルニ難カラス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

四　戰時禁制品ニ關スル件

余ハ是ヨリ戰時禁制品ナル大問題ニ就キ本席講演時間ノ許ス限リ其ノ大要ヲ論セントス先ツ第一著ニ兩交戰國ノ本問題ニ關スル大體見解ノ相違セル點ヲ觀察シ然ル後石炭及ヒ食料品ノ二項ヲ設ケ各其ノ題下ニ說ク所アルヘシ。

高橋博士ノ著書（International Law during the China-Japanese War）ノ附錄ニ揭ケラレタル日本海上捕獲規程ニ據レハ禁制品ハ之ヲ分チテ二種トス此ノ種別ハ本年二月十四日日本政府カ發布セル規程ニモ適用セラレタリ唯其ノ二種ノ品目中ニ包含スル貨物ハ十年前ノ規程ト多少異ル所アルモ大體ニ於テ大差ナシ第一種ニ屬スル物品ハ敵地ニ到達スヘキ場合又ハ敵ノ海陸軍ニ到著スヘキ場合ニ於テ之ヲ戰時禁制品トス第二種ハ敵ノ陸海軍ニ到達スヘキ場合又ハ敵地ニ到達シ其ノ到達地ノ如何ニ依リ敵ノ陸海軍用ニ供スルモノト認ムヘキ場合ニ限リ之ヲ戰時禁制品トス即チ其ノ性質專ラ軍事ノ目的ニ適シ軍用ニ供セラルヘキコト疑ヲ容レサル物品ト用途不確定ニシテ場合ニ由テ其ノ性質ヲ異ニスル所謂平戰兩用ノ物品トヲ劃然區別シ第一種ハ絕對的ニ敵ニ達スルコトヲ禁シ第二種ハ軍用ニ供セラルヘキコト明白ナル場合ニ限リテ之ヲ禁スルモノニシテ換言スレハ日本ノ規定ハ英國戰利法提要及ヒ捕獲審檢所判決例ニ於テ見ラルヽカ如ク廣濶ノ範圍ヲ示サスト雖モ其ノ根據ヲ英國ノ規定ニ取リ英國ノ一時的又ハ條件的禁制品ノ主義ヲ採用セルモノナリ日本ノ第一種禁制品即チ英國ニ於テ所謂絕對的禁制品ノ種目ハ甚タ少數ニシテ兵器彈藥、爆發物並ニ其ノ材料及ヒ製造機械、軍艦ノ製造及ヒ艤裝ノ材料以外ニハ何物ヲモ包含セス唯末文ニ「以上ノ物品ニ屬セスト雖モ單ニ戰爭ノ用ニ供スヘキ一切ノ物品」ト記シアリ是概括的ナリト雖モ別ニ例外ノ場合ニ就キ何等ノ規定ナキヲ以テ之ヲ絕對的ト解釋セサルヘカラス次ニ第二種物品即チ英國ニ於テ所謂條件的禁制品モ均シク之ヲ簡單ニ揭ケタリ即チ糧食及ヒ飲料品、馬匹、馬具、馬糧、車輛、石炭、木材、通貨、金銀塊並ニ電信、電話及ヒ鐵道建設ノ材料ニシテ一モ過酷ト言フヘキモノナシ中立國ノ見地ヨリスルトキハ此ノ種目ヲ至當トセサルヘカラス而テ日清戰爭ノ經驗ニ徵シテ考フルトキハ日本ハ此等ノ規程ヲ壓制的ノ方法ヲ以テ實施スヘシトハ思ハレサルナリ

然ルニ露國ニ對シテハ吾人ハ日本ニ對スルト同樣ノ信任ヲ置ク能ハス露國ハ戰時禁制品ノ中ニ何等ノ區別ヲ設ケス苟モ禁制品ト認ムル物品ハ悉ク第一種即チ絕對的禁制品中ニ包括セリ是露國政府ノ本年二月二十八日附布告ニ依テ明白ナリ此ノ如キ規定モ若シ禁制品ノ種目ヲ少クシ通常專ラ戰爭用ニ供スヘキ物品ノミニ限レハ中立國ハ之ニ由テ別段危害ヲ被ルコトナカルヘシト雖モ露國ノ禁制品種目ハ甚タ多ク平戰兩用ノ物品ヲモ包含スルコトハ一九〇〇年九月二十日海軍會議ニテ制定セル訓令第十四條ニ屬スル附錄（第二）及ヒ一九〇四年二月二十八日ニ發布セル「日本ト交戰ノ準據規則」第六條ニ依テ知ラレタリ概言スルニ一九〇〇年ノ訓令ハ一八七七年露土戰爭ノ時ニ制定シタルモノニシテ一九〇四年發布準據規則ハ即チ一九〇〇年ノ訓令ヲ修補シ之ニ數ケ條ノ重要ナル新種目ヲ追加セルモノナリ其ノ追加物品ハ海軍用機械、石炭、糧食、馬匹等ニシテ何レモ均シク絕對的禁制品トシテ取扱フモノナリ故ニ此等ノ物品ハ敵地ニ向フ中立船ニ積込ムトキハ其ノ到達地ノ商港タルト軍港タルトヲ問ハス又平戰孰レノ用ニ供スルトヲ問ハス悉ク之ヲ沒收スヘキモノトス英國ノ規程ニ據レハ平戰兩用ノ物品ヲ敵港ニ向フ中立船內ニ見出ストキハ其ノ港カ艦隊艤裝地ナルカ若クハ陸軍軍用品ノ集積地ナレハ沒收シ然ラサレハ解放スヘキモノトス然レトモ英國ハ斯ク條件的禁制品ヲ沒收スル場合ニハ其ノ所有者ニ相當ノ補償ヲ支拂ヒ無補償ニテ沒收スルハ絕對的禁制品ノ場合ノミ而モ大陸ノ公法學者及ヒ政治家ハ之ヲ以テ酷ニ失スルモノトシ口ヲ極テ非難セリ一八九六年伊國ヴエニスニ開カレタル萬國國際法學會ハ該問題ヲ討議シ英國ノ條件的禁制品ノ主義ヲ排斥セシニモ拘ラス其ノ決議ニ「敵港ニ仕向ケ輸送中ノ平戰兩用ノ物品ハ交戰國ニ於テ相當ノ補償ヲ支拂ヒ之ヲ差押ヘ又ハ先買スルヲ得」ト追補セリ是事實上英國ノ主義ニ屈セルノミナラス尚一層峻酷ナルモノニ非スヤ何トナレハ英國ハ軍用ニ供セラルヽナラント推定シ得ヘキ理由ナケレハ拿捕セサルニ該學會ハ何等ノ目的ニ使用スル物品ト雖モ敵港ニ赴クトキハ之ヲ差押又ハ先買シ得ヘキモノトスレハナリ

然ルニ露國ハ近頃其ノ發布セル規則ニ於テ英國主義ト國際法學會トノ峻酷ナル點ヲ併取シ各般ノ檢束ヲ放棄セシコトヲ旨トス即チ英國ノ所謂條件的禁制品ヲ悉ク絕對的禁制品ト同一視シ國際法學會ノ決議セル差押及ヒ先買ノ主義ニ反シ禁

制品種目中ノ物品ハ其ノ軍用ニ供セラルト否トヲ問ハス無補償ニテ差押ヱルコトニ定メタリ是中立國ノ通商ニ大打撃ヲ加フルモノニシテ那破翁戰爭其ノ最高潮ニ達シ英國モ種々不法ナル行爲ヲ犯シ大陸諸大家ノ爲メニ「海上ノ唐王」ト迄非難セラレシ當時スラ猶爲スヲ敢テセサリシ所ナリ

露國ハ恐ラク此ノ規定ヲ行使スルノ機會殆トナカルヘシ然レトモピーコンスフイールド卿ノ云ヘル如ク戰爭ハ恰モ滿チテハ缺クル月ノ如ク變化シ其ノ勝敗ノ數容易ニ決スヘカラサルヲ以テ吾人ハ生シ得ヘキ凡テノ場合ニ對シテ豫メ備ヘサルヘカラス交戰國ハ自由ニ其ノ禁制品種目ヲ定ムルノ權アリト雖モ中立國モ亦之ニ異議ヲ挾ムノ權ヲ有ス余ハ通商ノ安全ニ至大ノ利害關係ヲ有スル大國民ノ一員トシテ我カ政府若シ未タ何等ノ抗議モ爲サスンハ速ニ之ヲ爲サンコトヲ勸告セサルヘカラス

五　石炭ニ關スル件

戰時禁制品ノ目錄中ニ編入セラレタル各種物品ニ關シテハ本席ニ於テ姑ク論題ヲ石炭ト糧食ノ二種ニ止メ第一ニ石炭ノ事ヲ説カン石炭ハ國際法上如何ナル性質ヲ有スルモノナリヤト云フ事ニ就キ露國ノ意見ハ前後非常ニ矛盾スルモノナリ一八八四年ノ西阿弗利加會議ハコンゴー河ノ貿易及ヒ航通ハ其ノ沿岸邦國戰爭中ト雖モ禁制品ノ密輸入ニアラサル限リハ自由安全タルヘシト決議セリ而テ戰時禁制品ノ種目ヲ議セシ時即チ一八八四年十二月露國委員ハ「露帝ハ石炭ヲ禁制品ト認メス」ト喝破シ滿場ヲ驚カシメタリ是ニ由テ之ヲ觀レハ露國ハ當時佛國ト均シク「石炭ハ何レノ場合ト雖モ禁制品ニ非ス」ト云フ極端ナル見解ヲ抱持セルナリ英米二國ハ石炭ハ海陸軍用ニ供スル場合ハ禁制品ナルモ商工業及ヒ日用ニ供スル場合ハ然ラストセリ日本モ亦英米ノ主義ヲ採リ之ヲ第二種ノ禁制品中ニ編入シ敵ノ軍艦又ハ敵ノ海陸軍裝備港ニ行クノ途中ニ於テ之ニ追及シタル時ノミ捕拿スヘキモノトス獨逸ハ或ハ之ト同主義ヲ執ルコトアリ或ハ之ト著シク異リテ敵港ニ仕向ケタル石炭ハ其ノ港ノ性質如何ニ拘ラス禁制品ト爲セルコトアリ然レハ輓近マテハ露佛二國ハ石炭ハ如何ナル場合ニ於テモ絶對的ノ非禁制品ト爲シ英國其ノ他多クノ大海軍國ハ之ヲ條件的禁制品ト爲セリ然ルニ露國ハ一九〇四年二月二十八日即チ日本トノ開戰後第二十日ニ迨ヒ恬然其ノ主義ヲ飜シ石炭ハ絶對的禁制品ナリトノ極端ナル見解ヲ取ルニ至リタリ即チ「日本ト交戰準據規則」第八條ニ於テ各種ノ燃料品(石炭ナフサ「アルコール」其ノ他類似ノ物品)ヲ禁制品中ニ編入セリ而テ露國ノ此ノ規則中ニ列擧シタル物品ハ總テ絶對的禁制品ト看做スヘキカ故ニ東京市民ノ日用ニ供センカ爲メニウカツスルヨリ横濱ヘ輸送スル軟炭モ東郷艦隊ノ用ニ供センカ爲メカーヂフヨリ長崎ヘ送ル無煙炭モ一樣ニ拿捕沒收セラルヘシ吾人ハ之ニ對シテ異議ヲ挾ムヘキ理由ヲ有セサルカ此ノ問題ニ對シテハ石炭ハ海戰ニ於ル價値ノ大ナルコト及ヒ石炭ノ商港ニ揚陸セラレタル後陸運ニテ之ヲ軍港ニ轉送スルノ容易ナルコトヲ思ハヽ之カ解決ニ苦マサラン本年二月我カ外務大臣カカーヂフノ一商社ニ送レル一書ハ例ノ英國主義ヲ聲明スルモノニシテ即チ石炭ハ如何ナル目的ニモ使用セラルヽ物品ニシテ石炭其ノ物ノミニ就テ言フトキハ禁制品ニ非スト雖モ其ノ使用ノ目的個人的ノ平和事業ニアラスシテ軍事用ナルトキハ禁制品トセラルヘシト然レトモ吾人若シ石炭ヲ以テ今日ノ海軍軍用品中最重要ナルモノトナシ彈藥ト同等ニ置キ中立港ニ於テ一切之カ供給ヲ禁セサルヘカラサルモノトスルトキハ吾人ハ右ニ言ヘル英國主義ヲ保持スルコト能ハサルニ至ル(原書欄外附記ニ曰ク余ハ今之ヲ考フルニ英國港灣ニ於テ交戰國艦船ニ對シテ石炭ノ供給ヲ禁スルト同時ニ其ノ石炭ヲ條件的禁制品ノ中ニ編入スルモ實際矛盾セサルモノト信スルノ理由アリ余カ斯ク斷案シタル所以ハ余ノ近著 War and Neutrality in the Far East ニ見ユ)既ニ英國港灣ニ於テ交戰國ニ石炭供給ヲ許サヽルモノトスレハ其ノ仕向先ハ假令軍港ニ非ストスルモ交戰國港灣ニ向ケ自由ニ之ヲ運搬スルノ權利ヲ主張シ得ヘキヤ以上二者ハ兩立スヘキモノニ非ス故ニ吾人ハ交戰國ニ對シテ全然石炭供給ヲ禁止スルト同時ニ交戰國ヲシテ全然敵港ヘノ石炭輸送ヲ禁止セシムルカ然ラサレハ今日ノ如ク或程度マテハ交戰國ニ石炭供給ヲ許スト同時ニ交戰國ヲシテ或程度マテ敵港ヘノ輸送ヲ許サシムルカ二者其ノ一ヲ選ハサルヘカラス是雙方ニ各其ノ理アリ大ニ議論ノ存スル所ニシテ容易ニ斷案ヲ見ルヘカラスト雖モ若シ後者ヲ採リ通常海軍用ニ供セラルヽ無煙ノ硬炭ハ之ヲ絶對的ニ禁制品トシ軟炭ヲ條件的禁制品トナサンハ此ノ難問ニ對シ略滿足ナル解決ヲ得ルニ庶幾カラン茲ニ注意ヲ促サント欲スルハ露國カ今日マテハ未タ

其ノ嚴酷ナル規程ヲ實行セサルコト是ナリ露艦ハ曩ニ英國運炭船「アランクヒー」「エトリックデール」ノ二隻及ヒ諾威船「マチルダ」ヲ共ニ紅海ニ於テ拿捕セシモ何レモ露帝ノ特命ニ由リ露國政府カ石炭ヲ禁制品ナリト宣言セル以前ナリトノ理由ヲ以テ之ヲ解放シタリ是露國カ中立國ノ感情ヲ慮リテ取レル退讓ノ態度ナリ之ニ反シテ其ノ後（四月二十一日）露國ハ特ニ綿花ヲ以テ禁制品トナスコトヲ宣言セシト雖モ亦之ヲ改メテ以前ノ態度ニ復セシコトヲ希望ス

六　糧食ニ關スル件

糧食問題ハ其ノ沿革ヲ述フレハ自カラ明瞭ナラン一七九三年英佛戰爭ノ起ルヤ兩國共ニ最初ハ敵ノ貿易港ニ向ケ輸送スル糧食ヲ禁制品ト宣言セシカ後チ中立國ノ反對ニ遭ヒ之ヲ撤回セリ是ヨリ糧食ハ敵ノ被包圍地又ハ軍隊ニ仕向ケタルヽ場合ノ外ハ禁制品ニ非ストノ主義起レリ爾來一八八五年迄ハ此ノ主義普ク行レシカ同年ニ至リ佛國ハ是迄固ク此ノ主義ヲ執リタルニ拘ラス清國トノ交戰中中立國船舶ニシテ廣東以北ノ清國各港ニ向ケ輸送スル米ヲ禁制品ト認ムル旨ヲ中立諸國ニ通牒セリ英國ハ直ニ抗議ヲ提出シ從來ノ說ヲ主張セシカ同戰爭ハ一モ拿捕事件ヲ見ルニ至ラスシテ終結シタルヲ以テ此ノ議ハ決セスシテ止メリ然レトモ此ノ問題ニ關シテ注意スヘキ二點ノ存スルアリ第一ニビスマーク公ハ當時ハンブルヒ商人團體ヨリノ愁訴ニ答ヘテ禁制品ノ種目ヲ定ムルハ交戰國ノ權內ニアリト云ヘリ第二ニ佛國ハ米ハ清國政府ニ納ムル年貢ニシテ清國政府ハ之ヲ以テ兵士ノ給料ヲ拂フトノ理由ヲ以テ其ノ之ヲ禁制品ト爲シタルヲ辯護セリ是甚タ巧ナル論ナリト雖モ若シ此ノ論法ヲ敷衍スルトキハ其ノ範圍宏大ト爲リ官有物ニシテ沒收セラレサルモノ幾ト是無キニ至ルヘシ何トナレハ如何ナル物品モ必ス其ノ價ヲ金錢ニテ算スルヲ得ヘク而テ國庫ノ收入ヲ以テ禁制品トセハ其ノ財源タル物品モ亦禁制品ト看做サルヘキヲ以テナリ故ニ此ノ主義ニ基キテ禁制品ノ種目ヲ定ムルトキハ戰爭上ニ何等ノ關係ナキ物品ヲモ禁制品ト爲シ以テ容易ク中立國ノ通商ヲ萎靡不振ナラシムルニ至ルヘシ佛國ノ議論ノ當否ハ姑ク措キ其ノ米ヲ禁制品ト宣言シタル事實トビスマーク公カ之ニ對シテ何等ノ抗議ヲモ爲サヽリシ事實トハ大ニ吾人ニ警告ヲ與フルモノニシテ吾人ハ糧食ノ輸入ヲ常ニ安全ナラシムルコト最大重要ナルカ故ニ右ニ鑒ミ今後此ノ問題ニ就キ充分ノ注意ヲ拂ハサルヘカラサルナリ

日露戰爭ニ於ル露國ノ行爲ハ又大ニ戒心スヘキモノアリ從來露國ハ糧食ヲ以テ禁制品トナサヽリシニ一九〇四年二月二十八日發布ノ規則ニ於テ米其ノ他ノ食料品ヲ禁制品中ニ加入セリ之ニ對シテ我カ政府ハ一八八五年佛國ニ對シテ爲セル例ニ倣ヒ强硬ナル抗議ヲ提出セシコト必要ナリ日本ノ規程ニ對シテハ一モ愁訴スヘキ廉ナシ日本ハ敵軍ノ用ニ供セラルル場合ノミニ限リ食料品ヲ禁制品トス蓋日本ノ捕獲審檢所ハ之ニ「被包圍地ニ向ケ送ラルヽ場合」ヲモ加フルナラン戰爭ノ初メ米船二三隻ハ罐詰其ノ他ノ食料ヲ搭載シ旅順及ヒ浦鹽ニ向フノ途中日本ニ立寄リシニ日本ハ該物品ヲ拿捕セリ是寧ロ當然ノ事ニシテ決シテ公法違反ニ非ス唯余ハ怪ム貿易ノ事ニ機敏ナル米人ニシテ此ノ回ニ限リ不似合ノ失策ヲ演セシハ果シテ何故ナリヤ

今後吾人ノ取ルヘキ政策ハ實ニ明白ナリ英國ハ其ノ從來ノ國業ヲ根本的ニ變革スルカ若クハ其ノ人口ヲ半減スルニ非サレハ自國生產ノ食料品ノミニテ支フル能ハス「ダブルユー、ジエー、マルテン」博士ハ國內四百萬「エーカー」ノ土地ニ馬鈴薯ヲ作レト勸告セシカ其ノ說ハ甚タ可ナルモ之ヲ實行スルハ至難ノ事ニ屬ス今日英國カ消費スル麥及ヒ麥粉ノ五分ノ四ハ海外ヨリ輸入スル所ニシテ此ノ鉅額ノ內英國殖民地及ヒ屬國ヨリ來ルモノハ其ノ割合多カラス即チ過去八年間ニ於テ百分ノ八乃至二十四ニ過キサルナリ故ニ若シ國際法ニシテ非軍人ノ食料品ヲモ禁制品トナスコトニ變更セラルヽアラハ是英國ニ取リテハ死活問題ニシテ吾人ハ武力ニ訴テモ之ニ反抗セサルヘカラス若シ事起ラハ麥、肉類等ノ生產國ニシテ商業上英國ヲ無上ノ得意先トスル諸大國ハ必ス我ニ加擔スヘシ就中米國ハ英國ト同樣ニ軍用ニ供セサル食料品ハ禁制品トセサル主義ヲ採リ飽ク迄之ヲ固守スルノ決心アリ故ニ若シ英國ニシテ一朝佛國或ハ獨逸ト戰端ヲ開キ米國ヨリ「リヴアープール」ニ仕向クル穀物積載ノ船舶カ公海ニ於テ拿捕サルヽ如キアラハ英米二國ハ協力シテ此ノ貿易破壞艦ヲ洋上ヨリ驅逐シテ其ノ跡ヲ絕タシムヘシ此ノ事タル他列國モ亦善ク之ヲ知レリ其ノ之ヲ知ルト我カ海軍ノ精銳ナルコトハ吾人ノ主トシテ賴ムヘキ保障タリ

七　討議

在英米國大使館附海軍武官ストックトン大佐ノ演述

中立問題ハ廣ク國際間ニ關係アル問題ナルカ故ニ米國人タル余カ米國ノ經驗ニ徴シ米國ノ立場ヨリ見タル卑見ヲ披瀝シテ該議論ノ一新生面ヲ開クモ亦徒勞ニ非スト信スローレンス博士ノ講義ニ就キ余ノ論セントスル第一ノ問題ハ我々海軍將校ニ重大ノ關係アル「海上ニ於テ中立船舶カ戰鬪員ヲ救護スル場合」是ナリ該問題カ海牙平和會議ニ於テ議セラレタルトキ我カ米國全權委員ハ其ノ可決サレタルモノニ反對ナリキ同會議カ「ジェネーブ」條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約案第六條ヲ協賛シ第十條（譯者曰ク第十條ハ難船者傷者又ハ病者ハ中立國ト交戰國トノ間ニ別ニ規定ナキ限リハ再戰鬪ニ從事スルコトヲ得セシメサル爲メニ戰爭ノ終リマテ之ヲ其ノ地方中立國ニ抑留スヘシ地方官廳ニ引渡サレタル時ハ交戰國ニ引渡サスシテ抑留スヘシトアリ）ヲ削除シ其ノ代ニ何等確タル規定ヲ設ケサルカ故ニ其ノ條約ヲ以テ不完全ナリトスルハ我カ海軍部內ノ輿論ナリ余ハ今我カ國カ嘗テ採用シ能ク其ノ輿論ヲ表示スル一節ヲ朗讀セントス是ナハン大佐カ海牙ニ於テ吐露セル意見トハ多少異ル所アルモ大體ニ於テハ之ト一致ス即チ海戰ノ目的ハ啻ニ敵ノ戰鬪材料ヲ破壞スルノミナラス其ノ人員ヲシテ戰鬪力ヲ失ハシムルニアルヲ以テ若シ第三者カ立チ入リテ人道ノ名義ノ下ニ敗軍ノ將卒ヲ救助スルトキハ勝者ハ之カ爲メニ其ノ當然獲得スヘキ戰果ヲ奪ハル丶モノナリトノ思想ニ基クモノニシテ之ヲ文面ニ顯セハ曰ク商船、遊船若クハ中立船舶ニシテ現海戰場ノ附近ニ在ルモノハ交戰國ノ傷者病者若クハ難船者ヲ收容スルコトヲ得此等ノ船舶ハ其ノ救助ヲ終リタル後其ノ附近ノ海面ヲ制御スル交戰國ノ指揮官ニ報告シテ將來ノ指揮ヲ乞フヘシ且交戰國ノ艦隊ニ隨伴スル間ハ常ニ同指揮官ノ令下ニ屬スヘク而テ中立船舶ナルトキハ該交戰國ノ國旗ヲ前檣頭ニ揭ケ其ノ直下ニ赤十字ノ旗ヲ翻シ以テ之ヲ標識トスヘシ前項ノ船舶ニシテ中立違反ノ所業アルトキハ拿捕セラルヘク其ノ許可ナクシテ前記傷者病者及ヒ難船者ヲ運搬セント試ムルハ中立違反タルヘシ又該船舶ハ「ジェネーブ」條約及ヒ其ノ原則ヲ應用スル海牙條約ノ各條項ニ準據スヘシ（米國海戰法規及ヒ慣例第二十五條）ト又中立違反ニ關スル規定ハ海牙條約第六條ニ揭ケラレタリ曰ク

「中立國ノ商船、遊船又ハ端舟ニシテ交戰國ノ傷者、病者若クハ難船者ヲ搭載シ若クハ收容スルモノハ此ノ運送ノ事實ノ爲メニ捕獲セラル丶コトナシ然レトモ中立違反ノ所爲アルトキハ捕獲ヲ免レサルモノトス」ト而テ中立違反ノ何タルヤハ該條約之ヲ明示セス此ノ場合制海權ヲ掌握スルモノハ即チ勝者ナリ勝者ハ被救助者ヲ如何ニ處分スヘキカ人道ハ其ノ誰ナルヲ問ハス溺者ヲ救助スルヲ命ス然レトモ人道ハ中立ニ悖ルヘカラス畢竟人道トハ嚴正ナル中立ニ外ナラサルナリ故ニ人道ハ中立船舶カ其ノ救助セル戰鬪員ヲ運ヒ去ルヲ命スルモノニアラス故ニ余ハ救助ニ從事セル中立船舶ニ干涉スルハ敢テ人道ニ反スルモノニ非スト信ス然レトモ此ノ場合中立船舶ニ干涉シ得ルハ戰勝者ナルヲ以テ救助サレタル戰敗者ハ敵ノ手中ニ落ツルニ至ルヘシ余ハローレンス講師ノ如ク此ノ問題ヲ解決スヘキ國際會議カ昨夏中ニ開カレサリシヲ憾ム是歐洲大陸二三國ノ之カ參列ヲ拒ミシニ基因スルモノナルハ公然ノ秘密ナリ我カ米國ハ其ノ代表者迄モ任命セリ英國モ亦「ジェネーブ」條約ヲ改メ俘虜ノ取扱其ノ他戰爭ニ關シテ改善ヲ加ヘ一層人道ニ適合セシムルコトニハ充分ニ贊成ノ意ヲ表セリ然ルニ二三ノ大陸國ハ之ニ反對シ當時會議ノ場處ニ充テラレタル瑞西ニ告ケテ曰ク我カ國ハ該會議ニ參與スルヲ欲セス其ノ決議ノ效力ハ當然我カ國ニ及ハサルヘシト爲メニ該會議ハ成立セサリキ余ハ日露戰爭結了シ各國ノ感情融和スルヤ再國際會議ヲ開キテ「ジェネーブ」條約ヲ改正セントコトヲ希望シテ止マス中立ハ無私公平ナルヘキモノナルニ頃者「同情的中立」（シムパセチツク、ニウトラリチー）トモ稱スヘキ一種厭フヘキ中立狀態ノ存スルアリ同情ト中立トハ其ノ性質相容レサルモノナルニ拘ラス實際ニ於テ此ノ如キモノ存在スルナリ是我カ米國ノ最忌ム所ナリ獨リ米國ノミニ止ラス何ノ世如何ナル國ト雖モ之ヲ忌マサルハナカルヘシ實ニ「同情的中立」ハ國際間ニ久シク結ンテ解ケサル感情ノ衝突ヲ引起シ甚シキハ戰爭ノ原因トモナルモノナルカ故ニ是非或方法ヲ以テ中立國ノ權利義務ヲ確定シ以テ其ノ發生ヲ避ケサルヘカラス余ハ其ノ實行ニ就キ大ニ英米國ニ望ヲ屬ス是二國カ嘗テ中立問題ニ關シ華盛頓ニ於テ締結セル條約ヲ復活シ列國ノ同意ヲ求ムルニ如クモノナケレハナリ無線電信ニ關シテ露國カ新聞通信員ニ對スル態度ハ暴ト云ハサルヘカラス露國ハ海牙條約ニ調印セリ該條約ハ陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第二十九條ニ於テ間諜ノ定義ヲ明記スルノミナラス同規則第十三條ハ通信員ニ

就キテ規定シテ曰ク新聞通信員及ヒ探訪者、酒保、用達人等ノ如キ直接ニ軍隊ノ一部ヲ爲サヽル從軍者ニシテ敵ノ權內ニ陷リ敵ニ於テ之ヲ抑留スルヲ利益ナリト認ムルトキハ其ノ所屬陸軍官衙ノ承認狀ヲ携帶スル者ニ限リ俘虜ノ取扱ヲ受クルノ權利ヲ有スト故ニ無線電信機ヲ裝置セル船舶ニ乘組ミ之ヲ使用スル通信員カ敵手ニ捕ハレタルトキハ慣例及ヒ國際法ノ規定ニ由リ少クモ俘虜トシテ取扱ハルヽノ權利ヲ有ス殊ニ其ノ後巴里ニ開カレタル無線電信會議ニ於テ露國モ之ニ參加セシニ當時無線電信通信員ニ關シ何等ノ問題ヲモ提起セサリシニ非スヤ是其ノ當時此ノ問題ヲ豫想セサリシニ由ルヤモ知レサレトモ何レニモセヨ間諜ノ罪ヲ以テ無線通信員ニ擬スルハ暴ナリ

石炭ノ問題ニ關シテハ余ノ意見ハローレンス講師ト異リ今日石炭ノ使途ハ大ニ擴張シ獨リ軍用ノミナラス光熱其ノ他ノ力ノ發源トシテ廣ク平和ノ目的ニ使用スルト同時ニ經濟上及ヒ家事上ニモ供スルニ至リ全ク食料品ト同樣トナレリ何トナレハ極端ナル冷食主張者ハ姑ク措キ苟モ文明ノ國民ハ悉ク火食ヲ爲シ而テ石炭ハ日常ノ燃料トナルヲ以テナリ故ニ余ハ石炭ヲ以テ食料品ト均シク條件的禁制品トスヘキモノト信ス即チ石炭ヲ海軍造兵廠、艦隊、軍用船或ハ海軍貯炭所ヘ向ケ發送スルトキハ戰時禁制品トシテ取扱フヘク若シ工業用其ノ他一般ニ平和ノ目的ニ供スルトキハ吾人ノ日常ノ生活ニ密接關係アルヲ以テ食料品ト同一ニ見做サヽルヘカラス無煙炭ニ就キテハ特ニ我カ米國ニ係ル一問題ナリ殊ニ其ノ東岸ニ於テハ多量ノ無煙炭ヲ其ノ無炭ナルノ故ヲ以テ使用ス是或程度マテハ贅澤ナリト言ハレンカナレトモ紐育市ノ法律ハ發煙炭ハ煙ヲ吐出スルヲ以テ之ヲ使用スルヲ禁セリ故ニ無煙炭ヲ以テ一概ニ軍艦用ニノミ供スルモノト云フヲ得ス蘇士運河ニ近寄ル路ニ關シテハ余ハ無論中立帶ヲ延長セサルヘカラサルコトヽ思惟ス是列國ニ於テ考察スヘキ事ナリ嘗テ智利及ヒ亞爾然丁二國カ境界線ヲ決定スルニ當リテマゼラン海峽ハ全部智利領ニ歸セリ之ニ對シテ合衆國ハマゼラン海峽ハ單ニ之ヲ智利ノ領海ト爲シ或ハ獨リ智利ノ使用スヘキ水道ト爲シ或ハ戰時智利ノ之ヲ閉鎖スヘキモノニアラストト抗議セリ要スルニマゼラン海峽ハ世界公共ノ一大海峽ニシテ右ノ如ク窮壓スヘカラサルモノナレハナリ蘇士運河ニ接スル紅海ノ狹窄部ニ關シテモ亦然リ然レトモ此等狹隘ナル領域ノ事ヨリモ尙一層重キヲ置クヘキ問題アリ両大洋ニ通スル大海峽ノ世界共用權問題ノ如キ其ノ一ナリ右ノ外ニ余ハ尙二三ノ問題ニ論及セント欲ス其ノ一ハ我々海軍將校一般ニ關係アル郵便物干涉ノ問題ナリ南北戰爭ノ際該問題ハ種々ノ形象ニ於テ發生シ合衆國ハ終ニ其ノ海軍士官ニ命令ヲ下シ郵便船ヲ拿捕セル場合ニ船內ノ郵便物ハ封ノ儘其ノ仕向地ニ送附セシメタリ降テ米西戰爭ノ際ハ合衆國海軍省ハ訓令ヲ發シテ曰ク敵ノ信書ヲ輸送スル中立船舶ニシテ現ニ敵國ノ役務ニ服シ通信船トシテ航海スルトキハ拿捕スヘキモノトス中立國ノ旗章ヲ掲揚スル郵便船舶ニシテ敵ノ信書ヲ一般信書ノ部トシテ其ノ行囊中ニ入レ或ハ特別契約ナク報酬ナクシテ便宜ノ爲メ特別行囊トシテ常規ニ從ヒ輸送スルトキハ之ヲ拿捕スヘカラス但戰時禁制品ノ搭載又ハ封鎖侵破等戰時法規違犯ノ明白ナル證迹アルモノハ此ノ限ニ非スト現ニ生存スル公法學者ノ泰斗ムーア博士ハ尙一歩ヲ進メ常ニ郵便物運搬ニ從事スル郵便船カ其ノ目錄ヲ提示シ豫定ノ通リ施行シタルトキハ或程度マテ軍艦ト同視シ抑留免除ノ特權ヲ與フヘシトサヘ主張セリ世界ハ恐ラク容易ニ之ヲ容レサルヘシ

次ニ露國カ棉花ヲ以テ禁制品トセルハ南北戰爭中合衆國カ示セル先例ニ倣フモノナリト言ハレタリ然リ我カ國ハ棉花ヲ以テ禁制品ナリト宣言セリ然レトモ彼ト此トハ大ニ事情ヲ異ニス棉花ハ南部諸州一般ノ產物ニシテ其ノ通用貨幣タリ是ヲ以テ軍需品其ノ他戰爭ヲ繼續スルニ必要ノ諸品ヲ買求メタリ故ニ貨幣ト異ル所ナク而テ貨幣ハ或場合ニハ禁制品ナリ時ノ合衆國外務大臣バーヤード氏ノ一八八六年西班牙公使セノール、ムルヂガニ送リタル書狀ニ曰ク南北戰爭ニ於テ棉花ハ南軍作戰ノ基礎ヲナスモノナルカ故ニ之ヲ禁制品トナセリ（中略）實ニ棉花ハ南軍ニ取リテハ彈藥ト同樣ノ軍需品タリ何トナレハ棉花ハ兵資ヲ購求スル主大ノ財源タレハナリト

末松男爵ノ質問

余ハ演者ニ對シ簡單ニ二三ノ質問ヲ爲サント欲ス

第一、艦船ノ賣買ニ關シ演者ハ軍艦ナレハ之ヲ公法違反ナリトセシモ商船ナレハ特別ノ事情アルニ非サレハ然ラストセラレシモノヽ如シ然ラハ今甲國ト乙國トカ戰端ヲ開クト假定シ丙ナル中立國カ賣却セントスル船舶ハ自國海軍ノ運送船

若クハ假裝巡洋艦トシテ使用セラルヘキモノナリトセンニ今該中立國ノ商人ハ是等船舶ノ多數ヲ賣却シ而テ其ノ事實ハ既ニ同國政府ノ知ル所ト爲ルモ尚中立違反ニ非サルカ

第二、交戰國艦隊ニ對スル石炭供給ニ關シテハストツクトン君ノ所論モアリタレトモ余ノ意見ヲ以テスレハ或場合ニ於テハ其ノ供給ニ警戒ヲ加ヘサルヘカラスト思考ス今甲國ト乙國トカ戰爭中ナリトシ甲國ハ戰地ニ向ケ其ノ艦隊ヲ派遣スト假定シ此ノ場合ニ丙ナル中立國カ甲國ノ艦隊派遣ノ途中之ニ石炭ヲ供給スルトキハ是事實上甲國ニ援助スルノ所爲トナルモノナレハ斯カル場合ニ石炭ヲ供給スルハ公法違反ニアラサルナキヤ豫メ規定ヲ設ケテ將來ヲ防クノ必要ナキヤ余ハ此ノ如キ事ノ實際ニ起リツヽアリト云フニ非ス唯其ノ場合ヲ想像スルニ過キス余ハ茲ニローレンス君ノ興味アル講義ニ對シ深ク感謝シ右二點ノ疑問ニ就キ高說ヲ仰カント欲ス

ローレンス博士ハ前記兩士ノ討議及ヒ質問ニ對シテ左ノ如ク言ヘリ

余ハ先ツ第二番ニ發言セラレタル末松男爵ニ向ヒ其ノ提出ノ質問ニ答ヘント欲ス我カ同盟國ノ一紳士ハ甚タ巧ニ難問ヲ起サレタリ余ハ初ニ之ヲ說カサルヲ得ス余ハ軍艦ナラサル船舶カ賣買契約ノ下ニ中立港ヲ出發セルノミニテ直ニ之ヲ中立違反ト言ヒ難シト思惟ス余ノ見ル所ヲ以テスレハ國際法ハ單ニ中立國政府カ交戰國政府ニ軍艦ヲ賣却スルヲ禁スルニ止ラス尙其ノ以上ニ進ムコトハ明白ナレトモ其ノ如何ナル程度マテ進ミシヤハ一問題ニシテ余モ亦裁判官ノ口癖ニ倣ヒ姑ク之カ判定ヲ差控ヘント欲ス余カ爰ニ言ヒ得ル所ハ一八七〇年ノ英國局外中立宣言ノ一ケ條ヲ引用スルノ外アラス該規定ハ所謂英國ノ宣言タルカ故ニ國際法ニアラサルコト素ヨリ論ナシト雖モ其ノ條項ノ多クハ本案件ニ關スル國際法上ノ解釋中今日得ラルヘキ最良ノ所見ヲ吐露スルモノト視テ可ナリ該宣言ハ凡英國臣民ニシテ英國ノ和親國ト交戰中ナル外國ノ陸海軍用ニ供セラレンカ爲メ若クハ供セラルヽコトヲ知リ若クハ供セラルヽコトヲ信スヘキ正當ノ理由アリテ船舶ヲ造ルコトヲ承諾シ又ハ他人ヲシテ之ヲ造ラシムルヲ禁止セリ此ノ規定中船舶ナル語ハ必スシモ戰列ニ加ラサルモ陸海軍用ニ供セラルヽモノ例之ハ運送船、運炭船ヲモ包含スルモノナリ而テ右ノ規定ニ違反シテ船舶ヲ造ルモノナルヲ信スヘキ正當ノ理由アルニ於テハ國務大臣ハ該船舶ヲ差押ヘ且抑留シテ出港ノ許否ニ關シ裁判所ノ判決ヲ待ツヲ得是唯英國ノ實例ナリト雖モ之ヲ以テ近世ニ於テ此ノ問題ニ對スル最良ノ見解ナラント思考ス

第二問ニ就キテハ余其ノ要旨ヲ誤解セルヤモ知レサレトモ交戰國ニ石炭賣却ノ問題ナリシカ如シ若シ然リトセハ是中立國カ交戰國艦隊ニ石炭供給ノ爲メ運炭船ヲ送リタル場合ト同一視シテ可ナリ

末松男爵

甲國ト乙國カ戰爭中ナリトシ甲國カ其ノ艦隊ヲ乙國ニ向テ派セントスルトキ其ノ途上ノ中立國カ該艦隊ヲシテ其ノ仕向先ナル戰場ニ達セシメンカ爲メ之ニ石炭ヲ供給セリト假定セヨ是適法ナリヤ

ローレンス博士

現行國際法ニ由レハ是確ニ中立違反ト爲スヘキナリ余ハ國際法ヲ曲解シテ過酷ニナスモノニ非ス佛國カ石炭ハ何レノ場合ニモ禁制品ニ非スト主張スルヲ除キテハ恐ラクハ何レノ國ト雖モ中立商船ヨリ直接ニ一方ノ交戰國艦隊ヘ供給スル石炭ハ禁制品ニシテ他ノ交戰國艦隊ハ之ヲ拿捕沒收スルノ權利アルヲ首肯スヘシストツクトン大佐ハ如何ナル場合ニモ石炭ヲ禁制品トナスコトニ異議ヲ挾マレタリ余モ亦略之ト同感ナリ大佐ハ曰ク石炭ハ平戰兩用ノ物品ナルヲ以テ現在ノ石炭カ軍用ニ供セラルヽ場合ト平和ノ目的ニ使用サルヽ場合トヲ區別スルノ主義ヲ以テ滿足セサルヘカラスト余ハ敢テ此ノ見解ヲ論駁セントスルモノニ非ス唯此ノ點ニ就キ述フヘキ事アリ即チ中立國ニ於テ石炭ヲ交戰國軍艦ニ供給スルコトニ關シ是迄英米二國ニ行ハルヽモノヨリモ一層嚴酷ナル規定ヲ設クルヲ贊成セラルヽヤ否ヲ問ハントス若シ贊成セラルヽトセハ果シテ斯カル規定ヲ設ケ得ヘキヤ又之ト同時ニ平和ノ使途ニ供セラルヽ石炭ハ普通ノ取引ノ場合ニハ非禁制品ナリト言ヒ得ヘキヤ恐ラクハ困難ナラン然レトモ余ハ少クモ一ノ變改ヲ爲シ得ラルヘシト思惟ス余ハ之ヲストツクトン大佐ノ如キ合衆國大使館附海軍武官タル一大家ノ前ニ述フルヲ喜フモノナリ我カ現行規定ニ據レハ軍艦ハ其ノ自國ノ最近港灣又ハ其ノ赴カントスル猶近キ指定ノ中立港ニ達スルニ足ル分量以上ノ石炭ヲ積込ムヲ得ストシ爰ニ始テ英國ハ軍

艦ノ到達先キヲ限定スルコトニ爲セリ然ラハ英國ハ今一歩ヲ進メテ埃及ノ例ニ倣ヒ石炭ヲ需求スル軍艦々長ヲシテ其ノ到達セントスル港名、其ノ炭庫ニ在ル石炭ノ量額及ヒ其ノ指定港ニ達スルニ要スル石炭補充高ヲ記載スル書面ニ調印セシメ若シ該艦長ニシテ石炭ヲ受ケタル後其ノ言質ヲ破リ其ノ指定港ニ赴カスシテ巡洋ノ目的ニ之ヲ利用スルトキハ該中立國ハ之ニ對シテ其ノ軍艦ハ戰爭中我カ各港ニ來リテ再石炭ノ供給ヲ受クルヲ得スト規定シテ可ナラスヤ余ハ此ノ程度マテ石炭供給ヲ束縛シテ妨ナク今日文明世界ノ輿論之ヲ贊成スルナラント思惟ス

次ニ中立船ノ救助ニ關シストツクトン大佐ハマハン大佐ノ說ヲ繰返シ之ニ有力ナル辯護ヲ與ヘラレシカ余ハ遺憾ナカラ猶此ノ二大家ニ反對セサルヲ得ス是恐ラクハ所謂英國人ノ執拗頑固ナル所ナラント自察ス ストツクトン大佐ハ人道ハ中立ナリト言ハレタリ此ノ點ニ於テハ余ノ一致スル所ナリ大佐ハ又曰ク被救助者ハ勝者ノ手ニ歸スヘシト余ハ之ニ全然反對ナリ余ハ中立船舶カ難船者ノ將ニ溺レントスルヲ救助シタル際交戰國ノ何レニ之ヲ引渡スモ中立違反ナリト主張スルモノナリ難船者ハ戰爭終結マテ戰鬪ノ範圍外ニアリ又アラサルヘカラス難船者ハ無論其ノ味方ニ引渡スヘカラス是其ノ再戰鬪ニ加ランモ知ルヘカラサレハナリ故ニ難船者ハ戰線以外ニ置キ而テ其ノ以外ニ留ラシメサルヘカラス然レトモ余ハ之ヲ敵ニ渡シ戰爭終結マテ俘虜トスヘシト云フモノニ非ス要スルニ本件ハ恰モ陸戰ニ於テ敗北軍カ中立國ニ遁竄シタル場合ト同一ナリ普佛戰爭ノ末期ニ當リ佛將ブールバキーノ軍隊ハ困苦窮乏ノ半ハ裸體ノ狀態ニテ氷雪ノ中ヲ追ハレ殆ト餓死ニ瀕シツヽ瑞西ニ逃レ玆ニ彼等ハ衣食ヲ給セラレタリ而テ再去ツテ佛軍ニ應援スルコトヲ禁セラレ又獨逸ノ俘虜トセラルヽコトモナク戰爭ノ終結迄瑞西ニ止メラレタリ其ノ結局ヲ告クルヤ彼等ハ其ノ衣食料トシテ佛國ヨリ瑞西ニ拂フヘキ勘定書ヲ渡サレ放還セラレタリ是其ノ當ヲ得タル處置ニシテ人道ニモ中立ニモ悖ル所ナシ余ハ敗北軍艦ノ指揮官カ中立船ニ救ハレタリトノ故ヲ以テ直ニ其ノ本國ニ歸リ再新艦隊ノ指揮ニ任スルカ如キハ不法ノ甚シキモノナリト信ス斯ノ如キ事アラハ或ハ戰局ノ大勢ヲ一變センモ亦知ルヘカラス故ニ該指揮官ハ海戰後其ノ附近ノ制海權ヲ握ル方ニ之ヲ引渡サス戰爭ノ繼續中ハ戰局以外ニ抑留セサルヘカラス

石炭ニ關シテハ余ハ再余ノ意見ヲ繰返スノ要ヲ見ス

棉花ニ關シテストツクトン大佐ハ南北戰爭中棉花ヲ以テ禁制品トセル北軍ノ處置ニ說キ及シ甚タ難點ヲ擧ケラレタリ余ハ本席ニ於テハ姑ク之ヲ論セス唯大佐ノ意見ニ從フ能ハサルヲ一言センニ過般英國衆議院ニ於テ議論アリシ如ク露西亞カ棉花ヲ禁制品トセルハ綿火藥製造ノ材料タルヘキ嫌疑アル場合ニ之ヲ沒收セントスルニ外ナラストセハ之ニ對シテ異議ヲ挾ムヘキ理由乏シカラン然レトモ若シ露西亞カ其ノ使途ノ如何ヲ問ハス悉ク棉花ヲ沒收セントスルモノトセハ吾人ハ之ニ對シテ石炭食料品ノ場合ト同樣ニ異議ヲ挾ムヘキ充分ノ理由ヲ有ス

議長ハーリス海軍中將

余ハ今日興味アル講義ト非常ニ有益ナル議論ヲ拜聽セリ而テストツクトン大佐及ヒ末松男爵ノ參席演說セラレタルハ吾人ノ大ニ幸福トスル所ナリ余ハ云ハントスル所甚タ多シト雖モ已ニ時間モ經過セルヲ以テ總テ之ヲ略ス余ハ幸カ不幸カ知ラサレトモ曾テクリート及ヒ南阿派遣艦隊司令長官タリシヲ以テ他ノ海鎭ニ於ル英國艦隊司令長官ヨリモ遙ニ多ク國際問題ニ遭遇セリ其ノ案件ハ國際法學者ノ容易ニ解決シ難キ問題タリ余ハ難問題ニ際會シ屢直接ニ海軍省ニ打電シテ其ノ指令ヲ待テリ之ニ對スル返電ニハ「貴電了承本件ハ其ノ筋ニ諮問シテ後チ決スヘシ」ト曰フヲ常トス而テ其ノ決定スル迄ハ常ニ三週間ヲ要セリ故ニ余ハ國際問題ハ民事訴訟ノ如ク可成的之ヲ起サヽルニ如カスト思考ス是兩者共ニ時日ヲ要スルコト多ケレハナリ世人一般ニ法律思想充分ニ發達セハ此ノ如キ不便ナキニ至ルヘキモ今日ノ處ニテハ未タ此ノ域ニ達セサルコト遠シ博士ノ講演中余ノ最重要ナル點ト信スルハ目下恐ラク黃海ニ漂流セル敷設水雷ニ關スル問題ナリ交戰國ハ其ノ海岸ヲ距ル三海里以內ニ水雷ヲ敷設スルノ權アリ余ハ此ノ制限ハ狹小ニ失スルヲ以テ之ヲ擴張スヘキモノト信ス然レトモ今日ノ處ニテハ三海里ノ規定ナルヲ以テ之ニ從ハサルヘカラス近頃風說ノ傳フル所ニ據レハ露國ハ數多ノ水雷ヲ十海里沖ノ公海ニ濫設セリト云フコトハ之ヲ信セサラント欲スルモ若シ果シテ事實ナランニハ是實ニ中立國ノ權利ヲ蹂躪スルノ甚シキモノト云ハサルヘカラス斯ノ如キ場合ニ於テ如何ナル椿事起ルヘキヤ吾人之ヲ想像スルニ難カラ

ス今後英國カ佛國ト戰端ヲ開ク如キハ萬々ナカルヘキヲ期スルト雖モ若シ不幸ニシテ開戰スルアランカ兩國ハ各其ノ敵ヲ害セント欲スル熱心ノ餘リ英吉利海峽ノ兩側ニ沿ヒ距岸十海里ノ處ニ水雷ヲ敷設スルトセハ果シテ如何此ノ海峽ヲ航行スル商船乘組員ハ生ケル心地モセサルヘシ然レトモ領域三海里以内ニ適法ニ敷設セル水雷ト雖モ其ノ繋維索ヨリ離脱シテ漂流スルコトナキニアラス故ニ夫ノ不幸ナル日本軍艦初瀨ノ沈沒ノ塲合モ斯ク自カラ漂泊セル水雷ニ罹リタルモノナルヤモ知ルヘカラス余ハ露西亞カ故意ニ敷設セルモノニアラサリシコトヲ望ム兎ニ角敵國ノミナラス一般中立國ニ危險ナル爆發物ノ敷設ニ關シテハ國際法上之カ區域ヲ限定スヘキモノト信ス

次ニ目下世論ヲ囂々タラシメタル無線電信問題ニ關シテハ余ハ一ノ海軍將官トシテ之ヲ觀ルトキハ艦隊ニ從軍スル新聞通信員ニ限リテハ之ヲ使用スルヲ不可トス然レトモ毎朝通信船海門號ヨリ來ル神速ナル電報ヲ讀ムハ余モ亦常ニ興味ヲ感スル所ナリ然レトモ國際法ハ今後海上通信員ノ使用スル無線電信ニ關シテハ或特種ノ規定ヲ設ケサルヘカラサルヘシ海上通信員モ亦陸上通信員ト同一ニ取扱フヘシトノ説ニ至テハ余モ亦ストツクトン大佐ト同感ナリ露國太守ハ海門號無線電信使用ノ通信員ヲ間諜ト爲シ之ヲ捕フルトキハ絞殺スヘシト云フモ是唯虚喝ニシテ決シテ行ハルヘキ事ニアラス太守豈之ヲ爲スノ勇アランヤ

次ニ中立國カ仁川ニ於テ行ヘル露兵ノ救助ヲ以テ明白ナル至仁ノ中立ト爲スノ説ニ至テハ余モ全然演者ト一致ス否寧ロ仁惠ノ範圍ヲ脱シテ中立違反ニ趨レルノ行動ト言フモ亦可ナリ若シ中立國ニ於テ海上救助ヲ行フトキ即チ人ノ溺死ヲ救助スルトキハ其ノ被救助者ヲ敵ニ引渡サスシテ陸戰ノ塲合ト同シク戰爭ノ終結迄抑留スヘキモノナリトノ説ニ至テモ亦余ハ演者ノ意見ニ一致ス

此ノ仁川事件及ヒ水雷濫設ノ件ニ關シ日本海軍カ何等ノ抗議ヲモ提出セサリシハ例ニ依リテ其ノ謙遜ニ出テタルモノヽ如シ

五一　露國海軍戰略ノ大缺點（軍事批評家）

（一九〇四年九月二十六日發刊「タイムス」所載）

日本カ其ノ攻圍ノ進行ヲ全ク秘密ノ内ニ葬リ得タルハ最策ノ宜シキヲ得タルモノナリ何トナレハ一般ノ注意ヲ専ラ旅順口ニノミ集中セシメテ以テ人心ヲ激昂セシメ爲メニ露國ヲシテ航海ニ堪フル軍艦ノ數ヲ悉シテ旅順口ニ向ケ發航ノ期ヲ早メサルヲ得サルニ至ラシムルハ固ヨリ日本ノ利益ニアラサレハナリ若シ攻圍戰中ノ悲慘ナル事實ニシテ日々露國ニ報告セラレンカ必スヤ斯ノ如キ結果ヲ招致セシコト疑ヲ容レサルナリ是ヲ以テカ日本ハ沈默ノ間ニ着々其ノ攻圍ヲ續行スルト同時ニ曾テ眼ヲ婆羅的ヨリ離シタルコトナシ假令日本ハ所々ニ局地强襲ヲ試ミテ以テ其ノ計畫ノ實行ヲ速メント謀リタルコトナキニアラサルモ幾許モナクシテ近世式ノ永久防禦地ニ對シ斯ク急激ノ行動ヲ以テスルノ非ナルヲ悟レリ又日本ハ敵ノ砲臺ノ砲火容易ニ沈默セサルヲ發見スルヤ新ニ十一吋巨砲ヲ輸送シ之ヲ以テ攻撃用トナスノ計畫ヲ立テタリ前週中ニ更ニ猛烈ナル攻撃ノ開始セラレタリト云フハ察スルニ此ノ破壞力ノ大ナル武器ト忽微砲及ヒ海軍重砲トヲ併セテ試用シタルカ爲メナラン若シ芝罘方面ニ行ハルヽ風説ニシテ信スヘキモノトセハ攻圍軍ハ依テ以テ著シキ發展ヲ爲セルカ如シ今ヤ日本軍ハ手段ト考慮トノ有ラン限リヲ悉シテ戰鬪ニ從事シ徐ニ敵ノ防禦地點ヲ蠶食シツヽアルナリ

吾人ハ情報ニ接スルコト乏シキヲ以テ同地陷落ノ日ニ就キ何等ノ想像ヲ試ムルコト能ハサレトモ一般ノ情況ニ鑑ミレハ吾人ヲシテ其ノ要塞ノ防禦力大ニ減少セルコト及ヒ其ノ近ク日本軍ノ手中ニ落チンコトヲ豫期セシムルモノアリ就中日本ハウヰレン少將統率ノ艦隊カ到底破壞カ若クハ望ミナキ遁走カ二者孰レカヲ選ハサルヘカラサルニ至ランコトヲ確信スルモノヽ如シ

今ハ事態斯迄ニ進行シタレハ有體ニ事實ヲ言フモ最早我カ同盟國ニ何等ノ禍害ヲモ與ヘサルヘキヲ以テ茲ニ聊カ露國海軍省ノ行爲ト責任トニ就キテ論スル所アラントス露國海軍省ハ世界ヲ舉ケテ知ルカ如ク二月九日朝當時ニ於ル結束形勢ノ眞情ヲ知リシナルヘク又彼ハ戰役全般ノ結果一ニ懸リテ制海權力ノ上ニ存スルコト及ヒ差向キ露國ノ海軍戰鬪力ハ一ニ太平洋第一艦隊使用ノ上ニアルコトヲ知リシナルヘク又彼ハ旅順口一タヒ守ヲ失ハンカ自國ハ浦鹽斯德ノ外ニ東洋ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一港ヲタニ有セス而モ浦鹽ノ地タル一年中六箇月間ハ大艦隊ノ根據地トシテ使用ニ適セサルノミナラス日本領土ニ掩蔽セラレテ戰略的利便ニ乏シキコトヲ知リシナルヘク又彼ハ露國ノ軍艦、將校、水兵、器械ノ最良ナルモノハ擧ケテ旅順口及ヒ浦鹽斯德ノ兩地ニ有シ旅順要塞ハ幾日間攻圍軍ヲ防禦シ得ヘキカ又港内ノ軍艦ヲシテ敵ノ砲彈ヨリ脱セシムルヲ得ヘキヤヲ知リシナルヘシ蓋此等ノ事タル當局者ニ於テ推究センコト決シテ難キニアラサレハナリ

又露國海軍省ハ婆羅的沿岸ノ造船廠ニ於テハ世界ノ科學、工藝ヲ一トシテ具備セサルナキヲ以テ如何ナル準備ニモ應スルヲ得ヘキコトヲ知リタリシナラン又彼ハ彼得大帝ノ遺訓カ國難救拯ノ道ヲ傳ヘタルヲ知リシナラン又彼ハ浦鹽斯德巡洋艦ノ經驗ニ依リ日本カ海軍力ニ局限アル爲メ唯決勝點ニノミ精鋭ヲ集中スル外ニ他意ナク若シ露國軍艦ニシテ假ニモ日本海面ニ出現センカ是ハ日本ニ取リテハ重大ナル憂虞ニシテ爲メニ旅順口攻擊中ナル主力艦隊ハ其ノ勢力ヲ減殺セラルヘシトノ理ヲモ知リタリシナラン見ヨウヰトゲフトカ約八隻ノ軍艦ヲ率ヰテ遁逃ヲ試ミタル後日本ハ上海、芝罘、威海衞、青島、ハバロフスクニ其ノ散逸シタル軍艦ヲ監視シ且之ヲ攻擊スル爲メ已ムヲ得ス其ノ海軍力ヲ分割セサルヘカラサルニ至リ椎内ヲ脱出シタル艦ハ大ニ監守人ヲ憂虞セシメ其ノ關鑰ノ中ニアリシ時ヨリモ更ニ一層大ナル危險ヲ感セシメタルニアラスヤ前陳幾多ノ事情アリタルニ拘ラス八箇月ノ久シキニ渉ルモ露國々旗ヲ揭揚セル軍艦ノ一隻タモ其ノ東洋艦隊ヲ救援セントセシモノナク要スルニ露國海軍省ハ戰略上其ノ存在ヲ失シタリシナリ斯シテ遂ニ太平洋第一艦隊ノ全然破壞セラレタル今日殊ニ航海ニ不便ノ季候ニ際シ其ノ第二艦隊ハ後レ馳セニ絶東ニ向ヒ出發シ途ニ一ノ避難所アルナク入渠修理ノ便宜ヲ有スルナク又兵資ノ供給アラサル海面ニ進航シテ以テ敵ノ健全ニシテ而モ實戰ニ馴レタル海軍ニ當ラントス加之今ヤ敵海軍ハ其ノ戰術ヲ一變シネルソン式ニ則リ全力ヲ擧ケテ露國第二艦隊ヲ邀擊シ得ヘキ境遇ニアリ

何トナレハ此ノ露國艦隊コソ露國ノ有スル最終ノ海軍力ナリトハ日本ノ好ク知得スル所ナレハナリ

畢竟スルニ露國海軍戰略ハ無意味ニ終レリ露國海軍省ノ計策ニシテ旅順口ヲ固守シ其ノ防禦區域内ニ艦隊ヲ置クコトニ一タヒ決シタル以上ハ次テ取ルヘキノ策ハ太平洋艦隊カ海上ニ敵ト交戰スルニ當リ其ノ勞ヲ輕カラシムル爲メ成ルヘク速ニ浮ヒ得ヘキ限リノ軍艦ヲ擧ケ之ヲ絶東ニ派遣スルニアリタリシナラン吾人ハ曾テ論シテ曰ク「旅順ハ包圍ヲ受クルニ先タチ之ヲ放棄スヘシ三萬ノ兵士及ヒ艦隊ヲ此ニ拘禁シテ空シク滅亡ニ歸セシメ以テ甚シク其ノ威名ヲ損スルカ如キコトアラシムル勿レ」ト又曰ク「軍艦ハ須ラク之ヲ港外ニ出航セシメ奮戰激鬪最短距離ニ入ラシメ最後ノ一艦ヨリ最後ノ一彈ヲ放ツニ至ルマテ敵ニ成ルヘク大損害ヲ加ヘ以テ婆羅的艦隊ノ爲メニ通路ヲ開クヘキナリ」ト斯ノ如キ犧牲ハ古來軍隊ノ一枝隊及ヒ騎兵等ニヨリテ屢行ハレ又屢全般ノ作戰目的ニ對シ顯著ナル功績ヲ遂ケタリ然ルニ露國海軍省ノ政策遂ニ此ニ出ツルコト能ハス其ノ不利ナル地位ヲ運命ノ弄スル所ニ委シテ以テ其ノ不利ヲ最極ニ至ラシメタリ

五二　日露海戰（海軍大將サー、サイプリアン、ブリッヂ）（一九〇五年發刊海軍年鑑所載）

編者曰クブリッヂ大將ハ明治三十四年六月シーモア大將ニ代リテ英國支那艦隊司令長官ト爲リ同三十七年三月ノーエル中將ト交代シ歸國後本編ヲ草シタリ大將ハ先ツ日露戰爭ノ由テ起レル國際的情勢如何ヨリ說キ起シテ韓國ノ地理上ノ位置西班牙ト相似タルヲ示シ則チ朝鮮半島ノ南部カ旅順口ト浦鹽斯德トノ間ニ介在スルノ狀ハ恰モジブラルターカ佛國ノブレストトツーロントノ海上交通ヲ制扼スルカ如キモノナルカ故ニ日本ノ之ニ重キヲ置クハ宜ナリト言ヒ次ニ日本ノ韓國ニ對スル歷史的事實及ヒ政策ヲ說キ又轉シテ露國ノ異圖旺盛ニシテ其ノ膨脹ノ進路ニ當ル接界ノ土壤ハ蚕食セラレサルナキヤヲ示シ是到底日本ノ國是ト相容レサルヲ知ルニ足ルヘシト述ヘ兩帝國ノ葛藤カ遠ク十八世紀ニ起リ樺太及ヒ千島問題ノ樺太千島交換ニ由テ僅ニ結了セル顛末ヲ擧ケ一八九二年露國カ西伯利横斷鐵道ヲ敷設シ以テ亞細亞ノ太平洋海岸ニ於ル領土ト歐露トヲ聯絡セントスルノ大計畫ヲ立ツルヤ日本ハ國難既ニ迫レルヲ悟リ之ニ對シテ備フル所アリシヲ說キ次ニ韓國問題ニ起因セル日清戰爭及ヒ遼東還附露國ノ旅順口及ヒ大連灣租借、北淸事變鎭定後滿洲ノ占有、鴨綠江畔ノ侵略、極東太守府ノ新設及ヒ太守ノ位置及ヒ權力ノ畝進擴張等戰爭ノ誘因ト爲ルヘキ諸事ヲ列擧シ次ニ日露國力ノ比較、海軍力ノ對照、日本ノ各種利點ヲ說示シ就

中四軍港及ヒ水雷艇根據地ノ設備及ヒ日進春日ノ増援ヲ稱揚シ日本政府ヨリ提出セル最後通牒ノ性質ヲ解説シ此ノ公文ハ直ニ戰端ヲ開クコトヲ意味スル明白ナル通知ナリトシ其ヨリ世論ノ問題ト爲レル各點ニ就テ大要左ノ如ク論シタリ然ルニ其ノ結論ノ或點ニ對シテ往々辯駁ヲ試ムル者アリ其ノ反對論モ後ニ譯載シテ對照ニ資ス

日露兩國當面ノ問題

露國ノ面前ニ横ハレル問題ハ主トシテ守勢的性質ノモノタリ即チ露國ノ計畫ハ日本ノ軍隊輸送及ヒ揚陸ヲ防遏セントスルニアリ若シ露國艦隊ニシテ日本艦隊ト對戰スルノ勇アラハ其ノ成効ノ好機ハ攻勢防禦計畫ヲ採ルニ在リシナルヘシ戰艦ノ隻數ニ於テハ露國ハ日本ニ優ルモ日本戰艦ノ内四隻ノ大サ及ヒ勢力ハ露艦ニ勝レリ故ニ海軍ノ主力タル戰艦ノ部ニ於テハ日露兩艦隊ハ殆ト伯仲ノ間ニ在リタリ巡洋艦ノ勢力ニ至テハ露國ハ日本ニ劣レリ然レトモ之ヲ合算セハ巡洋艦ノ點ニ於テモ露國側ハ海戰ニ於テ勝算ナキト云フ程ニ劣弱ナルモノニアラサリキ加之日本側ニ於テ許多ノ運送船ヲ佐世保ニ集中セルノ一事ハ時人ノ既ニ稔知セル所ニシテ此等ノ運送船カ艦隊ニ護衛セラレテ發航スヘキコト或ハ少クトモ艦隊ノ護衛ヲ求メ延イテ其ノ行動ヲ掣肘スルニ至ルヘキヤハ蓋察スルニ難カラス又若シ日本艦隊ノ本隊ニシテ遠地ニ移動スルトセハ該艦隊ハ運送船ト無關係ナル能ハス之ヲ掩護センカ爲メ支隊ヲ派遣シ隨テ其ノ勢力ヲ殺クニ至ルヘシト豫期セラレタリ日本ハ己ノ行動ヲ隱蔽スルニ巧妙ナルハ他ニ其ノ比ヲ見サル程ナリシニ拘ラス二月上旬ヨリ日本ノ行動ニ關スル情報ハ既ニ普ク世ニ流布シ烱眼ノ觀察者ハ之ニ依リテ日本ノ企圖ノ何物ナルヤヲ推測スルコトヲ得タリ浦鹽斯徳在泊巡洋艦隊ノ出師準備ヲ爲シタルト旅順口主力艦隊ノ出港セシトノ二事ハ偶日本ノ出動近キニ在ルコト竝ニ露國ノ之ト砲火相見ユルノ意アリシコトヲ表示スルニ足レリ露國艦隊ニシテ若シ朝鮮海峽ニ向テ進航セハ戰略上有利ノ運動タルヘキモノニシテ縱令外交關係未タ斷絶セサル際ト雖モ之カ爲メニ對手國ヲ刺激スルノ程度ハ其ノ現ニ採リタル行動ヨリモ大ナラサルヘシ世ニハ露國カ攻勢防禦計畫ヲ棄テ、自カラ純然タル守勢態度ヲ採リシモノナリト斷定スルモノアルヘシト雖モ聞クカ如クンハ當時露國當事者ハ何レモ日本ヲ以テ單獨ニ露國ト戰フコトヲ欲セサルヘシト信セリト曩ニ南阿戰爭ノ際我カ當局者ノ間ニ之ト同樣ノ信念ヲ懷キタル者アリシカ爲メ悲ムヘキ結果ヲ生セリ其ノ第一ノ結果ハ他ナシ危機逼レルノ際當然行フヘキ事ニ就キ曖昧ノ態度ヲ取リシコト是ナリ而テ此ノ態度ハ確乎タル決心ヲ以テ勇往邁進スルト幾ト同一ノ經費ヲ要シ又同樣ノ煩累ヲ看ルノミナラス又臍ヲ噬ムモ及ハサルノ悔ヲ貽シ往々非常ノ災殃ヲ招クコトアリ曩ニ露國カ日本ニ比シテ劣數ナル弱方ノ驅逐艦ヲ配置セシ態度ノ如キハ蓋此ノ類ナルヘシ吾人ヲ以テ之ヲ觀レハ假ニ露國艦隊ヲ以テ純然タル守勢的方法ヲ採ルノ意アリシモノトスルモ若シ其ノ驅逐艦ヲシテ旅順口碇泊艦隊ノ前面ニ出テシメタリシナランニハ驅逐艦ノ效力大ニ揚リシヤモ知ルヘカラス然ルニ事茲ニ出テス此等ノ驅逐艦ハ弱方諸艦船ノ内側ニ潛伏シ又其ノ一部隊ハ大連灣ニ分遣セラレタリ此ノ部隊ハ縱令同地ニ於テ活動スルコトアリトスルモ畢竟守勢ニ過キサリシナルヘシ

日本ノ差向キ解決スヘキ問題ハ一層複雜ノモノニシテ日本ハ先ツ敵艦隊ト戰ヒ又海ヲ越エテ大兵ヲ輸送セサルヘカラス加之海軍ハ姑ク措キ陸軍ノ作戰目的ハ單一若クハ簡易ノモノニアラス先ツ朝鮮ヲ占有シ敵ノ軍隊ヲ引揚ケシメ而テ追テ旅順口ヲ攻略スルノ觀念ヲ以テ之ヲ孤立セシメサルヘカラス又露軍ヲ滿洲以北ニ擊攘セサルヘカラス然ルニ露國艦隊ニシテ儼存スル間ハ日本ハ此ノ陸軍作戰目的ヲ達成スルコト能ハサルヘシ此ヲ以テ日本ノ行フヘキ第一ノ手段ハ露國艦隊ノ活動力ヲ失ハシメ而テ一時編隊活動スル能ハサルノ情態ニ陷ラシメ此ノ間自國ノ陸軍ヲ大陸ニ輸送揚陸シ以テ露國艦隊ノ根據地タル旅順口ヲ威嚇スルニ在リタリ又日本艦隊ノ露國太平洋艦隊ニ優レリトスル所ハ微小ノ差ニシテ而モ局地的ノモノタルニ過キス日本海軍ハ全體ヨリ謂ヘハ露國海軍ノ如ク强大ナラサリキ故ニ日本ハ歐洲ヨリ援隊ノ來東スヘキヲ豫期シ又絶エス此ノ事ヲ念頭ニ置キ其ノ艦隊ノ實力ヲ保持シ以テ新鋭ノ援隊ニ當ルノ必要ヲ感セリ是日本ニ取テハ至難ノ業ニシテ之ニ打勝ツニハ其ノ海軍戰略竝ニ海軍戰術ニ小心ト放膽、愼重ト敢爲トヲ併セ用ヒ以テ敵艦隊ヲ擊破シテ攻勢ヲ取ル能ハサラシムルカ或ハ不具ノ窮境ニ陷ラシメサルヘカラス而モ弱方ノ主力艦船ニ至テハ一旦之ヲ喪ヘハ補充シ能ハサルカ故ニ無事ニ之ヲ保存シテ以テ異日ノ用ニ備ヘサルヘカラス此ヲ以テ日本艦隊ハ不良ノ位置ニ立タサラシコ

トヲカメ又一朝敵ト觸接シ戰術ヲ行フヘキ時到ラハ激戰ニ於テハ戰勝艦隊ト雖モ全ク損害ヲ免ルヽコト豫期スヘカラサルカ故ニ日本艦隊ハ敵ニ肉薄スルコトヲ止メ以テ我方ノ艦船ヲシテ過度ノ損害ヲ被ラシムルコトナキヲ要ス苟モ此ノ要望アリトセハ即チ之カ主將タル者ハ必スヤ異常ノ智德ヲ具シ作戰計畫ヲ決行スルノ勇斷ト一時ノ成功ヲ貪リ恢復シ難キ損害ヲ受ケンヨリ寧ロ危險ヲ防キ萬全ノ計ヲ採ルノ克己心トヲ發揮セサルヘカラス

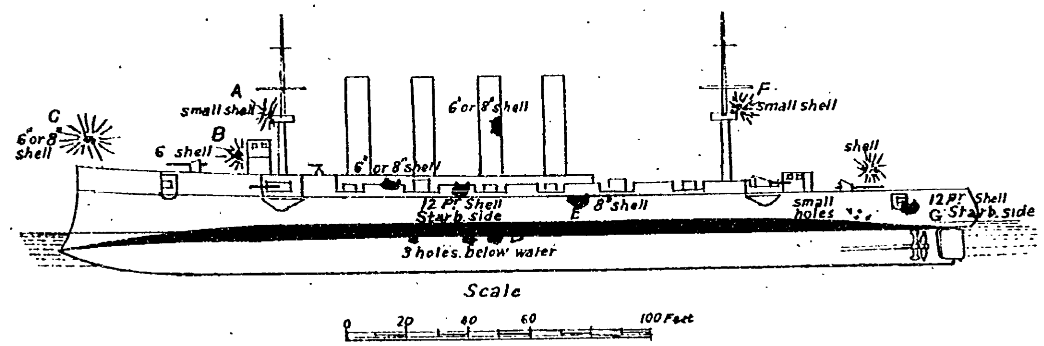
二月八日夜ノ水雷襲擊

水雷襲擊ノ際極寒ノ氣候ハ發射水雷ノ進行ニ影響ヲ及シ隨テ其ノ奏効豫期ノ如クナラスト論スル者アレトモ其ノ水雷ノ少クトモ三發敵艦ニ命中シ之ヲ傷毀セシ一事ヲ以テ觀ルモ其ノ正鵠ヲ失シタルノ言タルヤ明ナリ（假ニ一歩ヲ讓リテ論者ノ推定ヲ以テ肯綮ニ中ルモノトセハ論者ハ水雷機巧ノ狂ヒ易キ弊ヲ擧ケ天候通常ノ場合ニ於テスラ水雷ノ信賴スルニ足ラサリシコトヲ說キ終ニ水雷ヲ無用視スルニ至ルヘシ）又露人ハ不爆發水雷二個ヲ拾得セシカ其ノ水雷ニハ安全栓嵌入シアリタリト云ヒ日本ハ然ラスト拒メルモ此ノ二個ノ水雷ノ爆發セサリシコトハ事實ナリ當時水雷ノ發射ハ僅ニ十個餘ニ過キサルコトハ信憑スルニ足ルヘシ

惟フニ此ノ夜襲ノ如ク魚形水雷ニ有利ナル情況ハ稀ニ見ル所ニシテ日本海軍將卒ハ斯ノ如キ襲擊ヲ行フニハ比類ナキ能力ヲ備フルカ故ニ若シ彼等ニシテ失敗スルコトアラハ他ニ成功シ得ルモノアラサルヘシ旅順艦隊ハ港外露開ノ泊地ニ在リ日本ノ襲擊ニ對シ何等戒嚴セル所ナク又實際其ノ來襲ヲ夢想セサリキ之ニ反シテ日本ハ露國艦隊ノ所在ヲ知悉セルカ故ニ驅逐隊進擊ニ先タチ索敵ノ爲メ偵察艦ヲ派スルノ必要ナカリキ時ニ天候ハ最驅逐艦ノ襲擊ニ適シ又月無カリシカハ日本驅逐艦ハ敵ニ發見セラレスシテ旅順港口ニ近ツクコトヲ得タリ是日本ノ水雷カ數隻ノ露艦ニ命中シタル固ヨリ其ノ所ナリ然レトモ實際其ノ轟沈セラレタルモノハ絕無ニシテ旅順口ノ如キ修船材料ニ乏シキ場所ニテモ損傷艦ハ其ノ後兎ニ角修理ヲ了ヘ再外洋ニ出テ戰ニ與ルコトヲ得ルニ至レリ

二月八日夜ノ襲擊ニ見テ吾人ノ學フヘキ教訓ハ他ナシ即チ水雷艇戰術ヲ決行スルニハ是迄思フ所ヨリハ數倍ノ綿密周到

一九〇四年二月九日仁川沖海戰ニ於ケル露艦ヷリヤーグノ彈痕



A 戰鬪檣樓ニ於ケル兵員三名ノ內二名ヲ斃シ一名ヲ傷ケタリ

F 戰鬪檣樓ニ於ケル兵員三名ノ內一名ヲ斃シ二名ヲ傷ケタリ

B 司令塔外ニ炸裂シ艦長ニ輕傷ヲ負ハシメ其ノ傳令一名ヲ斃シタリ

C 前部六吋砲二門ノ砲員中一名ヲ除キ餘ハ悉皆斃シタリ

D 此ノ彈痕ニハ防水蓆ヲ當テタリ

E 敵彈ノ六吋裝藥ニ點火シ猛勢ヲ以テ燃起セシメタリ

G 艦長室及ヒ其ノ下ニ在ル麥粉囊ヨリ火災ヲ發セシメ同艦沈沒ノ際尚ホ燃ヘツヽアリシ

ナル畫策ヲ要スルモノナルコト是ナリ此ノ夜旅順口外ニ於ル如キ急襲撃ニ絶好ナル諸情況ニ際スル時ノ外ハ敵艦ニ對シ單ニ無掩護ノ艇隊ヲ薦進セシムル襲撃策ハ畢竟徒勞ニ歸スヘキノミ故ニ苟モ艇隊ヲ前進セシメントセハ必スヤ先ツ善ク敵狀ヲ偵察シ敵ノ所在ヲ確知シ慣カサルヘカラス又艇隊ハ其ノ行動ヲ攪亂若クハ阻碍セントスル敵ノ驅逐艦即チ水雷艇反撃艦ト戰ヒ得ヘキ特種艦ヲ隨ヘサルヘカラス又艦隊ハ所屬ノ驅逐艦ヲシテ活動セシムルト同時ニ自カラモ亦行動スヘキ境遇ノ下ニ在ラサルヘカラス艦隊ハ巳レ一個ノ場合ニ於テハ天候ノ如何晝夜ノ別敵艦ノ距離動靜ニ顧慮スルコトヲ要セスト雖モ艇隊ヲ隨フルトキハ大ニ其ノ趣ヲ異ニシ艇隊若シ獨立ニテ行動スルトキハ敵艦ニ近接セサレハ功ヲ奏スルヲ得ス故ニ艇隊カ成功ノ望ハ特種ノ場合ニ限ルモノト爲シ又驅逐艦アレハ艦隊戰鬪ノ必要起ラスト想像シテ作戰計畫ヲ立ツルハ輕擧ノ甚シキモノナリ驅逐艦ハ本國根據地ヨリ出動シ得ヘキ距離以内ニアル目的物ヲ攻撃スル場合アルヘシト雖モ其ノ出動ノ奏効必スヘカラス

旅順口第一次攻撃ノ結果

旅順口第一次攻撃ノ結果旅順艦隊ハ續々廢艦ヲ生シ一時移動力ヲ失ヒ日本艦隊ト對戰シ勝ヲ制スルハ到底望ムヘカラサルコトヽナリ日本ヨリ朝鮮ニ至ルヘキ軍隊輸送ハ途中何等ノ危害ヲ受クルノ憂懼ナキニ至レリ然レトモ當時尚旅順口ニハ許多ノ驅逐艦アリ浦鹽斯德ニハ四隻ノ巡洋艦アルヲ以テ日本ハ艦隊ヲ派遣シテ浦鹽ヲ偵察スルコトヽナレリ又旅順口ハ當時日本ノ運送船隊ニ對シ有効ナル突撃ヲ加ヘントスルモ能ハス第一日本ハ既ニ自己ノ行動ニ關スル通信檢閱ヲ嚴ニセルヲ以テ露國ハ日本ノ軍隊ノ上陸地點釜山ニアラスシテ朝鮮ノ西海岸ニ在ルヲ知ルニ由ナカリキ

「ワリヤーグ」ノ自爆

人或ハ「ワリヤーグ」ニシテ戰鬪中保續セル十六海里ノ速力ノ代ニ同艦ノ最高速力ヲ以テ航進セシナランニハ同艦ハ日本ノ分遣艦隊ヲ突破シテ遁逃スルヲ得タリシナルヘシト說ク者アレトモ予以爲ラク然ラス同艦カ日本艦隊ノ砲火ノ爲メ殘害セラレタル所ヲ以テ察スルニ此ノ事ハ所詮能クスヘキコトニ非サルヘク假ニ能クシ得タリトスルモ同艦ハ日本聯合艦

隊本隊ノ掌裡ニ落チシヤ殆ト疑ヲ容レス左レハ露國ノ先任艦長カ退却シテ自カラ二艦ヲ破壞シタルハ至當ノ擧動ト謂フテ可ナリト

通信機關獨立ノ必要

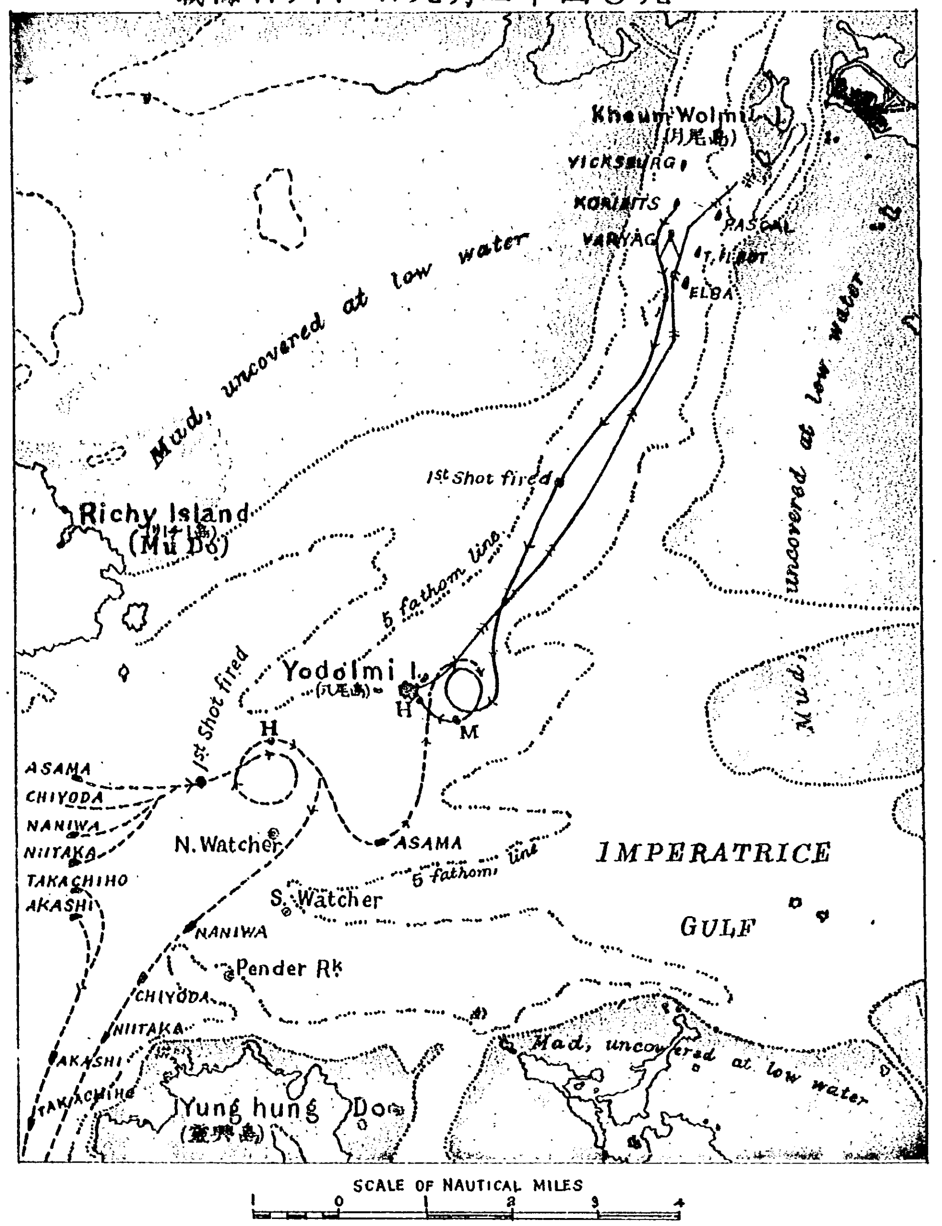
韓國ノ電信事務ハ日本人ノ手ニ在ルヲ以テ開戰數日前彼等ハ自國ノ國利ニ有害ナルヘシト思ハル丶電報ノ發送ヲ停止シタリ將來ノ交戰國タルモノハ日本人ノ此ノ敏慧ナル擧措並ニ其ノ軍機保護ノ爲メニ施セル嚴密ノ方法ニ鑒ミ學フ所アルヘキナリ

外交官ノ軍艦擊肘

露艦ノ先任將校タル「ワリヤーグ」艦長ハ日露兩國間ノ關係切迫セルト數日間己レノ長官ヨリ何等ノ音信ニ接セサルトヲ以テ意ヲ決シテ仁川ヲ發シテ旅順ニ赴カントセシカ該艦長ハ露國公使ノ爲メニ此ノ思慮アル計畫ヲ實行スルコトヲ禁止セラレタリ之カ爲メ二隻ノ露艦ハ進退維谷ルノ窮地ニ陷リタリ此ノ一事ヲ以テ觀ルモ外交官ニ海軍ノ行動ヲ左右スルノ權能ヲ與フルハ不得策ノ甚シキコトヲ知ルニ足ルヘシ二月七日ノ夜千代田ハ港外ニ出テタリ露艦ノ艦長ハ公使ニ交渉ノ末遂ニ「コレーツ」ヲシテ公信ヲ齎シテ出港シ且司令長官ニ指揮ヲ仰クヘキ許可ヲ得タリ抑旅順口ハ仁川ト相距ルコト四百海里ヲ出テス驅逐艦ニシテ通常ノ速力ヲ以テスルモ容易ニ二十四時間以內ニ在仁川港露艦ニ訓令ヲ傳達スルヲ得而テ更ニ三十六時間ヲ以テセハ二隻ノ露艦ハ驅逐艦ヲ伴ヒ旅順ニ在ル本隊ニ合スルコトヲ得タリシナルヘシ按スルニ旅順ニ於ル海軍官憲カ日露兩國ノ關係ヲ輕々視シ遠地ニ在ル艦船ノ召還ヲ怠リシハ其ノ原因蓋日本ヲ以テ戰ヲ開クノ勇ナキモノト藐視セシニ在ルヘシ唯此等ノ官憲ノ爲メ一言辯シ置クヘキハ斯ク艦船ヲ遠隔ノ海洋ニ散置スルカ如キ無謀ノ擧ニ出テシハ夫ノ海軍戰略ノ何物タルヤヲ知ラサル外交官及ヒ領事官ノ要請ヲ容レシカ故ナリ惟フニ司令長官タルモノハ孰レモ皆此ノ如キ要請ヲ峻拒シ得ルカ如キ氣膽アル人ノミニアラサルヘシ

「コレーツ」ノ運動ト下瀨火藥

一九〇四年二月九日仁川沖海戰



B ハ英國領事館

※ ハ「コレーツ」ノ爆沈位置

H H ハ「ワリヤーグ」及ヒ淺間ノ同時刻ニ於ケル所在地點

M ハ「ワリヤーグ」回頭ノ時甚タシク損傷ヲ被リ終ニ歸港スルコトニ決シタル地點

「ワリヤーグ」ハ歸港ノ際八尾島附近ニ於テ座礁セントセリ

「ワリヤーグ」ハ出港前ノ所在地點ニ錨泊セリ

二月八日ノ午後即チ今日ヨリ謂ハ丶此ノ時ニ至テ旅順口ニ到ラントスルハ機既ニ晩レタリシニ拘ラス「コレーツ」ハ仁川ヲ發セリ航走スルコト約三海里ニシテ日本ノ巡洋艦及ヒ水雷艇ヨリ成レル瓜生艦隊ニ遭遇セリ「コレーツ」乘組將校ノ謂フ所ニヨレハ此ノ時「コレーツ」ハ日本ノ將旗ニ對シ祝砲ヲ放チタリ以テ當時彼等カ毫モ戰爭ヲ豫期セサリシコトヲ知ルニ足ルヘシト日本軍艦ハ之ニ答砲セス而テ旗艦淺間ハ「コレーツ」ノ前進ヲ阻遏スルモノ丶如ク占位セシカハ「コレーツ」ハ之ヲ觀テ戰鬪準備ヲ行ヘリ此ノ時四隻ノ水雷艇ハ將ニ「コレーツ」ヲ襲擊セントスルモノ丶如ク近ツキ來レリ露人ノ言ニ據レハ日本水雷艇ハ同艦ニ向ク三發ノ水雷ヲ發射セリ其ノ二發ハ外レ一發ハ眞直ニ來リシカ艦底ヲ潛リ去リテ事ナキヲ得タリ此ニ於テ「コレーツ」ハ二發ノ砲彈ヲ放テリ是日露戰爭ニ於テ發射セラレタル最初ノ砲彈ナリトス此ノ發砲ニ關シ露國側ニ二樣ノ說アリ其ノ一說ニ曰ク「コレーツ」ハ第二發目ノ日本水雷カ同艦ニ向テ發射セラル丶マテハ毫モ發砲セサリシト他ノ一說ニ曰ク露艦ヨリ發射セシ砲彈ハ二發共一水兵ノ命令ヲ誤解シテ發射セシモノナリト兩說孰レモ實際符合セサルヲ以テ觀レハ日本側ニ於テ言ヘル如ク先ツ發砲セリトノコトハ同艦ノ戰鬪準備ヲ行ヘル事實ニ徵スレハ或ハ然ラン而モ日本先ツ水雷ヲ發射セリトノ飛報在仁川中立國人民ノ耳ニ達セシト同時ニ露艦發砲ノ來報アラサリシヲ以テ日本側ノ言フ所ハ否認セラレタリ斯テ「コレーツ」ハ錨地ニ歸レリ

日本軍發射砲彈ノ猛烈ナル破裂ニ就テハ其ノ裝藥ノ下瀨爆發藥ヨリ成ルモノト信スルモノ多シ「ワリヤーグ」ノ艦上ニ於テ戰死若クハ負傷セシモノハ孰レモ上甲板以上ニ於テセリ假ニ此ノ艦ヲ以テ防護巡洋艦ニ非スシテ裝甲巡洋艦トスルモ此ノ戰鬪ノ末期ニ於ル狀況ハ尙此ノ實況ト大差ナカリシナルヘシ其ノ乘組員中ニハ已ノ身邊ニ於テ敵砲彈ノ破裂セシタメ或ハ之カ導火トナリテ其ノ甲板上ニ堆積セシ火藥破裂セシタメ被服燃燒シ死亡セシモノアリ又負傷者ハ多クハ身躰各所ニ負傷シ一人ノ如キハ一脚ニ百三十五個所ノ輕傷ヲ負ヘリ是或ハ砲彈ノ爲メニ擊碎セラレタル艦內取附具ノ飛片ノ傷ツクル所トナリシカ然ラスンハ日本砲彈其ノ炸藥ノ爲メニ粉碎シテ此ニ至リシモノカ未タ詳ナラスト雖モ二者其ノ一ナルヤ必セリ

露艦生存者救助

負傷セサル露國將卒ノ中立國諸艦ニ救助セラレタルモノニ對シテハ日本ハ之ヲ俘虜トシテ引渡ヲ要求スルノ權利ヲ有セリ然ルニ此ノ問題ハ關係諸國ト商議ネルコト、爲リ結局此等ノ將卒ハ歸國ヲ許スコト、ナレリ英艦「タルボット」ニハ三百人以上收容シアリシカ後之ヲ英艦「アンフィトライト」ニ移シ香港ニ近キ大鵬灣ニ送リ再商船「ナム、サン」號（特ニ傭入レ輸送用ニ仕立テタルモノ）ニ移シ同船ニテ錫蘭ニ送リ更ニ一郵船ニ搭シテ歸國ノ途ニ就カシメタリ「エルバ」及ヒ「パスカル」ニ依リ救助セラレシ將卒ハ香港及ヒ柴棍ヨリ佛國ノ一郵船ニテ歸國セリ

仁川港ニ關スル中立問題

仁川錨地ノ國際上ノ位地ハ海軍將校ノ研究スヘキ至重至要ノ問題タリ惟フニ露國ハ此ノ時既ニ鴨綠江附近ニ於テ韓國ノ「局外中立」ヲ蹂躙シ外交談判中重ネテ同様ノ行爲アリシヲ以テ觀レハ日本カ露國ノ行動ニ倣フモ亦何ノ不可カ之アランヤ事實ニ徵スルニ瓜生艦隊ト「ワリヤーグ」及ヒ「コレーツ」二艦ノ間ニ於ル戰鬪ハ全ク韓國領海內ニ於テ行ハレシカ仁川港在泊ノ中立國軍艦ハ韓國ノ中立權ヲ擁護スルヲ以テ己ノ任ト爲シ相當ノ擧措ニ出テタルモノナカリキ英佛伊三國艦長ハ日本ニ對シ連署抗議ヲ試ミタルニハ相違ナシト雖モ其ノ抗議ノ主意ハ此ノ限リアル錨地ニ於テ戰鬪セハ中立國艦船及ヒ其ノ乘組ノ生命ニ對シ多大ノ危險ヲ及スト云フニアリ韓國領海ノ不可侵ヲ擁護スルノ意ニ出テタルニアラス此ノ抗議ハ瓜生少將ノ容ル、所トナリ少將ハ錨地ニ於テ戰フノ意ヲ飜セリ惟フニ韓國自カラ其ノ局外中立ヲ維持スルノ力ナキハ列國ノ善ク知ル所ナルヲ以テ各其ノ自國ノ損害ヲ未然ニ豫防セントスルニ止ルモ亦理アルナリ

旅順口第二次襲擊

日本公報ニハ此ノ襲擊ノ效果ハ敵ヲシテ益々戰慄セシムルノ大功アリタリト自認セリト雖モ露艦一隻モ此ノ襲擊ノ爲メニ損害ヲ蒙リタルモノナカリキ此ノ一事ハ偶水雷攻擊ノ效果自カラ限リアルヲ證スルノ一例タリ惟フニ朝霧及ヒ速鳥乘組將校等ノ猛勇ト堅忍トハ倫ヲ絕チ群ヲ抜キ其ノ驅逐艦ヲ操縱スル伎倆亦他ニ匹儔スルモノナカリシナルヘク水雷作戰ノ運用又此ノ如キ棘手ニ依リテ行ハル、コトハ極テ稀ナルヘシ然モ其ノ襲擊ハ全ク失敗セリ此ノ襲擊ニ赴キタル驅逐艦中其ノ大半ハ戰場ニ達セスシテ僅ニ二隻到著シ而テ敵ノ攻勢的防禦ニ關スル計畫ノ爲メ阻害セラレシカ如キコト莫カリシモ其ノ直接ノ作戰目標タル諸艦ノ所在確知セラレサリシカ故ニ驅逐艦ノ發射セシ水雷一隻ノ敵艦ニモ命中セサリシハ毫モ怪ムニ足ラサルナリ

旅順口第一回閉塞

日本人ニシテ苟モ本戰役ニ於テ勝利ヲ占メント欲セハ必スヤ多大ノ損害ヲ蒙ラスシテ大軍ヲ輸送揚陸セサルヘカラス而テ露國艦隊ヲシテ一時進退ノ自由ヲ失ハシムルカ如キ作戰アラハ大軍輸送上裨益スル所蓋尠少ナラサルヘシ果セル哉二月二十四日日本ハ船舶ヲ旅順港口ノ水道ニ沈メテ以テ露艦ヲ港內ニ閉塞セントスルノ計策ヲ行ヘリ此ノ業タル異常ニシテ驚クヘキモノナリ而テ此ノ業ニ從事セル日本海軍將校下士卒ノ沈勇ハ眞ニ嘆賞スルニ足ル然ルニ「港口閉塞ハ其ノ効果少カリシモノ、如ク甚タ遺憾ニ堪ヘス」トハ東鄕司令長官ノ報告セシ所ナリ事實上閉塞事業ハ失敗ニ歸セリ思フニ之ト同様ノ企畫ニシテ規模稍大ナルモノニテ成功セシハ從來未タ嘗テアラサル所ナリ二月二十五日日本艦隊ハ閉塞事業ノ成否如何ヲ確知センカ爲メ旅順口外ニ進航セシニ露艦「バヤーン」「アスコリド」及ヒ「ノーウヰク」三隻ハ此ノ時既ニ修理ヲ了リ港外ニ出動スルヲ望見セリ

旅順口第四次攻擊

此ノ攻擊ニ於テ日本驅逐隊ハ露國驅逐隊ト幾ト舷々相摩セントスルカ如ク接戰シテ大ニ之ヲ擊破シ日本驅逐隊モ亦多少ノ損害ヲ被レリ然レトモ東鄕大將ノ報告ニ曰ク「我カ驅逐隊ハ孰レモ戰鬪ニ堪ヘ常ニ豫定ノ行動ニ參加スルコトヲ得」ト而テ日本カ間斷ナク驅逐艦ヲ使用セシニ拘ラス之ヲ有效ニ保存シテ常ニ戰鬪ニ堪ヘシメタルハ非常ノ成功否空前ノ成功ト謂ハサル可カラス又損傷ヲ被リタリシ驅逐艦カ造船廠ニ歸還スル事ナクシテ迅速ニ修理シ了リシ事ハ驚嘆スルニ餘リアリ本戰役開始後最初ノ七八週日間或ハ之ヨリモ長期間日本驅逐隊ノ全部ハ戰場若クハ其ノ附近ニ留リテ絕エス巡航シ

又時々敵ノ砲火ニ暴露セリト雖モ一隻タリトモ再艤装ノタメ造船廠ニ派遣セラレタルモノナシ是獨リ驅逐艦ノミニアラス日本艦隊ハ幾月間絶エス遊弋シ屢危地ニ出入セリト雖モ此ノ間各種ノ艦船ハ複雜ニシテ脆弱ナル汽機ヲ装備セラルヽモノナルニ拘ラス常ニ完全ニ其ノ戰鬪力ヲ保續スルコトヲ得タリ惟フニ日本ノ擧ケ得タル此ノ成績ハ世界列國ノ海軍中一モ之ヲ擧ケ得タルモノナキハ勿論列國ノ平時ニ於ル成績スラ猶之ニ如カサルヘシ

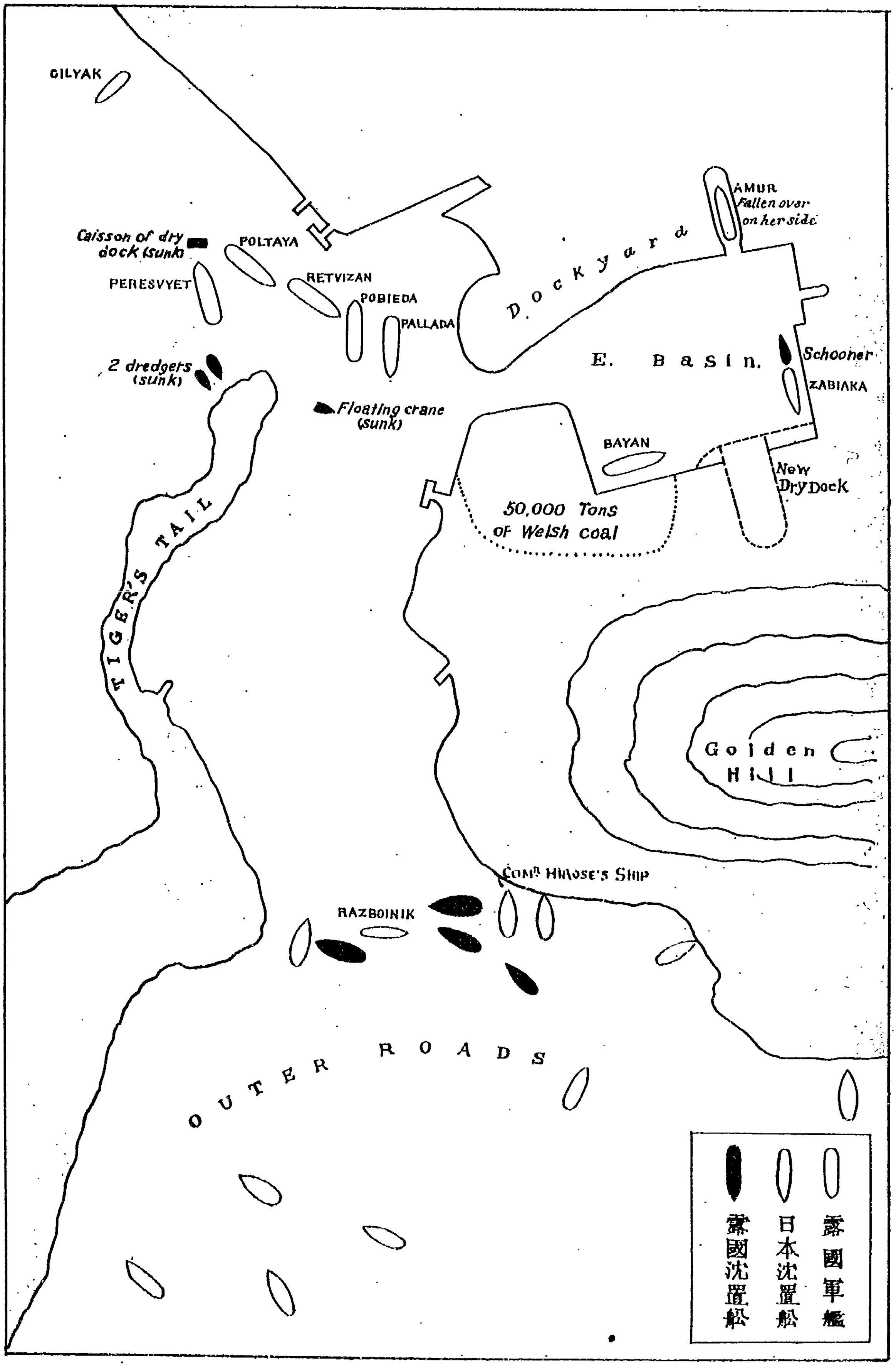
旅順口砲撃ノ理由

日本カ數回旅順口ヲ砲撃スルニ至リシ所以ハ敵艦ヲ港内ニ雌伏セシメントスルニ在リシナルヘシ蓋砲弾ヲ港内ニ擲落スルハ一ハ以ヲ修理ヲ要スル在港艦艇ノ工事ヲ阻碍スルノ好機モアルヘク一ハ砲撃ノ結果敵ノ士氣ヲ沮喪セシメ我カ砲火ニ應射スルモノヲシテ効果ヲ減セシムルカ如キ多少ノ價値アルヘシ然レトモ日本ノ一大目的トセシ所ハ敵ノ爲メニ大陸ヘノ軍隊輸送ヲ妨碍セラレサランコトスルニ在リ而テ其ノ手段ノ如何ヲ問ハス苟モ露國艦隊ヲシテ日本ノ海上輸送ヲ攪亂スルコトヲ得サラシムルモノナランニハ此等ハ孰レモ該目的ヲ達成スル上ニ多少裨補スルモノトナルヘシ日本ハ露國艦隊カ海岸要塞ヲ以テ觸强ノ避難所ト爲スヘシト豫測セシカ其ノ豫測果シテ的中セリ加之日本ハ敵カ此ノ固定防禦ニ依リテ得ヲルヘキ掩護ヲ以テ深ク恃ミト爲セルコトヲ知リ益々此ノ信頼心ヲ厚カラシメント努メタリ日本ノ此ノ戰略ハ宜シキヲ得タルモノニシテ露人ノ信頼心ノ誤レルコトハ其ノ結果ヲ觀テ之ヲ知ルヘシ又日本ノ此ノ示威運動ノ中ニハ本戰役中ノ一大教訓トモ稱スヘキモノアリ請フ詳ニ之ヲ說カン抑日本艦隊ハ運用巧妙ナリシカ爲メ所屬艦艇ハ堅固ナル敵ノ要塞ノ前ニ暴露シテ重大ナル損害ヲ被ルカ如キコトナク又交通線ニシテ遮斷セラレサル間ハ艦船ノ貯藏彈薬ハ隨テ消費スレハ隨テ補給シ又重砲ハ容易ニ換装シ得ヘカラサルカ故ニ其ノ施條部ヲ磨滅セサルコトニ注意スルナルヘシ其ノ磨滅ハ發射ノ度數ヲ重ヌルヨリ起ルモノニシテ磨滅ノ程度甚シキニ至ラサルモ命中ノ精度ヲ減スルヲ以テ日本ハ深ク之ヲ戒メ大ニ發射ヲ節限スルコトヽ思ハル

旅順口第二回閉塞

旅順港內及港口沈沒艦船位置略圖

一九〇五年二月八日調製



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

曩ニ日本カ汽船ヲ沈沒セシメ以テ旅順ヲ閉塞セントセシ企圖失敗ニ歸セシコト明白トナルヤ彼等ハ再同樣ノ計畫ヲ行フノ意ヲ決シ這回ニ於テモ亦無雙ノ忠勇義烈ヲ顯シ前回ノ閉塞ニ參加セル廣瀨中佐ノ戰死ハ洵ニ此ノ時ニ在リ然ルニ此ノ閉塞作業ノ全然失敗ニ歸セシコトハ天明マカロフ中將ノ復ヒ艦隊ヲ率ヰテ出港セシ一事ニ徵シテ明ナリ中將ハ日本ノ巡洋艦ヲ驅攘セシモ其ノ本隊トハ交戰セス薄暮ノ頃歸港シ而テ「港口ハ猶依然トシテ出入全ク自由ナリ」ト報告セリ

「ペトロパウロウスク」ノ轟沈

東郷司令長官ノ報告ニヨレハ水雷敷設船蛟龍丸及ヒ其ノ護衛隊ハ十二日夜半旅順口港外ニ達シ計畫ノ通リ港外ノ各所ニ機械水雷ノ迅速ナル沈置ヲ遂行シ得タリト若シ此ノ計畫ニシテ港口ノ水道ニ機械水雷ヲ敷設シ以テ同港ヲ閉塞シ港口出入ノ艦船ヲシテ水雷ニ罹ラシメントスルニ在リタリトセハ此ノ計畫ハ著效ヲ奏スヘキモノト信シ難シ平時演習ノ成績ニ徵スルモ此ノ類ノ計畫ハ絕對的失敗トハ謂ハサルモ通常失敗ニ終ルモノト看做サレタリ今日本ノ旅順口外ニ行ヘル場合ニ於テハ機械水雷ノ一部ハ浮流水雷ニシテ索ヲ以テ數個ヲ連繫シ敵艦通過ノ際艦首此ノ索ニ觸ルヽトキハ數個ノ水雷艦ノ左右兩側ニ引著ケラレ爆發スルノ裝置ナリト云フ又其ノ一部ハ小田式ト稱スルモノナルナランモ惟フニ此ノ式ハ荒天ノ際ト雖モ外海ニ於テ其ノ沈設位置ニ定止スルモノナリト信スル者アリシト雖モ試ニ看ヨ大ナル艦船ニシテ水深中等ノ所ニ沈沒セハ固ク海底ニ定着スヘキモノト思考セラルヽモ其ノ實船體ハ怒濤狂瀾ノ爲メ移動スルニアラスヤ況ヤ敷設水雷ニ於テヲヤ小田式ト雖モ亦然ラン

「ペトロパウロウスク」ハ港口水道ヨリ外洋ニ向テ畫キタル一線ノ東方ニ方リ港口ヲ距ル一二海里ノ所ニ到リシトキ其ノ船體先ツ傾キ忽チニシテ沈沒セリ始メ一大響音俄ニ起リ尋テ同艦ノ船體ハ濛々タル白煙ニ包マレタリ露人ノ謂フ所ニ據レハ同艦ハ浮流水雷ヲ聯繫セル一線ニ罹リシトキ幾個ノ水雷觸發セリト云フ其ノ爆煙散セシトキ同艦ハ僅ニ檣ヲ水上ニ殘シ二分間ヲ出テスシテ沈沒シ司令長官海軍中將マカロフ有名ノ畫伯ウェレスチャギン以下將卒約五百五十人艦ト運命ヲ與ニセリ「ポベーダ」モ亦一個ノ觸發水雷ニ罹リ其ノ右舷中央部ニ於テ水線上ノ處ニ孔隙ヲ生セリ若シ此ノ損傷ニシテ機

械水雷ノタメニ起リタルモノトスレハ該水雷ハ其ノ繫維沈置セル裝置ヨリ離脱シ遂ニ海面ニ浮泛セシモノナルヘシ其ノ後「ポベーダ」ハ修理ヲ了ヘ八月十日ノ海戰ニ參加スルニ至レリ

一説ニ據レハ「ペトロパウロウスク」ノ沈沒ハ機械水雷ノ爆發之カ直接ノ原因タルニアラス其ノ觸レタル水雷爆發スルヤ否ヤ艦内火藥庫ノ爆發ヲ續發シ之カ爲メニ沈沒スルニ至レリト艦内爆發ノ有無ハ未タ明ナラスト雖モ同艦カ幾ト其ノ全乘員ヲ擧ケテ沈沒セシハ畢竟機械水雷ニ罹リシカ爲メナリ「大艦ハ水雷ニ罹リタルトキト雖モ小艦ニ比シ沈沒ノ虞少キモノヽ如シ」トノ説アルモ此ノ奇禍ニ徵シテ其ノ然ラサルヲ知ルニ足ルヘシ「ペトロパウロウスク」罹厄ノ時ハ白晝ニシテ而モ數多ノ僚艦之ニ伴ヒ又同艦ヲ射擊セントスル敵艦ヲ距ルコト極テ遠キ處ニアリシニ一タヒ機械水雷ニ罹レハ其ノ沈沒ノ迅速ナル僅々二分間ヲ出テサルヲ以テ之ヲ救フニ暇アラス其ノ乘員ノ約八分ノ七ハ艦ト與ニ沈沒セリ此ノ奇禍ニ罹リシモノ「ペトロパウロウスク」ノミニアラス後又之ト末路ヲ同シウスルモノ續々起レリ要スルニ巨艦大船ト雖モ猛烈ナル水中爆發ヲ被ラハ急速ノ沈沒ヲ免レサルコトハ本戰役ニ於テ一再ナラス立證セラレタリ

「ペトロパウロウスク」ノ罹リシ水雷其ノ物ノ果シテ日露孰レノ沈設セシモノナリヤニ關シテハ多少議論ナキヲ得ス一説ニ曰ク該水雷ハ豫メ沈置セル機械水雷ノ一個ニシテ恰モ其ノ沈置ノ場所ニテ爆發シタルモノナリ即チ「ペトロパウロウスク」ハ其ノ敷設面ヲ通過スルカ如ク誘致セラレ豫期通リ水雷ニ罹リシモノナリト吾人ハ此ノ説ヲ以テ事實決シテ有リ得ヘカラサルモノト否認セサルヲ得ス乞フ其ノ理由ヲ説カン始メ日本人ハ二重ノ目的ヲ以テ機械水雷ヲ旅順口外ニ敷設セリ一ハ露人ニ港口附近ニ水雷ノ沈設シアルコトヲ知ラシメ其ノ艦隊ヲシテ港内ニ蟄伏シ敵對行動ニ出テサラシメント欲スルニ在リ一ハ露艦若シ敢テ出動セハ敷設水雷ニ罹ラシメ之ニ大損害ヲ加ヘント欲スルニ在リ日本人ハ其ノ機械水雷カ其ノ沈置ノ位地ニ於ル實況如何ヲ知ラサルヲ以テ其ノ敷設面ニ沈留スルモノト信シ而テ一時其ノ巡洋艦ヲ引上ケタリ是或ハ露艦ヲ誘致シテ水雷敷設面ニ入ラシメントノ策ニ出テシモノナルヘシ故ニ若シ「ペトロパウロウスク」ノ轟沈ヲ以テ此ノ策ニ陷リシモノトスレハ同艦ハ港外ヘ出動中ニ觸雷セシナルヘキニ港口ヲ距ル十五海里ノ地點ニ達セシ後歸航中ニ此ノ厄アリシハ如何假ニ同艦ノ觸レタル敷設水雷ヲ日本人カ夜ニ乘シテ沈設セシモノトセハ該水雷ハ繫維器ヲ離脱シテ漂流セシモノナルカ然ラスンハ初メヨリ繫維器ヲ著ケスシテ水中ニ投下セルモノ即チ浮流水雷ナラサルヘカラス前者ヲ以テ事實トセハ日本人ノ水雷繫維法ハ勿論敷設水雷ヲ確實ニ港口ノ水道ニ沈設セントスルノ企圖ハ全ク失敗ニ歸セリト謂ハサルヲ得ス若シ後者ヲ以テ事實トセハ「ペトロパウロウスク」ハ偶然之ニ觸レシモノニ過キス而テ其ノ水雷ノ艦船ニ一大危險ヲ及ス點ニ於テハ敵躬方ニ對シテ均シク一ナリ或ハ「ペトロパウロウスク」ノ觸レタル敷設水雷ヲ露國側ニテ沈設セシモノヽ一ナリト信スル者アリ吾人ノ知ル所ニ據レハ露國側ニ於ル敷設水雷ノ一部分ニ其ノ繫維器ヲ離脱シ外洋ニ向ケ漂流セルモノアリ事ノ玆ニ至リシハ或ハ之カ爲メニアラスヤト思ハル

金州丸ノ擊沈

四月二十五日日本運送船金州丸ハ陸軍兵ヲ乘セ單獨利源縣ヨリ元山ニ歸航ノ途中浦鹽艦隊ニ遭遇シ其ノ投降ヲ肯セサリシヲ以テ終ニ擊沈セラレタリ

日本側ノ報告ニ據レハ日本將校ハ其ノ乘船將ニ沈沒セントスルモ敵ニ救ハレ俘虜トナルヲ耻チ天皇陛下萬歳ヲ三唱シ敵艦ニ面シテ割腹セシカ下士卒モ亦之ニ倣フテ自殺セリト云フ然ルニ少數ノ陸軍々人救助セラレシヲ以テ此ノ慘劇ノ顛末ヲ聽クヲ得タリ此ノ壯烈ナル譚話一タヒ傳ハルヤ世界億兆ノ人民ハ深ク感動セリ惟フニ日本ハ最初二十餘年間開國進取ヲ以テ國是トシ夙ニ商業ノ發達ヲ圖リ泰西文物ヲ模倣セシト雖モ大和魂及ヒ武士道ハ儼トシテ尚日本ニ存ス其ノ歷史ヲ知ラサル人ハ之ヲ以テ犬死ナリト爲スヘキモ其ノ忠死ノ民心ニ及ス影響ハ宏大無邊ニシテ而モ萬世不朽ナリ日本陸軍々人ニシテ苟モ此ノ事迹ヲ聞知セシ者ハ孰レモ咸其ノ戰友ノ忠死ヲ壯絶ナリトシ日本全陸軍ノ士氣ハ之カ爲メニ大ニ激勵セラレタリ然レトモ此ノ美譚ト共ニ聯想スヘキ一事ハ浦鹽艦隊カ敵ノ運送船ト共ニ投降ヲ拒メル將卒ヲ擊沈セルノ行爲ハ作戰上全ク合理ノ擧ニシテ日本人ハ一八九四年清國運送船高陞號ヲ擊沈シ自カラ其ノ先例ヲ貽セシコト是ナリ

此ノ時ニ當テ日本ハ「マハン」大佐ノ所謂制海權ヲ實際掌握セリト雖モ浦鹽艦隊ハ上村艦隊カ特ニ監視ノ任ニ膺レルニ拘ラ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ス再三海洋ヲ翺翔シ而モ何等ノ阻害ヲモ受ケサリキマハン大佐ノ言ヘル如ク戰勝國ハ縱令制海權ヲ確取スルト雖モ尙敵ノ單艦若クハ小艦隊ノ竊ニ出動スルコト、航迹稀ナル所ヲ通過スルコト、敵國ノ海岸線綿長ナレハ其ノ防禦ナキ地點ヲ襲擊スルコト、被封鎖港ニ潛入スルコト等ナキヲ保シ難シ惟フニ上村中將カ浦鹽艦隊ノ跳梁ヲ卽時ニ阻止セサリシ故ヲ以テ其ノ無能ヲ責ムルハ非ナリ殊ニ自カラ社會ノ木鐸ヲ以テ任セル新聞記者ニシテ之ヲ嘵々スルハ當時ノ戰略的情勢ノ何物タルヤヲ悟ルノ明ナキモノニシテ彼等ノ爲メ惜ム所ナリ而モ日本ノ金州丸ヲ目的地ニ派遣スルヤ深ク不時ノ變ヲ慮ラサリキ金州丸ニ附スルニ水雷艇隊ヲ以テセシモ此ノ事變起リシヲ以テ之ヲ觀レハ此ノ護衛隊ノ微弱ナリシコトヲ知ルヘキナリ

旅順口第三回閉塞

五月三日日本ハ第三回閉塞ヲ決行セリ此ノ回ハ一層大規模ノ計畫ヲ以テ閉塞船十二隻ヲ旅順口ニ向ハシメシモ其ノ沈沒セシモノハ八隻ナリキ露國側ノ報告ニヨレハ此ノ沈沒ヲ自國砲艦及ヒ海正面ノ砲火並ニ水雷艇隊ノ襲擊ニ歸セシト雖モ實ハ然ラス乘員自カラ爆沈セシモノナリ爾後日本ハ旅順口閉塞事業ノ成功期スヘカラサルヲ悟リ最早之ヲ行ハサリキ

初瀨ノ沈沒ト八島ノ存否

露國側ノ公報ニ據レハ初瀨ノ沈沒ハ豫メ此ノ目的ノ爲メニ故意ニ敷設セシ水雷ニ罹リシモノナリ其ノ前夜竊ニ水雷敷設船「アムール」ヲ以テ日本艦隊カ往來スヘキ航迹ヲ橫キリテ一海里餘ノ間短距離ヲ隔テヽ機械水雷ヲ投下シタルモノニシテ其ノ翌日初瀨ハ該敷設面通過ノ際端ナクモ罹災沈沒セシモノナリト云ヘリ又露國側ノ傳フル所ニテハ日本戰艦八島モ亦五月十五日午後三時機械水雷ニ罹リテ轟沈セリト云ヒ現ニ「ヂイヤーナ」艦長ハ其ノ爆沈ヲ目擊セリト明言セリ惟フニ八島ハ水雷ニ罹リ大破損ヲ被リタルモノヽ如シ新聞ノ傳フル所ニ據レハ同艦ハ沈沒セリト云フモ其ノ後乘組員ノ他艦ニ移乘セシメラレタルヲ聞カス一說ニテハ八島ハ水雷爆發ノ爲メ大損傷ヲ被リシモ尙浮泛セシヲ以テ曳キテ淺灘ニ乘セ上ケ假修理ノ後浮揚ラシメ遂ニ本國ノ一造船廠ニ後送シタリト云フ爾來今日ニ至ルマテ八島ノ損失如何ハ未タ詳ナラス日本ノ軍機ヲ嚴秘ニ保ツハ羨ムニ堪ヘタリ唯吾人ノ明知シ得タル所ハ八島ハ其ノ後旅順陷落ニ至ルマテ一回モ海戰ニ參加スルコト能ハサルマテニ大損害ヲ被リタルコト是ナリ以上記スル所ノ數次ノ變災ニ依リ日本艦隊ノ蒙リタル損失ハ極テ多大ナリ而テ東鄕提督カ殘勢ヲ率ヰテ善謀善斷以テ攻戰ノ事ニ從ヒシハ吾人ノ歎賞措ク能ハサル所ナリ

敷設水雷ノ危害

艦船ノ敷設水雷ニ罹リテ爆沈セシ多數ノ塲合ヲ考察スルニ其ノ敵躬方孰レノ水雷ニ罹リテ沈沒セシヤヲ斷言スルヲ得ス雙方トモニ許多ノ水雷ヲ沈設セシヲ以テ其ノ內縱令多數ナラサルモ若干ハ繫維器ヨリ脫離セシモノアリシヤ疑ヲ容レス殊ニ其ノ中若干ハ浮流水雷トシテ奏效スル爲メ水中ニ投下セシモノモアルヘシ又日本艦船ニシテ沈沒又ハ損傷セシモノハ露國ノ水雷ニ罹リシカ爲メナルヘク又露國艦船ニシテ同樣ノ禍殃ニ遇ヒシモノハ日本ノ水雷ノ爲メナランモ知ルヘカラスト雖モ其ノ果シテ敵側ノ水雷ナリヤ否ヲ確知スルニ由ナク現ニ「ペトロパウロウスク」ハ躬方ノ沈置セシ水雷ニ罹リタルモノヽ如ク又初瀨ノ罹災及ヒ所謂八島ノ損害モ亦敵側ナラテ却テ躬方ノ水雷爆發ニ起因セシモノナルカ如シ吾人ハ本戰役中起リシ災厄ニ依リ夫ノ大艦巨舶ト雖モ水雷ノ爆發ニ罹リテハ到底沈沒ノ厄難ヲ免ルヽコト能ハサルノミナラス小艦ニ比シ沈下遲緩ノ利益スラ得ル能ハサルコトヲ知リシカ敷設水雷其ノ物ノ防禦効力ニ至テハ從來未詳ニシテ今日ニ至テモ尙杳トシテ幾ト發見スル所ナシ唯其ノ水中爆發力ノ怖ルヘキコト又其ノ之ニ觸ルヽ者ニ及ス所ノ結果ハ敵躬方ノ別ナキコトハ此ノ戰役ニ徵シテ旣ニ明ニシテ要スルニ之ヲ利用スヘキ塲合ハ僅々コレアルノミ而モ之ヲ利用スレハトテ爲メニ戰局ノ大勢ヲ左右シ得ヘキモノニアラサレハ防禦水雷ヲ全廢スルモ毫モ躬方ノ抵抗力ヲ減少スルニ至ラサルモノノ如シ又水雷ノ遊離漂流セルモノハ夫ノ營業上當然至當ノ手段ヲ採リ居レル中立船舶ニ危害ヲ及シ延テ水雷使用者タル交戰國トノ間ニ由々敷葛藤ヲ惹起スヘキヲ以テ防禦水雷沈置ノ利益ハ之ヨリ生スル不利益ヲ償フヤ否ヤ吾人疑ナキ能ハス

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

旅順艦隊ノ大擧出港

六月二十三日旅順艦隊司令長官海軍少將ウヰトゲフトハ既ニ修理竣工ヲ告ケタル戰艦三隻ノ外ニ戰艦三隻大小巡洋艦五隻驅逐艦十隻ヲ率ヰ旅順口外ニ出動セリ日本驅逐隊及ヒ水雷艇隊ハ之ヲ襲擊セシカ「ノーウヰク」及ヒ露國驅逐隊ハ之ヲ擊攘セリ是驅逐隊ヲ其ノ本務ニ使用シ敵ノ驅逐隊ノ襲擊ニ對シ攻勢防禦ヲ行ハシムルノ利アルヲ證スル一例タリ

旅順艦隊ノ港外ニ出テシハ午後三時前ニシテ山東高角ニ向ヒ南下セシカ日本艦隊ヲ避ケント力メ距離及ヒ針路ヲ種々ニ變更シ午後八時終ニ旅順口ニ向ヒ回頭シタルヲ以テ午後十時三十分ノ頃驅逐隊ヲ以テ敵ノ殿艦ヲ襲擊シ其ノ後一時間ヲ經テ敵艦隊ノ旅順港外泊地ニ投錨シタルヲ俟チ引續キ短時間ヲ隔テ、頻繁ニ襲擊ヲ行ヘリ此ノ襲擊ハ前後八回ニ及ヒ日本ハ此ノ夜「ペレスウエート」ヲ擊沈シ「セワストーポリ」及ヒ「ヂイヤーナ」型巡洋艦一隻ヲ傷破セリト信セシモ「ペレスウエート」ハ沈沒セサルノミナラス何等損害モ受ケサリシモノヽ如ク巡洋艦モ亦無事ナリト信セラル「セワストーポリ」ハ右舷側水線下七呎ノ處ニ長サ三十五呎乃至四十呎深サ七呎以上ノ大破口ヲ生セシモ此ノ損害ハ歸航ノ途中機械水雷ニ觸レタルカ爲メニシテ魚雷ノ命中シタルヨリ起リシニアラス其ノ修理ハ六週間ヲ經テ竣工セリ按スルニ此ノ夜驅逐隊及ヒ艇隊ハ襲擊ノ際月沒ヲ利シ且其ノ目的物ノ所在ヲ明ニシ有効距離内ニ突進シ得タル筈ナルニ而モ數多ノ襲擊ハ盡ク失敗ニ終レリ

旅順艦隊大擧出動ノ眞意ハ果シテ何レニ在リヤ吾人ハ之ヲ知ルニ苦ム若シ夫司令長官ヲシテ其ノ麾下艦隊ヲ咄嗟ノ間ニ出擊セシメ且自カラ其ノ運動ノ臧否如何ヲ試ミントスルモノトセハ其ノ出動ハ機宜ニ適シ且有益ナリシナルヘシ然レトモ此ノ場合ト雖モ敵ト觸接シ而テ後背進スルカ如キハ麾下將卒ノ士氣ヲ皷舞スル所以ニ非ス若シ單ニ演習ノ爲メ巡航スルモノトセハ成ル可ク弱方ノ艦隊ヲシテ敵ノ彈著距離若クハ視認距離以内ニ到ラシムヘカラス若シ又敵カ港外ノ航路ニ敷設セル水雷ヲ掃去シタルコトヲ示サンカ爲メニ出航セシモノトセハ是智者ノ行フヘキ業ニ非ス當時露國側ヨリ觀ルトキハ日本人ニハ旅順口閉塞事業ノ結果如何ヲ發見セシメサルヲ良シトス凡他人ノ眞意ヲ察スルハ常ニ難シ時トシテ全ク能ハサルコトアリ況ヤ大責任ヲ負ヘル人ノ心ヲ度ルニ於テヲヤ思フニ露國司令長官ノ擧措茲ニ出テシハ必スヤ吾人ノ了解スヘカラサル强固ナル理由ノ存スルモノアリシナルヘシ然ルニ吾人ノ觀ル所ヲ以テスレハ露國艦隊ノ當然採ルヘキ道ハ大損害ヲ被ルノ覺悟ヲ以テ激烈ニ敵ヲ攻擊スルニ在リ若シ旅順港外ノ水道ニシテ通航ニ支障ナキコトヲ知ラハ敵ト砲火相見ユルノ準備ヲ整ヘ一旦對戰スルニ至ラハ假令已ニ不利ノ點多ク海戰ハ概シテ日本艦隊ノ捷利トナルヘキモ最後マテ激戰シ敵ニ多大ノ損害ヲ加ヘサルヘカラス熟〻本戰役中兩國艦隊間ニ行ハレタル數次ノ戰鬪ヲ按スルニ何レモ局部的ニシテ艦隊戰鬪ノ原則ヲ脱スト雖モ敗者モ亦勝者ニ損害ヲ加ヘ著シク其ノ勢力ヲ殺キ得ヘキコトヲ知ルニ足ル然ルニ露國艦隊司令長官ハ本戰役ノ全局ヲ通觀セサルモノヽ如シ吾人ノ觀ル所ニ據レハ司令長官ノ眼界ハ極テ狹隘ニシテ其ノ作戰舞臺ヲ黄海及ヒ日本海ニ限レルモノト思ハル然ルニ日本ハ常ニ强大ナル增援艦隊歐洲ヨリ東航シ來ラハ自國海軍ノ勢力ハ計數上著シク劣弱ノ地位ニ陷ルニ至ランコトヲ顧慮スルモ極東ニ在ル露人ハ毫モ爰ニ見ル所ナク隨テ亦此ノ望ヲ利用スルノ道ヲ知ラサルモノヽ如シ六月二十三日ウヰトゲフト少將ハ戰艦六隻巡洋艦四隻（其ノ内一隻ハ裝甲巡洋艦）小巡洋艦一隻及ヒ驅逐艦十隻ヲ有シ東郷中將直率ノ艦隊ハ戰艦四隻裝甲巡洋艦四隻小巡洋艦若干隻及ヒ驅逐艦竝ニ水雷艇二十二隻ヨリ成リ此ノ外ニ特別任務ノ爲メニ艦艇若干隻ヲ他方面ニ派遣シアルコトハ同中將ノ報告ニ據テ知ラレタリ故ニ中將若シ麾下ノ總艦艇ヲ集合スルヲ得タランニハ日露兩國ノ艦隊ハ多少ノ懸隔ナカリシナルヘシ此ヲ以テ一タヒ激烈ナル接戰ヲ行ヒタランニハ其ノ結果露國艦隊ハ大部分ヲ失ハンモ之ト同時ニ必スヤ日本艦隊ニ大損害ヲ加ヘ延テ歐洲ヨリ東航スヘキ援隊ヲシテ事實上極東海上ニ覇主タラシメタリシナルヘシ今日ヨリ之ヲ觀レハ露國艦船カ旅順港外ニ出動シテ一彈ヲモ敵艦ニ加フルヲ敢テセスシテ港内ニ蟄伏シ遂ニ自カラ殲夷ヲ招カンヨリハ寧ロ敵ト對戰シ彼ニ大損害ヲ加ヘテ後敗滅スルノ優レルニ如カサルナリ

浦鹽艦隊ノ出現

浦鹽艦隊カ大陸ト日本ノ交通線ヲ阻礙セントノ目的ヲ以テ出動セシハ洵ニ策ノ得タルモノト謂フヘシ其ノ出動ハ戰局ノ

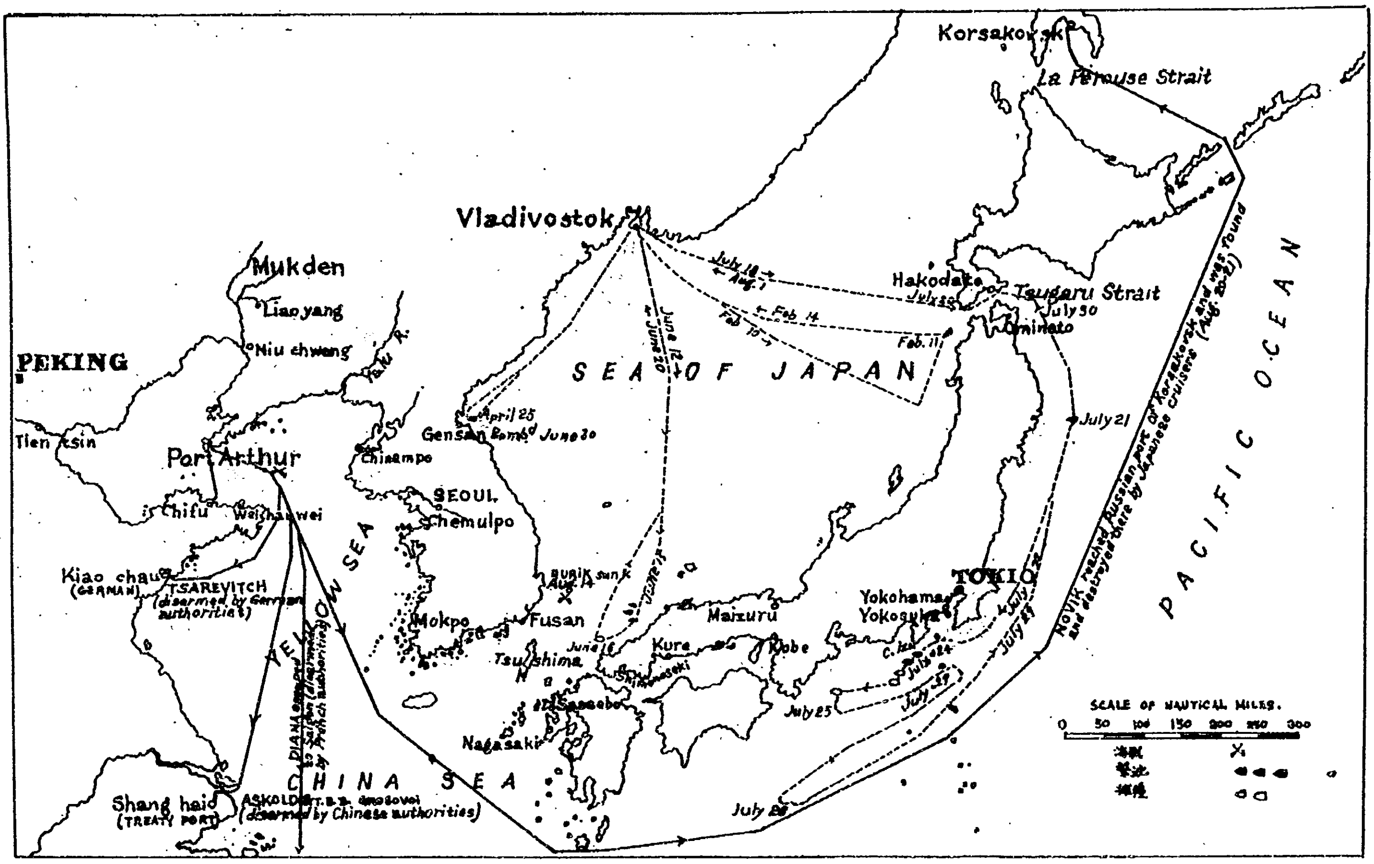
大勢ニ及ス所ノ影響大ナラスト雖モ前述運送船撃沈事件ノ如キハ交通阻礙ノ點ヨリ觀ルトキハ多少ノ功ヲ收メ得タルモノニシテ爲メニ日本陸軍ノ出戰部隊ニ多少ノ苦痛ヲ感セシメタルヤ必セリ若シ露國巡洋艦ニシテ個々別々ニ策動シタランニハ敵ハ許多ノ地點ニ於テ苦痛ヲ感スヘキカ故ニ其ノ苦痛モ亦隨テ多大ナルヘカリシニ其ノ常ニ編隊運動スル所以ノモノハ他ナシ上村中將ハ其ノ麾下各艦ヲ單獨ニ運動セシメスシテ一艦隊ト爲シ以テ浦鹽巡洋艦隊ヲ監視シ居ルモノト推測シ或ハ知悉セシカ故ニ單艦ニテ運動セハ敵艦隊ニ遭遇スルトキ撃沈セラレンコトヲ恐レタレハナリ露艦ノ編隊運動ハ右ノ如ク一失アレトモ又一得アリ即チ我此ノ法ヲ採レハ敵モ亦止ムコトヲ得ス我ニ傚フカ故ニ結局夫ノ巡洋攻勢戰ト稱スル戰略中最有望ノ要素タル「隨所出沒」ヲ恣ニスルヲ得ヘケレハナリ要スルニ大型裝甲巡洋艦ヲ單艦戰鬪ニ利アルモノトシテ之カ製造ヲ主張スルノ論旨ハ日露兩國カ倶ニ其ノ裝甲巡洋艦ヲ集合シテ艦隊ト爲スノ策ヲ固執シ未タ嘗テ一艦モ單獨ニ行動セシメサルニ徵スレハ實際ニ適セサルモノヽ如シ

蔚山沖海戰

八月十四日ノ蔚山沖海戰ニ於テ日本ハ午前十時前八千碼ノ距離ニ於テ本戰鬪中最猛烈ナル砲火ヲ開ケリ斯テ砲戰五時間ノ後砲擊ヲ中止シ諸艦逐次ニ回頭セリ此ノ間「ロシーヤ」ノ防水區劃內ニ火災ヲ生セシモノアリ之カ爲メ兵員六名燒死シ「グロモボイ」艦內ニモ亦火災ヲ起セリ是敵彈之カ直接源因タリシニアラス其ノ一彈同艦ノ藥莢ニ著火セシニ因レリ火災ハ消防隊之ヲ鎭火セリ「グロモボイ」ハ水線下ニ六箇所「ロシーヤ」ハ十一箇所ノ彈痕ヲ生セリ戰鬪ノ末期ニ至リ「ロシーヤ」ノ主砲中使用ニ堪ヘシモノハ僅ニ三門ニ過キサリキ「グロモボイ」ハ將校戰死四名（內一名ハ艦長ナリ）ニシテ其ノ最多ク死傷者ヲ出セシハ上甲板ナリシモ陰砲甲壁內ノ砲員ハ皆事ナキヲ得タリ然レトモ其ノ備砲幾門ハ廢物ト爲レリ「ロシーヤ」ニ於テモ艦長ハ戰死シ將校六名負傷シ兵員ノ死傷ハ上甲板ニ於テ最多クヲ出セシヲ以テ其ノ砲員ヲ替ユルコト前後數回ニ及ヒタリ斯テ兩艦ニ於テハ戰死百三十五名負傷三百七名アリタリ上村中將ノ直率セル巡洋艦四隻ノ死傷公報ニ據レハ磐手戰死四十名負傷三十五名、出雲（旗艦）戰死三名負傷六名、吾妻負傷八名、常磐負傷三名アリタリ之ニ涙速

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一九〇四年日露海戰地域



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

及ヒ高千穗ノ死傷ヲ加フレハ日本側ノ戰死四十六名負傷六十八名合計百十四名ニシテ露國側ノ死傷ハ遙ニ之ニ超過セリ即チ三艦ニ於ル戰死二百五十一名負傷四百十五名合計六百十六名ナリ「リユーリツク」ハ敵彈ノ爲メニ撃沈セラレタルニアラスシテ自沈セルモノナリ

「グロモボイ」及ヒ「ロシーヤ」ハ浦港ニ歸リタルヨリ之ヲ觀レハ此ノ二艦ノ水線下ニ於ル損傷ハ極テ大ナルモノニアラサリシヤ明ナリ要スルニ此ノ戰鬪ノ勝敗ハ既往幾多ノ戰鬪ト同シク兵員死傷ノ多寡ニ由テ決セラレタリト謂フヘシ

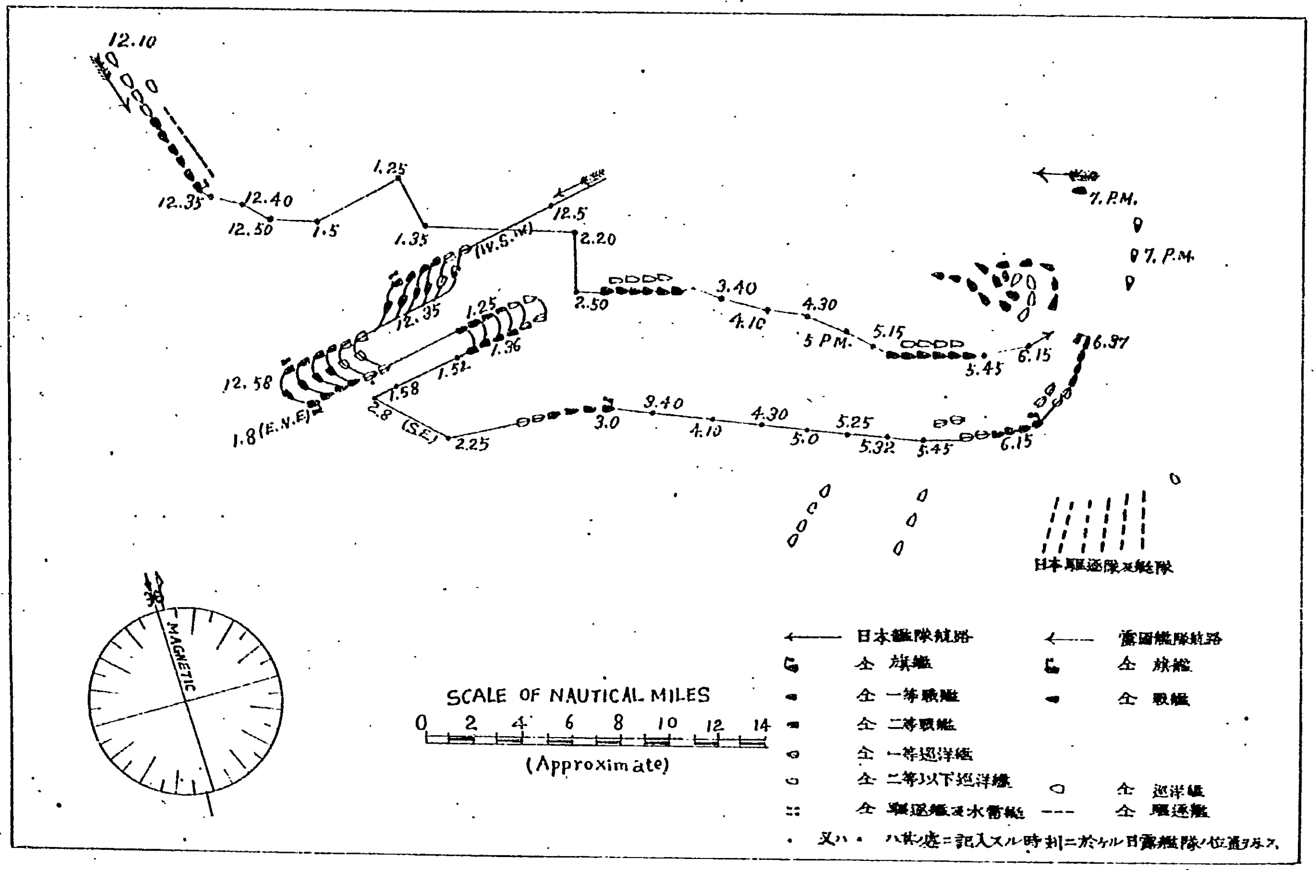
黃海ノ海戰

此ノ戰鬪ニ於テモ是迄行ハレタル各戰ニ於ル如ク(驅逐艦「ストレグーシチー」一隻ノ沈沒狀態ニ陷リシヲ除クノ外)雙方トモ砲火ノ爲メニ撃沈セラレタルモノ一隻モアラス夫ノ「ワリヤーグ」及ヒ「リユーリツク」ハ其ノ乘員自カラ沈沒セシメタルモノナリ這囘ノ戰鬪ニ於テ日本砲彈ノ露艦ニ命中セシハ多クハ砲熕保護ノ裝甲部ニシテ水線ノ厚キ甲帶ニ命中セシハ極テ稀ナルカ故ニ毫モ其ノ浮泛力ニ影響ヲ及サヽリキ

此ノ日ニ於テ「ツエザレウヰチ」ハ勿論恐ラクハ旅順口ニ歸航セル數隻ノ戰艦モ亦其ノ厚キ裝甲鈑ニ一彈ヲモ受ケサルモ時トシテハ戰敗ニ陷リ或ハ全ク戰鬪ニ堪ヘサルモノト爲ルノ恐アルハ恰モ二月九日ニ於ル「ボペーダ」ニ同シ然ルニ非裝甲巡洋艦「アスコリド」カ少クトモ二三十分間猛火ニ暴露シ「ヂイヤーナ」カ比較的輕傷ヲ受ケシカ如キハ大ニ考察スヘキ價値アリ非裝甲巡洋艦浪速、高千穗ノ二艦カ裝甲巡洋艦「リユーリツク」ヲ撃破セシ如キモ亦之ト其ノ經驗ヲ同シウス是等ノ例ハ重厚ナル裝甲保護ノ無効ナルヲ立證スルニハアラサルモ其ノ價値ハ是迄ノ如ク思フ程ノモノニアラサルコト知ルヘシ是ニ於テ軍艦ハ攻防二力孰レヲ重ンスヘキヤノ問題起レリ乃チ軍艦ハ一種ノ砲臺ノ如ク構造シ之ヲシテ穿ツヘカラサル裝甲ヲ以テ保護スル避難所タラシメ以テ乘員敵彈ノ爲メニ殺傷セラレサル如クスヘキカ將タ又軍艦ヲシテ敵ニ對シ猛烈ニ使用シ得ル一種ノ利器ト爲スヘキカノ議論是ナリ

若シ此ノ日ニ於ル露軍ノ旅順口脱出ノ目的ハ果シテ途中「グロモボイ」及ヒ其ノ僚艦ト相會シ以テ浦港ニ到ラントスルモ

一九〇四年八月十日黄海海戰圖



ノナリトセハ是戰略上策ノ宜シキヲ得タルモノナリ惟フニ旅順艦隊司令長官「ウヰトゲフト」少將ハ此ノ未旅順口ノ必ス厄運ニ陷ルヘキヲ察シ麾下艦隊ヲ此ノ窮境ヨリ救ハントスルニハ浦港ニ到ルノ外ナシトセシナルヘシ然ルニ其ノ出動ニ際シ「ツエザレウヰチ」ヲ司令長官旗艦トシテ艦隊ノ先頭ニ置キシカ爲メ敵ハ此ノ一艦ニ集彈シタリ彼若シ之ヲ斯ノ如クセス戰列中他ノ所ニ占位セシメタランニハ脱出計畫ハ或ハ成功シタランモ知ルヘカラス假令全艦隊該港ニ到達セサルモ其ノ多數ハ著港セシナルヘシ「ウヰトゲフト」少將一タヒ斃レ他ノ少將俄ニ之ニ代リテ此ノ難局ニ當リ不期ノ重任ヲ負フニ至リ避難港近キニ在リシカ爲メ偶彼ヲシテ怯心ヲ生セシメ遂ニ旅順ニ引返スコトヽナリタルモノヽ如シ

此ノ海戰ノ末期ニ至リ露國艦隊ノ戰列亂レ其ノ諸艦ハ自力ヲ密集シテ一團塊ト爲リ而テ日本艦隊ハ比較的良好ノ隊列ヲ以テ之ヲ包圍セリ斯テ露艦ノ砲熕ハ交叉重累ノ狀況ニ陷リ從テ其ノ射線ハ敵ニ對シテ各所ニ散亂セシカ故ニ砲撃ノ効力最微弱トナリシニ引替ヘ日本艦隊ハ長線列ニ配陣シ各艦適當ノ間隔ニ占位セシカ故ニ各砲熕ノ射線ハ一團塊ヲ爲セル敵艦隊ニ集中スルノ利ヲ得タリ唯三笠ノ被リタル重大ナル損害ハ東郷中將ヲシテ麾下艦隊ヲ一所ニ保持スルノ必要ヲ感セシメタルモノヽ如ク之カ爲メ露艦ノ旅順ニ退走シ或ハ山東高角ニ向ヒ遁逃セルモノヲ追撃セサリキ

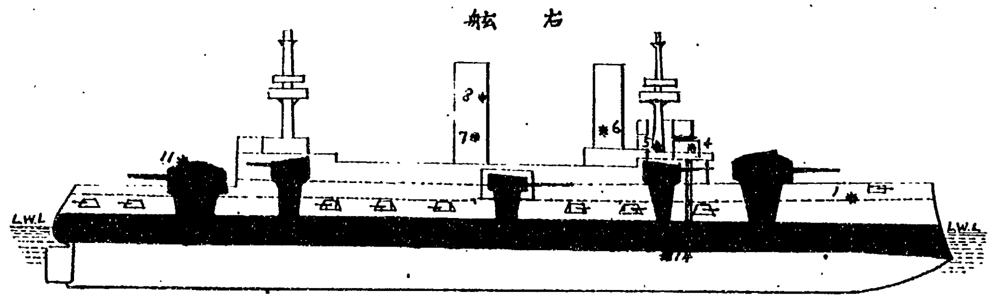
露艦ハ常ニ高速力ヲ以テ發航スルニ差支ナク爲シ置キ又終始此ノ速力ヲ保續スルノ必要アリシカ爲メ露國ノ石炭消費額ヲ多大ナラシムルニ至レリ加之煙突及ヒ汽罐ノ損傷ノ爲メ石炭消費額増加セシヲ以テ其ノ豫備炭庫著シク減額シ浦港ニ到達セント欲セハ低速力ヲ以テ航行セサルヲ得サルニ至レリ然リト雖モ日本艦隊モ亦必ス幾ト同樣ノ狀態ニ在ルヘキヲ以テ之ヲ追撃スルヲ得ヘキヤ否ヤハ未タ遽ニ斷言ス可ラス

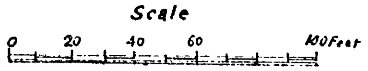
「セワストーポリ」ニ對スル水雷襲撃

十一月末ニ至リ日本ノ旅順攻圍軍ハ港内ニ麕集セル露艦ヲ有効ニ砲撃シ得ヘキ陣地ヲ占領セショリ露國有力ノ各艦ハ敵彈ノ爲メ大破ヲ被リ到底其ノ用ヲ爲サヽリシカ故ニ十二月上旬「セワストーポリ」ヲ除クノ外露國自カラ之ヲ爆沈セリ「セワストーポリ」ハ日本攻圍軍ノ砲彈ヲ避ケンカ爲メ十二月九日黎明港外ニ出テ城頭山下ニ避泊セシカ同處ニ於テ此ノ損

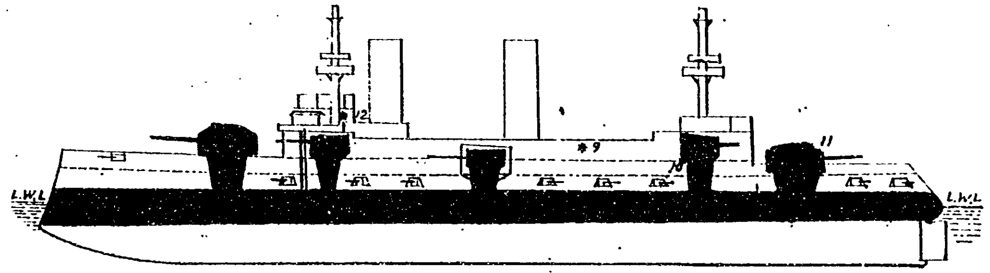
Cesarevitch

右舷





左舷



一九〇四年八月十日黄海々戰ニ於テツエザレウヰツチノ被レル損害個所見取圖
（＊ハ被害個所）

傷戰艦ハ十二月九、十三、十四、十五及ヒ十六日ノ五日間ニ亙リテ日本驅逐隊及ヒ水雷艇隊ノ爲メニ襲撃セラレタリ同艦艦長エッセン大佐ノ報告トシテ世ニ傳フル所ニ據レハ同艦ハ水雷防禦網ヲ展張シタリシモ艦內ニ留リシ人員ハ僅ニ百名ニ過キス又其ノ小口徑速射砲ハ既ニ盡ク揚陸セリト日本水雷艇ハ旅順口ノ諸砲臺ヨリ約一千二百碼ノ射距離ヲ以テ發射スル猛火ヲ冒シテ邁進シ同艦ニ向ヒ數多ノ水雷及ヒ砲彈ヲ發射セシカ水雷ハ概ネ防禦網ニ中リテ爆發セリ幾多ノ失敗後終ニ一發ノ水雷偶艦首部ニ命中セリ時ニ風雪甚シク波濤亦高ク天地晦暝殆ト咫尺ヲ辨セサリシト云フ翌朝「セヷストーポリ」艦長ハ其ノ汽力ヲ以テ該艦ヲ沖ニ進メ自カラ深水中ニ沈メタリ日本水雷艇乘組將卒ハ當時寒氣極テ嚴烈ナリシニモ拘ラス堅忍不抜ノ勇ヲ顯セシニ引替ヘ露國側ニ於テハ尚驅逐艦ヲ有セシニモ拘ラス之ニ依テ攻勢的防禦ノ手段ヲ執リ以テ敵ノ襲撃ヲ挫クノ企圖ヲ行ハサリキ惟フニ「セヷストーポリ」ハ同所ニ定著シ明ニ射撃ノ目標ヲ呈シテ大小幾多ノ損傷ヲ蒙リシニモ拘ラス連日ノ水雷襲撃ニ對シ善ク之ヲ拒キ得タル事實ヨリ考フレハ日本ノ此ノ強襲法ハ効力限リアルモノト斷定セサルヲ得ス唯怪ム日本人ハ何故ニ同艦ニ水雷襲撃ヲ加ヘシヤ其ノ眞意明ナラス何トナレハ同艦ハ遁ルヘコト能ハサリシヲ以テ旅順陷落ノ晩ニ到ラハ自カラ爆沈スルカ然ラサレハ降伏スルノ外ナカリシヤ勿論ナレハナリ

結論

日本人ノ先制準備及ヒ其ノ智勇兼備ノ特質

日本人ハ數字上ヨリ言フトキハ今回ノ如キ大戰爭ヲ決行スルニ足ラサル海軍力ヲ以テ戰ヲ開キタリ當時極東派遣ノ露國艦隊ハ全露國海軍ヨリ謂ヘハ眞ニ一支隊ニ過キス故ニ一朝事アラハ該艦隊ハ直ニ援勢ヲ得ヘシト期待セラレタリ始メ日本人ハ夙ニ戰爭ノ遂ニ避クヘカラサルヲ知リ出來得ヘキ準備ハ之ヲ完成シ又審ニ各般ノ情形ヲ併セ考ヘ且敵國ノ準備全ク成ラサルコトヲ看破シ而テ其ノ援隊ノ到ラサルニ先タチ日本ノ近海ニ於テ露國艦隊ヲ擊破スルノ時間餘リアルコトヲ信セリ而テ日本人ハ此ノ策ヲ行フニ當リ寡勢ノ艦隊カ敵ノ戰列ノ一部ニ對シ我方ノ勢力ノ大部分ヲ集中スルトキニ生スルト同樣ノ危險ヲ冒シ英將ロドニーノセントヴィンセントニ於テ其ノ麾下艦隊十五隻ヲ以テ西班牙ノ二十七隻ニ對ス

ル海戰及ヒネルソンノトラファルガーニ於テ其ノ麾下二十七隻ヲ以テ佛西聯合艦隊三十三隻ニ對スル海戰ト其ノ場合ヲ一ニセリ此ノ両戰ニ於テ援勢ハ弱方艦隊ノ撃破セラレサル前ニ來リテ之ヲ救フコト能ハスト豫想セラレシカ果シテ中レリ日露海戰モ亦然リ凡戰ニ臨ミテ無謀ノ勇ヲ揮フハ愚タルヲ免レス成算アル勇ハ最賞スヘキ性能ナルカ一九〇四年ノ戰役日本軍人カ此ノ特質ヲ具有シ發揮シタル例枚擧ニ遑アラス

魚雷ノ價値　此ノ戰役ヲ通觀スルニ自働水雷ニ依リテ達成セラレタル成績ノ微々タリシハ顯著ノ事實ナリ露國側ノ驅逐艦並ニ水雷艇ノ多クハ一發ノ水雷ヲモ發射セサリシモノヽ如シ其ノ軍艦ハ若干ノ水雷ヲ發射セシモ何レモ効ヲ奏セス旅順口第一次攻撃ニ於テ日本驅逐艦ノ港外露艦ニ對スル夜襲ハ既述ノ如ク絕對的好況ノ下ニ行ハレタルモノニシテ此ノ僥倖ハ今後再得難キモノナリ然ルニ其ノ急襲撃ノ結果ハ轉タ人ヲシテ失望落膽セシムルモノアリ後ニ至テ「レイテナント、ブラーコフ」ハ日本水雷艇ノ爲メニ撃破セラレ終ニ沈没セシハ事實ナルモ是唯眇乎タル一葉艇ニシテ此ノ一例ヲ外ニシテハ戰鬪力アル各艦ハ幾多ノ襲撃ヲ蒙リタルモ之カ爲メニ轟沈シタルモノアラス「セワストーポリ」ノ如キ數日間定止シテ損傷シ而モ浸水シテ進退不自由ナルモノニ向テスラ之ヲ擊滅スルニハ尚幾多ノ水雷襲撃ヲ重ネサルヲ得サリキ然レトモ吾人ハ是ヲ以テ自働水雷ヲ無用ノ長物ナリト速斷スルモノニ非ス唯水雷ヲ似テ効力有限ノ一兵器ト爲シ稀有ノ景況ニアラサレハ利用スヘカラサルモノト論定スルノミ水雷ノ効力ヲ基準トシテ戰術法式、作戰計畫或ハ新艦型式ヲ定メシトスルハ恰モ砲員ノ佩ヘル軍刀ノ用途ヲ豫測シテ以テ砲戰ノ法式ヲ定メントスルニ均シキモノナリ惟フニ現戰役ノ經驗ハ近時海軍戰術研究者カ遠距離砲戰ニ關シテ說ク所肯綮ニ中レルヲ確保シ又巡洋艦及ヒ戰艦ニ水雷ヲ備フルノ無益ナリト論スルノ妥當ナルヲ證明ス

潛水艇ニ關スル感想　日露兩國潛水艇購入ノ記事ハ屢新聞紙上ニ見エタレトモ未タ其ノ實際使用セラレタリト認ムヘキ徵候アラス從來ノ驅逐艦及ヒ水雷艇カ其ノ効果ヲ收メタルコト少キノ一事ヲ以テ之ヲ推スニ縱令潛水艇ヲ使用スルモ其ノ結果知ルヘキノミ

潛水艇ハ水面下ヲ航行シ敵ニ發見セラレサルノ利アルハ通常ノ水雷艇カ夜間僅ニ少許ノ範圍ニ於テ影ヲ韜スニ優ルモ之ト同時ニ速力遲緩且沈下ノ際其ノ作戰目標ヲ視認シ難キノ不利アリ之カ爲メニ非常ノ損失ヲ招クコトアルヘシ今若シ潛水艇艦隊ニ隨伴シタリトセハ縱令木浦ヨリ青泥窪ニ至ル沿岸ノ諸港灣ハ何レモ潛航艇隊自由ニ之ヲ使用シ得ヘシトスルモ尚該艇隊ノ爲メニ艦隊ノ運動ヲ大ニ掣肘スルコトアルヘシ假ニ此ノ海岸ノ大半ヲ以テ夫ノ歐洲沿海ニ於ル戰地ノ如ク中立國ノ所領地ナリトセハ潛水艇隊ハ巡洋艦隊ノ爲メニ厄介視セラルヽニ至ラン本戰役ニ於ル諸般ノ情形ヲ精察スルニ吾人ハ潛水艇ノ採用ヲ以テ海軍進歩ノ吉兆ニ非ス却テ退歩ノ凶兆ナリト斷定セント欲ス惟フニ潛水艇ヲ採用スルニ至リシ所以ハ近時流行セル一種有害ノ氣風ニ感染シ以テ一時夫ノ巧妙ナルト同時ニ複雜ナル機械的發明ニ碎心シ人力及ヒ戰略的形勢ヲ輕ンシ却テ機械ヲ重ンスルニ至リシカ故ナリ

撞頭ノ價値　日露兩艦隊ハ共ニ戰鬪ニ於テ撞頭ヲ使用セントシタルコトナク又戰鬪ト相關聯シテ撞頭攻撃ノ談アルヲ聞カス又其ノ之ヲ重要視セシコトスラモアラサルモノヽ如シ此ノ勢ニテハ撞頭ハ造船計畫ノ一要目トシテ今後何レノ日マテ存續スヘキカ是注目スヘキ一問題タリ

遠戰ノ實施　從來ノ學說ニ據レハ早晚直線彈道及ヒ遠距離ヲ以テ砲彈ヲ發射シ遠隔ノ標的ニ對シ百發百中ノ命中公算ヲ得ヘキ砲熕ヲ採用スルノ日アラハ戰鬪ハ是迄ヨリハ遠距離ニ於テ行ハルヽニ至ルヘシト爲セシカ本戰役ノ各海戰ハ果シテ此ノ時機ノ既ニ到レルコトヲ示セリ同時ニ此ノ事ハ延テ水雷ヲシテ最早巨艦大舶ノ一兵器タラシムヘカラストノ說ヲ實證スルニ至レリ之ヲ事實ニ徵スルニ海戰中砲彈ノ命中數ハ僅少ニシテ「ワリヤーグ」「ツェザレウヰチ」「アスコリド」及ヒ「ヂイヤーナ」ハ數回ノ海戰ニ參加セシニモ拘ラス其ノ敵彈ヲ被リシハ十五六發以下ニ過キス就中前ニ述ヘタルカ如ク重厚甲帶部ニハ被害稀ナリ調査シ得ヘキ諸種ノ場合ヲ觀ルニ命中彈ノ大多數ハ上甲板以下僅一呎乃至二呎ノ處ニ描キタル一線內ニ在リ是桅檣、煙突及ヒ其ノ他ノ凸起物アルカ爲メ自カラ照準ノ注眸スル所トナリシモノニシテ毫モ怪ムニ足ラス故ニ砲ニハ瞄射位置ヲ與フル如クセハ凸起物等ハ命中セラレ易シ果シテ然リトセハ軍艦ニ於テ砲熕ヲ裝備スル水

線上ノ高度ハ特ニ考察スヘキ一事タリ

大型裝甲巡洋艦ノ得失　陰砲甲壁ノ防禦的價値ハ幾ト觀ルヘキモノナシ「グロモボイ」ニ於テハ陰砲甲壁內ノ備砲中ニハ敵彈ノ爲メニ破損セルモノアリシモ甲壁內ノ砲員ハ孰レモ事ナキヲ得タリ然ルニ前述セシカ如ク非裝甲巡洋艦「アスコリド」ニ於テモ亦其ノ六吋砲ノ砲楯ノ內一モ穿貫セラレ若クハ著シク撓屈セラレシモノナシ昨年刊行ノ「海軍年鑑」ニ據ルニ「グロモボイ」ノ六吋砲陰砲甲壁ハ厚サ四吋ヨリ四「アスコリド」ノ砲楯ハ四吋ナリ若シ人アリテ巡洋艦ハ所謂巡洋艦トシテ使用スルノ目的ヲ以テ製造スルモノニシテ艦隊戰鬪(ゼネラル、アクシヨン)ニ參加セシムルモノニアラス即チ「戰列」ノ一部分タラシムヘキモノニアラスト說クモノアラハ其ノ說亦一理ナキニシモアラスト雖モ今之ヲ一九〇四年ノ戰役ニ間ヒ露國艦隊ニシテ二隻ノ「アスコリド」(排水量合計一萬一千一百十噸)ヲ有セリト假定シ此ノ二隻ハ一隻ノ「グロモボイ」(排水量一萬二千三百三十六噸)ニ比シ一層有効ナリシヲ知ラハ苟モ巡洋艦戰術ノ何物タルヤヲ解スルノ士ハ誰カ少數ノ大艦ヨリハ寧ロ多數ノ小艦ヲ擇ハサルモノナカラン本戰役ノ各海戰ヲ觀察スルニ巨大ナル裝甲巡洋艦ノ効用如何ニ就キ疑ナキ能ハス果シテ大裝甲巡洋艦ハ其ノ必要アルヤ如何伊國戰艦「レギナ、エレナ」型ノ如キハ「グロモボイ」及ヒ「ロシーヤ」ヨリハ一層强大ナル砲熕優越ナル裝甲保護ヲ有シ載炭量ハ之ト同等ナルモ速力ハ優等ナリ其ノ二隻ノ排水量ハ合計二萬四千八百五十噸ニシテ「グロモボイ」及ヒ「ロシーヤ」二隻ノ排水量合計二萬四千四百六十六噸ヨリハ少シク大ナルカ今此ノ二隻ノ戰艦ヲ「グロモボイ」及ヒ「ロシーヤ」ノ裝甲巡洋艦二隻ニ比シ優勢ナラスト言ハヽ沒道理ノ甚シキモノナリ抑巨大ナル裝甲巡洋艦ヲ採用スル所以ハ一等戰艦ヨリモ小形ノ戰艦ヲ必要ト認ムルヨリ不知不識裝甲巡洋艦ノ大型式ニ移リシモノニシテ小形ノ戰艦ハ小形ノ戰艦トシテ之ヲ製造スルノ必要アリト雖モ小形ノ戰艦ニハ必スヤ免ルヘカラサルノ缺點アルヲ以テ或ハ名義上之ヲ巡洋艦ノ種別ニ入ルヽモノアリ故ニ平時各艦ノ類別ヲ立テ許多ノ艦名ヲ臚列スルハ一國ノ政治上ニ利スル所アルヘキモ戰時之ニ信賴セハ不測ノ殃ヲ招クニ至ルヘシ艦首ノ構造及ヒ凌波性ニ至テハ戰艦ハ巡洋艦ニ劣リ又巡洋艦ノ內ニテモ非裝甲型ノモノ必スシモ裝甲型ニ劣ルニアラス例ヘハ「アスコリド」ハ毫モ此ノ特點ニ於テ「グロモボイ」若クハ日本裝甲巡洋艦ニ讓ル所アリシヲ見ス

戰艦ノ特能　今回ノ戰役ハ戰艦ヲ良艦型トシテ存續スヘキ價値アルコトヲ立證ス露國艦隊ヲシテ實際旅順港內ニ蟄居セシメタルモノハ日本ノ驅逐艦水雷艇ニモ非ス閉塞船ニモ非ス敷設水雷ニモ非スシテ實ニ東鄕中將直率ノ戰艦々隊ナリキ露艦ノ時々出動セシモ其ノ眞意ハ決戰セントスルニアラスシテ自港ニ歸航スルカ或ハ敵ノ包圍陣列ヲ潛逸セント試ミルノ外ナラサリキ

前進根據地設置ノ利益　日本カ其ノ目的地ニ漸次其ノ根據地ヲ進メタルハ茲ニ特筆大書スルノ價値アリ之ニ反シテ露國ハ根據地ヲ移スコト困難ナリ現ニ其ノ辛苦經營セル關東半島ノ一軍港ヨリ彼方ノ艦船ヲ脫出セシメントシテ之カ爲メ厄難ニ罹リシ經驗ニ徵スルモ明ナリ而テ其ノ强大ナル防禦設備モ遂ニ此ノ軍港ヲ救フコト能ハサリキ然リト雖モ旅順口ト共ニ其ノ造船廠糧食庫及ヒ幾許ノ築城ハ艦隊ニ於テ必要ノモノナリト雖モ惟フニ露國カ此ノ軍港ヲ誤用セシコトハ固ヨリ疑ヲ容レサル所ニシテ其ノ誤用ハ旅順口ノ存滅ヲ以テ本戰役勝敗ノ岐點ト爲セシニ在リ又吾人ハ旅順ノ陷落ニ鑑ミ制海權ハ守勢的陸上防禦ニ依テ鞏固ナラシメラルヽモノトシテ之ヲ恃ムノ危險ナルコトヲ知レリ若シ制海權ヲ掌握セル敵軍ニシテ軍港ヲ攻略セント欲セハ其ノ「背面攻擊」換言セハ陸軍ノ合圍ニ依テ其ノ目的ヲ達スルヲ得ン

速力ノ戰術及ヒ戰略上ニ於ル價値　若シ人アリ本戰役ニ徵シテ速力優越ノ價値ヲ立證セント欲スルモノアラハ失望シタルナルヘシ從來戰術問題ヲ精究セシ將校ハ速力ノ優越ヲ以テ一般戰術ニ於ル一大要素トシテ貴フヘキモノナルヤ否ヤニ就キ多年疑ヲ懷キ居リタリ戰術ノ領域ヲ離レ戰略ノ領域ニ移リテハ敵ニ優ル速力ヲ有スルノ價値ハ多大ナリト思料セラレタルモノヽ如クナルカ今ヤ戰略ノ領域ニ於テスラモ僅ニ其ノ効果ヲ收メシニ過キス一九〇四年八月十日ノ海戰ニ於テ朝日(十八海里)三笠(十八・六海里)富士(十九・二海里)敷島(十八・五海里)ノ優越ナル速力ヲ以テ尙且「セワストーポリ」(十七・五海里)ノ脫出或ハ「ポルターワ」(十六・三海里)ノ旅順歸港ヲ阻遏スルコト能ハサリキ出雲(二十一海里)磐手(二十一・八海里)及ヒ常磐(二十三海里)ノ速力優越ナリシニ拘ラス「グロモボイ」(二十海里)及ヒ「ロシーヤ」(二十

海里）ハ八月十四日ノ戰鬪ニ於テ無事ニ遁走スルコトヲ得タリ之ニ反シテ「ノーウヰク」ハ二十五海里ノ大速力ヲ有セシニ拘ラス速力遲緩ノ千歳（二十二海里半）及ヒ之ヨリモ更ニ遲緩ナル對馬ニ追及セラレシトキ自カラ救フコト能ハスシテ遂ニ破滅セリ「アスコリド」（二十三・八海里）ノ首尾克ク遁竄シ得タリシモ前ニ述ヘタルカ如ク其ノ原因ハ優越ナル速力ヲ持續セシカ故ニ非ス否實際同艦ハ煙突破損セシヲ以テ高速力ヲ持スルコト能ハサリシナリ

斯テ從來高速力ニ望ヲ屬シタル者ハ遂ニ其ノ空望タリシヲ覺ユルト同時ニ今回ノ戰役中ニ起レル事迹ニ依テ今ヤ高速力ノ價値ヲ正當ニ判定スルノ機會ニ接シタリ請フ試ニ其ノ一二ヲ擧ケン抑敵艦ニ比シ優越ナル速力ヲ以テ航駛スルノ利アルコトハ古今相異ラスト雖モ八月十四日ニ於ル上村中將麾下巡洋艦ノ如ク高速力ヲ利用スル能ハサルコトアリ又夫ノ二十五海里ノ速力ヲ有スル「ノーウヰク」ノ如キハ其ノ石炭節儉ノ必要上ヨリシテ止ムヲ得ス中等ノ速力ヲ以テ進航セシコトアリ又快走艦ト雖モ煙突破損シ或ハ汽罐聯絡ノ切斷シタルカ爲メ最高速力ヲ以テ進航スル能ハサルコトアリ故ニ吾人速力ノ價値ニ關シ輕〻シク斷案ヲ下スヘカラサルモ速力ノ唯戰鬪力ヲ組織スル一要素タルニ過キサルコトハ宜シク記憶セサルヘカラス本來軍艦ナルモノハ戰フ爲メニ造ルモノニシテ逃クル爲メニアラス既ニ然リトセハ軍艦ヲ設計スルニ當リ敵艦ヲ擊破壞滅シ得ヘキ攻擊力ヲ第一トシ如何ナル他ノ要素モ之カ右ニ置クヘキモノニアラス凡艦隊戰鬪ニ參加シ僚艦ト協力シテ戰フヘキ各艦ニ於ル攻擊力ノ要素ハ全艦隊ニ於ル攻擊力ノ總量ニ對シ適當ノ比例ヲ保持セサルヘカラス此ノ攻擊力ヲ組成スル諸兵器ハ之ヲ適當ニ配置シ而テ其ノ火力ヲ適當ニ集中シ得ルカ如ク爲シ置クヘシ又戰列ニ加ラサル小形艦ハ其ノ對手ト爲ルヘキ敵艦ニ優ルノ速力ヲ出シ得ル如ク計畫スヘキハ勿論ナリト雖モ此等ノ艦ハ戰爭ニ於テ特別有限ノ任務ニ當ルニ過キサルコトヲ領會シ居ラサルヘカラス

無形的要素　吾人ハ平素精神的能力ノ戰爭ニ於テ極テ重要ナルコトヲ認メシカ本戰役ニ徵シテ益〻其ノ然ルコトヲ悟レリ露國ノ援遣艦隊絶東ニ到著スルモノト看テ之ヲ控算セハ日露海軍ノ勢力著シキ懸隔ナシ戰艦ノ隻數ニ於テ露國日本ニ優ルモ各艦ノ構造及ヒ武裝ニ於テハ双方相匹敵セシカ如シ兵員ニ至テハ一方ハ長期服役ノ便ヲ有シ一方ハ訓練法良好ノ利ヲ有セリ然ラハ則チ兩交戰國ノ攻戰ニ於テ今日ノ如キ大逕庭アリシハ何故ナリヤ是唯彼我ノ精神的能力ニ於テ大差アリシカ故ナリ茲ニ精神的能力ト稱スルハ軀幹ノ長短、體力ノ强弱、擧動ノ敏鈍、健康ノ良否等ノ如キ體力ニ關スルモノヲ除キ一切ノ能力ヲ總括ス露國軍人ハ概シテ智力ニ於テハ實ニ日本人ニ劣レリ殊ニ下士卒ヲ然リトス日本人ノ天性敏捷ナル世界ニ冠タリ日本海軍ハ機略ニ富ミ變ニ應シテ立ロニ畫策決行スルモ露人ハ此ノ能力ヲ缺キタリ勇武ニ於テハ兩者甲乙ナキモ勇武發揮ノ道ニ至テハ大ニ趣ヲ異ニス即チ露人ハ寧ロ他動的ニ發揮シテ不撓ノ剛勇ト爲リ日本人ハ自動的ニ發揮シテ成算アルノ眞勇ト爲ル而テ後者ノ前者ヨリモ海軍ニ有利ナルハ勿論ナリ又露人ノ作戰ヲ中止シ或ハ其ノ方針ヲ變更スル場合ヲ觀察スルニ吾人ハ其ノ此ニ出ツルノ急要トスヘキ理由ヲ認ムルコト能ハス之ニ反シテ日本人カ有望ト見エタル作戰ヲ中止スルトキハ必ス之ヲ促ス所以ノ存スルアリ例ヘハ敵ノ援隊將ニ來リ會セントスルカ故ニ妄ニ艦船ヲ危地ニ陷レサルコト彈藥ヲ費消シ盡スヘカラサルコト奏功ヲ急キ之カ爲メ他方面ノ作戰ニ敗ルヽカ如キ行動ニ出テサルコト等是ナリ此等ノ理由ハ日本人カ酣戰ノ裡ニ在リナカラ克己自制ノ力ニ依リ能ク戰鬪ヲ停止セル所以ナリ露人ハ各自ノ胸中ニ此ノ戰爭ヲ惹起セシ所以ノ事情ヲ知悉セス故ニ戰爭ニ對シテ熱心ナラス之ニ反シテ日本人ハ微賤ノ者ト雖モ一八九五年ニ於ル遼東還附當時ノ事情ヲ知リ且國民ハ國家存亡ノ爲メニ戰フモノナリトノ觀念其ノ肺腑ニ徹セリ加之日本人ハ夫ノ深厚ナル宗教心ニ代ルヘキ熱烈ナル忠君愛國ノ精神ヲ以テ此ノ戰爭ニ從事セリ苟モ國民ニシテ斯ノ如キ精神ニ激勵セラレ而テ戰勝ヲ期シテ之ニ臨マハ天下復何物カ之ニ敵スルヲ得ン惟フニ現時某々國ノ海軍ノ如キハ好ンテ講義室、練習所ヲ以テ滄海ニ於ル實地經驗ニ換ヘントスルカ如キ傾向アルモ前記ノ精神ハ講義室等ニ於テ果シテ發揮若クハ涵養シ得ヘキモノナルヤ是吾人ノ疑ニ堪ヘサル所ナリ

五三　旅順艦隊ノ全滅ニ就テ（軍事批評家）

（一九〇四年十一月十七日發刊「タイムス」所載）

前週旅順艦隊ノ全滅シタルハ其ノ原因ハ一朝一夕ノ故ニアスト雖モ兎ニ角攻圍軍ノ砲力ニ依テ其ノ終焉ヲ告ケタル悲慘

ノ事實ハ海國ニ取リ一大要訓タリ露國カ軍艦ヲ自爆自沈セサルヲ得サルニ至リシハ各兵家ノ斷定履行シタル原則ヲ顧ミサルノ罪ニシテ即チ今回ノ末路ハ同國ニ峻嚴ナル警告ヲ與ヘ其ノ改善ヲ促ス所以タルヘキナリ

旅順口攻擊ニ就キ日本ハ如何ニ多クノ人命ヲ費シタリトスルモ其ノ犧牲ニ依テ旅順艦隊ヲ全滅ニ歸セシメタレハ爰ニ吾人ハ日本カ其ノ作戰ノ主目的ヲ達シタリト謂フヘシ即チ日本ハ其ノ海軍ヲ以テ成功ノ種子ヲ蒔キ其ノ陸軍ニ依テ收獲シタルモノニシテ此ノ戰果ハ畢竟陸海軍戮力共働ノ賜ナリトセサルヘカラス斯ノ如クニシテ一時ハ多數ノ有力艦ヨリ成ル露國艦隊ハ今ヤ既ニ亡ヒタリ日本カ両軍對戰ノ結果其ノ一艦ヲモ失フコトナク此ノ大績ヲ收メ得タルハ軍艦ヨリハ寧ロ人命ヲ犧牲ニ供シタル報酬ニシテ其ノ價格ハ如何ニ大ナリシトスルモ之カ爲メニ島國ハ無限ノ利便タル制海權ヲ獲得シタルモノナリトセハ決シテ過大ノ犧牲ト云フヘカラス

吾人ノ見ル所ニ依レハ旅順口ニ對スル日本ノ作戰目標ハ主トシテ同港ノ軍艦ニ存シタルモノニシテ今ヤ此等ノ軍艦ハ一隻ヲ除クノ外悉ク破滅シタレハ日本ハ此ノ上旅順口ニ高價ナル襲擊ヲ加フルノ必要アヲサルヘク其ノ攻圍ハ普通ノ順序ニ依テ行フテ可ナリ要塞ノ陷落ニ多少ノ遲速アルモ此ハ比較的重要ナラサル事ニ屬ス何トナレハ蘇士以東ニ於テ婆羅的艦隊ノ寄泊シ得ヘキ港灣幾何アルモ獨リ旅順口ハ最早其ノ入込ムヘカラサルコトヲ保證シ得ヘケレハナリ

日本軍ノ旅順口攻圍前及ヒ攻戰中吾人ハ同要塞固守ノ露國ノ爲メニ有利ナラサルヲ論セシカ今ヤ其ノ意見ノ誤ナキコト知ラレタリ(中略)旅順口ハ果シテ如何ナル戰略上ノ目的或ハ其ノ他ノ目的ニ應セシヤ第一ニ太平洋艦隊ヲ保護セントスルコト第二ニ露國世襲ノ虛榮心ニ驅ラレ其ノ居城ヲ固守セントスルコト蓋其ノ目的ナリシナランカ此ノ第二ノ目的ノ如キニ至リテハ是唯頑固ノ一點ヲ以テ自然ノ趨勢ニ背馳セントスルニ過キス吾人ハ此ノ問題ニ就キ疾クモ奧軍上陸ノ一箇月前ニ當リ旅順口ヲ撤退スルモセサルモ共ニ其ノ災厄ヲ免レスト雖モ撤退ヨリ生スル災厄ハ固守ヨリ起ル所ノ災厄ニ比スレハ寧ロ輕キ方ナリト論結セシカ果シテ然リ今ヤ露國ハ旅順口ヲ固守セシカ爲メ塞内ノ兵員、艦船、軍需品砲熕ヲ舉テ敵手ニ委セサルヲ得サルニ至レリ彼若シ戰略上熟慮ノ結果自カラ此ノ要塞ヲ破壞シテ撤去シタランニハ斯カル悲慘ノ末路ヲ見スシテ止ムヘカリシニ武邊一徹ノ意地ヨリ爰ニ顧ミル所ナク終ニ今日ノ如キ傷痍ヲ受クルニ至リシハ自カラ招キタルモノト言ハサルヘカラス

然ヲハ第一ノ目的タル旅順港內蟄伏艦隊ニ對スル保護ノ實ヲ全ウスルコトヲ得タルヤト云フニ決シテ然ラス却テ旅順口ハ其ノ太平洋艦隊ヲ滅却スルノ具トナレリ見ヨ艦隊ハ黃金山頭崖正面砲臺ノ爲メニ誤ラレテ安意其ノ掩護ノ下ニ外泊シ當時アレキセイエフカ露京駐劄日本公使引揚ノ電報ニ接シタルニモ拘ラス毫モ敵ノ攻擊ヲ豫想スルナク第一回夜襲後ト雖モ尙其ノ迷想ヲ抱持シテ旅順口カ自己ニ取リテノ死地タルヲ悟ラス日ヲ重ヌル每ニ益々港內ニ誘致セラレ自カラ求メテ活動力ヲ失ヒ結局敵ニ殲滅セラルヽニ至レリ惟フニ一八七〇年普佛戰爭中佛將バゼイヌカメッツ城ヲ頼ミ全軍敗滅ニ陷リタル以來要塞又ハ避難港ノ末路今回ノ如ク爾ク明確ナル例ヲ與ヘタルモノハアラサルヘシ

原來旅順艦隊ノ任務ハ時機ヲ擇ヒテ出動シ以テ敵ヲ攻擊スルニアルコト明白ナリ換言スレハ其ノ艦隊ノ損害如何ヲ顧ミスヨリハ寧ロ其ノ本國ト其ノ絕東所領地トノ間ヲ遮斷スル日本戰艦ニ對シテ極力損害ヲ與ヘンコトヲ唯一ノ目的トナササルヘカラサリシナリ然ルニ露國海軍ハ見苦シクモ此ノ任務ヲ遂行セサリキ彼ハ敵ヲ攻擊スル能ハサリシニアラス之ヲ欲セサリシナリ何トナレハ同艦隊ハ其ノ後數度出動セシモ其ノ都度唯速ニ歸港シタルノミナレハナリ是其ノ戰鬪力ナキニアラス戰志ナキカ爲メナリ此ノ一大航洋艦隊ハ乘組員トシテハ露國最良ノ水兵一萬五千人ヲ有シ其ノ價格ヲ問ヘハ英貨三千二百萬磅ニ相當ス然ルニ此ノ大艦隊ニ斯モ不名譽ノ最期ヲ遂ケシメシハ畢竟是指揮者ノ不決斷ノ致ス所ニシテ指揮者ノ不決斷ハ實ニ避難港ナル一大誘因カ彼ノ薄志弱行ノ徒ヲ欺キ寄セタル結果ナリト云ハサルヘカラス開戰以來月ヲ閱スル茲ニ十ニシテ旅順艦隊ハ戰鬪ニ依リテ日本軍艦ノ一隻タモ擊滅スル能ハサリシニ已レハ空シク破壞若クハ擊沈セラレ終始何ノ爲ス所ナクシテ終焉ヲ告ケタリ惟フニ昔日ノ「モニトル」型艦隊ナリトテ斯迄ニ不甲斐ナキコトハアラサルヘシ開戰以來旅順艦隊ニ司令長官タル者前後五人若シ其ノ一人ニテモ勝ヲ制スルカ然ラサルモ一死以テ敵ニ當ルノ決心ヲ有シタランニハ啻ニ露國ノ爲メニ武名ヲ輝カシタルノミナラス婆羅的艦隊ノ爲メニ通路ヲ開キ以テ海上權ヲ獲得セシ

ムルノ先導トナリタランモ亦知ルヘカラス當時露國海軍省ノ能力ヲ以テシテハ婆羅的艦隊ノ東航準備ヲ完了スルニ數月間ノ日子ヲ要スルカ故ニ旅順艦隊司令長官ハ以上ノ如キ策ヲ採ルノ外アラサリシナリ然ルニ此ノ避難港ハ結局墓地タルニモ拘ラス絶エス慰安ノ聲ヲ鳴ラシテ艦隊ヲ誘致シ守備隊ト共ニ之ヲ葬リ而モ此ノ人命財産ノ犠牲ニ對シ何等ノ獲ル所アラサラシム

露國ニシテ若シ旅順口ヲ放棄スルノ果斷ヲ取ラハ勢ヒ港内ノ艦隊ヲシテ出戰セサルヲ得サルニ至ラシメタルナルヘシ故ニ其ノ出戰ヲ促スニハ同要塞ヲ放棄スルヨリ他ニ良策ナカリシナラン斯シテ三萬ノ軍隊ヲ要塞ヨリ離レシメハ以テクロパトキンノ野砲軍隊ヲ增勢シ彼ヲシテ攻勢ヲ取ラシムルニ至リシナラン而テ之ト同時ニ旅順艦隊ヲシテ東郷艦隊ニ猛烈ナル攻撃ヲ加ヘシメンニハ之ニ重大ナル損害ヲ與ヘ婆羅的艦隊ノ來路ヲ開キ最後ノ勝利ヲ期スヘキ一大好機會ヲ博シ得タランモ知ルヘカラス吾人ハ三月九日ノ紙上ニ露國戰略家ノ謬見ヲ評論スルニ際シ當時露國海軍省ノ意見ヲ標榜スルモノナリトシテ其ノ機關紙「クロンシタート、ウェストニック」ノ言フ所ヲ轉載シタルカ今爰ニ之ヲ復載セン曰ク旅順艦隊ノ守勢ヲ採ルハ極テ必要ナリ何トナレハ艦隊旅順口ニ在レハ我カ陸軍ノ右翼ト後方トヲ掩護シ併セテ旅順口ニ通スル鐵道ノ聯絡ヲ保護スルヲ以テナリ我カ艦艇索敵ノ爲メニ出動スレハ徒ラニ我カ海岸線ヲ敵衝ニ暴露シ其ノ欲スル所ニ委スルニ過キスト當時吾人ハ之ヲ評シテ此ノ數言能ク露國海軍ノ無爲偷安ヲ寫シ出シテ餘ス所ナシト爲シ若シ此ノ一言ニシテ露國海軍部内ノ眞意ヲ表明シ得タルモノナリトセハ旅順艦隊ハ到底頽勢ヲ挽回スルコト能ハサルモノト見ルノ外ナシト述ヘタリ吾人ハ又英露兩國ノ海軍戰略及ヒ艦隊使用ノ目的ニ大差アルコトヲ指摘シ又露國ノ作戰方針ハ古代ノ海戰ニ行ハレタルモノニ踰ルコトナシト斷言シ又此ノ海軍機關紙所說ノ當否ノ如キハ宜シク既成ノ事實ニ徵シテ一ニ之ヲ現代史家ノ評論ニ讓ルヘシトナセシカ既ニ今日トナリテハ露國ノ作戰方針ハ是迄ノ戰局經過ヲ通覽スレハ全然非ナリシコト爰ニ贅セスシテ知ルヘキナリ

旅順口要塞ハ日本野戰軍ニ加ルヘキ若干ノ部隊ヲ其ノ前面ニ牽制シ得タルヤ明ニシテ當初ヨリ善ク守リ今尙支ヘ其ノ力ヲ以テ出來得ヘキ限リヲ盡シタレトモ「世界最强ノ要塞モ要塞タルヨリ以上ノ働ヲ爲スヲ得ス」トノ名訓アリ露國ハ此ノ理ニ戻リ作戰手段ヲ作戰目的ト誤解シタルカ爲メ遂ニ其ノ過料ヲ拂ハサルヘカラサルニ至レリ

旅順口要塞ハ其ノ塞内ノ守兵ニ幾倍セル日本軍ヲ塞外ニ牽制シクロパトキンヲシテ制勝ニ必要ナル時日ヲ與フルモノナリトノ想定ハ全局ノ戰勢ヲ達觀セルモノトナスヲ得ス何トナレハ旅順ノ包圍既ニ成リテ日本軍ノ全部上陸セシトキ大山元帥ハ全局ノ中央ニ在リテ本戰々場ノ形勢之ヲ許ストキハ其ノ兵力ヲ割キ南送シテ攻圍軍ニ加ラシメ又本戰々場ニ一大戰起ラントスル際ニハ攻圍軍中ノ一部ヲシテ本軍ニ增勢セシムルヲ得タレハナリ從軍通信員ガストンゾルー氏ノ報ニヨレハ十月十四日ニ旅順口攻圍軍ノ内二萬五千ノ兵ハ大山軍ニ合シタリトアリ其ノ果シテ然ルヤ否ヤハ姑ク措キ日本ノ本支兩軍カ常ニ相互融通シ又毫モ敵ニ悟ラルヽコトナクシテ之ヲ行フコトヲ得タルハ疑ナキ事實ナリ旅順口ノ防守ハ日本ノ行動ヲ牽制スヘク以テ時日ノ猶豫ヲ得ヘシトハ專ラ露國ニ行ハレタル說ナレトモ旅順口ノ防守ニ依リ其ノ後露國ノ海陸兩面ヨリ勢力ヲ集中スル能力カ果シテ日本ニ超越スルノ望アリトセハ此ノ說ノ如キハ洵ニ其ノ理アリト雖モ旅順口ハ集兵基地ト爲ルモノニアラス何トナレハ婆羅的艦隊ハ當時尙未タ東航準備ニ著手セス又旅順口要塞ニシテ極端ニ至ルマテ抵抗ヲ續クルトモ其ノ間ニ艤裝ヲ完ウシテ太平洋艦隊ト相呼應スルニ至ルヘシトハ之ヲ信スヘキ何等ノ理由アラサレハナリ又陸軍ニ就キテハ本年四月二十八日ノ「タイムス」紙上ニ揭載セラレタルマハン大佐ノ所見コソ能ク前說ノ妄ヲ辨スヘキモノナレ曰ク日本ノ海上輸送力ハ逈ニ露國ノ陸上輸送力ニ超越セリ此ノ事實ハ露國ヨリ優勢ナランコト必然ニシテ以テ機先ヲ制シ又以テ久シク戰役ニ耐フルヲ得ヘシ露國ニシテ此ノ戰勢ヲ顚倒スルカ若クハ其ノ局面ニ多少ノ異動ヲ生セシメサル限リハ日本カ最後ノ兵力ヲ悉シテ戰地ニ送リ國庫ノ空渇ヲ告クルニ至ル迄ハ勢ヒ此ノ劣勢ヲ忍ハサルヘカラサルナリト而テ事實ハ著々大佐ノ所見ノ正鵠ヲ誤ラサルヲ示シ而モ今日ノ模樣ニテハ日本ハ幸ニ最後ノ兵力ヲ盡シ國庫ヲ空ウスルノ悲境ニ陷ルノ憂ナキカ如シ由是觀之時日ノ遷延ハ露國ニ取リテ利アラサリシコト明ニシテ露國政府徒ラニ此ノ空想ニ耽リタルカ爲メ終ニ過大ノ損害ヲ蒙ラサルヲ得サルニ至レリ

若シ乃木軍ニシテ遼陽戰ニ加リタリシナラハ日本軍ノ勝利ハ一層決勝的ナリシナラント吾人ノ疑ハサル所ナレトモ此ノ戰闘ニ日本ノ勝利カ其ノ豫期スル所ニ達セサリシ所以ノモノハ單ニ乃木軍ノ投合スル能ハサリシ一因ノミニ歸スヘカラス是ハ日本戰略上ノ過失ニ因レリ露國遞信大臣キルコフ公爵カ堅忍不撓ノ能力ヲ以テ軍隊輸送ヲ續クルノ事業ハ開戰ノ初期ニハ未タ日本ノ悟ル所トナラス遼陽戰ニ至テ初テ敵ノ增勢ニ一驚ヲ喫シタリ尙日本カ遼陽ノ正面攻擊ニ兵力ヲ消耗シ又黑木軍カ決戰運動ノ遂行ニ其ノ兵力ヲ減損セシハ實ニ戰術ヲ誤リタルモノニシテ爲メニ日本ハ遼陽ニ於テセダンノ大捷ヲ再演スル能ハサリシナリ

日本軍ハ旅順口攻擊ニ勇氣、忍耐、果斷ノ極度ヲ示シタレトモ其ノ高等司令部ノ同要塞ニ對スル戰術ニ至リテハ吾人ノ模範トシテ承認スル能ハサルモノアリ吾人ハ日本ニ警告スルニ一八九四年戰役ノ先例ヲ襲用セサランコトヲ以テシ此ノ要塞攻擊ニハ宜シク砲火ニ依テ勝ヲ制スヘク清軍ノ之ヲ防守セシ當時ニ行ヘルカ如キ騎兵的急擊ノ策ニ出テサランコトヲ以テセシカ日本ハ終ニ之ヲ容レス最初ヨリシテ重砲ヲ準備セス攻圍軍ノ砲力ニシテ其ノ任務ヲ遂行スルニ足ラサルヲ實驗シタル後初テ此ノ利器ヲ陣地ニ送遣セシカ此ノ時ハ攻圍ノ時日餘程經過シタル後ナリキ日本ハ深ク其ノ步兵ノ武勇ヲ恃ミ之ヲ永久堡壘ニ向ハシメ其ノ副防禦ノ未タ破損セサルニモ拘ラス其ノ砲臺ノ未タ沈默セサルニモ拘ラス强イテ之ヲ陷レントシ彼等ヲシテ頭ヲ碎キ胸ヲ割クノ悲劇ヲ行ハシメントセリ蓋斯ノ如キハ人力以上ノ業ナリ日本步兵モ亦人ナリ何ソ夫之ニ堪ヘンヤ

日本軍ノ作戰ノ斯ク誤アリタルニモ拘ラス幸ニ一モ甚シキ不利ヲ蒙ラサルヲ得タルハ露國カ最初ヨリ戰略ヲ誤リ之カ爲メニ生セシ弊害ノ頗ル大ナリシカ故ナリ即チ日本カ無效ナル襲擊ニ由テ被レル損害ハ露國カ徒ラニ旅順口ヲ救援セントシ勉メテ其ノ野戰軍隊ニ受ケシ損害ト自カラ相償フヲ得ヘシ而モ露國野戰軍隊ノ損害ハ其ノ數二十萬ニ達シタルニ拘ラス旅順口ノ赴援ハ全然失敗ニ終リシニ日本ハ其ノ損害ノ代償トシテ勝利ヲ博シ露國ノ「一大艦隊ヲ殲滅スルコトヲ得タリ」

旅順口ト云フ一局地ヨリ考察シテ此ノ要塞ノ防守力海陸共ニ露國ノ爲メニ大不利ヲ來セルコト前陳スル所ノ如シ然ラハ旅順口ノ防守カ本戰役全局ノ戰略ニ裨益スル所アリシヤト云フニ誰カ亦然リト云フモノアランヤ旅順口ノ露國ニ於ル南阿戰爭中レヂースミッスノ英國ニ於ルヨリ尙一層ノ係累タリシカ如キ觀アリ即チ露軍ハ之カ爲メニ全戰役戰略上ノ自由ヲ掣肘セラレ徒ラニ孤城ヲ赴援セントテ多大ノ人命ヲ失ヒ而モ勞シテ寸功ヲタニ収ムル能ハサリシナリ

旅順防守ノ擧ハクロパトキン將軍ヲシテ其ノ全力ヲ逹シ得ヘカラサル目的ニ向ツテ集注セシメ結局彼ヲシテ狂暴ノ行動ヲ取ルニ至ラシメ空シク其ノ勢力ヲ消耗セシメシニ過キス元來將軍ノ作戰計畫ハ攻擊ヲ行フニ足ルヘキ兵力ヲ備フルニ至ル迄ハ內地ヘ總退却ヲ行フニアリシモ彼カ旅順口赴援ニ餘儀ナクセラレテ全然原計畫ニ反スル行動ニ出ツルナラントハ吾人ノ豫想スル所ナリシカ果シテ事實トナレリ惟フニ彼ノ原計畫ハ啻ニ最上策ナリシノミナラス日本第一軍ノ上陸スルヤ否ヤ直ニ之ヲ擊滅スル能ハサリシ以上ハ之ヲ措キテ他ニ採ルヘキ策アラサリシナラン

本年露國カ滿洲ニ連戰連敗セシ所以ノモノハ海陸戰略ノ第一原則ヲ知ラサルノ罪ニ歸スヘキモノニシテ或ハ旅順口要塞司令官ステッセルノ勇敢ナル防禦ノ功幾分カ之ヲ償ヒ得タリト稱スル者ナキニアラサレトモ決シテ然ラス其ノ防禦ノ勇敢ナリシハ却テクロパトキンニ之カ救援ヲ急カシメ其ノ悖則ヲ重ネタル結果ハ單ニ其ノ損害ヲ甚大ナラシメタルニ過キサルナリ

凡要塞ハ其ノ內地ニ在ルト海岸ニ在ルトヲ問ハス之カ眞正ノ任務如何ヲ說クハ兵術上ノ一大難問タリ之カ設備ヲ怠ルハ固ヨリ不可ナレトモ之ヲ濫設スレハ亦弊アリ善ク其ノ中庸ヲ採ラサルヘカラス今若シ一ノ防禦工事ヲ起サンカ吾人ハ先ツ之ヲ何ノ目的ニ向テ設備スヘキヤヲ精覈シ一錢タリトモ空費スヘカラス史ヲ閲スルニ四面ニ敵ヲ受ケタル軍隊ニシテ援ヲ待タス獨力ヲ以テ包圍ヲ突破逸脫シタルモノ、アルヲ聞カス故ニ因循姑息徒ラニ要塞ノ陷落ヲ延ハサンコトヲ計リテ軍隊ヲ塞內ニ葬リ甚シキハ艦隊迄モ其ノ死途ニ伴ハントスルカ如キハ愚ノ極ト言ハサルヘカラス要塞ナルモノハ必然軍隊ノ運動力ヲ掣肘シ兵力ヲ分散セシムルモノナレハ吾人ハ之ニ據リテ戰略上道理アル畫策ヲ遂行スルニ足ルヘキ確乎タル望アラサル限リハ之ヲ抛タサルヘカラス其ノ守兵如何ニ勇敢ニ防守スルモ徒ラニ其ノ武勇ノ赫々タルニ眩惑セラルヘコ

トナク宜シク其ノ大局ニ思ヒ及ハサルヘカラス吾人ハ要塞ヲ目シテ單ニ作戰ノ補助機關トシ其以上ニ之カ價値ヲ認ムル者ニアラス要塞ハ敵ヲ防禦シ得ルノ故ヲ以テ必スシモ我ニ利アルモノニアラス却テ害ト爲ルコトアリ其ノ内地ニ在ルト海岸ニ在ルトヲ問ハス我戰テ勝タハ之ヲ占奪スヘク敗ルレハ奪取セラルヘシ而テ何レノ場合ニ於テモ守兵愈多ケレハ災害亦愈大ナルヲ免レス如何ナル要塞如何ナル築城法モ未タ曾テ國防上補助機關以上ノ任務ヲ遂ケタルコトアラス又如何ナル邦國モ未タ曾テ之カ爲メニ其ノ難ヲ救ハレタルコトアラサルナリ勿論補助機關トシテハ往々陸軍ヲ助ケ又海軍ニ對シテモ巧ニ之ヲ築設利用セラレタルトキハ之ヲ助ケ其ノ効力ヲ發揮セシコトナキニアラサルモ要塞其ノ物ニ依テ一タヒ沮喪シタル士氣ヲ回復シ又當初ヨリ士氣振ハサル軍隊ヲ其ノ胸壁保護ノ力ニ頼テ奮興セシムルコト能ハサルナリ畢竟要塞又ハ避難港ハ頼ムニ足ラス之ニ依頼スルハ自カラ好ンテ死地ニ陷ルモノト云ハサルヘカラス

五四　旅順口陷落ト制海力ノ祕訣

（一九五〇年一月三日發刊「デーリー、テレグラフ」所載）

今ヤ旅順口ハ人類史上殆ト比類ナキ難戰苦鬪ヲ經テ漸ク陷落シ爰ニ振古未曾有ノ顯著ナル長期圍戰ノ終局ヲ告ケタリ日本ノ一旦此ノ露國要塞ノ本廓ニ闖入シ速ニ東部守線ノ主要堡壘ヲ攻略スルヤ守將ステッセル將軍ハ其ノ防戰ノ最早無益ナルコトヲ察知シ城ヲ開キテ降ヲ請フ茲ニ至テ旅順口ハ更ニ日本人ノ有ニ歸セリ元來日本軍ハ此ノ要塞ヲ攻擊スルニ當初ヨリ莫大ノ損害ヲ期シ戰爭局ヲ結フニ至ルマテ百折不撓ノ決心ヲ以テ之ニ臨ミタルモノニシテ遂ニ戰勝者タル無上ノ光榮ヲ博セリ之ト均シクステッセル將軍及ヒ麾下ノ勇敢ナル生殘守備兵モ亦昔時那破翁ノ裨將マッセナカ伊太利方面ノ司令官トシテジェノアヲ死守セシ以來絕エテ之ナキ大防禦戰ヲ爲シ以テ芳名ヲ萬世ニ貽セリ夫然リ而テステッセル將軍投降ノ飛報日本皇帝陛下ノ叡聞ニ達スルヤ陛下ハ一瞬ノ猶豫モナク敗者ノ行爲ヲ稱揚スルノ手段ヲ執ラレ露軍ノ將校ヲシテ單ニ宣誓ヲ爲サシムルノミニテ其ノ武器ト進退ノ自由トヲ保有スルコトヲ得セシメ給ヒシハ武士道ニ於テ極テ優美ナル處置ニシテ其ノ寛大ナル世界各國之ヲ聞クモノ誰カ讃美措カサルモノアランヤ此ノ戰役ニ際シテステッセル將軍ハ苟モ人力ノ爲シ得ヘキモノハ悉ク之ヲ爲サヽルナク其ノ二〇三高地ヲ奪回センカ爲メニ死力ヲ出シテ最後迄奮戰シタルトキ剛强ナル島國人ノ爲メニ痛ク擊退セラレ加之露國戰艦ノ宛然廢艦ト均シク一事ノ爲スナク空シク其ノ錨地ニ於テ悉ク擊沈セラレタルヨリ旅順口ハ人力ノ如何トモスヘカラサル運命ニ陷レリ始メ旅順口攻圍戰ノ開カルヽヤ世人以爲ヲク是一朝ニシテ陷落ヲ見ルヘシト然ルニ爾後一週去リ二週去リ尚數月ニ渉リテモ未タ陷落ノ報ニ接セス其ノ極世人皆待倦キテ漸ク將ニ之ヲ不問ニ附シ去ラントスル一刹那突如トシテ其ノ陷落ノ報到來シタルヲ以テ忽チ空前ノ一大事件現出シタルニ驚キ且此ノ一事ノ遂ニ國際政策ニ根本的革命ヲ起サヽレハ已マサルモノナラントノ感念ヲ惹起シタリ試ニ今吾人ノ眼前ニ現レタル此ノ一事ノ果シテ如何ナルモノナルカヲ一考セヨ露西亞國旗ハ日本國旗ノ前ニ雌伏シタリ露西亞帝國ニ取リテ金城鐵壁ト稱スル此ノ重鎭ハ露帝ノ掌裡ヨリ奪却セラレタリ此ノ重鎭ハ素ト難攻不拔ト認メテ露國カ茲ニ據守シ以テ覇ヲ東亞ニ振ハント期セシ所ナリ然ルニ今ヤ亞細亞洲内ノ一民族ノ攻略スル所ト爲ル回顧スレハ夫ノ島帝國カ曾テ三國同盟ノ恫喝ニ逢ヒ恨ヲ呑ンテ一時服從ノ態ヲ表セシヨリ爾來未タ全ク百年ノ星霜ヲ閲セサリシニ自今輝々タル旭日旗ハ更ニ太平洋ノジブラルタータル城塞ノ絕頂ニ翩飜タラントス斯ノ如クニシテ西歐ノ三大武國カ一タヒ相聯盟シテ東京政府ニ宣言シタル鐵血的命令モ今ヤ最强戰鬪者ト化成シタル日本人カ獨力蹶起シテ一朝怒號スレハ恰モ掌ヲ反スカ如ク忽チ雲散霧消シタルハ畢竟運命ノ然ラシムル所ナルヘキモ亦世界ノ奇劇ニアラスシテ何ソ凡傍觀者ノ事物ヲ見ルヤ往々誇張ニ失スルノ癖アリ然レトモ亦一事一物ニシテ能ク世界ノ大勢ヲ左右スルモノアルアリテ之ヲ目擊スル者ハ何人ト雖モ直ニ其ノ眞相ヲ看破スルニ難カラサルコト古來其ノ例ニ乏シカラス今吾人カ目擊スル所ノ如キハ即チ其ノ例ニシテ吾人ハ史上新紀元ノ業ニ既ニ到來シタルコトヲ斷言スルニ憚ラス抑本戰役ニ於テ日本ノ主タル作戰目的ハ滿洲内地ニ於テ戰略上無上ノ價値ヲ有スル旅順口ノ攻略ニ在リ而テ旅順口陷落ノ影響ハ啻ニ國ト國トノ關係ニ止ラスシテ大洲ト大洲トノ關係ニ至重ノ變化ヲ促致スヘキモノタルハ是吾人ノ肝銘シテ忘ルヘカラサル所ナリトス古ハ歐亞相反目シテ戰ヲ爲シタルコト屢之アリタルモ最近數世紀ノ間絕エテ之ナカリシニ今ヤ眼前ノ戰爭ニ於テ歐亞ノ二個相對峙シテ雌雄ヲ爭

ナコトヽナリ而テ現下ノ戰爭ノ如ク人類ノ直接利害ニ重要ノ關係ヲ及シタルモノハ未タ曾テ之アラサルナリ蓋日本ノ決然トシテ此ノ戰爭ヲ開始スルヤ固ヨリ國家ノ存亡ヲ賭シタルモノニシテ天然無盡ノ富源ヲ有シ世界人類五分ノ一ノ人口ヲ占メ至大ノ潛勢力ヲ有スル黃色種族全躰ノ前途モ亦不安ノ虞アリ若シ露帝ニシテ一旦之ヲ統一セシカ蒙古人種幾億千ノ生產力ト戰鬪力トハ早晚世界列國ノ全政治界ト全經濟界トノ均衡ヲ顛覆攪亂セシコト必セリ然ルニ今ヤ形勢正ニ一變シテ啻ニ清國ノ分割ヲ免レ日本ノ屈辱ヲ免レタルノミナラス更ニ歩ヲ進メテ黃色人種ハ將來白色人種ト同等ノ地位ニ立ヲ加フルニ此ノ戰爭ノ結果トシテ日本ハ太平洋上ニ制海權ヲ掌握シ以テ全亞細亞洲ノ復興ヲ促スノ氣運ニ接セスンハ已マサルヘシ是實ニ歐洲諸大國ノ地位ニ變化ヲ來スモノニシテ南北兩米洲及ヒ濠洲ノ利害ト雖モ亦均シク同一ノ影響ヲ免ルヽコト能ハス恰モ是二千年前希臘マラソン(今日ノ雅典)ノ一戰能ク波斯ノ勢力ヲ覆ヘシ希臘人ノ精神上所謂泰西ノ特色ナルモノヲ發揮シ以テ歐洲人種ノ今日ノ隆盛ヲ致セル基礎トナレルカ如シ然ルニ二千年後ノ今日ニ於テ現在日本國民ノ博シツヽアル戰捷ハ均シク亦東洋ノ特色ヲ發揮スルノ好機トナリ爲メニ歐亞兩大陸ノ關係上甚大ノ變化ヲ來サンコトハ正ニ今後多年ヲ關スルニ及ハスシテ立證セラルヘシ

右ニ敍フル所ハ即チ吾人カ旅順口開城ノ事實ニ含蓄スル眞個ノ意義ト確信シテ憚ラサルモノナリ蓋同要塞攻圍戰ニ關スル幾多ノ種々ナル奇劇談ト悲劇談トハ後世子孫ノ胸臆ニ印象シ其ノ精神ヲ皷舞スルニ與リテ大ニ力アルコト疑ヲ容レサルナリ日本ハ此ノ攻圍戰ニ著手セシ以來巧妙ナル方法ヲ用ヒ萬事秘密ヲ旨トシタルカ爲メ進擊行動ニ關スル慘絕悽絕ノ手段ハ數月ノ間毫モ外間ニ漏レス從テ世上幾多酸鼻スヘキノ風說屢流布セシモ最近數週前ニ至テ戰地ノ通信者漸ク通信ノ自由ヲ得タルヲ以テ戰況ノ眞相爰ニ分明トナリ吾人ハ始テ旅順口ノ攻圍戰ハ恰モ是二十世紀ノ化學的及ヒ電氣學的工夫發明ヲ以テ夫ノ亂世殺戮ヲ嗜ムノ性情ヲ武裝シ因テ以テ殺戮ヲ縱ニセシカ爲メ殆ト人智以上ニ近世的科學ヲ應用セルモノナルコトヲ知ルヲ得タリ夫斯ノ如キハ則チ固ヨリ悽慘タルヲ免レスト雖モ亦退テ能ク之ヲ考察スルニ極東ニ於ル此ノ戰爭タル畢竟人生必須ノ戰爭ニシテ且此ノ戰爭ヨリ生スル道義的及ヒ科學的教訓ノ如キハ平時机上ノ談論ニ勝ルコト幾千倍ナルヲ知ルヘシ何トナレハ其ノ攻圍者ト其ノ防禦者トハ共ニ義勇行爲ノ高潮點ニ達セルモノニシテ之ヲ千古ニ照ラシテ嶄然トシテ群ヲ拔クモノアレハナリ想フニ過去十年間ハ日本カ孜々トシテ經營シタル臥薪嘗膽ノ準備期ニシテ擧國相一致シテ其ノ目的トセシ所ハ果シテ何物ナリシヤ是唯旅順口ヨリ露人ヲ掃攘シ以テ亞細亞大陸ニ於テ確然タル立脚地ヲ恢復セント欲スルニ外ナラス既ニ此ノ目的アリ戰爭ノ第一著トシテ先ツ旅順口ニ一大打擊ヲ加ヘタルハ大ニ故ナシトセス且之ヲ獲ルト否トハ制海權ノ得喪ニ關スルコト地圖ヲ一瞥シテ其ノ然ルヲ知ルヘシ要スルニ能ク旅順口ヲ攻ムル者ハ特ニ海上ヨリスヘク能ク之ヲ守ルモノモ亦特ニ海上ニ於テスヘキナリ此ノ點ニ於テ露國ハ當初ヨリ判斷ノ第一著ヲ誤リタルモノト云フヘシ同國ハ數百萬金ヲ擲チ營々トシテ堡壘ヲ築造スル間ニ日本ハ苟モ節約シ得ヘキ費額ハ舉ケテ之ヲ艦艇ノ一途ニ供セリ蓋制海權ナクンハ堡壘ハ即チ無用ノ長物ニシテ早晚其ノ効力ヲ失フコトヲ免レサレハナリ是ヲ以テ宇內ノ列國殊ニ我カ英國カ日本ノ行動ヨリ學フヘキモノハ日本海陸兩軍共同作戰ノ完全無缺ナル一點ニ在リ凡如何ナル國ト雖モ海戰第一著ニ顯然優勢ノ地歩ヲ占ムルコト能ハスシテ制海權ヲ獲得シ若クハ之ヲ維持シタルモノハ未タ曾テ之アラサルナリ日本ハ一面ニハ二月八日ノ夜陰ヲ以テ俄然水雷艇ヲ放チ極テ有効ナル打擊ヲ露國ニ加ヘ因テ以テ其ノ艦隊ト守備兵トヲ旅順港內ニ拘禁セシハ前代未聞ノ妙計ニシテ露國ノ爲メニ全然挽回スヘカラサル災禍ノ前兆ト爲リ一面ニハ既ニ掌握セル海上權ヲ利用シテ陸軍ヲ繰出シ忽チ露兵ヲ朝鮮半島ヨリ一掃シ去リ更ニ進ンテ鴨綠江畔ノ露陣ヲ略シ其ノ兵ヲシテ滿洲ノ山地ト鐵道線路トニ遁逃スルノ止ムヲ得サルニ至ラシメ尋テ露軍ノ勢挫ケ極テ薄弱ニシテ延長セル戰線ヲ作ルニ及ヒ日本軍ハ又忽然其ノ中心ヲ突破シテ之ヲ兩斷シ旅順口ト北方露軍トハ首尾相斷絕シテ復如何トモスヘカラサルニ至ラシメタリ奧將軍ノ遼東半島ニ上陸シテ南山ヲ攻擊スルヤ日本人ハ戰勝ヲ收メンカ爲メニハ如何ナル犧牲ヲモ辭セサルノ態度ヲ示シテ遂ニ赫々タル武功ヲ奏シタリ之ヲ人身ニ譬フレハ露人カ今般ノ戰敗ヲ招キタルハ恰モ身首處ヲ異ニシタルモノヽ如シ既ニ旅順口要塞ハ六月上旬ニ於テ全然包圍セラレテ外援絕盡ノ非運ニ陷リ爾來七ケ月ヲ經テ遂ニ開城ノ止ムナキニ至レリ畢竟スルニ露國ハ艦船ニ依ラサレハ成功スヘカラサル點ニ著眼ヲ怠リ徒ラニ堡壘ト陸兵ト

其ノ他總テノ防禦技術ト勇氣トヲ恃ミテ以テ成就セント勉メタルニ外ナラス玆ニ至テ吾人ハ更ニ前言ヲ繰返シ旅順口ノ堡壘如何ニ堅實壯大ヲ極ムルモ又ヴォバン式近世築城ノ妙技ヲ逞シウセルモノアルモ苟モ優勢ナル艦隊ノ存スルアリテ、能ク海上ヲ制スルニ非サレハ寸効ナシト云ハント欲ス之ニ反シテ日本ハ泰平十年ノ期間ニ於テ能ク艦隊ト制海權トノ効力ヲ認識シ陰然之カ準備ヲ全ウシテ毫モ遺漏ナカリキ是十年後ノ今日ニ至リテ啻ニ宿昔ノ屈辱ヲ雪キ得タルノミナラス尙世界ニ向テ制海權ノ秘訣ヲ分明ニ表顯シタル所以ナリ

旅順口ノ陷落ハ固ト露國カ大計ヲ誤レルニ原因スルコト既ニ右ニ敍フルカ如シ然レトモ之ヲ死守セル將卒ノ努力カ縱令露國ノ一大目的ヲ達スルニ於テ成功セサルニセヨ其ノ苦節ノ以テ露國陸軍ノ名聲ヲ維持發揚シタル勳績ニ對シテハ無上ノ賞讃ヲ呈セサルヘカラス ステッセル將軍ハ初ヨリ不利ノ地位ニ立チ防戰シタルモノニシテ而モ終始一貫鐵石ノ心ヲ以テ此ノ間ニ處シ麾下ノ士モ亦露國二百年來ノ歷史ヲ辱メス奮戰維レ努メタルハ是露兵カ決死ノ防戰ニ於テハ現在ノ敵兵其ノ他世界列國ノ如何ナル軍隊ニ比スルモ更ニ寸毫モ讓ル所ナキモノタルコトヲ表顯スルニ足ルヘシ又 ステッセル將軍ハ此ノ戰役ニ因テ啻ニ萬世不朽ノ名聲ヲ博セルノミナラス亦國家ニ對シテモ甚大ノ忠節ヲ致シタルモノト云フヘシ何トナレハ其ノ戰フヤ縱令勝利ノ爲メニ戰フ能ハサリシトスルモ其ノ敵軍ヲ控制シタルノ點ニ於テハ極テ成功シタルモノニシテ、爲メニ日本ノ滿洲軍ハ痛ク牽制セラレ旅順口ノ占領者ニ莫大ノ損害ヲ蒙ラシメ日本兵ノ旅順口前面ニ在テ死傷シ又ハ疾病ニ罹レルモノ無慮八萬人ノ多數ニ達シタレハナリ初メ東京ナル大本營ハ同要塞ノ陷落ハ短時日ノ間ニアルヘキヲ豫想シ大山元帥ハ クロパトキン將軍ヲ破ラントスル時ニ方テハ恰モ旅順口攻圍軍ヲ轉シテ之ニ合セシメ得ルナラント期セシニ豈圖ランヤ ステッセル將軍ノ要塞ヲ固守スルコト六ケ月ノ久シキニ涉レルヲ以テ大ニ其ノ豫想ノ過レルコトヲ表白セリ旅順口ノ周圍ハ遶ラスニ巧妙ニシテ堅固ナル堡壘ヲ以テシ加フルニ各堡壘ノ間一千碼毎ニ複砦ノ設アリ是ヲ以テ敵ノ堡壘ニ近接シテ僅ニ寸地ヲ占メントスルモ雨ノ如ク砲火ヲ集注セラルヽカ爲メ日本ハ鬼神ノ如キ勇氣ヲ振ヒ非常ノ損害ヲ冒シテ纔ニ本廓內ニ一個ノ足場ヲ奪取スルカト思ヘハ亦一瞬ニシテ隣堡砲火ノ爲メニ掃滅シ去ラルヽコト眞ニ幾度カリシヤヲ知ルヘカラス是ニ由テ之ヲ觀レハ假令陸兵ノ技術ナルモノヲ以テ未タ海上權ニ代フルニ足ラストスルモ陸上權ニ一大要素ヲ備フルノ實アルハ確證ヲ得タリト云フヘシ果シテ此ノ如クンハ即チ旅順口要塞ヲ攻圍スルニ日本人以外ノ者ヲ以テセハ凡何國ノ兵タルヲ問ハス兵粮攻ノ手段ヲ取ルニ非サル以上ハ之ヲ陷ルヽコトヲ得ルヤ否ヤ疑ナキ能ハサルナリ故ニ ステッセル將軍ノ如キ名將ヲ戴ケル露軍ノ武勇ト雖モ攻圍軍タル日本人ノ武勇ニ對シテハ更ニ一籌ヲ輸スルモノト云フハ蓋島帝國ノ陸軍ニ呈スル無上ノ讚辭タルヘシ夫然リ而テ攻圍軍全部カ各堡壘ヨリ集注スル砲火ヲ冒シテ其ノ隊形ヲ暴露スルノ狀ハ宛然火焰ニ枯葉ヲ投スルト擇フナキモノニシテ其ノ部隊カ一番勇ヲ皷シテ進マントスレハ或ハ鐵條網ニ纏ハレ或ハ陷穽ニ落チテ進退維レ谷リ或ハ深夜探照燈若クハ光彈ニ照ラサレ眩目方向ニ迷ヘハ忽チ砲火ヲ浴セラレ漸ク進ンテ堡側ニ逼レハ爆彈ヲ亂射セラレテ殆ト隊形ヲ失ヒ更ニ進メハ塹壕ニ入リテ格鬪戰トナリ啻ニ銃劍相擊ツノミナラス甚シキハ石ヲ擲チ歯ヲ以テ相噬ムニ至レリ斯テ日本軍ハ八九兩月ノ攻圍ニハ數千ノ生命ヲ犧牲ニ供セルモ未タ寸効ヲ奏スルニ至ラス一隊亡滅スレハ一隊來リテ其ノ缺ヲ補ヒ若シ援軍間斷ナク來レハ一呼ノ下ニ奮躍シテ突進スルヲ辭セス斯ノ如キハ實ニ是日本軍ノ爲メニ悽慘ノ極ト云フヘシ此ノ日本軍ノ悽絕慘絕ナル攻擊ハ即チ四面楚歌ノ聲ニ包マルヽ堡壘ノ裡ニ嬰守シテ日夜援軍ヲ翹望シ然モ曾テ其ノ髣髴タモ見サル露兵ノ爲メニハ實ニ言語ニ盡シ難キ悲痛タラスンハアラス而テ ステッセル將軍ト麾下生殘ノ士卒三萬トハ終ニ不面目ナル露國無能艦隊ニ殉シタリ往日クリミヤノ役ニ於テハセバストポール要塞ハ全然封鎖セラレタルニアラス亦援軍糧食ハ輸送ノ途杜絕シタルニアラス而モ守將トドレベンノ功ハ遂ニステッセル將軍ノ功ニ及ハス然レトモ旅順口防禦者ノ光榮ハ攻圍者ノ光榮ト相俟チテ倶ニ共ニ永ク史上ニ赫灼タラスンハアラス防禦者ノ光榮タル爾ク偉大ナリト雖モ此ノ偉大ノ光榮ヲ以テスルモ決シテ左右シ能ハサルモノアリ他ナシ現下ノ戰爭ニ關スル根本的道義ヲ變スル能ハサルコト是ナリ試ニ眼眸ヲ放チテ過去十年間ニ續發セル事件ヲ一閱スレハ左ノ各點ニ歸著スルカ如シ第一日本ハ戰捷ノ結果トシテ清國人ノ掌中ヨリ旅順口ヲ獲得セリ第二同盟ノ三國ハ肚裏ニ禍心ヲ抱キ口ニ道義ヲ唱ヘテ勝者タル日本人ヲ旅順口ヨリ驅逐セリ第三露國ハ舌端未タ乾カサルニ非人道的ニモ恣

ニ自カラ旅順口要塞ヲ奪取セリ第四ニ爾來露國ハ日本ニ對シテ政略上侮蔑恫喝ヲ加フルカ如キ愚策ヲ弄セリ第五露國ノ飽クナキ野心ト侵略トヲ擅ニセントスル大々的畫策ハ一朝ニシテ畫餠ニ屬セリ嗚呼是天運循環シテ史的道義ノ萬古不滅ナルヲ證スルノ左劵ニアラサルナキカ之ヲ要スルニ日本ノ戰勝ハ物質ニ對スル精神ノ勝利ニシテ夫ノ歐亞兩大陸ニ横行シ人類ヲ侮蔑スル巨大ナル專制者ノ心胸ニ向テ致命的大打擊ヲ加ヘタルモノト謂フヘシ

五五　旅順口陷落ニ就テノ所感

（一九〇五年一月三日「デーリー、クロニクル」所載）

旅順口ノ壘上旭日旗ノ翩翻タルコト有史以來爰ニ三回ニ及ヘリ此ノ要塞ノ陷落ハ夙ニ期待セラレ且屢豫言セラレタルカ今ヤ終ニ既定ノ事實トナレリ最近數日間攻圍軍ノ成功著々相踵キシヨリ痛ク防禦軍ノ氣勢ヲ挫折シ同時ニ所在露國艦隊ノ殲滅ハ防禦軍ヲシテ眞ニ國家ノ爲メニ努力スルノ不可能ナルヲ會得セシメタリ是ニ於テステッセル將軍ハ一月一日午後ニ至リ投降ノ爲メ乃木將軍ト商議ヲ開始シ翌二日正午ヲ以テ兩將軍ノ全權委員ハ投降條件談判ノ爲メ會見シ即日之ヲ協定セリ其ノ條件ノ仔細ハ未タ發表セラレスト雖モ日本天皇陛下カ直ニ乃木將軍ニ勅システッセル將軍ヲシテ全然武士ノ面目ヲ保タシメ給ヒタルハ注目スルニ値アリ想フニ我カ國人ハ侠氣不撓ナル我カ同盟國人ニ向テ其ノ戰史上ニ比類ナキ忍耐ト技倆ト慓悍死ヲ怖レサルノ勇武トヲ顯シタル長時期ノ作戰行動ニ依テ竟ニ能ク最終ノ成功ヲ收メタルヲ欽シ以テ滿腔ノ祝意ヲ表セサル者アラサルヘシ而テウーズレー卿及ヒロバーツ卿兩陸軍元帥ハ本紙欄内ニ讃詞ヲ掲ケテステッセル將軍ノ要塞防禦ノ壯烈ナルト其ノ麾下士卒ノ頑强ニ扞禦シタルトヲ賞シ我カ讀者モ亦皆之ニ贊同シタルノ一事ハ未タ毫モ日本ニ對スル祝意ヲ輕重スルニ足ラサルモノトス元來降將ノ祝賀セラルヽ所以ノモノハ其ノ數ケ月ニ亙ル防禦ニ發揮シタル勇氣ト策略トノ爲メナルト均シク亦其ノ自カラ云ヘル如ク「幾多ノ生命ヲ無用ノ犧牲ニ供スルヲ避クル爲メ」遂ニ開城シテ其ノ道義心ニ殉シタルニ在リ今ヤ露國ハ旅順口ニ關シテハ萬事全ク休ス餘ス所ハ唯勇敢ナル國民トシテ最尊重スヘキ一點ノミ即チ名譽是ナリ

義ニ露國カ佛獨兩國ト聯合シテ日本人ヲ旅順口ヨリ驅逐シテヨリ星霜ヲ閲スルコト恰モ十年ニシテ日本人ハ更ニ其ノ地ヲ奪取セリ蓋此等ノ事變ハ露國カ飽クナキ非望ヲ懷キタルト斯カル事變ヲ未然ニ察スルノ明ナカリシト軍略ヲ誤リタルトニ因テ招キタル應報ニ非サルハ莫シ今ヲ距ル十年前日本ハ其ノ旅順口占領カ清國ノ主權ヲ危殆ナラシムルトノ口實ニ依リ此ノ地ノ一切他國ノ有ニ歸セラレサルヘキ保障ヲ以テ之ヲ撤退スルノ已ムナキニ至レリ然ルニ爾後僅ニ三年ヲ經テ露國ハ恣ニ自カラ之ヲ强奪セリ斯カル沒理的行動ハ歷史上稀有ニシテ其ノ應報ヲ受クルノ迅速ナリシモ亦均シク稀有ナリトス露國カ旅順口ヲ强奪シテヨリ一年ノ後時ノ首相故ソリスベリー卿ハ云ヘリ「憶フニ露國ハ旅順口ヲ取ルモ爲メニ毫モ得ル所ナク必スヤ之ヲ取リタルノ日ヲ悔ユルコトアラン」ト此ノ豫言ヤ今ニ於テ全ク適中セリ而テ世ノ道德家ハ此ノ豫言ノ怕ルヘキ適中ヲ以テ自カラ天命ノ存スルアルヲ悟ラスンハアラサルナリ

道德上ノ事ハ姑ク措キ苟モ政治家ノ見地ヨリ觀察スレハ旅順口ノ事蹟ハ畢竟露人ノ不智不明ニ歸セサルヘカラス我カ國ニ於テハ何人モ容易ニ此ノ理ヲ發見スルヲ得ヘシ何トナレハ我カ國史ハ最近數年ノ間ニ於テ同一ノ實例ヲ示シタレハナリ蓋露國ハ極東ニ土地ヲ併呑セントシタルモ其ノ能力之ヲ守禦スルニ足ラス勿論其ノ當路者ノ手足カ幾分カ獨逸ノ爲メニ翻弄セラレテ動止シタルコトハ爰ニ之ヲ記憶セサルヲ得ス若シ獨逸皇帝ニシテ膠州灣ヲ占領スルコト微リセハ露國皇帝ハ必スシモ倉皇旅順口ヲ占領スルニ至ラサリシナルヘシ然レトモ其ノ輔弼ノ臣ニシテ右占領ヨリ生スヘキ後日ノ結果ヲ慮リ以テ之ニ應スルノ準備ヲ整ヘサリシハ亦決シテ曠職ノ責ヲ免ルヘカラス抑旅順口ノ要塞上ニ始テ露國々旗ノ飜リタルヨリ以來日本ハ露國ノ優勢ナル壓迫ニ已ムナク退去シタル屈辱ヲ雪カント欲シテ全力ヲ注キタルコト固ヨリ論ヲ俟タス然ルニ露國政府ハ之ニ對シテ毫モ適當ノ準備ヲ爲サス而テ一旦危機切迫スルヤ其ノ地防備ノ兵力脆弱ニシテ其ノ外交方針之ニ伴ハス加之露國カ日本ヲ侮蔑シタルハ曾テ我カ國カ南阿ノ「ボーア」民族ヲ輕視シタルヨリモ更ニ甚シキモノアリ是ニ於テ露國ノ輿論ハ宛モセシル、ローヅカ「ボーア」民族ノ勇武ヲ以テ「未碎ノ浮泡」ニ比シタルト齊シク日本人ヲ以テ「貴積」覆フルニ足ラスト爲セリ而テ之ヨリ招キタル應報ハ迅速ニシテ且慘憺ヲ極メタリ

旅順口ノ陷落カ兵家ニ與ヘタル敎訓ハ亦道德家及ヒ政治家ニ與ヘタル敎訓ニ讓ラス此ノ要塞ノ陷落及ヒ港內蟄伏艦隊ノ殲滅ハ共ニ作戰計畫上ノ失錯ニ基因スルモノニシテ之ヲ證スルノ跡炳然タリ開戰ノ當初アレキセイエフ太守曰ク旅順口ノ要塞ハ防備既ニ整ヒ難攻不拔ノ重鎭トシテ露國ノ用ニ供スルニ足レリト此ノ異常ナル放言ノ由來スル理想ハ即チ又露艦敗衂ノ由來スル所ナリトス蓋世ニハ所謂難攻不拔ノ重鎭ナルモノ決シテ之ナク戰ニ勝ヲ制スルハ唯敵軍ヲ破リ敵艦ヲ碎クノ一途アルノミ見ヨ此ノ難攻不拔ノ重鎭ハ果シテ何ノ用ヲカ爲シタルヤ唯露國陸軍ト艦隊トニ對シテ均シク致命ノ魔力ト爲リタルノミ當初鴨綠江畔ニ於テ迅雷疾風ノ勢ヲ以テ敵ニ一大打擊ヲ加ヘ得タルヘキ露國陸軍ハ其ノ一部ヲ旅順口ニ拘束シタルヲ以テ大ニ戰鬪力ヲ減殺シ尋テ旅順口ノ守備兵ヲ重圍ノ裏ヨリ救ハントセシモ是亦徒勞ニ屬セリ又其ノ艦隊ハ總テノ犧牲ヲ供シ常ニ外海ヲ守リ敵艦ニ對シテ打擊ヲ加フヘカリシニ言ヲ該要塞ノ架空的擁護ニ假托シテ空シク港內ニ蟄伏セリ露國ハ豫備トシテ別ニ婆羅的艦隊ヲ有スルニ日本ハ其ノ艦艇ヲ擧ケテ戰鬪ノ用ニ供セリ想フニ旅順艦隊ノ主タル作戰目的ハ其ノ損害ノ如何ヲ顧ミス斷然東鄕艦隊ヲ攻擊シ以テ婆羅的艦隊ノ到著ニ際シ海上ニ於テ優勢ヲ占メンコトヲ期セシモノヽ如シ然ルニ此ノ「難攻不拔ノ重鎭」ナル理想ノ實際局面ニ勢力ヲ有シタル結果艦隊モ要塞モ均シク非運ヲ共ニセリ開戰ノ當初露國有名ノ一將官ハ主張シテ曰ク旅順口ノ防禦ハ必ス致命ノ一大失錯タルヘシ寧ロ之ヲ放棄スルニ若カスト今日ニ在テハ洵ニ其ノ至言タルヲ思ハサルヲ得ス然レトモ又一方ニ於テハ之ト反對ノ意見アリタルハ論ヲ俟タス即チマハン大佐ノ如キ大家ハ露國カ旅順口防禦ニ決シタルヲ以テ機宜ニ適スルモノト認メタリ凡理論ノ可否如何ハ一ニ實際ノ結果ニ於テ之ヲ見ルヲ以テ旅順口陷落ニ當リ吾人ハ「要塞ヲ賴ム勿レ」ト云ヘル警語ノ吾人ヲ誤ラサルヲ知ル

旅順口既ニ陷落セリ然ラハ即チ其ノ陷落ハ如何ナル影響ヲ將來ニ及スヘキヤノ問題起ルハ是自然ノ數ナリ換言スレハ人心上ニ戰略上ニ將又政治上ニ如何ナル變動ヲ來スヘキヤト云フニ在リ抑旅順口ノ略取ハ日本人ノ年來渴望シタル所ナルヲ以テ其ノ得意今ヤ實ニ想フヘシ其ノ戰略上ノ主目的ハ此ノ要塞ノ略取ヨリモ寧ロ其ノ艦隊ノ殲滅ニ在リシヤ論ヲ俟タスト雖モ元來旅順口ノ防禦ハ露人ニ取テ威嚴名譽ノ繫ル所タルト同時ニ之カ略取ハ日本人ニ取テ又然リトス此ノ要塞ノ陷落ハ我カ同盟國ヲシテ戰地両面ノ敵ニ當ルノ不利ヲ免レシムヘク又沙河方面ニ一大援兵ヲ發送スルヲ得セシメ大山元帥ヲシテ此ニ優勢ヲ占メシムルニ至ルヘキナリ然レトモ頃日戰地ニ於ル我カ軍事通信員ノ報道シタルカ如ク目下寒氣極テ凜烈ナリ殊ニ旅順口攻圍ニ與リタル軍隊ハ痛ク休養ヲ要セリ故ニ其ノ陷落ノ爲メ直ニ他ノ方面ニ何等ノ影響ヲ及スヘキハ大體ニ於テ疑ナキ能ハス唯吾人ノ希望スル所ハ其ノ陷落カ平和克復ヲ促進スル爲メ影響ヲ政治上ニ及サンコト是ナリ蓋日本政府カ其ノ戰捷ヲ利用スルニ廉節ヲ守ルヘキハ疑ヲ容レスト雖モ露國政府ニ於テ其ノ精神未タ此ノ際戰局ヲ結ハントスル希望ヲ容レサルヘキハ吾人ノ憂フル所トス而テ爰ニ一層緊切ナル一問題アリ即チ婆羅的艦隊ノ進退是ナリ同艦隊ノ一部ハ現ニ南阿ノ佛領マダガスカル島ニ在リ假令同艦隊ハ旅順口ニ到達スルコト能ハサルモ其ノ日本艦隊ヲ海上ニ擊破スヘキ希望ヲ以テ航海ヲ繼續スヘキカ或ハ本國ニ歸リ去ルヘキカ又或ハ依然トシテ現在地ニ滯泊スヘキカ若シ夫マダガスカル滯泊ノ久シキニ亙リタル塲合ニ於テハ中立違反問題ヲ惹起スルコトアルヘク且旅順口ノ陷落カ其ノ影響ヲ露國ノ他方面ニ於ル政策ニ及スコトアルヘシ是我カ國人ノ宜シク考一考シ我カ廟堂諸公ノ當ニ警戒ヲ要スヘキ事件ナリ』

五六　旅順口陷落ノ世界ニ及ス影響（アルフレッド、ステッド）

（一九〇五年二月發刊フオートナイトリー、レヴュー所載）

旅順口再日本ノ掌裡ニ入レリ其ノ始テ日本ノ爲メニ陷レラレタルハ一八九四年日清戰爭ノ際ニシテ今ヲ距ルコト僅ニ十年ナリ而モ此ノ短日月ニ於ル變化ハ如何異ニ人ヲシテ張膽刮目セシムルモノアルニアラスヤ日本ノ清國ヨリ之ヲ割取セルノ之ヲ露人ノ手ヨリスルト其ノ難易固ヨリ同日ノ論ニアラサルモ其ノ之ヲ取ルヘキノ理由ハ炳乎トシテ存セシナリ而モ彼歐洲列强ノ三國ハ同盟シテ故ナク此ノ戰勝ノ果實ヲ橫奪シテ其ノ嫉妬ノ劣情ヲ擅ニセリ歐洲列國ニシテ其ノ一八九四年ニ爲セル所ヲ一九〇五年ノ今日ニ再演セントスルアランカ斯カル威嚇的同盟ノ更ニ今日ニ現出スルカ如キハ斷シテ有

ルヘカラサルナリ畢竟是列國カ日本ノ文明進歩ヲ認メテ既ニ世界一等國ノ班ニ列スルニ足レリトスル最顯著ナル例證ノ一ト謂フヘシ日本ニシテ若シ此ノ戰爭ニ因リ曾テ其ノ平和的發展ヲ蔑視セル列國ヲ首肯セシムル所アランカ其ノ平和的發展ハ實ニ同國ノ品位ヲ高ムルコト日露戰爭ヨリモ遙ニ有力ナルモノアラン

旅順口ノ陷落ハ世界史上ニ一新紀元ヲ劃出スルモノナリ而テ其ノ之アルハ此ノ要塞ノ攻圍久シキニ渉レルカ故ニモアラス又兩軍ノ勇武ナリシカ故ニモアラス唯此ノ陷落ノ一事ハ以テ露國ヲシテ兩大陸ニ跨リテ之ヲ一統セントセル宿望ヲ抛タサルヲ得サルニ至ラシメタルニ在リ然ラハ假ニ日本人ノ之ヲ攻圍スルコト一八九四年ニ於ルカ如ク僅々一晝夜ニ過キサリシトスルモ其ノ世界ニ及ス所ノ影響ハ毫モ減スルコトナカルヘキナリ此ノ要塞ハ戰略上ニ偉大ノ地位ヲ占ムル者タルヤ疑フヘカラサルモ而モ其ノ現戰爭ト共ニ史上ニ重キヲ爲ス所以ノモノハ其ノ金城鐵壁タルカ故ニアラスシテ別ニ理由ノアルアリテ存ス蓋旭日旗ノ翩翻トシテ旅順口要塞上ニ翻ルノ時ハ正ニ是亞細亞ニ於ル露帝國ノ沒落セシ時ニシテ即チ極東ノ運命ヲ左右スルハ極東諸國ノ權利ナルコトノ證明セラレタリシ時ナリ況ヤ此ノ陷落ノ一事ヨリシテ世界的新强國カ突然垂帳ヲ排シ威容嚴然トシテ坤輿ノ舞臺ニ現レタルニ於テヲヤ旅順口ノ世界大勢ト相關スルコト夫斯ノ如キモノアリ露國ノ歐洲各國ヲ睥睨セルコト茲ニ五十年ニ及ヒ而テ各國亦之ヲ畏敬シテ自カラ其ノ何ノ故タルヲ知ラス彼其ノ不凍港タル旅順口ヲ得ントスルヤ敢テ權謀術數ヲ縱ニシテ毫モ忌憚スル所ナカリシモ列國ノ强ヲ以テシテ亦如何トモスルコト能ハサリキ然ルニ今ヤ一朝ニシテ之ヲ放棄スルノ止ムヲ得サルニ至レリ豈圖ランヤ其ノ之ヲシテ此ノ窮境ニ陷ラシメタルモノハ是僅々四十年前ハ列國之ヲ目シテ一個ノ野蠻國ト爲シ之ト交渉スルニ外交信書ヲ以テセンヨリハ寧ロ銃砲ヲ以テスルノ便利ナルニ若カストセル一國民ナラントハ夫ノ黄禍ノ豫言者ニシテ且一八九四年ニ於ル排日本同盟者ノ一人タル獨逸皇帝其ノ人カ乃木大將ニ贈ルニステッセル大將ト同樣ノ勳章ヲ以テセルハ是即チ公然日本ノ世界ニ於ル新地位ヲ承認シテ日露兩國ノ同等ナルコトヲ宣言シタルモノニアラスシテ何ソヤ從來人種ト人種トノ間若クハ大陸ト大陸トノ間ニ設ケタル人爲的差別ノ如キハ此ノ旅順口陷落ヲ期トシテ消滅シ今ヨリシテ後歐洲ノ白人種ハ亞洲ノ諸國民ヲ下位ニ坐セシメテ傲然自カラ上座ヲ占ムルカ如キ僭越ノ所爲アルヲ得ス何トナレハ日本國民ハ褐色人種ニシテ亞細亞洲ノ一國民ナルモ自カラ上座ヲ占ムルノ權利アルヲ例證シ且之ヲ武力ニテ例證セルヲ以テ歐洲文明國タル者ハ皆其ノ權利ヲ承認セサルヲ得サレハナリ然リ一國民ノ强大トナル所以ノモノハ其ノ顏色ノ黄白ニ因ルニモアラス又版圖ノ位置ニ因ルニモアラス唯其ノ蘊蓄スル勢威ニ因ルコト旅順口ノ陷落ニ因リテ益々分明トナレリ思フニ今ノ强大國ト稱スルモノ其ノ顏色ノ白キト邦土ノ歐洲ニアルトニ因リテ其ノ面目ヲ扮裝セルモノ一ニシテ足ラスト雖モ今ヨリ後斯カル誤想ヲ一掃セサルヲ得サルニ至レルハ是實ニ重大ノ事件ニシテ歐洲諸國民ノ此ノ點ニ關シテ發明スル所アルハ自カラ不快ヲ招クノ媒タランモ而モ正ニ覺醒ヲ要スヘキコトナリトス再言スレハ一九〇五年ノ始メハ是即チ一新紀元ノ曉ニシテ之ヨリ以後各國民タル者苟モ世界ノ舞臺ニ現レテ喝采ヲ博セント欲セハ須ラク其ノ技能ヲ發揮スヘク其ノ顏色ノ白褐黄黒ノ如キハ之ヲ論スルヲ許サス由來泰西諸國カ東洋諸國ニ對シ絶對的卓越ヲ主張セルカ如キ迷妄ハ黄金山上ニ飜リタル双頭鷲旗ヲ撤去セルト同時ニ長ヘニ煙散霧消セリト云フヘシ日本ノ今日アルヲ致セルハ其ノ亞細亞洲ニ國セルト其ノ顏色ノ褐色ナルカ爲メニアラスシテ更ニ賞讃スヘキノ理アリ即チ日本人カ其ノ國ヲ大日本タラシメントシ已レ又大日本ノ人民タルニ恥サルノ人格ヲ得ントシテ百折不撓ノ精神ヲ振ヒ日夜奮勉シテ止マサルニ因ラスンハアラス凡何レノ國ヲ論セス其ノ民ニシテ自カラ進ンテ其ノ國ヲ强大ニシテ自カラ進ンテ强大國ノ人民タルヘキノ覺悟ヲ有セスシテ未タ曾テ大國タルノ體面ヲ發揮シ且之ヲ維持セルモノアルヲ見ス就中日本ハ旅順口ノ戰勝ニ因テ世ニ教訓ヲ示セリ即チ大ニ國力ヲ發揮セントスルモノアルハ專ラ擧國一致ノ動作ニ依ラサルヘカラサルコト是ナリ凡思慮周到ニシテ氣力充實シ度量寛洪ニシテ能ク節ヲ屈シテ他ニ學フハ實ニ國家重要ノ資質ニシテ之アレハ夫ノ我ハ歐洲國ナリ白人種ナリト尊大自カラ居ル者ニ超越スル亦難キニアラサルナリ他日史ヲ編スル者旅順口開城ヲ記スルニ當リ必スヤ其ノ陷落以前ヲ以ヲ偏頗狹量ナル國際時代トシ其ノ以後ヲ以テ地圖ノ彩色若クハ人類ノ異同ニ因テ彼我ノ見ヲ立テサル眞正ナル國際時代トシテ特筆スルナラン蓋一九〇五年一月以前マテ全世界ハ白人種ノ專横壓制ニ苦メルコト恰モ露國々民カ官僚政治ノ專横壓制ニ苦メルト異ヲサリシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

モ今ヤ如何ナル國民タルニ論ナク苟モ其ノ智徳ト力量ニシテ他ト同等ナランニハ皆世界ノ運命ヲ左右シ對等ノ地位ヲ占ムルニ於テ妨ナキヲ自覺セルナラン然ラハ則チ日本ハ啻ニ露國々民ニ向テ其ノ旅順口陥落以前ニ彼等ノ夢想タモセサリシ自由ヲ確保セルノミナラス更ニ全世界ヲシテ白人專權壓制ノ羈絆ヲ脱セシムルノ鴻業ヲ成就シタルモノニシテ此ノ專權壓制ハ或ハ一時人類ヲ稗益セルコト之アリシナランモ而モ今日ヨリ之ヲ觀レハ人類ノ權利ヲ拘束シ其ノ福利ヲ毀損スルモノト云ハサルヲ得ス假令旅順口陥落ノ影響スル所斯ノ如ク廣大ナラスシテ單ニ極東ニ於ル露國ノ勢力ヲ破壞セルニ過キストスルモ之ヲ以テ未タ一新紀元ヲ作ルニ足ラスト云フヘカラス何トナレハ單ニ露國ノ勢力ニ最接觸スル支那印度波斯ノ三國ニ就テ見ルモ其ノ陥落ノ影響至重至大ナルモノアルヲ以テナリ實ニ其ノ陥落ノ亞細亞諸國ニ及スヘキ影響ノ莫大ナルハ倫敦在住者ノ到底想像シ能ハサル所ナリ縱シ露國ハ旅順口ヲ失ヒ之カ爲メ却テ富强ヲ致スコトアルモ而モ其ノ陥落ノ亞細亞ニ及スヘキ影響ニ至リテハ毫モ減少スルコトアルヘカラス要スルニ其ノ陥落ノ一事ハ露國ノ威嚴ヲシテ失墜セシメタルモノニシテ露國ハ如何ニスルモ今後數年間其ノ面目ノ恢復ヲ期スヘカラス恰モ是露國ハ天ノ命スル所ニ遵ヒ旅順口ヲシテ日本ノ十年間涵養セル文明進歩ヲ實驗スルノ具ニ供セシメタルニ異ラスト云フヘシ蓋一八九四年ノ日本ト一九〇四年ノ日本トハ實力ニ於テ霄壤ノ懸隔アルノミナラス支那人ノ防守セル旅順口ハ露人ノ手ニ歸セル旅順口ニ比スレハ非常ノ差異アリ一八九四年ノ役大山元帥ノ該要塞ヲ拔クヤ僅ニ一日ノ勞ヲ以テシ其ノ獨逸式十六堡壘ノ如キハ之ヲ陥ルニ當リテ甚シク人命ヲ損スルコトナカリキ一九〇四年ニ至リ露人ハ此等獨逸式堡壘ヲ目シテ無用ノ長物トナシ之ニ代フルニ全然新式ノモノヲ以テセリ此ノ新堡壘ハ鋼鐵石材ヨリ成リ其ノ間ニ精巧ヲ極メタル軍道及ヒ蓋路ヲ通シテ之ヲ聯結ス而テ露國技師ノ此等堡壘ヲ築造スルヤ之カ基礎トシテ理想ニ叶ヘル丘陵ヲ利用シ繞ラスニ鋼鐵板ヲ掩蓋トスル塹壕ト深潤ナル外壕トヲ以テシ更ニ防クニ鐵條網ヲ以テセルモノアリ要塞ノ完全無缺ナル列國未タ曾テ其ノ比ヲ見ス露人ノ自カラ稱シテ難攻不落トセルモノ實ニ其ノ理由アリト云フヘシ斯ノ如キ要塞アリ始テ日本ヲシテ其ノ文明進歩ノ程度ト其ノ軍隊ノ力量トヲ實驗セシムルノ好材料ヲ供セルモノト云フヘキナリ

吾人ハ前段ニ旅順口ヲ以テ露國國威ノ標識ナリト認メ其ノ位地ノ重要ナルコトヲ論シタリ然レトモ之ヲ防守ノ一點ヨリ論スルトキハ吾人ハ之ヲ重要視スル所以ヲ見サルナリ始メ其ノ開城ノ報傳ハルヤ列國ノ新聞紙ハ皆競フテステッセル將軍ノ下ニ行ハレタル防戰中ノ勇武ヲ稱讃シテ措カス且露帝カ同將軍ニ勅電ヲ發シテ其ノ開城ノ止ムナキヲ認メタルノ一事ヲ聞キ嘆稱ノ辭至ラサルナク實ニ同將軍ノ名ヲシテ九鼎大呂ヨリモ重カラシメタリ蓋當時旅順口要塞ノ境遇ト其ノ守兵ノ員數トニ就テ外間ニ傳ハル所ノモノ兩ナカラ眞ヲ得タルモノ少ク露帝ヲシテ開城ノ至當ナルヲ認メシメタルカ如キハ實ニ虛傳浮說ノ盛ナリシヲ想見スヘシ夫ノ所謂一握ノ露兵云々ノ文字ノ如キ當時ノ員數ヲ以テ露國億兆ノ人口ヨリ之ヲ觀レハ實ニ一握タルニ相違ナシト雖モ實際斯ク寡少ニ非サリシニ世人ハ「一握」ノ文字ニ迷ハサレ旅順口要塞ニ數千ノ守兵アルヲ信スル者ナカリキ故ニ一旦捕虜員數ノ公表セラルヽヤ列國ノ反感非常ニシテ維納發刊某新聞ノ如キハステッセルヲ目シテ「彼弱將些ノ讃辭ニ値セサルノミナラス却テ非難ヲ加フルヲ至當トス」ト云フニ至レリ此ノ言或ハ極端ニ走レルノ嫌ナキニアラストスルモ當時世人カ嘖々其ノ守兵ノ武勇ヲ稱揚セル所以ノモノハ一ニ其ノ守兵ノ塹壕ニ列シテ日本人ノ攻擊ニ對シ得ル者漸ク二千人ニ過キストノ報ニ基クコト明ナリシモ今ヤ事ノ眞相分明トナリタルヲ以テ吾人ハステッセルノ勇武ニ對シテハ前說ノ誤レルヲ正サヽルヘカラス若シ夫ステッセルニシテ露帝ノ言ニ和シ「防守ノ手段盡キ」云々ヲ確證スルヲ得タランニハ吾人ノ說或ハ誤謬ニ歸スルアランモ實際ノ事然ラサルモノアリシヲ如何セン當時同要塞ニ二三ケ月ノ糧食ヲ存セシハ毫モ疑ヲ容ルヘカラサルノ事實ナルノミナラス乃木將軍ノ公報ニ依レハ八萬發ノ砲彈ト數噸ノ火藥ヲ存セリト云ヘリ縱令其ノ糧食ハ上等ノ品質ナラサリシトスルモ食スルニ堪ヘサル程ノモノナラサリシコトモ亦分明ナリ況ヤ未タ私人ノ食料ヲ徵發スルニ至ラサルヨリ之ヲ觀レハ同要塞ハ決シテ絕望ノ狀態ニ陥レルモノニ非サリシヲ知ルヘシ若又病兵ノ慘狀見ルニ忍ヒサルモノアリトセハ或ハ開城ニ對スル非難ヲ緩ウスルノ理由トナルヘキモ之トテモ敗血病ヲ除カハ他ニ疾病トシテ視ルヘキモノナク惡疫ニ至リテハ殆ト絕無ト云フモ可ナリ要スルニ開城ノ當時兵員アリ彈藥アリ糧食アリ病者甚タ多カラサリシモステッセルハ劍ヲ擲テ降ヲ乞ヒ勇者トシテ世ノ賞讃ヲ博セリ豈奇ナラストセ

シヤ

露人ハ勇敢ニ奮戰セリト云ハ、何人モ敢テ之ヲ否定スル者アラサルヘシト雖モ是ト同時ニ事實ハ亦事實トシテ認メサルヲ得サルナリ思ヒ起ス南阿戰爭ノ開カル、ヤ世人ノ中ニ妄ニ「小共和國」若クハ「小數ノ農兵」云々ノ言ヲ放チ民心ヲ激セシメントセル者多カリシコトヲ而モ事實ノ漸ク分明トナルニ從ヒ感情モ亦沈靜ニ歸セシコトアリ此ノ一例ニ就テ旅順口ヲ推ストキハ其ノ守兵ハ曾テ彼等ニ擬セラレタル勇武ノ讚辭ヲ博スルノ價値ナシト云フモ少シモ失當ノ言ニアラスト信ス同地ノ防守ヲ以テ之ヲ一八五五年ノ露土戰爭ニ於ルカールス（亞細亞土耳其領アルメニヤノ一城）及ヒ一八七七年ノ露土戰爭ニ於ルプレブナノ防止ニ比スルカ如キハ極テ不倫ナリト云フヘシ抑カールス並ニプレブナヲ攻メシ者ハ均シク露人ニシテ攻者ノ數ハ守者ニ倍スルノミナラス守者ノ賴テ以テ其ノ身ヲ掩蔽セシモノハ單純ナル土工物ノミカールスニ於テハ土耳其兵一萬五千英人フェンウイック、ウイリアム將軍ノ下ニ四ヶ月間四萬ノ歩兵ト一萬ノ騎兵ヨリ成レル露軍ヲ拒ケリ露軍ノ之ヲ包圍セシ當時塞内ニ貯藏セル彈藥ハ僅ニ三日糧食ハ三個月ヲ支フルニ過キサリキ而テ其ノ城ヲ開キテ降レルハ饑饉ノ爲メニシテ包圍者ハ始ヨリ一回タモ有効ノ攻擊ヲ行フヲ得サリキ又プレブナノ役土耳其兵ノ數五萬八千砲八十門ニシテ八萬四千ノ兵員ト四百門ノ大砲ヲ有スル露軍ノ攻擊ニ堪ヘ之ヲ支持スルコト克ク九十四日ノ長キニ及ヒ一日露軍ノ土壘ニ總攻擊ヲ加ヘタル際ノ如キ實ニ一萬八千ノ死傷ヲ出セリ此ノ役土軍ハ再糧食ノ缺乏ヲ來シオスマン、パシヤハ圍ヲ衝テ突出セントセシモ事成ラスシテ遂ニ降レリ眞正ノ武勇ナルモノハ此ノ兩役ニ於テ始テ之ヲ見ルヘシ殊ニ又一八八四年埃及領蘇丹ノ叛亂中ニ際シゴルドン將軍ノカルツームヲ守ルヤ城ノ内外ニ充滿スル敵ニ對シテ能ク之ヲ守禦シテ三百四十一日ノ久シキニ堪ヘタリ之ヲ聽キテ誰カ襟ヲ正サ、ルモノアランヤ加フルニ右三役ノ當時ハ旅順口要塞ノ如キ精巧ナル堡壘ノ設ケアルコトナシ故ニ何人モプレブナ、カールス又ハカルツームヲ以テ難攻不落トセルモノアラサリシモ彼ノ旅順口ニ至リテハ天下之ヲ目シテ難攻不落ト稱セシニアラスヤ

若シ旅順口防守ノ成効ハ何ニ由テ然リシヤト問フモノアラハ何人モ遲疑ナク其ノ堡壘ノ爲メナリト答フルナラン要スルニ乃木將軍ハ苟モ他ノ名譽ヲ毀損スルカ如キ言ヲ發スルノ人ニアラス而モ旅順口要塞ニ就テ云ヘルコトアリ曰ク今回ノ如キ包圍戰ニ於テ其ノ防禦者ヨリ言ヘハ堡壘ハ萬事ノ主動力ナリ兵士ノ勇奮モ堡壘アルカ爲メナリ守兵ニシテ其ノ背面ニ伏スレハ人類ノ高度ヲ發揮セル最勇武ナル攻擊ヲモ單ニ一場ノ悲劇ニ變セシムルコト眞ニ易々タリト洵ニ夫然ラスヤ夫ノカールス及ヒプレブナノ如キ單純ナル土壘ヲ以テ防禦スルモノト雖モ露軍ノ之ヲ攻擊スルヤ其ノ損害ノ甚タ多大ナリシヲ以テ觀レハ旅順口ニ於ル勇者ハ之テ防禦セル露人ニアラスシテ五ヶ月ノ間之ニ對シテ絕エス攻擊ヲ加ヘタル日本人ナリト云ハサルヘカラス蓋露人ハ城壁ヲ背ニシテ固守シ日本人ハ唯之ヲ包圍スルヲ得ルニ過キサリシニ日本人ハ敢テ難キニ就キ終ニ遂ニ難攻不落ノ要塞ヲ陷レタリ赫灼タル奏功ノ月桂冠ハ日本人ニ歸セスシテ果シテ何人ニ歸スヘキカ人若シ其ノ然ル所以ヲ一層分明ニ知ラント欲セハ日本人ノ攻擊セル堡壘カ果シテ如何ナルモノナルヤニ就テ研究スルヲ要ス

試ニ思ヘ堡壘ノ傾斜七十度ヲ過キ巉々トシテ空間ニ聳ユルコト數百米突繞ラスニ深壕ヲ以テセルコトヲ又思ヘ丘上ノ中央ニ永久堡壘アリ築クニ石材ト「セメント」ヲ以テシ戴スルニ重砲ヲ以テシ周圍ニ塹壕アリ之ヲ蔽フニ掩蓋ヲ以テシ堅鐵彈モ尚之ヲ貫ク能ハサルコトヲ、又思ヘ堡壘ノ下深壕ノ上ニ地雷ノ設備アリ又鐵條網アリ之ニ通スルニ電流ヲ以テシ一觸直ニ數千人ヲ殺スニ足ルコトヲ又思ヘ此ノ堡壘ハ要塞ノ周圍一千米突毎ニ二三個宛ニ相擁シテ互ニ聯絡ヲ通セルコトヲ、「斯ノ如キ堡壘ハ之カ防禦ニ婦女子ヲ以テ充ツルモ彼等ニシテ苟モ操砲ノ術タニ知ラハ十萬ノ精兵ニ當リテ綽々トシテ餘裕アラン」トハ當時要塞ノ攻擊ニ參與シテ奏功セル日本司令部某氏ノ言ナリ以テ旅順口要塞ノ如何ナルモノナルカヲ知ルニ足ルヘシ

此ノ堅城ニ對シ數箇月ノ久シキ幾多ノ人命ヲ捨テ、顧ミス能ク攻圍ヲ維持シテ遂ニ之ヲ拔ケル日本兵士ハ果シテ如何ノ人物ナルソ日本ノ十一吋砲ヨリ發射セル榴彈ハ能ク壘內ニ爆裂シテ非常ナル損害ヲ致シ或ハ港內蟄伏ノ戰艦ヲ破滅シテ威力當ルヘカラサルモノナリシモ而モ攻圍者ノ性格之ニ稱フモノナキニ於テハ旅順口ハ到底陷落スヘキモノニアラサリ

シナリ之ヲ要スルニ旅順口ノ陷落ハ日本兵士ノ性格之ヲ致シ其ノ精良ナル武器之ヲ致シタルニアラサルナリ今ヨリ數年前日本皇帝ノ一般軍人ニ與ヘラレタル勅語ノ一節ニ曰ク朕ト朕ノ臣民カ汝等軍人ニ期待スル所ノモノハ鋭ヲ挫キ堅ヲ拔クニアリト日本兵士ハ實ニ此ノ勅語ノ遂行ヲ期待シ得ヘキ者ナリ

日本兵士ノ旅順口ニ於ル奏功ヲ見ルニ其ノ此ニ至レルハ二大要因ノアルアリ乞フ試ニ之ヲ述ヘン第一ノ要因ハ日本兵士ノ性格ニシテ其ノ泉源ハ親シク皇帝ヨリ發ス日本兵士ハ皇帝ノ軍隊ニ下シ給ヘル五ケ條ノ勅語ニ準據シテ軍事教育ヲ受ケ之ヲ以テ各自道德修養ノ基トナスコト恰モ同國諸學校カ皆其ノ教育勅語ヲ以テ之カ德育ノ基トナスニ異ラス第二ノ要因ハ一八九四年以來日本國民カ夢寐ノ間タモ忘レスシテ國辱ヲ雪カント期セル感情ナリ此ノ二要因ハ彼此相助ケ相合シテ一種ノ勢力トナリ如何ナル堅壘鐵壁モ之ヲ粉韲セスンハ止マサルナリ

今ヤ日本ノ兵士ハ世界列國ノ軍事關係者カ羨望シテ措カサル所ノモノナリ此ノ時ニ當リ日本皇帝ノ勅諭五ケ條ヲ揭ケ其ノ完全ナル戰鬪員ヲ養成セル所以ヲ明ニスルハ列國ノ歡迎スル所ナラント信ス（原文ニハ勅諭ヲ譯載シアレトモ略ス）

日本兵士ハ一八八二年以來今日ニ至ルマテ二十三年間此ノ五ケ條ノ勅諭ニ依リテ薰陶セラレ遂ニ發達シテ今日アルヲ致セルモノナリ去レハ其ノ發達ニハ根底アリ基礎アリト云ハサルヘカラス加フルニ此ノ誠意誠心ヲ有スル兵士カ旅順口ノ堅壘ヲ陷レントスルニ當リ更ニ隱然之ヲ奬勵皷舞セルモノアルコトヲ忘ルヘカラス是他ナシ日本人民ノ胸裏ニ銘記セル信仰是ナリ即チ彼等ノ乃木將軍ノ麾下ニ戰フヤ盡忠報國ノ念ニ出テタルハ勿論ナレトモ亦十年前旅順口要塞ノ陷落前後ニ戰死セル幾多同胞ノ神靈ヲ慰センカ爲メニ奮鬪セルナリ是實ニ日本人ノ特色ナリト云フヘシ日本ノ一博士ハ旅順口攻圍ニ從事セル兵士カ如何ナル感情ヲ以テ血河ヲ渉リ骨山ヲ攀チ鐵條網ヲ冒シテ奮鬪セルカヲ指摘シタリ其ノ言ニ曰ク夫ノ還遼ノ事アリテ後曾テ滿洲ニ戰ヘル我カ一百餘ノ兵士ハ之ヲ目シテ國光ニ最大汚點ヲ印シ未タ曾テ外國ノ侮ヲ受ケサル邦家ニ取リテ空前ノ屈辱ナリト憤慨シ之ヲ後世子孫ニ傳ヘテ永ク忘レサラシメント欲シ意ヲ決シテ割腹シ以テ世界ニ示スニ日本人ハ生キテ屈辱ヲ見ンヨリハ寧ロ死ヲ欲スル所以ノ實ヲ以テセリ是ヲ以テ旅順口ニ戰フ者ハ孰レモ往年之ヲ拔カントシテ戰死セル數百ノ精靈ト魂魄ト相拶ヘテ該要塞上ニ徘徊スルヲ夢ミサルハナシ此等ノ諸靈ハ十年前日清戰爭ノ終結ニ際シ我カ國ノ疲憊セルニ乘シテ我ニ屈辱ヲ與ヘタル國カ旅順口ヲ掌握スル間ハ决シテ安シテ瞑スルヲ得ス而テ吾人カ固ク鬼神ノ存在ヲ信シテ疑ハサルハ猶基督教徒カ靈魂ノ不滅ヲ信スルカ如シト東鄉大將ノ召サレテ東京ニ上リ俄露國艦隊全滅ノ報ニ接スルヤ先ツ恭シク之ヲ戰死者ノ靈前ニ告ケタリ其ノ詞ニ曰ク余今諸子ノ靈前ニ立ツ情緒亂レテ云フ所ヲ知ラス諸子ノ世ヲ辭スルヤ固ト是勇敢ニ諸子ノ職務ヲ遂行セルニ因ル我カ聯合艦隊ハ賴テ以テ全然制海權ヲ保有スルヲ得タリ余ハ信ス此ノ一事以テ諸子ノ靈ヲ慰ムルニ足ランヲ余カ皇上ニ召還セラレタルモ主トシテ此ノ大功ヲ奏セル諸子ノ靈ニ之ヲ告ケンカ爲メナリト戰死者ニ對スル斯カル祭文ハ日本人ノ特性ヲ外人ニ示セル最顯著ナル例證トシテ見ルヘキモノニシテ誰カ斯カル例證ヲ目擊シナカラ尙日本人ヲ以テ唯物主義ヲ奉スル者ナリトセンヤ又乃木將軍ノ旅順口ニ於ル招魂祭ニ臨ムヤ其ノ祭文中成功ヲ欲シテ戰死セル諸子ノ靈ト戰勝ノ光榮ヲ頒タント云ヘリ是ニ由テ之ヲ觀ルニ日本兵士ハ獨リ自カラ勵ムノミナラス其ノ身邊常ニ憂心忡々タル精靈ノ之ヲ皷舞激勵スルモノアルヲ知ル其ノ戰ヘハ勝チ攻ムレハ取ル決シテ怪ムニ足ラサルナリ

日本人ハ戰鬪ニ於テ既ニ特色ヲ發揮セルカ如ク今又開城ノ條件ヲ協定シ要塞ヲ受領スルニ當リテ世界ニ於ル國際道義ノ上ニ新規ノ標準ヲ創始セリ其ノ開城條件ヲ觀ルニ一ニ皆公正ヲ旨トシ殊ニ日本皇帝ノ捕虜將校ニ對スル措置ノ如キ眞ニ寛大ナルモノアリ況ヤ曾テ上海ニ於テ戰鬪不干與ヲ宣誓セル一人ノ露國將校約ヲ破テ遁逃ヲ企テ後チ「ニグレシア」號ト共ニ捕ハレシ者ノ佐世保ニ抑留セラレシ狀況ヨリ觀レハ皇帝ノ仁恕眞ニ頌讚ニ餘リアルヲ覺ユ又此ノ開城條件ノ起草者ハ有名ナル國際法學者有賀博士其ノ人ニシテ博士ハ攻圍ノ當初ヨリ特ニ乃木將軍ノ幕僚トシテ戰地ニ滯在セリ亦以テ日本人ノ用意周到ナルノ一例トナスヘシ思フニ露軍ノ城ヲ開キテ日本軍ニ降服セルハ恰モ是日本人ニ歡呼狂喜ノ好機ヲ與ヘタルモノト云フヘシ然ルニ露兵ヲシテ毫モ體面ヲ傷ツケラルヽコトナク肅々トシテ退城スルヲ得セシメタルハ實ニ日本人ノ寛大ニシテ長者ノ風アルヲ見ルヘシ試ニ思ヘ露兵ノ此ノ退城ハ固ト輕々ニ視ルヘキモノニアラス是實ニ世界數百

年間ノ趨勢ヲ破リ歐洲一强國ノ軍隊カ亞細亞洲ノ一國ニ降服セル破天荒ノ椿事ニアラスヤ況ヤ其ノ亞細亞洲ノ一國ハ露人カ常ニ輕侮シテ措カサリシモノナルニ於テヲヤ然ラハ則チ日本人ニシテ此ノ間ニ處シ驕慢ナル露人ヲ屈辱シテ自カラ快ヲ取ラント欲セハ唯其ノ欲スル所ニ隨フヲ得ヘキニ毫モ斯カル小人ノ擧動ニ出テサルノミナラス其ノ退場ヲ見ルヤ惻然トシテ之ニ同情ヲ表シ沈默シテ之ヲ目送シ情ノ切ナルモノハ敵兵ノ衰弱セルモノニ逢ヘハ代リテ其ノ荷物ヲ負擔スルニ至レリ嗚呼日本人ハ戰ニ臨メハ戰ノ術ヲ知リ戰止メハ敵兵ニ對シテ惻隱恭敬至ラサルナシ日本人ノ眞勇タル所以尖茲ニ在ルカ古來眞ノ勇者ニシテ降敵ヲ侮レルモノアルヲ聞カサルナリ

人アリ上村中將ニ問フニ其ノ「リユーリク」ノ水兵ヲ救助セル所以ヲ以テセシニ中將答ヘテ曰ク敵ハ戰場ニ於テコソ敵トシテ砲火ヲ交ユレ既ニ戰鬪力ヲ失ヒタル以上ハ憐ムヘキ不幸ノ友ニシテ決シテ惡ムヘキニアラス余ハ今回餘リニ多數ノ捕虜ヲ收容シタル爲メ何故ニ斯クナセシヤトテ屢質問ニ遭ヒタリ是ニ就テ思ヒ起スハ故老西郷ノ美德ナリ會津降服ノ際降服者ノ城ヲ出ツルニ當リ老西郷ハ其ノ人々ヲ侮辱セサル意ニテ一般市民ヲシテ戶ヲ閉シ見物スルヲ得サラシメタリ又五稜郭陷落ノ際老西郷ハ直接關係者ノ外何人ニモ降服者ヲ見ルコトヲ禁シタリト亦以テ日本人ノ性格ヲ察スルニ足ル日本人ノ傷病兵ヲ待遇スルヤ懇切至ラサルナク日本衞生部ハ旅順口ノ陷落ニ先タチテ既ニ二萬ノ傷病者ニ對スル準備ヲナセリト云フ今旅順口捕虜ノ運命ヲ以テプレブナノ役露軍ノ爲メニ捕ハレタル土耳其兵ニ比スルトキハ其ノ幸不幸殆ト霄壤ノ差アリ土耳其兵カ勇戰奮鬪ノ後捕虜トナルヤ露人ハ彼等ニ相當ノ衣食ヲ給スルコトナク以テ途上斃死スル者千ヲ以テ算フルニ至レリ又土耳其兵ノ曾テ敵兵ヲ捕虜トスルヤ悉ク之カ目ヲ蔽ヒ百人中僅ニ一人ノミ一眼ヲ出シテ嚮導者トナシ雪中ヲ押送セルコトアリ露土二國ノ爲ス所何ソ夫相似タルヤ抑戰爭ハ所謂戰爭ナリ力ヲ極テ戰フヲ本旨トス然レトモ一旦戰止マソカ日本人ハ瞬時ヲ出スシテ直ニ敵ノ傷病兵ヲ慰安シ愛遇スルコト毫モ其ノ戰友ニ對スルニ異ラス是仁道ニ適フノ行爲ニシテ眞ニ賞讃ニ餘リアリト云フヘシ之ヲ世ノ戰爭廢止ヲ絶叫シナカラ戰禍ノ輕減ニ對シテ一指ノ勞ヲ吝ムノ國民ニ比スレハ其ノ道德心ノ高キ數步ヲ抜クモノアリテ存ス要スルニ今回ノ戰爭ノ結果トシテ戰爭ノ狀態ニ一大變革ヲ及スヘク列國ハ日本ノ行爲ニ依テ文明世界ニ缺クヘカラサル仁道ヲ會得スルノ機アルヘキナリ

旅順口陷落セリト雖モ戰爭ハ依然トシテ繼續スヘシ日本人ハ之ヲ攻略シタルカ爲メ其ノ大目的ノ一ヲ遂ケタルニ相違ナキモ是ヨリ其ノ陸海軍ノ爲サントスル所更ニ益〻多カラントス況ヤ露國ハ未タ現戰爭カ自國ノ爲メ不利ニ終局スヘキヲ覺ラス敢テ永久ノ平和條件ヲ協定セントスルノ意ナキニ於テヲヤ今ヤ之ヲ外ニシテハ官僚專制政治當路者カ毫モ極東事態ノ眞相ニ通セサルアリ彼ノ海軍中將ヲユハソツフ（北海漁船擊沈事件ニ於ル國際調査會ノ露國委員）ノ沒分曉ナルカ如キ其ノ明證ニアラスヤ又之ヲ内ニシテハ露帝ノ民意ヲ拒ソテ權利ヲ與ヘサルアリ是畢竟民情ヲ知ラサルノ罪ニ坐スルモノナリ蓋旅順口ノ陷落ハ露國ノ内情ニ至大ノ關係ヲ及スヘク而テ國情ノ推移ハ亦戰局ニ影響ヲ來スヘシ且頃者露國敎務院ノ勢力振ハス其ノ從來民心ヲ統一セル大權將ニ地ニ墜チントス是ニ於テカ總裁ポペドノスチエフハ斷然身ヲ騷擾ノ渦中ニ投シ苦心慘憺一木ヲ以テ官僚政治ナル一大厦ノ顚覆ヲ支ヘントス是敎務院ノ權勢ヲ維持セントスルニハ官僚政治ニ頼ラサルヲ得サルヲ以テナリ又旅順口ノ陷落ハ露國ノ自由主義ニ著大ノ活氣ヲ與ヘ苟モ進步ヲ主トスル黨派ハ皆小異ヲ捨テヽ大同ニ就キ自由黨無政府黨社會黨等期セスシテ相聯合シ民權自由ヲ要求スルコトヽナリタルヲ以テ露帝ノ現地位ハ宛然大革命前ノ佛蘭西國王ノ地位ニ異ルナキニ至レリ著名ナル某革政家曰ク今ヤ露國ヲ擧テ無政府黨トナレリ而テ其ノ腕力行動トナルハ唯時日ノ問題ノミ早晚之アルヲ免ルヘカラストプリンス、トルーベツコイノ露帝ニ上レル建白及ヒ其ノ他種々ノ事情ヲ綜合スレハ革政家ノ言ノ當レルヲ發見スヘシ且エム、ノヴイコフ（裏海沿岸ノ殷市バクノ市長ニシテ有名ナルオルガ、ノヴイコツフ夫人ノ子ナリ）ノ如キ人物ニシテ改革ノ援助者タルヲ辭セサルニ至テハ改革ノ氣運ハ最早獨リ下級社會ニ限レルニアラスシテ既ニ擧國ニ瀰蔓セリト云フヘシ是旅順口陷落ノ結果ニアラスシテ何ソヤ聖彼得堡ノ諸新聞ニハ改革ニ關スル議論甚タ多ク就中最刮目スヘキモノヲ擧クレハ左ノ如シ曰ク「今ヤ國步艱難ヲ極メ國威地ニ墜チテ國光晦濳タリ……此ノ大國難ヲ排除セントスルニハ國民ノ協力ニ待タスシテ果シテ何物ニ頼ラントスルカ吾人ハ一八一二年那破翁ト開戰スルヤ則チ國民ノ協力ニ依テ大勝ヲ博セリ然ラハ則チ今日亦治者ト被治者トノ間ニ堅固ナル同盟ヲ結マハ外患如何ニ大ナルモ終ニ勝利ヲ得ルコト必セリ」ト

又旅順口ノ陷落ハ戰局ニ對シテ一大影響ヲ及サントス何トナレハ露國滿洲軍ハ其ノ作戰ノ目標ヲ失ヒタルカ爲メナリ嚢ニクロパトキン將軍カ千艱萬難ヲ冒シテ南進セルハ是唯旅順口アリシカ爲メノミ今ヤ將軍ハ東セス西セス又北セス獨リ南セントスルノ理由ナク强テ南セントカ陸ニ海ニ日本人ノ嚴守セル敵地ヲ進行シ不屈不撓ノ敵軍ト戰ヲ交ヘサルヘカラス將軍ノ爲メニ計ルニ南進ノ極テ利ナラサルヲ見ル況ヤ大山元帥麾下ノ日本軍ハ旅順口陷落後巨萬ノ援軍ヲ得タルカ故ニ露軍勝利ノ機絕對ニ空望ニ歸シタルニ於テヲヤ

然リト雖モ露國覺醒シテ日本ノ媾和條件ヲ容ルヽニ至ルマテ戰爭ハ依然繼續セラルヽナラン今後日本ハ一方ニハ鋭意以テ浦港及ヒ樺太ニ進擊シ一方ニハ春暖至ラサルニ先タチクロパトキンヲ哈爾賓ニ驅逐セントス而テ事玆ニ出テントスル所以ノモノ專ラ露國ヲ覺醒シテ樺太ヲ割カシメ少クモ十億圓ノ償金ヲ拂ハシメントスルニ在リ而テ露國ノ之ニ對スル覺醒ハ甚タ遲々タルノ觀アルモ日本ハ露國ヲシテ此ノ大要求及ヒ其ノ他ノ條件ヲ容レシムルマテハ戰爭ヲ繼續スヘシ

紐育「トリビユン」新聞ハ媾和ノ機會ニ就キ論シテ曰ク「先ツ媾和ヲ申出ツヘキモノハ露國ナラサルヘカラス露國ニシテ之ヲ申出テンカ日本ハ其ノ要求ヲ減シテ之ヲ迎フヘク列國ハ更ニ半減以上ニ出テヽ百方其ノ間ニ周旋シ以テ此ノ人道ヲ害シ文明ヲ賊スル戰爭ニ終局ヲ告ケシメントスルヤ疑フヘカラス」ト

露國自由黨ノ新機關「ナシ、ドニ」ハ露國內情ノ變遷ハ戰爭ヲ終局セシムヘキモノアルヲ論シテ曰ク「現戰爭ヲ繼續セサルヘカラサルモノナリトシテ之ヲ繼續セントカ獨リ官僚政治ノミナラス露國ノ社會ト人民トヲ擧ケテ均シク窮境ニ陷ラシメ進退維レ谷マラシムルモノナリ敵國ヨリ提出スル媾和條件ナルモノ或ハ露國ノ名譽ヲ毀損スルモノアラン然レトモ試ニ思ヘ露國人民ハ强大ナリ其ノ勢力ハ無盡ナリ夫然リ故ニ我カ露國人民ニシテ媾和ノ發音者タランカ敵國ノ之ニ對スル條件ハ露國人民ノ威信及ヒ利益ヲ毀損スルモノタラサルヘキヲ必スヘシ」ト

旅順陷落ハ又日本ノ同盟國其ノ他列國ヲ警醒シテ局外中立ニ附帶スル道義上ノ義務ヲ遂行スルノ必要ヲ認メシメタリ苟モ自カラ文明國ト稱ス其ノ自カラ約ヲ守リ信ヲ厚ウシ戰爭ヲ止メ平和ヲ欲スルハ固ヨリ當然ノ事ナリトス悲哉文明國ノ所爲始メヨリ玆ニ出テスシテ日本ノ戰勝ニ接シテ纔ニ局外中立ノ本義ヲ重ンスルニ至レルハ實ニ嘆スヘキニアラスヤ今ヤ日本ノ足底露國ノ頸首ニ加ヘラレタルニ當リ英獨佛三國カ局外中立ヲ嚴守セントスルニ至レルハ誠ニ賀スヘキ事ナリ而モ獨佛二國カ辛クモ正義ヲ踐ムニ至レルハ專ラ其ノ極東ノ領土ヲ失ハサラントスルニ出テタルモノトセサルヘカラス北米合衆國ト日本ノ關係ニ至リテハ余既ニ論スル所アリ左ニ拔萃スル紐育「サン」新聞ノ一節ト對照セハ聊カ趣味ナシトセス曰ク

「今ヤ地球半面ノ平和ハ一ニ懸リテ日本人ノ掌裡ニ歸セリ其ノ戰勝ハ眞ニ名譽アリ光輝アリ其ノ史上ニ一新紀元ヲ畫スルヤ必然タリ日本人ノ嚢ニ支那ヨリ旅順口ヲ割取シテ之ヲ占領シ將ニ戰勝ノ利得ヲ享有セントスルヤ文明ヲ扮裝セル歐洲ノ暴漢相結ンテ干涉シ突如トシテ之ヲ奪取シ去レリ嗚呼夫個人ハ唯々トシテ他ノ暴ヲ忍フコトアラン然レトモ堂々タル國家ノ體面ヲ有スルモノ何スレソ之ヲ忍フヘケンヤ露國ハ嚢ニ日本ニ屈辱ヲ與ヘタルカ爲メ今正ニ自カラ屈辱ヲ嘗メツヽアルハ所謂自業自得タルニ外ナラス吾人ハ信ス今日以後歐洲列强ハ擧テ相聯合スルモ遼遠ノ舊史ヲ再演スルコト能ハサルヲ」ト米國ニシテ既ニ斯カル意見ヲ懷抱スルニ於テハ英國カ戰爭ノ終局ニ際シテ日本ニ加擔スヘキハ蓋疑ヲ容ルルノ餘地ナキナリ

米國々務卿ヘイ氏ハ嚢ニ清國ノ中立ニ關スル同文通牒ヲ列國ニ發シタルニ列國ハ之ニ同意ヲ表シタルカ此ノ事端ナクモ一大問題ヲ惹起スルノ原因タラントス何トナレハ露國モ亦清國ノ局外中立ニ關シ列强ニ書ヲ發シ露國ハ清國ニ對シテハ自カラ是トスル所ヲ行フノ必要ヲ認ムト云ヘリ此ノ書ニ對シ列國未タ回答ニ暇アラサルニ先タチ其ノ一軍ハ早ク既ニ牛莊ニ於ル日本人ヲ攻擊セントカ爲メ清國ノ中立ヲ犯セリ斯ク露國カ清國ニ對シテ故ナク交戰區域ヲ擴張セルハ世界列國ノ看過スヘカラサルコトニシテヘイ氏カ此ノ事ニ關シテ清國ノ聲明ヲ是ナリト公言シ以テ露國ノ言ヨリハ寧ロ清國ノ言ニ信ヲ措キシハ徒爾ナラスト云フヘシ

論シテ玆ニ至ル一事ノ瞭然吾人ノ眼ニ映スルモノアリ他ナシ旅順口ニ「旭日」ノ昇レルハ是露國ニ於ル「自由ノ太陽」ノ東

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

天ニ現ル丶ヲ促進スルモノニシテ而モ其ノ昇天ハ同要塞攻取ニ於ル流血ニ比シ十倍ノ流血ヲ伴ハントス更ニ一大事アリ今日以後世界ニ亞細亞ナク又歐羅巴ナク人種ト面色トノ區別ハ凡テ一掃シ去ヲレタルコトニシテ旅順口ノ堡壘ニ濺カレタル碧血ハ曾テ人類ヲ區分セル色彩ヲ洗滌シ了リ世界ハ再列國ノ共有物トナリ復タ蝸牛ノ如キ孤獨ノ割據ヲ許サヽルニ至レルコト是ナリ之ヲ要スルニ今ヤ最適者克捷ノ期ニ達セリ誰カ又彼ノ戰勝者ニ對シテ世界一等國ノ班ニ列スルコトヲ拒ミ得ル者アランヤ若シ夫物ニ處シテ効アラサルナク事ニ當リテ適セサルナキ國民ヲ以テ强大ナル國民ナリト稱シ得ヘクンハ日本ハ實ニ是列國ノ先頭ニ立ツヘキモノニシテ決シテ其ノ後ニ尾スヘキモノニアラサルナリ

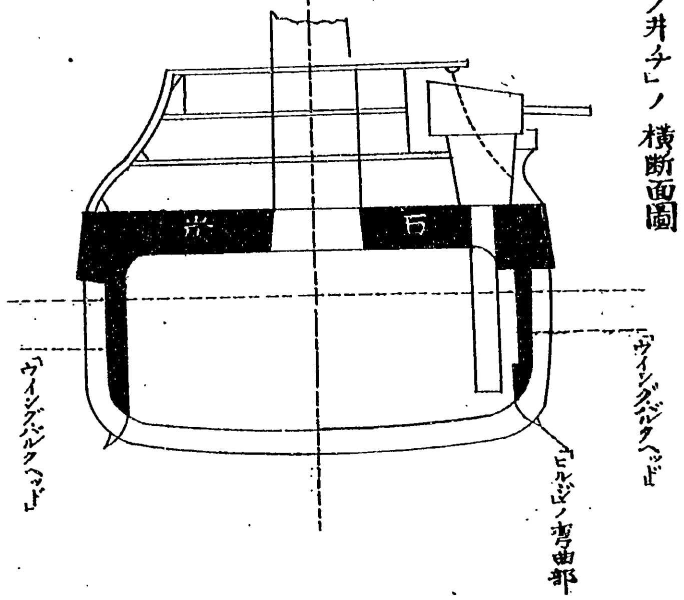
五七　最新式戰艦「ツエザレウ井チ」ノ被害ニ就テ

（一九〇四年四月二日發刊
「アーミー、アンド、ネヴ井ー、ジヤーナル」轉載）

「ロンドン、エンヂニーア」ハ二月八日日本驅逐隊ノ旅順港外ニ於ル露艦夜襲ノ結果ニ付評論ヲ試ミタリ之ヲ左ニ轉載セン

戰艦「ツエザレウ井チ」カ水雷ノ命中ヲ受ケタルコトニ就テハ大ニ注目スヘキモノアリ同艦ハ魚雷ヲ防ク爲メ水線下ニ特別ノ防護ヲ有スルモノニシテ即チ艦首ヨリ後部火藥庫ノ直後マテ厚サ四吋ノ縱向隔壁ヲ設ケ其ノ上端ハ防禦甲板ニ接シ下端ハ「ビルヂ」ノ彎曲部ニ及ヘリ同艦カ二月八日ノ夜襲ニ於テ水雷ヲ受ケタル箇所ハ縱向隔壁ヲ設ケサル部分ニシテ其ノ後端ヨリ餘程隔リタルモノヽ如シ露國ノ公報ニ依レハ同艦ハ單ニ舵機ヲ損傷シ目下修理ノ爲メニ入渠セリトアレトモ工事完成ノ上モ僅ニ港内ノ警備艦タルニ止リ到底海戰ニ參加スルコト能ハサルヘシ「ツエザレウ井チ」ハ佛國式最新ノ模範戰艦ナルヲ以テ若シ同艦ニシテ艦隊戰鬪ニ列シ英國式ノ模範戰艦ヲ以テ成レル日本艦隊ト勢力ヲ角シタラシニハ砲術家及ヒ造船家ニ益スル所甚タ大ナリシナランニ其ノ此ニ及ハサリシハ頗ル遺憾ナリト謂フヘシ同艦ハ全長ニ亙ル甲帶ヲ有シ副砲ハ何レモ砲塔内ニ聯裝セラレ其ノ砲塔床ハ裝甲揚彈筒ニ依テ保護スルヲ以テ實際砲彈ノ爲メ

「ツエザレウ井チ」ノ横断面圖



ニ撃沈セラルヽコトナシトスルモ中甲板以上ノ舷側ニハ装甲ヲ施サヽルカ故ニ高度爆發彈若クハ通常榴彈ニ惱マサルルコト莫大ナルヘシ今回ノ攻撃ニ於テ露艦「ポルターワ」「ヂイヤーナ」「アスコリド」及ヒ「ノーウヰク」ハ全然戰鬪力ヲ失ヒシニモ拘ラス日本側ニ於テハ裝甲巡洋艦磐手及ヒ八雲(或ハ云フ敷島)カ榴彈ノ爲メニ輕微ノ損傷ヲ蒙リタルニ過キスト云フ尙今回ノ海戰ニ於テハ前顯ノ露艦ハ何レモ水線部ニ於テ砲彈ヲ受ケタルモノヽ如シ是サンチアゴ海戰ト相異ル所ナリ日本艦隊カ斯ク大捷ヲ獲タル所以ノモノハ專ラ十二吋砲ヲ使用シタルカ爲メナルコト明ナリ

五八　驅逐艦ノ用法及ヒ日英軍艦制式ノ比較（通信員C、B）

（一九〇四年四月七日發刊「デーリー、グラフイツク」所載）

余ハ曩ニ旅順港外ニ絕エス二隻ノ驅逐艦ヲ游弋セシメントスルニハ少クトモ三隻ノ驅逐艦ヲ就役セシメサルヘカラスト思ヒシカ再案スルニ之ヲ四隻ニ增サヽルヲ得ス然ルニ露國艦隊カ白晝自在ニ航行シ又支那船ノ糧食ヲ旅順口ニ供給スルニ徵スレハ日本ハ未タ再案ノ配備方ヲ取ラサリシヲ知ルニ足ル抑日本ノ驅逐艦使用方法ヲ見ルニ未タ甞テ之ヲシテ單獨ニ行動セシメス必スヤ其ノ背後ニ數隻ノ巡洋艦ヲ置キテ之ヲ掩護セシム然レトモ若シ驅逐艦中ノ驅逐艦トモ稱スヘキ高速力ノ巡洋艦「ノーウヰク」ノ如キモノアリテ日本驅逐艦ヲ攻擊センカ爲メ前進スルアラハ乍チニシテ日本驅逐艦ハ敵ノ爲メニ窮迫窘逐セラルヽニ至ルヘシ幸ニ巡洋艦ノ來援ヲ得ハ其ノ厄ヲ免ルヽコトアランカナレトモ日本巡洋艦ハ遠カラス前記ノ任務ト全然異レル作業ノ爲メ使用セラルヽコトヽナルヘシ即チ鴨綠江ノ浮氷跡ヲ絕ツヲ俟チ陸軍トノ共同作戰ニ與ルノ必要起ルコト是ナリ旣往二箇月間日本ノ海上作業ニ關スル經驗ハ歐米海軍社會ノ聞カント欲スル所ナリ日本艦隊ハ果シテ幾何ノ損傷ヲ生セシヤ昨年ノ英國海軍演習報告ニ徵スルニ巡洋艦ニ故障ノ起リシコト極テ多ク海軍大將ドムビル麾下ノ艦隊ハ殆ト皆廢艦トナレリ然ルニ日本軍艦ノ特點ハ其ノ排水量ニ比スレハ稍過重ノ兵器ヲ裝備スルニアリテ之カ爲メニ日本軍艦ハ肋材、二重底其ノ他各部ニ於テ厚サ及ヒ寸法ノ減却セシヲ以テ實役ニ堪ヘサルヘシトハ吾人ノ聞

ク所ナリ巡洋艦笠置ハ四千七百八十四噸ニ過キス而テ之ト同年ニ進水セシ英國巡洋艦「ハーメス」ハ五千六百噸ナリ兩艦倶ニ同一ノ載炭量ヲ有シ「ハーメス」ノ備砲ハ六吋砲十一門ナルニ笠置ハ八吋砲二門四・七吋砲十門ヲ有シ且砲楯ヲ以テ悉ク各砲ヲ防護ス惟フニ前記ノ如ク各部ノ構造ニ節略スル所ナクンハ「ハーメス」スラ二十海里ノ速力ナルニ笠置豈二十二海里半ヲ出スコトヲ得ヘケンヤ又日英兩國ノ裝甲巡洋艦ヲ比較センニ出雲ハ九千八百噸ヲ有シ甲帶七吋、速力二十二海里ニシテ八吋砲四門六吋砲十四門ヲ備フ而テ英國「モンマス」型諸艦ハ之ト排水量及ヒ船齡ヲ同シウス而テ其ノ速力ハ出雲ニ比スレハ一海里多キモ甲帶ハ四吋ニシテ備砲ハ六吋砲十四門ノミ又其ノ砲ノ裝甲保護ハ五吋ナルモ出雲ハ六吋ナリ尚「モンマス」ノ司令塔壁ハ十吋ナルモ出雲ハ十四吋ナリ右ノ如クニシテ出雲及ヒ笠置カ克ク其ノ任務ヲ遂行シ得タルモノトセハ吾人ハ徒ラニ舊來ノ制式ニ拘泥セシ爲メ大ニ戰鬪力ヲ減スルノ恐ヲ爲シ居ルモノト謂フヘシ

五九　日露戰爭ニ由テ得タル兵器及ヒ機關ノ經驗（一九〇四年十一月二日發刊「ジャパン、デーリー、メール」所載）

過日安社年會ノ際會長サー、アンヅリユー、ノーブル氏ハ一塲ノ演說ヲ試ミ日露戰爭ニ論及シテ曰ク此ノ戰爭ハ海軍學術上ニ幾多ノ敎訓ヲ與ヘタリ又日本人ノ戰ニ巧ナルハ吾人ノ歎稱ヲ禁セサル所ナリ歐洲諸國ハ此ノ戰爭ニ由テ大ニ學フ所アルヘク就中艦隊戰鬪ノ距離カ決シテ三千米突ニ下ラサリシ事實ハ大ニ硏究スルノ價値アリ其ノ原因ハ魚形水雷ヲ恐ルルニ在リタルヤ明ニシテ同水雷ハ輓近顯著ナル進步ヲ遂ケ殊ニ日本海軍ノ使用スルモノハ重ニ十八吋水雷ニシテ有効距離甚タ大ナリ是日本カ艦隊戰鬪ノ距離ヲ遠カラシメシ所以ナリ艦隊戰鬪ノ距離遠ケレハ强力ナル大砲即チ彈着距離遠キ大砲ヲ有スルコト必要ナルカ故ニ我カエルスウィツク工塲ハ初速三千呎秒若クハ之ニ近キ大砲ヲ夥シク製造シツヽアリ又日本ハ開戰前ニ「アンサルド」會社ヨリ日進春日ノ二艦ヲ購ヒ我カ社ニ囑シテ日本ニ同航セシメタリ云々

又米國雜誌「サイエンチフイツク、アメリカン」ハ軍艦ノ機關ニ關スル敎訓ヲ記シテ曰ク重砲砲彈ノ船體ニ命中スルトキハ汽機ハ其ノ激動ノ爲メニ輕カラサル影響ヲ受クル傾向アリ然レトモ汽罐ハ水管式ト圓壔形トノ別ナク右ノ影響豫想ノ如ク大ナラス小艦殊ニ驅逐艦水雷艇ノ機關ハ過劇ノ使用ノ爲メニ非常ナル速度ニテ衰頽シ速力著シク減ス大艦ノ機關ノ衰頽ハ之ニ比シテ甚タ輕ク殊ニ平常ノ手入宜シキモノヲ然リトス汽機ハ砲彈ノ爲メニ破損スルコトアレトモ其ノ用ヲ廢スルニ至ルモノニ非ス汽罐ハ「ベルビル」水管式ヲ以テ圓壔形汽罐ニ優レリトス蓋前者ハ海上ニ於テ掃除ヲ行ヒ得レハナリ又双方ノ艦隊共ニ長時間全速力ヲ維持シ能ハサルハ既ニ明ナル事實ニシテ其ノ一原因ハ炭庫ヨリ石炭繰出方ノ困難ナルニ在リ是ヨリシテ石炭ノ使用ヲ節スルノ已ムヲ得サルニ至レリ

六〇　日露戰爭ニ由テ經驗シタル兵器及ヒ裝甲ノ效力（カール、ロンドン）（一九〇四年十一月十七日發刊「ネーヴァル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）

日露兩軍ハ海陸ニ戰鬪ヲ交ユルコト既ニ數十回世界ノ軍事硏究者ハ孜々トシテ有益ナル敎訓ヲ演繹シ之ヲ實地ニ應用セントス然レトモ刻下新聞雜誌ノ論スル所ハ多ク戰略戰術ノ大問題ニ止リ爾餘ノ小問題ハ趣味アリ價値アルモノニテモ之ヲ論スルモノ稀ナリ又戰訓ヲ論スルニ周ク事ノ顚末ヲ窮ムル暇ナキニ濫ニ推斷ヲ下シ謬見誤說ヲ唱道スルモノ寡カラス彼ノ日本水雷艇カ開戰劈頭ニ旅順艦隊ノ備ナキニ乘シ之ヲ襲擊スルヤ當時ノ新聞雜誌ハ筆ヲ揃ヘテ水雷艇遂ニ戰艦ニ死刑ノ宣告ヲ與ヘタリト絕叫セシニモ拘ラス後ニ至リ露艦損害ノ程度分明ト爲ルヤ水雷艇ノ效力爾ク大ナラス戰艦ノ運命亦爾ク脆キモノニ非サルヲ知リシニ非スヤ眇乎タル葉艇遂ニ能ク巍然タル巨艦ヲ殪シタリトノ說ハ英國ヨリモ佛國ニ於テ大ニ歡迎セラレタルニ相違ナシ蓋此ノ說ニシテ眞ナラハ佛國海軍ノ得意非常ナレハナリ

水雷艇ハ此ノ戰役ニ於テ幾多ノ功績ヲ擧ケ顯著ナル經歷ヲ作リタリ即チ其ノ爲シタル所多シト雖モ其ノ爲スヘシト信セラレタル範圍內ニ於テ爲サヽル所亦多シ魚形水雷崇拜者ヨリ見レハ其ノ結果小ニシテ殆ト失望ニ近キモノアリ軍艦ハ水雷ニ中レハ必ス轟沈セラルヽモノト一般ニ信セラレタルニ旅順艦隊ノ諸艦ハ水雷ニ罹ラサルモノ稀ニシテ然モ沈沒セルモノ稀ナルカ如キ其ノ一例ナリ是軍艦ノ防禦設備ノ効力豫想外ニ大ナルヲ示スモノニシテ防水檣（コッファーダム）二重底及ヒ防水區劃等

ハ縦令艦底ノ破壊ニ對シテ絶對的ノ防禦ト稱スルヲ得サルマテモ極テ有力ナル防禦タルヲ失ハサルナリ魚形水雷ニ裝塡スル爆藥ハ綿火藥二百听ヲ常トスレトモ此ノ量ニテハ未タ以テ豫期ノ効果ヲ收ムルニ足ラサルコト右ノ如クナルト同時ニ一方ニ於テハ更ニ多量ヲ裝塡スル沈置水雷又ハ浮流水雷ノ驚クヘキ効力ヲ發揮セルモノアルカ故ニ何レノ海軍モ大ニ魚形水雷ノ裝藥量ヲ增加セントカムルヤ必定ナリ而テ日本海軍ニテハ既ニ二十四吋保氏水雷ヲ試驗セシカ其ノ結果ハ重量過大ナル爲メ艦內ノ使用ニ適セスト斷定セラレタルコトヽ察セラル然レトモ裝藥量ヲ增加セント欲セハ必スヤ水雷ノ大サヲ增加セサルヘカラス有効距離ト速力トニ多キヲ求ムルコト爾ク大ナル今日ニテハ到底內部ノ塲所ヲ融通シテ裝藥量ヲ增加スルノ餘地アラサルナリ

魚形水雷カ其ノ崇拜者ノ希望ヲ滿タサヽルハ啻ニ其ノ効力ノ小ナルニ止ラス移動標的ニ對シテ成功ノ機會殆ト絶無ナルカ如キモ亦然リ今回ノ海戰ニ魚形水雷ノ犧牲トナリシモノハ全ク碇泊艦ニシテ移動中ノ軍艦ヲ打止メタルヲ聞カス若シ之アリトスレハ稀有ノ例外ナリ抑魚形水雷カ碇泊艦ヲ襲擊シ効力確實ナルコトハ久シキ前ヨリ確定セル問題ニシテ世人カ今回ノ海戰ニ對シ期待セル所ハ「縱舵調整器」ヲ備フル新式ノ魚形水雷カ疾走スル軍艦ニ對シテ如何ナル効果ヲ顯スヘキヤヲ知ルニ在リシカ吾人ノ知レル限リニテハ其ノ直接ノ効果殆ト皆無ナリシカ如シ其ノ直接ノ効果ヤ即チ皆無ナリシト雖モ間接ノ効果ハ頗ル顯著ナルモノアリ抑今回ノ海戰ニハ多ク艦隊戰鬪ヲ見ス偶之アルモ非常ナル遠戰ニシテ砲手ノ精練ナルモノ常ニ利益ヲ壟斷セシカ故ニ露國艦隊カ砲火ノ爲メニ多大ノ損傷ヲ蒙リタルニ反シ日本艦隊ハ被害極テ輕微ナリキ日本政府ノ催シタル觀戰航海船ニ乘組ミシ新聞通信員ノ東鄕艦隊ヲ見タルトキ特筆大書スヘキ事柄ト感シタルハ其ノ主戰艦隊カ一モ戰鬪力ニ影響スル程ノ損傷ヲ受ケ居ラサリシ一事ノミナリト云フヲ聞カハ思半ニ過クルモノアラン艦隊戰鬪カ遠距離ニ於テ行ハレタル原因ノ一半ハ魚形水雷ノ間接的効果ト見ルヘク一半ハ日本艦隊カ速力優リ砲手ノ技倆卓絶シ之ニ加フルニ東鄕提督カ其ノ軍艦ヲ愛惜セシニ在テ存ス速力優レハ己レノ欲スル所ニ從テ距離ヲ選定スルヲ得ヘク砲術精練ナレハ遠戰ニ利益アルヘク軍艦ヲ愛惜スレハ濫ニ敵ニ近ツカサル固ヨリ其ノ所ナリ何トナレハ旅順口ニ對スル日本艦隊ハ國內ノ軍艦ヲ擧リタルモノナレハ勢力減損スルトモ之ヲ補充スル道ナク而テ東鄕司令長官ハ第一著ニ勢力略相等シキ艦隊ヲ敵トシ後日ニ至リテ婆羅的艦隊來東セハ之ヲモ合セテ敵トスル覺悟ヲ有セサルヘカラサレハナリ要スルニ魚形水雷ハ戰鬪距離ヲ決定スルニ與リテ大ニ力アルヤ疑ヲ容レサルナリ

人或ハ日本艦隊ノ遠戰ヲ選ヒタルヲ見テ是其ノ六吋砲ノ用フヘカラサルヲ發見セルカ爲メナリト言フ者アリト雖モ是當時ノ事情ヲ充分ニ知ラサル者ノ說タルノミ戰鬪最激烈ナルトキノ距離ニ就テハ諸報告ノ傳フル所同シカラス少キハ五千碼ト云ヒ多キハ八千碼ト云フモ後者ハ誇大ニ失スルノ迹アリ蓋八千碼ノ十二吋砲ニ於ルハ猶五千碼ノ六吋砲ニ對シテ最大射程ナルカ如クナレハナリソハ兎ニ角五千碼ハ如何ナル魚形水雷モ奏功シ得ヘカラサル距離ナリ然レハ東鄕司令長官カ五千碼以上ノ距離ヲ取リタルハ其ノ意ヤ主砲ノミヲ以テ戰フニ在テ存シ其ノ目的ヤ砲手ノ技倆ヲ利用シ且前途多望ナル其ノ軍艦ヲ傷ツケサルニ在リシヤ疑ナシ即チ日本艦隊カ作戰目的ヲ達スルニ近戰ヨリハ多クノ時間ト彈藥ヲ要スル遠戰ヲ採リシハ斯カル特種ノ事情アルカ爲メニシテ之ヲ以テ直ニ六吋砲ノ無用ヲ說クハ誤レリ日本ハ決シテ此ノ砲ヲ無用視セス見ヨ目下建造中ナル新戰艦香取鹿島ノ副砲ハ全部六吋砲ナラスヤ魚形水雷ノ有効距離外ノ戰鬪ニテモ之ヲ離ルヽ程度ニ遠近ノ差アリテ其ノ近キモノニ在リテハ此ノ砲ヲ利用シ得ヘシ六吋砲ハ近戰ノ利器ナリ今回ノ海戰ニ近戰ヲ見サルノ故ヲ以テ何ソ將來モ亦之ヲ見スト云フヲ得ンヤ

今回ノ戰鬪ニハ撞頭ヲ使用スル機會ナク從テ其ノ効用如何ノ問題ヲ決スルニ至ラサリシカ今後兩三回ノ戰鬪ニシテ皆今回ノ如クナランニハ自然此ノ戰具全ク不用ト斷定セラレ遂ニ廢棄セラルヽニ至ルヘシ然レトモ之ヲ魚形水雷ニ比スレハ効力更ニ確實ナルノ望アリ蓋魚形水雷ト撞頭トハ一擊忽チ敵艦ノ死命ヲ制スルコトヽ公認セラレ居タルニ今回ノ海戰ハ魚形水雷ノ極テ危險物タルニ相違ナキモ未タ以テ一擊死命ヲ制スルニ足ラサルヲ證明シタルニ反シ撞頭ニ在リテハ一タヒ之ヲ以テ突破セハ如何ナル軍艦ニモ致命傷ヲ與ヘスシテ止サルヘケレハナリ乃チ撞頭ノ効力ニ關スル從來ノ主張ハ今尙相應ニ重キヲ爲スモノト謂フヘシ但現時ノ撞頭ノ形狀カ果シテ豫期ノ効果ヲ收ムルニ適當ナリヤ否ヤハ自カラ別個ノ

問題ニ屬スルモノトス、

裝甲ノ機關ヲ保護スル效力ハ世人ノ知悉スル所ニシテ汽罐ハ彈丸ノ爲メニ破損シタルコトアレトモ汽機ニ於テハ少シモ之ニナク又汽罐ノ損傷トテモ甚タ輕微ナリキ又裝甲ハ人身ニ對シテモ多クノ場合ニ於テ同樣ノ效果ヲ顯シ防禦餘リ完全ナラサル「ロシーヤ」「グロモボイ」ニ於テ殊ニ然ルヲ見タリ陰砲甲壁ハ榴彈ヲ防クノ點ニ於テ豫期ノ效果ヲ發揮シタリ然レトモ斯ク言ヒタレハトテ同甲壁ヲ以テ砲熕防禦ノ最良法ナリト速斷スヘカラス若シ裝甲配置式ニシテ今日ノ最新式戰艦ニ備フル如キ中央砲臺保護式ナリセハ之ニ優ル效果ヲ顯シタルヤ必定ナリ實ニ陰砲甲壁ナキ部分ノ甲板ハ死屍累々トシテ慘狀ヲ極メ防禦面積擴張論者ノ爲メニ有力ナル實例ヲ與ヘ同甲壁ノ價値ハ敗説スルノ必要ナキ迄ニ明瞭ト爲リタリ

司令塔ニ於テ奇異ナル現象ヲ顯シタルモノハ「グロモボイ」ナリ其ノ司令塔ニハ檐ノ如ク差懸レル屋根アリテ宛モ榴彈ヲ炸發セシムルノ具ト爲リタリ兩艦隊諸艦ノ司令塔ノ型式ハ二三種アリシカ何レモ理想ニ近シト稱スルヲ得サルカ如シ何レノ艦モ煙突ハ非常ナル損害ヲ受ケ青島其ノ他ニ逃竄セル露艦ノ煙突ハ一トシテ完膚ナシ抑煙突ハ機關ノ力ヲ十分ニ發揮セシムル爲メニ設クルモノナレハ其ノ破損ハ大ニ速力ニ影響セサルヲ得ス飜テ我カ最新軍艦ヲ見レハ何レモ煙突多ク且長キニ非スヤ四本煙突ノ巡洋艦ハ其ノ船體ノ外ニ「パウ」又ハ「クオーター」ニ於テ幅六十呎、堅四十呎ノ餘分ノ標的ヲ呈シ船體ニ中ラサル彈丸モ煙突ニ中リテ炸發スルノ不利アリ然ルニ煙突ハ如何ニシテモ其ノ數ヲ減シ又ハ其ノ長サヲ縮ムルコトヲ得サルカト云フニ他ノ部分ニ於テ相應ノ犧牲ヲ供スレハ之ヲ爲シ得ルモノヽ如シ吾人ハ當局者カ刻下實行シツヽアル上部構造物及ヒ通風筒ヲ成ルヘク減縮スルノ方針ヲ煙突ニモ及サンコトヲ希望シテ已マサルナリ

「マキシム」砲ヲ以テ探海燈ニ對スル射撃ハ今回ノ戰爭中未タ海上ニテモ陸上ニテモ行ハレサリシカ如シト雖モ吾人ノ見ル所ニテハ之ヲ行フヘキ機會ハ充分存在セルカ如シ日本艦艇カ探照ノ射光ニ苦メラレタル旅順口ニ於テ殊ニ然リ之ニ對シテ「マキシム」砲ヲ使用スルトキハ其ノ效果甚大ニシテ若シ探海燈ヲ命中破壞スルコトヲ得ハ上乘ナレトモ必スシモ然ルヲ要セス探海燈員ニシテ機砲ノ射撃ヲ受ケツヽアルヲ知ラハ到底平然トシテ之ヲ取扱ヒ居ルコト能ハサルカ故ニ其ノ探海燈ハ少クトモ一時無效ト爲ラン西米海戰ノ際米艦ノ一「マキシム」砲ハ執拗ニ西艦ノ一門ノ六吋砲ニ彈丸ヲ注キ砲員ヲシテ之ニ近ツクコトヲ得サラシメ以テ之ヲ無效ナラシメタルハ好個ノ實例ニ非スヤ而テ獨逸海軍ハ其ノ「マキシム」砲ニ向テ砲楯ヲ備ヘテ敵ノ「マキシム」砲ニ對スル防禦ト爲セシモ他海軍ニ於テハ之ニ倣フモノ少シ

六一　日露海戰ニ由テ經驗シタル魚雷不成績ノ原因ニ就テ

（一九〇四年十二月三十日發刊「エンジニヤリング」所載）

倫敦國立爆發藥會社々員エス、マルテンヘール氏ハ十二月二十七日附ヲ以テ本紙ニ左ノ投書ヲナセリ

「グローブ」新聞十二月二十三日ノ社説ニ曰ク極東ノ海戰ニ關シ專門家ノ腦裡ニ映セル戰鬪材料ノ實驗上最顯著ナルハ保氏魚雷ノ效果不充分ナルコト是ナリ一面ヨリ觀察スレハ此ノ兵器ハ終始一貫シテ決勝ノ要素ヲ爲シ日本軍ハ之ニ由リテ一夜ニシテ制海權ヲ把握シ而モ再之ヲ失ハス旅順ノ陷落滿洲ノ對戰ヲシテ實行ニ近カラシムルヲ得タリト雖モ他ノ一面ヨリ見レハ幾回ノ水雷襲撃就中最近「セヴストーポリ」ニ對スル襲撃ノ成績ヲ見ルニ同艦ノ被レル損害ノ程度ニ徴シテ保氏水雷ノ爆破力ハ吾人ノ豫想セル如ク爾ク不可抗的ノモノニ非サルヲ示セリ日本ノ水雷ニシテ露艦ノ防禦網ニ罹リ爆發セスシテ已ミタルモノ其ノ數甚タ多シ吾人ハ其ノ原因ヲ以テ水雷ノ實用頭部ニ裝ヘル「ピストル」及ヒ導火子ノ作用完全ナラサルニ在リト見做サヽルヲ得ス全裝藥ヲ充塡セル頭部モ右ノ理由ノ爲メ實戰ニ於テ爆發スルコト斯ノ如ク夫稀ナリ苟モ此ノ重要ナル兵器ヲ遺憾ナク活用セント欲セハ更ニ時ト金トヲ拋チテ周ク研究ヲ遂ケ之ヲ改良シ防禦網其他ノ障礙物ニ對シテ有效ナラシメサルヘカラス縦舵調整器ノ發明ハ水雷ノ進路ヲ直條ナラシメタリ然レトモ爆發確實ナラサレハ進路ノ直條遂ニ何ノ效アランヤ日本海軍ノ水雷科將校ハ斯道ノ智識ニ於テ世界第二ニ下ルモノニアラサレハ吾人ハ水雷ニ其ノ效果ヲ奏セシメサルノ罪ヲ彼等ニ嫁セントスルモノニ非ス必スヤ頭部ノ機巧ニ未タ何人モ發見セサル缺點アルニ由レリト斷言スルニ憚カラサルモノナリト

右社說ノ言フカ如ク魚雷頭部爆發ノ結果確實ナラス殆ト失望スヘキモノアルハ這般ノ海戰ニ由テ始テ知ラレ大ニ世人ノ注意ヲ喚起シタリ而テ余ノ見ル所ヲ以テスレハ其ノ原因左ノ二項ニ缺點アルカ爲メナラサルヲ得ス

一 裝藥ノ塡充法

二 裝藥ヲ爆發セシムル裝置

第一ニ魚雷ノ裝藥ハ小形ナル板狀及ヒ鼓狀綿火藥ノ數多ヲ累積スルモノニシテ其ノ數ハ成果ノ大小ニ由テ一定セス概ネ一百乃至一百五十個ニシテ其ノ間隙ニハ空氣充滿ス此ノ空氣ハ爆發ノ際自然ニ緩衝作用ヲ爲シ爆發力ヲ殺減スルノ憂アリ又頭部ハ薄キ銅板ノ筐ニシテ其ノ堅牢ノ度ハ唯裝藥ノ全重量ヲ支ヘ積重ネタル綿火藥ノ板ノ離崩解散スルヲ防クニ止ルカ故ニ少シモ爆破力ニ堪フル能ハス是ノ故ニ裝藥ノ一小部燃起爆發スレハ銅筐忽チ破裂シ殘餘ノ部分ハ未タ燃起セスシテ吹飛サルヽコト珍シカラサルナリ第二ニ導火裝置（デトネーチング、エゼント）（乾綿火藥）ハ頭部ノ尖端ニ挿入シ裝藥ノ半分ヨリ少シク深ク達スルノミニテ其ノ底ニ至ラス而テ頭部ハ尖端直徑僅ニ三吋底部ニ至リ十八吋トナルモノナルカ故ニ火藥ノ最多量ナル部分ハ導火裝置ノ作用ヲ受ケス裝藥ノ尖端ノ燃起シタル後之ニ傳火セラレテ燃起爆發スルモノナリ

然ルニ既往六年間ノ研究ト實驗トハ一個ノ綿火藥製造機械ヲ發明シ之ニ由テ如何ナル分量如何ナル形狀ノ裝藥ヲモ一塊トシテ製造シ得ルニ至レリ裝藥一塊ナレハ裝塡密度理想ニ適ヒ空氣ノ存在スヘキ間隙ナク裝藥ノ全部確實ニ一度ニ燃起シ唯一部分ノミ爆發シテ止ムカ如キコト莫シ加之裝藥其ノ物カ一塊トナリ居ルカ故ニ全部ニ傳火シ易カラシムル爲メ從來ノ如ク離崩ヲ防クノ必要ナク從テ頭部ノ銅板薄クトモ少シモ差支ナシ又導火裝置ハ尖端ヨリ底部マテ貫通セシムヘク且火藥ノ最多量ナル部分ヲ第一ニ燃起セシムル爲メ尖端ヨリ發火セス底部ヨリ發火スル樣ニ導火裝置ヲ造ルヘシ

外國政府ノ烱眼ナル早クモ右ノ方法ノ利益大ナルヲ看取シ之ヲ採用シタルモノ既ニ三國ニ及ヘリ惟フニ我カ國及ヒ他ノ外國（勿論剋下ノ兩交戰國ヲ含ム）政府モ目下水雷ノ裝藥問題ヲ研究シ居ルコトナレハ遠カラス之ヲ採用スルヤ必然ナラン又頭部ノ構造モ之ヲ改良セサルヘカラス蓋其ノ形狀圓錐形ナルヲ以テ艦底ニ撞著密接シテ爆發スルハ其ノ尖端（直徑三吋）ナル一小部ニ止リ火藥ノ多量ナル太キ部分ハ艦底ヨリ少シク離レテ爆發スルカ故ニ其ノ中間ニ在ル海水ハ一種ノ緩衝物ト爲リテ爆破力ヲ鈍ラスヘシ此ノ缺點ヲ排除スル爲メ特種ノ頭部製出セラレタリ此ノ頭部ハ尖端ヲ空虛ニ爲セルモノニシテ敵艦ニ命中スレハ空虛部潰陷シ裝藥ノ最太キ部分（直徑十八吋）艦底ニ接著シテ爆發スルコトヽ爲ルナリ若シ夫十八吋水雷ノ裝藥ヲシテ其ノ破壞力ヲ遺憾ナク發揮セシメンカ縱令世界ノ最大戰艦ヲ擊沈シ得サルマテモ少クトモ之ヲシテ全ク戰鬪力ヲ失ハシムルニ足ルヤ疑ナシ

六二 日露戰爭ニ由テ經驗シタル機械水雷ノ威力及ヒ砲熕ノ裝甲ニ對スル効力

（一九〇五年一月六日發刊「エンヂニアリング」所載）

日露海戰ハ今日ニ至ル迄ハ海軍作戰ニ關シテ亦格別重要ナル敎訓ヲ與ヘス但實戰ヲ目擊踏査シタル有能ノ海軍批評家カ後日戰史ヲ修メ事實ヲ精査スルニ至ラハ吾人亦之ニ依テ得ル所更ニ多カルヘキハ固ヨリ疑ヲ容レス世既ニ說ヲ爲ス者アリ曰ク現戰役ハ魚雷ノ無效ヲ證明セリト果シテ然ラハ軍艦ノ砲熕ニ就テモ殆ト同一ノ批評ヲ下シ得ヘシ何トナレハ旅順陸上ヨリ港內蟄伏ノ露艦ヲ破壞シタルカ如キハ海軍砲ヲ用ヒタルニ相違ナシト雖モ純乎タル海軍行動ト稱スヘカラサレハナリ兎ニ角水雷襲擊ハ開戰當時ニ於テ露國戰艦二隻ヲ毀損シ一時戰鬪力ヲ失ハシメタリ當時ノ事情ハ特別ナリシニ相違ナシト雖モ戰時ニ於テハ斯ク急襲擊ヲナシ得ル機會アルヲ以テ評論者ハ決シテ之ヲ度外視スヘキニアラス然リト雖モ現戰役ニ於ル水雷ノ效力ハ主トシテ疑懼恐怖ヲ敵ニ與フルニ在リテ東鄕大將カ自カラ封鎖セル港灣ヨリ遠離シテ根據地ヲ定メ茲ニ其ノ軍艦ヲ集屯セシメタルハ何ソヤ是蓋敵ノ水雷艇ヲ避ケンカ爲メナリシヤ疑フヘカラス東鄕大將ハ固ヨリ露艦ノ出テ來リテ決戰セシコトヲ希望セリ敵ノ水雷艇ヲ忌憚セルニアラスシテ何ヲ苦シテカ特ニ遠地ニ在ランヤ水雷命中ノ效力些少ナリシハ吾人ノ豫想外ニ出テタル事實ナリ水雷ニ罹レル軍艦ハ到底致命傷ヲ免レサルヘシトハ世人ノ普ク信セシ所ナリキ然ルニ二月八日ノ夜襲ヲ受ケタル露國戰艦二隻ハ轍テ修理ヲ終ヘ再戰線ニ出テ來リシニアラスヤ

闘クカ如クンハ旅順港内ニテハ大修理ヲ行フノ便宜ニ乏シト云フ如何ニシテ斯カル運ヒニ至リシカ此ノ點ニ就テハ戰後ニ於テ詳細ノ事實ヲ確メタル上ナラテハ了知スル能ハサルヘシ

魚雷ノ襲撃ハ既ニ事實ノ證明スル如ク屢次失敗ニ終レルニ拘ラス機械水雷ハ有力ナル破壞機關トシテ能ク其ノ功ヲ奏セリ然リト雖モ機械水雷ハ元來敵味方同樣ニ損害ヲ加ヘ又中立船舶ニ危害ヲ及スモノナレハ列國カ之ヲ以テ世界一般ニ對スル敵對行爲ト見做シ斷然禁止スヘシト宣告スルヤ否ヤハ將來ノ問題ニシテ今日ニ於テハ亦之ヲ奈何トモスヘカラスト雖モ若シ列國ニ於テ之ヲ禁止セハ日本ハ初瀬ヲ露國ハ「ペトロパウロウスク」ヲ失フノ不幸ヲ免レシナルヘシ日本戰艦八島モ亦機械水雷ニ觸レテ沈沒シタルヤノ報アレトモ此ハ何カノ誤謬ナルカ如シ兎ニ角機械水雷ノ爲メ露國ハ戰艦「ペトロパウロウスク」ノ外ニ巡洋艦一隻水雷敷設船「エニセイ」砲艦三隻及ヒ水雷艇或ハ驅逐艦幾隻ヲ失ヒ尚戰艦「ポベーダ」「セワストーポリ」裝甲巡洋艦「バヤーン」ニ重傷ヲ蒙リ日本ハ前記初瀬ノ外海防艦平遠巡洋艦二隻砲艦一隻水雷艇一隻ヲ失ヘリ

右ノ如ク機械水雷ハ現戰役中ニ其ノ作用ヲ逞ウセルニ之ニ反シテ砲熕ノ效力ノ擧ラサリシハ大抵遠距離ニ於テ交戰シ裝甲保護ヲ完備シタルニ因ラスンハアラス若シ現戰役中ノ交戰ヲ以テ將來行ハルヘキ戰爭ノ特徴ヲ豫示スルモノト看做シ得ヘクンハ吾人ハ自然ノ勢トシテ六吋砲ノ如キ副砲臺ノ無效力ヲ認メサルヲ得ス不幸ニシテ我カ英國軍艦ノ多數ハ大ニ此ノ種ノ小砲臺ヲ有セリ但此ノ問題ハ近頃既ニ本誌ニ論セシ所ナレハ今再之ヲ贅セサルヘシ現戰役ノ經驗ニ依レハ大口徑砲ノ彈丸ト雖モ豫想ノ如キ大損害ヲ與フルコト能ハサリキ「ツェザレウヰチ」ノ如キ屢次此ノ種ノ砲彈ヲ蒙レリ或ハ云フ八吋砲彈及ヒ十二吋砲彈ヲ受ケタルコト前後十五回ニ及ヘリト然ルニ善ク危急ヲ免レテ膠州灣ニ逃竄セシニアラスヤ勿論砲撃ニ關シテ一層詳細ノ事實ヲ確知シ得ル迄ハ遽ニ斷案ヲ下シ難シ故ニ吾人ハ茲ニハ唯裝甲ノ效力能ク砲熕ヲ凌駕セルカ如シト謂ヒ置カンノミ

六三　日露戰爭ニ由テ經驗シタル事項

（一九〇五年一月十九日發刊「ネーヴァル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）

英國海軍步兵少佐エッチ、シー、エヴァンスハ近頃「ローヤル、マリーン」會館ニ於テ「日露戰爭ノ實驗」ト題スル講演ヲ爲セリ其ノ要領左ノ如シ

海陸軍協同ノ運動ヲ爲ス時ハ孰レモ極力相扶翼セサルヘカラス海陸軍ハ實ニ車ノ兩輪鳥ノ兩翼ニ似タリ日露戰爭實驗中最著シキハ日本ノ海陸軍カ能ク協心戮力ノ實ヲ擧ケタルト之ニ反シテ露國海軍カ全然其ノ陸軍ヲ扶翼シ能ハサリシコト是ナリ露國陸軍ノ動員法ハ快捷敏活ナラサルヲ以テ到底早急ノ需要ニ應スルコト能ハス元來露國ハ殆ト無限ノ兵數ヲ送發スルノ能力ヲ有スレトモ其ノ動員法ノ敏活ナラサルカ爲メニ不意ノ攻撃ニ應スルコト能ハス若シ露國ヲシテ其ノ動員法ヲ完行スルノ時間ヲ得セシメハ非常ノ勢ヲ以テ陸軍ヲ增大スヘシ滿洲陸戰ノ末期ニ當リ巨萬ノ露兵カ戰地ニ麕集シタルハ本國ニ於ル動員法カ充分ノ時間ヲ得テ漸ク其ノ效果ヲ示スニ至リタルカ故ナリ露國海軍タルモノ須ラク這般ノ事情ヲ斟酌シテ敵ノ活動ヲ阻害シ自國陸軍ヲシテ充分ノ準備時間ヲ得セシムルコトヲ力メサルヘカラス由來海軍ノ戰略範圍ハ敵ノ海岸線ナリ故ニ露國軍艦ハ速ニ日本ノ海岸線ニ侵撃セサルヘカラサリシナリ若シ露國海軍ニシテ旅順ニ據守セス之ヲ以テ單ニ其ノ根據地トナシ進ンテ日本海岸ニ逼ラハ露國陸軍ハ其ノ間ニ乘シテ兵士ヲ徵集シ充分ノ準備ヲ爲スヲ得ヘク隨テ日本兵ハ一人トシテ朝鮮ニ入ルコト能ハサリシナラン要スルニ海戰ニ於ル成功ノ秘訣ハ機先ヲ制シ神速ノ行動ヲ以テ第一着ニ激甚ノ打撃ヲ敵ニ與フルニ在リト

夫ヨリエヴァンス少佐ハ英國醫學雜誌及ヒ「ネーヴァル、アンド、ミリタリー、レコード」ノ記事ヲ引用シタル後更ニ歩ヲ進メテ左ノ如ク論シタリ

旅順ニ在リシ露艦ニシテ降伏條約調印前ニ爆發セラレシモノハ大抵引揚ケ得ヘシトノ報道アリ又此ノ爆發トテモ或局部ヲ除キテハ劇甚ノ損害ヲ與ヘ居ラサルヘシ

日本ノ行動中參考ニ供スヘキ資料種々アレトモ其ノ海上輸送法ノ如キハ確ニ學フニ足ルヘキモノアリ又日本海軍ノ死

傷數甚タ少キモ注意スヘキ事實ナリ元來海軍死傷數ノ多少ハ常ニ議論ノ題目タリ露國海軍カ訓練ヲ缺キ殊ニ砲術ニ長セサルカ故ニ多大ノ損害ヲ敵ニ與フルコト能ハサリシハ明白ナレトモ日本海軍損害ノ爾ク少キハ果シテ何ニ因ルカ是研究スヘキ問題ナリ

次ニ少佐ハ露國陸軍ノ不振ニ論及シテ曰ク

是露國カ全然軍事上ノ展開ヲ解リタルカ故ノミ若シ露國ニシテ適切堅確ナル方針ニ依リ戰略的行動ヲ採リ同時ニ海軍ノ充分ナル應援ヲ得タルナランカ日本軍ヲ滿洲以外ニ牽制スルコトヲ得タリシナラン

少佐ハ露國カ交通線トシテ西伯利鐵道ヲ使用スルノ巧妙ナルヲ激賞シ且日本軍ノ交通線ニ關シ左ノ如ク論シタリ

日本陸軍ハ始終新上陸點ヲ搜索シ居タリシカ上陸ノ際ハ海軍ノ勇敢ナル掩護ヲ受ケタリ又日本軍ハ戰線トノ聯絡ヲ簡易ニシ最大數ノ兵員ヲ戰線ニ送ランカ爲メニ幾度トナク根據地ヲ變更セリ故ニ日本軍ハ必要已ムヲ得サルニアラサレハ決シテ交通線ヲ延長セサリシナリ更ニ戰略ニ就テ言ハンカ戰略ノ唯一ノ目的ハ敵軍ヲ破壞スルニ在リ日本軍ハ屢次露軍ヲ敗リタルニ拘ラス未タ之ヲ殲滅スルニ至ラス露軍ハ多少秩序ヲ保チテ退却シ後方ニ於テ新陣地ヲ固メシニアラスヤト

二 戰役第二期

六四 所謂婆羅的艦隊ノ東航（軍事批評家）（一九〇四年九月二十六日發刊「タイムス」所載）

彼ノ有名ナル婆羅的艦隊ハ東航準備ノ爲メニ約八箇月ヲ費シテ後遂ニ九月十一日リバウニ向ケクロンスタッドヲ出港セシカ今レーウエリニ到リテ投錨セリ六、七、八、九月ノ間幾回モ東航ノ期日發表セラレタルカ其ノ最近ニ發表セラレシ東航期ハ十月三日ナリ聞ク所ニ據レハ司令長官ロジェストウエンスキー少將ハ同日ヲ以テ聖彼得堡ニテ露帝ニ最後ノ謁見ヲ遂ケ急速艦出發スヘシト云フ此ノ艦隊ニ屬スル主要ナル軍艦ノ狀態ニ就キテハ專門家既ニ屢「タイムス」紙上ニ論スル所アリタリ吾人今此等ノ所說及ヒ其ノ他ノ報道ヲ綜合シテ推考センニ婆羅的及ヒ太平洋兩艦隊ノ聯絡ハ愛國的幻想ナリト斷定スルヲ得ヘシ何トナレハ婆羅的艦隊ノ諸艦今日ノ如ク戰備未完ノ狀態ニアルヨリシテ之ヲ察スレハ此ノ援勢カ一箇ノ牽制部隊トシテ絕東ニ現ル丶前太平洋艦隊ノ運命定ルヘキヲ確信シ得ルノ理由アルヲ以テナリ然レトモ之ニ與フルニ時間ト金力トヲ以テセハ（就中時間ニシテ充分ナランニハ）婆羅的艦隊モ亦遂ニ露國ノ權勢ヲ辱シメサルノ實ヲ現スニ至ルヘキハ明ナリ

此ノ大分的計畫ノ爲メニ集合セシメラレタル艦隊ニシテ實際婆羅的海ヲ去ルニ至ルマテハ其ノ諸艦ニ對シ詳細ノ說明ヲ加ヘシコト容易ニアラス否說明ヲナスノ必要アラサルヘシ然レトモ現在レーウエリニハ六隻ノ戰艦五隻ノ巡洋艦若干隻ノ運送船及ヒ水雷艇アリ之ヲ合計スレハ數字上著大ナル勢力ヲ爲スニ足レリ尚クロンスタッドヨリ東ニ三隻ノ軍艦來航スルヲ待チ之ト合シテ武者修行ノ途ニ上ランナトス此ノ艦隊ノ戰艦ハ必スヤ「インペラートル、アレクサンドル」三世「オスラービヤ」「ナワリン」「クニヤージ、スウオーロフ」「シソイ、ウエリーキー」「ボロヂノ」ナラサルヘカラス「アリヨール」亦或ハ之ニ加ランモ知ルヘカラス巡洋艦中ニハ「ドミトリー、ドンスコイ」「アウローラ」「アドミラル、ナヒーモフ」「アルマーズ」「イズムルード」等アルナラン假裝巡洋艦「スモーレンスク」及ヒ「ペテルブルグ」亦今回ハ至當ナル任務ヲ受ケ其

ノ舊惡ヲ洗ヒタル後リバウニ達シテ之ニ合スルノ時ヲ待ヘケン此等軍艦中ニハ恐ラクハ許多ノ缺點ヲ免レサルモノアラン然レトモ此ノ艦隊ハ數字上ノ勢力ニ於テハ優ニ日本海軍ニ敵スルニ堪ヘタリ一萬三千噸以上ノ排水量ヲ有スル「ボロヂノ」型ノ四戰艦ハ蓋露國軍艦中最有勢ノモノタラサルヘカラス

此ノ大艦隊愈東航ノ途ニ上ラハ獨逸商船會社ヨリ購入露名ニ改稱シタル假裝巡洋艦「ドン」「ウラール」「テレーク」「クバーニ」「イルツイシ」「アナヅイリ」「アルダン」等モ亦之ト同航シ或ハ先發スヘシ黒海ヨリシテ之ニ合セントスルモノハ在オデッサ露國航業貿易會社所有船「ユピーテル」號「メルクーリヤ」號「メテオル」號ナリ「ゴルチヤーコフ」號「ニコライ」號亦或ハ之ニ加ラン又義勇艦隊汽船ノ内ニテ「キーエフ」號「ウラヂーミル」號「ヤロスラーウリ」號「タムボフ」號「ウオローネヂ」號「サラートフ」號アリ是等ハ補助ノ運炭船トシテ使用スヘキモノナリ外ニ「アリョール」號病院船トシテツーロンニアリ尚黒海ヨリ發スル給炭船隊ノ外ニ獨逸汽船會社ハ此ノ東航艦隊ニ給炭スルノ目的ヲ以テ既ニ其ノ大船隊ヲ組織シタレハ艦隊ノ航路ニ沿ヒテ之ヲ配置スルコトハ容易ナルヘシ此ノ大艦隊カ到底本年中ニハ日本ノ海面ニ達シ能ハサルコト旅順口ヲ其ノ根據地ニ利用シ得ヘカラサルコト浦鹽斯德ノ夫迄ニハ凍結スヘキコト露國ハ其ノ航路ニ一ノ海軍根據地ヲ有セス英國領海ハ決シテ其ノ載炭所ニ使用シ得ヘカラサルコト是等ヲ思考シ來レハ此ノ東航計畫タル斷シテ危險ノ擧ニシテ道理上之カ成功ヲ期スルコト頗ル難カルヘシ最大困難ノ之ニ纏綿スルアリトスルモ實際上必スシモ爲シ得ヘカラサルモノニアラス蓋勝敗如何ニ拘ラス眞實ノ苦難ハ戰起ル時ニ始リ其ノ後ニ至リテ益々其ノ度ヲ加フヘキハ豫メ覺悟セサルヘカラサレハナリ兎ニ角此ノ計畫ハ頗ル壯擧ト謂ツヘキモノニシテ果シテ東航スルニ至ラハ其ノ經歷ト其ノ運命トハ近世海軍史中最顯著ニシテ且最教訓ト爲ルヘキ一節ヲ爲スナルヘシ

旅順口ニ對スル日本ノ行動ハ婆羅的艦隊ノ出航スルト否トニ由リテ手加減スヘキモノナリ婆羅的艦隊若シ世ノ豫想スル所ヨリ早ク出航セハ日本ハ此ノ増援艦隊ノ來著前ニ敗餘ノ太平洋艦隊ヲ破壞スルノ必要ニ驅ラレ大ナル犧牲ヲ顧ミルニ遑アラサルナラン然モ豫期ノ如ク其ノ出航ニシテ遲延セハ毫モ旅順口ニ荒療治ヲ加フルノ必要ヲ感セサルヘシ何トナレハ日本ハ陸戰ノ進行上必スシモ旅順口ノ港灣及ヒ要塞ヲ占領スルヲ要セス日本ニシテ青泥窪ニ其ノ不凍港ヲ有スルニ於テハ是ニテ既ニ其ノ交通線路ノ安全ヲ保ツニ足ルヘケレハナリ

六五　婆羅的艦隊ノ東航　（甲鐵艦交戰史著者エッチ、ダブルユー、ウイルソン）

（一九〇四年十二月發刊「ナショナル、レビュ」所載）

婆羅的艦隊ハ勇壯ナル一民族ノ獨立及ヒ自由ヲ掠奪セントノ目的ヲ以テ東航スルモノニシテ二十世紀ノ歷史上一大事跡タルヘキナリ其ノ東航ハ軍事上及ヒ政治上ヨリ之ヲ觀レハ日露海戰ノ運命ヲ左右スル現象ニシテ其ノ成敗利鈍カ英國及ヒ世界ニ取リテ最大緊要ノ結果ヲ致スヘキハ猶數百年前西班牙ノ所謂「必勝艦隊」カ一大海戰ニ由テ我カ英國ノ自由ヲ粉碎セント謀リタル事實ノ如シ

英國ニ於テハ婆羅的艦隊ノ勢力ヲ輕視シ之ヲ實際戰鬪力ニ乏シキ老朽裝甲艦ヨリ成ルモノヽ如ク思惟スルノ傾向アリ然レトモ此ノ如キハ事實ニアラス婆羅的艦隊ノ大部分ハ眞艦ニシテ其ノ役務ニ堪フル點ニ於テハ之ヲ旅順口艦隊ニ比シ遜色アリトスルノ理由ナシ蓋旅順口艦隊ノ戰艦モ過半ハ露國製ナルカ其ノ構造ノ堅牢恃ムニ足ルヘキコトハ既ニ善ク知ラレタリ司令長官ロジェストウェンスキーノ主力ハ七隻ノ戰艦ニアリ其ノ內四隻即チ「クニヤージ、スウオーロフ」「アリヨール」「ボロヂノ」「アレクサンドル」三世ハ全ク新造ニ係リ最良戰艦中ニ位スルモノニシテ各十七海里乃至十八海里ノ速力ト十二吋砲四門六吋砲十二門ヲ有シ其ノ水線部ハ九吋克式甲帶ヲ以テ保護シ我カ支那艦隊ニ屬スル四隻ノ「カノパス」型戰艦ニ比スレハ遙ニ優等ニシテ我カ在役中ノ最良戰艦ニ比スルモ左ノミ劣ラサルモノアリ

又別ニ二隻ノ新式戰艦「オスラービヤ」アリ十吋砲四門及ヒ六吋砲十一門ヲ有シ其ノ速力ハ前ノ四艦ニ比シ少シク優レリ他ノ二隻ノ戰艦即チ「シソイ、ウエリーキー」及ヒ「ナワリン」ハ舊式ニシテ小形ナリ然レトモ各十二吋砲四門及ヒ六吋砲六門乃至八門ヲ有シ其ノ裝甲ハ品質劣等ナレトモ厚重ナリ然レトモ速力緩慢凌波性不充分ニシテ其ノ石炭消費高頗ル多

シ故ニ是等ハ遠洋航海ニ次クニ艱難ノ戰役ヲ以テスルカ如キ計畫ニ使用スルニ適セス「ヂェーン」氏ノ算法ニ據レハ此ノ戰艦々隊ノ總勢力ハ六點ナリ

婆羅的艦隊ニ屬スル巡洋艦九隻アリ其ノ五隻即チ「オレーグ」「ヂェムチウグ」「アルマーズ」「イズムルード」「アウローラ」ハ快速力ニシテ新制式ナリ然レトモ「オレーグ」ヲ除クノ外ハ其ノ砲熕ノ装甲保護ヲ有セス其ノ速力ハ十九海里乃至二十三海里ニシテ總テ新造ナリ他ノ四隻ハ舊式艦ニシテ内三隻即チ「アドミラル、ナヒーモフ」「コルニーロフ」(貼ク原文ニ従フ)及ヒ「ドミトリー、ドンスコイ」ハ全然新式ニ改装セラレタルカ故ニ其ノ効力十暫シタル所ヨリ大ナリ他ノ一隻ハ即チ「スウエトラーナ」ニシテ尚其ノ役務ニ堪フルヲ得ヘシ驅逐艦十二隻アリ其ノ制式ハ航洋ノ難業ニ堪フルモノニシテ或點ニ於テハ最近ノ英國式ニ似タリ其ノ内ニ隻ハ今回ノ戰爭中英國政府ノ監視ヲ潜リテ同國ノ某商會ヨリ密買シタルモノナリ而テ多數ノ假装巡洋艦義勇艦隊汽船工作船、給糧船及ヒ給炭船ノ一隊艦隊ニ隨伴セリ假装巡洋艦ノ多數ハ獨逸ヨリ購求シタル快速力ノ郵便船ニシテ之ニ武装スルニ六吋砲及ヒ四吋七砲ヲ以テス義勇艦隊汽船モ亦高速力ノ武装船ニシテ商船ヲ攻撃シ又ハ哨艦トシテ使用スルニ適スルモノナリ全艦隊ノ組織ハ左ノ如シ各艦ノ下ニ附シタル數字ハ其ノ勢力ノ評點ナリ

本隊(喜望峯迂回)

海軍中將ロジェストウエンスキー直率

「スウオーロフ」 一
「アリヨール」 一
「ボロヂノ」 一
「アレクサンドル」三世 一
「オスラービヤ」 ・八
「ドミトリー、ドンスコイ」 ・二
「アドミラル、ナヒーモフ」 ・三
「アドミラル、コルニーロフ」(貼ク原文ニ従フ) ・二
「アウローラ」 三

支隊(蘇士運河通航)

海軍少將フェリケルザム直率

「ナワリン」 ・六
「シソイ、ウェリーキー」 ・六
「オレーグ」 ・三
「ヂェムチウグ」
「イズムルード」 一
「アルマーズ」 一
「スウェトラーナ」 ・二

全艦隊勢力合計 七・六

(備考)日本艦隊ノ勢力總點ハ十二點四ニシテ旅順艦隊若シ健在ナラハ四點六浦鹽艦隊ハ一點三ナリ日露艦隊中三等巡洋艦以上ノ軍艦備砲數左ノ如シ但假装巡洋艦ハ婆羅的艦隊中此ノ種ノ特設船舶多シ

日本艦隊		露國艦隊	
		(一)旅順艦隊	
新式長射程十二吋砲	一六門	十二吋砲	十四門
新式長射程十二吋半砲	三門		
新式長射程十吋砲	一門	十吋砲	八門

計二十門	
舊式十二吋砲	四門
舊式十吋砲	四門
新式八吋砲	五七門
計六十五門	
六吋砲	二〇〇門
四吋七砲	九九門
計二百九十九門	
合計	
長射程重砲	二〇門
中等砲	六五門
輕砲	二九八門

八吋砲	二門
六吋砲	七四門
(二)浦鹽艦隊	
八吋砲	八門
六吋砲	四四門
(三)婆羅的艦隊	
十二吋砲	二四門
十吋砲	四門
八吋砲	二門
六吋砲	一二七門
四吋七砲	三七門
長射程重砲	四八門
中等砲	一二門
輕砲	二八三門

戰鬪上ニ一大要素タル新式長射程重砲ハ露國艦隊ニ於テ多キヲ見ルコト斯ノ如シ

然レトモ戰鬪材料ノ價値ヨリハ軍艦ヲ操縱スル人員ノ伎倆如何ヲ知ルノ要アリ開戰ノ當時露國ノ最良士官及ヒ水兵ハ既ニ極東ニ在リ開戰後ニ至テモ旅順口ノ交通尚未タ遮斷セラレサル内ハ續々同地ニ派遣セラレタリ是ヲ以テ婆羅的艦隊乘組員ノ多數ハ無經驗ノ將校及ヒ無訓練ノ水兵ナリ戰艦「アリヨール」ニ於テ絶エス騷動ノ起リシ如キハ即チ其ノ無能ヲ證明シタリ然レトモ今ヤ乗員ハ殆ト六箇月ノ間斷ナキ訓練ヲ受ケ此ノ間砲術ハ怠リナク練習セラレタリ北海漁船砲撃ノ佚備ハ其ノ砲員ノ良射手ニアラサルヲ知ルニ足ルヘシト雖モ夜間ノ射撃ハ英國砲員ヲ以テスルモ其ノ命中ノ割合約百分ノ三ニ過キサルコトヲ記憶セサルヘカラス凡露國軍艦ヲ觀タル公平ナル判斷者ハ皆其ノ不潔ノ點ニ就テ一致スルト同時ニフエリケルザム少將カ其ノ指揮下ニ屬スル支隊ヲ兩分シ低速力ヲ以テタンジールニ入リタルノ事實ハ同少將カ其ノ部下ノ艦長ニ充分ノ信ヲ置カサルヲ示スニ足ルモノナリ然レトモウヰゴニ於ル本隊ノ操縱ヲ見ルニ婆羅的艦隊ノ規律ハ恐ヲクハ世許ノ如ク不完全ノモノニアラサラン今後日本艦隊ト觸接スル迄ニハ尚數ケ月ノ猶豫アレハ其ノ間ニ將校下士卒ハ結合力及ヒ艦隊運動ニ於テ幾段ノ進歩ヲ見ルヘシ英國ニテモ新ニ就任シタル軍艦ヨリ成レル艦隊ニハ完美ノ作動ヲ期待スヘカラスト雖モ一二箇月間海上ニ在リタル後ハ面目ヲ改ムヘシ今日ノ處露艦乗組員ノ缺點ハ甚タ重大ナレトモ是艦隊ノ進航スルニ從ヒ漸ク減少スヘシ

英國ノ見地ヨリ觀察ヲ下セハ婆羅的艦隊ノ擧動ハ許多ノ理由ノ爲メ至テ重要ナルモノナリ第一國際法上ニ於ル新例ハ將來英國カ外國ト開戰スルニ當リ其ノ海軍ノ戰略及ヒ通商ノ保護ニ大ナル影響ヲ及スヘシ若シ局外中立國ニシテ隨意ニ交戰國ノ艦隊ニ碇泊ヲ許可シ之ニ石炭ヲ供給シ且其ノ港灣ニ於テ之カ修理ヲ許可スルトキハ我カ商船ニ對スル攻撃ハ甚タ容易ナルヲ得ヘシ今日マテノ處中立國ハ如何ナル幇助ヲモ交戰國ニ與フヘカラサルコトヽセラレ一八七〇年ニ於テ英國ハ同國ノ商會カ結局佛國艦隊ニ使用セラルヘキ石炭ヲ佛國ニ賣リタリトテビスマークヨリ痛激ナル攻撃ヲ受ケタルコトアリ一八九八年ニハ佛國ハ西班牙艦隊司令長官セルヴェラニ對シ其ノ所領マルチニーク島ニ於テ石炭ノ供給ヲ拒絶シ且糧食ハ分量ヲ限リテ之カ搭載ヲ許可セシノミ余ノ記憶スル所ニ依レハ如何ナル場合ニ於テモ交戰國艦隊ノ戰場ニ達スル爲メ中立國ヨリ石炭ノ供給ヲ許可セラレタルコトナシ唯一ノ例外ハ米國南北戰爭ノ際「アラバマ」其ノ他南軍ノ巡洋艦カ英領港灣ニ於テ給炭セラレタルアルノミ而テ此ノ中立違犯ノ爲メ英國ハ其ノ後非常ノ損失ヲ被レリ即チ英國ハ此等ノ巡洋艦カ北米合衆國ニ與ヘタル損害ノ賠償トシテ三百萬磅ヲ支拂ヒ以テ將來ノ戰爭ニ對シテ英國ノ通商ヲ保護セリ然レト

モ此ノ先例ノ價値ハ今回ノ戰爭ニ於ル中立國ノ行爲ニ由テ打破セラレタリウヰゴニ於テ西班牙ハ甞ニ露國司令長官ニ露國政府自カラ戰時禁制品ト宣告セシ物件ノ多量ヲ搭載スルヲ許可セシノミナラス亦艦船修理ト云ヘル明白ナル虚僞ノ口實ノ下ニ十月二十六日ヨリ十一月一日ニ至ル數日間ノ碇泊ヲモ許可セリ又十一月中同國ハ假裝巡洋艦「クバーニ」ニ二十四時間以上ノ碇泊ヲ許可セリ從來海戰ニ於ル慣例ハ二十四時間以上ノ碇泊ヲ許可セス其ノ時限ノ滿了ヲ待チ出港ヲ強行スルカ否ラサレハ武裝ヲ解除セシメタリ

露國軍艦カ長時間ノ碇泊ヲ爲シ且石炭ノ積載ヲ許可セラレタルハ獨リウヰゴニ於ルノミナラス其ノ驅逐艦ハ佛港シェルブール及ヒブレストニ入港シ且石炭補充ヲ許可セラレタリ而テフェリクルザム支隊全部ハ最初タンジールニ次ニスダ灣ニ數日碇泊シ故障ナク石炭及ヒ糧食ヲ補充シタリ本隊ハ其ノ給炭船ノ集合地點即チ亞弗利加西岸ノ佛領ダカール、ギニア灣ニ於ル獨領マヲン及ヒ同方面ノ佛領ガブーンニ於テ其ノ手段ヲ再演スルノ意志ヲ聲明セリ本隊ハ十一月十二日ヨリ十六日ニ至ル迄ダカールニ碇泊セシモ石炭ヲ積入レシヤ否ヤハ知ルヘカラス想フニ本隊ハ又亞弗利加兩岸ノ葡領モサマーデス西南阿弗利加ノ獨領スワコプマンド葡領デラゴア灣佛領ブールボン島ニ於テモ石炭ヲ積入ルヘシ本支兩隊相合シタル後ハ蘭領印度モ之カ載炭地トナラン若シ關係諸國ニシテ斯ノ如キ數回ノ中立違反ヲ容認センカ是日本ニ取リテハ凡想像シ得ヘキ損害ノ最重大ナルモノナルヘシ斯ノ如キ不法ノ幇助又ハ默許アルニアラサレハ露國艦隊ハ到底極東ニ到達シ得サルヘキカリ吾人ハ日本カ同盟條約ニ依リ英國ノ幇助ヲ請求シ得ヘキ最看易キ事件ノ發生スルト同時ニ前陳ノ如ク既ニ確定セラレ又ハ確定セラレツヽアル局外中立ニ關スル新例カ英國ノ將來又ハ平和ノ爲メ大危害タルヲ見ルナリ假令波羅的艦隊ノ日本艦隊ニ何等損害ヲ及サヽル内ニ破壞セラルヽ場合ニ於テモ日本ハ關係諸國ニ對シ其ノ日本ノ利益ニ加ヘタル損害ニ對シ抗議ヲ提出シ損害賠償ヲ求ムルニ充分ノ理由ヲ有スルモノナリ

次ニ波羅的艦隊ハ海戰法規及ヒ慣例ニ反シ中立國ニ對シテハ非常ニ殘酷ナル行動ヲ爲セリ十月十八日グレート、ベルトニ於テ丁抹國ノ水雷艇及ヒ小艇ニ對シ又商船ニ對シテ砲撃セリ然レトモ此ノ時ニハ何等損害ノ生セサリシカ如シ又同月二十一日ニハ白耆獨逸漁船「ゾンダーグ」號瑞典汽船「アルデバラン」號及ヒ「スクーナー」型「クヤネ」號ニ砲撃セリ「クヤネ」號ハ小汽船ニシテ何樣ニ之ヲ見ルモ軍艦ト誤認シ得ヘカラサルモノナリ其ノ他倘一隻ノ汽船ヲ砲撃セリ同船ハ非常信號ヲ揭ケテ救助ヲ求メタレトモ乘員ト共ニ沈沒セシメラレタリト云ヘリ而テ夫ヨリ數時間後有名ナル北清事件ハ起レリ又同月二十三日諸威汽船「スカートエ[illegible]」號ニモ亦砲撃シ夫ヨリ一二日ノ後大西洋ニ於テ船名不詳ナル英國載炭船ヲ砲撃セリ

北海ニ於テ英國漁船ニ對スル襲撃ハ種々ノ點ニ就テ注意スヘキモノアリ第一、露國艦隊ハ普通其ノ執ルヘキ航路ヨリハ遠ク離レテ進航セリ否ヌサレハ此等無辜ノ漁船ニ逢著シ得ヘカラサルナリ第二、露國艦船ハ常ニ北海ヲ航下スルヲ以テ其ノ乘組將校ハドッガー、バンクニ漁船隊ノ集リ居ルヲ熟知スヘキナリ第三、漁船ハ特種ノ船燈ヲ揭クルヲ以テ外見上通常ノ軍艦トハ全ク異リ且漁船ハ短偏ナル小船ニシテ一個ノ煙突ヲ有スルニ過キサルモ驅逐艦又ハ水雷艇ハ狹長ニシテ數個ノ煙突ヲ有ス露艦ハ發砲スルニ先タチ漁船隊ヨリ數百碼ノ近距離ニ進航シ來レリ或證言ニ依レハ喇叭ノ聲ニ次テ發砲シタリト云フ即チ其ノ砲撃ハ有心故造ニ出テタルヲ示スニ足ルモノナリ又發砲ヲ停止スル前ニモ亦喇叭聞エタリト云ヘリ而テ慘劇ヲ演シタル後露國艦隊ハ「クレーン」號ノ將ニ沈沒セントスルヲ認メ且發砲後重大ナル過失ノ行ハレタルヲ認メシニ相違ナシト雖モ寸毫モ救助ヲ企圖セスシテ平然進航シ去リタリ露國艦隊ノ行動ハ斯ノ如ク其ノ面目ヲ毀損スルコト甚シケレトモ同國人ノ極東ニ於ル行動ニ思ヒ及セハ是敢テ驚クニ足ラサルナリ

此ノ事變ノ警報一タヒ英國ニ達スルヤ内閣大臣ハ孰レモ露國艦隊ノ暴擧ヲ非難シ新聞紙上憤激ノ聲起リシハ洵ニ其ノ所ナリ而テ我カ政府ハ露都ニ外交文書ヲ送リ期限ヲ定メテ露國政府ニ左ノ條件ニ從フヘキ旨ヲ要求セリ

第一　謝罪

第二　被害ニ對シ充分ナル賠償

第三　關係將校ノ處罰

第四　英國船舶ニ對シ將來ノ危害ニ關スル保障

是英國ノ要求トシテハ最少ノモノナリトス何トナレハ此ノ事件前ニ「アラントン」號拿捕「マラッカ」號差押「カルカス」號拿捕協生號擊沈「ナイト、コンマンダー」號擊沈ノ五件アリ孰レモ皆英國臣民ニ加ヘタル暴擧ナルモ而モ露國政府ハ之ニ對シテ未タ何等ノ賠償ヲモ爲セシコトナケレハナリ

識者ハ婆羅的艦隊東航ノ途ニ就キシトキ災厄ヲ先見シ在露都新聞通信員ハ露國海軍省ノ態度ニ關シテ英國ニ警告スル所アリシヲ以テ英國海軍本部ハ自カラ多少ノ警戒ヲ加フルヲ得ヘカリシニ實際ハ之ヲ怠レリ我カ各艦隊中ノ精華タル地中海艦隊ハアドリアチックノ僻陬ニ逃キヴェニスニ於テ祝祭ニ從事シ十月二十七八日頃マテ同所ニ碇泊シ獨リ海峽艦隊ノミジブラルタルニ集合シタリ又內國艦隊ハ其ノ最良艦二隻ヲ除クノ外遠ク蘇格蘭ノ北方ニ在リテ優勢ナル獨逸艦隊ノ衝ニ當ルヘキ位地ニ立チ（獨逸ハ我カ內國艦隊ノ一等戰艦七隻ニ對シ何時ニテモ同種艦十一隻ヲ出スニ差支ナクセリ）北海事件ノ際ニ於テハ載炭既ニ不足セリ又他ノ重要ナル一艦隊即チ巡洋艦隊各艦ハ婆羅的艦隊出發ノ時ニ當リ偶修理ノ爲メニ入港シテ或ハ機械ヲ解キ或ハ大砲ヲ卸シ一隻タモ即時出動スルヲ得ルモノナク又其ノ際英國軍艦ハ一隻モ北海ニ巡邏シ居ラサリキ此等ノ怠慢ニ對シテハ海軍本部ハ宜シク責ヲ引クヘキナリ尙此ノ暴擧ノ報ハ十月二十三日夜倫敦ニ達シ諸新聞社ハ午後七時ヲ以テ接手セリ然ルニ海軍本部ハ夫ヨリ二時間ヲ經ルモ猶之ヲ知ラス且當時海軍本部構內ニ一名ノ官吏モ居ラサリシナリ新任第一軍事委員サー、ジエー、フイッシヤーハ病氣ノ故ヲ以テ豫定ノ如ク十月二十一日海軍本部ニ於テ事務ノ引繼ヲ了スルコトヲ得サリシモ斯カル事態ハ同委員ノ手ニ於テ速ニ改良セラルヘキヲ疑ハス然レトモ此ノ危急ノ時ニ於テ存在セシ事態ハ從來我カ海軍組織ノ不完全ナリシヲ證スルニ餘アリ豈寒心セサルヲ得ンヤ此ノ際余ノ心中ニ起リタル問題ハ露國艦隊ノ海峽南下ハ各國海軍省ノ知悉スルカ如ク我カ國行政機關ノ運轉ヲ中止スル週末ノ日ヲ選ヒテ企テラレタルニ非サルカト云フコト即チ是ナリ

英國政府ハ已ニ要求ヲ爲シタル後露國ヨリ即答ヲ得サルヲ以テ不安ノ念ニ驅ラルヽカ如ク見エタリ十月二十八日內閣會議開カレ露國ニ與ヘタル猶豫期限ノ正ニ滿了セントスル刹那ニ於テ倫敦駐箚露國大使ハ其ノ本國政府ノ回答ヲ提出シタリ其ノ要旨ハ第一、第二ノ要求ヲ承諾シ第三、第四ヲ拒絕スト云フニアリ尙之ニ申添ユルニ露國ハ本件ヲ國際議會ニ附シ事實ヲ審査シ且艦隊中本件ニ關係セル一部ノ艦船ヲウヰゴニ抑留シ以テ司令長官其ノ責任者タルヘキ將校ヲ確メ此等將校及ヒ現場目擊者ハ艦隊ト共ニ極東ニ進航セシメス且此ノ如キ事件ノ再演ニ對シテハ警戒ヲ加フヘシトノ旨ヲ以テシタリ

然ルニ此ノ茫漠タル提議ハ英國內閣ノ承諾スル所ト爲リ首相バルフォアハ其ノサウサムプトンノ演說ニ於テ此ノ事ヲ發表セリ然レトモ嫌疑露艦ノウヰゴニ關スル疑義ニ就テハ首相自カラモ其ノ意ヲ明解セサリシヤ必セリ露國政府ハ英國政府及ヒ其ノ臣民カ陰ニ日本水雷艇ノ婆羅的艦隊攻擊ヲ幇助シタリト唱道スルハ是即チ恰モ法廷ニ於ル刑事被告人カ一轉シテ民事原告人ト爲リ對手ニ向テ賠償ノ反訴ヲ提起スルノ位地ニ立ツコトヽナレルモノト云フヘシ尙國際會議ノ開會ニ關スル交涉ニ數週日ヲ要スルハ判然タルヲ以テ露國政府ハ之カ爲メ其ノ艦隊ヲシテ英國艦隊ヲ遠サカリ安全ノ地ニ到ラシムルノ時ヲ得タリト云フヘシ又バルフォア氏ハ明言セサルモ將校ノ處罰ニ就テハ露國大使ノ提出シタル漠然タル口上ノ保證ノ外一物モ存スルナシ而テバルフォア氏ノ語ヲ引用スレハ處罰ハ審問ノ結果此ノ一大椿事ヲ惹起シタル責ニ任スヘキ者ニ加フヘシトノコトニ決定シタル後ニ至リ始テ問題トナルモノナリ然ルニ其ノ後犯者ヲ罰スヘキ約束ハ履行セラレサリキ而テバルフォア氏ハ激烈ニ露國司令長官ヲ辯難シ之ニ進航ヲ許スノ危險ナルコトヲ指摘シ婆羅的艦隊ニシテ此ノ後遠ク東洋ニ於テ幾度モ運送船又ハ郵便船ニ逢着スルコトアランカ是等船舶若シ其ノ射程內ニ來ラハ同艦隊ハ砲火ヲ開キ北海ノ漁船ニ於ルカ如ク擊沈シ「ロイド」船籍中ニハ某々船舶ハ歸リ來ラス一モ記錄ヲ殘サスト記入スルノミニテ波瀾ハ此ノ悲劇ノ事實ヲ掃ヒ去ルヘシ云々ト述ヘタリ

バルフォア氏ノ言フ所過實杞憂ニアラサルコト左ニ記スル在露都「デーリー、テレグラフ」新聞通信員ノ十月二十八日附發電ニ依テ判然タリ

余ハロヂエストウエンスキーカ海軍省ヨリ凡船舶ノ艦隊ニ接近シ其ノ他疑ハシキ擧動ニ出ツルヲ見ハ啻ニ之ヲ砲撃スルコトヲ得ルノミナラス必ス砲撃セサルヘカラストノ祕密訓令ニ接シ居タルコトヲ確報トシテ通信スルヲ得

又十一月二日通信員ハ左ノ如ク打電セリ

法規ニ依レハロヂエストウエンスキーハ中立國所属ノ船舶ニシテ敵國ノ為メニ必要ナル物件ノ運送ニ従事スト認ムルモノハリバウ又ハ浦鹽斯徳ニ引致スルニ足ルヘキ石炭ヲ積載セサルトキハ之ヲ撃沈スルノ權利ヲ委セラレ居リ且露國法規ノ漠然タル解釋ニ依レハ戰時禁制品搭載ノ嫌疑アル船舶ハ之ヲ拿捕スルノ權利ヲ有ス即チ實際ノ處極東行通常貨物ヲ搭載スル船舶ハ總テ之ヲ拿捕スルコトヲ得ルナリ更ニ甚シキハ同中將ハ中立國船舶ノ拿捕若クハ破壞ノ事實ヲ當該中立國政府ハ勿論本國政府ニモ報告スルノ義務ナシト思惟スルモノナリ

此等有害ナル訓令ハ未タ取消サレタルヲ聞カス果シテ然ラハ危害ハ依然トシテ存在セリ即チ北海暴擧ノ責任ハロヂエストウエンスキー中將ニ在ラスシテ現ニ露國政府ニ在リ下記ノ事實ハ即チ之ヲ證ス

一、ウヰゴニ殘サレタル露國將校ノ言フ所ニ據レハ露國政府ハ無線電信ニテ日々司令長官ト通信セルモ司令長官ハ即時報告ヲ發スルニ及ハスト

二、司令長官ハ北海事件後直ニ特電ニテ皇帝ヨリ感謝セラレ中將ニ進メラレタリト云フ

三、「デーリー、テレグラフ」ニ據レハ婆羅的艦隊ノウヰゴ抑留ハ當初凡三週間ニ亙ルヘキ旨漠然ナカラモバルフォア氏ニ約シタリトノコトナリシモ實際ハ戰艦ニ石炭ヲ積込ムニ足ル時間ノミ滯在セシニ過キスシテ其ノ終ルヤ眞個ノ責任者トシテ僅ニ大佐一名大尉三名ヲ留メ艦隊ハ平然トシテ出港シタリ

四、右三名ノ大尉ハ露都ニ歸着後處罰セラルヘキ理由ナシト揚言シ「デーリー、テレグラフ」露都通信員電報ノ證スルカ如ク全露國新聞及ヒ露國海軍省官吏モ亦之ニ和セリ

此等ノ事實ヲ案シ來レハ彼ノ一大佐及ヒ三大尉ヲ以テ暴擧ニ關スル眞個ノ責任者トシテ之ヲ處罰シ十月二十一日ノ夜ニ於ルカ如キ慘劇ハ決シテ再演セシメサルヘシトノ露國ノ保障ニハ眞面目ニ信ヲ置クコト能ハス且右ハ去八月露政府カ自今中立國ノ船舶ヲ撃沈セシメサルヘシト言ヒ以テ首相バルフォア氏ノ信ヲ買ヒ得タル保證ト其ノ價値ヲ同シクスルコトハ既述シタルロヂエストウエンスキーヘノ訓令ヲ見テモ知ルヘキナリ英國ハ露國ニ翻弄セラレタリ去七八兩月支那海ニ於ル出來事ハ英國自カラ其ノ通商ヲ保護スル能ハサリシカ又ハ保護スルヲ欲セサリシカヲ表示シ今又北海ニ於ル出來事ハ更ニ我カ臣民ノ生命ヲ保護スル能ハサルト同時ニ保護スルヲ欲セサルコトヲ證明シタルモノナリ

婆羅的艦隊ノ東洋到着ハ恐ラクハ對日本ヨリハ寧ロ對極東通商ノ斷絶ヲ來シ英國ノ貿易ニ影響ヲ及スニ至ルヘシ露國ノ宣言スル所ニ依レハ石炭、機械、鐵、棉花其ノ他多數ノ普通適法ナル貿易品ヲ以テ戰時禁制品ト為セリ英國船舶ノ拿捕ハ露國將校ニ莫大ノ個人的利益ヲ與ヘ且其ノ身ニ海軍省ノ信任ヲ博スルニ足ルヲ以テ前記ノ證言アルニ拘ラス恐ラクハ尚繼續セラルヘシ首相バルフォア氏及ヒ外務大臣ランスダウン卿カ左ノ貨物ノ戰時禁制品ニアラサルコトヲ主張セルハ事實ナリト雖モ兩相ハ其ノ主張ヲ貫徹スルコト能ハス又威力ヲ以テ之ヲ支持スルコト能ハス「アラントン」號及ヒ「カルカス」號ノ捕獲及ヒ協生號及ヒ「ナイト、コンマンダー」號ノ撃沈ニ對スル賠償ヲ得ルニ失敗セシノミナラス更ニ船主ニ對シ此等ノ貨物ハ船主自カラ危キヲ賭シテ搭載スルノ外ナシト云ヒ而テ英國ハ交戰國トナルノ虞アルニ因リ宜シク露國ノ不法ナル權利ノ擴張ニ默從スヘシト為スカ如キ態度ヲ執リタルヲ以テ我カ英國ノ船主ハ自國ノ政府ヨリハ一層能ク保護ヲ與フル政府ニ屬スル國民ニ其ノ重要ナル通商ヲ委スルト同時ニ何故ニ我カ國民ハ國家ノ急務ヲ執行シ得サル海軍ヲ維持スルカ為メニ租税ヲ負擔セシメラルヘカト問ウノ外ナキコトヽナレリ リストノ論ニ曰ク商業上ノ優勢ハ元氣旺盛ナル大國民ノミ永ク之ヲ維持スルコトヲ得ヘシト此ノ際船主ハ之ヲ銘記スルト同時ニ我カ國ノ元氣ハ彼ノ放任主義ノ為メ數年來衰退セルヲ見ヨ

第三ニ言ハント欲スル要點ハ若シ我カ國ニシテ婆羅的艦隊ヲ監視スルモノトセハ其ノ進航ニ従ヒ此ノ緊急ノ時ニ於テ我カ軍艦ヲ歐洲ヨリ遠隔ノ地ニ移サヽルヘカラス然ラスンハ我カ英國ノ局外中立ヲ犯サルヽノ危険ナキコト能ハサルニ在

リ婆羅的艦隊ハマルヂヴ及ヒチヤゴス數島又ハミニコイ島ノ如キ遠隔ナル印度洋中ノ英領港灣又ハ島嶼ニ於テ戴炭ヲ試ミルヤモ知ルヘカラス而テ余ノ聞ク所ニ依レハミニコイ島ノ如キハ現ニ同艦隊ノ寄港地トシテ豫定シアリト云フ此ノ戰爭中我カ政略ノ軟弱ナルハ彼ヲシテ確ニ此ノ如キ行動ヲ敢テセシムルノ傾向ヲ生シタリ抑我カ政府ハ今日ト雖モ露國ニ脅嚇セラレテ我カ追跡軍艦ノ召喚ヲ命シ以テ婆羅的艦隊ノ航路ヲ平穩ナラシムルナキヲ保セサルナリ若シ國家ニシテ意志ヲ缺キ又ハ之ヲ固守セサレハ之ニ對シテ猾策ノ弄セラルヘキハ當然ナルノミ

第四即チ最大主要ナル要點ハ婆羅的艦隊ノ極東到達カ我カ同盟國タル日本及ヒ本戰役ニ於ル其ノ運命ニ及ス結果ニ在リ而テ是旅順口ノ勝敗ト密接ノ關係ヲ有ス若シ旅順口ニシテ來年一月以前ニ陷落セシカ又若シ旅順軍艦ニシテ日本ノ攻城砲ノ爲メニ破壞セラレシカ婆羅的艦隊ヲ邀擊スルハ日本ノ難スル所ニアラス其ノ之ト戰テ勝ヲ制スルニ絶對的必要ナルハ敵ニ向ヒ同國海軍ノ全力ヲ注キ得ルニアリ如何ナル塲合ニ於テモ日本海軍力ハ餘リ優勢ト謂フヘカラス今日ニ至リテハ同國ノ戰艦ハ四隻ニ減シ其ノ眞ニ一等艦ト稱スヘキハ唯三隻アルノミ其ノ外八隻ノ装甲巡洋艦ト多數ノ防護巡洋艦アリ然レトモ装甲巡洋艦ノ内少クモ三隻ハ浦鹽艦隊ニ備ヘサルヲ得サルヘシ然ラハ則チ日本ハ七隻ノ戰闘艦及ヒ數多ノ巡洋艦假装巡洋艦驅逐艦ヲ以テ組織セル露國艦隊ニ對シ装甲艦九隻以上ヲ戰線ニ擢クコト能ハサルヘシ即チ其ノ人員ノ伎倆逈ニ優等ナルノ一點ヲ除クノ外日本ハ勝利ヲ望ミ得ヘキ理由ナシ然レトモ既ニ戰ニ馴レタル日本將校下士卒ハ其ノ國家ノ興廢ハ此ノ一戰ニ在ルコトヲ知リ又露國ハ今後最早援勢ノ出スヘキモノナキヲ知ルカ故ニ日本艦隊ニシテ露國艦隊ノ所在ヲ知悉シ之ヲ戰闘ニ誘致スルヲ得ハ其ノ勝利期シテ待ツヘキナリ然レトモ東郷大將カ之ヲ爲シ得ヘキハ決シテ確實ナリト謂フヲ得サルナリ夫浦鹽航路ハ數線アリ對馬海峽、津輕海峽及ヒ宗谷海峽ヲ經由スルモノ即チ是ナリ而テ一航路ヲ制スルノ位置ハ他ノ航路ヲ制スル能ハス露國艦隊ハ數隊ニ分レテ浦鹽ニ達セント欲シ同時ニ此ノ三航路ヲ用フルナキヲ保セス然ラハ露國艦隊ヲ擊破スルニ適當ナル方略ハ唯一アルノミ他ナシ即チ東郷大將ニ於テ一時大連灣旅順口及ヒ對馬海峽ヲ放棄シ敵艦監視ノ爲メ巡洋艦ヲ三航路ニ配置シ無線電信ヲ以テ報告ヲ爲サシメ自カラ全艦隊ヲ率ヰテ浦鹽ノ近傍ニ到ルニアリ之カ爲メニハ日本海軍ハ新ニ根據地ヲ朝鮮ノ東北岸ニ設置シ電信ヲ以テ京城及ヒ仁川ト連絡ヲ通セサルヘカラス而テ今此ノ方策ヲ執ルニハ僅々ノ時日ヲ剩スニ過キス右ハ東郷大將ヲシテ將ニ來ラントスル露國艦隊ニ向ヒ全力ヲ集中セシムルノ大々的戰略價値ヲ有スルノ籌策ナリ

若シ旅順口ニシテ尚健全ナル艦隊ヲ有セハ日本ノ位地ハ危殆ナルヘシ何トナレハ婆羅的艦隊ハ旅順口又ハ浦鹽ニ進航スヘク二者孰レノ塲合ニ於テモ日本ノ陸軍輸送ニ怖ルヘキ攻擊ヲ加フルコトヲ得ヘケレハナリ凡陸軍ハ日々其ノ交通線ニ危險ヲ感スルトキハ其ノ戰ヲ繼續スルコト能ハサルハ兵術ノ一原則ナリ

右ハ我カ國ニ於テ戰局ヲ判定スルニ際シ遺忘スヘカラサル所ナリ抑日本ハ我カ同盟國ナリ吾人ハ速ニ旅順口ノ陷落ヲ望ムト雖モ日本ハ今日迄同港内ニ於ル露國艦隊ニ對シ未タ曾テ直接砲擊スルニ至ラサルコトヲ記憶セサルヘカラス而テ之ヲ行ハントセハ日本ハ二龍山其ノ他内線ノ砲臺ヲ略取セサルヲ得ス露國ノ抵抗ハ我カ英國臣民カ國利ヲ犠牲ニ供シテ貪慾飽クナキヨリ糧食其ノ他ノ貨物ヲ旅順口ニ密輸入スルニ依テ持續セラレツヽアリ現ニ去八月以來守兵ノ給與ニ大ナル缺乏ヲ見サルノ證跡ナキニ非ス凡長射程重砲ヲ以テ防備ヲ嚴重ニシタル要塞ニ對シ直接封鎖ヲ維持スルハ至難ノ業ニシテ軍艦ハ必ス港外二三海里ノ距離ヲ保タサルヘカラス是暗夜封鎖、侵犯艦潛入ニ利スル所以ナリ此等密輸入者ハ守兵ヲシテ頑强ナル抵抗ヲ爲スコトヲ得セシメ依テ以テ日本兵數千ノ生命ヲ亡失セシメタリ即チ知ル露國砲臺ノ前面ニ於テ其ノ砲彈ノ爲メニ寸斷セラレタル日本勇士ノ死因ハ幾分カ我カ投機者流ニ在ルコトヲ我カ政治家カ戰爭ノ慘狀ヲ喋々スルニ當リ我カ國民ハ宜シク此ノ事實ヲ心肝ニ銘記スヘシ

自今數週以内ニ旅順口ノ陷落スヘキヤ否ヤハ此ノ如ク不確實ニシテ露國艦隊ノ全滅モ亦未タ期スヘカラス苟モ天道ノ公明正大ヲ信スル者ハ日本武士ノ壯烈ナル奉公心ト剛勇ニ對シ成功ノ光輝ヲ冠セラルヽヲ希望スト雖モ甚大ナル物質的障礙ノ前途ニ横ハルアリ精力ハ先ツ之ニ打勝タサルヘカラス日本ハ須臾モ時日ヲ空費スヘカラス何トナレハ若シ露國艦隊ヲ邀擊シテ遺憾ナキヲ得ント欲セハ先ツ其ノ軍艦ヲ入渠セシメ充分修理ヲ加ヘ至高ノ良狀ヲ保タサルヘカラス九隻又ハ

十隻ノ軍艦修理ハ數週ノ時日ヲ要スヘケレハナリ

然レトモ婆羅的艦隊ハ極東ニ到達セサルヘシト唱フル論者アリ蓋其ノ到達シ得ルト否トハ繫リテ中立國カ戰爭ヲ賭シテモ尚能ク其ノ中立ヲ嚴守スルヤ否ヤニ在リ若シ中立國ノ態度ニシテ優柔不斷ナレハ露國艦隊ハ何等ノ困難及ヒ遲滯ナクシテ極東ニ到達スルヲ得ヘシ西班牙、葡萄牙、和蘭ノ如キ又國力最大海軍國ト稱スル英國ヲ以テシテモ尚一等國トノ戰爭ハ無限ノ生命財産ヲ犠牲ニ供スル懼ルヘキ事件トシテ自カラ正當ト爲ス所ノ主張ヲ避ケタルヲ見テ能ク露國ノ憤怒ニ對抗シ得ヘシトハ吾人ノ期待セサル所ナリ然ラハ即チ露國艦隊カ順次各中立國ノ港灣ニ於テ載炭シ以テ容易ニ極東ニ進航スルヲ妨クル者ナカルヘシ埃及國ハ露國艦隊ヲシテ次ノ港灣ニ到ルニ足ル丈ケノ充分ナル石炭及ヒ糧食ヲポートサイドニ於テ積入レシメツヽアリ英國ノ勢力範圍内ニアル埃及ニシテ此ノ中立違反ハ甚タ解シ難シ何トナレハ一八九八年ノ米西戰爭ニ於テ同國ハ西將カマラス艦隊ニ對シ一噸ノ石炭ヲモ領海内ニ於テ搭載スルヲ許可セサリシヲ以テナリ但西班牙ハ二等國ニテ其ノ勢力露國ノ比ニ非ス然レトモ眞價ノ至難ハ印度洋ニ在リ蓋佛領ブールボン島ヨリバタビヤマテノ距離ハ三千百海里ナリ若シ露國艦隊ニシテ英領チヤゴス叢島ニ於テ又ハ海上ニ於テ載炭セハ此ノ距離ト雖モ航過スルヲ得ヘシ一八九〇年ノ英國海軍演習ニ於テサー、シーモア艦隊ニ屬スル六隻ノ軍艦ハ北太平洋ノ海上ニ於テ二日ヲ出テスシテ千二百二十六噸ノ石炭ヲ積込ミタリ然ラハ即チ海上ノ載炭ハ不可能事トシテ排斥スヘカラサルナリ

露國艦隊ノ本支両隊ノ相合スル地點ハ蓋チヤゴス又ハミニコイ島附近ナルヘシ喜望峰經由ノ本隊ハ大戰艦五隻及ヒ多數ノ巡洋艦ヨリ成リ十一月五日タンジールヲ發シダカール、カマラツ、カブーンヲ經テ喜望峰ヨリブールボン及ヒチヤゴス島ニ進航スルモノニシテ集合點ニ達スル迄ノ航程九千十海里アリ若シ獨ニグレート、ベルトヨリタンジールニ到レル航海日數ニ依テ一晝夜ノ平均速力ヲ百海里ト推測スレハ此ノ航程ハ四十五日ヲ要スヘシ然レトモ或艦船ハ五六回戰艦ハ三四回載炭ヲ爲スヘク加フルニ場合ニ依リテハ其ノ進航ヲ中止スルコトモアルヘケレハ實際ハ六十日ヲ要スヘク即チ其ノチヤゴスニ集合スルハ凡一月四日ナルヘキナリ然レトモ若シ十二海里ノ速力ヲ以テ進航シ又其ノ載炭ヲ敏活ニ行フコトヲ得ハ三週間ノ日子ヲ減シ十二月十四五日頃豫定地點ニ速達スヘシチヤゴス叢島ヨリバタビヤニ至ル航程二千〇九十海里バタビヤヨリ柴棍又ハ其ノ附近マテ千百海里柴棍ヨリ伊豆諸島マテ二千四百海里伊豆諸島ヨリ津輕海峽ヲ經テ浦鹽マテ約千海里アリ故ニ本支両隊相合シタル後ノ航海ハ六千六百海里ニシテ其ノ間危險最大ナルヘシ其ノ航程ハ四十日ヲ要スレトモ若シ速力十二海里ヲ保續シ且載炭ヲ敏捷ニスルヲ得ハ二十六日又ハ二十七日ニ短縮スルヲ得ヘシ果シテ然ラハ婆羅的艦隊ノ浦鹽着ハ一月十日乃至二月中旬ノ間ニアルヘシ若シ同艦隊ニシテ旅順口艦隊ノ健在ナルヲ知リ短捷航路ヲ取リ旅順口ニ直航セハ一月四日ヲ以テ港外ニ到達スルヲ得ヘシ同艦隊ハ如何ニシテモ之ヨリ早達スルヲ得ス

婆羅的艦隊ハ極東ニ於テ其ノ利用シ得ヘキ根據地ヲ有セサルヲ以テ恐ラクハ日本ノ作動區域内ニ入ルニ及ヒ馬來叢島中外界ト電信連絡ナキ地點ニシテ良港ヲ有スル島上ニ假根據地ヲ設クルナルヘシ此ノ叢島中ニハ其ノ設置ニ便ナル島嶼少カラス就中歐洲人ノ未タ知ラス或ハ未タ曾テ足跡ヲ印セサルモノアリ而テ其ノ全部ハ微弱ナル中立國即チ和蘭ノ所領タルヲ以テ露國ノ之ニ對スル專恣ナル行動ヲ防遏スルコト非常ニ困難ナルヘシ又一方ニ於テ日本ハ婆羅的艦隊カ臺灣附近ニ到ル迄ハ之ニ對シ何等大打擊ヲ加フルコトナカルヘシ但水雷艇及ヒ水雷敷設船ハ遠ク之ヲ派遣シ以テ多少ノ損害ヲ露艦ニ加ヘンモ亦知ルヘカラス何トナレハ本戰役ハ進航中ノ艦船ニ對シテ水雷艇ノ効力微弱ナルヲ證明シタルト同時ニ敷設水雷ノ恐ルヘキ効力アルコトヲ證明シタレハナリ露國ハ公海ニ水雷ヲ敷設シ由テ以テ初瀨、八島ノ二艦ニ奇禍ヲ及セシヲ以テ假令婆羅的艦隊カ同一ノ怖ルヘキ方法ニテ攻擊セラルヽモ敢テ非難スルコト能ハサヘシ而テ日本ハ既ニ敵艦ヲ處スルニ一種特設ノ準備ヲナシタル由ナレハ今唯露艦ノ所在ヲ明ニスルコトヲ得ハ必スヤ露艦ニ重大ナル損害ヲ加フルモノト信セラル

事實上本戰役ノ勝敗ハ繫リテ二大因ニアリ就中其ノ一ハ至大至重ノモノニシテ即チ各中立國ノ婆羅的艦隊ニ對スル態度如何ナリ其ノ二ハ旅順口艦隊ノ存亡ニ在リ若シ中立國ニシテ其ノ義務ヲ全ウセハ婆羅的艦隊ノ極東ニ到達センコト頗ル疑フヘキナリ假令中立國ニシテ其ノ義務ヲ全ウセサルモ旅順艦隊ニシテ全滅セハ婆羅的艦隊ハ恐ラクハ歐洲ニ引返シ敢

テ東郷大將ト衝突スルニ至ラサルヘシ然レトモ各中立國ニシテ波羅的艦隊ニ好意中立ヲ表シ旅順艦隊亦健在セハ波羅的艦隊ハ絶東ニ近寄ルヘク是實ニ我カ同盟國ニ取リテ絶大ナル威嚇タルヘシ

六六　露國太平洋第二艦隊ノ進航ト其ノ將來（軍事通信員）

（一九〇五年一月九日發刊「タイムス」所載）

露國太平洋第二艦隊ハ最近二ケ月間阿非利加回航中ナリシカ本年ノ初ニ於テマダガスカルノ北端ヲ回リタル處ニ於テ本支両隊相合スルヲ得タリ喜望峰ヲ迂回シタル司令長官ロヂエストウエンスキー中將直率ノ本隊ハ最初ハモザンビク海峡ヲ北上シコモロ列島トマダガスカル島トノ間ニ於テ司令官フエリケルザム中將直率ノ蘇士運河通過支隊ト相合セントト欲スルモノヽ如クナリシカ其ノ喜望峰迂回後ニ遭遇シタル不良ノ天候ハ遂ニ此ノ計畫ノ變更ヲ來シタルモノト思ハル斯テ本隊ハマダガスカル島ノ東側ニ轉向シ同島ノ最南端セント、マリー岬ヲ回リ北上シテ同島東岸ノアントヂール灣ニ達セリ此ノ灣ハ冬季ニ於テハ善ク風波ニ對シテ艦船ヲ障護ス支隊ハ一月三日同島ノ西北パッサンダパニ著セリ是ヨリ本支両艦隊ハ需品糧食等ノ供給ヲ得ンカ爲メノシベ、モヂヤンボ、タマターブニ許多ノ船舶ヲ派遣シタルカ如シ此ノ本支両艦隊ノ外尚クリート及ヒ埃及港灣ニ滯泊セル後發隊アリ此等ハ自カラ將來ノ行動方針確定スルヲ待ツモノナランヽ

佛國新聞紙ノ報スル所ニ據レハ全艦隊ノ集合地點ハヂエゴ、シユアレ港ナリトス此ノ港ハ佛國ノ一大貯炭所ニシテ其ノ印度洋分艦隊ノ根據地タリ

ヂエゴ、シユアレハ一名之ヲブリチシユ、サウンドト云フ我カ陸海軍中一部分ノ將校ハ之ヲ詳ニ知ルト雖モ一般公衆ハ恐ラクハ此ノ一大港ノ有スル便宜ヲ知ラサルナラン同灣ハ其ノ面積ト其ノ要害トニ於テハ世界最良港ノ一ニ算ヘラルヘキモノニシテ印度洋ヨリシテ此ノ灣ニ入ルニハ狹窄ナルオロンジア航門ヲ通過セサルヘカラス此ノ航門ハ旅順口水道ト相似ル所アリ其ノ幅僅ニ半海里中央水深二十二尋乃至二十六尋灣内ニハ一大面積ノ障護錨地アリ又別ニ四個ノ內澳アリイングリシユ、ベイ、スコッチ、ベイ、アイリシユ、ベイ及ヒポート、ネーブルト稱ス何レモロヂエストウエンスキー艦隊ヨリモ遙ニ大ナル艦隊ヲモ容レ且之ニ安全ナル障護ヲ與フルニ足ルノ面積ヲ有ス其ノ灣岸ハ大部分陡界ニシテ佛國ノ設備ハ主トシテ灣ノ南岬上ナルアンチラナ及ヒヂエゴー市街ニアリ此ノ地ハ一八八五年佛國カマダガスカルホバ酋長ト締結セル條約ニ依リ之ヲ占領シタル以來防禦堅固ニセラレ佛國ノ一大海外貯炭所ト爲レリ然レトモ露國全艦隊果シテ此ノ良港内ニ集合スルヤ否ヤハ未タ確定セサルモノヽ如シト雖モ外觀上ヨリ察スレハ多分其ノ事實トナル方ニ近シ然レトモ露國艦隊ニシテ長ク此ノ港内ニ滯泊スルニ於テハ爲メニ國際紛擾ヲ惹起スヘキコトハ無論佛國當該官憲ノ知悉スル所ナルヘシ何トナレハ佛國若シ一タヒ之ヲ露國ニ許スニ於テハ日本軍艦ハ佛領印度支那ノ港灣ニ於テ之ト同一ノ便宜ヲ要求スルニ至ルハ自然ノ勢ニシテ此ノ時ニ至リ佛國日本ニ對シテ之ヲ拒絶セハ佛國ノ中立ハ不完全不公平ノ譏ヲ免ル能ハサルヲ以テナリ

露國軍艦ノ實況ハ未タ詳ナラス十三隻ノ巡洋艦及ヒ數隻ノ運炭船ニ故障アリトノ風説ナキニハアラサルモ未タ其ノ大損害ヲ生シタルコトノ確報ニ接セス然ルニ獨逸海軍大佐フオン、ブースタウハ露國艦隊ヲ見テ貶許シ其ノ成功覺束ナシトセリ同大佐ハ露國艦隊リバウ發航ノ際之ヲ訪問シ司令長官ニ會シタル者ノ一人ナルヲ以テ其ノ言フ所亦大ニ採ルヘキモノアリ露艦乘員ノ中ニハ北東信風カ冬季ニ於テ斯ノ如キ不良ノ天候ヲ生スルハ其ノ國辱ト同樣ニ感スル者アルカ如シ天變ヲ覩テ斯ノ如キ怪感ヲ抱クノ徒ハ蓋聖彼得堡ニ於テ乘船セシメラレタルグロドノー騎兵隊ノ青年將校ナラシカ

波羅的艦隊ハ昨年十月十六日午前一時リバウ出發以來其ノ航程ニ八十日ヲ費シタリ當時格倫斯達士ノ一新聞カ露國海軍機關官ノ算定ナリトシテ報スル所ニ據レハ東航艦隊浦鹽斯徳迄ノ全航海ニハ六十三日ノ日子ヲ要スヘシ然レトモ若シ海上載炭ノ必要ヲ見ルニ至ラハ增シテ八十四日トナルヘシトセリ然ルニ露國艦隊ハ其ノ目的地ニ達スル航程ノ半分未滿ノ處ニ於テ露國機關官ノ算定シタル全航海ノ日數ヲ殆ト消盡シタリ此ノ進行ノ割合ヲ以テセハ其ノ浦鹽斯徳ニ達スルハ三月末ナラサルヘカラス若シ石炭供給ノ契約モ露國機關官ノ算定シタル如キ日數ニ基キ締結セラレタルモノトセハ將來ノ

石炭供給極テ困難トナランモ亦知ルヘカラス露國新聞「ノーウオエ、ウレーミヤ」ハ報シテ曰ク艦隊ノ一日ノ費炭量ハ減速力航海ニ於テ三千百四十噸碇泊中四百三十三噸ノ割合ニシテ其ノ投錨載炭ノ日數ハ平均八日間ニ三日ナリト此ノ報ニシテ誤ナシトセハ本國發航以來今日マテノ費炭量ハ既ニ約十七萬噸ニ達セシナルヘシ是此ノ東航艦隊ノ爲メニ要スル準備ノ大規模ヲ概察スルヲ得ヘシ世ノ知ル如ク昨年九月ノ始ヨリ三個月間ニ約五十隻ノ運送船ハ二十五萬乃至三十萬噸ヨリ少カラサル石炭ヲ搭載シ婆羅的艦隊ニ給炭センカ爲メ其ノ東航途中ノ數地點ニ向ケ「カーヂフ」、「バーリー」、「ニューポート」ヲ出發シタリ然ルニ此等ノ運送船又自カラ多量ノ石炭ヲ消費シタルカ故ニ右ニ言ヘル載炭量夥大ナルニハ相違ナシト雖モ最初ノ航海豫定表ニ基キ運炭船雇入契約成立セシ以來艦隊ノ進航大ニ遲延セシカ其ノ遲延ノ日數ニ對シ充分ニ費炭量ノ餘裕ヲ見込ミタルヤ否ヤハ未タ知ルヘカラス露國カ右ノ如クスル間ニ日本ハ將ニ來ラントスル一大危險ニ對センカ爲メ百方之カ手段ヲ講シ孜々怠ラス其ノ聯合艦隊ハ次回ノ戰鬪ヲ見ルマテニハ約三個月ヲ經ルノ豫定ヲ以テ其ノ間休養センカ爲メ今ヤ既ニ戰地ヲ引揚ケ日本港灣ニ在泊セリ在港中軍艦及ヒ兵員ヲ最上ノ良狀ニ致サンカ爲メ一寸ノ光陰モ空シクセサルヤ明ナリ之ト同時ニ聯合艦隊ハ一支隊(其ノ勢力未詳)ヲ南遣シ以テ敵ノ來航ヲ監視報告セシメ又露國艦隊ヲシテ運炭船其ノ他特務船舶ノ個々ニ遮斷セラルヽ危險ヲ恐レ盡ク之ヲ一大團ニ集合スルノ已ムナキニ至ラシメント謀リタリ是頗ル策ノ宜シキヲ得タルモノナリ既述シタル夫ノ「グロドノー」騎兵將校之ニ鑑ミル所アラハ偵察術ノ趣味アル又利益アル教訓ヲ得ヘシ海軍諜報機關ハ馬來羣島ノ各地ニ網ノ如ク張リ擴ケ露國艦隊ノ來航ヲ偵察報告スルニ遺憾ナキニ似タリ頗ル多數ノ日本ノ假裝巡洋艦其ノ他ノ巡洋艦此ノ任務ニ當ルハ既ニ明ナリ

右ノ如クナルヲ以テ日露第一回ノ衝突ハ佛蘭西國所領地ノ海岸附近ニ起ル如ク見ユルヲ以テ佛蘭西國政治家カ此ノ形勢ヲ憂慮スル固ヨリ其ノ所ナリ就中佛國ハ殊ニ困難ノ境遇ニアリ然レトモ此ノ難境ハ意外ニ起リシニアラス又之ヲ未然ニ防キ得ヘカラサルニモアラサルナリ然ルニ和蘭ニ至テハ今日マテ未タ曾テ交戰國艦隊ニ其ノ港ヲ貸シタルコトアラス蘭國政治家ハ外交事項ニハ常ニ至大ノ用心ヲ加フルカ故ニ其ノ東印度所領港灣ニ於テ決シテ中立國ノ權利又ハ義務ヲ苟且ニスル如キハ決シテナカルヘシト確信シテ可ナリ歐洲ニ在リテ白耳義ノ中立並ニ白耳義和蘭兩國ノ獨立及ヒ其ノ領土保全カ英國ノ利害ニ關スルコト最大ナルト等シク東洋ニ於テモ和蘭ノ所領ニ外國ノ手ヲ觸レサラシムルハ英國ニ取リテ頗ル重要ニシテ苟モ現狀ヲ攪亂スルノ憂アル出來事ハ其ノ何タルヲ問ハス我カ國ノ利益ニ反スルモノナリ

然レトモ露國艦隊其ノ敵ニ向ヒ敢進スヘキヤ或ハ其ノ所在ニ留リテ荏苒日ヲ遷スヘキヤ或ハ又歸航スヘキヤ未タ知ルヘカス

露國皇帝ハ一月五日午前聖彼得堡ニ歸著シ同日午後及ヒ其ノ翌日時局問題ニ關スル會議ヲ開キタリ然ルニ右ニ言ヘル三策何レニ出ツルモ各其ノ不利ヲ免レサルカ故ニ此ノ會議ハ何等ノ決議ヲ見ルニ至ラサリシモ亦敢テ怪ムニ足ラサルナリ進ミテ日本ト戰ハンカ若クハ歸國シテ歐洲列强ノ漫罵ヲ招キ國威地ヲ拂フヲモ暫ク忍ハンカ二者孰レカ得策ナルカ或ハ又其ノ孰レヲモ採ラスシテ全艦隊ハ「マホメット」ノ遺柩ノ如ク天地ノ間ニ懸リテ留ルノ妙策アラサルカ之ヲ選擇シ之ヲ案出スルノ苦惱察スヘキナリ「ロイド」信號所ニアル我カ通信員ハ「ヂエゴ、シユアレ」以東ニ於テハ艦隊ニ供給ノ設備既ニ成レルモノト認メ難シトセリ況ヤ給炭船及ヒ給糧船雇入契約ノ既ニ取消サレタルモノアルニ於テヲヤ然レトモ東航艦隊進退ノ決定未タ發表セラルヽニ至ラサル所以ノモノハ蓋露國皇帝ノ顧問會議二派ニ岐レタルカ爲メナラン曾テ婆羅的艦隊發航スルニ當リ露國新聞ハ其ノ勢力ヲ計上シ若シ誤算アレハ全然其ノ責ニ任スヘシト稱シ其ノ數字ヲ示シテ曰ク日本艦隊ハ其ノ排水量通シテ十八萬四千噸ニ過キス婆羅的浦鹽斯德兩艦隊ノ排水量ハ拾五萬千七百噸ニシテ之ニ合スルニ旅順艦隊ヲ以テセハ其ノ排水量增シテ二十四萬千七百噸トナルヘシト露國公衆ハ之ニ惑ハサレ旅順艦隊ヲ尙現存スルモノト信シ政府亦之ヲ祕シテ其ノ實ヲ告ケス旅順艦隊全滅後海軍中佐「クラード」ハ左記ノ如ク日露艦隊ノ實力比較ヲ立テタリ

	婆羅的艦隊	日本艦隊
噸數	九五、〇〇〇	二一六、〇〇〇

砲	七〇三	九四一
重砲	三六	六三
乗員	八、五〇〇	一四、四〇〇

露國海軍省ニシテ六月二十三日ウヰトゲフト少將カ旅順艦隊ヲ率ヰテ南下ヲ試ミテ失敗ニ終リシニ鑑ミ又浦鹽艦隊トノ投合到底出來得ヘカラサルヲ明ニシタランニハ日本艦隊ニ對抗シテ全然一勝算ナキコトヲ悟リタルナラン然ルニクラードー中佐ノ增援艦隊派遣ノ主張ト同艦隊ノ一月二十八日婆羅的發航ノ豫定トハ遂ニ露國皇帝ニ其ノ萬一ヲ賭セシムルニ至ルヤモ亦知ルヘカラス若シ是ニ出テスシテ發航準備ニ數月ヲ費シ巨費ヲ投シタル此ノ一大艦隊ヲ今ニ至テ遽ニ召還シ何ノ爭フ所ナクシテ日本ニ全然制海力ヲ委セントスルハ其ノ忍フヘカラサル所ナレハナリ然レトモ其ノ何レニ決スルカハ何人モ之ヲ斷言スルコト能ハス若シ進航ノ命下ルニ至ラハ今世ニ起リタル海戰中最大激戰ヲ見ンコト疑ナシ然レトモ此ノ艦隊ハ露國海軍カ恃ム所ノ最後ノ唯一勢力ナリ若シ之ニシテ破壞セラルヽニ至ラハ縱令日本ニ勝チタリトスルモ結局露國ハ遂ニ降リテ劣等ノ海軍國トナリ將來多年間事業上海軍國ノ班列ヨリ除カルヽニ至ルヘシクラード中佐ハ露國外交上「所謂將來ノ目的」ナルモノヲ嘲笑セシカ軍事的見地ヨリシテ其ノ言フ所大ニ理アリ之ト同時ニ吾人ハ又此ノ艦隊ニシテ再敗ヲ取ラハ是ヨリ露國政府ノ雙肩上ニ來ス所ノ結果ハ一大事ナルヲ諒知スルニ足ル凡事ニ當リ成功期スヘカラサル場合ニハ蹰躇ノ念ヲ免レサルハ固ヨリ其ノ所ニシテ今ヤ露國ノ畫策ニ於テ之ヲ見ル海軍論者レーランド氏ハ日本戰艦八島ノ喪失シタルヲ稱スレトモ未タ之ヲ確ムルニ足ルヘキ證憑アラス同艦ノ危禍ニ遭ヘル一事ハ其ノ八月十日ノ艦隊戰鬪ニ加ラス又其ノ後在役艦タルノ報ナキヲ以テ觀レハ蓋事實ナラン然レトモ東郷大將ノ十二月二十四日旅順口ヨリ歸京後發表シタル日本艦隊ノ喪失艦中八島ノ名見エサルカ故ニ吾人ハ此ノ良艦カ再戰列ニ加ルニ至ルヘキヲ期セサルヘカラス

吾人カ本戰役中ニ起レル重大ノ事件ニ依テ更ニ學ヒ得タル制海力ニ關スル訓誡ハ我カ英國中何人モ之ヲ等閑ニ附スルモノアラサルヘシ此ノ訓誡ハ戰局ノ變遷スル毎ニ現レ來ルカ故ニ吾人ニシテ之ニ接セント欲セハ決シテ之ヲ逸スルノ要アラス本戰役全部ヲ通シテ到ル處制海力其ノ覇ヲ稱セサルナシ世界中如何ナル國家如何ナル政府ト雖モ此ノ形勢ヲ詳ニセサルモノアラサルヘシ爰ニ一事ノ回顧スヘキハ一八九四年數百萬ノ大軍ヲ有スル三大强國ハ日本ノ遼東占領ニ反對シ鄭重ニ而モ鞏固ニ之カ放棄ヲ日本ニ要求シタルニ日本ハ遂ニ之ヲ放棄セシカ日本ハ今之ヲ回復シタリ一八九四年ノ抗議ハ何故ニ再起ラサルヤ世界ハ擧テ其ノ理由ヲ知ルナラン

六七 日本ノ浦鹽斯德ニ對スル監視（軍事批評家）

（一九〇五年一月十八日發刊「タイムス」所載）

日本ノ婆羅的艦隊ニ對スル熱誠ナル迎接準備ハ其ノ第二ノ作戰目的タル浦鹽斯德監視ノ爲メニ未タ嘗テ之ヲ弛メサリシト雖モ兩者同時ニ之ヲ遂行シ共ニ遺憾ナキヲ期スルハ容易ノ業ニアラサルカ故ニ今日マテハ自カラ浦鹽斯德ニ對スル監守ヲ寬ニシタル結果少クモ約二十五隻ノ船舶ハ近頃故障ナク同港ニ入ルヲ得タリ然ルニ數日前英國汽船「レミントン」「ローズリー」兩號ノ捕獲セラレタル警報ハ同シク同港ニ向ヘル五十乃至六十隻ノ汽船ニ危惧ノ念ヲ存セシムルニ至レリ此等ノ大部分ハ英國汽船ニシテ保險料二割五歩乃至三割五歩ノ割增ヲ以テ「ロイド」會社ノ保險ヲ受ケ居レルモノナリシカ右捕獲事件起リシ以來保險料ノ五割ニ暴騰シタルハ聊モ驚クニ足ラサル所ニシテ尙或ハ更ニ騰貴スルナルヘシ世人ハ不幸ナル船主ニ對シ甚深ノ同情ヲ表スルト同時ニ「ロイド」保險業者ニ對シテモ亦同感ヲ注カントスルモノヽ如シ日本ノ捕獲審檢所若シ此等船舶ノ捕獲ヲ正當ト檢定スルニ於テハ「ロイド」ハ方ニ十四萬磅ノ損害ヲ受ケントスルモノナルカ如シ此ノ海上保險會社ハ頗ル大膽ナリ船主若シ私利ノ爲メニ我カ同盟國ノ敵ヲ助ケ保險業者亦同一ノ目的ヲ以テ船主ニ給資シタリトセハ彼等ハ其ノ受ケタル損害ニ對シテ聊モ訴フヘキ理由アラサルナリ何トナレハ彼等ニシテ海路ヨリ浦鹽斯德ニ廿萬噸ノ貨物ヲ密輸スレハ露國參謀部ニシテ滿洲軍ニ軍用列車五十結ニ滿載スル兵ヲ增發スルヲ得セシムルモノニ

シテ即チ戰爭ノ繼續ヲ長カラシメ日本ノ損失ヲ大ナラシムルモノナルヲ顧ミナハ自家ノ損害ハ瑣々ナル事ナレハナリ多數人民ノ船主及ヒ保險業者ニ同情ヲ表スルカ如キ思モ寄ラス彼等ハ必ス之ヲ自業自得ナリトスヘシ結局五十「ギニー」ノ割增金ノ爲メニ此ノ不德ナル商業ヲ繼續セハ損益相償ハサルヤ必セリ

六八　差迫リタル艦隊戰鬪（軍事通信員）（一九〇五年四月十日及ヒ同十五日發刊「タイムス」所載）

本戰役中露國海軍ノ苦痛ヲ蒙ルコト頗ル大ナリト雖モ尙ロジエストウエンスキー中將及ヒ其ノ統率セル婆羅的艦隊カ毫モ危險ヲ辭セス麻剌加海峽ニ入リテ新嘉坡ヲ通過シ傲然トシテ支那海ニ出テタル擧動ハ我々英國人ヲシテ轉タ嘆賞ヲ禁スル能ハサラシムルモノアリ此ノ擧動ハ實ニ吾人ヲシテ同艦隊許多ノ不法行爲ヲ忘却セシメ且露國海軍軍人カ眞ニ勇ヲ鼓シテ勝敗ヲ決セントスルノ氣概アルモノタルヲ認メシム

婆羅的艦隊ノマダガスカルニ於ル滯留久シキニ渉リシト戰爭ノ續否ニ關スル露國政府ノ意思不明ナリシトノ二事ハ婆羅的艦隊ノ行動ニ關スル世ノ注意ヲ薄クセルノ狀ナキヲ得サリキ吾人ハ一月二十一日ノ「タイムス」紙上ニ論シテ云ヘリ曰ク露國艦隊カ絕東ニ達セントスル眞面目ノ計畫ヲ立ツルニハ今後尙三個月ノ日子ヲ要スヘシト是同艦隊給炭準備ノ上ヨリ推斷シタルモノニシテ此ノ豫想ハ果シテ實際ニ符合セリ此ノ時ニ當リネボガトフノ增援艦隊即チ世ニ所謂太平洋第三艦隊ハ三月中ニジブーテルニ到著シタレハロジエストウエンスキー中將ハ此ノ增勢ヲ合シテ東航スルモノナラント思ハレシカ彼ハ之ヲ待受ケスシテマダガスカルヲ出發セリ是ニ於テ吾人カ四月七日ノ紙上ニ東航艦隊ノ行動上第三艦隊各艦ノ價値如何ニ就キテ吐露シタル懸念ハ露京海軍統帥部ニ於テモ同シク抱懷スル所ノモノタルコトヲ斷言スルヲ得ヘシ三月十八日以來四月八日ニ至ル迄ハロジエストウエンスキー艦隊即チ太平洋第二艦隊ノ行動ニ關スル確報ハ一モ到達セサリキマダガスカルノ一港アンタナ、リヴオヨリ三月十八日附「ロイテル」發電ハ露國艦隊十六日ノシベヲ出發シ行先不明ナルヲ報セリ第二報ハ英國汽船「タラ」號カ四月八日ノ朝新嘉坡ニ齎シ來レルモノ是ナリ其ノ報ニ曰ク四月七日午後一時四十七隻ノ露國艦船ヲ麻剌加海峽ワンフアゾム、バンク沖ニ視認シタリト此ノ消息アリシ後數時間ニシテ露國艦隊ハ新嘉坡ノ視界內ニ現レ午後二時新嘉坡港前ヲ通過シテ東北方ニ航進セリ汽船「クムサン」號ハ露國艦隊ノ前方ニ十二隻ノ巡洋艦ヲ認メタリト報セシカ是ハ日露孰レノ軍艦ナルヤ未タ知ルヘカラス

第一ニ注目スヘキハ第三艦隊ノ行動ニ在リ同艦隊カ漸ク四月七日午前十時南方ニ向ケジブーテルヲ出發シタルヲ以テ見レハ同艦隊ハ絕東ニ於テ何カ特別ノ任務ヲ帶フルモノナリヤ又ハ第二艦隊ノ將ニ行ハントスル海戰ノ勝敗決セサルカ若クハ露國戰テ勝タハ其ノ後ヲ承ケテ戰地ニ現レ爲ス所アラントスルモノナリヤ殆ト其ノ目的ヲ知ルニ苦ム然レトモ其ノ孰レカ眞ニ近キヤヲ問ハヽ蓋後段ノ方ナラン目下婆羅的造船所ニ於テ艤裝進行中ナル第四艦隊モ亦同一ノ目的ニ使用スル爲メナラント推測スルヲ得ヘキナリ

目下ノ處ニテハ露國司令長官ノ意圖ハ極テ單純ナルカ如シ彼ハ世界通商ノ大道ヲ行キ敵ヲシテ其ノ欲スル所ニ從テ攻擊セヨト云フノ有樣ナリ然レトモ是或ハ單ニ其ノ外形ノミナルヤモ知ルヘカラス之カ今後ノ運動ヲ精確ニ發見シ得ヘキ機會ハ日本巡洋艦ノ之ト接觸スル場合ニ在リ第二艦隊ノ次回ニ寄泊スヘキ港灣ハ艦隊漸ク航進シテ給炭ノ必要ヲ感スルノ時期ヲ俟チテ決スルモノニシテ多分ハ佛領印度支那ノ港灣又ハ錨地ヲ擇ハントスルモノナルヘシ東甫寨ノ諸港即チカムポンソム、カムポツト、ハチエン、ハ航路ヲ距ルコト遠キニ失スト雖モ東甫寨角ヨリ柴棍河ニ至ル間ノ其ノ他ノ海岸ハ地勢矮低ニシテ底質深泥雨候ニハ往々氾濫シ又場所ニ由テハ距岸十二海里ノ處マテ水深二尋半乃至三尋ノ礁脈擴延ス柴棍ハ現時佛領印度支那ニ於ル佛國海軍根據地ニシテ柴棍河即チドンナイ河ノ右岸ニアリサン、ヂヤック岬ヲ距ル四十八海里ナリ河水ノ流勢ハ春季ニアリテハ四海里ニシテ高潮時ニハ水深十二呎ヲ增ス商船ハ市街ノ正面ニ當リテ五尋乃至七尋ノ錨地ヲ呈スルモ露國艦隊ノ如キ數多ノ大艦ニ對シ此ノ河又ハ此ノ市街ヲ以テハ到底所要ノ便宜ヲ與フルニ足ラス且河口ノ可航水路頗ル曲折スサン、ヂヤック岬ニハ佛國ノ防禦工事アリ

露國艦隊ノ載炭地ニ適スルハサン、ヂヤック岬又ハプロー、コンドール列島ナルヘシプロー、コンドール列島ハ交趾支那ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

海岸ヲ南ニ距ル五十海里清國通商航路ヲ西ニ距ル六十五海里ニシテ柴棍ヨリ新嘉坡ニ至ル直條航路ニ當レリ本島ハ長九哩幅二哩乃至四哩ニシテ其ノ東部ニ大灣一名東灣アリ海岸屈曲シテ西北及ヒ西南ヲ障護シ灣內ハ四月ヨリ十月ニ至ル西南信風期中ノ好錨地タリ更ニ安南ノ海岸ヲ見ルニ又良灣好錨地多シ就中ツーラヌ灣ヲ以テ最良トス海防（ハイホン）ノ東北アロン灣亦著名ノ泊地タリ然レトモ吾人ハサンヂヤック岬及ヒプロー、コンドール列島ヲ以テ日本巡洋艦ノ視線ヲ集中セサルヘカヲサル地點トス

和蘭政府モ露艦ニ對シテ如何ナル便宜ヲ與フルヤモ知ルヘカラス然レトモ在ブラッセル「タイムス」通信員ノ十二月二十七日附電報ニハ和蘭政府ハ嚴正中立ヲ宣言シプルーハウエー島ヲ初メ其ノ他何レノ港灣モ決シテ之ヲ交戰國ノ所用ニ供セシムルコトナカルヘキヲ宣言シタリト曰ヘリ同國政府カ此ノ決斷ヲ變更セサランコトハ吾人ノ希望シテ止マサル所ナリ東印度ニ於ル和蘭艦隊ハ裝甲巡洋艦二隻防護巡洋艦四隻其ノ他大小砲艦水雷艇若干隻ヨリ成ル馬來群島ニ於ル日本ノ諜報設備ヲ說クハ姑ク措キ日本カ濠洲ノ北方ニ至ルマテ露國艦隊ノ支那海ニ入リ得可キ航路ハ盡ク之カ監視ノ準備ヲナサヽルナキコトハ既ニ世ノ信スル所ナリ日本ハ其ノ監視ノ目的ヲ達セン爲メ此ノ區域內諸島嶼ノ各要點ニ網ノ目ノ如クニ通信員ヲ配置シ且巡洋艦及ヒ偵察ニ代用シ得ヘキ汽船ヨリ成ル大艦隊ヲシテ間斷ナク活動セシメタルナラン然ルニ露國艦隊ハ途ヲ南洋諸島間ニ取ラス直ニ麻剌加海峽ニ入ルノ大膽ナル方針ヲ擇ヒタルヲ以テ日本ノ準備ハ畫餠ニ屬シタルヤノ觀アリト雖モ其ノ監視ノ充分行屆キタレハコソ露艦ヲシテ新嘉坡方面ニ出ルニ至ラシメタル所以ノモノト爲サヽルヘカラス何レニスルモ日本ハ是ニテ三個ノ重要ナル目的ヲ達セリ曰ク日本諜報機關ハ露艦ノ出現ヲ即時視認シ迅速通報シタルコト今尙恐ラクハ露艦ニ對シテ嚴密監視中ナラン曰ク露國ヲシテ其ノ巡洋艦ヲ以テ偵察ヲ行フ能ハサルニ至ラシメタルコト曰ク露國ヲシテ運炭船ヲ艦隊ヨリ先發スルノ企圖ヲ全然中止セシメタルコト是ナリ要スルニ露國艦隊ハ爲メニ集合ヲ保ツノ已ムヲ得サルニ至リ日本艦隊ノ之ニ對スル戰略上ノ困難ハ大ニ減少シタリ和蘭新聞カ去十一月中驅逐艦又ハ水雷艇ヨリ成ル艇隊ノボルネオノ北方ニ來リシヲ報スルヤ日本ハ直ニ之ヲ邀擊スルナラントノ風說アリタレトモ當時東郷艦隊ハ何レニ其ノ根據地ヲ定メタルヤ明確ニ知ラレス其ノ後ニ至テモ尙然リ偵察艦隊ハ猶野戰ニ於ル獨立騎兵師團ノ如シ之カ背後ニハ數個ノ枝隊アリ以テ總指揮官ニ通報ヲ傳達スルノ任ニ當ルモノニシテ後方ニアル主力艦隊カ此ノ偵察艦ニ依テ敵情ヲ密知スルハ毫モ陸戰ニ於ル本隊ト異ル所ナシ或ハ東郷大將ハ澎湖島ヲ根據地ト爲シ此ノ處ニアルナランカト想像スル者アレトモ彼カ支那海ノ通商航路上ニ巡航シ居ラサルヤ明ナリ若シ此ノ船跡頻繁ナル海上ニ巡洋艦ノ遊弋スルアラハ疾ニ其ノ消息ノ傳ハルヘキ筈ナリ何レニモセヨ彼ノ所在地ハ海底電線ト聯絡ヲ通スルノ地點タルヘキヲ以テ敵ノ新嘉坡ニ來リタルコトハ東郷大將モ四月八日中ニ聞知シタルナルヘシ海底電線ノ尙不通トナラサルハ香港方面ノ輿カ動搖セル報アリシニ依テ察スルヲ得ヘシ我カ支那艦隊カ南方ニ戰起ルヲ豫見スルニアラサルヨリハ香港ノ動搖スヘキ所以ナケレハナリ殊ニ我カ支那艦隊ハ戰起ル場所ヲ知ラサルヘカラサルナリ海戰術ニハ奇計ヲ用フルコト頗ル多シ司令長官戰ヲ避クルトキハ固ヨリ論ヲ竢タス戰ハント欲スルトキニテモ尙然リ露國艦隊ハ自己ノ運動カ敵ニ如何ナル決心ヲ取ラシムヘキヤヲ測度セサリシニハアラサルヘシ又其ノ目的戰ヲ避クルニアリテ先ツ其ノ運送船ニ一時ノ安ヲ與ヘシカ爲メ浦鹽斯德ニ達セシメント欲スルモノナリトスルモ最早其ノ敵ヲ遁ルヘキモノトハ思ハレサルナリ然レトモ是迄ノ事情ヨリ熟考スルニ露國艦隊ハ目下戰ヲ避ケンヨリモ寧ロ之ヲ挑マントスルモノナルニ似タリ彼等ハ數多ノ日本偵察艦ニ其ノ所在ヲ窺ハレサラントスルモ得ヘカラサルヘシ思フニ露國艦隊ハサンヂヤック岬又ハプロー、コンドール列島ニテ載炭ノ後其ノ運送船ヲ柴棍ニ護送シ然ル上ニ同所附近ニテ戰鬪ヲ行ヒ若シ損傷セル軍艦アラハサンヂヤック岬ノ佛國砲臺保護ノ下ニ逃入セシメテ以テ捕獲ヲ免レシメント欲スルナルヘシ彼ハ明十一日ヲ以テプロー、コンドールニ達スルヲ得ヘシ假ニ露國艦隊ニ以上ノ如キ意圖アリトシ又東郷艦隊ハ澎湖島ニアリ直ニ南下スルモノナリトスレハ兩艦隊ノ接觸スルハ十四日ヨリ早キコトナカルヘシ但驅逐艦攻擊ノ機ニ至リテハ勿論豫メ測ルヘカラサルナリ

然レトモ東郷大將カ果シテ露國艦隊ノ挑戰ニ應スルヤ否ヤ彼或ハ其ノ敵カ運送船ノ一部ヲ携ヘテ北上スルマテ之ヲ待ツ

モノナラン其ノ間日本ノ偵察枝隊及ヒ驅逐艦ハ絶エス敵艦隊ヲ惱マシ主力戰鬪前早クモ其ノ勢力ノ一部ヲ減殺スルニ至ラン

露國ハ英國臣民カ今回ノ海軍戰役中露國艦隊ニ對シ百方不法ノ行爲ヲ敢テスルモノナリトシテ吾人ヲ責ムルト雖モ試ミニ看ヨ露國ハ婆羅的艦隊カ世ノ注視ヲ避ケ又敵ニ遭遇スルヲ免レシトシテ何等施ス所アリシカ同艦隊ハ既ニ數日間絶エス敵ノ監視ノ下ニ立チ而テ其ノ今日來ス所ノ結果ヨリ長キヲ期セントスルモ焉ソ得ヘケンヤ露國新聞ノ如キハ四十七隻ノ大艦隊カ數平方海里ノ面積ニ亙リ粗炭ノ朧煙天ニ聳キ往來頻繁ナル通商航路ヲ横行濶歩スル擧動ヲ以テ恰モ隴畝ヲ奔ル兎ト同一視シ能ク人目ヲ避クルコトヲ得ヘシトナスモノナリ

然ルニ露國新聞斯ノ如クナランコトヲ期スルモ到底出來得ヘカラサルナリ是ヲ以テ新嘉坡、ウェルトウレンデ、アムステルダム、スーラバヤ、バタビヤ各地ノ發電ハ何レモ婆羅的艦隊ノ主力隊カムソトク及ヒ瓜哇方面ニ向ヒ航進スルヲ報セサルナシ露國新聞如何ニ其ノ洩レサランコトヲ欲スルモ之ヲ防クニ由ナシ那破翁曾テ外務大臣タレーラン及ヒ內務大臣フーシエ等ニ訓令シテ曰ク佛國艦隊埃及ニ揚兵セシメタリトノコトヲ和蘭新聞紙上ニ掲載セシメヨト然レトモ時勢ハ既ニ變遷シタリ今日斯ノ如キ手段ハ頗ル妙手ヲ以テシ外觀上好ク事實上ト一致セシムルニアラサルヨリハ倣フヘカラサルモノナリ近世式艦隊ハ船跡稀ナル僻地ニ匿レ以テ長ク發見セラレサルコトヲ得ヘシ然レトモ往來絶エサル通商航路ヲ經テ世界ノ半球ヲ航海スル大艦隊ニシテ終始之ヲ人目ニ觸レサラシメント其ノ司令長官ニ於テ之ヲ豫期スルハ寧ロ誤レリト云フヘシ英國船籍ニ上レル船舶ノミニテモ現ニ約四萬隻ニ達ス而テ此等ハ皆常ニ各海面ヲ往來シテ營業ニ從事スルカ故ニ其ノ擊沈若クハ拿捕セラレタル局地ニ於テノ外ハ此ノ一大艦隊其ノ影ヲ韜マシ其ノ居ラサルヲ裝ハントスルモ豈得ヘケンヤ

四十二隻ヨリ少カラサル艦船ヨリ成ル露國艦隊四月十一日正午北緯八度東經百八度五十五分ノ海面ニ在リ八乃至十海里ノ速力ヲ以テ北々東ニ向ケ航進中ナリトノ報アリ若シ此ノ針路此ノ速力ヲ以テ航續スルモノトセハ露國艦隊ハ四月十二日正午交趾支那ノパダラン岬ノ沖ニ達シ同十三日パラセル島ノ南ニ進ミ同十四日呂宋ト海南島トノ間ニ入リ今十五日香港ニ近ツキ明日臺灣海峽ニ入ルヘキ筈ナリ然レトモ露國艦隊司令長官ハ今ヤ日本艦隊ト接觸セントスルニ當リ好ンテ手足纏ヒト爲ルヘキ一大運送船隊ヲ隨ヘ之カ保護ノ煩勞ヲ甘ンスルモノト思ハレサルカ故ニ彼必スヤ四月十三日ニ其ノ運送船隊ト別レ之ヲアロン灣又ハ其ノ他便利ノ避泊地ニ送リ以テ將ニ起ラントスル戰鬪ノ結果ヲ待タシムルナラン夫ヨリ彼ハ臺灣海峽ヲ航過スヘキヤ或ハ又同島ノ南及ヒ東ニ針路ヲ執ルヘキヤハ知ルヘカラサルナリ

日本ノ運動ニ關シテハ目下偵察艦出沒ノ報アル以外ニハ更ニ聞知スル所ナシ日本ノ絶エス敵情ヲ嚴密ニ監視スルハ疑ナシ東郷大將ハ露國艦隊カ日本ノ好ム所ノ針路ヲ執リテ來航スルカ故ニ其ノ戰ハント欲スル地點ニ在リテ其ノ到著ヲ待ツヨリ外ニ良キハナシ近世ノ科學ハ未タ海上視力ヲ增進スルニ至ラサルモ其ノ聽力ニ至テハ大ニ鋭敏ナラシメタルカ故ニ餘程ノ遠距離ヨリ物音ヲ辨スルヲ得ヘシ當初ノ模樣ニテハ露國艦隊ハ印度洋ヨリシテ何レニ出現スヘキヤ又其ノ司令長官ノ意戰ヲ欲スルニアリヤ將タ避クルニアリヤ豫知シ難キヲ以テ日本ハ之ヲ判斷スルニ苦ミ爲メニ偵察艦ヲ各所ニ派遣スルノ必要アリタレトモ露國艦隊ノ約二十四時間アナムバ島ニ於ル滯泊ハ爲メニ日本ノ各偵察艦ヲシテ敵ノ來航ニ應スル爲メ豫定ノ集合地點ニ來會セシムルニ充分ノ餘裕ヲ與ヘタルナラン

四月八日午後ニ新嘉坡ヲ通過シタル露國艦隊ハ「ボロヂノ」型新式戰艦四隻舊式戰艦三隻裝甲巡洋艦二隻防護巡洋艦六隻驅逐艦七隻ヨリ成リ數多ノ特務艦船之ニ交ルコトハ既ニ知悉セラレ最早一點ノ疑ヲ存セス然レトモ日本艦隊ニ關シテハ尙判明ナラサル所アリ戰艦八島ノ運命ノ如キハ未タ嘗テ公表セラレス此ノ故ヲ以テ四月十三日發刊ノ英國某朝刊新聞紙上ニ見エタル日本新聞紙ヨリ轉載ノ兩交戰國對抗艦隊勢力比較表ノ如キハ之ニ幾分ノ考察ヲ要ス其ノ計算ニ據レハ日本新聞ハ露國戰艦七隻ノ排水量ヲ八萬七千三百四十四噸トナシ吾人ノ計算ヨリ二千二百五十噸ヲ增シ日本戰艦トシテハ五隻ヲ數ヘ六萬八百九十噸ナリトセリ然ルニ吾人ノ計算ニ據レハ四隻ニシテ五萬七千五百噸ナリ此ノ差アルハ其ノ中ニ八島ヲ算入シタルカ故ニアラス何トナレハ八島ヲ加フレハ其ノ數五隻噸數七萬二千ヲ超ユヘシ或ハ其ノ五隻中ノ一隻ハ左

ノミ有力ナラサル舊式ノ一艦タリシモ知ルヘカラス又露國戰艦七隻ノ舷側發射總彈量ハ二萬六千九百六十六听ニシテ日本ハ一萬六千七百一听ニ過キサルヲ顧ミレハ今ヤ制海力爭奪ノ矢先ニ當リ我カ同盟國ハ最大有力ノ軍艦ニ於テハ敵ヨリモ劣勢ナルヲ認メサルヘカラス日本ニシテ之ヲ償フニ足ルヘキ有利ノ點ナカリセハ戰局ノ形勢大ニ憂慮スヘキモノアリ日本ニ取リテ其ノ有利ノ點ハ士氣振興ノ無形的要素ハ姑ク措キ第一ニ日本ニハ新式裝甲巡洋艦八隻アルコト是ナリ日本新聞紙ノ計算ハ頗ル好ク吾人ノ見ル所ト一致シ日露裝甲巡洋艦ヲ比較シ日本ハ露國ノ一萬四千七百二十四噸ニ對シ七萬三千六百八十六噸ナリトシ又此ノ八隻ハ何レモ善ク戰闘ニ適スルモノナリトス故ニ日本戰艦及ヒ裝甲巡洋艦ヲ合スレハ露國ノ此ノ兩艦種ニ對シ約三萬二千噸ノ優勢ヲ保チ其ノ舷側發射總彈量ニ於テ露國ノ二萬八千三百五十四听ニ對シ三萬四千六十九听ヲ有ス速力ニ至テハ殊ニ著シク優越セリ第一ニ防護巡洋艦及ヒ其ノ他ノ巡洋艦並ニ驅逐艦及ヒ水雷艇ニ至テハ日本ハ遍ニ露國ノ上ニ位ス雙方ノ情勢斯ノ如シ愈戰闘開始ノ曉ニハ之カ對抗兩艦隊ノ戰術上ニ如何ナル影響ヲ及スヘキヤ大ニ討究スヘキ價値アリ

假ニ日本ノ裝甲巡洋艦ハ露國戰艦トノ戰闘ニ堪フルコト能ハスシテ終ニ敵艦ノ為メニ撃破セラルヘコトアリトスルモ日本側ノ優數ナル輕快艦艇ハ故ラニ本戰ニ參加セントハセス列外ニ避ケテ溜ニ其ノ經過ヲ注視スルハ露國ニ取テ大ニ寒心スヘキモノアリ彼ハ一等戰艦ノ數ニ乏シキカ故ニ之ヲ危地ニ陷ルヘカ如キコトヲ為サヽルヘク巡洋艦及ヒ各種輕快艦艇ニ至テハ其ノ多數ヲ有スルヲ以テ之ヲ喪フモ敢テ日本ノ興廢ニ關スル大事ニ至ラサルヘシ故ニ彼ハ主力艦保全ノ為メニ艦種ノ優勢ヲ利用シ以テ其ノ主力艦ト敵ノ戰闘艦トノ間ニ均衡ヲ保タンコトヲ案畫スルナルヘシ

右ハ東郷大將ニ取リ決シテ事新シキニアラス彼ハ是迄戰艦ノ保存ニ努メ多少ノ任務ヲ水雷艇隊ニ委スルヲ常トス而テ其ノ艇隊ノ勳功ヲ顯シタル場合ハ枚擧ニ遑アラス唯八月十日戰闘後夜間ノ襲撃ニ於テ一タヒ其ノ功ヲ奏セサリシコトアリタルニ過キス而モ之カ理由ニ至リテハ未タ説明セラレス殊ニ目下ノ露國大艦隊ニ對スル作戰問題ハ旅順艦隊ニ對スル直接封鎖中ニ於ル問題トハ其ノ趣ヲ異ニスルモノアリロシヂェストウエンスキーハ正々堂々航海スルモノニシテ是迄旅順艦

隊司令長官ニ於テ見ル如ク終始陸上要塞ノ掩護ニ眷戀スル者ニアラス彼ハ艦隊戰闘ヲ挑マントス假令戰ヲ避ケ又ハ浦鹽斯徳ニ遁走スルノ策ニ出ルモ時日遷延ノ外ハ之カ為メニ何ノ得ル所アラス而テ時日ノ遷延ハ露國ニ利セス寧ロ却テ損アリ抑戰爭ノ目的ハ敵ノ主力ヲ撃破シテ以テ其ノ局ヲ結フニアリ是ニ於テカ問題ハ日本側ニ於テ如何ニ其ノ劣等艦種ヲ利用スヘキヤニアリ即チ如何ニ巧ニ其ノ快走艦艇戰術ヲ弄スヘキヤニアリ今日此ノ艦隊ニハ昔日ニ無キ武器ヲ裝備セリ即チ魚形水雷是ナリ此ノ怖ルヘキ武器ノ有効距離内ニ在テハ世界ニ冠タル巨戰艦モ其ノ破壞力ニ於テハ忽ニシテ此ノ輕快艦艇ト甲乙ナキニ至ランノミ

英國海軍大佐ベーコンハ千九百年發刊ノブラッセー海軍年鑑ニ「快走艦戰術」ト題スル一論文ヲ掲載セシカ（明治三十三年十二月刊行水交社記事第百二十二號登載）其ノ論中目下日露兩國間ニ起レルト殆ト同樣ナル事情ノ下ニアル對抗艦隊ノ場合ヲ考察シテ曰ク敵ノ主力艦ニ打撃ヲ加ヘ以テ我ト同勢ナラシメンカ為メ劣等艦ヲ賭シ其ノ全滅ヲ顧ミサルヲ得策トスルノ場合ナキニアラサルヘシ劣等艦ヲ犧牲トシテ敵ノ主力艦ヲ減損シ以テ優等艦種ノ同數若クハ優數ヲ來スハ海戰ノ新顯象ニシテ昔日ニハ有リ得ヘカラサル事ナリト然レトモ凡之ヲ放遣シテ一大勁敵ヲ攻撃破壞セントスルトキハ其ノ乘員ノ決シテ生還セサルコトヲ覺悟セサルヘカラス敵ニ向テ快走艦ヲ放遣スルノ擧ハ恰モ殺伐ヲ逞ウセンカ為メ榴彈ヲ擲射スルト均シク專心一意ナラサルヘカラス苟モ司令長官ニシテ躊躇決セス或ハ其ノ部下ノ生還ヲ冀ヒ其ノ運動ヲ掣肘シ或ハ未タ全ク其ノ目的ヲ遂セスシテ既ニ其ノ引揚ヲ命セハ寧ロ初ヨリ其ノ擧ヲ企テサルニ若カス

ベーコン大佐ハ又大膽ナル豫言ヲ試ミテ曰ク戰爭ノ進行ハ延イテ一個年ニ亙ルコトアリ其ノ間司令長官ハ數多ノ快走艦ヲ率ヰルモ敵ノ性質或ハ位置ヲ考ヘ又ハ他ノ方面ニ之ヲ使用スルヲ一層有利ナリト認メ暫ク其ノ攻勢的動作ヲ差控フルコトアルヘシ然レトモ之ヲ使用スルノ時機來リ既ニ攻撃ヲ為スニ決セハ恰モ石ヲ水中ニ投スルノ勢ヲ以テ之ヲ放遣シ全隊殲絶ニ遇ヒ一人ノ還リテ其ノ結果如何ヲ報スル者ナキモ亦可ナリト夫ヨリベーコン大佐ハ今日支那海ニ於テ行ハレタル如キ形勢ヲ假想シ以テ其ノ身ヲ戰闘前日ニ於ル東郷大將ノ位置ニ擬シ自問シテ曰ク司令長官ハ夜間其ノ快走艦艇ヲシ

テ敵ニ迫ラシムルコトナキカ又彼ハ明日ノ一戰ニシテ敗ヲ取ラハ今後快走艦艇ヲ偵察任務ニ使用スルノ必要ナラサルニ倘之ヲ吝ミテ殘シ置クヘキカ又ハ此等艦艇ヲシテ敵艦隊ニ向ヒ狂犬ノ如ク逸セシメ水雷及ヒ撞頭攻撃ヲ逞ウシ破壞ヲ擅ニシ精神ノ堪フル限リ手腕ノ續ク限リヲ盡シ以テ明日ノ戰ニ勝ツノ道ヲ開クヲ欲セサランヤトベーコン大佐ノ意ハ此ノ任務ニハ當ニ驅逐艦及ヒ水雷艇ノミナラス更ニ之ヨリ大ナル軍艦モ亦利用シ得ヘキモノトシテ曰ク明日ノ戰鬪ハ勝敗豫メ判スヘカラス而モ國威ヲ赫々タラシムルノ目的若クハ國帑ノ支給若クハ戰略的情勢ヨリスルモ主力艦隊ヲ以テ一大捷利ヲ冀フコト愈切ナレハ快速艦艇ノ全部若クハ一部分ヲ放遣シ殺伐破壞ヲ試ムルノ必要愈大ナリト

前陳ベーコン大佐ノ論文ハ固ヨリ日本海軍軍人ノ爲メニ草シタルモノニアラサルモ昨年中ノ戰史ニ徴スルニ日本海軍軍人ハ此ノ論文ノ精神ヲ採リテ既ニ大ニ利スル所アリタリ今將ニ絶東ニ起ラントスル海戰ノ發端ニハ前陳ノ如キ壯快ナル驅兵突貫樣ノ快走襲撃ヲ見ルヘキモノト豫期シテ可ナルモノヽ如シ此ノ襲撃ニ依テ充分ノ戰果ヲ收メントスルニハ襲撃ニ次クニ艦隊戰鬪ヲ以テセサルヘカラス而テ艦隊戰鬪ハ襲撃ノ翌曉ヨリ開始シ以テ敵ノ陣形紊亂シ士氣沮喪スル機會ニ乘セサルヘカラス快走襲撃ノ好時機ハ艦隊戰鬪ノ前夜ニ在ルコト毫モ疑ヲ容ルヽニ足ラス然ルニ今日迄ノ處ニテハ日本艦艇ノ群リ居ルナラント思ハルヽ支那海上ニ於テ未タ曾テ魚形水雷其ノ他何等ノ襲撃行ハレタルノ報ヲ得ス又其ノ模樣モ見エサルハ其ノ快速艦艇カベーコン大佐ノ快走艦戰術論ニ言ヘル如キ壯烈ナル計畫ヲ實行センカ爲メニ集合給養セラルヽヲ思ハシムルニ足ルモノアリ勇敢ナル日本海軍軍人ニシテ夜陰ニ乘シ婆羅的艦隊ニ襲撃ヲ試ミナハ其ノ結果知ルヘキノミ

六九　絶東ニ於ル日露對抗艦隊ノ勢力比較及ヒ日本獲捷ノ豫測（軍事批評家）

（一九〇五年五月十六日發刊「タイムス」所載）

吾人カ絶東ニ於ル日露海軍ノ情況ヲ論スルニ當リ海戰ノ差迫リタルヲ言フヲ常トスルハ露國艦隊不日日本艦隊ト衝突スヘキモノト見做シテ疑ハサルニ似タリ露國司令長官ハ「何人モ未タ實戰ノ經驗ナクシテ作戰ノ方法ヲ發見スルコト能ハス」トノ戰略原則ヲ顧ミナハ徒ニ日ヲ遷セハトテ其ノ部下カ今日ヨリモ一層戰鬪ニ適スル兵員トナルニモアラサレハ出來得ルタケ速ニ其ノ敵ヲ索メ之ヲ戰鬪ニ誘致セサルヘカラサル筈ナリ是蓋其ノ當ヲ得タルモノナルヘシ日本艦隊ニ至リテハ衝突ノ時機ヲ延サント欲スル理由アリト雖モ敵ニシテ若シ眞ニ戰ヲ早メンコトヲ欲セハ敢テ之ヲ辭セサルモノナラン然レトモ露國司令長官ハ或ハ戰ヲ交ヘスシテ浦鹽斯德ニ潛入セント試ミンモ亦知ルヘカラス同港ハ之ヲ封鎖スルニハ旅順口ヨリモ適ニ難キ場所ニシテ其ノ造船廠ハ尙健在シ其ノ内ニハ最大戰艦ヲ容ルヽニ足ルノ一大船渠アリ露國海軍ハ確乎動カスヘカラサル戰略原則ト雖モ之ヲ知ラス或ハ知リテ之ヲ顧ミサルノ例ハ既ニ往々見ル所ニシテ要害堅固ノ根據地ハ露國艦隊ヲ誘致スルノ引力強キカ故ニ司令長官ハ之ニ惑ハサレ其ノ部下艦隊ヲ全ウシテ之ニ達セント計畫スルコトナシトスヘカラス然ルニ此ノ計畫ハ悲慘高價ノ敗戰ヲ連續シ其ノ末ニ至リ或ハ露國艦隊ノ破壞ヲ見ルニ至ルヘキノ外ハ何等ノ結果ヲモ齎サヽルヤ必セリ吾人ハ傍觀者ノ見地ヨリスルモ敵カ己ヲ索メテ戰ハントスルニ當リ要塞掩護ノ下ニ隱レテ之ヲ避ル如キ卑怯ノ擧ニ出テナハ之ヲ指彈スルノ外アラサルナリ

然レトモ露國司令長官戰略原則ニ重キヲ置キ要塞掩護ヲ恃マサルモノト視ハ戰鬪遠カラスシテ行ハルヽヲ豫期スヘキナリ是ニ於テ兩國對抗兵力ヲ比較セハ此ノ戰鬪ノ如何ナル結果ニ終ルヘキヤヲ推測スルニ資スル所アルヘシネボガトフ少將ノ率ヰル增援艦隊ハ既ニ司令長官ノ麾下ニ投合セリ吾人ハ是迄知リ得タル精確ノ計算ヲ綜合シテ露國艦隊ノ勢力ヲ斷定スルコト左表ノ如シ

ロジエストウエンスキー中將ノ率ヰル露國艦隊（ネボガトフ少將ノ增援艦隊ヲ合ス）

艦種	艦名	排水量（噸數）	竣工年	速力	兵器（輕砲機砲ヲ除ク）	乘員	載炭量
戰艦	スヴオーロフ	一三、五一六	一九〇四	一八・〇節	十二吋砲四門、六吋砲十二門 水雷發射管六門（内二門水線下）	七四〇	一、三五〇トン 二、〇〇〇トン

艦種	艦名	排水量（噸數）	竣工年	速力	兵器（輕砲機砲ヲ除ク）	乗員	載炭量	
戰艦	アリヨール	一三、五一六	一九〇四	一八・〇	十二尹砲四門、六尹砲十二門 水雷發射管四門（内二門水線下）	七四〇	一、三五〇トン	二、〇〇〇トン
同	アレクサンドル三世	一三、五一六	同	同	同 水雷發射管六門（同）	同	同	同
同	ボロヂノ	同	同	同	同	同	同	同
同	オスラービヤ	一二、六七四	一九〇一	一八・〇	十尹砲四門、六尹砲十一門 水雷發射管六門	七三二	二、〇六二	二、〇五六
同	シソイ、ウェリーキー	一〇、四〇〇	一八九七	一六・〇	十二尹砲四門、六尹砲六門 水雷發射管六門	五五〇	五九〇	五〇〇
同	ナワリン	一〇、二〇六	一八九五	同	十二尹砲四門、六尹砲八門 水雷發射管六門	六三〇	七〇〇	一、二〇〇
同	ニコライ一世	九、六七二	一八九二	一四・八	十二尹砲二門、九尹砲九門 六尹砲八門、水雷發射管六門	六〇四	一、二〇〇	
海防艦	ゲネラル、アドミラル、アプラクシン	四、一二六	一八九八	一五・〇	十尹砲三門、六尹砲四門 水雷發射管四門	三一八	二一五	
同	アドミラル、ウシヤーコフ	四、六四八	一八九五	一六・〇	九尹砲四門、六尹砲四門 水雷發射管四門	同	四〇〇	
同	アドミラル、セニヤーウ弁ン	四、七九二	同	同	同	同	同	
裝甲巡洋艦	アドミラル、ナヒーモフ	八、五二四	一八八八	一六・七	八尹砲八門、六尹砲十門 水雷發射管四門	五六七	一、二〇〇	一、三〇〇
同	ドミトリー、ドンスコイ	六、二〇〇	一八八五	一六・五	六尹砲六門、四・七尹砲十門 水雷發射管四門	五一〇	三六〇	四〇〇
同	ウラヂーミル、モノマーフ	五、五九三	同	一五・二	八尹砲五門、六尹砲十二門 水雷發射管二門	五五〇		
防護巡洋艦	アウローラ	六、七三一	一九〇二	二〇・〇	六尹砲八門 水雷發射管四門	四三二	九〇〇	一、四〇〇
同	オレーグ	六、六七五	一九〇四	二三・〇	六尹砲十二門 水雷發射管二門（水線下）	三四〇	九〇〇	六〇〇
同	イズムルード	三、一〇六	同	同	四・七尹砲六門 水雷發射管五門	同	六〇〇	
同	ジェムチウグ	同	同	同	同	同	同	
同	スヴェトラーナ	三、一八二	一八九七	二〇・〇	五・九尹砲「カネー」式六門 水雷發射管四門	三六〇	四〇〇	一、〇〇〇
同	アルマーズ	三、二八五	一九〇三	一九・〇	四・七尹砲六門 水雷發射管六門	三四〇	五六〇	

驅逐艦　十三隻　特務艦船　六隻　義勇艦隊汽船　五隻

運送船　十隻　外ニ給水船　一隻　工作船　一隻

病院船　二隻

表中載炭量ヲ二種ニ記シタルハ其ノ多キ方ノ量ヲ搭載シタルモノヽ如シ

日本艦隊

艦種	艦名	排水量（噸數）	竣工年	速力	兵器（輕砲機砲ヲ除ク）	乗員	載炭量	
戰艦	朝日	一五、二〇〇	一九〇〇	一八・三	十二尹砲四門、六尹砲十四門 水雷發射管四門（水線下）	七九五	一、六〇〇トン	一、五四九トン
同	富士	一二、三〇〇	一八九七	一八・五	十二尹砲四門、六尹砲十門 水雷發射管五（内四門水線下）	六〇〇	一、一〇〇	
同	三笠	一五、二〇〇	一九〇二	一八・五	十二尹砲四門、六尹砲十門 水雷發射管四門（水線下）	八三六	七〇〇	一、五二〇
同	敷島	一四、八五〇	一八八九	一九・〇	十二尹砲四門、六尹砲十四門 水雷發射管五門（内四門水線下）	八一〇	七〇〇	一、七二三
同	鎭遠	七、四〇〇	一八八四	一四・二	十二尹砲四門、六尹砲四門 水雷發射管三門	四〇〇	一、〇〇〇	
海防艦	扶桑	七、七一七	一八九九（改造）	一一・六	九、四尹砲四門、六尹砲四門	三七七		
裝甲巡洋艦	吾妻	九、四三六	一九〇一	二一・〇	八尹砲四門、六尹砲十二門 水雷發射管五門（内四門水線下）	四八二	六〇〇	一、二七五
同	淺間	九、七〇〇	一八九九	二二・一	同	五〇〇	六〇〇	一、四〇九
同	出雲	九、七五〇	一九〇一	二二・〇	八尹砲四門、六尹砲十四門 水雷發射管四門（水線下）	同	同	一、四〇三
同	磐手	九、七五〇	同	二一・七	同	同	同	

裝甲巡洋艦	春日	七,二九四	一九〇四	二〇	十吋砲一門、八吋砲二門、六吋砲十四門、水雷發射四門	五〇〇	六〇〇トン	一,一五〇トン
同	日進	同	同	同	八吋砲四門、六吋砲十四門 水雷發射管四門	同	同	同
同	常磐	九,七〇〇	一八九九	二一・七	八吋砲四門、六吋砲十二門 水雷發射管五門(内四門水線下)	同	同	一,四〇九
同	八雲	九,八五〇	一九〇一	二一・〇	同	四九八	同	一,一〇〇
防護巡洋艦	對馬	三,三六五	?一九〇三	?二〇・〇	六吋砲六門	?三二〇	六〇〇	
同	新高	同	同?	同	同	同	同	
同	千歳	四,八六八	一八九八	二二・七	八吋砲二門、四・七吋砲十門 水雷發射管四門	四〇五	三五〇	一,二〇〇
同	笠置	四,七八四	同	同	同	四〇五	三五〇	一,〇〇〇
同	高砂	四,一六〇	一八九八	二三・五	八吋砲二門、四・七吋砲十門 水雷發射管五門	三八五	同	
同	秋津洲	三,一〇〇	一八九三	一九・〇	六吋砲四門、四・七吋砲六門 水雷發射管四門	四〇七	五〇〇	
同	橋立	四,二一〇	同	一六・〇	十二・六吋砲「カネー」式一門 四・七吋砲十一門、水雷發射管四門	四一八	四〇〇	
同	松島	四,二一〇	一八九二	一六・〇	十二・六吋砲「カネー」式一門 四・七吋砲十二門、水雷發射管四門	四一八	四〇〇	
同	嚴島	四,二一〇	一八九三	一六・〇	十二・六吋砲「カネー」式一門 水雷發射管四門	四一八	四〇〇	
同	浪速	三,七二七	一八八六	一八・七	六吋砲八門 水雷發射管四門	三五二	三五〇	八〇〇
同	高千穂	同	同	同	十・二吋砲二門、五・九吋砲六門 水雷發射管五門	三五二	同	
同	音羽	三,〇〇〇	一九〇四	二一・〇	六吋砲二門 四・七吋砲六門	三一〇?	六〇〇	
巡洋艦	須磨	二,六五七	一八九八	一九・五	六吋砲二門 四・七吋砲六門 水雷發射管二門	三〇〇?	二〇〇	五四四
同	明石	同	同	同	同	同?	同	
同	千代田	二,四五〇	一八九〇	一九・〇	四・七吋砲十門 水雷發射管二門	三〇六	四二〇	
同	和泉	二,九二〇	一九〇一(改造)	一七・〇	改造六吋砲二門、四・七吋砲六門	三一四	四〇〇	六〇〇

驅逐艦ハ二十隻ナランカ其ノ内日本製ノモノ數隻今既ニ竣工シタルナラン水雷艇ハ大型十二隻小型五十五隻潛水艇十三隻

特設船舶ハ其ノ就役隻數ヲ詳ニセスト雖モ開戰前ニハ三十八隻ヲ算シタリ尚一九〇四年ノ戰役ニ徴スルニ日本艦隊ハ常ニ給水船、工作船、病院船等各種特設船舶ヲ隨ヘタリ

日露兩艦隊衝突スル場合ニハ兩軍ノ主力隊ハ何レモ其ノ特務艦ヲ隨ヘサルヘシ故ニ表中所載ノ勢力ハ戰場ニ現ルヘキ實際ノ勢力ヲ示スニ足ラサルモノト知ルヘシ先ツ斯ク斷リ置キテ是ヨリ兩艦隊ノ比較勢力ニ移ランニ露國ハ八隻ノ戰艦ヲ有シ内五隻ハ新式ニシテ五隻中ノ四隻ハ何レモ昨年竣工シタルノミ「ニコライ」一世モ右八隻中ニ算入スル以上ハ同艦ニ比シテ左マデ劣勢ナラサル鎭遠モ亦日本戰艦中ニ數フルヲ得ヘシ斯ノ如クスレハ日本戰艦ハ五隻トナリ内四隻ハ何レモ新式ノモノナリ露國海防艦ノ三隻ニ對シテハ日本ハ小型舊式ナル扶桑ノ一隻ヲ有スルノミ然レトモ同艦ハ近ク一八九九年改造セラレタリ露國ニハ三隻ノ裝甲巡洋艦アリ皆舊式ニシテ其ノ竣工ハ一隻ハ十七年前他ノ二隻ハ二十年前ナリ之ニ反シテ日本ハ八隻ノ裝甲巡洋艦ヲ有ス皆新式ニシテ其ノ竣工ノ年ハ一八九九年以前ノモノアラス以上ノ如クニシテ兩軍共ニ各種裝甲艦合計十四隻ヲ有ス兩軍ノ主力艦隊對戰前ニ輕快艦ノ戰鬪起ラハ巡洋艦ノ隻數ニ於テハ日本ハ露國ノ六隻ニ對シ少クモ十六隻ヲ有ス水雷艇ニ至テ日本亦著シク優勢ナリ

露國ハ六隻ノ假裝巡洋艦即チ武裝商船ヲ有ス日本ハ此ノ種ノ船幾隻ヲ有スルヤ未タ詳ナラスト雖モ日本若シ之ヲ備ヘント欲セハ敵ノ所有隻數以上ニ達スルヲ得ヘキヤ必セリ

昨年八月十日ノ黄海々戰ニ於テ露國ハ巡洋艦ヲ戰列ニ加ヘ「アスコツド」及ヒ「ヂイヤーナ」ノ二隻ハ共ニ非裝甲艦タルモ猛射ヲ蒙リテ而モ破壊ヲ免ルヽヲ得タリ日本モ亦其ノ非裝甲巡洋艦ヲシテ戰闘ニ參加セシメタリ然ルニ其ノ一隻タモ未タ曾テ復舊スヘカラサルカ如キ大損害ヲ受ケタルモノアラス八月十四日ノ蔚山沖海戰ニハ浪速、高千穗之ニ參加シ「リユーリク」ニ止メヲ刺スヲ得タリ故ニ砲數ヲ計算スルニハ上表ニ列記シタル非裝甲巡洋艦ノ備砲ヲモ算入スルヲ至當トス然ルニ砲ノ効力ハ或程度マテハ之ヲ裝備スル各艦ノ砲架裝置等ニ從テ相異ルモノニシテ單ニ口徑ノ同等ナル故ヲ以テ兩軍ノ砲數ヲ對照スルカ如キハ未タ比較ノ精確ヲ得タルモノトナスヘカラス例令ハ中等大ノ巡洋艦高千穗ノ十二尹砲ハ「オスラービヤ」ノ十尹砲ニ比スレハ其ノ砲架裝置法ノ相異ルヨリシテ著シク劣勢ナリト視ルモ妨ナキカ如シ此ノ點ニ就テハ詳細之ヲ説述スルニアラサレハ吾人ハ兩艦隊各種口徑砲ノ効力ニ就キ精確ナル比較表ヲ調製スルコト能ハス然レトモ之ヲ概觀スレハ砲架裝置ノ脆弱ニ歸スヘキ缺點ハ兩軍共ニ略平均スルモノト斷定スルヲ得ヘシ又口徑相同シクシテ其ノ制式ヲ異ニスルモノアリ其ノ新式ノモノニ在テハ効力強大ナルハ疑ヲ容ルヘカラス露艦備砲ノ内若干門ハ近頃ニ至リ新式砲ニ換裝シタリ例令ハ「アレクサンドル」三世及ヒ「ニコライ」一世ノ三十五口徑六尹砲ニ換フルニ四十五口徑ノ新砲ヲ以テシタル如キ是ナリ

右ハ兩艦隊ノ砲數統計表ヲ示ス前ニ讀者ニ於テ之ヲ知ルノ必要アルカ故ニ先ツ述ヘ置キタリ尚爰ニ附言スヘキハ尚兩艦隊ノ備砲ニシテ略相類シテ其ノ口徑ニ小差ヲ免レサルモノアルモ統計上之ヲ同種砲ト視テ類別シタルコト是ナリ日本ニハ十二・六尹砲アリ又十二尹砲アリ又九・四尹砲アリ又五・九尹砲アリ此等ハ皆端數ヲ切落シ最近隻數ノ口徑ニ組入レタリ

口徑	門數 露國	門數 日本
十二尹砲	二六	二三
十尹砲	七	三
九尹砲	一二	四
八尹砲	一三	三四
	三二	四一
六尹砲	一四七	一九六

更ニ前表ヲ約スレハ八尹砲以上ノ砲ニ於テハ日本ハ露國ノ五十八門ニ對シ六十四門ヲ有シ六尹砲ニ至テハ日本ハ露國ノ百四十七門ニ對シ百九十六門ヲ有スルモノナリ海戰ノ行ハルヘキ遠距離ニ於テハ重砲殊ニ十二尹砲ハ六尹砲ヨリモ其ノ目標ニ命中スルノ機會多シ然レトモ六尹砲ノ發射速度ハ之ヲ頻射スルヲ得ヘシ其ノ遠距離ニ於ル命中ノ割合ハ十二尹砲ニ比スレハ遙ニ劣ルモ其ノ大ナル發射速度割合ノ寡キヲ償フニ足ルモノアルヘシ六尹砲彈ノ敵艦ニ命中シタル効果ハ十二尹砲彈ニ比スレハ無論微小ナリ然リト雖モ八月十日ノ黄海々戰ノ結果ニ徴スルニ此ノ二種口徑砲ノ効果ハ豫期スル如クニ大差アラサルニ似タリ總テ此等ノ點ヲ採リテ考察セハ兩艦隊ノ總計砲力殆ト同等ニシテ孰レカト云ハヽ露國ノ方ヲ優勢ナリトスルヲ得ヘシ是最大砲ヲ載スル軍艦ノ多クハ新制式ナルヲ以テナリ

本戰役中未タ魚形水雷カ航進中ノ軍艦ニ對シ其ノ一大利器タルノ實ヲ現シタル例アラス是戰艦及ヒ巡洋艦ニ裝備スル水雷發射管ノ價値ヲ評定スルニ苦ム所以ナリ然レトモ魚形水雷ニシテ若シ艦内ヨリ發射スヘキモノトセハ其ノ發射ハ多クハ水線下ヨリスヘキモノヽ如シ水中發射管數ニ於テハ日本ノ方ヲ多シトス

驅逐艦及ヒ水雷艇ノ隻數ニ於テ日本ノ遙ニ露國ニ超ユルコトハ既ニ知ラレタリ海戰起ルトキ其ノ戰場水雷艇衛所ヨリ遠隔セハ水雷艇之ニ參加スルコト能ハサルヘシ潜航艇モ亦露國艦隊カ此ノ艇ノ所在點ニ敢進スルニアラサル限リ今回用ヒラルヽコトナカラシ露國艦隊若シ浦鹽斯德ニ遁入セントスルニ於テハ其ノ時ニ至リ始テ潜航艇ノ如何ナル効果ヲ擧クヘキヤヲ見ルヲ得シ

兩軍裝甲艦及ヒ非裝甲艦ノ總乘員ハ日本ハ露國ノ約一萬二百人ニ對シテ約一萬三千五百人ナリ日本驅逐艦及ヒ假裝巡洋

艦ノ總乘員ハ其ノ艦艇ノ露國ヨリ優數ナル割合ニ準シテ露國ヨリモ多シ

載炭量即チ航續力ニ關シテハ露國戰艦ハ其ノ積込ミ得ヘキ石炭ノ量比較的大ナルヲ以テ幾分カ日本戰艦ニ優ル所アリト雖モ巡洋艦ノ載炭量ニ至テハ日本ノ方露國ニ優レリ今若シ海戰日本ヲ距ルコト遠カラサル處ニ於テ行ハルヘシトセハ日本ハ給炭シ得ヘキ港灣ニ富ムカ故ニ事實上日本艦隊ノ航續力ハ露國ニ超ユルモノトナスヘキナリ加フルニ露艦出渠以來既ニ久シキヲ經ルカ故ニ艦底ノ汚穢ヲ來シ縱ヒ潛水夫ノ手ヲ以テ之ヲ掃除シタルコトアルニモセヨ爲メニ其ノ速力減却シ隨テ多ク石炭ヲ消費セサルヲ得サルニ至ルヤ必セリ

兩軍ノ作戰材料ヲ悉ク採リテ考察スルニ日本艦隊ハ敵ニ對シ殆ト五角ノ勢ニアルヲ見ルヘシ露國戰艦ノ優數ハ大ニ重キヲ置クヘキ點ニシテ露國ニシテコレ微リセハ日本艦隊全體ノ上ヨリ視ルトキハ日本ハ敵ヨリモ優勢ナリト言フモ亦妨ナキナリ今若シ露國戰艦ノ優勢ヲ顚倒スルニ足ルヘキ原因ヲ作戰材料ノ範圍内ニ求メハ其ノ物果シテ如何之ニ對スル答ハ露國司令長官カ遠路携ヘ來レル許多ノ特務艦船ヲ擁護シテ隨航セシムヘキカ將タ又之ヲ放棄スヘキカ二者其ノ一ヲ擇ハサルヘカラサルノ必要ニ迫リシコト是ナリ彼ニシテ若シ之ヲ擁護スルコトニ決セハ彼ハ即チ其ノ勢力ヲ二分セサルヲ得ス彼若シ之ヲ放棄シ無防禦ノ姿ニテ浦鹽斯徳ニ至ラシメントスルニ決セハ其ノ幾隻ハ破壞若クハ捕獲ヲ免レサルハ必然タリ運惡ケレハ或ハ其ノ過半ノ破壞若クハ捕獲ヲ見ルニ至ランモ亦知ルヘカラサルナリ斯ノ如クニシテ露國司令長官浦鹽斯徳ニ到著セハ縱令其ノ目的地ニ達スルヲ得タリトスルモ其ノ境遇大ニ悲ムヘキモノアリ或ハ彼其ノ隨航船舶ノ護衛ヲ以テ之ヲ其ノ率ヰル假裝巡洋艦ニ一任スルコトアリトセンカ日本ハ斯ノ如キ護衛艦ニ對シテ啻ニ優數ノ同種艦ヲ派遣シ得ルノミナラス尚之ヲ撥クルニ一隻又ハ二隻ノ正式巡洋艦ヲ以テスルヲ得ヘシ

近頃露國巡洋艦浦鹽斯徳ヨリ出動シタリトノ風說傳ハリ其ノ二隻北海道沖ニ見エタリト云フ果シテ事實ナレハ「グロモボイ」ハ大損害ヲ受ケタルニモ拘ラス今ヤ良狀ニ復シ昨年末前既ニ修理竣工ノ報アリタル其ノ僚艦「ロシーヤ」ト共ニ出航スルニ至リタルモノヽ如シ此ノ巡洋艦二隻ノ爲シ得ヘキ活動ハ決シテ輕視スヘカラサルモノアルカ故ニ日本ハ無論之カ爲メニ此ノ方面ニモ其ノ勢力ヲ分遣スルナラン是ニ於テ日本ノ作戰計畫ハ稍錯雜トナルヘシ然レトモ日本ハ快速力假裝巡洋艦數隻ヲ之ニ當ラシメハ露國巡洋艦ノ行動ヲ無効ナラシメサルマテモ之ヲ掣肘スルヲ得ヘシ日本ハ亞細亞大陸トノ交通線ニ關シテハ最早大ニ心配スヘキコトアラサルニ似タリ日本ハ昨年八月中旬以來今日ニ至ルマテ既ニ九個月間何等ノ妨害ニモ遇ハスシテ其ノ制海力ヲ確握セリ日本ハロジエストウエンスキー中將カ一大艦隊ヲ率ヰテ絕東ニ出現シ來ルヘキコトヲ夢寐ノ間ニモ忘レス日本ハ軍機上ノ事ニ關シテハ毫モ之ヲ世ニ洩ラサスト雖モ是迄其ノ爲セシ所ニ依テ考フルニ其ノ援勢ハ既ニ滿洲ノ野ニ滿チタルヲ以テ今後久シキ間ハ出征軍補充ノ必要ナキヲ知ルニ足ル又其ノ兵站線ニ就テモ深ク慮リ出征軍ノ供給ヲ支フルニ足ルカ如クスルハ其ノ通例ノ遣リ方ニ依テ推察スヘキナリ果シテ然ラハ縱令海上交通數月間全然遮斷サルヽニ至ルコトアルモ尚日本ハ勇敢ニ其ノ陸戰ヲ繼續シ得ルモノト視ルモ亦妨ナシ日本陸軍ニシテ斯ノ如クナレハ波羅的艦隊縱令浦鹽斯徳ニ達スルトスルモ日本陸軍ハ必スヤ新著艦隊ノ力ヲ以テ阻止スヘカラサル方面ヨリ浦鹽斯徳ニ迫リ來ルヘキナリ

兩軍作戰材料ノ略平均スルコト斯ノ如クナルモ其ノ士氣ニ至テハ日本ノ露國ニ優ルヤ爭フヘカラサルノ事實ナリ第一ニ日本ハ是迄連戰連捷ノ赫々タル功績ヲ表彰セリ其ノ行動ノ中ニハ或ハ失敗ニ終レルモノナキニアラサルモ其ノ失敗ハ敵ノ醜キカ爲メニアラスシテ寧ロ其ノ行動ノ實際上出來得ヘカラサルモノナルカ若クハ其ノ性質ニ於テ難業タルヲ免レサルニ歸スヘキナリ日本ハ海戰ニ成効ヲ博スルニ必要ナル各般ノ性能ヲ發揮セリ東郷大將ノ下ニアル將校兵員擧テ今ハ歷戰ノ軍人ニシテ皆既ニ甲板上ニ淋漓タル血ヲ見タリ又敵ノ面前ニ於テ必ス具セサルヘカラサル習性ニ富メリ是其ノ對手ノ今回日本艦隊ト觸接シテ初テ實戰ノ味ヲ知ラントスル所謂初陣ノ士卒ト同日ニ語ルヘカラサル所ナリ東郷大將ハ自國ノ海岸ヲ距ルコト遠カラサル地點ニ於テ戰ハントスルモノヽ如シ修理工場ノ位置戰場附近ニ存スレハ損傷艦ヲ後送スルニ便ナルコト明ナレハナリロジエストウエンスキー中將ハ日本諸島ノ如何ナル方面ヲ航過セントスルモ各方面ニ於テ大容積ノ船渠及ヒ大規模ノ修理工場ヲ備フル港灣數個所アリ露國艦隊ニシテ日本ノ東方ヲ通過セントカ横須賀ニハ海軍

造船廠アリ浦賀ニハ大ナル私立工場アリ神戸ニハ川崎ノ眞工場アリ又豊後水道附近ニハ呉アリ是日本ノ一大海軍造船廠タリ此等ハ皆戰場トナラント思ハルヘキ地點ヲ距ルコト比較的近キ處ニアリ轉シテ日本ノ西方ヲ見ルニ長崎港ニハ乾船渠ヲ有スル私立造船所アリ又佐世保ニ海軍造船廠アリ呉モ亦此ノ方面ヨリ下ノ關海峽ヲ經テ達スヘク舞鶴ニ海軍造船廠アリ函館ニ私有船渠アリ日本ニ取テ大ニ利アル此等ノ便宜ハ日本司令長官ヲシテ露國艦隊ノ臺灣ノ北方ニ現ルヽマテ合戰ヲ延ハサンコトヲ謀ラシムルニ足ルモノヽ如シ東海（黄海ノ南東ニ當ル海面ノ名）及ヒ琉球列島ト日本間ノ海上ハ今尚霧期ニシテ六月初旬マテハ折々降霧アリ東部西伯利ト北海道間ノ海面ハ八月頃マテ霧期終ラス是ヲ以テ両艦隊ハ何レカノ地點ニ於テ突然遭遇スルコト必スシモ無シトスヘカラス

然ルニロジエストウエンスキー中將ハ霧ノ爲メニ善ク戰ヲ避ケ浦鹽斯徳ニ達シ得タリトスルモ既ニ陳ヘタルカ如ク未タ其ノ著港ノ一事ヲ以テ安スヘキニアラス其ノ供給船隊ニシテ安著セサレハ奈何トモスヘカラサレハナリ彼ハ其ノ供給ノ大部分ヲ船載シテ携ヘ來レリ之ヲ艦隊ノ後方ニ置キ之ヲ保護センカ爲メ供給船隊ト敵トノ間ニ護衛艦ヲ介在セシムルヲ便トシ彼ニシテ退却セサルヘカラサルニ至ラハ其ノ供給船隊ノ所在ニ向ケ退却スルナラン是此ノ供給船隊ハ彼ニ取テハ根據地ト同樣ノモノナレハナリ彼若シ戰テ敵ヲ破ラハ其ノ供給船隊ハ全部或ハ幾ト全部初テ無難ニ浦鹽斯徳ニ達スルヲ得ヘシ彼ハ日本海岸ニ接近スレハ云フ迄モナク水雷艇攻撃ノ危險ニ陷ルヘキカ故ニ其ノ航路ヲ選擇スルニ當リ之ヲ考察スルヤ必セリ既ニ日本艦隊ニ就テ言ヘル如ク修理港附近ニ於テ戰フノ便ナルハ露國艦隊ニ取リテモ亦然リ而モ露國艦隊ノ修理港ナルモノハ唯浦鹽斯徳一アルノミ然レトモ露國艦隊ニシテ出來得ヘキタケ速ニ敵ヲ戰鬪ニ誘致セハ或ハ其ノ便宜トスル地點ニ達スルノ望アルカ故ニ此ノ好位置ニ達スル距離ヲ算シ戰鬪ヲ急カンコト必然ナリ

東郷大將ハ今回愈ロジエストウエンスキー中將ト戰フニ至ラハ彼ハ是迄其ノ有セサリシ權能ヲ得テ出戰スルヲ得ヘシ是ヨリ前ノ各海戰ニ於テ彼ハ常ニ歐洲ヨリ更ニ露國艦隊ノ來東スルヲ慮リ之ニ對シテ其ノ餘力ヲ蓄ヘ置カサルヘカラサル義務ニ掣肘セラレ未タ曾テ其ノ攻撃ヲ極端マテ進メタルコトアラサリキ其ノ統率スルモノハ自國ノ唯一艦隊タルヲ以テ善ク之ヲ保存シテ新來艦隊戰場ニ著スルニ當リ善ク之ニ對抗シ得ル如クセサルヘカラサリシモ今ヤ此ノ義務ヲ脱シ戰果ヲ逞ウスルノ目的ニ向テハ一モ其ノ行動ヲ掣肘スルノ故障ヲ見ス一意攻撃ニ努メ後顧ノ必要ナキニ至レリ本戰役ノ觀察者ハ兎角個人的又ハ國家的偏好ノ爲メニ其ノ心ヲ動カサレ到底僻見ヲ免レサルヲ以テ戰局ノ形勢ニ對シ公平ノ斷定ニ達セサルモノアリシカ今將ニ來ラントスル一大海戰ノ勝敗ヲ豫測スル人々ノ斷定モ恐ラクハ又此ノ癖ヲ免レサルモノト思ハルヽカ故ニ余ハ之ニ對シテ贊否ヲ表スルニ躊躇スルモノナリ然レトモ世ノ信スル如ク両軍愈對戰スルコトヽナラハ余ハ以上所載ノ情態ヨリ推シテ日本ノ勝利ヲ豫期スル決シテ不當ニアラサルモノヽ如シ

七〇　婆羅的艦隊ノ破壞（海軍批評家）（一九〇五年五月三十日發刊「タイムス」所載）

昨二十九日全世界ハ婆羅的艦隊カ事實上殲滅セラレタリトノ東京發電ニ接シテ吃驚セリ其ノ後ノ電報ハ充分ニ此ノ事ヲ確メ即チ吾人カ五月十六日ノ紙上ニ「絶東ニ於ル日露對抗艦隊ノ勢力比較及ヒ日本獲捷ノ豫測」ト題シテ掲ケタル婆羅的艦隊ノ有力艦三十隻中十二隻ヨリ少カラサル隻數日本ノ爲メニ撃沈セラレ若クハ捕獲セラレタルコトヲ明示スルニ至レリ其ノ十二隻ハ左記各艦ニシテ其ノ内捕獲ノ結果日本勢力ニ加ヘラレタルモノニハ黒圈ヲ附ス

戰艦「●アリョール」同「インペラートル、アレクサンドル」三世同「ボロヂノ」同「●インペラートル、ニコライ」一世

海防艦「●ゲネラル、アドミラル、アプラクシン」同「●アドミラル、セニヤーウヰン」同「アドミラル、ウシヤーコフ」

裝甲巡洋艦「アドミラル、ナヒーモフ」同「ドミトリー、ドンスコイ」同「ウラヂーミル、モノマーフ」

巡洋艦「ジエムチウグ」同「スウエトラーナ」

右ノ戰果ヲ見ハ何人カ婆羅的艦隊ノ事實上殲滅ヲ否認スルモノアランヤ即チ同艦隊ハ戰鬪力上ヨリ云ヘハ最早其ノ存在ヲ失ヒタルモノナリ最近ノ報道ニ從ヘハ戰鬪ハ尚繼續中ナリト云ヘハ運命未タ明ナラサルモ露國軍艦ノ盛ニ追駆セラレ居ルハ毫モ疑フニ足ラサルナリ一報ニハロジエストウエンスキー中將ノ旗艦「クニヤージ、スウオーロフ」大損害ヲ受ケ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

タリト惟フニ其ノ麾下ニ屬スル軍艦ノ如キモ今既ニ意氣沮喪シタル敗餘ノ遁逃者タルニ過キサルヘシ或ハ此等ノ軍艦ハ既ニ四方ニ離散シタルヤモ知ルヘカラス海戰ニシテ斯ノ如ク全捷ヲ獲斯ノ如ク勝敗明ニ決シ又斯ノ如ク敵ヲ鏖滅シタルノ例有史以來殆ト未タ見サルナリ露國戰艦「アレクサンドル」三世同「ボロヂノ」及ヒ捕獲セラレタル戰艦「アリヨール」ハ婆羅的艦隊中最新式最有力戰艦四隻中ノ三隻ナリ擊沈若クハ捕獲セラレタル海防艦及ヒ裝甲巡洋艦各三隻ハロジエストウエンスキー艦隊中ノ舊式艦ナレハ殊ニ吾人ヲシテ其ノ運命ヲ危マシメタリシカ果シテ斯カル悲慘ノ末路ヲ見タリ六隻ノ防護巡洋艦中「ジエムチウグ」及ヒ「スウエトラーナ」ノ擊沈セラレタルハ既ニ明ナレトモ其ノ餘ハ目下遁走中ナルモノノ如シ追テ此ノ海戰ノ詳報ニ接セハ露國艦隊ノ損害一層大ナルコト殆ト疑ヲ容ルヘカラス何レニスルモ婆羅的艦隊カ戰闘力ヲ失ヒタルハ既ニ明ナル事實ニシテ縱シ其ノ殘艦ノ如何ニ成行クトモ其ハ日本ノ戰略上ニ何等ノ關係ヲ及スヘキモノニアラス到底再戰勝者タル東郷ノ敵ニ非サルハ明白ナリ我カ海軍中將リチャード、グレンヴヰルノ武勇ヲ以テシテモ西班牙「必勝艦隊」ノ巨大ナル勢力ニ會シテハ一死以テ之ニ當ルノ外アラサリキ

二日間ノ長キニ亙レル此ノ驚クヘキ一大激戰全局ノ經過及ヒ性質ニ至リテハ幾分ハ既ニ知ラレタル所アリ露國艦隊ハ其ノ勢力ヲ分割セサリシモノヽ如クナルカ當時恐ラク馬山浦ニ在泊シタルモノト思ハレタル東郷主力艦隊ノ哨艦カ初テ之ヲ視認シタルハ二十七日午前ナリキ斯テ日本聯合艦隊ハ同日晝間ニ露國艦隊ヲ對馬ノ東南沖ノ島附近ニ攻擊セリ此ノ晝戰ニ於テハ少クモ四隻ノ露國軍艦ヲ擊沈シ他ノ諸艦ニモ大損害ヲ加ヘ而モ之ヲ攻擊セル日本ノ艦隊ハ唯輕少ノ損傷ヲ受ケタルノミナリキ二十七日ヨリ二十八日ニ亙ル夜間ニ於テ日本水雷艇隊（驅逐艇モ合稱ス）ハ晝戰ニ由リテ既ニ甚シク打擊セラレタル露國艦隊ニ向ヒ突進襲擊シ其ノ運命ノ末期ヲ促セリ其ノ結果ハ未タ詳ナラス

然レトモ此ノ攻擊ノ結果露國艦隊ノ編制ヲ破リ之ヲ二分セシムルニ至リシコト必然ト思ハレタリ何トナレハ其ノ翌日日本聯合艦隊ハ再「アリヨール」「ニコライ」一世「アドミラル、セニヤーウヰン」「アドミラル、アプラクシン」及ヒ快走巡洋艦「イズムルード」ヨリ成レル一隊ヲ攻擊シ「イズムルード」ヲ逸シタルモ遂ニ他ノ四艦ヲシテ投降セシムルニ至レリ此ノ合戰ニ於テモ日本艦隊ハ毫モ損害ヲ受ケサリシカ如シ二十七日ノ海戰ニ關スル第一報ハ吾人ノ既述セル如ク唯四隻ノ軍艦實際沈沒シタルヲ云ヘルノミ又甚シキ損傷ヲ受ケタル他ノ四艦ハ夜ニ入リテ後チ沈沒シタルカ或ハ夜間ノ水雷攻擊ニ其ノ命ヲ失ヒタリシナルヘシ何レニスルモ翌日ニ至リ前陳ノ災害ハ全ク明白トナリ司令官ネボガトフ少將ヲ初メ二千ノ露國將校下士卒ハ四艦ト共ニ日本ニ降伏セリ捕虜ノ數ハ其ノ後ノ報道ニ據レハ往々三千人ナリト稱スルモノアリ又米國ニ傳ハリタル一報ニハ戰艦「シソイ、ウエリーキー」ヲモ亦沈沒艦中ニ加ヘアリ

右戰報ハ簡單ナレトモ其ノ行文ハ正確連續スルヲ以テ吾人ハ之ニ據テ此ノ今世ニ於ルトラファルガー役ニシテ而モ是ヨリ尚一層激烈ナル海戰ノ何物タルヲ推察スルヲ得ヘシ二十七日晝間日本艦隊カ既ニ少クモ四隻ノ敵艦ヲ擊沈シ又他ノ數隻ニモ大損害ヲ加ヘ而モ己ハ幾ト何等ノ損害ヲモ受ケサル如クナルヨリ之ヲ觀レハ其ノ攻擊ノ如何ニ猛烈ナリシヤヲ知ルヘキナリ追テ此ノ海戰ノ詳報ニ接スルマテ不取敢之ニ依テ學ヒ得ヘキ要訓ハ兩軍ハ勢力及ヒ機械力ニ於テ對等ナルモ威力驚クヘキ今日ノ戰闘材料ノ使用ニ熟セサル者ハ歷戰鍊腕ノ敵ニ對シテ到底競フヘカラサルコト是ナリ凡艦隊ナルモノハ單ニ軍艦ノ一集團ニアラス全一體ト爲リテ働クヘキ編制及ヒ聯絡ヲ具スルモノタラサルヘカラス即チ艦隊ニ編入スル各艦ハ司令長官ノ指麾及ヒ意思ニ從ヒ自餘諸艦ト共同連繫シテ殆ト自働的ニ進退セサルヘカラス艦隊ニシテ斯ノ如クナラスンハ其ノ各艦個々ノ機械的能力ハ敵ノ具體的結合及ヒ共同動作ニ對シテハ幾ト何等ノ用ヲモナスモノニアラサルナリ故ニ艦隊ニシテ一タヒ其ノ編制破ラレ其ノ共同動作ノ連繫斷タルヽニ於テハ其ノ時ニ於テ事實上敗績シタルモノナリ二十七日夕刻ニ於ル露國艦隊ノ境遇ハ斯ノ如キモノタリシヤ必セリ是ニ至リテ水雷襲擊ノ好機會ハ來レリ露國艦隊ノ劣勢ナル驅逐隊ハ戰闘開始ノ時ヨリ支離潰散セシコト明ナリ然レトモ東郷ハ敵ノ士氣沮喪スル時期ノ來ルマテ其ノ水雷艇隊ヲ留メ置キ夜間之ヲ敵艦隊ノ四周ニ放遣セリ彼ハ其ノ率ヰル獻身決死ノ水雷艇隊ノ如何ニ成リ行クヘキヤヲ顧ミス假令敵ノ一艦ヲ擊沈シ得サルマテモ其ノ之ニ授ケタル任務ハ必ス之ヲ遂行スヘキヲ確信シテ既ニ潰亂滅裂シ意氣銷沈セル露國艦隊ニ對シ襲擊ヲ決行セシメタルモノニシテ其ノ目的ハ晝間其ノ艦隊ノ開始セル功業即チ敵艦隊ノ編制ヲ破リ其

ノ各艦ヲシテ損傷ノ爲メニ落伍シテ終ニ戰鬪ニ堪ヘサル十集群タラシメ互ニ僚艦ヲ救援スルコト能ハス又一主腦ノ下ニ共同一致ノ動作ヲ行フコト能ハサルニ至ラシメタル戰果ヲ完了セントスルニ在リタリ故ニ晝戰ト夜襲トハ兩々相賴リ相俟チテ全キヲ成スモノナリ晝戰ニ喪亡ヲ免レタル各艦モ水雷艇防禦砲ハ既ニ甚シク損破セラレタルモノヽ如シ軍艦ニ於テ特ニ水雷艇防禦用トシテ裝備スルモノハ之ニ相當ノ瞰下射界ヲ與ヘンカ爲メ艦上高位置ニ載架スルカ故ニ必スヤ其ノ大部分ハ裝甲保護ヲ施サス世ノ論者或ハ司令長官タル者若シ出來得ヘクンハ艦隊戰鬪ノ前夜ニ敵ニ對シ水雷艇其ノ他快走艦ヲ放ツヲ得策ナリト論スル者アルモ東鄕ハ此ノ說ニ修正ヲ加ヘタルカ如シ彼ハ先ツ實力ヲ用ヒ敵ヲ攻擊シ之カ意氣ヲ沮喪セシメ以テ其ノ水雷艇防禦砲ノ效力ヲ殺キ而テ後チ敵ノ我カ水雷襲擊ニ對スル士氣及ヒ防禦力ノ沈衰セルニ乘シ夜間其ノ水雷艇ヲ放チタリ聖彼得堡ニ於テハ今回ノ敗戰ニ就キ斯ク解釋スルモノヽ如クナルカ吾人モ亦其ノ然ルヲ疑ハス魚形水雷其ノ物カ今回ノ海戰ニ於テ是迄ノ各海戰ニ見ルヨリ一層有效ナリシヤ一層破壞力ヲ顯セシヤ否ヤノ問題ハ未タ之ヲ解決スルニ由ナシト雖モ何レニ歸著スルモ是敢テ重大ナル點ニアラス要ハ其ノ有形的效果如何ニ關セス編隊放還セラレタル水雷襲擊ノ無形的效力絕偉絕大ナルニアリ實ニ夜間ノ三面包圍襲擊ハ露國艦隊ノ編制ヲ打破スルノ業ヲ完ウシタルノミナラス翌日露國艦隊ノ敗餘部隊カ日本艦隊ニ遇ヒ前後ヨリ壓迫扼抑セラルヽヤ否ヤ降意ヲ表スルニ至リシハ水雷襲擊ノ結果トスルモ亦敢テ不可ナキナリ斯ク云フモ決シテ露國海軍軍人ノ武勇ト忍耐トヲ侮蔑スルノ意ニアラス露國艦隊乘員ハ近世他列國ノ海軍軍人カ未タ曾テ受ケサリシ苛責ニ遇ヘリ而テ他列國ノ海軍軍人ト雖モ此ノ難境ニ當ラハ露國海軍軍人ヨリハ一層不撓ノ精神ヲ以テ之ニ耐ヘ或ハ一層觀ルヘキ成績ヲ顯シ得ヘキヤハ其ノ實例ヲ見ルニ至ルマテ之ヲ斷言スルニ躊躇スルモノナリ要スルニ露國海軍軍人ハ艦隊運動ニ於テ機先ヲ制セラレ戰術ニ於テ凌駕セラレ勢力ニ於テ優ヲ占メ遂ニ全敗ニ至リシト雖モ彼等ハ勇戰奮鬪以テ武夫タルニ負カス東鄕ノ贏チ得タルニ鑑ミ何事カ學ヒ得ヘキモノアリトセハ其ハ唯歷史ノ終始世ニ敎フル所ヲ溫ムルノ一アルノミ曰ク海戰ノ勝利ハ長日月ヲ經過スル内ニハ終ニ海ニ馴レ戰ニ馴レタル艦隊ニ歸スヘシト

七一　婆羅的艦隊ノ破壞（海軍批評家）

（一九〇五年五月三十一日發刊「タイムス」所載）

余ハ昨三十日日露兩艦隊ノ戰勢ニ就テ說ク所アリシカ其ノ後我カ英國ニ達シタル報道ハ何レモ婆羅的艦隊ノ破壞既ニ述ブル所ヨリハ尚一層甚大ニシテ全軍壓滅シタルコトヲ言ハサルナシロジェストウェンスキー中將ノ率ヰル一大艦隊中浦鹽斯德ニ逃入シタルモノハ非裝甲二等巡洋艦「アルマーズ」唯一隻アルノミ此ノ外如何ナル軍艦カ破壞若クハ捕獲ヲ免レタルヤ尚不明ナルモノヽ如シロジェストウェンスキー、フェリケルザム、ネボガトフ三將ノ運命亦尚未詳ナルニ似タリ華盛頓發電ニ據レハ三將皆捕虜トナレリト云フ然レトモ露國海軍省ニ於テハフェリケルザムハ病死シタリト信シ他ノ二將ハ戰死シタルヤ又ハ捕虜トナリタルヤヲ知ラサルモノヽ如シ「アルマーズ」艦長ノ談ニ據レハロジェストウェンスキーハ二十七日晝戰ノ初期ニ於テ負傷シ他艦ニ移サルヽニ至リタリト云フ尚同艦長ノ談ニ從ヘハ旗艦「クニャージ、スウォーロフ」及ヒ「オスラービヤ」モ亦當時既ニ沈沒シタリト云ヘリ然ラハ昨日ノ所謂擊沈若クハ捕獲艦ハ更ニ二隻ヲ增シテ十四隻トナルナリ斯テロジェストウェンスキー艦隊ノ各艦ハ目下ノ處實ニ「アルマーズ」及ヒ捕獲艦ノ外ニ何艦ノ殘存スルヤヲ示スニ足ルモノナシ

世ニ海戰史アリテ以來未タ曾テ見サル此ノ驚ク可キ大破壞ハ果シテ如何ナル方法如何ナル兵器ニ依テ行ハレタルヤ吾人ハ未タ之ヲ斷定スルニ足ルヘキ報道ニ接セス唯ロジェストウェンスキーカ其ノ全軍ヲ擧テ朝鮮海峽ヲ通過セント試ミタルハ事實ナルニ似タリ彼若シ其ノ志ヲ達セハ其ノ壯烈ナル海軍事業ハ直ニ彼ヲシテ列國海軍諸將ノ首班ニ列セシメタリシナランモ彼ハ遂ニ其ノ計畫ニ失敗セリ若シ此ノ計畫ノ外ニ採ルヘキ策アラハ決シテ朝鮮海峽ノ強行通過ヲ企テサリシナランモ他ニ無キカ爲メ已ムヲ得ス此ノ危險ヲ冒シタルモノト謂ハサルヲ得ス朝鮮海峽ノ中央ニハ日本ノ所領タル對馬アリ此ノ島ハ東鄕ヲシテ敵ノ計畫ヲ監視打破セシムルニ其ノ希望スル各般ノ便宜ヲ與フル地點ニシテ對馬ニハ西方ニ開ケル一大港アリ善ク港内ヲ障護ス露將若シ西水道ノ強行通過ヲ企ツルトセハ此ノ錨地ハ之ヲ阻止セント欲スル艦隊ニ取リテハ無上ノ便アリ然ルニ此ノ港ハ啻ニ西方ニ開ケルノミナラス朝鮮海峽ノ東水道ニ出ツルノ運河アリ水雷艇及ヒ驅逐

艦ハ之ヲ通航シ得ヘシ故ニ露將ハ如何ニスルモ到底東郷ノ如キ監守嚴密ナル敵ノ眸ヲ偸ミテ對馬ノ強行通過ヲ遂ケ得ルヲ期スヘカラス彼若シ晝間之ヲ通過セントヲ試ミナハ東郷ノ主力隊ニ依テ攻撃セラレンコト必セリ彼若シ之ヲ夜間ニ於テセンカ東郷ハ水雷艇隊ヲ放チテ襲撃センコト亦等シク明ナリ彼ハ孰レニスルモ敵ニ會スルヲ免レサルヲ以テ其ノ危險ノ程度ヲ對秤シタル後チ勢力統計上ニ於テ對等ナル東郷主力隊ト決戰ヲ試ミント欲シ時ヲ測リテ五月二十七日黎明後ニ東郷ノ外方警戒線哨艦ト觸接スルニ至ルヘキヲ期シ進航セリ此ノ時東郷何處ニ在リタルヤ詳ナラスト雖モ彼ハロヂェストウェンスキーカ東西何レノ水道ヲ通過セント試ミルモ晝間之ト會戰スルヲ得ルノ位置ニアリタルモノナルヘシロヂェストウェンスキーハ遂ニ東水道ヲ擇ヒタリ玆ニ東郷ハ夫ノ有名ナル一七八二年セーンツ島(西印度諸島ノ内)海戰ニ英國海軍少將ロドニーカドミニカ、グワデルーブ兩島ノ間ニ佛將ドグラースヲ邀撃シタルカ如ク此ノ日晝間ニロヂェストウェンスキーニ會スルヲ得タリ其ノ攻撃ノ結果ハ慄然タルモノニシテ日沒前ニロヂェストウェンスキーノ旗艦ハ他ノ最良戰艦二隻ト共ニ沈沒シ又數隻ハ大損害ヲ受ケタリ婆羅的艦隊ハ此ノ最初ノ大打撃ニ由テ挫折シ終ニ其ノ勢ヲ回復スルコト能ハス其ノ後ハ唯爭先ノ遁走及ヒ假借ナキ追撃戰ニ移リ結局全軍潰亂滅裂ノ悲境ヲ見ルニ至レリ

今ヤ全世界擧テ聞カント欲スル問題ハ東郷カ如何ニシテ此ノ最初ノ大打撃ヲ敵ニ加ヘシヤ又如何ナル兵器ヲ以テ之ヲ遂行セシヤト云フコト是ナリ露國戰艦ヲ沈メ得タルモノ果シテ砲熕ナリシヤ或ハ魚雷ナリシヤ若シ之ヲ魚雷トセハ此ノ兵器ハ此ノ一擧ヲ以テ本戰役ノ初期中失墜シタル名聲ヲ全然回復スルノミナラス尚一層高ムルヲ得タルモノナリ吾人ハ未タ明確ナル公報ニ接セサルヲ以テ各海軍國ニ至大ノ關係ヲ有スル此ノ主要問題ニ就キ敢テ推斷ヲ試ミルヲ欲セス若シ以上ノ戰果ヲ砲力ニ歸スヘキモノトセハ日本ノ攻撃艦隊カ敵ノ砲火ヲ冒シテ而モ災厄ニ罹ラサル所以ノモノ畢竟露國砲術ノ拙劣ナルカ爲メナリト謂ハサルヲ得ス然ルニ日本ノ砲力果シテ斯ノ如クナランニハ砲熕ノ良制式良裝甲ノ戰艦ニ對スル効力ハ是迄第一流ノ斯道家カ期待スル所及ヒ是迄ノ海戰ノ實驗ニ依テ斷定シタル所ヨリモ一層強大ナルモノト信セサルヘカラス然レトモ魚雷若シ白晝風濤アル海面ニ敵艦隊ヲ襲撃シ大ニ功ヲ奏シ其ノ結果ハ數多ノ專門家カ是迄平時演習ノ經驗及ヒ戰爭ニ由テ得タル經驗ニ基キ豫期スル所ヨリモ逈ニ大ナルコトヲ示シタルモノトセサルヘカラス何レニスルモ二十七日午後ノ戰鬪ハ一擧ニシテ婆羅的艦隊ノ運命ヲ決シタルモノナリ東郷ノ公報中日沒ニ至ルマテハ水雷攻撃ヲ加ヘストアルヲ觀レハ追テ詳報ニ接スルマテハ晝間婆羅的艦隊ノ蒙レル大損害ハ皆砲力ノ致ス所ナリト視做サヽルヲ得ス

兎モ角モ二十七日ノ晝戰ハ其ノ夜ニ行ハレタル水雷攻撃ノ路ヲ開キシコト愈明ニシテ東郷ノ砲火敵ニ如何ナル損害ヲ加ヘタリトスルモ就中露國軍艦ノ水雷艇防禦砲ヲ無能ナラシムルノ効果ヲ收メ得タルコト亦愈確ナリ昨日モ言ヘル如ク此ノ兵器ハ艦上高位置ニ戴架スルノ必要アリ隨テ其ノ大部分ハ無裝甲トナサヽルヲ得サルヲ以テ此ノ高架砲ハ照準精確ナル猛射ノ下ニアリテハ第一番ニ損害ヲ蒙リ士氣沮喪シ終ニ其ノ用ヲ爲サヽルニ至ルコト必然タリ是ニ於テ吾人ハ東郷カ思慮淺薄ナル敵ニ對シテ設ケタル罠ノ致命的性質ノモノタルヲ見ルヘキナリ二十七日ノ海戰ハ朝鮮海峽東水道ノ中央ニ於テ起レリ此ノ處ハ對馬ト日本トノ之ニ對スル海岸トノ中間ニ當リ其ノ距離何レヨリ算スルモ約三十餘海里ナリ東郷ハ晝戰中早クモ既ニ露國艦隊ノ我カ果敢ナル水雷艇隊ノ夜襲ニ堪フヘキ状態ニアラサルヲ見タルコト疑ナキヲ以テ日沒ヲ俟チ艇隊ヲ放遣スルノ準備ヲ爲セリ對馬ニ達スル一片ノ無線電信ハ豫メ同島ノ安全ナル一港ニ備ヘ置ケル水雷艇隊ノ一集團ヲ令下即時ニ出動セシムルヲ得ヘク而テ各艇何レモ新鋭ノ兵員、冷靜ナル神經、發射準備周到ナル兵器、至良ノ状況ニアル汽機、汽罐、火爐ヲ以テ二時間以內ニ戰場ニ達スルヲ得ヘシ然ルニ露艦ニ至リテハ既ニ晝間ノ砲戰ニ於テ疲勞シ續々起レル災害ヲ目擊シテ意氣銷沈セル折柄尚又徹宵連續激烈ナル水雷攻撃ヲ蒙リシモ其ノ敵ヲ目擊シ且之ヲ擊攘スルコト能ハス時々刻々煩悶、眩惑、擾亂シ恰モ地獄場裏ニ一夜ヲ過スノ思ヲ爲セリ東郷ノ主力隊ハ既ニ戰鬪ヲ止メ其ノ夜ヲ比較的安靜ニ經過シタリ即チ彼ノ率ヰル各戰隊ハ射距離外ニ引揚ケ運命既ニ定リタル敵ノ厄ヲ遁レントシテ逃走ヲ試ムル者ヲ追躡スルノ一事アルノミナリ東郷ノ假借セサル追撃戰ハ長ク敵ヲ苦痛セシメタリ而テ其ノ悲絕慘絕ナル状況ハ如何ナル字句ヲ以テスルモ之ヲ寫シ出スコト能ハス如何ナル人ノ想像タモ及ハサル所ナリ爰ニハ唯翌朝東郷ノ主力隊カ索敵ノ爲メ巡航中今ヤ全ク戰鬪力ヲ存セサル露國ノ大艦隊ノ殘餘ニ遭遇シ其ノ投降ヲ受ケ其ノ勝利ヲ全ウスルニ至リテ初テ仁ヲ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

垂レタリト言ハヽ足レリトス此ノ仁ハ何レノ地ニ於テ與ヘラレタルヤ前日ノ戰場ニモアラス又其ノ附近ニモアラス戰場ヲ距ルコト約二百海里ナル竹島附近ナリキ

七二　日本海々戰大勝ト倫敦新聞評論摘要

編者曰ク倫敦ノ新聞紙ハ日本海軍ノ大功偉績ニ就テ賞賛措ク能ハス殊ニ今回ノ大海戰大勝利ハ英國ノ同盟國カ恰モトラフアルガー海戰ノ第百周年ニ相當スルノ今日之ヲ得タルノ故ヲ以テ其ノ感喜ハ一層ヲ加フルノ觀アリ

五月三十日ノ「タイムス」ニ曰ク

今ヤ露國ハ當分海軍國タルノ地位ヲ失ヒ一二敗殘ノ露艦ハ或ハ脱シテ浦鹽斯徳ノ巡洋艦ニ加ルコトアルヘキモ今ヤ露國ハ此ノ敗餘ノ數艦ト黑海艦隊トヲ除クノ外軍艦ノ隻影タモ止メサレハ第四等ニ位スル海軍國ニモ當ルヘカラサルニ至リ今若シ婆維的港灣ニ侵入セントスル者アルモ之ヲモ防遏スルコト能ハサルノ悲境ニ陷リタリ之ニ引替ヘ是迄海上ニ敵ヲ壓シ來レル日本ハ此ノ一擧ニシテ益々制海力ヲ強固ニシ敵ヲシテ復之ヲ爭フニ由ナカラシメタリ海戰ノ勝敗ニ關シテハ從來多少疑惧ノ念ヲ抱ク者ナキニアラサリシカトモ今ヤ斯カル懸念ハ全ク消滅スルニ至レリ佛國ハ其ノ「厚意的中立」ヲ以テロヂエストウエンスキーヲ誘致シ之ヲシテ遂ニ死地ニ陷ラシメタリ中立侵害ヲ恣ニセル露國艦隊此ノ光輝アル成功ヲ收メシコトハ當ニ望ムヘカラサル所ナリ

「タイムス」ハ又佛國ノ新聞「ルタン」カ露政府ハ宜シク止ムヲ得サルノ勢ニ扈從シテ國家ノ慘憺タル戰鬪ヲ止ムヘシト云ヘル論文ヲ掲ケタルニ對シテ曰ク

佛國カ速ニ露國敗衂ノ眞相ヲ洞觀シタルハ怪ムニ足ラサルナリ但露國ハ果シテ能ク此ノ同盟國ノ思慮深キ厚意ニ出テタル勸告ヲ容ルヽニ至ルヘキヤ否ヤハ記者ノ知ル所ニアラス

「タイムス」ハ又曰ク

露帝ハ遂ニ能ク自カラ其ノ挫敗ヲ認メテ冷靜治ヲ計リ以テ國内ノ改革ニ從事スヘキヤ内治ノ改良ハ實ニ今回ノ挫敗ニ由リ一層其ノ急ヲ告クルニ至リタルナリ其ノ狂瀾ヲ既倒ニ回ス所以ノ策ハ露帝一トシテ之ヲ施サヽルモノナカリシト雖モ今ヤ百計既ニ盡キタレハ日本ニシテ戰役ヲ繼續スルカ如キアラハ獨リ東洋ニ其ノ地位ヲ失フニ止ラス歐洲ニ於テモ亦之ヲ失フニ至ランノミ

「スタンダード」ハ曰ク

對馬海峽ノ海戰ハ能ク人員ノ機械ニ勝レルコトヲ證明セリ天性航海ニ適シ又之ヲ練習スル民族ハ海戰ニ勝ヲ制スルモノナリ今ヤ露國カ極東ニ其ノ地位ヲ恢復スルノ望絶エタレハ(少クモ今後數年間ハ)平和克復ノ望ハ從テ起ルヘキノ理ナリ然レトモ果シテ平和克復ニ至ルヘキヤ記者茲ニ疑ナキコト能ハス凡敗衂ヲ重ヌル毎ニ益々夜叉ノ心ヲ起シ以テ報復ヲ計ルノ暴君ハ獨リ埃及王ノミニ止ラサルハナリ

「デーリー、テレグラフ」ハ曰ク

斯ノ如キ大敗ヲ取リテ戰爭ヲ繼續スルハ頑冥不靈ト云フモ愚ナリ蓋是愚ニシテ且罪悪ヲ犯スモノナレハナリ奉天戰後露國ハ直ニ平和ヲ締結スヘカリシニ其ノ機ヲ逸ス當時早ク已ニ媾和ノ理由存セリ況ヤ今日ニ於テヲヤ此ノ特筆大書スヘキ對馬海戰カ此ノ悲絶慘絶ナル日露戰役ヲ終結スルニ至ランコトハ記者ノ期シテ望ム所ナリ而テ我カ同盟國カ千古未曾有ノ連勝ヲ結フニ赫々タル戰勝ヲ以テシテ能ク東洋ニ雄視セントスルニ至リテハ英國民タルモノ誰カ之ヲ祝セサランヤ

「デーリー、メール」ハトラフアルガーノ戰勝ヲ凌駕スト歎稱セル社說ヲ掲ク其ノ結論ニ曰ク

今ヤ露國ノ解決スヘキ問題ハ平和ヲ締結スヘキヤ否ヤニアラスシテ如何ナル平和條件ヲ日本ヨリ得ヘキヤ否ヤニアリ

今ニシテ請降ヲ躊躇セハ既ニ蒙レル災害ヲシテ益〻甚シカラシムルニ至ランノミ、

「モーニング、ポスト」ハ曰ク

露國政府ヲシテ苟モ事理ヲ解スル者ナラシメハ日本ノ諾スヘキ條件ニテ一刻モ速ニ平和ヲ締結スルノ外他ニ策ノ施スヘキモノアルヲ見サルヘシ或ハ列國會議ヲ開催シ戰勝國ヲシテ戰果ヲ收メシメサラント計ル者之アランカナレトモ英國ハ斯カル會議ヲ開クコトニ同意スル能ハサルナリ英國ノ當ニ努ムヘキハ如何ナル外交上ノ干渉ニモ加ルコトナク堅ク日本同盟ノ條約ヲ守リ海軍ヲシテ令下即時ニ變ニ應スルノ準備アラシムルコト是ナリ

五月三十一日發刊「タイムス」ハ平和問題ニ就キ論シテ曰ク

今ヤ露國ハ戰鬪ヲ繼續スルノ望全ク絶エタルモノニシテ強イテ之ヲ繼續セハ益〻自國ノ不利ヲ招クニ至ラン斯ノ如キハ理ノ最睹易キモノナルニ拘ラス露廷ニ於テハ其ノ慮ノ未タ此ニ出テサルヤノ觀アルハ露國ノ爲メニ誠ニ惜ムヘキナリ

又同新聞ハ大陸ノ新聞紙中ニ日本戰勝ノ結果トシテ黄禍ノ益〻恐ルヘキヲ説クモノアルニ對シ論シテ曰ク

佛獨其ノ他何レノ國ニ在リテモ正當ナル戰勝ノ結果ヲ日本ニ得セシメサラント欲シテ聊カタリトモ運動ヲナスモノヽ如キハ毫モ之ナキヲ信ス苟モ此ノ類ノ運動ヲナサントスル者アラハ英國ハ一切ノ手段ヲ盡シ飽ク迄之ヲ拒ムヘキノ實アルコトハ世ノ共ニ知ル所ナリ遼東還附ノ當時ニ於ルカ如キ愚ヲ今日ニ再セントスル者アラハ假偽ノ黄禍ヲ變シテ却テ實際ノ黄禍ヲ啓クニ至ラン斯カル不條理ノ愚策ニ出ツルモノアルニ於テハ無論英國タケハ之ニ對シテ峻拒措カサルヘシ

「スタンダード」ハロジエストウエンスキーノ敵ニ對スル勇敢及ヒ其ノ國家ニ對スル忠實ヲ稱讃シタルノ後今回ノ大敗ハ露國ニ平和ヲ促スノ機トナランヲ望ミ且曰ク

今ヤ露國ハ鋭意平和ノ基礎トスヘキ條件ヲ攻究スルニ至リタルヤ疑フヘキニアラス日本ノ政治家ハ先ツ平和ノ問題ヲ提供スルハ露國ヨリセサルヘカラスト主張スヘシ是理ノ正ニ然ルヘキ所ナレトモ開戰以來日本ハ常ニ愼重ノ態度ヲ執リテ苟モ中和ヲ失スルカ如キコトナカリシカハ其ノ偉功ヲ奏シタルノ今日ニ在リテモ必ス過度ノ要求ヲ爲スカ如キコトアラサルヘシ又日英同盟ノ世ニ稗益アルコトハ勿論之ヲ認メサルヘカラサルト同時ニ之ヲシテ永久ニ存續セシムルコトヲ努メサルヘカラス或ハ英國ヲシテ此ノ同盟ヲ繼續セサラシメトン又英國ヲシテ此ノ同盟ヨリ生スル一切ノ責任ヲ負ハセサラシメントスルノ擧ニ出テントスルカ如キハ是實ニ國家ヲ誤ルモノト謂フヘキナリ苟モ政事家ニシテ國家ニ對スルノ責務ヲ知ル者ハ輕々一黨派ノ利ヲ圖ラントシテ同盟條約ノ大義ニ悖ルカ如キ事ナカランヲ望ム

七三 日本海々戰（兵戰ニアラス卷狩ナリ）

（一九〇五年六月三日發刊「アーミー、アンド、ネーヴー、ガセット」所載）

今ヨリ一週間前日露艦隊ノ對馬海峽ニ相見エタリトノ飛報英國ニ達スルヤ吾人ハ想ヘラク其ノ海戰ハ兵戰ニ非スシテ卷狩ナラント而テ爾後ノ戰報ハ一トシテ此ノ想像ノ的中ヲ證セサルハ無シ

目下信憑スヘキ戰報ハ東郷大將ノ公報唯一アルノミ而テ其ノ報告スル所ハ單ニ戰果ノ梗概ヲ示スニ止リ未タ兩艦隊ノ執レル戰術ヲ明ニスルニ至ラス東郷大將ノ第二公報ニハ日本艦隊ノ沖ノ島附近ニ敵艦隊ヲ邀撃シ些細ノ損害ヲ以テ大ニ之ヲ破リ尚日没ヨリ驅逐艦及ヒ水雷艇隊ヲ以テ襲撃ヲ決行セリトアリ而テ露國艦隊ノ壓滅ヲ大成シタルハ此ノ水雷攻撃ノ力ナルカ如シ又日本艦隊ハ翌日殘艦ノ追撃ニ從事シ竹島附近ニ於テ敵ノ一隊ニ會シ爰ニ最終ノ打撃ヲ與ヘ有史以來不思議ノ大捷ヲ完了セリ日本海軍將校ハ此ノ大捷ヲ得ルハ當然ニシテ別段怪ムニ足ラスト言ハンヤモ知ルヘカラスト雖モ歐米ノ專門家ハ實際露國艦隊ノ敗狀斯ノ如クナルヘシト豫期セサリシナリ吾人ノ驚異スル所ハ露國艦隊ノ敗績ニアラス敗者ノ全軍ヲ擧テ殲滅ニ陷リタルト勝者ノ損害敵ニ比スレハ不相當ニ些細ナルトニ在リテ存ス

吾人ハ種々ノ戰報ヲ綜合シテ此ノ驚クヘキ結果ノ由來スル所ヲ知ラント試ミ遂ニ其ノ勞シテ功ナキコトヲ悟レリ新聞紙ノ傳ヘタル戰報ハ揑造僞作タルコト既ニ明ニシテ實戰者ノ談ナリト特記スルモノモ亦遺憾ナカラ一トシテ取ルニ足ルヘキモノナシ成程通信員カ戰ニ臨メル日露海軍將校ヲ訪ヒテ戰況ヲ叩キシハ事實ナルヘク語ル者モ亦眞ニ其ノ實見セシ所

ヲ告ケタルニ相違ナカルヘシト雖モ如何セン其ノ通信ハ或關門ニテ嚴檢セラレ通過ノ際ニハ悉ク「骨髓」ヲ拔カレ一モ專門的ノ價値ヲ留ムルモノナシ所謂實戰者ノ談ナリト稱スルモノヽ中ニモ「我等ハ全ク包圍セラレタリ我カ第一、第二及兩戰隊ハ敵ノ右舷ノ方ニ回頭シ第三戰隊ハ之ニ續航シテ聯絡ヲ通シ而テ此ノ三戰隊ハ豫定ノ陣形ニテ運動セルモノナリ」ト云フカ如キ記事アリ然レトモ此ノ如キ記事ヨリシテ果シテ何事ヲカ演繹シ得ンヤ又「デーリー、テレグラフ」通信員ハ其ノ實見セシ所ナリトシテ「日本艦隊ハ視界内ニ敵ノ進路ヲ横遮セリ是實ニ砲熕ヲ以テ造レル堅柵ナリ」ト記シ眞面目ニ是トラファルガー海戰以來大海戰ヲ見タルコトナキ者ノ想像シ能ハサル所ナルヘシト誇言セリ然レトモ吾人ハ到底斯カル狀況ヲ想像シ能ハサルナリ

事情此ノ如クナルヲ以テ東郷大將ノ公報簡單ナルモ吾人ハ姑ク之ヲ以テ滿足セサルヘカラス而テ吾人ハ其ノ公報ニ由リ今回ノ海戰ハ日露海軍共ニ殆ト其ノ全力ヲ擧ケテ對抗シタルコト又戰場ノ局面ノ頗ル宏大ナリシコト又當日ノ天候濛氣深クシテ砲煙煤煙ヲ混セサルモ展望五海里以外ニ及ハサリシコト又露國艦隊ハ二十七日ノ晝戰中ハ尚辛ウシテ其ノ不規則ナル陣形ヲ維持シ得タルモ水雷攻擊ノ結果僚艦相失シ四分五裂ノ情態ニ陷リタルコト又日本ノ砲熕ト水雷トハ戰鬪ヲ分擔シ前者ハ後者ノ爲メニ成功ノ路ヲ拓キタルコトヲ知レリ

露國艦隊ノ勢力ハ戰艦八隻、海防艦三隻、裝甲巡洋艦五隻、驅逐艦、假裝巡洋艦及ヒ特務船ヲ加ヘ總計三十三隻ニシテ其ノ内五戰艦ト二特務船ハ二十七日ニ擊沈セラレ又他ノ二戰艦及ヒ二海防艦ハ二十八日ニ捕獲セラレ別ニ一戰艦及ヒ二裝甲巡洋艦ハ二十七日ニ砲火及ヒ水雷ニ惱マサレテ二十八日ニ至リ對馬ノ附近ニ沈沒シ又一戰艦ハ二十七日ノ夜水雷ニ擊沈セラレ尚一海防艦、一防護巡洋艦、一裝甲巡洋艦ハ二十八日午後ニ擊沈セラレタリ驅逐艦ノ運命ニ至リテハ未タ明ナラス就中擊沈若クハ捕獲セラレタルモノ多ク「ベドウイ」ノ如キハ後者ノ一ニシテ負傷セル「ロヂエストウエンスキー」中將ヲ收容シ居タリ又五巡洋艦ノ運命モ亦明ナラスト雖モ或ハ二十七日ノ夜ニ擊沈セラレ或ハ翌日損傷ノ爲メニ沈沒セルハ確實ナルモノヽ如シ露國側ノ死傷ハ全艦隊ノ將卒ヲ一萬ト見テ今日マテニ知リ得タル捕虜ノ數ニ據リテ計算スレハ七千人ニ達ス員數ノ調査ヲ進ムルニ從ヒ捕虜ハ尚增加スルヤ必セリ露國艦隊ノ損害斯ノ如ク大ナルニ拘ラス日本艦隊ノ損害ハ水雷艇三隻死傷五百三十七名ニ過キス戰艦、巡洋艦及ヒ驅逐艦ハ一隻トシテ大損害ヲ蒙ラス戰鬪航海ニ支障アルモノナシ

吾人ハ未タ二十七日戰鬪ノ兩艦隊ノ陣形及ヒ其ノ變遷ノ狀ヲ知ラサルヲ以テ今日ハ尚未タ戰術上ノ教訓ヲ學ヒ得ルノ時機ニ達セスト雖モ縱令日本海戰鬪ノ詳報ニ接スルトモ露國艦隊ハ陣形ラシキ陣形ヲ維持セサリシカ如クナレハ戰術上ニ資スル所意外ニ少カルヘシ吾人ハ一艦隊カ他ノ艦隊ニ包圍セラルヘキコトアリト信スル能ハス況ヤ日本艦隊ハ隻數ニ於テ敵ニ劣リシコト明ナルニ於テヲヤ惟フニ日本艦隊ハ遠戰ヲ選ヒテ先ツ敵ノ敗艦ヲ目掛ケテ集彈シ其ノ火災ヲ起スヤ驅逐艦ヲシテ突進襲擊セシメ以テ止メヲ刺サシメタルコトナラン露國砲手ノ技倆ハ殆ト觀ルニ足ルヘキモノナク其ノ結果艦隊ハ二十七日ノ砲戰ニ陣形全ク壞亂シ夜ニ入ルヤ日本水雷艇ノ爲メニ殺活ノ權ヲ掌握セラルヽニ至レリ二十八日ニ至リテハ敗餘ノ露艦中健氣ニモ敵ノ優勢ニ屈セス勇戰奮鬪シテ遂ニ擊沈セラレ又ハ自カラ沈沒シタルモノ一二隻アリタルカ如クナルモ内戰艦二隻及ヒ海防艦二隻ハ敵ノ威壓ニ會ヒテ一彈ヲモ發セスシテ降服セリ

日本海々戰ノ成敗ニ鑑ミテ學ヒ得タル教訓ハ要スルニ左ノ三者ナルヘシ其ノ一ハ組織整ハサル者ハ其ノ完全ナル者ニ勝テ能ハサルコト其ノ二ハ訓練ニ乏シキ者ハ百練千磨ノ手腕ヲ有スル者ニ抗スル能ハサルコト其ノ三ハ祖國ニ對スル愛念薄ク居常不平ノ境ニアルノ徒ハ忠君愛國ノ大義ヲ重シ献身殉難ヲ本懷トスル武夫ノ敵ニ非サルコト是ナリ

七四　日本海々戰ノ戰果（軍事批評家）

（一九〇五年六月七日發刊「タイムス」所載）

目下吾人ハ曾只管日本海ノ大海戰ニ關スル詳細ナル公報ニ接センコトヲ望ミ翹首之ヲ待ツモノナリ此ノ海戰ハ將來多年ノ間必スヤ海軍政策、造船術、兵器、戰術、訓練ニ至大ノ關係ヲ及スヘキモノナルカ故ニ吾人ハ詳報ニ接スルマテハ此ノ海戰ニ關スル斷案ヲ下スコトヲ敢テセサルモノナリ各學派ノ論者未タ兩交戰國ノ詳報ニ據リ全體ノ事實ヲ知悉セスシテ斷

片ノ新聞通信若クハ個々各別ノ事實ヲ捉ヘテ其ノ抱懷スル所ノ學說ヲ主張セントスルカ如キハ不可ナリ事柄ニ由テハ學說ノ研究上事實ヲ矯メテ自家ノ所信ニ附會セシムルモ敢テ世ニ害ヲ遺サヽルコトアリト雖モ海戰ノ如キ國家ノ安危ニ關スル大問題ニ至テハ自カラ顧ミテ奔瀾ノ思想ヲ逞ウスルコトナク苟モ之ニ頭腦ヲ用ヒルトキハ必ス先ツ事實ヲ確メ之ニ基キテ立論セサルヘカラス

是迄吾人ノ知リ得タル所ハ露國ノ計數上優勢ナル一大艦隊カ五月二十七日午後敵ト會シ對戰及ヒ追擊戰約四十八時間ノ後遂ニ殲滅セラレタリト云フノ一事アルノミ第一流ノ海軍識者ハ日本ノ勝利ヲ先見シタリトスルモ此ノ露國ノ一大艦隊カ斯ノ如キ短時日内ニ斯ノ如キ末路ニ陷リ而モ日本艦隊カ著シキ損害ヲ蒙ラスシテ此ノ奇績ヲ收メ得ントハ何人モ豫期スル能ハサル所ナラン凡海軍軍人タルト爾餘ノ人タルトヲ問ハス世ハ擧テ皆多少露國艦隊ノ數字上ノ勢力ニ魅セラレシカ今ヤ實力ノ之ニ伴ハサリシコトヲ發見シタリ要スルニ吾人ハ大規模ヲ以テ實行スル近世ノ海戰ノ經驗ニ乏シキト此ノ露國大艦隊ノ眞相ヲ詳ニセサルトノ爲メ事前ニ原因ヨリ結果ヲ演繹シテ其ノ成敗ヲ豫言スルノ明アラサリシナリ

海軍論者ノ中ニハ日露兩艦隊ノ交戰ニ關シテ孰レカ勝ヲ制スルヤ知ルヘカラスト爲シ孰レカ勝チテモ差支ナキ如ク婉曲遁避ノ語調ヲ用ヒ勉メテ其ノ豫想ヲ曖昧ニ附シタル者アルヨリシテ露國ハ遂ニ之ニ惑ハサレ勇躍シテ冒險蹈危ノ擧ニ出テ救フヘカラサル災厄ニ陷リタルヲ以テ彼等ハ今ヤ頻ニ我カ英國ヲ以テ露國ノ人命財産ヲ地獄ニ誘導シタリトノ怨言ヲ放ツニ至リシト雖モ斯ノ如ク己ヲ責メスシテ人ヲ恨ムハ誤解ナリ不當ナリ何トナレハ既ニ述フル如ク吾人ハ露國艦隊ノ實情ヲ知悉セス其ノ如何ナル苦境ニ立チ如何ナル弱點ヲ有シ如何ナル手違ヒヲ起セシヤハ詳細ニ知ルヘキ筈ナシ然ルニ之ニ反シ露國海軍省ハ此等ノ諸點ニ關スル正確ノ報告ニ接シタルコト必セリ故ニ露國人民若シ其ノ失敗ニ對スル責任ノ歸スル所ヲ定メント欲セハ須ラクロヂエストウエンスキーカ司令長官ノ職ニ就キタル當時ヨリ日本海海戰ノ日ニ至ルマテノ報告ノ發表ヲ求ムヘシ之ヲ一讀セハ婆羅的艦隊ノ此ノ末路ヲ見ルニ至レル所以ヲ察スルニ餘リアラン

露艦四隻ノ投降ニ關シテハ未タ其ノ故ヲ知ルヲ得スト雖モ其ノ他ニ至リテハ何レモ皆祖國ノ爲メニ極力奮闘シタルモノノ如シ此ノ終焉ノ日ニ於テ露國海軍ハ軍旗ノ名譽ヲ辱シムル如キ事ナカリシニ似タリ夫獻身殉難ノ勇ハ武夫トシテ缺クヘカラサルモノニシテ露國陸海軍軍人ハ特ニ此ノ美質ヲ具スルト雖モ然モ勇ハ最高ノ武德ニアラス他日露國革新シテ其ノ人民束縛ヲ脫スルニ至ラハ露國ノ武器ハ或ハ其ノ喪失シタル光輝ヲ回復スルコトアランモ知ルヘカラスト雖モ其ノ人民モ其ノ陸軍モ其ノ海軍モ本戰役ノ繼續スル限リ國家ヲ今日ノ苦境ヨリ救フコト能ハサルヘシ一八一二年那破翁カ大軍ヲ率ヰテ露國ニ進ミ全軍潰走セシトキ佛將ネーハ「其ノ身ニ傷痍ヲ蒙リテ之カ深淺ヲ測ル能ハサル者ハ其ノ身ヲ危ウスルニ至ルモノニシテ是作戰上ノ一大弱點ナリ」ト言ヒシカ今ヤ露國ハ佛帝カ露國ニ對セシ當時ノ如ク自カラ其ノ弱點ヲ擔ラスシテ終ニ全敗ニ至リシモノナレハ爰ニ猛省スル所ナカルヘカラサルナリ

東鄕大將カ有史以來未曾有ノ大勝利ヲ報告スルニ當リテ謙遜ナルハ其ノ奇捷ヲ獲タル武勇、善戰、堅忍ト等シク大ニ觀ルヘキモノアリ東鄕ハ古代羅馬ノ武將シユルラノ如ク此ノ偉績ヲ專ラ幸運ニ歸セシト雖モ吾人ハ彼ヲ認メテ偉丈夫トセサルヲ得ス彼カ敵艦隊ノ支那海ニ入ルニ迨ヒ味方ノ勝利必スヘカラサル狀態ノ下ニ艦隊ヲ進メ之ヲ擊タンコトヲ勸告スル者アリタレトモ此ノ誘惑ヲ排シ審ク自カラ忍ヒテ徐ロニ敵ノ北上ヲ待チタルハ即チ其ノ偉丈夫タル所以ナリ敵來ルヤ回避愼重優柔ノ姿勢ヲ取ルヘキヲ得策ト論シタル者アレトモ毫モ之ヲ顧ミス斷々乎決戰スルコトニ方針ヲ確定シタルハ其ノ偉丈夫タル所以ナリ敵ヲ壓潰スルニ其ノ利用シ得ヘキ全力ヲ以テシ萬一ニ備フル爲メ毫モ殘ス所ナク毫モ吝ム所ナキハ其ノ偉丈夫タル所以ナリ今世海戰史上ニ其ノ比ヲ見サル大勝ヲ博シテ毫モ其ノ功ヲ誇ラス謙遜自カラ居ルハ其ノ偉丈夫タル所以ナリ此ノ一點ハ恐ラクハ偉中ノ偉タルヘシ

海戰史上此ノ新紀元ヲ開ケル奇捷ヲ獲ルニ當リ日本人民カ取リシ所ノ態度ハ神人ノ共ニ均シク感心スル所ナリ彼等ニ古來ノ一大美風アリ本戰役中大勝ヲ博シタル日ニモ大凶事起レル時ニモ或ハ狂喜セス或ハ絕望セス其ノ態度ノ渝ルナキハ一大國民タルニ恥チサルナリ彼等ハ降敵ニ對シテ未タ曾テ囂々喧擾ノ蠻風ヲ示サス又自誇自贊ヲ試ミス唯心中深ク天佑ヲ感謝シ靜肅ニ滿足ヲ表シ常ニ勝利ヲ天皇陛下ノ御稜威ノ致ス所ナリトス斯ノ如キ國民ニ對シテハ熱誠ニ賞讚スヘキ筈

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ナルニ之ヲ目スルニ「黄禍」ヲ以テスル者アルハ果シテ何ノ意ゾ吾人ハ斯カル美風ヲ有スル國民トノ同盟ヲ一層親密ニシ一層有効ナラシメ以テ天運之ヲ許サハ此ノ「黄禍」ニ感染センコトヲ冀フモノナリ

此ノ大海戰ニ於テ大ニ喜フヘキハ英國海軍教練、造船、兵器ノ優秀ヲ確證シタルコト是ナリ英國海軍軍人及ヒ英國造船家カ日本海軍ヲ卓越ナラシメタルニ與リテ大ニ力アリシハ恰モ獨逸カメツクル其ノ他自國陸軍軍人ノ盡力ニ依テ日本陸軍ヲ組織訓練シ精鋭ノ作戰機關タラシメタルカ如シ此ノ海戰ニ於ル日本ノ戰術亦ネルソン式ニ似ル所アリ又日本軍艦ノ善ク戰鬪ニ耐ヘタルハ其ノ名譽ヲ英國造船所ニ歸スヘキナリ又日本軍艦ニ裝備セル英國製ノ砲カ破壞ヲ逞ウセルハ吾人カ我カ國ノ砲熕ヲ以テ世界ニ冠タリト信スルノ誤ナキヲ證明スルニ足ルモノナリ作戰材料精巧ナレハトテ決シテ誇ルニ足ラス之ヲ使用スル人物ニシテ拙劣ナレハ利器モ鈍刀タルヲ免レスト雖モ兎モ角英國製ノ作戰材料カ斯ノ如ク明確ナル實驗ノ成績ヲ得タルハ吾人ニ取テ愉快ノ感ナキヲ得ス此ノ大海戰ノ結果ハ文明各國ニ本戰役ノ終結ヲ切望セシムルニ至レリ露國ハ海ニ陸ニ連戰連敗到底戰勢ノ回復スヘカラサルヲ悟リタレハ必ス和ヲ請フニ至ルヘシト思ハレタリ露國ハ海上ニ於テハ最早防禦力ヲ有セサレハ如何ニシテモ日本海軍ニ當ルコト能ハサルヤ明白ナリト雖モ露國ニシテ尚戰爭ヲ繼續セント欲セハ爲シ得ヘカラサルニアラサルナリ然レトモ此ノ後ハ日本海軍其ノ作戰舞臺ヲ歐洲ニ移シ以テ敵ヲ衝キ大ニ前述セル佛將ネーノ所謂弱點ヲ感セシムルヲ得ヘシ何トナレハ日本ノ勢力ハ今日モ尚開戰當時ニ異ラス或ハ差引其ノ勢力加リタルモ知ルヘカラサレハナリ降伏艦「アリヨール」カ旭旗ヲ掲ケテクロンスタツトノ關門ニ迫リ萬雷ヲ吼ヘシムルノ曉ニ至ラハ露國人民ノ運命ヲ支配スル當局者ヲシテ初テ本戰役ヲ繼續スルノ非ナルヲ悟ラシムヘキナリ

露國ハ全世界ノ裁斷ヲ認容シ其ノ武器ノ敗績ヲ承知シ以テ媾和談判ヲ開始スヘキハ自然ノ趨勢ナリト雖モ彼ハ或ハ是ニ出テサランヤモ亦知ルヘカラス此ノ問題ヲ決スルモノハ全世界ノ輿論ニアラス戰勝國タル日本ニアラス獨リ露國ニアリ露國一億三千萬ノ生靈中唯一人ノ權内ニアリ露帝ニシテ敗戰ノ結果ヲ認容シ事實ヲ事實トシテ見ルニ至ルヘキハ吾人ノ豫想スル所ナレトモ而モ近々和議ノ起ルヘキ模樣毫モ見エサルカ故ニ日本カ戰爭ノ繼續ヲ覺悟スルト均シク吾人モ亦其ノ心得ヲ以テ之ニ備ヘ居ラサルヘカラス吾人ハ假ニ露國ノ位置ニ立チテ此ノ屈辱ナル終局ニ當リ媾和問題ヲ論セシニ媾和ハ世ノ普ク知ル如ク兩交戰國ノ切望スル所ナルモ其ノ媾和條件ハ雙方ノ認容シ得ルカ如キモノナラサルヘカラス露國ハ屢滿足ナル媾和ヲ得ルノ機會ニ接シタレトモ其ノ都度之ヲ逸セリ其ノ滿洲軍ノ尚健在スルト同時ニ旅順口ノ防守堅固ノ期間ヲ利用シテ彼ハ媾和ヲ求メ得タリシナリ彼ハ又波羅的艦隊ノ發航ヨリシテ日本ニ憂慮ヲ起サシメタル時機ヲ利用シ得ヘカリシナリ然ルニ今日ニ至リテハ彼ハ最早其ノ外交手段ニ依テ戰局形勢ヲ動カスコト能ハス加フルニ日本ハ益々戰勝ヲ重ネ益々犧牲ヲ多クスルニ從ヒ日々要求條件ヲ高メ來ルヲ以テ露國ハ益々之ヲ承諾シ難キ場合ニ陷ルヘシ然レトモ露國ハ此ノ最後ノ時ニ臨ミテモ尚古來踏襲ノ政策ヲ墨守シ媾和條約ヲ締結セス或ハ保證ヲ與ヘスシテ其ノ軍隊ヲ遠ク内地ニ引揚ケ日本ノ爲ス所ニ委スルコトナキニアラサルヘシ

波羅的艦隊既ニ全滅シタル今日浦鹽斯德ハ最早露國ニ取リテ何等重大ナル價値ヲ有スルモノニアラス日本軍進ミ來ラハ露國ノ爲シ得ヘキハ唯港内ニ蟄伏セル數隻ノ殘存巡洋艦ニ逸脫遁走ヲ試ミシメ砲臺ヲ爆發シ撤去シ得ヘカラサル物ハ一切之ヲ破壞シ浦鹽斯德及ヒ其ノ周圍ニ駐屯スル三萬五千乃至五萬ノ兵ヲ主力軍隊ニ投合セシムルアルノミ然レトモ露國ニシテ若シ策此ニ出テサレハ徒ラニ日本ヲシテ其ノ頭上ニ月桂冠ノ數ヲ增サシムルノミ而テ日本軍ハ浦鹽斯德ニ對シテハ其ノ旅順口ニ行ヒタル高價ノ强襲ヲ再演スヘキノ理由ナク又口實ナキヲ以テ此ノ手段ヲ用フルコトナク悠々緩々之ヲ攻略スルナラン

(一九〇五年六月九日發刊「タイムス」所載)

七五　露國戰艦顚覆沈沒ノ原因

六月八日在聖彼得堡本社通信員ハ左ノ如ク發電ス

六月八日刊行「ラズスウエート」新聞ノ洩セルロジエストウエンスキー艦隊ノ秘密ヲ讀メハ同艦隊ノ破滅スヘキ運命夙ニ定リ居タルコト及ヒロジエストウエンスキー中將ハ豫メ之ヲ熟知シ居タルコトヲ知ルヘシ即チ同新聞ニ掲載スル中

將ノ報告ヲ抜萃シテ「ボロヂノ」型戰艦四隻ハ構造不完全ニシテ凌波性ニ乏シク運用困難ナリト記シ又右四戰艦カ九浬ノ速力ニテ一千九百海里ヲ航行スルニ要スル石炭一千一百噸ヲ積メハ計畫吃水ヨリ沈入スルコト二呎ニ及ヒ「メタセントリック、ハイト」乏シクナリテ風浪ヲ冒シテ航海スルニ安全ナラス轉覆ヲ免ルヽニ慘憺タル苦心ヲ要スト言ヒ又他ノ報告ハ此等ノ戰艦ハ必要ニ迫ラレテ二千七百海里ヲ航續セントシテ石炭二千二百噸ヲ積ミシニ計畫吃水ヨリ沈入スルコト三呎ナリシト記シ又舷門及ヒ戸扉一トシテ漏洩セサルナク動モスレハ漏水充滿スルノ危險アリ又四艦同型ナルニモ拘ラス同一ノ回轉數ニテ走ルモ尚針路ノ偏倚二鏈ニ及ヘルコトアリト云ヘリ

以上ノ事實ヲシテ眞ナラシメハ對馬海峽ノ海戰ニ於テ此等戰艦ノ續々覆沒セルコト毫モ怪ムニ足ラサルナリ

七六　日本海々戰ニ於ル東郷大將ノ戰術

（一九〇五年六月十日發刊「アーミー、エンド、ネヴヰー、ガゼット」所載）

昨今ニ至リ日本海々戰ニ關スル許多ノ報道ヲ得シヲ以テ今ヤ彼我交戰者ノ戰術ニ就キ是迄ヨリモ確然タル論評ヲ下スコトヲ得ヘシ日本ハ善ク秘密ヲ守ルカ故ニ今ヨリ多年ノ後ニアラスンハ日本艦艇ノ被レル損傷ノ大小如何ヲ知悉スルコト能ハサルヘシト雖モ今日ノ處ニテハ日本側ノ公報ヲ信シテ損害輕微トスルノ外ナシ而テ海戰後數日ヲ經テ尚日本艦船カ何レモ皆海上ニアリテ各自ノ任務ニ從事セシコトハ疑フヘカラサル事實ナリ露艦ノ損傷ニ至テハ概ネ五月二十七日ノ晝戰ニ於テ砲撃セラレタルカ爲メナルコト明ニシテ其ノ結果露艦ノ沈沒セシハ事實ニ近シト雖モ未タ之ヲ斷言スルコトヲ得ス而モ當夜水雷攻撃ヲ決行スルニ先タチ許多ノ露艦既ニ廢艦トナリタルニ相違ナキカ故ニ是ニ至テ吾人ノ宿論ハ愈眞ナルコトヲ證シ得タリ宿論トハ他ナシ從來驅逐艦タルト水雷艇タルトヲ問ハス是等艦艇ノ健全ナル主戰艦ニ對スル攻撃力ハ實力ヨリモ過大視セラレタル嫌アリトノ説是ナリ吾人ノ見ル所ヲ以テスレハ驅逐艦及ヒ水雷艇ハ其ノ實往時ノ火船ト同樣ニシテ其ノ戰術モ亦略相似タリ唯其ノ破壞力ノ直接作用ナルカ故ニ連續使用セラルヽトキハ其ノ威力火船ニ優ルノ差アルノミ

顧テ露國側ヲ觀ルニ戰術上吾人ノ學フヘキモノハ絶無ト謂ハサルヲ得ス露國艦隊陣形ノ如キハ失錯ノ甚シキモノニシテ吾人ハ唯之ヲ以テ殷鑑トシ其ノ覆轍ヲ踏マサラシト戒ムルノ外ニ一物ノ採リテ考フヘキモノナシ初メロヂエストウエンスキー中將ハ微弱ナル偵察艦隊ヲ先航セシモノヽ如シ此ノ艦隊ハエンクウヰスト少將ノ指揮スル部隊ニシテ後ニ本隊ト相失シ敵ト少シク砲彈ヲ交ヘテ後ニ回頭南走シ遂ニ比律賓ノ港灣ニ遁入スルヲ得タリ更ニ本隊ニ就テ之ヲ謂ハンニ本隊ハ三縱列ニ排列シ其ノ左翼列ハ主要ノ戰艦及ヒ巡洋艦ヨリ成リ眞ニ主戰艦隊ト稱スヘキモノハ此ノ一隊アルノミ中央列ハ假裝巡洋艦特務艦船及ヒ驅逐艦ヨリ成リ右翼列ハ速力緩慢ナル弱艦ヨリ成レリ（姑ク原文ニ從フ）露國司令長官カ此ノ如キ陣形ヲ作セシ所以ノモノハ第一ニ彼ハ敵ノ主力隊ト相見ユルコトナカルヘシト臆測シ史訓ニ悖リ全ク懈怠セシカ爲メナリ又露國艦隊ノ朝鮮海峽ニ入ル前司令長官ノ想定ニ就テハ種々ノ説アリ或ハ曰クロヂエストウエンスキー中將ハ軍議ヲ催シ其ノ席上ニ於テ敵ノ主力隊ハ臺灣海峽若クハ津輕海峽ニ在リテ我カ北上ヲ待チ朝鮮海峽ニハ弱艦ヲ配置スルニ過キスト信スル旨ヲ語レリト或ハ曰クロヂエストウエンスキーハ其ノ裨將ヲ信任セス隨テ彼等モ亦主將ノ自カラ期待シ若クハ計畫セシ所ヲ重要視セサリシト而テ此等ノ風説ハ孰レモ露國艦長ノ口ヨリ漏レシモノナルヲ以テ觀レハ露國艦隊ニ統一ナク人々半信半疑ノ状態ニ在ルモノニシテ敗戰ノ兆既ニ爰ニ顯レタルヲ知ルヘシ況ヤ所屬艦船ハ戰闘ニ必要ナル艦底掃除ヲスラ怠リシニ於テヲヤ

日本艦隊ハ之ト全ク其ノ趣ヲ異ニシ東郷大將ハ古來踏襲セル海戰ノ要訓ニ遵ヒ現代ノ状況ニ應スル爲メ多少之ニ取捨ヲ施シ以テ艦隊編成ヲ完ツセリ即チ彼ハ聯合艦隊ヲ分チテ三艦隊トシ更ニ各艦隊ヲ再分シテ戰隊トシ各戰隊ニ司令官ヲ置キ而テ必要ノ場合ニハ各戰隊ヲシテ全然獨立ノ行動ヲ執ルヲ許セリ初メ東郷大將ハ敵ノ到ルヲ望見シ先ツ快速力ノ艦船ヨリ成レル一艦隊ヲ派シテ敵艦隊中勢力薄弱ノ一部隊ヲ攻撃セシメ自カラ他ノ二艦隊ヲ率ヰテ敵ノ主力隊ニ砲火ヲ集中セシカ聞ク所ニ據レハ其ノ照準極テ精確且發射迅速ニシテ「クニヤージ、スウオーロフ」ハ一時間ヲ出テスシテ既ニ廢艦トナリタリ又露國艦隊ハ午後五時半前ニ於テ全軍潰亂ノ悲境ニ陷リシヲ以テ日本各驅逐隊ハ比較的容易ニ近距離マテ突

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

進シ敵ニ迫リテ水雷ヲ發射スルコトヲ得タリ通常驅逐艦ハ敵ノ擇フニ任セ擊滅セラルヽヲ覺悟スルモノナルニ此ノ海戰ニ於テハ却テ驅逐艦自カラ敵ヲ擇ヒ之ヲ擊滅スルノ異觀ヲ呈セリ日本艦隊ノ砲戰距離ハ約五千碼ナリシカ此ノ遠距離ニ於テ日本軍艦ノ砲手カ容易ニ敵艦ニ致命傷ヲ被ラシメタルヲ以テ觀レハ其ノ射擊ニ練達セル實ニ稱揚スルニ堪ヘタリ水雷艇ノ襲擊ハ砲戰後ヨリ開始セラレシカ其ノ行動往時英將ドレーク麾下ノ火船カ佛國カレー錨地ニ於テ英吉利海峽ニ來襲シタル西班牙ノ所謂「必勝艦隊」ヲ邀擊シタルニ髣髴タルモノアリ今此ノ二役ヲ按スルニ倶ニ砲熕先ツ其ノ効力ヲ顯シ其ノ後ヲ承クルニ昔時ハ火戰ヲ以テシ今回ハ水雷艇ヲ以テセシモ敵ニ止メヲ刺スニ至テハ則チ一ナリ又翌二十八日ノ戰鬪及ヒ露國降伏ノ如キニ至テハ毫モ戰術上ニ資スル所アラス之ヲ要スルニ露軍ノ大敗ハ作戰材料ノ劣等ナルコト幾分カ之カ原因タリシニ相違ナシト雖モ其ノ臨戰準備ノ不完全ナルト其ノ乘員ノ海軍軍人トシテ不適任ナルト上下ヲ擧ケテ自信力ニ乏シキトノ三點相合シテ之カ主因タリシナリ之ニ反シテ日本ノ捷因ハ目的ヲ達成スヘキ方法其ノ宜シキヲ得タルト研究應用兩ナカラ精妙ヲ極メ而テ之ヲ遂行スルニ忠君愛國ノ義心ヲ以テシ又躬方ノ優勢ナルヲ自信セシニ在リ

七七　日本海々戰（東郷大將ノ賢斷智謀）

（一九〇五年五月十六日發刊「エンジニアリング」所載）

吾人ハ日本海々戰ノ海軍兵術及ヒ軍艦設計ニ及ス敎訓ノ大ナルヲ思ヒ確實ナル詳報ヲ得テ大ニ之ヲ研究セント欲シ其ノ到ルヲ待ツコト既ニ久シト雖モ未タ交戰國政府ノ戰鬪詳報ニ接セス只新聞ノ通信ニ由テ僅ニ其ノ一斑ヲ窺知シタルノミ蓋右ノ詳報到ラハ近世軍艦ノ攻防二力ノ要目ヲ究ムルニ資スル所多大ナルヘク從來所謂要目ナルモノハ實戰ノ結果ニ據リテ斷定スルモノニアラサレハナリ日本海々戰ニ關スル各新聞報道ノ中ニモ採ルヘキ材料少カラス殊ニ「デーリー、テレグラフ」ノ通信員ハ衆ニ先タチテ戰況ヲ世界ニ傳ヘタリ然ルニ其ノ報スル所專門家ノ據テ以テ立論セントスル詳細ノ點ヲ缺クト雖モ是亦已ムヲ得サル所ニシテ其ノ報道ノ迅速ナル新聞通信員トシテハ大ニ成効セルモノト謂フヘシ此ノ海戰結果ヨリ演繹スヘキ一大敎訓ハ軍神ハ必スシモ優勢ナル兵軍ヲ守護スルモノニアラス多クハ堅忍不拔ノ心ヲ以テ戰フ者ヲ庇祐スルコト是ナリ此ノ敎訓ハ既往ノ戰爭ニ一トシテ之ヲ示サヽルモノナシト雖モ此ノ海戰ニ於テハ特ニ其ノ然ルヲ見ル

抑日露兩艦隊ヲ比較スルニ露國艦隊ハ堂々タル海戰ノ場合ニハ戰艦ノ質及ヒ砲力ハ日本ニ優ルモ日本ハ裝甲巡洋艦ニ於テ敵ニ優ルカ故ニ必然起ルヘキ問題ハ裝甲巡洋艦カ艦隊戰鬪ニ參加シ得ルヤ否ヤニアリシカ日本海々戰ニ於テハ其ノ之ニ參加シ得ルコトヲ證明セリ然レトモ此ノ一例ハ果シテ確乎動カサルモノナルカ換言スレハ勝敗ノ由テ分ルヽ一大要素タル將卒ノ人物ニ於テ兩軍甲乙ナキ場合ニモ尚其ノ効力ヲ有スルモノナルカ由來戰爭就中實戰ノ歷史ニ乏シキ海戰ノ問題ニ在テハ一斑ヲ取テ全豹ヲ推測スルコトヲ許サヽルカ故ニ如何ナル狀況ナレハ裝甲巡洋艦ヲ戰線ニ立タシメ得ルヤヲ斷定スルハ裝甲薄キ同艦ニ對スル戰艦ノ巨砲ノ効果ト裝甲厚キ戰艦ニ對スル裝甲巡洋艦ノ較小ナル砲彈ノ効果トヲ熟知シタル後ナラサルヘカラス加之天候、波浪、敵ノ陣形等モ皆此ノ問題ヲ決スルニ考量セサルヘカラサル情況ナリ然ルニ有體ニ言ヘハ縱シ戰鬪詳報ヲ得テ戰訓ヲ演繹スルトモ其ノ戰訓ナルモノハ唯一事ヲ除クノ外ハ何レモ皆其ノ一戰限リニシテ爾後ノ各戰ニ共通スヘキ原則ト爲ルモノニアラス一定不變ノ一事トハ何ソ曰ク人員精良ナレハ戰鬪力ヲ構成スル他ノ要素ニ於テ甚シク劣レル場合ニモ尚且勝ヲ制スルコト是ナリ

右ノ敎訓ハ啻ニ海軍軍人ニ應用スヘキノミナラス陸軍軍人ニ於テモ亦然リ何トナレハ彼等モ亦種々ナル原因就中精神過勞ノ爲メニ明確ナル判斷ヲ缺クノ傾向アレハナリ一世ノ尊重スル韜略ノ寶卷モ愚者之ヲ用フレハ却テ危ク要スルニ史訓ハ應用ノ才アリテ初テ其ノ價値ヲ見ルヘシ人若シ海上波浪高キ時ニ起レル露艦隊ノ戰鬪ノ敎訓ヲ墨守シテ或ハ大戰艦ニ代フルニ小戰艦ヲ以テシ或ハ小戰艦ノ代リニ大戰艦ヲ造リ或ハ兩者ヲ棄テヽ裝甲巡洋艦ヲ採用セハ他日鏡ノ如キ海面ニ於テ勢力相若ケル敵艦隊ト戰フ時悲ムヘキ結果ニ終ルコト無シト謂フモ吾人豈得テ之ヲ信センヤ

日本海々戰ノ與フル敎訓ノ價値ハ人員性格ノ優劣ヲ酌量シテ許定セサルヘカラス論者曰ク露國艦隊ノ將卒ハ概シテ勇武ニシテ奮鬪セリ「ボロヂノ」ノ沈沒スルマテ發射ヲ續ケ又旗艦「クニヤージ、スウオーロフ」ノ敵彈ヲ被ル雨ノ如クナリシモ毫モ屈セス最後迄抵抗セシカ如キハ特筆大書ニ値スルノ武勳タラスヤト誠ニ然リ戰敗レテ勇士出ツルハ古今ノ通則ニ

シテ日本艦隊カ一般ニ歷史上比類ナキ勇敢ナル戰鬪ヲ爲シタルニモ拘ラス露國艦隊ノ一部將卒ノ士氣ヲ挫クニ至ラサリシ所以ノモノ亦此ノ通則ニ外ナラサルナリ死ヲ辭セサルノ勇ハ戰鬪ノ最大要素ナリト雖モ而モ獨リ勇ノミニテ勝ヲ制シ得ルモノニアラス勇アリテ敗ルヽハ平素作戰準備ヲ整ヘサルノ罪タルコト近世ノ戰爭ニ鑑ミテ知ルヘキナリ吾人カシリミヤ戰爭ニ於テ苦戰ノ經驗ヲ嘗メタルモ亦大體ニ於テ之ト原因ヲ同ウス而モ其ノ缺點ノ海軍ニ在ラスシテ陸軍ニ在リシハ吾人ノ幸トスル所ナリ

他ノ一大要訓ハ「大膽」ノ重スヘキニ在リ是古訓既ニ之ヲ示スト雖モ今回ノ海戰ハ之カ一大適例タリ日本艦隊ハ日本帝國ノ有スル唯一ノ艦隊ニシテ若シ其ノ軍艦ヲ喪失セハ日本ハ之カ補充ノ機關ニ乏シク又戰艦ニ於テハ敵ヨリモ劣勢ナルカ故ニ全滅ヲ賭シテ勝敗ヲ爭フハ餘リ大膽ニ過キスヤトノ忠告出テタルハ必定ナレトモ若シ斯カル忠告ニ從ヒ戰ヲ避ケンカ其ノ士氣ニ及ス影響ハ測ルヘカラサルモノアリ我カ海軍ノ戰フヤ古來常ニ攻勢ヲ取リテ常ニ成功セリ而テ我カ海軍ノ薰陶ヲ受ケタル日本海軍ハ其ノ兵戰ノ姿勢カ其ノ民族固有ノ尙武精神ニ適合スルヨリ夙ニ之ヲ採用セリ戰ニ臨ミテ攻勢ヲ取ルハ士氣ヲ皷舞スルノ道ニシテ士氣ノ旺盛ナルハ勝ヲ制スル所以ナリ然リ士氣ハ多クノ塲合ニ於テ大砲ニ勝ルモノナリ刻下ノ戰役ニ於ル日本人ノ攻擊ハ一戰ハ一戰ヨリ其ノ「大膽」ヲ加ヘタリ即チ既ニ接受セル戰報ニ據レハ東鄕大將ハ海軍戰術ニ一新機軸ヲ出シタルカ如シ彼ハ先輩ノ示シタル範例ニ拘泥セス往古ノ海戰ノ敎訓ヲ墨守セス推進機關ノ變化射程ノ伸長其ノ他近世ノ海戰カ帆走時代橈漕時代ノ海戰ト異ル各點ニ鑑ミテ作戰行動セリ兵術ヲ革新スルハ良將タル所以ニシテ那破翁ノ流武滾々トシテ盡キサル所以ノモノ實ニ此ニ在リ

過去ノ連戰連勝ハ日本海軍作戰者ノ思慮ヲシテ益〻冷靜周到ナラシメ其ノ戰略ヲシテ益〻正鵠ヲ得セシメタリ東鄕大將ハ敵艦隊ノ必ス朝鮮海峽ヲ經テ日本海ニ入ルコトヲ測定シ最有利ノ地點ニ於テ乾坤一擲ノ戰ヲ試ムルニ決セリ而テ其ノ一タヒ決スルヤ如何ナル誘引アルモ之ニ惑ハサレス固執移ラス遂ニ其ノ目的ヲ達シタリ由來途ヲ朝鮮海峽ニ採ルハ露國艦隊ニ取リ最捷最易ノ航路ナレハ日本艦隊ノ此ノ海峽ヲ扼守スルコト明々白々ナルカ故ニ彼ハ之ヲ避ケ日本ノ東部ヲ迂回シテ北航スルナラントハ數多批評家ノ想像セシ所ナレトモ東鄕大將ハ敵ノ心裏ヲ讀ミテ誤ラス作戰計畫ヲシテ一々其ノ圖ニ中ラシメタリ之ニ反シテ露國艦隊ハ朝鮮海峽ニテ敵ノ大艦隊ニ出會スヘシト期セサリシカ如ク中ニハ戰鬪準備ヲ爲シ居ラサリシ軍艦アリ爲メニ忽チ混亂ノ狀態ニ陷リタリト傳フルモノアリト雖モ吾人ハ之ヲ信スルコト能ハス彼既ニ敵レハ大要害ヲ衝ク何ソ一戰ノ覺悟ナクシテ之ヲ敢テスルコトアランヤ

東鄕大將ハ對馬ノ島陰ニ匿レテ敵ヲ待チ敵ヲシテ主力艦隊ノ在ラサルヲ思ハシメ且之ヲ東水道ニ誘致スルノ策ヲ授ケテ海灣ナルニ小艦隊ヲ出セシカ此ノ計畫ハ遂ニ善ク成功セリ東鄕提督ハ有力艦六隻ツヽヲ以テ二戰隊ヲ作リ對馬ノ西方ニ在テ機ノ熟スルヲ待ナシカ敵艦隊ノ深ク水道ニ入リ對馬北島ノ正横ニ來リシトキ誘致艦隊ハ北上セリ東鄕大將ハ主戰艦隊（六隻ノ中四隻ハ戰艦）ヲ提ケ單縱陣ニテ對馬ノ北端ヲ廻リテ先ツ敵ノ左側ヲ攻擊シ上村中將ハ他ノ一隊ヲ率ヰテ對馬ノ南端ヲ廻リ敵ノ左側即チ西南ニ占位シテ後部ヲ攻擊シツヽ之ニ追躡セリ

ロジエストウエンスキー中將ハ二列縱陣ヲ以テ此ノ攻擊ニ應セシカ如何ナル理由ニヤ戰艦ヲ右翼列即チ東側ニ巡洋艦ヲ左翼列即チ西側ニ置キ特務艦船ヲ両列ノ中間少シク後方ニ置キタルカ如ク之カ爲メ巡洋艦ハ第一ニ猛烈ナル敵攻擊ノ衝ニ立テリ

露國艦隊ハ日本戰艦ニ向ヒ一萬二千米突即チ六海里半ノ距離ヨリ砲火ヲ開キタリトノコトナルカ一萬二千米突ト云ヘハ十二吋砲カ厚サ八吋ノ克式裝甲鈑ヲ穿貫シ得ル距離ノ四倍ナルノミナラス露國砲手ハ伎倆拙劣ニシテ波浪高キトキニハ更ニ近キ距離ニテモ命中覺束ナカレハ此ノ砲擊カ何等ノ損害ヲ與ヘサリシハ毫モ怪ムニ足ラス之ニ反シテ日本艦隊ハ善ク之ニ耐ヘテ濫射セス約四海里半ニ近ツクニ及ヒテ六發ノ試射ヲ行ヒ其ノ三發ヲ命中セシメタリ斯ノ如クシテ日本艦隊ハ劈頭第一ニ此ノ好結果ヲ收メ士氣大ニ昂リ加フルニ其ノ砲員百錬千磨ノ手ヲ以テ猛烈ナル榴彈ノ使用ヲ逞ウス其ノ砲擊カ敵ノ砲火ヲ壓倒セシヤ知ルヘキナリ今日迄ノ戰報ハ未タ其ノ後ノ事ヲ明示セス聞ク所ニ據レハ日本艦隊ハ誘致艦隊ト亦回轉シテ之ニ加リ初日ノ戰鬪ニ於テ既ニ敵艦隊ヲ包圍シ翌日マテ繼續セリ吾人ハ日本艦隊カ如何ニシテ艦數略相同シ

キ敵ヲ包圍シタルカヲ解スルニ苦ムト雖モ日本艦隊ノ一艦ニ便乘シ居リタルモノヘ如ク思ハレタル「デーリー、テレグラフ」通信員ハ其ノ然ルコトヲ確信セリ果シテ眞ナラハ是東郷大將カ麾下ノ將卒ヲ信任スルノ厚キヲ證スルト同時ニ其ノ艦隊カ勢力集中ノ運動ニ熟練シテ遺憾ナキヲ示スモノナリ蓋著シク優劣ナキ勢力ヲ以テ敵ヲ包圍スルトキハ包圍線稀薄ナラサルヲ得サルカ故ニ右ノ信任ト熟練アルニ非スンハ敵カ一方ヲ突破シテ血路ヲ求ムルヲ防止スルコト能ハサレハナリ敵艦隊ニシテ混集スレハ之ヲ砲撃スルニ易ク而モ敵艦ハ互ニ彈道ヲ遮蔽スルカ故ニ此ノ時之ヲ包圍スレハ其ノ利益計ルヘカラス但斯カル狀態ハ全然戰鬪陣形ヲ失ヒタルモノニシテ假令包圍セラレストモ事實上既ニ大ニ敗レタルモノナリ」

然レトモ左記「デーリー、テレグラフ」ノ通信ニヨレハ露國艦隊ハ斯ク迄ノ狀態ニ陷ラサリシモノヽ如シ

包圍ノ手配全ク成レリ（其ノ時刻ハ五月二十七日午後二時ノ後ニハ相違ナキモ果シテ何時頃ナルヤ分明ナラス然レトモ最劇烈ナル砲戰ノアリシハ翌日午後四時ト五時ノ間ニシテ露ノ四艦沈沒セルハ此ノ時ナリ）其ノ後露國艦隊ハ漸ク混亂シ復拾收スヘカラサルニ至レルヨリ隊ヲ組ミテ戰鬪スルコトヲ斷念シ北走セントシ東郷大將ハ全速力ヲ以テ之ヲ追ヘリ日本軍艦ハ及ハサラシコトヲ恐レ一トシテ奮勵努力セサルモノナケレハ此ノ競走ハ時間長カラサリシモ人ヲシテ壯絶ヲ叫ハシメタリ而テ日本艦隊ハ十分前方ニ出テタル後回頭シテ敵ノ前路ヲ扼シ新月狀即チ半圓ノ陣形ニテ北方ヨリ敵ヲ壓迫シ浦鹽ニ到ルノ走路ヲ塞キタリ此ノ時ヨリ露國艦隊ノ運命ハ全ク絶望ト爲レリ而テ日本艦隊カ實際敵ヲ包圍シタルコトハ捕虜ト爲レル露艦艦長カ我カ艦隊ハ全ク包圍セラレタリ我カ運命ハ戰鬪ノ初期ニ於テ既ニ絶望ト爲リシモノナリト言ヘルニ徴シテ明ナリ

日本水雷艇隊ノ成功ハ此ノ海戰中最著シキ現象ニシテ之ニ由テ得ル所ノ教訓ハ重大ナルカ故ニ之ヲ併記セス他日筆ヲ改メテ論スル所アラントス

七八 日本海ノ大海戰（海軍大將サー、アール、フレマントル）

（一九〇五年七月發刊「ユーナイテッド、サービス、マガジン」所載）

古來陸上ニ行ハレタル大戰ハ該戰役終局ノ成敗或ハ國家ノ存亡或ハ王朝ノ興廢ニ關スルモノニシテ其ノ地方兵燹ニ罹リ萬物慘壞ノ跡ハ永ク人ヲシテ其ノ古戰場タルヲ追懷セシメ戰後收得セル直接ノ効果ハ切ニ其ノ偉績ヲ感嘆セシムルヲ常トス例令ハ遠クハ紀元後七百三十三年佛國ツール、スノ戰（此ノ戰ニ於テ佛王チャーレス、マルテル同々教徒ノ大擧入冠ヲ擊攘シ其ノ歐洲侵略ノ勢ヲ挫キタリ）及ヒ英國ヘスチングスノ戰（此ノ戰ニ於テ佛國ノ北部ニ割據セル北歐ノ蠻族ナユーク、オフ、ノルマンヂー英國ヲ征略シ時ノ王朝ヲ倒シ之ニ代リ英國現朝ノ基ヲ開ケリ）近クハウオートルロー或ハセダンノ戰ノ如キ是ナリ

然ルニ史ヲ閲スルニ大海戰モ亦右ニ記スル大陸戰ニ讓ラサル重大ノ結果ヲ生シタリ就中紀元前三十一年希臘アリチヤム海戰（此ノ戰ニ於テ羅馬三頭共和政治者ノ一人オクタビヤス、シーザルノ水軍他ノ二人ノ水軍ヲ擊破シ其ノ兵船三百艘ヲ捕獲シ終ニ其ノ國ノ政體ヲ帝政ニ改メ自カラ帝ト稱シ爰ニ羅馬歷代ノ帝系ヲ開キタリ）一五七一年ノ希臘レパント海戰（此ノ戰ニ於テ西班牙ヴエニス、ゼーア、マルタ及ヒ羅馬法王ノ聯合艦隊土耳其艦隊ヲ擊破シ其ノ西侵ノ勢ヲ挫キタリ）一五八八年西班牙必勝艦隊ノ英吉利海峽侵入及ヒ其ノ殲滅トラファルガー海戰ノ如キ其ノ著例タリ然ルニ制海力ノ結果ハ其ノ當時直接眼前ニ觸レタル所ヨリハ遥ニ重大ナルモノ往々之レアリシモ人之ヲ悟得セサリキ例ヘハトラファルガー海戰（一八〇五年十月二十一日）大勝後間モナクシテ起レルアウステルリッツ陸戰ノ大敗（一八〇五年十二月二日佛軍ハ那破翁自カラ指揮シ次ニ墺國ノ一市アウステルリッツニ戰ヒシカ聯合軍大敗シ死傷五万人以上ヲ出シ軍旗四十旒ヲ奪ハレ大砲百五十門ヲ失ヒ俘虜トナリシモノ數千人是ヨリ終ニプレスブルグノ媾和條約ヲ締結スルニ至レリ）ハ時ノ英國首相ピットヲ驚倒セシメ大ニ海戰ノ效果ヲ疑ハシメタリ然ルニ輓近ニ至リマハンハ其ノ健筆ヲ以テ巧ニ制海力ノ何物タルヲ説述シテ曰ク制海力ハ「アナコンダ」大蛇（譯者曰ク此ノ大蛇ハ長三十呎以上ニシテ至大ノ緊縮力ヲ有シ虎豹ノ如キ大獸ト雖モ之ニ捲付キ壓潰シテ嚥下スルト云フ）ノ大壓力ニ比喩スヘキモノニシテ世界ニ覇タラントスル者ハ壯大ナル陸軍ヲ備フルト同時ニ其ノ陸軍カ未タ曾テ重要視セサル航海熟練ノ選外艦隊ヲ具有スルニ在ラサレハ到底其ノ雄圖ヲ遂クル能ハスト其ノ言ヤ事實ノ眞相ヲ穿チ得テ妙ナリ

制海力問題ハ世ノ普ク知悉スル所ナレハ余ハ爰ニ之ヲ贅セス本戰役ニ於テ制海力ニ最重キヲ置クヘキハ固ヨリ論ヲ俟タサル所ニシテ日本ノ如キ島國ニシテ此ノ權力ナカリセハ滿洲及ヒ朝鮮ニ對スル其ノ要求ヲ貫クコト能ハサリシナルヘシ然ルニ若シ日本艦隊ニシテ今一層優勢ノモノナリシナラハ開戰ノ當時大陸ニ於ル日本ノ位置ヲ更ニ鞏固ナラシメタルナラン

日本ノ將校下士卒ノ技倆露國ニ優ルコトハ吾人ノ疾クニ信スル所ニシテ日本人自身モ亦斯ク信セシカ如シトモ然モ彼等ハネルソンスラ優數ニアラサレハ敵ヲ塵滅スルヲ得スト警告シタルコトヲ記憶スルナラン然ラハ結局ノ成敗ハ姑ク措キ日本人ニシテ幾許カ餘裕ノ勢力ヲ有セハ其ノ陸軍海上輸送ノ安全ヲ確保シ無人ノ境ヲ行クカ如キ思ヲナセシナラン日露兩國終ニ開戰シ日本捷利ヲ博セリ殊ニ日本海ノ海戰ノ如キハトラフアルガー海戰ヨリモ一層ノ大勝ニシテ寧ロ之ヲナイル海戰ニ比スヘキモノナリ此ノ二海戰共ニ敵艦ノ遁逃セシモノ僅ニ四隻ニ過キス又日本艦隊カ五月二十七日午前ヨリ翌二十八日晩マテニ露國艦隊ヲ殲滅シタル奇績ハナイルノ海戰ニ就テ評セラレタル如ク「戰勝ト謂ハンヨリハ寧ロ征伐」ナリ

日本ノ偉丈夫タル東郷大將ノ收メタル戰果ハ姑ク後段ニ讓リ玆ニハ唯日本海ノ海戰ハ東郷大將ヲシテ我カネルソント共ニ海軍ノ名將タル名譽ヲ萬世不朽ナラシムルニ至リタリト一言シ置カンノミ

日本海ノ海戰竝ニ其ノ海戰ニ至ルマテノ事態ヲ論スルニ先タチトラフアルガー海戰以降本海戰ニ至ルマテ百年間ニ起リタル著名ノ海戰ヲ簡單ニ說述スルハ多少ノ補益ナシトセス然レトモ人多クハ曰ハン此ノ百年間ニハ眞ニ海戰ト稱スヘキモノ殆ト之ナキニアラスヤト夫或ハ然ラン現ニ我カ英國海軍ノ如キモトラフアルガー海戰以來未タ一回モ艦隊戰鬪ヲ爲サヽリシニハ相違ナシト雖モ研究ノ資料ト爲ルヘキ單艦戰鬪ニ至リテハ其ノ度數世人ノ普ク知レル所ヨリハ遙ニ多シ現ニエッチ、ダブルユー、ウヰルソン氏ノ著書甲鐵艦戰紀ハ單ニ一八五五年以降一八九五年迄ノ海戰ヲ敍述セルモノナレトモ書中尙漏ルヽモノアルヲ言ヘリ況ヤトラフアルガー海戰以來百年間ニ於テヲヤ

トラフアルガー海戰以後ノ海戰ハナヴアリ、リツサ、黃海、サンチアゴニ起リタル四海戰ヲ以テ其ノ重ナルモノトスアルゼーレ、サン、ヂヤーンダクル、セバストボリ、キンバーン、アレキサンドリヤ等ニ於ル軍艦對砲臺ノ戰鬪ハ之ニ加ヘス單艦戰鬪ニ就テモ亦多小學フヘキモノアルハ勿論ナレトモ海軍將校及ヒ海軍敎官ノ切ニ知ラント欲スル所ハ推進力、材料、攻擊具ノ改良カ果シテ艦隊戰鬪ノ所要ニ堪フルヤ否ヤニ在リ然ルニ右ニ引用シタル海戰ハ何レモ兩軍勢力ノ差甚大ナリシカ故ニ是等ノ問題ヲ解決スルノ助ケト爲ルヘキ資料ニアラスナヴアリノ海戰ハ全ク木造帆艦ノ戰鬪ナレハ近世式兵器ニ關スル經驗トナラス故ニ余ハ之ヲ略シ他ノ三海戰ニ就キ聊カ陳述スル所アラントス

リツサ海戰ハ一八六六年即チ甲鐵艦採用ノ初期ニ當リ墺伊兩國間ニ起リタルモノニシテ之ニ參加シタル軍艦ノ多數ハ裝甲ヲ有セス砲熕モ大抵ハ前裝滑膅砲ナリキ此ノ海戰ニ於テ主トシテ觀ルヘキハ撞頭ニ重キヲ置キタルニ在リ雙方共ニ撞頭ヲ利用セント欲シ墺國艦隊司令長官テーゲツトホーフノ戰術ハ苟モ敵艦ト見レハ盡ク撞頭ヲ以テ之ヲ突壞スルニ在リシカ終ニ能ク敵艦隊司令長官ペルサノーノ旗艦「レヂイタリア」ヲ撞擊シテ沈沒セシメタリ之ヨリ撞頭ハ不相當ニ重要視セラレシカ其ノ後間モナク自働水雷發達ノ爲メ其ノ聲譽大ニ衰ヘタリ加フルニ撞頭其ノ物ハ敵艦ニ對スルヨリハ却テ僚艦ニ危害ヲ及スコト多キカ故ニ我カ英國軍艦カ今尙撞頭ヲ備ヘ自カラ苦ムニ至テハ寧ロ奇異ノ感ヲ起サルヽヲ得ス之ヲ要スルニリツサ海戰ノ吾人ニ敎フル所ハテーゲツトホーフノ劣勢ナル墺國艦隊ヲ以テペルサノーノ優勢ナル伊國艦隊ニ當リ勝ヲ制シ以テ作戰ノ主力ハ武器ヨリハ人ニ在リト云フ古訓ヲ確メタルニ過キス

是ヨリ一八九四年ノ日清戰役ニ於ル黃海ノ海戰ニ移ランニ此ノ戰ハ兩軍ノ計數上ニ於テハ殆ト同勢力ニシテ孰レモ多少英國海軍將校ノ訓練ヲ受ケシモ其ノ艦隊編制ニ至テハ大ニ相異リ清國北洋艦隊ハ數種ノ軍艦ヨリ成リ丁提督之ヲ指揮シ日本艦隊ハ比較的同型式ノ軍艦ヨリ成リ其ノ多クハ新式快走巡洋艦ニシテ伊東中將之カ司令長官タリシカ同中將ハ敵艦隊ノ操縱不自由ナル陣列ヲ見テ大ニ之ヲ利用シ當時頗ル有力ナリシ清國ノ戰艦三隻ニ對シテハ左ノミ損害ヲ加フルヲ得サリシモ先ツ兩翼ノ薄弱艦ヲ擊沈シ容易ク勝ヲ制シタリ此ノ海戰ハロヂエストウエンスキー中將ニ敎フルニ型式數種ノ艦船ヲ戰列ニ交雜スルノ危險ナルコトヲ以テシタルナランカ何故彼ハ之ニ鑑ミル所ナカリシカ又當時日清兩艦隊共保氏水雷ヲ有シ且其ノ相距ル極テ近キコト時々アリタルニモ拘ラス孰レモ充分ニ水雷ヲ利用セス唯清國軍艦ヨリ二三發ノ水雷ヲ發射シタルノミト覺ユ此ノ海戰ニ於テ日本ハ輕小ノ犧牲ヲ以テ大捷ヲ獲全然制海力ヲ占奪スルニ至リタリ而テ此ノ海戰ニ於テモ日本海々戰ニ於ルト均シク其ノ防護巡洋艦ノ一隻タモ喪ハス又大損害ヲモ被ラサリキ

サンチアゴ海戰ニ至リテハ米西両艦隊ノ勢力餘リニ隔絶シ西國艦隊ハ只管逃走セントカメ米國艦隊ノ優大ナル勢力ト精鋭ノ砲火トヲ以テ追撃セラレ遂ニ擱岸シタルカ故ニ其ノ戰紀ヲ讀ミテ何等教訓ノ學フヘキモノナシ

余カ以上三海戰ヲ摘述シタルハ日露開戰ノ當時ヤテ近世式材料ヲ使用スル海戰ニ由テ吾人ノ學ヒ得タル所如何ニ乏シキヤヲ示シ今回ノ戰役ニ就テ其ノ經驗ノ得ラルヘキ望ミアルヲ言ハントスルニ在リ然レトモ最近ノ日本海々戰ヲ論スルニ先タチ昨年八月十日ノ黃海々戰ニ就キ一言セサルヘカラス

八月十日ノ海戰ハ本年刊行ノ海軍年鑑ニ於テ海軍大將サー、サイプリアン、ブリッヂ之ヲ詳說シタレハ余ハ爰ニ其ノ大要ヲ指摘スルニ止ムルト雖モ海軍戰術家之ニ就テ研究スレハ大ニ得ル所アルヘシ此ノ海戰ハ非常ノ遠距離ヲ以テ行ハレ最初ハ一萬一千碼ヲ隔テヽ砲火ヲ開キ戰鬪ノ末期ニ及ヒテ漸ク三千五百碼迄ニ短縮セラレタリ是日本カ其ノ主戰艦ヲ危キニ近ツカシムルヲ欲セサルニ因リシモノヽ如シ日露両艦隊孰レモ敵ノ旗艦ニ砲火ヲ集中セシカ日本ノ終ニ勝ヲ得タリシハ主トシテ露國旗艦「ツエザレウヰチ」大ニ損害ヲ被リ操縱困難ト爲リ司令長官ウヰトゲフト戰死シタルニ歸スヘキナリ

此ノ海戰ニ就キブリッヂ大將ノ評論左ノ如シ

「此ノ海戰ニ於テモ是迄行ハレタル各戰ニ於ル如ク雙方共砲火ノ爲メニ一艦ヲモ撃沈セラレサリキ(フレマントル曰ク余ハ爰ニ一發ノ水雷モ有効ニ發射セラレサリシコトヲ附言セントス)露國司令長官ハ其ノ出動ニ際シ「ツエザレウヰチ」ヲ旗艦トシテ艦隊ノ先頭ニ置キシカ爲メ敵ハ此ノ一艦ニ集彈シタリ彼若シ之ヲ斯ノ如クセス戰列中他ノ處ニ占位セシメタランニハ浦鹽斯德ヘノ遁走計畫ハ或ハ成功シタランモ知ルヘカラス假令全艦隊該港ニ到達セサルモ其ノ多數ハ著港セシナルヘシウヰトゲフト少將一タヒ斃レ他ノ少將假ニ代リテ此ノ難局ニ當リ過重ノ大任ヲ負フニ及ヒ避難港近キニ在リシカ爲メ偶彼ヲシテ怯心ヲ生セシメ遂ニ旅順ニ引返スコトヽナリタルモノヽ如シ

此ノ海戰ノ末期ニ至リ露國艦隊ノ戰列亂レ其ノ諸艦ハ自カラ密集シテ一團塊ト爲リ而テ日本艦隊ハ比較的良好ノ隊列ヲ以テ之ヲ包圍セリ斯テ露艦ノ砲熕其ノ物ハ集中シ其ノ射線ハ敵ニ對シテ處々ニ散亂セシカ故ニ砲熕ノ効力最微弱トナリシニ引替ヘ日本艦隊ハ長線列ニ配陣シ各艦適當ノ間隔ニ占位セシカ故ニ砲熕其ノ物ハ各所ニ散開シ其ノ射線ハ敵艦ノ一團塊ニ集中スルノ利ヲ得タリ唯三笠ノ被リタル重大ナル損害ハ東郷大將ヲシテ麾下艦隊ヲ一所ニ保持スルノ必要ヲ感セシメタルモノヽ如ク之カ爲メカ彼ハ露艦ノ旅順ニ退走シ或ハ山東高角ニ向ヒ遁走セルモノヲ追撃セサリキ

余ハ此ノ海戰ヲ敍了スルニ先タチ一事ノ附言セント欲スルモノアリ他ニアラス此ノ海戰ニ於テ日本艦隊カ遠戰術ヲ採リタルハ前ニモ云ヘル如ク全ク慎重ノ態度ヲ取リタルニ因ルモノニシテ將來ノ海戰モ亦此ノ如キ遠距離ニテ行ハルヘキモノナリト臆斷シ英國戰艦ノ副砲タル七吋五砲ヲモ一層大口徑ノ砲熕ニ換ヘサルヘカラスト論スル者アレトモ是事ロ大早計ト謂ハサルヘカラス思フニ日本海々戰ニ於ル近戰ハ余ノ此ノ所見ヲ正當トスルノ一證ニシテ八月十日ノ極端ナル遠戰ハ除外例タルコト恰モ英國海軍ハ古來近戰々術ヲ踏襲スルモ時トシテ然ラサルコトアルカ如シ

當ニ八月十日ノ海戰ノミナラス同十四日ノ蔚山沖ノ海戰ニ於テモ上村中將ハ豫テ其ノ軍艦ヲ危キニ近ツカシメサルヘキ旨ノ訓令ヲ受ケ居リタルカ如シ故ニ両海戰ニ於テ日本司令長官ハ敵艦ニ重大ノ損害ヲ與ヘ一時廢艦タラシムルニ止メ叨ニ之ヲ窮迫セサリシナリ是數多海軍專門家ノ均シク信スル所ニシテ余モ亦斯ク言ヘリ

此ノ所信ノ果シテ然ルヤ否ヤニ就テハ人ノ之ヲ疑フ亦理ナキニアラスト雖モ今若シ日本人ヲシテ之ヲ論セシメハ彼或ハ日本艦隊ハ此ノ両戰ニ於テ敵ヲ窮迫セシニモ拘ラス其ノ戰果ヲ完ウセサリシモ現場ノ事實ニ徴シテ知ラルヘカ如ク我ニ於テ一モ失フ所ナキニアラスヤト言ハン其ノ言亦可ナリ

是ヨリ八月十日海戰後日露両國ノ戰略的位置ヲ觀察セシニ日本ハ既ニ極東ニ於ル制海力ヲ確實ニ獲得シタリ然レトモ露國ハ尚旅順口ニ於テ英將トリントンノ所謂殘存艦隊ナルモノニ當ル戰艦五隻ヲ有シ又波羅的ニ於テ東航準備完成セントスル優勢ノ艦隊ヲ有シタルカ故ニ旅順陷落前即チ東郷大將ノ同港封鎖中ニ波羅的艦隊ヲ旅順口外ニ到著セシムルコト亦難キニアラスト思惟スル亦固ヨリ其ノ所ナリ斯テ露國ハロヂエストウエンスキー艦隊ヲ編制シ昨年十月十五日ヲ以テリバウヲ出港セシメタリ其ノ途中十月二十一日北海ニ於テ英國漁船擊沈ノ椿事ヲ惹起セシハ尚世人ノ記憶ニ新ナル所ナルヘシ」

婆羅的艦隊ハ其ノ後漸ク航程ヲ追ヒテマダガスカル島附近ニ到著スルヤ司令長官ハ旅順既ニ陷落シ又港內蟄伏ノ戰艦ハ悉ク破壞セラレタリトノ敗報ニ接シタリ是ニ於テ全艦隊歸國ヲ得策トスルノ論議起リシカ主トシテクラード中佐ノ强硬ナル意見ニ依テ本年三月初旬ネボガトフ少將ヲシテ三等戰艦一隻海防艦三隻裝甲巡洋艦一隻ヨリ成ル增援艦隊ヲ率ヰ蘇士運河ヲ經テ東航セシメ之ヲロヂェストウェンスキー艦隊ト合シテ東鄕大將ト制海力ヲ爭奪スルコトニ決シタリ

其ノ後ロヂェストウェンスキー中將ノ行動顚末ハ爰ニ贅セス唯彼カ此ノ大艦隊ヲ率ヰテ極東ニ遠航シタル運用術ノ老練ト三月及ヒ四月ノ靜穩ナル天候ヲ利用シテ印度洋及ヒ支那海ヲ航過シタル智識ハ稱讚セサルヲ得ス又彼カ蘇門答臘、瓜哇兩島間ノサンダ海峽若クハ瓜哇島ノ東ニ在ルロムボック海峽或ハパク海峽ヲ通過セスシテ却テ大膽ニモマラッカ海峽ヲ直進シタルハ世人ニ一驚ヲ喫セシメシカ彼ハ斯シテ以テ最捷航路ヲ取リ又南東貿易風ノ强吹ヲ避ケ以テ巧ニ其ノ豫備石炭ノ消費ヲ節スルコトヲ得タリシナリ五月五日ロヂェストウェンスキー艦隊ハ安南沿岸ノカムラン灣ニ於テ萬歲聲裡ニネボガトフ艦隊ト相合セリ此ノ間東鄕大將ハ果シテ那邊ニ在リシヤ吾人ハ杳トシテ其ノ消息ヲ聞カサリシナリ

日露兩艦隊勢力比較表(略ス)ヲ一見セハ何人モ露國戰艦ノ多數ナルニ驚クヘシ加之露國ハ海防艦三隻ヲ有セリ然ルニ日本ノ戰艦ハ僅ニ四隻ニシテ鎭遠ヲ加ヘテ漸ク五隻トナルノミ故ニ戰艦ニ於テハ露國日本ヨリモ優勢ナリ然レトモ裝甲巡洋艦ニ至テハ露國ハ舊式艦三隻ヲ有スルノミニシテ日本ハ新式ノ有力艦八隻ヲ有スルヲ以テ戰艦ニ於ル劣勢ヲ償フテ餘アリト謂フヘシ又防護巡洋艦驅逐艦水雷艇等ニ於テハ日本遙ニ露國ニ優リタリ抑新式裝甲巡洋艦ハ實用上ニ於テ戰艦ノ縮小式ニシテ其ノ効力ハ戰艦ト大ニ異ルナキナリ今ヂェーン氏著「全世界軍艦」ノ勢力算定法ニ基キ非防護巡洋艦驅逐艦水雷艇等ハ姑ク措キ防護巡洋艦以上ノ各艦種ニ就テ其ノ勢力ヲ精確ニ對照スルニ露國ハ九二ニシテ日本ハ實ニ一一六ナリトス故ニ日本ハ紙上ノ計算ニ於テ既ニ露國ヨリモ優勢ナレトモ是未タ勢力比較ノ眞相ヲ顯スモノニアラス他ニ又日本ニ利スル所アリ即チ日本ノ一等戰闘艦四隻及ヒ裝甲巡洋艦八隻ハ型式類似シ相合シテ行動シ得ヘキ快走ノ一艦隊ヲ編制シ同一歩武ノ運動ニ慣熟セルコトナリ之ニ反シ露國艦隊ニ於テハ八隻ノ戰艦スラモ其ノ製造時代ト速力トヲ異ニシ又三隻ノ海防艦ハロヂェストウェンスキー艦隊ノ增援トナラスシテ却テ其ノ運動ヲ掣肘スル邪魔物タルニ過キス況ヤネボガトフ艦隊ハ本隊ト聯合シテヨリ五月十四日カムラン灣出發ノ際マテロヂェストウェンスキーノ下ニ在リタルコト僅ニ數日ノミナルニ於テヲヤ婆羅的艦隊カムラン灣出發ノ時ハ合計八十隻ヨリ成レリト云フ

ロヂェストウェンスキー艦隊ノ東航ニ際シテ海軍根據地ノ必要如何ニ就キ茲ニ一言スル所ナカルヘカラス彼カ婆羅的海ト浦鹽斯德ノ間ニ一箇ノ海軍根據地ヲモ有セスシテ其ノ艦隊ヲ極東迄無難ニ引率シタルノ技倆ハ余固ヨリ之ヲ認ムルニ吝ナラスト雖モ或論者ノ如キ此ノ事實ヲ以テ直ニ海軍根據地ノ不必要ヲ證明スルモノナリト言フニ至テハ到底首肯スル能ハサル所ナリ如何ニモ彼ハ安全ニ其ノ東航ヲ遂ケタルニ相違ナシト雖モ途中佛國ノ好意的中立アルニ拘ラス其ノ遭遇セル困難ノ絕大ナリシヤ必セリ彼ハ艦隊ノ行動ヲ阻礙スヘキ多數ノ給炭船、工作船、病院船其他ノ補助船隊ヲ携伴シタルノミナラス途中今日ノ軍艦ニ必要缺クヘカラサル修理及ヒ塗替工場ヲ得ルノ望ナカリキ故ニ彼ハ香港若クハ新嘉坡ノ如キ根據地ニ垂涎シ英國ノ愚ニモ抛棄シタル錫蘭島トリンコマリノ如キモノニテモ之ヲ見テ如何ニ切望セシヤ其ノ心中察スヘキナリ

是ニ於テ婆羅的艦隊ハ英國海軍戰略家ノ頻ニ喋々セル所謂假根據地ヲ造ルヘキ場合ニ遭遇セリ吾人ノ聞ク所ニ依レハロヂェストウェンスキーハ假根據地ノ設置ニ就キ異數ニ考慮スル所アリシカ如シト雖モ其ノ要スル所ハ豫メ軍需品及ヒ食糧ヲ蓄積シ置クニ足ルヘキ防禦根據地ニ在リタリ假根據地ノ如キハ豫メ制海力ヲ掌握スルニアラサレハ之ヲ設ケテ利用スルコト能ハサルモノナリ此ノ問題ニ就テハ後ニ說ク所アルヘシ

轉シテ日本ノ戰略ヲ見ルニ今ヤ婆羅的艦隊ノ來東目前ニ逼リタルカ故ニ旅順口攻圍軍ハ其ノ來著ニ先タチ港內ノ蟄伏艦ヲ殲滅セント欲シ殆ト狂暴的ニ旅順口ニ迫レリ然ルニ十二月ノ末旅順口陷落シ敵艦ハ最早戰地附近ニ片影ヲ留メサルニ至リタレハ旅順口封鎖ノ任ニ當レル各艦ハ直ニ此ノ機會ヲ利用シテ修理及ヒ艦底塗替ニ著手セリ其ノ各艦ハ既往十個月間斷セス戰闘航海ニ從事セシヲ以テ修理ノ必要ヲ感スルコト最急切ナレハナリ

吾人ハ日本ノ砲熕ニ付詳報ニ接セシコトヲ喜ム近頃我カ英國砲熕ノ腐蝕說ヨリ一大恐慌ヲ生シタル際ナレハ殊ニ然リトス抑日本砲熕ハ全部英國製ニシテ米國製ノ日本軍艦ニテモ其ノ武裝ハ英國ニ回航シ安社ニ託セシコト既ニ明白ノ事實タリ』然レトモ日本艦隊ハ本戰役ノ初期ニ於テ屢次高角度發射ヲ行ヒシヨリ其ノ砲熕ニ幾許ノ損狀ヲ來セシヤ其ノ程度ハ最知ラント欲スル所ナレハ我カ英國海軍本部ニ於テハ既ニ此ノ邊ノ情報ニ接シタルヤ疑ナシ思フニ慧眼ナル我カ同盟國ハ如何ナル缺點モ之ヲ漏スヲ許サヽルカ故ニ其ノ砲熕或ハ不良ノ徵候ヲ呈シタランモ知ルヘカラスト雖モ決シテ之ヲ公ニセサルヘシ

日本人ノ下瀨火藥ハ英國ノ改良紐狀火藥ヨリモ砲熕ニ腐蝕作用ヲ及スコト恐ラクハ少カルヘシ（姑ク原文ニ從フ）世ノ戰評家中八月十日ノ海戰ニ於テ日本ノ砲力ハ露國ニ比シテ格別優色アリシヲ見スト唱ヘ其ノ原因ヲ日本砲熕ノ使用頻繁ナルヨリ其ノ衰損セルニ歸セシ者アリト雖モ概言スレハ日本ノ艦砲ハ旅順港外ニ於テ未タ何等重大ノ故障ヲ生セサリシモノヽ如シ』

日本艦砲ノ衰損程度ハ姑ク措キ日本ハ旅順陷落後艦隊ノ修理ヲ爲スニ當リ其ノ備砲ハ嚴密ニ檢査シ其ノ不良ナルモノハ悉ク之ニ換裝スルニ新砲ヲ以テシ其ノ他如何ナル點ニ於テモ其ノ艦船ノ効力ヲ遺憾ナカラシメンカ爲メ細心精慮ヲ盡シタルヤ疑フヘカラス幸ニシテ婆羅的艦隊ノ航程遲々タリシカ故ニ日本ハ其ノ艦船ヲ修理スルニ充分ノ時間ヲ得又充分ニ之ヲ利用セリ

右ノ如クシテ我カ同盟國ノ敵ニ對スル戰略ハ如何此ノ問題ヲ決スルニハ東郷大將ノ意見亦與リテ大ニ力アリシニハ相違ナシト雖モ兎モ角是ハ同大將ヨリハ寧ロ日本海軍統帥部ノ任ニ歸スヘキモノナリ

當時或ハ日本艦隊ハ印度洋マテ敢進邁往シテ敵ヲ邀擊スヘシト信セシ者アリ就中ロジェストウェンスキー艦隊トネボガトフ艦隊ノ相合セサル前ニ於テ其ノ一若クハ兩者ヲ攻擊スルノ利ヲ說キタレトモ日本ハ愼重ナル此ノ如キ冒險ノ策ヲ取ルヲ肯セサリキ又恐ラクハ眞摯ニ之ヲ講究セサリシナラン何トナレハ若シ日本艦隊ニシテ印度洋マテ進航スルトキハ自巳ノ根據地ヨリ遠ク隔離スルノ不利アレハナリ

印度洋ニ赴クヨリモ一層有望ナル策ハ支那海ニテ敵ヲ邀ヘ個々各別ニ其ノ艦隊ヲ擊破スルニ在リシナラン然ラハ印度洋ニテ出航セストモ結局同一ノ効果ヲ收ムルコトヲ得タリシナルヘシ支那海ニテモ今假ニ其ノ戰場ヲ柴棍ノセントジェームス岬トセハ其ノ長崎ヲ距ルコト一千三百五十海里ニシテ最近ノ本國軍港ヲ距ルコト大約一千三百海里ナルカ故ニ日本ハ自カラ出ツルヲ好マス遂ニロジェストウェンスキートネボガトフノ相合スルニ任セタリ

當時余惟ラク露國艦隊中ニハ多數ノ非戰鬪船舶雜リ居タルカ故ニ東郷大將ハ其ノ有力ナル裝甲巡洋艦六隻ヲ支那海ニ派シ此等非戰鬪船舶ト露國艦隊トヲ切斷シ以テロジェストウェンスキーヲ窘ムルモ亦一策ナラント此ノ策ハ安心シテ遂行セラレタルナラン何トナレハ日本巡洋艦ノ速力優等ナルヲ以テ露國戰艦カ之ヲ逐フモ石炭ヲ濫費スルノミ而モ日本ハ當時此等巡洋艦ヲ分遣スル餘裕綽々タレハナリ然ルニ東郷大將ハ此ノ策ニ出テスシテ其ノ麾下艦船ヲ集中シ置クヲ擇ヒシヤ明ナリ然ラハ東郷大將カ偵察艦ヲ派シテ露國艦隊ノ動靜ヲ監視シタルヤ否ヤハ人ノ知ラント欲スル所ナルカ余ハ決シテ東郷大將カロジェストウェンスキーノ行動ニ關シテ新聞紙上ノ報道ノミニ信賴シタリトハ思慮セス嘗テ日本ノ假裝巡洋艦新嘉坡沖ニ現レタリトノ通信傳ハレルコトアリ故ニ東郷大將ハ恐ラクハ此等ノ手段ニ依リ吾人ノ知ラサル情報ヲ蒐集シ居タルモノナランカ日本軍艦ハ五月二十七日戰鬪開始ノ朝マテハ一隻モ露國艦隊ニ觸接セサリシモノヽ如シ

日本艦隊ハロジェストウェンスキートネボガトフノ相合スルヲ妨ケサルノ方針ニ決シタルコト既ニ明白トナリシ後ニ於テモ尚臺灣附近ニテ敵ヲ邀擊セントスルカ將タ其ノ本國根據地附近ニ敵ヲ待タントスルカハ依然疑問トシテ存シタリ當時マハン大佐ハ用意周到ナル論文ヲ「タイムス」新聞ニ揭ケテ東郷大將ノ集合基地ハ基隆港ニ在ルヘシト判斷シ同港ハ臺灣ノ北端ニアリ長崎ヲ距ルコト約六百五十海里ナレハ此ノ港ニ據ルトキハ露國艦隊カ臺灣海峽ヲ經テ北航スルト臺灣ノ外側ヲ迂回スルトヲ問ハス之ヲ邀擊スルニ便利ナラント論シタリ然ルニ余ハ之ト所見ヲ異ニシ東郷大將ハ澎湖島馬公ニ在ラント信シタリ馬公ハ長崎ヲ距ル八百海里海軍要港ニシテ水雷艇隊ノ根據地トナスニ宜シク且露國艦隊カ臺灣ノ外側ヲ迂回スルトキハ茲ヨリ直ニ北航スルモ敢テ不便ニアラスト思惟シタレハナリ

然ルニ其ノ後事實ノ證明スル所ニ依レハ日本艦隊ノ計畫ハ之ヨリモ更ニ本國ニ接近シテ敵ヲ待ツニ在リキ依テ吾人ノ豫想ハ孰レモ誤謬タリシコト明ナリ然レトモ基隆及ヒ澎湖島ハ孰レモ日本領地ニシテ且便利ナル位置ニ在ルヲ以テ日本艦隊カ之ニ據ラント想像スルモ無理ニアラス又露國艦隊ニシテ琉球諸島ノ一ヲ根據地トスルカ或ハ馬公ヲ攻撃シタランニハ日本艦隊ハ自然ニ臺灣マテ南下シ來リテ之ト戰ハサルヲ得サリシナルヘシ吾人カ臺灣ヲ以テ戰略上重要ノ地點ト見タルモノ必スシモ全ク誤謬ニアラサルヘキカ

東郷大將カ潛伏シテ以テ敵ヲ待チシ場所ハ今尚明ナラス但朝鮮海峽ノ某地點ナリシハ確實ナリ多分馬山浦ニ其ノ本隊ヲ置キ對馬ニ水雷隊ヲ置キタルモノナルヘシ日本ハ露國艦隊カ朝鮮海峽ヲ經テ恐ラクハ其ノ西水道ヨリ日本海ニ入ラントスルニ相違ナシト確信シタルナラン其ノ理由ハカムラン灣ヨリ津輕海峽ヲ經テ浦鹽斯德ニ達スル航程ハ約二千百海里ナレトモ露國艦隊ハ遠ク日本ノ海岸線ヲ離レサルヲ得サルヲ以テ實際ノ航程ハ少クモ約三千五百海里トナル露國艦隊カ日本ノ東ヲ迂回シ津輕海峽若クハ宗谷海峽ヲ經テ浦鹽斯德ニ達セント力ムルモ其ノ率ヰ來レル海防艦ノ載炭量ニ限リアルヨリシテ實際行ハレスト見タルニ在リ尚其ノ外ニ是等海上ノ模樣ニ精通セル航海者ノ諒知スル如ク北太平洋ニ於テ海上給炭ヲ行フハ支那海ノ水面平滑ナル錨地ニ於テスルトハ大ニ難易ノ差アルカ故ニ是亦日本カ露國艦隊ノ航路ヲトシタル所以ノ一ナリ

東郷大將カ本國ニ留リテ徐ニ敵ヲ待チタル種々ナル理由ノ中ニ就テ特ニ有力ト認ムヘキモノアルモ何人モ未タ之ニ論及セサリシカ故ニ余ハ爰ニ之ヲ一言センニ東郷大將ハ其ノ麾下將卒カ長期ノ封鎖任務ニ當リ疲勞衰憊セシカ故ニ之ニ休養ノ時機ヲ與ヘント欲シタルコト是ナリ如何ニ勇武ナル日本人ト雖モ亦人ナリ其ノ將卒多クハ心身倶ニ多少疲憊シタルヤ論ナシ故ニ東郷大將ハ出來得ルタケ艦員ヲ慰安シ以テ其ノ材料人員ヲ倶ニ有力ナラシメント欲セシナラン軍艦ヲ良況ニ保タシトスレハ當時ノ軍艦多クハ艦底ニ被銅セサルカ故ニ屢之ヲ掃除セサルヘカラス然レトモ近代ノ英國海軍ニ於テ父ト稱セラルヘ偉大ナルホーク卿ハ書ヲ海軍本部ニ送リ左ノ如ク言ヘリ

艦隊ノ鋭氣ハ軍艦ノ掃除ヨリモ艦員ノ休養ニ由テ起ルヲ多シトス故ニ余ハ軍艦ノ掃除ヲ一局部ニ止メ艦員ヲ過勞困憊セサランコトヲ勉ム

思フニ東郷大將カ叨ニ動カサリシ所以ノモノ亦ハホークト同シク其ノ艦員ニ休養セシメント欲シタルニ因ルナルヘシ

轉シテ露國艦隊ノ行動ヲ記サンニロヂエストウエンスキー中將ハネボガトフ少將ト相合シタル後チ五月十四日ヲ以テカムラン灣ヲ出發セリ當時中將ハ一時臺灣ニテ根據地ヲ占領セント謀リタルカ如キ形迹アレトモ結局ハ途中ニ時間ヲ費スヨリモ浦鹽斯德ニ直航スルヲ以テ良策ナリト決斷シ其ノ方針ヲ以テ航海ヲ續ケタリ然レトモ彼ハ其ノ進路ヲ韜晦セント欲セシカ故ニ臺灣海峽ヲ通過セス臺灣ノ南ヲ經テ太平洋ニ入リ尚其ノ後モ津輕海峽ニ向フカ如ク裝ハント欲シテ故ラニ艦隊ノ進行ヲ遲緩ニシ且五月二十五日ニ其ノ假裝巡洋艦ノ一隊ヲ揚子江口ノ馬鞍島沖ニ現出セシメタリ

ロヂエストウエンスキー中將カ巧妙ニ其ノ行動ヲ韜晦シタルハ稱讃スルノ値アリト雖モ東郷大將ハ決シテ彼ノ欺罔スル所トナラス敵ハ必ス朝鮮海峽ヲ通過スルニ相違ナシト確信シ靜ニ之ヲ待受ケタリ東郷大將モ亦巧妙ニ其ノ所在ヲ晦シタルヲ以テロヂエストウエンスキーハ遂ニ精確ナル情報ヲ得ス多分彼ハ朝鮮海峽ニ在ラサルヘク隨テ同海峽ノ警備モ嚴ナラサルヘシト信セシカ如シ當時「タイムス」新聞ノ一通信者ハ馬尼刺ヨリ報道シテ曰クロヂエストウエンスキー中將ハ全然不意ニ敵ト會シタルモノニシテ其ノ艦隊ハ戰鬪準備モ爲シ居ラサリシナリト是信スヘカラサルモノヽ如シト雖モ兎モ角ロヂエストウエンスキーカ最初ニ敵ノ薄弱ナル一小艦隊ニ會シ自己ヲ誘致スル計略トモ知ラスシテ之ヲ追ヒ遂ニ其ノ術中ニ陷リタルヲ見レハ多分朝鮮海峽ニテ日本ノ全艦隊ト遭遇スヘシトハ期シ居ラサリシモノナラン

日本海々戰ヲ記スルニ先タチテ露國艦隊ノ乘員ニ付テ一言センニロヂエストウエンスキー麾下ノ軍艦ハ孰レモ經驗アル海軍將校ニ乏シク下士卒亦純粹ノ海員ニアラサリシハ確實ナリ平時ニ於テサヘ露國軍艦ハ約一個年間就役ノ後ニアラサレハ出動スルヲ得ス是其ノ兵員九割マテハ實際陸上生活ノ者ト異ラス況ヤ「スラヴ」人種ノ天性ハ遲鈍無智ナルニ於テヲヤロヂエストウエンスキー艦隊ハ戰時召集令ニ依リ露國海軍中ノ有ユル軍人ヲ採リ盡シテ後チ辛ウシテ配乘セシメ東航ノ

途ニ就キタルモノナレハ其ノ將校下士卒ヲ有効ニ訓練スルコト能ハサリシハ必然タリネボガトフ艦隊ニ至テハ毫モ之ヲ訓練スルニ暇アラサリシナリ

波羅的艦隊ノ各艦及ヒ乘員ノ情態ニ關スル各般ノ報道ニシテ果シテ事實ナランニハ露京海軍統帥部ハ之ヲ極東ニ派スルモ不可思議ノ天佑アルニアラサル限リハ勦絶ヲ免レサルヘキヲ悟リ得タル筈ナリ現ニ「タイムス」新聞露都通信員ハ六月八日附ヲ以テ左ノ如ク報道セリ曰ク

ロヂエストウエンスキー艦隊ノ末路ニ就テ本日當地ニテ公ニセラレタル報道ニ依レハ同艦隊ハ當初ヨリ勝算ヲ有セサリシモノニシテ司令長官モ亦自カラ之ヲ覺悟シ居タリシナリ

是ヨリ日本海々戰ニ移ランニ余ハ之ヲ敍スルニ當リ主トシテ東郷大將ノ公報ト「タイムス」新聞通員信ノ報告ニ據ラント欲ス同通信員ノ報道ハ善ク該海戰ニ於テ戰勢ノ變移セントスル時機ヲ記述シ得タルモノト信スヘキ理由アルヲ以テ余ハ之ヲ採ルコトヽセリ五月二十五日早朝濟州島附近ニ在リシ日本哨艦ハ敵艦隊ノ近ツクヲ見直ニ無線電信ニテ之ヲ東郷大將ニ警報セリ然レトモ東郷大將ハ其ノ際海上朦氣ノ爲メ視界ヲ妨ケラレタルヲ以テ東京ニ發電スルニ敵艦見ユ余ハ彼ノ北航ヲ遮リツヽアリトノコトヲ以テセシハ數時間ヲ經タル後ニテアリキ當時露艦隊ハ合計三十六隻ヨリ成リ「アドミラル、ナヒーモフ」艦長ノ言ニ依レハ二列縱陣ヲ制リ「オスラービヤ」ヲ左翼列ノ先頭トシ「クニヤージ、スウオーロフ」ヲ右翼列ノ先頭トシテ勢力微弱ナル巡洋艦及ヒ特務船ヲ此ノ二列間ニ挾ミテ稍後方ニ置ケリ東郷大將ハ當初巧ニ其ノ主力艦隊ヲ匿シ二等巡洋艦一隊ヲ送リテ敵ヲ對馬ノ東方ニ牽引セシカ露國艦隊ハ此ノ誘致艦隊ト砲火ヲ交ヘ之ヲ追躡シテ東方ニ航進セリ

午後一時頃東郷大將ハ一等戰艦四隻及ヒ日進春日ヨリ成ル主力艦隊ヲ率ヰ對馬ノ北端ヲ回リ上村中將ハ之ト同時刻ニ裝甲巡洋艦六隻ヲ以テ對馬ノ南ニ現レ加之嚮ニ敵ヲ誘致シタル一隊ハ豫定戰策ニ準シ南下シテ敵ノ背後ヲ衝ケリ此ノ戰鬪中東郷艦隊ハ數個ノ戰隊ニ分レテ働キ何レノ戰隊ニモ艦種相異リタルモノヲ交フルノ不利ヲ避ケ而モ其ノ艦隊ハ東郷ノ指揮下ニ全ク一團ト爲リテ操縱セラレ就中主力ノ二戰隊ハ共同連繋シテ運動セリ東郷大將ノ報告ニ曰ク午後二時八分彼ヨリ砲火ヲ開始セシカ我ハ暫ク之ニ耐ヘテ射距離六千米突ニ入ルニ及ヒ猛烈ニ敵ノ兩先頭艦ニ砲火ヲ集中セリ云々敵ノ旗艦「クニヤージ、スウオーロフ」ニ二番艦「アレクサンドル」三世モ大火災ニ罹リ戰列ヲ離レ陣形忽亂レ後續ノ諸艦亦火災ニ罹レルモノ多シ云々勝敗ハ午後二時四十五分ニ決セリ云々「オスラービヤ」モ午後三時十分ニ沈沒セリト

是ニ於テロヂエストウエンスキー中將ハ屢次其ノ針路ヲ轉シテ北方ニ逃レントシ勗メタレトモ日本艦隊ハ必要ノトキニハ其ノ戰鬪序列ヲ逆ニシ往々敵ヲ東方ニ壓迫セリ日本艦隊ノ斯ノ如キ運動ハ啻ニ時間ヲ節シ得ルノミナラス各艦ノ敵ニ當ル程度ヲ同樣ナラシムル巧妙ナル操縱ニシテ日本軍艦ノ一隻モ廢艦ト爲ラサリシハ蓋之ニ因ルナラン總テ此等ノ運動ニ於テ上村中將ハ終始東郷大將ト共同連繋シテ勇敢ニ之ヲ援ケタリ其ノ後「ボロヂノ」沈沒シ「アレクサンドル」三世亦傾覆沈沒セリ當日正午ヨリ午後四時三十分迄ハ天氣晴朗ナレトモ浪高カリシヲ以テ露艦ノ横動劇シク水線甲帶以下ノ舷側ヲ露シタルカ故ニ日本ノ砲員ハ其ノ熟練ニ任セ之ヲ狙ヒテ容易ニ擊沈スルコトヲ得タルカ如シ

午後四時三十分頃ニ至リ日本主力隊ハ煙霧ノ爲メ一時敵影ヲ失ヒ一時追擊ヲ中止シタレトモ露艦ハ三隻ノ戰艦ヲ合セテ少クトモ五隻ハ沈沒シタルカ故ニ戰ハ既ニ決シタリ東郷大將ノ公報ニ曰ク黃昏ニ至リ我カ驅逐隊及ヒ水雷艇隊ハ東南北ノ三面ヨリ漸時敵ニ迫リタリト時ニ風浪既ニ歛リ水雷攻擊ニ便ナリシカハ日本驅逐隊及ヒ水雷艇隊ハ露艦ヲ距ル僅々三百米突ノ處マテ突進シテ水雷ヲ射中シタリ

晝戰終結後日本艦隊ハ驅逐隊及ヒ水雷艇隊ニ其ノ襲擊ヲ逞ウセシメンカ爲メ北方ニ引揚ケタリ而テ當夜ノ水雷攻擊カ敗餘ノ露艦ニ對シテ如何ニ猛烈ナリシヤハ實ニ想像スルニ餘アリ

夜半ノ頃ネボガトフ少將ハ僅ニ殘ル九隻ノ軍艦ヲ率ヰテ北走セントシ勗メツヽアリシモ果サス二十八日ノ朝ニ迨ヒ既ニ全ク自失シタル彼ハ日本全艦隊ノ包圍スル所トナレリ其ノ際彼ノ率ヰタル軍艦ハ既ニ減シテ五隻トナリ戰艦「アリヨール」同「ニコライ」一世海防艦「アドミラル、アプラクシン」同「アドミラル、セニヤーウヰン」及ヒ巡洋艦「イズムルード」即チ是

ナリ就中「イズムルード」ハ其ノ快速力ヲ以テ直ニ逃走シタレトモ遂ニ浦鹽斯德附近ノウラヂミール灣ニ擱岸シテ自爆シ餘ノ四艦ハ其ノ砲熕半ハ既ニ其ノ用ヲ作サス又傷者艦内ニ滿チ今ヤ降ヲ請フノ外ナキニ至レリエンクウヰスト少將ノミハ巡洋艦「オレーグ」「アウローラ」「ジェムチウグ」ヲ率ヰテ南走シ馬尼刺ニ入リシカ同處ニテ抑留セラレ浦鹽斯德ニ逃入シタルモノハ唯小巡洋艦「アルマーズ」一隻アルノミ

余ハ是ヨリ日露兩艦隊司令長官ノ境遇及ヒ戰術ニ就キ一言セントス

東郷大將ノ戰術ハ「牧犬戰術（シープ、ドッグ、タクチックス）」ナリト評スル者アリ其ノ行動眞ニ牧羊家ノ番犬カ羊群ヲ監守シテ之ヲ逸セサルニ似タルヲ以テナリ東郷大將カ此ノ如キ戰術ヲ取リタルハ大膽ニ過クルノ嫌アレトモ其ノ結果ニ徵スレハ之ヲ是認セサルヲ得ス若シ東郷大將ノ策ニシテ是ニ出テサレハ或ハ這回ノ如キ奇績ヲ收ムルコト能ハサリシヤモ知ルヘカラス然レトモ是日本艦隊ノ如キ高速力ノ利益ト完全ノ訓練トヲ有スルモノニアラサレハ能クスヘカラサルノ業タリ轉シテ露國艦隊ノ陣形ヲ見ルニ其ノ誤レルコト實ニ甚シロジェストウェンスキー中將ハ多數ノ非戰鬪船舶ヲ伴ヒ優勢ナル日本艦隊ノ壓迫ヲ排シテ北航ヲ強行セント試ムルモ到底出來得ヘカラサルノ業タリ若シ彼ノ為メニ謀レハ日本艦隊ヲ擊攘シ得ル迄ハ此等非戰鬪船舶ヲ後方ニ殘シ置クカ或ハ此等ノミヲ日本ノ東ニ回送シ津輕海峽若クハ宗谷海峽ヲ經テ浦鹽斯德ニ達セシムルコトヲ勉メ以テ此ノ繫留ヲ脫セサルヘカラス然ルニ彼ハ此ノ二策孰レヲ擇フニ至テモ其ノ境遇ノ如何ニ困難ナルカヲ察スヘキナリ彼ハ終ニ共ニ之ヲ捨テ艦隊ニ續行セシムルニ決シタリ斯テ非戰鬪船舶ヲ保護セサルヲ得サルヨリ戰鬪ニ適セサル航行序列ヲ以テ戰ヒ而テ比較的薄弱ナル防護巡洋艦ヲモ戰艦ト相混シタルモノヽ如シ

東郷大將ノ烱眼ハ善ク敵ノ弱點ヲ看破シ而モ戰術上ノ假定規則ニ拘泥セス各般ノ利益ヲ收得スヘキヤウ嶄新ノ排列ヲ為シ以テ終ニ全捷ヲ博シタリ此ノ戰鬪ニ於テ東郷大將ハ先ツ敵ノ先頭艦ヲ攻擊シタリ是海軍中將サー、アール、カスタンスカ本年刊行ノ海軍年鑑ニ寄セタル戰術論（編者曰ク此ノ論文中ニハ航進中ノ敵艦隊ニ對シ其ノ先頭部隊ニ集彈發射スルコトハ未タ多ク實行セラレス而シテ其ノ實行セラレタル場合ヲ見ルモ一向モ成効シタルコトナシト說キ其ノ場合ヲ列擧シ其ノ弊アル所以ヲ述ヘタリ）ニ背馳スルノ行動ト謂ハルヘキモマハン大佐ハ之ヲ賞シテ日本艦隊カ敵ノ先頭艦ヲ攻擊シテ敵ノ機先ヲ制シ以テ敵陣ヲ混亂セシメタルハ能クネルソンノ戰訓ト一致セリト曰ヘリ惟フニ日本海々戰ノ場合ニ於テハ此ノ行動ハ明ニ宜シキニ合セルモノト謂フヘシ是露國艦隊ノ浦鹽斯德ニ逃走スルヲ防クニ適當ノ方法ナレハナリ

日本人カ本戰役中海軍作戰ニ於テ時機ニ應シ寛猛其ノ宜シキヲ得タルハ世人ノ驚嘆スル所ナリ既ニ述ヘタル如ク日本海海戰以前ノ諸戰鬪ニ於テハ愼重ノ態度ヲ取リテ叨ニ冒險セス唯一部ノ成效ヲ得テ滿足シタリシカ日本海々戰ニ於テハ敵ノ全艦隊ト相對シ露國ハ最早此ノ外ニ海軍力ヲ有セスト見タルカ故ニ剛鋭果敢少シモ恐ルヽ所ナク萬險ヲ冒シテ大勝利ヲ得ント謀リタリ東郷大將カ日本海々戰ノ劈頭ニ於テ「皇國ノ興廢此ノ一戰ニ在リ各員一層奮勵努力セヨ」ノ信號ヲ揭揚シ以テ特ニ其ノ將校下士卒ニ奮勵勇鬪ヲ促シ國家ノ為メニ盡ス所アラシメントセルモノ實ニ此ノ海戰カ戰局ニ一大變遷ヲ來スヲ明ニシタレハナリ

露國艦隊ハ實際合戰準備ヲ整ヘ居ラサリシトノ說アレトモ余ハ之ヲ信セス日本艦隊ノ攻擊果敢ニシテ而モ周到ナリシカ為メ露國艦隊ヲシテ恰モ急襲擊ヲ受ケタルト同一ノ結果ニ陷ラシメタルモノヽ如シ此ノ戰況ハナイル海戰ノ際ネルソンノ佛將ヴィルヌーヴニ對スル攻擊ヲ聯想スヘキモノニシテ當時ヴィルヌーヴハ佛國陸軍大臣ドクレーニ報告シテ「英軍ハ我カ軍ヲ見ルヤ否ヤ直ニ攻擊ヲ開始シタリ其ノ間實ニ一瞬時ノミ」ト言ヘリ

戰術ニ關スル批評ハ是迄ニ止メ以下兵器ニ就テ一言センニ日本海々戰ニ於テハ砲熕魚雷兩ナカラ其ノ勝ヲ奏シタルコト最早疑フヘカラス然レトモ此ノ二者中砲熕ノ主兵器タルヤ明ナリ東郷大將ノ公報ニヨレハ日本ハ二十七日水雷使用前既ニ砲戰ニ依テ勝ヲ得タリ故ニ砲熕ハ依然主兵器タルノ價値ヲ失ハス之ト同時ニ巨大ナル軍艦モ亦然リ然レトモ余ハ爰ニ一事ノ附言スヘキモノアリマハン大佐ノ言ヘル如ク軍艦ノ隻數ハ艦隊編制上ニ於ル如ク個々單獨ノ力トシテモ亦緊要ナルカ故ニ軍艦ハ巨大ナルヲ以テ足レリトセス其ノ隻數モ亦多クセサルヘカラス余ハ固ヨリ水雷攻擊ノ威力ヲ輕視スル論者ニアラサレトモ日本海々戰ニ於テ水雷攻擊ノ行ハレタルトキハ露艦既ニ甚シク損害セラレ其ノ裝甲保護ナキ砲熕ノ多クハ最早其ノ用ヲ作サヽル至リタル後ニシテ百事襲擊ニ有利ナル情況ノ下ニ於テセラレタルモノナルコトヲ察セサルヘ

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

カラス

要スルニ魚雷ハ吾人カ日露戰役前ニ於テ豫想シタル程ニハ有力ナラサリシナリ日本海々戰ニ於テ日本カ魚雷ヲ以テ數多ノ敵艦ニ止メヲ刺シタルハ疑ナシ「アドミラル、ナヒーモフ」ニ艦長ロヂオーノフ大佐ノ言フ所ニヨレハ同艦ハ數多ノ敵彈ヲ蒙リ又驅逐艦ノ襲撃ヲ受ケシカ終ニ魚雷ノ爲メニ破孔ヲ生シ沈沒スルニ至レリト然レトモ又一方ニ於テ「シソイ、ウェリーキー」艦長オヂヱロフ大佐ハ曰ク我カ艦魚雷一發ヲ被リタレトモ之カ爲メニ沈沒シタルニアラス全ク砲彈ニ由テ損破セラレタルカ爲メナリト

砲熕ト魚雷ノ效力比較論ハ重要ナル問題ナレトモ是迄ニテ之ヲ止メ又潜水艇ニ就テハ日本ハ既ニ幾隻カヲ所有セリトノ世評アレトモ之ヲ日本海々戰ニ用ヒタルコトナキヲ以テ茲ニ論及セス

最後ニ日露雙方ノ損害ニ付テ一言セサルヘカラス露軍ノ損害ハ絶大ニシテ其ノ艦隊ハ全滅シ死傷及ヒ捕虜ノ數實ニ多大ナリ吾人ハ未タ露國損害ノ確報ニ接セスト雖モ予ノ見タル記事ニ依レハ「アレクサンドル」三世ハ其ノ乘員ヲ擧ケテ沈沒シ又「ボロヂノ」及ヒ「ナワリン」ハ各一名ノ生存者アリシノミナリト云フ之ニ反シテ日本ノ損害ハ甚タ僅少ニシテ死傷合計六百四十一名沈沒シタルモノハ水雷艇三隻ノミ然レトモ古來海戰ニ於テハ勝者ノ損害ハ敗者ニ比スレハ寡キヲ常トス今ジェームス氏著海軍歴史ニ依テナイル及ヒトラファルガーノ二海戰ニ於ル彼我ノ損害ヲ引用スレハ左ノ如シ

ナイル海戰

英軍ノ死傷數	八九六
佛軍死傷數(概算)	五、〇〇〇

トラファルガー海戰

英軍ノ死傷數	一、六九〇
佛西聯合艦隊死傷數(概算)	一〇、〇〇〇

其ノ内佛艦「ルゾウターブル」ノミニテモ全乘員六四三人ノ内ヨリ五二二人ノ死傷ヲ生シ又十月二十四日英將サー、アール、ストラチャンノ捕獲シタル敵艦四隻ノ死傷數ハ合計七百三十名ナリキ

デヴィッド、フレーザー氏著英國海軍名將傳ニ依ルニ一七八二年ロドネイ卿ハ西印度ニ於テ佛國艦隊ト交戰シ敵艦五隻ヲ捕獲シ一隻ヲ破壞シタルノミナリシト雖モ兩軍死傷ノ差ハ非常ニシテ英軍ノ死傷僅ニ一千一百三名ニ過キサルニ佛軍ノ損失ハ大約一萬五千名(其ノ中死傷七千名餘ハ捕虜)ニシテ佛艦「ヴイルドパリ」及ヒ「セザー」二隻ノ死傷ノミニテモ一千名ヲ超エタリ

以上述フル所ニ徵スレハ戰訓ハ自カラ明白ナリ抑日本ハ其ノ兵員ノ運用術及ヒ砲術練習ニ於テ大ニ敵ニ優ルコト必セリ又其將ヲ戴キ航海及ヒ編隊運動ニ慣レタル艦隊ハ乘員未熟、編制不完全ニシテ「海上ノ秘訣」ニ通セサル急設艦隊ニ比シ士氣大ニ揚ルコトハ今日モ尙ネルソン時代ニ於ルカ如シ

日本ノ今回ノ大捷ニ就テハ我カ英國モ幾分カ其ノ光榮ヲ分享スヘキモノナリト言フモ敢テ不可ナカラシカ我カ同盟國ハ第一ニ其ノ海軍訓練ハ英國海軍將校ニ就テ得タルコトヲ承知シ居ルナルヘシ又其ノ有力艦ノ多クハ英國軍艦ノ型式ニ則リ英國ニ於テ製造セラレ又日本ノ砲熕ハ皆安社ノ手ニ成リ米國製ノ日本軍艦ト雖モ武裝ハ安社ニ託スル爲メ英國ニ回航シタリ

(一九〇五年七月發刊「ナショナル、レビュー」所載)

七九　日本海々戰ニ於ル日本ノ勝利ハトラファルガー以上ノ大捷

編者曰ク本論ハ甲鐵艦交戰史ノ著者エッチ、ダブルユー、ウヰルソンノ筆スル所ニシテ同氏ハ日本海々戰ノ本評ニ先シテ左ノ如ク言ヘリ

一九〇四年十月九日午前即チ波羅的艦隊東洋ニ向ケレーヴェリ發航ノ前日露帝同港ニ行幸シ旗艦「スウォーロフ」ニ於

テ將校下士卒ニ勅語ヲ賜ヒ汝等ハ鋭意露國ノ爲メニ制海力ヲ恢復センコトヲ圖ルヘシ此ノ遠征ニハ一大血戰アルコトヲ覺悟セヨ汝等ハ避敵ノ戰術ヲ取ルナカレ奮テ敵ト對戰セヨト宣ヘリ

ロジエストウエンスキー中將ハ如何ナル艦船ト雖モ我カ艦隊ニ近ツクモノアラハ之ニ發砲スヘシ必要アラハ尚一層強硬ノ手段ヲ取ルモ苦シカラストノ命令ヲ受ケ又中立國船舶ヲ差押ヘ或ハ撃沈スルモ露國政府若クハ該船舶所屬國政府ニ通知スルニ及ハサル旨ノ特別訓令ヲ受ケタル由ナレハ左ナキタニ暴戻ノ性癖ヲ有スルロジエストウエンスキーカ此ノ一大艦隊ヲ率ヰテ中立國船舶ノ往來頻繁ナル海上ヲ航行スルニ當テハ北海ニ於テ英國漁船撃沈ノ椿事ヲ惹起スルカ如キハ敢テ怪ムニ足ラス

其ノ後佛港シェルブールニ驅逐艦ヲ送リテ載炭セシメ本隊ハ西班牙ノ一港ウヰゴニ入リテ同國官憲ノ抗議スルニモ拘ラス強イテ載炭シ又モロッコノ一港タンヂールニ於テモ國王ノ無勢力ナルヲ侮リテ載炭シ同地點ニ於テ其ノ艦隊ヲ両分シ一ハフエリケルザム少將指揮ノ下ニ蘇士運河ヲ通航セシメ一ハロジエストウエンスキー自カラ率ヰテ喜望峰ヲ迂回スルコトヽセシカ彼ハ何故ニ斯ク其ノ勢力ヲ分離セシヤ其ノ理由ハ未タ之ヲ詳ニスルヲ得スト雖モ恐ラクハ英國艦隊トノ觸接ヲ避ケントスルノ意ニ出テタルモノナルヘシ

斯テ本支兩隊ハ佛領港灣ニ於テ載炭シ之ヲ其ノ根據地ニ利用シ佛國ノ給炭港無キ處ニ於テハ葡萄牙ノ如キ弱國ノ領海内ニ於テ載炭シ以テ其ノ東航ヲ容易ナラシメタルニモ拘ラス其ノ航程ハ極テ緩慢ニシテ本隊ノ佛領マダガスカル島ノセント、マリー港ニ著シタルハ一九〇五年一月一日ナリキ

ロジエストウエンスキーカ本國ヲ出發シタルトキハ旅順口未タ守ヲ失セス今後半年間尚支フルコトヲ得ルカ如ク見エタリ當時同港ニ於テハ作戰上一大要素タル巡洋艦及ヒ驅逐艦ノ現存隻數ハ姑ク措キ尚戰闘ニ堪フヘキ戰艦六隻アリ是等軍艦ノ存在スル間ハ日本艦隊ノ大部分ハ之ニ當ラサルヲ得サルカ故ニ波羅的艦隊ト對戰スルヲ得ヘキ餘力ノ存スルヤ否ヤハ判知スヘカラサリシカ旅順口ノ陷落ハ日本海軍ヲシテ專ラ波羅的艦隊ニ當ルヲ得セシメ又當時浦鹽斯德巡洋艦隊ハ既ニ酷シク損害ヲ蒙リシヲ以テ日本ハ之ヲ要フルヲ要セサルニ至レリ然ルニ本年二月ニ至テ後發隊即チ巡洋艦「オレーグ」同「イズムルード」及ヒ驅逐艦五隻ハ蘇士運河ヲ經テマダガスカル島ニ著シタルヲ以テ爰ニ波羅的艦隊ノ勢力大ニ加リシモ旅順口陷落後計數上兩國艦隊ヲ比較スレハ露國ハ日本ニ對シテ一ト二ノ割合ト爲リ人員ニ於テハ尚一層ノ大差ヲ見ルニ至リ加フルニ地理上ノ位置ハ大ニ日本ニ利ナルヲ以テ波羅的艦隊ノ東航運動ハ極テ危險ノ狀ヲ呈スルニ至レリ露國政府ハ是等ノ弱點ヲ考察シ其ノ艦隊ヲシテ多少ノ災殃ヲ顧ミス東進セシムルカ將タ又之ヲ召還スヘキカ此ノ問題ニ就テ數週間躊躇決セサルモノヽ如クナリシカ此ノ一大艦隊ニシテ敵ト一戰ヲモ試ミス空シク歸國センカ國内ニ如何ナル事變ノ起ランモ知ルヘカラス又外國ノ嘲罵ヲ被ランコトヲ慮リ終ニネボガトフ少將ノ指揮下ニ增援艦隊(所謂第三艦隊)ヲ派シ既發艦隊ニ合セシメ以テ東航セシムルノ策ニ決シタリ此ノ增援艦隊ハ舊式戰艦「ニコライ」一世並ニ小型ナレトモ有力ナル海防艦「アプラクシン」「ウシヤーコフ」「セニヤーウヰン」及ヒ舊式巡洋艦「ウラヂーミル、モノマーフ」ヨリ成リ二月十五日リバウヲ出發シ蘇士運河ヲ通過シテ絕東ニ直航シタリ此ノ增援艦隊ノ出發ハ一大失策ナリト非難セラレシカ露國ニシテ戰フニ決シタル以上ハ一個ニテモ戰闘單位ノ多キヲ望ムハ固ヨリ其ノ所ニシテ露京海軍統帥部ハ其ノ司令長官ノ之ヲ誤用スルコトヲ先見シ能ハサリシナリ今此等軍艦其ノ物ニ就テ言ハンニ之ヲロジエストウエンスキーノ雜駁艦隊ニ加レル多數艦船ニ比スレハ其ノ速力著シク劣等ナルニアラス其ノ効力モ亦微弱ナルニアラス彼ノ憫ムヘキ遲足艦ニシテ大ニ石炭ヲ喰フノ名アル「シソイ、ウエリーキー」及ヒ「ナワリン」スラモ其ノ蘇士運河通過支隊ニ編入セラレタルニアラスヤ又實際此ノ增援艦隊ノ海防艦ハ航海及ヒ戰闘ニ於テハ豫想ヨリハ好成績ヲ現シタリト云フモ妨ナシ

ロジエストウエンスキー艦隊ハ三月十七日マダガスカル島ヲ出發シタリ(當時ネボガトフ艦隊ハ尚地中海ニ在リタリ)然レトモ佛國官憲ハ之ヲ秘密ニ附シ新聞通信員ノ發電ヲ差押ヘタリ其ノ前佛國新聞ニ於テハ波羅的艦隊ハ奉天敗戰ノ結果召還ヲ命セラレ蘇士運河ニ向ヒツヽアリトノ報ヲ流布セシカ是世ヲ欺カントスルノ策ニシテ其ノ實印度洋ヲ航行

セリ三月十九日及ヒ是ヨリ一週日後ニ英國船舶ハ之ヲ發見シ其ノ到達ノ各港ヨリ一大艦隊東航ノ通信ヲ發シ又同艦隊ハ四月八日新嘉坡附近ニ現レ同十四日安南ノ佛港カムラン灣ニ著シ此ノ中立港ヲ自國根據地同樣ニ使用シタリ然ルニ同地佛國官憲ハロジェストウエンスキーノ行動ニ關スル英國新聞通信員ノ發信ヲ差押ヘ或ハ之ニ干渉シテ其ノ文意ヲ變セシメタリ同十八日日本ハ佛國ニ對シテ其ノ日本領土ニ近キ安南港灣ヲ露國艦隊ニ貸與シタル事ニ就キ抗議ヲ提出シ其ノ後益々其ノ退去ヲ嚴促シタル結果佛國官憲ハロジェストウエンスキーニ退港ヲ要求シタルヲ以テ婆羅的艦隊ハ二十二日カムラン灣ヲ去リタレトモ後又ポール、ダヨーニ入リ更ニホンコーヘ灣ニ入レリ此ノ三港モ亦均シク佛領安南海岸ニアリ唯中立侵害ノ塲所ヲ異ニスルノミ日本ハ大ニ之ヲ憤怒セシモ自カラ制シテ別ニ何等ノ事ヲモ起サヽリキネボガトフ艦隊ハ四月七日紅海ノ佛港ジブーテルヲ出發シ五月四日新嘉坡ニ現レ同八日ホンコーヘ灣ニ著シロジェストウエンスキーノ麾下ニ入レリ斯テ婆羅的艦隊先發ノ本支兩隊後發隊增遣艦隊相合シテ此ノ港灣ヨリ自カラ冥暗塲裏ニ投スルノ途ニ就ケリ

ロジェストウエンスキーハネボガトフ艦隊ノ來合ニ由テ裝甲艦十四隻ヲ有スルニ至レリ其ノ內五隻ハ一等戰艦ニシテ六隻ハ舊式ナレトモ戰列ニ加リテ戰フヲ得ヘシ然ルニ餘ノ三隻ハ小形ニシテ其ノ載炭ハ千五百海里內外ノ航續ヲ極度トス此ノ航續力トテモ其ノ搭載シ彈藥ヲ減スルニアラサレハ得ヘカラス是ロジェストウエンスキーヲシテ之カ處分ニ苦マシメタル當面ノ一大問題タリトス

若シロジェストウエンスキーニシテ敵ニ當リ勝敗ヲ一擧ニ決セント欲セハ其ノ取ルヘキ策ハ正々堂々全軍ヲ擧テ朝鮮海峽ニ直航シ東郷大將ト對戰スルニ在リ若シ勝タンカ其ノ麾下艦船ノ內尚航海ニ堪フヘキモノ幾隻ヲ率ヰテ浦鹽斯德ニ投入シ其ノ切望セル絕東唯一ノ露國根據地ヲ利用スルニ至ルヘキモ若シ敗レンカ其ノ結果ハ一大凶殃ニ陷ルノ外アラサレハナリ何トナレハ日本ハ朝鮮海峽ノ地理ニ精通シ又其ノ根據地ハ同海峽附近ニ在リ又同海峽ノ兩岸ハ其ノ制扼スル所タリ又同海峽ノ位置ハ多數ノ水雷艇隊ヲ以テ襲擊ヲ逞ウスルニ至便ナルト同時ニ撒設水雷ヲ露艦ノ航路ニ沈置スルニ適スルノ地點タリ而モ日本艦隊ハ充分安心シテ露艦ヲ待受ケ其ノ近ツキ來ル航路ヲ發見セハ其ノ搭載ノ石炭ヲ減シテ彈藥ヲ増シ以テ實戰ニ於テ露艦ヨリハ久シク堪フルヲ得ヘク百事皆日本ニ利益アレハナリ

第二策ハ艦隊ヲ兩分シ故ラニ有力艦ノ爲メニ薄弱艦ヲ犧牲ニ供スル覺悟ヲ以テ一方ハ舊式小形ノモノヲ朝鮮海峽ニ向ハシメ一方ハ一等戰艦及ヒ良巡洋艦ヲシテ同時ニ津輕海峽ヲ強行通過セシムルニアリ其ノ結果ハ恐ラクハ五隻ノ良戰艦ヲ浦鹽斯德ニ到達セシメタルナランカ薄弱艦隊ハ捕獲或ハ破壞ヲ免レス露國ノ一大屈辱ト爲ルヘク而モ浦鹽斯德ニ還入シタル戰艦ハ同港ヨリ出動シテ日本ニ大ナル損害ヲ加フルコト能ハサリシナルヘシ

第三策ハ琉球列島中ニ於テ一根據地ヲ領有シ石垣島ニ於ル良錨地ヲ利用スルニ在リ之ヲ遂行スルハ固ヨリ難業タリト雖モ恐ラク之ヨリ巨キハナカルヘシ露國艦隊ニシテ此ノ處ニ占據セハ日本ヨリダルニーニ至ル航路ノ側面ヲ扼シ又中立港ト容易ク交通スルヲ得ヘク加之臺灣及ヒ日本ノ南部ヲ威嚇スルノ好位置タリ斯ノ如クナレハ日本艦隊ハ早晩必ス來リテ之ヲ攻擊破壞スヘキハ必然ナリト雖モ露國艦隊ハ朝鮮海峽ニ於ルヨリハ遙ニ良況ノ下ニ於テ戰ヒタルナラン而モ之カ爲メニ日本參謀部ニ至大ノ憂慮ヲ起サシメタルナラン

然ルニロジェストウエンスキー中將ハ日本艦隊カ恰モ猫ノ鼠ヲ狙ヒシ如ク氣息ヲ抑ヘ靜止スルノ狀ヲ見テ勢ヲ得又恐ラクハ五月八日巴里ニ傳ヘラレタル三笠ノ大損害若クハ沈沒ノ報ヲ信シ又是迄日本砲熕發射ノ度數ハ英艦「マジェスチック」ノ備砲ニ就テ言ハレタル如ク最早其ノ用ヲ爲サヽルニ至リシナラントノ推算ヲ聞キ或ハ之ニ惑ハサレ又獨佛ノ新聞紙上露國艦隊ニ勝利ノ望アル如ク批評セシモノアリシヲ以テ其ノ自信ヲ強クシ終ニ第一策ヲ採ルニ決シタリ然レトモ露國艦隊ハ先ツ日本ヲ欺キ日本ヲシテ津輕海峽ニ向ヒツヽアリト思ハシムル爲メ故ラニ大ナル迂路ヲ取リテ徐航スルノ策ニ出ツルナルヘシロジェストウエンスキーハ既ニ假裝巡洋艦ノ幾隻ヲ其ノ艦隊ヨリ分離シ之ニ命スルニ日本ノ極北ニ現ルヘキヲ以テシ又浦鹽巡洋艦隊ニモ津輕海峽ニ出動威嚇スヘキ旨ヲ訓令セリ此ノ二運動ニ由リ東郷大將ヲシテ其ノ艦隊ノ一部ヲ北進セシメ以テ其ノ勢力ヲ殺クカ然カラサレハ彼ヲシテ自カラ全軍ヲ率ヰ浦鹽斯德附近ニ赴カシメ此處ニテ露國艦

隊ノ來ルヲ待受ケ其ノ入港ヲ妨クルノ策ニ出テシメント希望セリ露國側ノ見地ヨリスレハ戰場ヲ浦鹽斯徳ニ近ケレハ愈露國艦隊ニ利スル所多ケレハナリ

婆羅的艦隊ノカンコトベ灣出發ノ報ハ佛國官憲之ヲ秘密ニ附シタルモ其ノ五月十四日出港セシコトハ疑ナシ同艦隊ハ十六日天明ノ頃臺灣ノ南方ニ向ヒ航行シタリ是臺灣海峽ニハ日本水雷艇ノ根據地存在スルヲ以テ故ラニ同海峽ノ通過ヲ避ケタルモノナリ斯テ十九日臺灣ト比律賓島トノ間ナルバシー海峽ヲ通過シ呂宋ノ北方ナル一小島附近ニ於テ石炭ヲ補充シ其ヨリ北東ニ航進シ途中英國汽船「オールドハミヤ」號ニ遇ヒ之ヲ臨檢シテ毫モ戰時禁制品ヲ積載シ居ラサリシニモ拘ラス之ヲ拿捕セリ其ヨリ艦隊ハ臺灣ノ東岸ヲ去リテ後日本巡洋艦二隻ヲ見タリト云フ然ルニ是唯露國側ヨリ出テタル報道ニシテ日本ヨリハ此ノ方面ノ偵察ニ巡洋艦ヲ派遣シタルヲ聞カス而テ此ノ疑惑時代ニ在リテ東郷大將ハ婆羅的艦隊カ必ス對馬海峽ヲ通過シテ浦鹽斯徳ニ向フヘキヲ確信シテ動カス是實ニ戰略上ノ推論ニヨレルモノニシテ彼ハ此ノ確信ニ基キ朝鮮海峽ニ於ル其ノ根據地ヲ去ラサリシナリ五月二十五日露國艦隊ノ支那海ニ現レタリトノ報ニ接スルヤ東郷ノ確信ハ一層鞏固ト爲リタル如ク思ハルヽモ東京大本營ニ於テハ稍不安ノ念ヲ抱キタルカ如シ斯テ東郷ハ其ノ艦隊ノ大部分ヲ率ヰテ馬山浦ニ留リ巡洋艦及ヒ偵察艦ノ一部ヲ濟州島ニ派遣シ潜水艇ヲ對馬及ヒ壹岐ニ留メ置キ水雷艇隊ヲ朝鮮海峽ノ各方面ニ配置シ何レモ戰鬪準備ニ就カシメタリ

五月二十五日露船六隻ハ千島群島ノ得撫沖ニ現レ同日又露國給炭船及ヒ假裝巡洋艦數隻ハ上海ニ入レリ之ヨリ一日前ニ英國ノ一汽船ハ露國全艦隊カ揚子口沖ニ於テ石炭ヲ積入レツヽアリシヲ見タリト云フ二十六日露國艦隊ハ濟州島ノ南方ニ現レ日本巡洋艦ハ之ニ近ツキテ偵察セリ今此等各方面ノ報道ニヨリテ察スルニ此ノ時ノ大海戰ハ正ニ時々刻々迫リツツアリシナリ東郷大將ハ此ノ大擧遠來ノ歐露艦隊ヲ邀ヘ一大血戰ヲ爲サント覺悟セリ彼ハ其ノ率ヰル艦隊及ヒ乘員ニ對シテ無限ノ信用ヲ置タリ彼ハ天性海軍將帥タルノ器ニシテ幼少ノ時ヨリ戰爭ヲ事トシ非常ニ忠愛ノ精神ニ富ミ危殆ニ臨ミ狼狽セス順境ニ臨ンテ傲ラス責任ヲ負フテ撓マス沈默シテ計畫シ猛然トシテ断行ス眞ニ「ネルソン」ト比較シテ毫モ遜色ナキ人物ナリ今回ノ戰爭中ニ於テモ其ノ麾下軍艦ハ一度モ中立國船舶ヲ擊沈シタルコトナク世界海運業ノ公街タル海上ニ於テ戰爭ニ從事スルモ而モ未タ曾テ防禦力ナキ中立國船舶ニ發砲シタルコトアラス露國艦隊カ英國漁船「クレーン」號同國協生號「ナイト、コンマンダー」號ノ如キ中立國船舶ヲ擊沈シタルト比較シ日本艦隊ノ名聲ハ益々高クナレリ

按スルニロヂエストウエンスキー中將ハ軍人トシテノ資格、戰略ノ材幹及ヒ司令長官タル德望ニ於テ東郷大將ニ劣リシカ如シ其ノ下ニ在ル諸將モ上村、島村、出羽、瓜生、三須等ノ日本諸將ニ比シテ遙ニ遜色アリシカ如シ又日本水兵ハ如何ナル天候ニ於テモ遠距離射擊ノ熟練ヲ積ミタリシカ露國水兵ハ唯晴天ノ日ニ於ル短距離射擊ノミヲ練習シタリ又日本ノ爆裂藥ハ品質最上ニシテ其ノ爆裂過ルコトナカリシナリ之ニ反シテ露國ノ爆裂藥ハ熱帶地方ニ於テハ大ニ變質シ又榴彈ノ炸發モ保證スヘカラサルモノアリ然ルニ日本海軍ニ於テハ一艦ニ對シ四門ノ割合ヲ以テ重砲ヲ豫備トシ其ノ貯藏既ニ豐ナルカ故ニ之ヲ舊式磨損ノ砲ニ換裝シタリ日本ハ又最新式最良ノ魚雷ヲ調辨シタレハ此ノ大海戰ニ於テ魚雷ノ効力ハ昨年ノ旅順口襲擊又ハ六月八日ノ海戰ヨリハ一層ヲ加ヘタランコト必然ナリ

戰鬪材料ニ於テハ日本ハ歐洲一般ノ信スル所ニ反シ大ニ露國ニ優リタルモノアリ殊ニ裝甲巡洋艦ニ於テ之ヲ見ル然レトモ戰鬪艦及ヒ最大ノ砲熕ニ至テハ露國日本ニ優レリ是兩艦隊血戰ノ結果ニ就キ多少ノ疑アリシ所以ナリ

東郷司令長官ハ五月二十七日早朝無線電信ニ由テ露艦見ユトノ警報ニ接シタリ因テ按スルニ露國艦隊カ濟州島沖ヲ通過シタルハ夜半ノ事ナルヘシ而テ此ノ報ハ同島沖ニ派遣セラレタル日本哨艦ノ報道セル所ナリ東郷司令長官カ此ノ警報ヲ受ケタル際ニハ濃霧四塞一帶ノ海面頗ル陰鬱ヲ極メタリ午前六時三十分ノ頃日本ノ舊式巡洋艦和泉ハ南方ヨリ快走シ來リテ露國艦隊ニ著シク接近シタルモ同艦ハ唯之ニ一瞥ヲ與ヘタルノミニテ匆々ニ馳セ去リ露國艦隊ノ全部カ果シテ其處ニ在リタリヤ否ヤヲ偵察スルコト無カリキ此ノ時ニ於テ露國艦隊ノ陣形ヲ按スルニ右側ニハ有力ナル戰艦四隻單縱陣ヲナセシカ其ノ名ハ「アリヨール」「ボロヂノ」「アレクサンドル」「スウオーロフ」ナリ此ノ四隻ハ同一ノ型式ナルカ故ニ之ヲ識別スルハ極テ困難ナリキ又其ノ後ニハフエリケルザム少將ノ旗艦「オスラービヤ」ヲ先頭トシ「シソイ、ウエリーキー」

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

「ナワリン」「ナヒーモフ」「ニコライ」一世及ヒネボガトフ少將ノ麾下ニ屬スル海防艦一隻相次テ之ニ隨ヘリ又左側ニハ他ノ巡洋艦八隻アリ左右兩列ノ間ニハ病院船數隻工作船「カムチヤーツカ」運送船「ウラール」「アナヅイリ」「イルツイシ」「コレーヤ」特務船「ルス」及ヒ獨逸ヨリ購入シタル給炭船數隻アリ而テ驅逐艦ハ位置ヲ定メス艦隊ノ前後ニ航行セリ想フニ此ノ隊形ハ航行序列ニシテ戰鬪序列ニアラス即チ露艦隊ニ取リテハ最不利益ナル隊形ナリシナリ午前十時露國艦隊ハ五島ノ最西端ヲ通過セリ此ノ時日本巡洋艦笠置、千歲、對馬及ヒ新高ノ四隻ハ朦朧トシテ濃霧ノ間ヨリ現レ露國戰艦ヨリ砲火數發ヲ受ケタル後直ニ去リテ露國艦隊全部ハ東水道ニ向ヘリトノ重要ナル報道ヲ主隊ニ傳ヘタリ同時ニ日本驅逐艦二三隻又濛氣中ニ現レ怒濤ヲ冒シテ右側ノ方面ヲ馳セ回リタリ此等薄弱ナル日本軍艦ノ現レテ後數分間ニシテ露國艦隊ハ日本ノ舊式戰艦鎭遠ノ壹岐方面ニ向ヒ航行スルヲ發見セリ露國司令長官ノ精神ハ興奮セリ時ヲ移サス彼ハ各艦ニ信號ヲ傳ヘテ曰ク「吾人ハ敵ノ領海内ニ入レリ注意セヨ」ト幾モナク彼ハ又信號ヲ揚ケテ曰ク「敵ノ巡洋艦四隻次第ニ接近シ來ヘアリ準備セヨ」ト然ルニ其ノ他ノ日本軍艦ハ一モ其ノ姿ヲ現サヽリキ玆ニ於テカ露國司令長官ハ大早計ニモ心中竊ニ思ヘラク日本艦隊ハ其ノ勢力ヲ兩分セリ敵ハ恐ラク交戰ヲ斷行セサルヘシ何トナレハ彼ハ我カ艦隊ト交戰スルニハ薄弱ナレハナリト斯テ露國司令長官ハ砲火ヲ開始スル前最後ノ信號ヲ揭ケテ曰ク「我カ艦隊ハ無難ニ浦鹽斯德ニ入港スルノ榮譽ヲ以テ滿足スヘキニアラス又進ンテ日本艦隊ノ一部分ヲ擊沈セサルヘカラス」ト

斯テ彼ハ此ノ陰欝ナル海面コソ後ニ其ノ艦隊ノ墳墓トナルヘシトハ知ラスシテ意氣揚々トシテ壹岐ノ島影ヲ望ミ更ニ其ノ左方ニ於テ濃霧ノ間ヨリ對馬ノ丘陵ヲ見シ時ハ恰モ正午ニ近ク海面ノ霧ハ將ニ霽レントスル頃ナリキ然レトモ波濤ハ益々高ク戰艦スラ動搖シテ綠色ノ艦底ヲ露シ怒濤艦首ニ破碎シテ飛沫四邊ヲ浸シ露艦乘組ノ將校兵員ハ多ク船暈ヲ催シタリ而テ海防艦ノ如キハ艦首ヨリ艦尾ニ至ルマテ終始狂瀾ヲ以テ洗ハレ其ノ天候ノ險惡ナル驅逐艦ニハ最不利益ヲ極メ而テ此ノ日ノ光景ハ露人ニ取リテ氣味惡キ有樣ヲ呈シタリ見渡セハ敵地ハ前面遙ニ朦朧トシテ現レ何方ニ向フモ敵國ノ海岸ナラサルナク天ハ橄欖色ヲ以テ塗ラレ海ハ殺風景ナル蒼色ヲ帶ヒ遙カ水際ニ見エシ日本艦船ノ隻數ハ餘リ多カラサリシカ如シ此ノ時日本巡洋艦四隻及ヒ鎭遠ハ恰モ警戒スルモノヽ如ク壹岐方面ニ向ヒ駛行中ナリキ露國艦隊ハ海上險惡ナルニモ拘ラス瓦ニ前述ノ隊形ヲ保チ速力ハ十二節内外ナリシカ如シ午後一時四十五分海霧稍霽レシ頃露國司令長官ハ不意ニ北ノ方沖ノ島附近ニ堂々タル四隻ノ戰艦及ヒ二隻ノ巡洋艦カ單縱陣ヲ編成シテ各艦適當ノ距離ヲ保チ航行シ來ルヲ認メタリ是ニ於テ彼ハ遂ニ東鄕司令長官カ露國艦隊ト砲火ヲ交ヘンカ爲メニ來リツヽアルヲ發見セリ後チ僅ニ十分間ニシテ彼ハ再殿艦ヨリ日本裝甲巡洋艦五隻カ南西ヨリ我カ艦隊ヲ目掛ケテ來リツヽアリトノ報告ヲ受ケタリ

早朝東鄕司令長官ハ麾下艦隊ヲ率ヰテ馬山浦ナル根據地ヲ出發シ午前十一時對馬附近ニ到著セリ此ノ時風濤激シカリシヲ以テ日本水雷艇ハ對馬ノ島影ニ避ケ居リシカ上村中將ハ命ヲ受ケテ裝甲巡洋艦出雲、磐手、常磐、吾妻及ヒ八雲ノ五隻ヲ指揮シ對馬ノ東方ニ出動シ露國艦隊ノ退路ヲ遮斷セリ同時ニ片岡瓜生兩中將ハ六隻ノ舊式巡洋艦及ヒ淺間ヲ率ヰ正南ヨリ出動シテ壹岐ノ東方ニ位置ヲ定メ出羽中將ハ新式巡洋艦四隻ヲ以テ之ニ助力セリ斯テ露國艦隊ハ北ニハ有力ナル戰艦ノ壓迫ヲ受ケ南ヨリハ比較的劣弱ナル艦隊ノ砲火ヲ被リ其ノ背後ハ上村中將ニ遮斷セラレ今ヤ露國艦隊ハ此ノ包圍ノ敵陣ヲ突破スルニアラサレハ航行シ得ヘカラサルニ至レリ是ニ於テ露國司令長官ハ壹岐方面ニ出動セル劣勢ノ日本巡洋艦隊ニ向ヒ砲火ヲ集中シ此ノ一方ヲ切破リテ血路ヲ開カントシタレハ日本巡洋艦隊ノ戰勢非常ニ危險ト爲レリ然レトモ是日本艦隊カ露艦ヲ東方ニ誘致スルノ策タリシナリ若シ是等劣弱ノ日本軍艦ニシテ到底其ノ位地ヲ支フヘカラサルニ至ラハ彼等ハ下ノ關要塞ノ射界内ニ退却スルヲ得ヘク又壹岐砲臺掩護ノ下ニ入ルコトヲ得ヘシ思フニ東鄕司令長官ハ實際此ノ巡洋艦ニ依テ大勝ヲ博シタリト雖モ彼ハ此等劣弱ノ軍艦ヲ犧牲ニ供スルハ其ノ固ヨリ覺悟スル所ナリキ

午後一時四十五分露國艦隊ノ先頭ハ對馬沖ヲ通過シテ其ノ姿ヲ現セリ彼我兩艦隊ハ期セスシテ互ニ敵ニ向首シテ航進セリ此ノ日天氣快晴ナリシモ波浪依然トシテ高ク日本海軍ハ到底水雷艇ヲ使用スルヲ得サリキ開戰ニ先タチ東鄕司令長官ハ艦隊ニ最後ノ信號ヲ傳ヘテ曰ク「皇國ノ興廢此ノ一戰ニ在リ各員努力セヨ」ト是我カネルソンカトラフアルガー海戰ニ先タテ旗艦ノ檣頭ニ揭ケタル最後ノ信號ト同意味ヲ有ス此ノ兩海戰ハ結果モ亦同一ナリキ日本艦隊ノ乘組員ハ自カラ正

義ノ為メニ戰ヒ自カラ正道ヲ踏ミ且自己ハ技倆アル提督ニ指揮セラレ居ルコトヲ自覺シテ勇氣勃々タリシモ極テ冷靜ナル態度ヲ以テ戰鬪ニ從事シ豫定戰策ヲ遂行セリ午後二時少シ過クル頃先頭ノ露艦ハ始テ砲火ヲ開始セリ然レトモ距離餘リニ大ナリシヲ以テ日本艦隊ハ應戰セサリキ其ノ主力艦隊ハ間モナク露艦ニ接近シタルモ尚砲火ヲ開カス其ノ距離四海里ニ達シタルトキ始テ六發ヲ試射セシカ其ノ三發ハ照準精確ニシテ露艦ニ命中シタリ即チ其ノ中一發ハ戰艦「オスラービヤ」ノ司令塔ヲ破碎シ塔内ニ在リシ司令官フェリケルゲム少將之ニ死ス是後ニ日本ニ俘虜トナリシ露艦乘組員ノ實談ナリ然ルニ露國海軍省ハ此ノ報道ヲ否認シフェリケルザムハ開戰ヨリ一二日前病ヲ以テ逝キタリト言明スルモ其ノ孰レカ眞ナルヲ知ラス此ノ瞬間ヨリ日本ノ主力隊ハ緩徐ニシテ精確ナル砲火ヲ敵ノ戰艦ニ集中シ露國艦隊ハ之ニ對シテ匆忙頻繁ニ應砲セシモ照準不正確ニシテ彈丸ハ空シク飛行セリ露國側ノ報告ニ據レハ露國司令長官ハ此ノ時ヨリ序列ノ變換ヲ始メ左側ノ巡洋艦ヲ運送船及ヒ驅逐艦ト共ニ右側ニ移シテ日本戰艦ノ砲火ヲ避ケシメタリ

日本ノ砲火ハ刻一刻猛烈トナリ著々露艦ニ命中シ其ノ多クハ水線部ヲ破碎セリ是波濤高クシテ露國ハ屢波上ニ艦底ヲ露出シタレハナリ斯ノ如クシテ露艦ノ物質的損害ハ既ニ甚大ニ至リシモ其ノ割合ニ乘組員ノ死傷ハ僅少ナリキ交戰ノ漸次進行スルニ隨ヒ露艦ノ重砲ハ破壞セラレテ用ヲ失ヒ司令塔ハ幾度トナク砲火ヲ蒙リ檣及ヒ煙突ハ擊折セラレ速力ハ著シク遲緩トナレリ之ニ反シテ露艦ノ彈丸ハ一モ命中スルモノアラス砲手ハ船體動搖ノ為メ照準ヲ誤リ大洋ノ交戰ニ馴レサルカ為メ士氣沮喪シ其ノ艦隊ハ交戰ノ當初ヨリ既ニ必敗ノ徵ヲ呈シタリ

日本ノ主力艦隊ハ露國艦隊ノ先頭ヲ橫過シ各艦舷側發射ヲ以テ敵艦ヲ砲擊シツヽ之ヲ東方ニ壓迫セリ此ノ瞬間ハ最注目ヲ要スヘキ時機ナリ信據スヘキ日本側ノ通信ニ據レハ若シ此ノ際露國司令長官ニシテ斷然意ヲ決シテ北方ニ突進セハ彼ハ恐ラク艦隊ノ主力ヲ擧ケテ浦鹽方面ニ航行スルコトヲ得タリシナラン然ルニ彼ハ北方ニ突進セスシテ東方ニ回頭シタルカ為メ著シク日本ノ海岸ニ接近シ片岡、瓜生及ヒ出羽ノ各戰隊ヲシテ砲擊ノ機會ヲ得セシメタリ茲ニ於テカ松島、橋立、嚴島、浪速、高千穗、和泉、秋津洲、笠置、千歲、新高及ヒ對馬ノ諸艦ハ猛烈ナル砲火ヲ露國艦隊ノ右側ナル巡洋艦及ヒ運送船ニ集注シ其ノ結果工作船「カムチヤーツカ」ハ先ツ第一ニ擊沈セラレタリ之ヲ此ノ日、露艦隊ノ被レル最初ノ損失トス[illegible]

露國戰艦中最初ニ擊沈セラレタルハ「オスラービヤ」ニシテ時恰モ三時少シ過キナリキ此ノ時日本艦隊ハ同艦ヲ去ル僅ニ約二千五百碼ノ處ニ在リシカ露國艦隊ハ全ク砲煙ニ包マレ且隊形紊レテ各艦ヲ識別スル能ハサリシヲ以テ日本將校ハ「オスラービヤ」ノ何時沈沒シタルヤヲ知ラサリキ聞ク所ニ據レハ同艦ハ水線下ニ受ケタル砲彈ノ為メ遂ニ沈沒ノ不幸ヲ見ルニ至レリト云フ幾モナク「ボロヂノ」モ亦戰鬪力ヲ失ヒ且火災ヲ起シ旗艦「スウオーロフ」亦火災ニ苦ミ加フルニ檣及ヒ煙突共ニ砲彈ニ碎カレ恰モ純然タル難破船ノ姿ト為リ浪ニ委シテ漂流スルニ至レリ是實ニ午後五時前ノ光景ナリトス茲ニ於テ「スウオーロフ」ハ信號ヲ以テ驅逐艦「ブイヌイ」ヲ麾キ頭部ニ負傷セルロジェストウエンスキー中將ヲ先ツ同艦ニ移シ幕僚以下又之ニ移乘シテ日沒ノ頃全ク司令長官ハ旗艦ヲ遺棄セリ戰艦「ニコライ」一世代テ旗艦トナリ全艦隊ノ司令權ハネボガトフ少將ニ移レリ然ルニ今ヤ露國艦隊ハ日本艦隊ノ砲彈ニ惱マサレ四分五裂シテ運送船ノ附近ニ群リ烏合ノ艦隊タルニ過キサルノ慘境ニ陷レリ而テ日本ノ三大艦隊ハ高速力ヲ以テ露艦隊ノ外側ヲ包圍シ恐ルヘキ砲彈ヲ雨注シ露艦ヲ惱マセリ此ノ際ニ於ル砲擊ノ如何ニ猛烈ナリシカハ同地點ヲ距ル二十海里ノ山口縣下ニ於テ市街ノ家屋ヲ振動シ人民之ヲ地震ナリト誤解シテ倉皇屋外ニ出テタリト云フヲ以テ見ルモ明白ナリ露國戰艦二三隻ハ此ノ時ヲ以テ擊沈セラレタルカ如シ而テ其ノ沈下スルトキ全ク轉覆シテ海面ニ船底ヲ露セシヨリ日本驅逐艦ハ之ヲ潛水艇ト誤認シタリト云フ想フニ是恐ラクハ戰艦「アレクサンドル」三世及ヒ「スウオーロフ」ナラン殘餘ノ露國戰艦モ亦同シク水線上ニ致ルヘキ損害ヲ蒙リ其ノ砲熕モ多クハ使用スル能ハサルニ至レリ露國艦隊ハ屢北方ニ遁竄セントシタルモ日本艦隊ノ嚴密ナル警戒ニ妨ケラレ果サス殊ニ南方ヘノ逃遁ハ上村艦隊ニ遮斷セラレタル為メ全ク斷念セサルヲ得サリキ此ノ時北方ヘノ航路ハ東郷片岡ノ兩艦隊ヲ以テ制壓シ居レリ

薄暮ノ頃日本主力艦隊ハ悉ク海上ヨリ引上ケテ攻擊ノ續行ヲ水雷艇隊ニ讓レリ水雷艇乘組員ノ危險ナルハ夙ニ日本海軍

軍人ノ覺悟スル所ナリシカ此ノ時海面漸ク和ラキ水雷艇ハ今ヤ竹敷及ヒ本陸海岸ニ難ヲ避クルノ必要ヲ見サルニ至レリ既ニシテ日暮レ海面漸ク暗黒トナリシカ幸ニモ此ノ夜天ニ一點ノ雲ナク滿空星斗燦爛タル光景ニシテ水雷艇ノ夜襲ニハ最適ノ好天氣ナリキ十六個ノ日本水雷艇隊互ニ三百碼ノ距離ヲ保チツヽ肅々トシテ敵艦ニ接近シ既ニ半死半生トナレル敗殘ノ艦船ニ最後ノ止メヲ刺サントセリ其ノ襲撃著手前露國艦隊ノ隊形ハ變更セリ巡洋艦「オレーグ」「アウローラ」「ヂエムチウグ」ノ三隻ハ驅逐艦「ボードルイ」及ヒ「ブレスチャーシチー」三隻ト共ニ夜陰ニ乘シテ針路ヲ南方ニ取リ巡洋艦「アルマーズ」ハ驅逐艦「ブイヌイ」及ヒ「ベドウイ」二隻ト共ニ北方ニ向ヘリ此ノ時「ブイヌイ」ハ船體痛ク破損シ居リシヲ以テロヂエストウエンスキー中將ハ「ベドウイ」ニ移乘シ居レリ戰艦「ボロヂノ」ノ船體ハ非常ニ破損シ居リシモ尙沈沒スルニ至ラス其ノ他戰艦「ニコライ」一世「アリヨール」「シソイ、ウエリーキー」「ナワリン」海防艦三隻巡洋艦「スウエートラーナ」「イズムルード」「ドミトリー、ドンスコイ」「ウラヂーミル、モノマーフ」及ヒ「アドミラル、ナヒーモフ」殘留シ居リシカ「アドミラル、ナヒーモフ」ハ損害大ニシテ將ニ沈沒セントスル狀態ニアリキ

日本側ノ報告ニヨレハ最初ノ水雷攻撃ハ失敗ニ歸シタルモノヽ如シ是露艦ノ探海燈八箇尙完全ニシテ艇隊ノ活動ニ大ナル障碍ヲ與ヘタレハナリ茲ニ於テカ輕快ナル日本巡洋艦數隻ハ再砲撃ヲ開始シ此ノ恐ルヘキ夜ヲ徹シテ絕エス砲火ヲ集中シ以テ露艦乘組員ヲシテ奔命ニ疲レシメ同時ニ艦内貯藏ノ彈藥ヲ消盡セシメントセリ此ノ時「アルマーズ」ハ浦鹽方面ニ遁逃シツヽアリシカ途上ヨリ此ノ絕エサル砲撃ノ響ヲ聞キ又其ノ間ニ時々水雷爆發ノ轟音ヲ耳ニシタリト云フ

日本水雷艇ハ殘留露艦ノ速射砲ヨリ雨注シ來ル彈丸ヲ冒シテ再三再四水雷ヲ發射セシカ其ノ多クハ孰レモ有効ナリキ斯テ敗殘ノ「ボロヂノ」ハ終ニ海底ニ沈沒セリ「ナワリン」亦四發ノ水雷ヲ受ケ致死ノ大打撃ヲ蒙リテ久シク漂流シタル後船體沈沒セリ「シソイ、ウエリーキー」ハ其ノ以前既ニ日本ノ砲彈ニヨリテ機關部ヲ破ラレシカ此ノ時更ニ魚雷ヲ蒙リ其ノ爆發ハ石油ニ延燒シ船體火焰ニ包マレテ全ク戰鬪力ヲ失フニ至レリ「ウラヂーミル、モノマーフ」亦同シク魚雷ノ爲メ破壞セラレテ將ニ沈沒セントシ「アドミラル、ナヒーモフ」モ既ニ非常ナル損害ヲ蒙リ居リシカ今ヤ二三發ノ魚雷ヲ受ケ最後ニ水線下ノ機關室ニ一發ノ致命傷ヲ受ケタリ然ルニ露國驅逐艦及ヒ運送船數隻ハ都合ヨクモ夜半ノ混雜ニ乘シテ何處ニカ遁逸セリ此ノ時日本ノ水雷艇ハ海上到ル處ニ配置セラレ其ノ多クハ露艦ヲ襲撃シ或ハ襲撃セントシテ僅ニ之ヲ逸シタリト云フヲ以テ見レハ此ノ夜襲ノ如何ニ猛烈ニシテ殘酷ナリシカハ略推知スルニ足レリ

露艦中魚雷ノ襲撃ヲ免レタルモノハ僅ニ數隻ナリキ其ノ内ニ戰艦「アリヨール」「ニコライ」一世外ニ海防艦三隻巡洋艦「スウエートラーナ」「イズムルード」及ヒ「ドミトリー、ドンスコイ」アリ彼等ハネボガトフ少將ノ指揮ヲ受ケ大蜂ノ如ク荒レ狂ヘル日本水雷艇ヲ背後ニ見テ朝鮮海岸ニ沿ヒ逃遁セリ然レトモ露艦ハ損害ノ甚シキカ爲メ戰鬪中羅針盤ニ異狀ヲ生シ乘組員ハ一人トシテ何處ニ味方ノ敗殘艦カ存在スルヤヲ知ルモノ無カリキ而テ彼等ハ如何ニシテモ日本艦隊ノ砲火ヨリ遁逃セント欲シタルモ是亦無益ノ企擧ナリキ日本戰艦ノ全隊及ヒ裝甲巡洋艦ノ一枝隊ハ時ヲ移サス彼等ニ追及シ翌日更ニ砲撃ヲ開始センカ爲メ諸般ノ準備ヲ整ヘタリ

翌二十八日天明トナルヤ前日迄左シモ威風堂々タリシ露國ノ大艦隊ハ今ヤ殆ト見ル影モ無キ慘狀ヲ呈シ「シソイ、ウエリーキー」「ナワリン」「ウラヂーミル、モノマーフ」及ヒ「アドミラル、ナヒーモフ」ハ戰鬪力ヲ失ヒテ對馬ノ近海ヲ浮流シツツアリシカ終ニ日本海軍ノ救助ヲ俟タスシテ沈沒セリ斯カル中ニ日本軍艦ハ各方面ニ於テ戰利品及ヒ俘虜ヲ得ル爲メニ多忙ヲ極メタリ

多數ノ水雷艇ハ信號及ヒ無線電信組織ト相俟チテ俘虜救助ニ非常ノ便利ヲ與ヘタリ午前中ネボガトフノ率ヰル敗殘艦隊ヨリ落伍シタル「スウエートラーナ」ハ朝鮮海岸ニ於テ音羽及ヒ新高二艦ノ爲メニ追撃粉碎セラレテ沈沒セリ此ノ時同艦ハ既ニ彈藥ヲ消盡シ殆ト全ク抵抗力ヲ失ヒ居タリシナリ次ニ病院船二隻モ捕獲セラレタルカ此等ノ船ニ對シテハ日本海軍ハ一切發砲ヲ禁シタリ然ルニ捕獲ノ後之ヲ檢査シタルニ露國カ之ヲ偵察艦トシテ使用シタルヲ發見シ終ニ此ノ理由ヲ以テ日本政府ハ之ヲ戰利品トシテ收容スルコトヽセリ

日本軍艦カネボガトフ少將ノ率ヰル艦隊ヲ攻撃スルノ準備ヲ全ク完了セルハ二十八日ノ午前ナリキ戰艦「ニコライ」一世

及ヒ「アリョール」ノ二隻ハ前日來ノ戰鬪ノ爲メニ被レル死傷ハ比較的少カリシモ船躰ニ受ケタル損害ハ莫大ナリキ海防艦「アプラクシン」「セニャーウィン」ハ殆ト言フヘキ程ノ損害ヲ受ケサリシカ「ウシャーコフ」ハ他ノ艦隊ノ列ヨリ後レ且大破損ヲ受ケ居タリキ巡洋艦「イズムルード」ハ日本軍艦ヲ見ルヤ出來得ル丈ノ速力ヲ出シテ北方ニ逃亡シ「ドミトリ、ドンスコイ」モ亦列ヲ離レテ北方ニ向ヒ去レリ傾テ日本艦隊漸次接近シ來リテ砲撃ヲ開始スルヤ「ウシャーロフ」ヲ除クノ外露艦ハ悉ク檣頭高ク白旗ヲ飜シタリ此ニ於テ淺間艦長八代大佐ハ其ノ露國語ニ通スルノ故ヲ以テ命ヲ受ケテ「ニコラス」一世ニ至リ敵將ノ眞意ヲ質サントシ端艇ニ乘リ移リ本艦ヲ離レントスルヤネボガトッフ少將ハ自カラ端艇ニ遊ヲキ來リ正式ニ降服ノ意ヲ表示セリ想フニ露國艦隊カ斯ノ如ク降服シタルノ一大理由ハ其ノ水兵ノ謀叛反抗ニヨリテ投降ノ已ムヲ得サルニ至レルモノナル可シ日本軍艦ハ是ニ於テ四隻ノ裝甲艦ヲ捕獲シ其ヨリ白旗ヲ飜ヘサヽル「ウシャーロフ」ニ對スル處分ニ着手シ蒼手、八雲之ニ近ツキテ先ツ其ノ降服ヲ迫リシモ之ニ應セサリシカ爲メ直ニ砲火ヲ開キ數分間ニシテ全ク之ヲ擊沈セリ二十八日早朝ヨリ日沒ニ至ルマテ日本艦隊ハ敗殘ノ敵艦追撃ヲ續行セリ午前十時日本驅逐艦漣ハ朝鮮海岸ニ沿フテ北走スル二隻ノ露國驅逐艦ヲ發見シ直ニ之ヲ砲撃セリ二隻ノ中「ブラーウィ」ハ首尾好ク逃走シテ浦鹽斯徳ニ到着シ本艦ハ日本ノ驅逐艦漣ヲ擊沈セリトノ虛報ヲ傳ヘタリ他ノ一隻「ベドウイ」ハ全速力ヲ以テ百方遁逃セント企テタルモ終ニ漣ノ追及スル所トナレリ然レトモ「ベドウイ」ハ逃ケ々彈藥ヲ費盡シタル爲メナランカ漣ノ砲撃ニ對シテ應戰セス信號ヲ以テ本艦ハ非常ナル損害ヲ受ケ「ロヂェストウェンスキー」中將ハ負傷シテ其ノ幕僚全員ト共ニ艦內ニ移乘シ居レリト通告シテ降ヲ請ヘリ漣ハ之ヲ容レ「ベドウイ」ヲ曳キテ東郷司令長官ノ許ニ引致セリ

二十九日朝日本艦隊ハ欝陵島附近ニ於テ巡洋艦「ドミトリー、ドンスコイ」ノ將ニ沈沒セントスルヲ發見シ猛烈ナル砲火ヲ集中セシカ此ノ時同艦艦長ハ自艦ヲ同島海岸ニ接近セシメテ上陸セリ之ヲ日本艦隊ノ擊沈シタル最後ノ露艦トス巡洋艦「イズムルード」ハ數百碼ノ近距離ヨリ日本巡洋艦ノ砲撃ヲ受ケ大損害ヲ蒙リシモ陸岸ニ沿フテ航海ヲ續行シ二十九日ノ深夜ニ「ウラヂーミル」灣（浦鹽斯徳ノ北東ニ）ニ竄入シタリ斯テ露國艦隊全部ノ中首尾能ク浦鹽斯徳ニ到着シタルハ僅ニ三隻ニシテ其ノ名ヲ擧クレハ巡洋艦「アルマーズ」驅逐艦「グローズヌイ」及ヒ「ブラーウイ」ノ三隻即チ是ナリ右ノ中巡洋艦「アルマーズ」ハ交戰ノ初メ早クモ戰列ヲ離レテ浦鹽ニ向ヒ同港ニ到着スルヤ虛妄モ亦甚シキ戰報ヲ傳ヘタリ而テ巡洋艦「オレーグ」「アウローラ」及ヒ「ジェムチウグ」ノ三隻ハ米領馬尼剌ニ竄入シ本戰役ノ終局マテ抑留セラルヽ事トナリタリ又驅逐艦「ボードルイ」ハ悲慘ノ損害ヲ被リ且沈沒艦ノ乘員ヲ滿載シ辛ウシテ清國海岸附近ニ達シ漂泊セシカ我カ一汽船ハ眼前ニ同艦ノ航海困難ナルヲ見ルニ忍ヒス之ヲ曳テ吳淞ニ入リ是迄露艦カ英國臣民及ヒ英國貿易ニ損害ヲ加ヘタルノ恨ニ酬ユルニ救助ノ恩ヲ以テセリ

斯テ三十六隻ヨリ成レル優大ナル婆羅的艦隊ハ此ノ一戰ニ於テ二十二隻ヲ擊沈セラレ七隻ヲ捕獲セラレ又四隻ハ中立港ニ抑留セラレ爰ニ再本戰役ニ參加シ得ヘキ軍艦ハ僅ニ三隻ヲ殘スノミ

嗚呼是何タル大勝利ソヤ吾人ハ陸戰ニ於テモ海戰ニ於テモ歷史上未タ曾テ斯ノ如ク完全ノ大勝利ヲ見サルナリ實ニ此ノ海戰ハトラファルガー海戰ニ比較シテ其ノ規模遙ニ大ナリトラファルガー海戰ニ於テ初メ我カ主將ネルソンハ佛西聯合ノ敵艦隊全部ヲ破壞セント企テタルモ其ノ結果ハ豫期スル所ニ達セス當時英國艦隊ハ二十七隻ヨリ成リ敵艦隊ハ三十三隻ヨリ成リシカ其ノ內敵艦ノ英艦ノ爲メニ擊沈又ハ捕獲セラレタルモノハ僅ニ八隻ニ過キサリキ右ノ如ク實際此ノ海戰ニ參加シタル英國艦隊ノ戰鬪力ハ敵艦隊ノ夫ニ比較シテ遙ニ弱少ナリシモネルソンハ其ノ背後ニ有力ナル豫備艦隊ヲ有シタリ之ニ反シテ東郷大將ハ敵艦隊ニ比シテ其ノ戰鬪力左程大ナル懸隔ナカリシモ毫モネルソンノ如ク後援ヲ有セサリキ又今回ノ海戰ハ日清ノ黃海々戰若クハ墺伊ノリッサ海戰ニ比較スルモ勝利ノ程度遙ニ大ナリ又交戰ノ模樣ハ米西ノサンチヤゴ海戰若クハ馬尼剌海戰ニ酷似スルモ戰爭ノ規模ヨリ見レハ其ノ仕組遙ニ大ナリキ又損害ノ點ヨリ見ルモ日本側ノ死傷者ハ非常ニ少ク殊ニ物質上ノ損害ノ如キハ殆ト絕無トモ云フヘキ有樣ニテ唯僅ニ水雷艇三隻（第三十四號、第三十五號及ヒ第六十九號）カ二十七日夜ノ攻撃ニ際シテ擊沈セラレタルアルノミ他ニ水雷艇第四號ハ露國ノ一戰艦ト衝突シテ大ナル損害ヲ蒙リシモ竹敷港マテ航行シテ沈沒ヲ免レタリ日本ノ戰死者ハ合計百十三名ニシテ負傷者ハ四百二十四名

ナリキ之ニ反シテトラファルガー海戰ニ於ル英國ノ損害ハ戰死者四百三名重傷一千百三十九名ニシテ輕傷者ヲ除クモ尚日本ニ四倍セリ

若シ夫露國側ノ損害ニ至リテハ其ノ莫大ナル實ニ驚クヘキモノアリロジエストウエンスキー及ヒネボガトフ兩將ハ麾下六千百十四名ノ將卒ト共ニ日本艦隊ニ捕ヘラレ戰死及ヒ溺死者ハ未タ精確ニ知ルヘカラスト雖モ多數艦船ノ其ノ搭載書類及ヒ帳簿ヲ擧ケテ沈沒シタルヨリ推セハ必スヤ三千以上ヲ出テサルヲ得ス戰艦「アレクサンドル」三世同「ボロヂノ」同「ナワリン」及ヒ運送船「カムチヤーツカ」乘組將校下士卒合計二千五百人ノ內生存セシ者僅ニ二名ノミナリト云フ

政治上ノ見地ヨリ觀ルニ日本海々戰ノ効果ハ洪大無限ナリ第一ニ今ヤ日本ハ露國ニ殘ル如何ナル艦隊ニ對シテモ毫モ顧慮スル所ナク制海權ヲ確握セリ露帝ハ僅ニ黑海ニ一艦隊ヲ有スルモ此ノ艦隊ハ國際條約ニ據テ黑海以外ニ出ツヘカラサルモノタリ假ニ其ノ條約上ノ束縛ナシトスルモ本戰役ニ參加シテ日本艦隊ト砲火ヲ交フルハ全ク不可能ノ事ナリ黑海艦隊ノ外ニ尚婆羅的海ニ於テ戰艦三隻(其ノ一ハ一等戰艦)舊式巡洋艦三隻アルモ是等ハ擧ケテ數フルニ足ラス開戰以來ノ露國損害ヲ綜合スレハ一等戰艦十二隻二等戰艦三隻及ヒ三等戰艦數隻ハ捕獲擊沈若クハ抑留セラレ裝甲巡洋艦五隻ハ全ク擊沈セラレ且同種軍艦ノ一隻ハ非常ナル大損害ヲ蒙リ今後再戰鬪ニ從事シ得ヘキヤ否ヤハ疑ハシ又巡洋艦九隻及ヒ驅逐艦三十四隻ハ同シク捕獲擊沈若クハ抑留セラレタリ露國ノ如斯莫大ナル損害ハ皆是開戰當時僅ニ戰艦六隻、裝甲巡洋艦八隻、巡洋艦十七隻及ヒ驅逐艦十九隻ヨリ成レル日本艦隊ニヨリテ加ヘラレタルモノナリ日本艦隊ノ行動ヤ眞ニ驚クヘシ而テ此ノ偉勳ヤ固ヨリ日本海軍ノ拔群ナル技倆ニ因ルヘシト雖モ而モ露國海軍カ其ノ全艦隊ヲ集中シテ一擧日本艦隊ト雌雄ヲ決スルコトヲ爲サス其ノ艦船ヲ數箇所ニ分チ漸ヲ以テ戰鬪力ヲ費盡シタルコト是實ニ其ノ主タル敗因タラスンハアラス

初メ日露兩艦隊ノ猶接觸セサルニ當テヤ誰カ能ク斯カル驚クヘキ結果ニ歸著スルコトヲ豫想シタル者アランヤ東郷勝テリトノ電報初テ英國ニ達スルヤ或一新聞ヲ除クノ外ハ諸新聞一トシテ之ニ多少ノ疑惑ヲ抱カサルハ無ク內心日本國ニ同情ヲ寄セナカラモ尚此ノ勝敗ニ信ヲ置ク能ハサリキ又多クノ人ハ熱心ニ日本ノ損害ヲ知ランコトヲ求メ其ノ水雷艇三隻ノ外他ニ何等ノ損害ナシトノ報道ヲ得ルニ及ヒテ彼等ハ大早計ニモ日本海軍ハ損害ヲ隱蔽セリトノ臆測ヲ敢テスルニ至レリ

第二ニ此ノ戰勝ノ効果ハ今回ノ事件ニ對シ列强ノ干涉或ハ來ルヘシトノ疑問ヲ全ク絶滅セルニアリ實ニ日本ノ驚クヘキ實力ハ今回ノ海戰ヲ以テ遺憾ナク證明セラレタルヲ以テ今後列國ハ干涉ヲ以テ日本ノ惡感情ヲ買ハントスルカ如キ愚擧ヲ敢テセサルヘシ今ヤ日本海軍カ自國ノ根據地ヲ防禦スルニ適當ナル裝甲艦ヲ大ニ增加シタルコトハ亦列國ノ忘ルヘカラサル所ナリ又其ノ捕獲シタル四隻ノ軍艦ハ來夏ノ頃迄ニハ修理全ク結了シテ就役スルヲ得ヘク其ノ時ヨリ日本ハ一躍シテ各等ノ戰艦合計九隻裝甲巡洋艦八隻ヲ有スルニ至ルヘシ

第三ニ今回ノ戰勝ハ本戰役中日本軍ノ結局大功ヲ成シタルコトヲ保障セリ斯テ此ノ海戰ハ人類ノ歷史上ニ一新紀元ヲ劃シタリ今ヤ白人優勝ノ潮勢ハ既ニ其ノ極限ニ達シタレハ恐ラクハ本世紀內ニハ漸次衰退ニ赴クヘク是迄歐亞ノ間ニ劃セラレタル隔線ハ最早撤去セラレタリ亞細亞人モ至艱至難ノ事業ニ當テハ白人種ニ比シテ優劣ナキコト實ニ今回ノ戰爭ニ徵シテ初テ發見セラレタリ此ノ事實ハ後世ニ至テモ渝ルコトナカルヘシ相異リタル人種ノ間ニ不平等ノ觀念ヲ挾ミタル時代ハ過キ去レリ將來ハ白人黃人共ニ同一ノ根底ニ立タサルヘカラス文明ハ獲捷ノ器タルノ一事モ亦今回ノ戰爭ニ由テ確メラレタリ極東ノ戰勝國ハ信義ニ富メル敵タルコトヲ顯示スルト同時ニ其ノ政治家ハ其ノ實ヲ吐キ其ノ言ヲ重ンシ又泰西ノ是認スル國際公法ヲ遵奉スルコトヲ證明セリ之ニ反シテ戰敗國ハ國運發暢ノ競走ニ後レ不誠不信ノ行動、條約ノ不履行、威勢是權利ナリトノ主義斷行、國際公法及ヒ中立法規ノ違犯ニ由テ今日ノ如キ慘憺タル窮境ニ陷レルコトヲ證明セリ而テ露國カ現下ノ窮境ヲ挽回スルコトハ到底望ムヘカラス今ヤ日本ハ露國トノ競走ニ於テ遠ク對手ヲ追越シ有利ノ地點ニ上リ露國ヲシテ容易ニ追及スルコト能ハサラシムルノ間隔ヲ設ケタリ

以上述フル所ハ政治上ノ觀察ナルカ是ヨリ軍事上ノ見地ニ移ランニ今回ノ海戰ハ大ニ採リテ益スル所アリ雙方共ニ大ナル新式艦三十隻之ニ參加セシカ故ニ造船上參考ト爲ルヘキ充分ノ資料ヲ提供シタリ今回ノ海戰ハ戰術上數項ノ要訓ヲ垂

示シタリ然レトモ未タ此ノ海戰ノ詳報及ヒ捕獲軍艦損害ノ詳報ニ接セサルカ故ニ最終ノ斷案ヲ下スコト能ハス要訓トハ第一ニ短距離ヨリ砲擊スレハ新式戰艦モ決シテ破壞ヲ免レサルコト是ナリ其ノ破壞シ得ヘキコトハ昨年數回遠戰ノ行ハレタルトキ稍知ラレタレトモ今回ノ海戰ニ徵シテ之ヲ確メタリ露國最良ノ戰艦二三隻ハ專ラ砲彈ノ爲メニ擊沈セラレタルナリ第二ニ新式裝甲巡洋艦ハ戰艦ヲ敵トシテ戰フニ足ルヘキモノナルコト亦今回ノ海戰ニ依テ證明セラレタリ第三ニ魚雷ハ巧ニ使用スレハ一大利器タルコト又魚雷ハ是迄航行中ノ軍艦ニ命中シタル例ナキモ今回ノ海戰ニ徵スレハ其ノ之ニ射中シ得ヘキコト明ナリ第五ニ天候ノ模樣如何ニ拘ラス絕エス遠距離射擊ヲ練習スルハ必要缺クヘカラス就中此ノ第五ハ最重キヲ置クヘキモノナリ

今戰ヲ露國側ノ狀態ヲ觀察スルニ萬事非ナリ第一ニ露國司令長官ハ未タ開戰準備ヲ完成セス且其ノ各艦ノ排列ハ最拙ニシテ薄弱艦ヲ敵ノ正面ニ曝シ且有力艦ハ劣弱ナル僚艦ノ配置方宜シカラサルヨリシテ其ノ發射ヲ妨礙セラレタリ加フルニ各艦長ハ幾ト忍耐力ナク又先制力ナシ又日本艦隊トノ交戰ニ就キ少シモ眞面目ノ企圖ヲ懷カサリキ要スルニ露國艦隊ノ全部ハ東郷大將急擊ノ鋭鋒ニ堪ヘスシテ隊形紊亂シタルモノヽ如シ露國艦隊ニ於ル存命者ノ語ル所ニ據レハ露艦數隻ハ戰鬪準備ヲモ爲シ居ラサリシト云フ然レトモ斯ノ如キハ餘リ咄々怪事ニシテ之ヲ確ムル有力ナル證料ヲ得ルマテハ事實ト認ムルニ躊躇セサルヲ得ス露國艦隊ハ本國出發ノ當時ヨリ敵國ニ對シテハ何等企圖スル所ナク唯中立國及ヒ友國ヲ苦メタルノミ其ノ「ハル」漁船及ヒ汽船「オールド、ハミア」號ニ對スル行動ノ如キハ如何ナル點ヨリ觀ルモ正當ノ擧ト認ムルヲ得ス又一方ニ於テ其ノ佛國根據地利用ハ日佛間ノ國際紛擾ヲ惹起サシト欲スルノ外アラサリキ若シ露國ニシテ戰時國際公法ヲ嚴守シ又若シ佛國ニシテ英國政府ノ如ク嚴正中立ヲ確守シタラシニハ露國ハ斷シテ今回ノ如キ至大ノ災害ト屈辱トヲ被ルコトナカリシナルヘシ是將來ノ殷鑑トシテ大ニ戒ムヘキ事實ナリ有體ニ云ヘハ婆羅的艦隊ノ全滅即チ露國海軍力ノ喪失ハ歐洲ニ於テハ佛國ニ取リテモ英國ニ取リテモ其ノ利益ニアラス我カ英國ハ同盟國トシテ日本ニ同情ヲ寄スルハ固ヨリ其ノ所ナリ又露艦カ開戰以來屢我カ船舶ニ暴行ヲ加ヘタルハ大ニ憎ムヘキモノアリト雖モ而モ尙英國ハ露國敗辱ノ結果歐洲列強ノ國力平衡上ニ一大變動ノ起ルヲ見ルヲ欲セス然ルニ此ノ結果ハ婆羅的艦隊出港後旅順港陷落ニ至リタル當時既ニ避クヘカラサルノ趨勢ヲ呈セリ此ノ場合ニ於テ露國ヲ其ノ窮況ヨリ救ヒ出スハ最早人力ノ能ハサル所ニシテ唯不可思議ノ天佑ヲ恃ムノ外アラサリキ而モ天ハ曲者ヲ祐クルモノニアラス

世人ハ戰局ノ經過スルニ從ヒ最初日本カ劍ヲ拔キシハ自國ノ獨立自衞ヲ確保セシカ爲メ已ムヲ得サルニ出テタルモノナルコトヲ殆ト忘却セントセリ日本政治家ハ一九〇三年ノ末頃ニ至リテモ猶平和ノ持續ヲ希望シタルハ否認スヘカラサル事實ナリ何トナレハ若シ日本ニシテ當時開戰ノ意志アリトセハ智利ノ戰艦二隻ヲ購求シタルヤ必然ナレハナリ又日本ハ當時韓國問題ニ關シテ露國ト妥協セントシタリシモ若シ是ニシテ成立シタリトセハ日本ハ實ニ恐ルヘキ危險ニ陷リタリシナラン露國ニシテ若シ韓國ヲ日本ニ讓リ自カラ滿洲ニ其ノ地盤ヲ固メ其ノ間ニ海陸軍ヲ擴張シテ兵備ヲ充實シタランニハ日本ノ敗滅ハ恐ラクハ終ニ免ルヘカラス日本ハ素ヨリ戰爭其ノ物ノ殘酷ニシテ之ヲ行フノ難業タルヲ知リ又其ノ成敗豫メ知ルヘカラサルニ國民ヲ犧牲ニ供シ國庫ヲ空渴ナラシムルノ危險ナルヲ知リ和戰ヲ決スルニ躊躇スルト同時ニ日本ハ日英同盟ヲ介シテ英佛協商ノ成立ヲ利用シテ日露協商ノ道ヲ開キ得ヘシトノ希望ヲ抱キ大ニ努ムル所アリタリ然ルニ露國ハ日本ト懸案問題ヲ協定スルヲ欲セスシテ所謂「黃禍」ノ提案ニ耳ヲ假サス獨リ支那全部ノ利權ヲ專斷セン」ト決心シタリ今ヤ其ノ結果ハ如何一言以テ之ヲ蔽ヘハ曰ク因果應報ナリ回顧スレハ千八九五年露國艦隊ハ日本ヲ威嚇シテ其ノ下ノ關條約ニ據リテ得タル淸國領土ヲ還附セシメ後ニ之ヲ奪ヒ取リシカ今ヤ其ノ露國軍艦ハ日本海ノ海底ニ橫ハレリ而モ其ノ大海戰ハ下ノ關ト指呼ノ間ニ在ル海上ニ於テ演セラレ其ノ結果ハ先年日本カ餘儀ナク放棄シタルモノヲ其ノ有ニ復セシムルニ至レリ

八〇　日本海々戰（アーチバルド、エス、ハルド）

（一九〇五年七月發刊「フオートナイトリー、レビウ」所載）

編者曰ク本論ハ先ツ東郷大將ノ將帥タル器量ヲ說キ夫ヨリ日本海々戰ノ實例ニ徵スルニ制勝ノ要訣ハ作戰材料ヨリハ

之ヲ使用スル人員ニ在リテ戰闘單位ハ其ノ數ノ多キヨリハ寧ロ精ナルヲ貴ヒネルソンカ敵ヲ鏖滅スルハ數ニ在リト云ヘル戰訓ハ帆船時代ニ在リテハ洵ニ然ランモ遠戰ノ行ハルル今日ニ在リテハ最早適用スヘカラスト述ヘ其ノ結論ヲ(一)老朽艦ノ戰闘ニ參加スル弊害(二)速力ノ大價値(三)魚雷ノ顯著ナル効力(四)砲術練習ノ最大緊要(五)艦員ノ能否(六)戰後海軍ノ大膨脹ノ數項ニ分チ第一項ニハ前ノ英國海軍省造船局長ホワイトノ說ヲ駁シ第二項ニ於テハ海軍大將ブリッヂ及ヒ海軍少將クスタンスノ說ヲ駁シ第三項ニ至リテハ更ニ又鋒鋩ヲブリッヂ大將ニ向ケ反對ノ意見ヲ論述シタリ、

日本海大海戰ニ於ル日本艦隊ノ大捷ハ我カ英國人民ニ取リテ離レ難キ特種ノ興味ヲ有スルモノナリ夫日本海軍ハ我カ英國ト密接ノ關係ヲ有シタリ這回日本海ニ於テ曠古ノ大捷ヲ博シタル日本艦隊司令長官東郷大將ハ青年ノ頃英國ニテ軍事教育ヲ受ケ英國海軍ノ海上勤務ニ服シタル人ニシテ其ノ引率セル軍艦ハ大抵英國ニ於テ建造セラレ其ノ使用セル武器モ亦英國軍艦ニ搭載セルモノト同一ナリ加之東郷大將ノ參謀長タル島村大佐ハ他ノ幾多ノ同僚ト共ニ嘗テ英國艦隊ニ屬シ幸運ニモ海軍少將パーシー、スコットニ就キテ砲術ヲ練習セルコトアリ往年日本カ泰西ノ文明ヲ輸入シツヽアリシ頃ニ於テハ今ノ海軍大將サー、アーチベルド、ダグラス(現任ポーツマス軍港司令長官)出テヽ東京海軍兵學校ヲ統理シ多數ノ英國將校及ヒ兵員ヲ率ヰテ日本海軍ノ基ヲ成セリ其ノ後日清戰役前迄ハ英國海軍本部ヨリ海軍少將ヂヨン、イングルスヲ日本政府ニ貸シテ其ノ海軍顧問タラシメ居タリ日本當局者ハ其ノ海軍々務ヲ經營スルニ其ノ模範ヲ英國ニ採リ且其ノ軍艦ハ英國ニ注文スルヲ常トセリ依テ此ノ少壯海軍ハ全然「英國製」ト極印ヲ捺シタルモノト謂フモ妨ナシ此ノ規模小ナレトモ艦型略齊一ナル日本海軍ノ大捷ハ實ニ光輝ヲ英國海軍ニ反照スルモノナリ、

世人ノ達見者皆苦戰ノ後ニ勝敗ヲ見ルヘシト豫想セル所ニ反シ東郷大將ハ其ノ艦艇ノ操縦巧妙ヲ極メ恰モ囊中ニ物ヲ探ルカ如ク全捷ヲ得タリ世界海戰史アリテ以來其ノ始終一蹉跌ナクシテ此ノ如キ大功ヲ奏シタルハ未曾有ナリ日本海々戰ノ際日本艦隊ニ於テハ主戰艦ノ數敵ヨリモ甚タ少クシテ唯裝甲巡洋艦及ヒ水雷艇ニ於テ敵ニ優リタルノミナリシカ四十餘時間ノ後ニハ敵ノ全艦隊ヲ剿滅シタリ東郷大將ノ報告ニ依レハ當時戰闘開始以後僅ニ三十七分ニシテ勝敗ノ數既ニ決シ

其ノ餘ノ時間ハ唯捷利ヲ完全ナラシムル爲メニ費セシノミト世人ハ大海軍國ノ海軍力ヲ算定スルニ當リ精密ナル紙上ノ統計表ヲ以テ標準ト爲スヲ常トス此ノ標準ニ據レハ五月二十七日二十八日ノ戰果ハ少シク東郷大將ニ有利ナルモ畢竟相引トナルヘキノミ昨年二月二十八日ノ奇襲以來日露海戰全體ノ經過ニ徴スルニ物質上ノ比較ハ信賴スルニ足ラサルコト明白トナレリ開戰當時ニ於ル露國ノ海軍力ハ確ニ日本ノ三倍ナリシモ各處ニ散置シタルニ反シテ日本ノ海軍力ハ集中シ居タリ日露開戰ノ機切迫セル時ニ於テ予ハ露國ノ海軍力ヲ論シテ左ノ如ク謂ヘルコトアリ

露國軍隊ノ編制及ヒ實力ヲ考査スルニ單ニ紙上ノ計算ニ依テ表現スルカ如キ大勢力ヲ實戰ノ場合ニ實現シ得ヘキヤ否ヤ大ニ危ムヘキモノアルナリ(一九〇四年二月刊行「カシアース、マガジーン」參照)

予ハ斯ノ如ク露國艦隊ノ實力ニ就キ疑念ヲ有セシカ開戰以後ノ事實ハ充分ニ予ノ豫想ノ適中セルコトヲ證明シタリ然レトモ開戰ニ於テ日本艦隊カ善ク露國艦隊ヲ勦滅スルコトヲ得ヘシト信セシモノハ極テ少數ニシテ世人多クハ露國カ在東洋艦隊ノ外ニ豫備海軍力ヲ有スルノ事實ヲ擧ケテ其ノ勢力ノ優越ナルヲ唱ヘタリ蓋世人ハ露國カ其ノ際太平洋艦隊ニ軍艦ヲ增派セントスル計畫ヲ見テ其ノ勢力ノ強大ナルヲ認定シタレトモ抑海軍々事上科學ノ應用ハ益々熾ナル趨勢ヲ呈シタルモ人員ノ作戰上ニ大要素タルコトハ之カ爲メニ消滅セスシテ却テ益々其ノ度ヲ增進スルニ至レリ由來軍艦ハ自動機械ニアラス戰艦、巡洋艦若クハ驅逐艦、水雷艇ト雖モ人力ヲ俟タスシテ能ク殺傷擊破ノ用ヲ爲スモノニ非ス莫大ノ費用ヲ投シテ多數ノ軍艦ヲ建造スレハトテ必スシモ海軍力ヲ增加スル所以ニアラス財力豊富ナリトモ億兆ノ壯丁ヲ有スルトモ又ハ財政ノ信用確固ナリトモ必スシモ常ニ海戰ノ捷利ヲ博スルコト能ハサルナリ之ヲ要スルニ海軍力ハ最良ノ武器ト之ヲ有効ニ使用スルノ能力アル將校兵卒トニ在リテ金錢ヲ以テ購買シ得ヘキモノニアラサルナリ而テ此ノ將校兵卒ニ缺クヘカラサル要件三アリ曰ク勇敢曰ク技術ノ才智曰ク海上練習是ナリ

日本ハ世界中最小ノ艦隊ヲ以テ這回ノ戰役ヲ開始セリ東郷大將ノ指揮セシ戰艦ハ終始海軍大將サー、アーサー、ウヰルソン麾下ノ海峽艦隊ニ屬スル戰艦ノ半數ニモ足ラス又海軍中將サー、ダブルユー、エッチ、メイノ大西洋艦隊或ハ海軍中將チ

ヤールス、ベレスフオード卿ノ地中海艦隊ニ屬スル戰艦ノ數ニモ及ハサリシナリ更ニ日本海軍全體ノ勢力ヲ見ルニ伊太利海軍ニ比スレハ約四分一、獨、佛、露諸國ノ海軍ニ對シテハ比較スルニ足ラサル程微弱ニシテ僅ニ戰艦六隻裝甲巡洋艦八隻及ヒ其ノ餘ノ艦艇若干ヲ有セシノミナリシカ日本海軍々人ノ武勇ハ能ク露國ノ各種戰艦ヲ極東海面ヨリ掃蕩シ盡セリネルソンハ嘗テ敵ヲ鏖滅スルニハ唯艦數ノ多キヲ要スト言ヒシカ軍艦ハ接戰ヲ貴ヒ艦員ハ腕力ヲ爭フノ帆走時代ニ在リテハ洵ニ然ランモ日本ノ大捷ニ由テ得タル一新教訓ヨリ云ハヽ此ノ言ハ最早近世海戰ニ應用スヘカラサルナリ彼ノ言ニシテ今尚眞ナラハ勢力微弱ナリシ日本ハ今日疾クモ既ニ露國皇帝ノ足下ニ蹴破セラレ居ルヘキ筈ナリ

日本海々戰ハ其ノ茲ニ至ル迄幾ト十ケ月間ハ世間ノ大問題トシテ考慮批判ノ中心トナレル海軍ニ由テ得タル結果ナリロジエストウエンスキー中將カ昨年八月十四日其ノ將旗ヲ新造戰艦「クニヤージ、スウオーロフ」ニ揭ケテヨリ本年五月末日本海々戰ニ至ル迄其ノ艦隊ノ極西ヨリ極東ニ達スル經過ハ全世界皆熱心ニ注意シタル所ナリ同艦隊ハ前後ニ分レテ本國ヲ出發セシカ遂ニ本年五月安南近海ニ於テ其ノ裨將ネボカトフ少將ノ率ヰタル最後ノ增遣艦隊（所謂第三艦隊）ト會合シタリ當時列國ノ海軍專門家ハ其ノ同情ヲ日本ニ寄スルト露國ニ向クルトヲ論セス皆一齊ニロジエストウエンスキー中將カ種々雜多ノ艦船ヨリ成レル大艦隊ヲ操縱シテ殆ト敵前マテ無事ニ致セル大功ヲ稱揚セリ思フニ中將ノ如ク數多ク型式ノ相異リタル一集團ヲ統率シ途中幾多ノ困難ヲ排シテ天涯ニ航進シタルノ例ハ前古未タ之アラス中將ノ兵術家タル價値如何ハ史家ノ褒貶一樣ナラサルヘキモ其ノ將帥タル航海者タル伎倆ノ拔群其ノ功績ノ無比ナル點ニ至テハ如何ナル曲筆モ之ヲ奪ヒ去ルコト能ハサルナリ中將ハ運送船其ノ他特務船ト老朽艦トヲ其ノ中ニ混シ都合五十隻許ノ艦船ヲ率ヰテ臺灣ノ東ヲ迂回シ上海沖ヲ通過シ此處ニ特務船舶ノ一部ヲ殘シ其ノ優勢ヲ恃ミテ浦鹽ニ突進セント意氣揚々トシテ朝鮮海峽ニ入レリ當時中將ハ日本最良戰艦ノ一タル八島既ニ一年前ニ沈沒シ今ヤ東郷大將ノ麾下ニハ新式戰艦僅ニ四隻トナリ裝甲巡洋艦ハ八隻ノミナリシコトヲ承知シ居タルヤ否ヤハ明白ナラサレトモ兎ニ角彼ハ眞正ノ海軍力ハ良好ノ人員ト良好ノ武器トニ在ルコトヲ思ハス唯巳カ軍艦ノ多數ナルヲ恃ミタルハ確然タリ當時ロジエストウエンスキー及ヒ麾下ノ將士カ洋々タル希望ニ滿チテ最後ノ決戰ニ向ヒタルハ疑フヘカラサルナリ蓋ロジエストウエンスキーカ自巳ノ軍艦ノ多數ナルヲ恃ミ敵艦ノ少數ナルヲ侮リ以テ與シ易シトナシタルハ非常ナル失錯ト謂フヘシ加之彼ハ東郷大將カ其ノ軍艦ヲ朝鮮海峽ノミナラス又津輕、宗谷ノ兩海峽ニモ配置シ居ルヘシト想像シ居タルカ如シ抑東郷大將ハ內々警戒線ニ在リシカ故ニ敵ノ愈對馬海峽ノ捷路ヲ取ラスシテ津輕海峽若クハ宗谷海峽ニ向フコトヲ確メタル後ニ其ノ艦隊ヲ動カスモ未タ遲シトナサヽルナリ安ソ其ノ軍艦ヲ處々ニ散置シ以テ自己ノ勢力ヲ分割スルノ愚ヲ爲サンヤ此ノ點ニ於テロジエストウエンスキー中將ハ東郷大將ノ戰略ヲ誤解シタリシナリ

吾人ハ未タ日本海々戰ニ關スル詳細ノ通信ニ接セサルカ故ニ其ノ戰況ヲ知悉スルニ由ナシト雖モ是迄發表セラレタル東郷大將ノ公報ニ依テ既ニ其ノ大要ヲ知ルヘク又「デーリー、テレグラフ」ノ在日本通信員及ヒ「タイムス」新聞ノ在東京通信員ノ六月十日發信並ニエンクウヰスト少將ノ報告等ヲ參酌セハ其ノ概況ヲ窺フコトヲ得ヘシ今其ノ概略ヲ記センニ露艦隊ハ五月二十七日拂曉對馬海峽ニ近ツキシカ當時ロジエストウエンスキー中將ハ依然日本軍艦ハ津輕、宗谷兩海峽ニモ配置シアリテ朝鮮海峽ノ警備ハ微弱ナリト信シ居タルカ故ニ豫メ偵察隊ヲ出シテ敵狀ヲ探ルコトナク悠然トシテ二列縱陣ヲ作リ五艦ヲ左翼列ニ巡洋艦ヲ右翼列ニ置キ特務艦ヲ其ノ間ニ挿ミ後尾ニ延長續航セシメ其ノ誤算ヲ發見シタルトキハ既ニ深入シテ悔ユルモ及フヘカラサル地點ニ在リキ總テ日本巡洋艦ノ一小艦隊ハ突如トシテ其ノ前面ニ現レ砲火ヲ開ケリ露國司令長官ハ此ノ小艦隊カ日本ノ誘致戰隊タルコトヲ知ラス以テ朝鮮海峽ニ在ル日本ノ全勢力トナシ儼然トシテ之ヲ追ヒ深ク海峽ノ內部ニ進入セリ此ノ間東郷大將ハ其ノ主力艦隊ヲ率ヰテ朝鮮沿岸ニ散布セル島嶼ノ間ニ隱レ靜ニ機ヲ俟チ居タリ蓋東郷大將ノ所在ハ全ク不明ニシテ日本人民ハ勿論日本艦隊ノ將校モ大抵之ヲ知ラサリキ日本ハ秘密ヲ守ルコト最嚴正ニシ成功ノ秘訣ハ軍機ノ漏洩ヲ防キ不意ノ攻擊ヲ敵ニ加フルニ在リト信セシカ故ニ世人カ東郷大將ノ所在ニ就キ一モ聞クコトヲ得サリシハ決シテ怪ムニ足ラサルナリ固ヨリ東郷大將ハ始終其ノ部下ノ司令官等ト無線電信ヲ以テ通信ヲ保續シ居タレトモ主戰艦隊外ノ將校ニ至リテハ其ノ所在ヲ知リシ者ハ稀ナリ而テ今ヤ東郷大將ノ數月間忍耐

克已シテ待構ヘタル地點ニ敵艦隊ノ進入スルヤ日本全艦隊ハ恰モ劇場ニ於テ柝聲ニ應シテ幕ヲ開キタル如ク突如トシテ出現シ茲ニ未曾有ノ大海戰ノ舞臺ハ開カレタリ露艦隊ノ對馬ト本陸間水道ニ全ク入リ了ルヤ東郷大將ハ誘致戰隊ヲ先鋒トシ戰艦四隻裝甲巡洋艦二隻ヲ率ヰ對馬ノ北端ヲ回リテ之ヲ遮ヘ上村中將ハ裝甲巡洋艦六隻ヲ率ヰテ之ニ續キ一試戰ノ後此ノ十二隻ノ裝甲艦ハ斜ニ敵ノ先頭ヲ通過シ以テ露艦ノ兩先頭艦ニ砲火ヲ集中セリ是ニ於テ露艦隊ノ陣列漸ク亂レ戰艦「オスラービヤ」火災ヲ起スニ至リ上村中將ハ馳セテ其ノ後ヲ斷チ三隻ノ輕快巡洋艦ハ其ノ側面ヨリ之ヲ悩マシ特ニ運送船ヲ攻擊セリ露艦隊ハ斯ノ如ク充分東郷大將ノ大膽ナル術中ニ陷リ其ノ包圍スル所トナレリ思フニ先ツ敵ノ士氣ヲ挫キ然ル後ニ之ヲ破壞スルハ日本戰術ノ大主眼ナリシナラシ日本ハ敵ヲ全滅セント計リ「露人ニハ運用ノ巧妙ヲ以テ勝テ」ト云ヘルネルソンノ戰訓ヲ採用セリ

斯ノ如クニシテ開始セラレタル日本海々戰ニ於テ東郷大將ハ果シテ能ク捷利ヲ得ヘキカ此ノ海戰以前ニ於テ多數海軍批評家ノ豫想スル所ニ據レハ數多ノ情況ヲ分析スレハ東郷大將ニ利スル所アレトモ正々堂々ノ戰ニ於テハ勝敗ハ寧ロ不明ナリト謂ハサルヘカラス勝利孰レニ歸スルトモ雙方ノ損害多大ナルヘキヲ以テ勝者ト雖モ極少數ノ軍艦ヲ餘スノミニシテ或ハ極東ノ制海力ハ勝者ノ手ニ歸スヘシト讒言スル者アランカナレトモ其ノ實然ラサルヘシト日露兩艦隊ノ武器ヲ比較スルニ左表ノ如ク殆ト同等ニシテ其ノ勢力匹儔セリ

砲熕ノ口徑	砲熕數 露國	砲熕數 日本
一二吋	二六	二三
一〇吋	七	三
九吋	二	[illegible]
八吋	一三	四
(一〇吋・九吋・八吋 計)	三二	四一
六吋	一四七、	一九六
水雷發射管ノ數(大約)	一三四、	二〇〇

右ノ表ニ依テ斷案ヲ下サハ雙方ノ攻擊力相匹敵セルヲ以テ兩者互ニ多大ノ損傷ヲ受ケ其ノ結果「キルケンニー」猫(編者曰ク「キルケンニー」猫トハ二猫穴中ニ相鬪ヒ兩者共ニ死シ唯後ニ尾ノミ殘セリト云フ昔物語ナリ)ニ終ランノミ然ルニ此ノ豫想ハ戰鬪開始後僅ニ三十七分ニシテ中ラサリシコト知ラレタリ當日日露兩艦隊ノ相對スルヤ露艦隊ハ約八海里ノ遠距離ニテ先ツ無効ノ砲火ヲ開キシカ日本艦隊ハ悠然トシテ應セス三海里四分ノ三ノ有効距離内ニ入ルニ及ヒテ始テ敵ノ兩先頭艦ニ猛烈精確ナル射擊ヲ加ヘタリ露國艦隊ハ斯ク不意ニ日本艦隊全勢力ノ衝ニ當リテ狼狽シ其ノ陣形愈亂レ上村中將ハ此ノ機ニ乘シ馳セテ其ノ退路ヲ斷チ勝敗既ニ此ニ決セリ東郷大將ノ公報中ニ「午後二時八分彼ヨリ砲火ヲ開始セリ」トアリ又「午後二時四十五分前後ニ於テ勝敗ハ決セリ」トアリ然ラハ勝敗ハ僅ニ三十七分ニシテ決シタルモノニシテ其ノ後ハ追擊ニ移レリ當日戰鬪開始ノ場所ハ沖ノ島附近ニシテ其ノ區域ハ幅七十海里長サ二百三十海里ニ亙レリ露艦ノ六吋砲々員ハ遠距離而モ敵彈雨注ノ下ニアリテハ何事ヲモ爲ス能ハサル固ヨリ其ノ所ナリト雖モ其ノ八吋砲十吋砲及ヒ十二吋砲ノ砲員ハ其ノ砲彈遠距離ニ達スルヲ以テ大ニ爲スアル筈ナルモ當日風浪荒ク船體ノ動搖劇シキ情況ノ下ニアリテハ之ヲ發射スルノ訓練ニ乏シキヨリシテ其ノ効果亦極テ薄弱ナリ遠戰ニ於テ操砲ノ巧拙ハ左右ノ旋回ニアラスシテ俯仰ニアリ荒天中射擊ノ實況ヲ目擊シタル者ニアラスンハ砲術練習ノ一大難業タルコトヲ了知スルヲ得ス日本艦隊ハ其ノ遠距離射擊ノ爲メニ敵ノ陣形漸ク亂ルヽヲ見テ從テ射距離ヲ短縮シテ益々接近シテ更ニ猛擊ヲ加ヘ上村中將ハ其ノ裝甲巡洋艦ノ高速力ヲ利用シ敵ノ退路ヲ扼シタリ黄昏ニ及ヒ日本驅逐隊及ヒ水雷艇隊ハ東郷大將ノ公報ニ據レハ東南北ノ三面ヨリ漸次ニ敵ニ迫リ數百ノ水雷ヲ以テ襲擊セリト察スルニ當夜ノ水雷襲擊ハ最猛烈ニシテ露艦隊中殘存セルモノ僅少ナリ東郷大將カ最初敵ノ面前ヲ横過スルコトヲ得タルモノハ其ノ軍艦ノ速力敵ニ優リタルカ故ナリ「デーリー、テレグラフ」新聞通信員ハ之ニ就テ左ノ如ク言ヘリ

日本艦隊ノ快速力ハ今ヤ絕大ノ効果ヲ奏シタリ各艦皆其ノ能力ヲ發揮シ東郷大將ハ全速力ヲ以テ其ノ先頭ニ在リ是實ニ短時間ノ行動ナレトモ亦最目覺シキモノナリキ日本艦隊ハ敵ヲ追越シタル頃ヲ計リテ回頭シ敵ノ前路ヲ横ニ遮リタ

リ此ノ時ヨリシテ露國艦隊ノ戰勢ハ既ニ絕望トナリ日本艦隊ハ陣形ヲ變更シテ新月形即チ殆ト半圓形ヲ畫キ北方ヨリ敵ヲ壓迫シ露艦隊ノ浦鹽ニ達スル進路ヲ杜塞スルニ至レリ

エンクウヰスト少將ノ公報中ニ左ノ一節アリ

敵ノ戰術ハ飽ク迄我カ艦隊ノ浦鹽ニ入ルヲ妨ケントスルニ在リ我カ艦隊ノ北走セントスルヤ彼ハ其ノ優等速力ヲ利用シテ直ニ我カ前路ヲ塞キ敵ノ戰艦ハ其ノ砲火ヲ我カ先頭艦ニ集注セリ

又同少將ハ露國艦隊カ日本艦隊ノ包圍ヲ破リテ逸脫スル能ハサル所以ヲ其ノ速力遲緩ナルニ歸セリ

嗚此ノ戰果ハ洵ニ驚クヘキモノニシテ當初大言壯語シテ編制セル露國ノ一大艦隊モ翌朝ニ至テ殆ト全滅シ唯巡洋艦四隻驅逐艦二隻ノ逃走シタルモノト二戰艦及ヒ二海防艦ノ降伏シテ敵港ニ引致セラレタルモノトカ其ノ影ヲ殘スノミ又雙方ノ死傷ヲ擧クレハ露國側ニ於テハ溺死者ノ數約一萬四千名捕虜三千餘名アリト云フ然ルニ日本側ニ於テハ死者百十三名傷者四百二十四名ヲ出セシノミ而テ其ノ艦隊中ノ損害ハ僅ニ水雷艇三隻ヲ失ヒシニ過キス此ノ輕微ノ犧牲ヲ以テ絕東海面ヨリ露國艦隊ヲ掃蕩スルノ偉業ヲ成シ遂ケタル東郷大將ノ技倆ハ鬼神ヲ欺クノ怪腕ト謂フヘシ

此ノ一戰ニ徵シ作戰材料ノ計數上實際勢力ハ戰鬪力ヲ算定スルノ標準ト爲スニ足ラサルモノナルコト知ラレタリ尙他ニ此ノ海戰ニ依テ學ヒ得ヘキモノアランカナレトモ今日ハ未タ之ヲ詳ニスルヲ得サルカ故ニ是迄知ラレタル事實ニ基キテ有益ノ斷案ヲ下サントス今之ヲ分チテ左ノ數項トス

一、老朽艦ノ戰鬪ニ參加スル弊害

ロヂエストウエンスキー中將カ多數ノ老朽艦ヲ其ノ麾下ニ交ヘタルハ果シテ幾何ノ效能アリシヤ近頃英國海軍本部ハ戰鬪力乏シキ老朽艦ヲ其ノ艦隊ヨリ排除セシカ世間之ニ反對シテ海軍將校トシテハ國難ニ當テ軍艦ヲ擇フニ遑アラス如何ナル軍艦ニテモ之ニ乘組ミ出戰スルヲ辭セサルヘシト論スル者少カラス其ノ言ヤ壯ナリト雖モ其ノ實ハ愚見ナルノミ抑實際戰鬪力ヲ有セサル軍艦ハ其ノ所屬艦隊ノ勢力ヲ增サスシテ却テ之カ煩累トナルノミ加之今日ノ汽航時代ニアリテハ艦隊ノ航續距離ハ各艦戰炭量ニ制限セラレ老朽艦ハ概シテ多額ノ石炭ヲ消費スルカ故ニ之ヲ伴ヘハ有力艦ニ供給スヘキ炭量ヲ減セサルヲ得スロヂエストウエンスキー中將ハ爰ニ見ル所ナク嚮ニ英國海軍本部ノ排除セルモノト相等シキ老朽艦ヲモ其ノ艦隊ニ加ヘタルハ寔ニ驚クノ外ナシ殊ニ彼カ安南近海ニ於テネボガトフノ率ヰ來レル老朽艦隊ヲ待受ケタルヲ以テ見レハ彼ハ尙此等ヲ以テ恃ムニ足レリトナシタルモノニシテ未タ英國海軍本部カ老朽艦ヲ排斥セル精神ヲ解セサリシト思ハルネボガトフ艦隊ハ二等戰艦「ニコライ」一世舊式裝甲巡洋艦「ウラヂーミル、モノマーフ」及ヒ海防艦「アドミラル、セニヤーウヰン」「アドミラル、ウシヤートコフ」「ゲネラル、アドミラル、アプラクシン」ノ五隻ナリシカ其ノ內「ニコライ」一世ヲ除ケハ總テ皆老朽ニシテ用ヲ爲スニ足ラス現ニ日本海ニ於テ善ク戰鬪スルコト能ハサリシノミナラス亦逃走スルコト能ハスシテ空シク其ノ中二隻ハ擊沈セラレ二隻ハ「ニコライ」一世ト俱ニ降服セリ吾人尙未タ日本海々戰ノ戰況ヲ詳ニスルヲ得スト雖モ思フニ此等ノ老朽艦ハ戰鬪力及ヒ運動力ノ乏シキヨリ啻ニ露國艦隊ノ助勢トナラサリシノミナラス却テ其ノ陣形紊亂軍氣沮喪ノ大原因タリシニ相違ナシ多分後日ニ至リテ此ノ邊ノ事實ハ明白トナラン嚮日英國海軍本部カ老朽艦ヲ排斥スルヤ造船家ノ泰斗サー、ウヰリアム、ホワイトノ如キハ之ニ反對シテ老朽艦尙用フヘシト唱ヘ又或匿名寄書家ハ「ブラックウッド、マガジン」ニ於テ左ノ如ク言ヘリ

露艦隊ノ任務ハ複雜ナルヲ以テ如何ナル軍艦ニテモ苟モ砲熕ヲ裝備スルモノナランニハ必ス之ヲ用フル場合アルヘシ然レトモ軍艦ノ效力ヲ知ラントスルニハ單ニ砲熕ヲ裝備スルト云フカ如キ茫漠タル事實ヲ以テ滿足セス更ニ進ンテ其ノ砲熕ノ效力如何其ノ汽機汽罐ノ效力如何裝甲アラハ其ノ效力如何ヲモ探究セサルヘカラス英國海軍本部ハ此等ノ點ニ就キ一々嚴密ノ調査ヲ遂ケタル後廢艦トシタルモノニシテ輕々ニ之ヲ決シタルニアラス而テ這回露艦隊ノ失敗ハ偶以テ英國海軍本部ノ老艦淘汰政策ノ時宜ニ適スルヲ證明シ來レリ抑海軍將卒ハ多額ノ費用ヲ以テ養成シタルモノニシテ國家ノ干城タルニ唯砲熕ヲ裝備シ居ルト云フノミニテ實際ノ效力ナキ軍艦ニ此ノ貴重ノ武夫ヲ配乘セシムルカ如キハ啻ニ愚策タルノミナラス不仁道ノ行爲ト謂ハサルヘカラス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

二、速力ノ大價値

日本艦隊ハ其ノ優等速力ニ依テ得タル利益ノ多大ナル果シテ幾許ソヤ世ニハ往々速力ニ重キヲ措カサル論者アリ海軍大將サー、サイプリアン、ブリッヂ及ヒ海軍少將サー、アール、エヌ、カスタンスノ如キハ即チ是ナリ殊ニブリッヂ大將ハ本年發刊ノ海軍年鑑ニ於テ巡洋艦戰鬪ノ本旨ニ據レハ勢力強大ナル巡洋艦ノ少數ヲ用フルヨリハ寧ロ勢力餘リ強大ナラサルモ其ノ隻數ノ多キヲ有利トスト論シ結局強大ナル裝甲巡洋艦ヲ排斥シ尙又優等速力ハ戰術上ノ一大要素タルヘキヤ否ヤニ就テハ戰術家ノ研究スル爰ニ年アリシカ今ヤ之ヲ否認スルニ至レリト言ヒ高速力ノ戰略上價値ニ至テハ幾ト之ヲ無視セリ

然レトモ日本海々戰ノ戰報ヲ讀メハブリッヂ大將ノ結論ヲ打破スルニ足ルヘキ實例ヲ看取スヘキナリ抑日本ハ其ノ海軍ヲ創設スルニ當リ大ニ速力ニ重キヲ置キ其ノ結果世界ニ冠タル快走戰艦及ヒ裝甲巡洋艦ヲ有スルニ至リタリ即チ日本ハ十八乃至十九節ノ戰艦六隻ト二十乃至二十三節ノ裝甲巡洋艦六隻トヲ建造シタリ當時列國ハブリッヂ大將ト同說ニシテ巡洋艦ニ於テハ勢力強大ナラサルモ其ノ隻數ノ多キヲ有利ナリト信シ居タルカ故ニ日本ノ如ク戰艦ニ類似スル裝甲巡洋艦ヲ設計セサリキ我カ英國海軍本部カ速力遲緩ナル非裝甲巡洋艦ヲ建造シツヽアリシ時ニ於テ日本ハ早ク既ニ裝甲ノ重厚ナル兵器ノ精銳ナル而モ速力ノ優等ナル大型巡洋艦ノ建造ニ著手セリ其ノ速力ハ今日英國海軍ニ於テ採用シツヽアルモノニ同シ是ヨリ世ハ英國海軍本部ヲ譏リテ時世ニ後レタリト言ヘリ日本海々戰ニ於テ日本ノ砲擊有効ニシテ其ノ豫定戰策ヲ遺憾ナク實行スルヲ得タルモノ職トシテ此ノ優等速力ト強大ナル攻擊力トニ由ラスンハアラス殊ニ日本軍艦カ自在ニ敵艦隊ヲ包圍シ以テ其ノ逃路ヲ蔽塞スルヲ得タルカ如キ實ニ其ノ優等速力ニ依ルニアラスシテ何ソヤ若シ夫露艦ヲシテ更ニ一層快迅ノ速力ヲ有セシメンカ勝敗未決ニシテ浦鹽ニ遁竄シタルモノ蓋多カリシナラン

三、魚雷ノ著大ナル効力

日本海々戰ニ於ル魚雷ノ効力如何ニ就テ言ハンニ英國海軍本部ハ近年ニ至リ益々魚雷ノ効力ヲ認メ攻擊防禦倶ニ重要缺クヘカラサル兵器ト為セリ是目下英國海軍政策ノ傾向ヲ察スル者ノ等シク認ムル所ナルヘシ然ルニブリッヂ大將ノ如キハ之ニ就キ本年發刊ノ海軍年鑑ニ於テ論シテ曰ク日露海戰ニ於テハ魚雷ノ効力微弱ニシテ殆ト何等ノ用ヲ為サヽリキ是最明白ナル事實ナリ(中略)要スルニ魚雷ハ少量ノ効力ヲ有スルニ過キスシテ唯稀ニ起ルヘキ特種ノ場合ニ限リ使用スヘキノミナリト大將ノ此ノ斷案ハ日本海々戰前ノ事實ニ徵スルモ既ニ誤レリ一九〇四年二月開戰ノ際日本カ旅順港外ノ夜襲ニ於テ露艦ヲ毀傷シタルハ砲熕ニ依ラスシテ魚雷ヲ利用シタルニ依レリ蓋東鄕大將ハ當時ノ事情上其ノ大艦ヲ危地ニ入レ冒險ヲ試ムルコトヲ愼マサルヘカラサルノ苦境ニ在リ故ニ開戰當時ハ專ラ巡洋艦掩護ノ下ニ水雷艇隊ヲ用ヒタリ而テ其ノ効力著大ニシテ露艦隊ハ之カ為メニ甚シキ損傷ヲ蒙リ其ノ士氣亦大ニ挫折セリ當時兩交戰國ノ公報ヲ綜合スルニ日本ノ魚雷ハ確ニ露ノ大艦三隻ニ重大ノ損害ヲ與ヘタリ幸ニシテ露艦隊ハ旅順要塞附近ニアリ海正面砲臺ノ掩護ニ依テ港內ニ逃避シ之ヲ修理復舊スルヲ得タレトモ若シ然ラサレハ全ク破壞セラレ了リシナラン旅順艦隊ノ現存中彼ヲシテ其ノ力ヲ發揮シ得サラシメタルハ日本水雷艇隊ノ砲熕掩護ノ下ニ働ケル力ニ依レリ其ノ襲擊ノ為メニ損害ヲ被リタル露艦ハ蘇格士技師ノ手ニテ修理セラレ其ノ後出動スルヲ得ルニ至リタルハ幸ニ其ノ避泊港カ戰場ニ近カリシニ依レリ然レトモ旅順港內蟄伏ノ露艦隊ハ遂ニ魚雷襲擊ヨリ起レル士氣ノ沮喪ヲ恢復シ得サリシナリ又日本海々戰ニ於テハ魚雷攻擊ノ効果一層顯著ニシテブリッヂ大將ノ意見ノ誤謬ナルコトヲ愈明亮ナラシメタリ當時日本艦隊ハ最初遠戰シテ露軍ヲ疲勞セシメ夜ニ入リテ背後ニ砲熕ノ援助アル水雷艇隊ヲ放チテ陣形既ニ亂レタル敵艦隊ヲ蜂ノ如ク四方ヨリ攻擊シ之カ全滅ノ實績ヲ完了セリ吾人ハ未タ當夜魚雷襲擊ノ結果ヲ明知セストモ東鄕大將ノ報告及ヒ其ノ他ノ報道ニ依テ推考スルニ少クトモ敵ノ戰艦及ヒ巡洋艦數隻ヲ轟沈シ得タルカ如シ要スルニ日本海々戰ハ我カ英國海軍カ魚雷ト砲熕トハ相俟テ働キ各其ノ特種ノ効用ヲ有スルモノトセル方針ノ妥當ナルヲ證明セリ若シ日本ニシテブリッヂ大將ノ意見ヲ採用シ魚雷ハ効力微少ニシテ唯稀ニ使用シ得ヘキ武器ナリト信シ居タランニハ彼豈百隻ニ垂ントスル多數ノ水雷艇ヲ造ランヤ又若シ是等ノ水雷艇ナカリセハ遭囘ノ如キ偉大ノ戰功ヲ收ムルコト能ハサリシナルヘシ

四、砲術練習ノ最大緊要

日本海々戰ニ於テ日本艦隊砲員ノ射撃精確ナリシハ明白ナリ抑軍艦ハ娯樂ノ具ニ非ス日本ハ固ヨリ艦船ノ清潔秩序ヲ勉ムレトモ其ノ體裁ヲ美麗ニスル方針ヲ取ラス專ラ戰鬪ノ實務ニ適スル如ク建造シ其ノ將校下士卒ハ擧テ始終熱心ニ砲術及ヒ水雷術ノ練習ヲ主眼トセリ既ニ事實上ニ顯レタル如ク日本ノ砲熕及ヒ水雷發射ニ巧妙ナリシハ英國砲術家ノ隨一タル海軍少將パーシー、スコット發明ノ機械ヲ使用シ完全ナル砲術練習方法ノ助ヲ得テ多年習熟セル美果ナリ日本ハ實ニ英國海軍本部ニ先タチテ照準稽古器、內筒砲及ヒ其ノ他ノ新式要具ヲ使用セリ這回日本海ニ於テ有史以來前例ナキ大捷利ヲ得タルモノ決シテ偶然ニアラサルナリ而テ日本軍艦カ依テ以テ斯カル奇績ヲ收メ得タル砲熕ハ英國製ニシテ其ノ制式ハ英國軍艦ニ裝備スルモノト異ル所ナシ此ノ事實ハ近頃英國軍艦ノ備砲ニ就テ起リタル世間不安ノ流說ヲ一掃スルモノニシテ英人ノ此ノ危惧ハ畢竟杞人ノ憂ニ過キサルナリ

五、艦員ノ能否

日本艦隊カ此ノ壯大ナル勝利ヲ得タルハ日露艦員ノ氣質ノ相違大ニ與リテ力アルモノヽ如シ具眼者此ノ戰報ヲ熟讀セハ當時露人ハ敵ト相見ルヤ否ヤ早ク既ニ士氣沮喪セルヲ看破シ得ヘシ由來露國軍人ハ肉薄ノ戰鬪ニ於テハ勇敢ナレトモ三四海里ノ距離ヨリ勁敵ノ猛撃ヲ受クルトキハ頓ニ士氣挫ケ活動力屈シ先制スルコト能ハサル懦夫トナルモノヽ如シ是露國艦隊カ日本海ニ於テ日本艦隊ニ多大ノ損傷ヲ加フル能ハサリシ所以ニアラサルカ露艦ノ乘員ハ其ノ練習ヲ缺キシニ相違ナシト雖モ決シテ勇氣ニ乏シカラス然ルニ其ノ勇氣ハ所謂野猪ノ勇ニシテ窮迫逃ルヽニ途ナキヨリ發スルモノニシテ思慮足ラサル所アルヲ奈何セン蓋往昔ノ海戰ニ於ルカ如ク兩軍互ニ軍艦ヲ接近シ艦員ハ互ニ甲板上ニ格鬪スル場合ニ於テハ彼等ノ勇氣ハ重要ナリト雖モ方今ノ海戰ニ於ル如ク遠距離ニ達スルノ武器ニヨリ數海里ヲ隔テヽ交戰スル場合ニ於テ猪勇ハ最早其ノ効力ナシト謂ハサルヘカラス近世ノ砲熕ヲ運用セント欲セハ慧敏ナル眼力、老練ナル手腕冷靜ナル頭腦ヲ以テ將卒協力一心同體ナルヲ必要トス單ニ勇氣ノミニテハ到底今日ノ精巧ナル砲熕ヲ操縱スルコト能ハサルナリ

若シ之ヲ使用スル將校若クハ兵員ニシテ倉皇狼狽セハ他ノ艦員ニ傳染シ制スヘカラサルニ至ルカ故ニ禍之ヨリ大ナルハナシ露艦如何ニ精良ナル砲熕ヲ裝備スルトスルモ又砲員如何ニ其ノ練習ヲ積ミタリトスルモ其ノ頭腦ニシテ冷靜ナラサルトキハ練習何ノ用ヲカナサンヤ現ニ露國艦隊ノ砲熕ハ日本艦隊ノ夫ニ比シ決シテ劣ル所アラサリシノミナラス其ノ內少クモ六隻ハ日本ノ砲熕ヨリモ一層新式ノ砲熕ヲ裝備セリ故ニ日露兩艦隊ノ相異ル點ハ砲熕及ヒ魚雷ノ多少及ヒ其ノ他數字ヲ以テ表シ得ヘキ事項ニアラスシテ實ニ人員ノ優劣ニ在リ既ニ記セル如ク日本艦隊ハ天候ノ如何ヲ問ハス晝夜ヲ分タス射擊ノ訓練ヲ積メル者ヲ以テ乘員ト爲セルニ反シテ露國艦隊ノ人員ハ海事ノ素養ナキ內地ノ農夫ヲ驅リ集メテ掌砲科及ヒ掌水雷科ニ充實セルモノ多キカ故ニ未熟不鍛鍊ナリ是兩國艦隊優劣ノ岐ルヽ一大主因ニシテ獨裁專制ノ大露國皇帝モ之ヲ奈何トモスルコト能ハス其ノ補弼者モ之カ救濟ノ策ヲ出スコト能ハス共ニ失敗ニ歸シタリ

六、戰後日本海軍ノ大膨脹

日本海軍ハ開戰前ニハ世界七海軍國ノ末班ニ位セシカ平和克復後ニ至レハ其ノ勢力ハ頓ニ膨脹シテ開戰前ニ二倍シ優ニ極東ニ覇ヲ稱スルニ足ルヘシ開戰以來十五個月間ニ於テ日本ハ戰艦二隻巡洋艦二隻水雷艇數隻及ヒ商船若干ヲ喪ヒシノミニテ其ノ得タル隻數ハ日本海々戰ニ於ル捕獲艦ニ加フルニ目下引揚中ノ沈沒敵艦ヲ以テセハ戰艦六隻海防艦二隻巡洋艦三隻驅逐艦數隻ナリ其ノ內「レトウヰザン」及ヒ「ポベーダ」ハ非常ニ破損シ居ルヲ以テ引揚ケノ見込ナシトスルモ其ノ餘ノ戰艦四隻海防艦二隻及ヒ巡洋艦三隻ハ修理ノ上再使用シ得ルノ望充分ナリ尚其ノ他ニ露艦ノ中立港ニ在泊或ハ逃入シテ武裝ヲ解除セルモノ戰艦一隻巡洋艦五隻砲艦一隻驅逐艦三隻アリ此等ハ通例ナレハ戰後露國ニ還附セラルヘシト雖モ元來此等ノ露艦ハ中立港ノ庇護ニ依テ滅亡ヲ免レタルモノナレハ媾和談判ノ際日本ヨリ其ノ引渡ヲ要求スルノ理由アリ依テ或ハ此等軍艦モ亦日本艦隊ニ編入セラルヽニ至ランモ知ルヘカラス右ノ外ニ日本ハ目下內外造船所ニ於テ戰艦三隻裝甲巡洋艦二隻製造中ナレハ其ノ竣工ノ曉ハ其ノ勢力ハ益〻加リ戰後日露海軍ヲ對照セハ露國ハ實際一艦隊ヲモ有セサルニ日本ハ沈沒艦初瀨、八島ヲ除キ中立港抑留ノ露艦ト目下建造中ノ軍艦トヲ合シテ開戰前ヨリモ戰艦五隻、海防艦二

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

隻、裝甲巡洋艦三隻（「バヤーン」ヲ合ム）防護巡洋艦七隻砲艦一隻驅逐艦十一隻ヲ增加スルコト、ナルヘシ噫此ノ如キ戰果ハ實ニ史乘ニ於テ未タ曾テ見サル所ナリ

八一　日本海々戰ニ於ル東鄕大將ノ戰術（フレマントル大將）

（一九〇五年八月十日發刊「ネーヴァル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）

前週刊行ノ貴誌ハ日本海々戰ニ關スル東鄕大將ノ報告ヲ載セ且大將カ其ノ艦隊ヲ分チタルヤ否ヤノ問題ヲ揭ケタルカ余（フレマントル）ハ大將ハ裝甲艦六隻ヨリ成ル主戰艦隊ヲ率ヰテ對馬ノ北ヲ回リ裝甲巡洋艦六隻ノ上村艦隊ハ其ノ南ヲ回リテ戰塲ニ出テタリト斷定ス此ノ斷定或ハ誤レルヤモ知ルヘカラスト雖モ然モ大將ノ報告中之ト牴觸スル廉アルヲ認メサルナリ貴誌ニ揭ケラレタル大將報告ノ一節ヲ見ルニ

主戰艦隊ハ少時南西ニ向首シ敵ノ航路ヲ直角ニ切ルト見セシカ午後二時五分急ニ東ニ折レテ斜ニ敵ノ先頭ヲ壓迫シ裝甲巡洋艦隊之ニ航シテ相合シテ單縱陣ヲ制レリ

トアリ即チ余ハ兩艦隊相呼應シテ、否、時トシテハ相合シテ戰ヒタルヲ疑ハスト雖モ其ノ編成ハ多少獨立シタル別々ノ戰隊ナリシヲ信シ貴誌ノ「東鄕大將ハ全艦隊ヲ簡單有効ナル單縱陣ニ制リタリ」トノ說ニ左袒スル能ハス

又同報告ノ前部ニハ主戰艦隊、裝甲巡洋艦隊、瓜生戰隊及ヒ云々トアリ後ノ部分ニハ

然レトモ敵ハ俄ニ北方ニ向首シ我カ後尾ヲ回リテ北走セントスルカ如クナリシヲ以テ主戰隊ハ急ニ左方ニ回轉シ日進ヲ嚮導トシテ北西ニ向ヒ裝甲巡洋艦隊亦其ノ通跡ヲ過キタル後正面ヲ變シテ之ニ續キ再敵ヲ南方ニ壓シテ之ヲ猛射セリ

トアリ兩艦隊ハ別々ニ正面ヲ變ヘタルモノニシテ合同單縱陣ニ非サリシヤ明ナリ

余ノ主張スル戰術上ノ論點ハ東鄕大將カ其ノ主力ヲ集中スルノ必要アリシ塲合ニモ合同單縱陣ヲ採ラサリシト云フニ在ラス唯彼ハネルソント等シク融通ニ便ナラサル陣形ヲ嫌ヒ全艦隊ヲ數多ノ獨立戰隊ニ分チテ次席ノ司令長官其ノ他ニ自由行動ヲ許シタリト云フニ在リ

余カ特ニ此ノ點ニ向テ注意ヲ喚起スル所以ノモノハ世ノ戰術家動モスレハ單縱陣ノ單純ナルニ心醉シテ如何ナル塲合ニモ之ヲ適用セント努メ爲メニ此ノ有利ナル陣形ヲシテ指揮官各自ノ意圖ヲ掣肘シ又毫モ融通ニ便ナラサルモノタラシムルノ弊アルヲ恐レテナリ

八二　日本海々戰ニ於ル無線電信ノ効用及ヒ速力ノ價値

（一九〇五年八月二十五日發刊「エンジニアリング」所載）

八月二十二日發刊「タイムス」新聞ニ揭載セル同新聞東京通信員ノ日本海々戰ニ關スル記事ハ甚タ詳細ニシテ吾人ノ參考トナルヘキモノ少カラス依テ今之ヲ材料トシテ同海戰ノ概況ヲ敍セント欲ス同海戰ニ就テ最注意スヘキ事項ハ大ニ無線電信ヲ利用シタルコト是ナリ

當時婆羅的艦隊ノ浦鹽ニ達スル航路三アリキ其ノ內最近距離ナルハ朝鮮海峽ヲ經由スルノ航路ニシテ他ノ二航路ハ宗谷及ヒ津輕ノ兩海峽ヲ經由スルモノ即チ是ナリ而テ日本ハ敵ニ艦隊戰鬪ヲ强ユルヲ最良ノ戰略ト信シタルヲ以テ婆羅的艦隊ノ進路如何ヲ發見セントシ百方苦心セリ然ルニロヂエストウエンスキー中將ハ可成戰鬪ヲ避ケテ浦鹽ニ竄入シ同地ヲ根據トシテ艦隊ヲ改裝シ然ル後ニ出テヽ戰鬪ヲ交ヘント欲セシナリ是露國司令長官ニ取リテハ固ヨリ當然ノ戰略ト謂フヘシ

ロヂエストウエンスキー中將ノ意當初ヨリ朝鮮海峽ヲ通過スルニ在リシハ既ニ何等ノ疑ナシ然ルニ彼ハ敵ヲ欺カント欲シテ日本ニ向ヒツヽアリシ諾威汽船某號ニ言ヲ託シテ露國艦隊ハ朝鮮海峽ニ向ハントスト公言セシメタリ蓋彼ハ斯スレハ日本カ必ス露艦隊ノ眞意ハ却テ宗谷、津輕兩海峽ノ孰レカヲ通過スルニ在リト解スルナラント信セシナリ然ルニ日本

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ハ又機略ヲ用ヒ日本艦隊ハ既ニ其ノ勢力ヲ二分シ優勢ナル部分ヲ津輕、宗谷ノ方面ニ派遣セリトノ流言ヲ放チ吾人今日ニ於テハ既ニ其ノ事實無根ナルヲ知レトモ後文ニ明ナル如ク露國司令長官ハ此ノ報ニ依リ全然自カラ得タリト爲セリ然ルニ東郷大將ハ敵ノ詭計ニ欺カレス其ノ艦隊ヲ朝鮮ノ南鎭海灣ニ置キテ悠々其ノ來航ヲ待居タリ當初露國艦隊ノ進路未タ明白ナラサリシ頃ニ於テハ東郷大將ノ苦心ハ實ニ非常ナリシナルヘシ而モ能ク其ノ間ノ痛苦ニ堪ヘ遂ニ其ノ策ヲ誤ラサリシハ大器量アルノ士ニアラスンハ能ハサルナリ

露國司令長官ハ眞ニ朝鮮海峽ニ入ラントスルノ意ヲ示サヽラント欲シ故ラニ二日間其ノ航路ヲ遲延セリ然レトモ悲哉彼ハ其ノ特務船舶ヲ呉淞ニ現レシメ却テ已ノ眞意ヲ暴露セリ日本ハ露國船舶ノ呉淞沖ニ現レシヲ聞キ露國艦隊ノ朝鮮海峽ニ入ラントスルヲ看破セリ何トナレハ彼カ給炭船又ハ其ノ他ノ特設船舶ヲ棄テヽ津輕若クハ宗谷ニ向フヘシト想像スルコト能ハサレハナリ露國司令長官カ其ノ率ヰ來レル特設船舶ヲ太平洋ニ放タスシテ之ヲ支那沿岸ニ殘シタルハ確ニ失策ナリト雖モ彼ノ命令ハ果シテ此等特設船舶ヲ支那沿岸ニ送ルニ在リシヤ否ヤヲ精査セスシテ之ヲ咎ムルハ少シク酷ナルニ似タリ兎ニ角此等特設船舶ハ五月二十五日ヲ以テ呉淞沖ニ現レ艦隊ハ同日朝鮮海峽ニ達スヘキ筈ナリシヲ故ラニ遲延シテ二十七日拂曉漸ク同方面ニ現レタリ而テ其ノ際日本ノ哨艦ヨリ無線電信ヲ以テ敵艦隊ノ來航ヲ警報シタルヲ以テ東郷大將ハ疾ク之ヲ知ルコトヲ得タリ

朝鮮海峽ノ中央ニ對馬アリ海峽ヲ東水道西水道ノ二部ニ分ツ而テ露國艦隊ハ東水道ヲ通過セントシタリシナリ然ルニ日本艦隊ハ朝鮮ノ南岸ニ位スル鎭海灣ニ在リシヲ以テ西水道ヲ横過シテ露國艦隊ト遭遇セリ東郷大將ハ當日正午頃ニ至リテ漸ク來航セル艦隊ハ婆羅的艦隊ノ全勢力ナルコトヲ確ムルヲ得タリト雖モ其ノ戰策ハ既ニ確然一定シタルヲ以テ之カ爲メニ何等ノ支障ヲ生シタルコトナシ當時ノ戰鬪ヲ見ルニ東郷大將ノ豫定戰策ハ遺憾ナク實行セラレ敵艦隊ヲ殲滅シテ餘ス所ナシ是實ニ非常ノ大成功ニシテ東郷大將ノ機略才幹世界ニ卓越セルヲ證スルモノニアラスヤ

東水道ニ沖ノ島アリ鎭海灣ノ日本艦隊根據地ト相距ル約一五〇海里トス東郷大將ハ此ノ長距離ヲ馳セテ同島附近ニ達シ敵ト會シタル行動ハ敵ノ來航ヲ知ルコト迅速ナリシニアラスンハ容易ニ行ハルヘカラサルモノナリ而モ其ノ機敏ナル豫メ哨艦ヲ要所ニ放チ無線電信ニテ逐一敵ノ行動ヲ通信セシメタルヲ以テ遂ニ何等ノ遺算ナク充分ニ其ノ志ヲ行フヲ得タリ日本人ノ行動カ恒ニ機敏ニシテ遺算ナキハ寔ニ感服スヘキナリ當時海上多少ノ濛氣アリタレトモ日本人ノ戰策ニ何等ノ影響ヲ及サヽリシカ如シ

ロヂエストウエンスキー中將ノ任務ハ東郷大將ノ任務ヨリモ更ニ困難ナリシト謂フヘシ彼ハ自カラ交戰ノ場所ヲ選定シ又其ノ場所ニ適中スヘキ諸般ノ準備ヲ爲スノ自由ヲ有セサリシナリ之ニ反シテ東郷大將ハ豫メ哨艦ヲ諸方ニ出シ無線電信ヲ以テ敵情ヲ知ルコトヲ得タリ是日本艦隊ノ有セシ利益ニシテ此ノ一事既ニ戰鬪ノ結果ヲ豫決セルモノト謂フモ妨ナシ要スルニ是無線電信ノ應用ヨリ生スル海戰ノ新狀態ナリ然リト雖モ吾人ハ之カ爲メニ露國司令長官ノ行動ヲ寛假スルコト能ハサルナリ彼ハ朝鮮海峽ニ於テ日本人ノ攻擊ヲ受クヘキコトヲ豫想シ其ノ準備ヲ爲スヘキ筈ニアラスヤ日本哨艦カ無線電信ヲ以テ彼ノ行動ヲ其ノ本隊ニ通信シ居ルコトハ露國司令長官既ニ自已ノ無線電信機ニ感動ヲ生スルヲ以テ之ヲ知レリ加之彼ハ現ニ日本ノ哨艦ヲ目擊シタリシナリ然ルニ彼ハ偵察艦ヲ放チテ敵情ヲ探知スルコトヲ謀ラス若シ敵ニ會スルコトアラハ必ス右舷側ヨリ攻擊ヲ受クルニ相違ナシト臆斷シテ進航セリ抑戰時ニ於テハ敵ハ百方我ヲ欺カント勉ムルモノナルヲ以テ何事ニテモ精確ナル探査ヲ爲サスシテ叨ニ臆斷スルハ非常ニ危險ナリ蓋露國司令長官ハ日本艦隊ノ勢力二分セラレタリトノ流言ニ欺カレ且實際眼前ニ老朽艦鎭遠及ヒ防護巡洋艦等ヨリ成ル微力ナル小艦隊ヲ見タルヲ以テ弱敵與シ易シト爲シタリ

ロヂエストウエンスキー中將ハ朝鮮海峽ニ於ル日本艦隊ノ全勢力ハ已カ右舷側ニ在リト妄信シ二列縱陣ヲ作リテ進航セリ今其ノ編制ヲ見ルニ右翼列ニハ最强ノ戰艦四隻(則チ「クニヤージ、スウオーロフ」、「アレクサンドル」三世、「ボロヂノ」、「アリヨール」)ヲ備ヘ一擧ニシテ右舷側ヨリ現ル、日本ノ小艦隊ヲ敗ルノ威ヲ示シ左翼列ニハ戰艦四隻裝甲巡洋艦三隻海防艦三隻及ヒ防護巡洋艦又ハ其ノ他ノ艦船若干ヲ置キタリ若シ露國司令長官ノ想像正確ニシテ日本ノ勢力ハ當時彼ノ顧

前ニ現レタル小艦隊ニ過キス又其ノ勢力ハ彼ノ右舷側ニ在リシモノヽミニ止ラシメハ此ノ陣形ハ確ニ有力ナリシニ相違ナシト雖モ悲哉彼ノ想像ハ全ク誤謬ナリシヲ以テ意外ノ失敗ヲ招クニ至リシナリ

東郷大將ハ充分ニ敵ノ妄信ヲ利用シ其ノ主力艦隊ヲ率ヰテ西方ヨリ躍出シ敵ノ左舷ニ向テ攻撃ヲ加ヘ其ノ左翼列ニ在ル脆弱ナル艦船ト相對スルノ利ヲ獲タリ當時東郷大將ハ旗艦三笠ヲ先頭トシ敷島、富士、朝日、春日、日進ノ順序ニテ單縱陣ヲ作リテ出テ來リ上村中將ノ率ヰル裝甲巡洋艦隊（出雲、磐手、八雲、吾妻、淺間、常磐ノ六隻ヨリ成ル）之ニ續イテ現レタリ吾人カ往日既ニ本誌上ニ論シ置キタルカ如ク日露兩艦隊ノ勢力ハ殆ト相匹儔シ格別優劣ナク重砲ノ數ニ於テハ露國艦隊却テ日本艦隊ニ優リシヲ以テ露人若シ奮勵一番セハ必スシモ捷利ヲ得ルノ望ナキニアラサリシナリ日本艦隊ノ主力ハ敵艦隊ノ主力ヲ攻撃シ日本ノ防護巡洋艦ハ南方ニ轉シテ敵艦隊ノ後尾ニアリシ防護巡洋艦ヲ攻撃セリ當時日本艦隊ノ主力ハ殆ト直角ニ敵艦隊ノ左舷側ニ現出シ相接近スルニ及ヒテ聊カ其ノ針路ヲ轉シ其ノ高速力ヲ利用シテ敵艦隊ノ前面ヲ通過シ其ノ機會ニ乘シテ敵ノ先頭艦二隻ニ砲火ヲ集注セリ日本艦隊カ此ノ如キ自由ノ運動ヲ爲スコトヲ得タルハ其ノ速力三節敵ニ優リタルニ因ル而テ露國艦隊ハ日本艦隊ト並航針路ヲ取リテ此ノ不利ノ位置ヲ避ケントシタレトモ其ノ速力遲緩ナルカ爲メ其ノ目的ヲ果ス能ハサリキ要スルニ露國艦隊ハ其ノ陣列中ニ交レル速力遲緩ナル艦船ノ爲メニ運動ノ自由ヲ阻礙セラレシナリ是實ニ同艦種ヲ以テ艦隊ヲ編制スヘキコトヲ教示スル好事例ニアラスヤ

露人ハ九千乃至一萬米突ニ於テ早ク既ニ砲火ヲ開キシカ日本人ハ悠然トシテ應セス六千米突ノ射距離ニ入リテ始テ砲火ヲ開キタリ露國艦隊ハ既記ノ如ク武器ニ於テハ日本艦隊ニ優リタレトモ悲哉其ノ砲員伎倆庸劣ナリシヲ以テ遂ニ其ノ武器ヲ利用スルコト能ハサリシナリ「タイムス」通信員ハ曰ク「露國艦隊ノ砲員ハ日本艦隊ノ砲員ニ比シテ其ノ伎倆遙ニ劣等ナルコト當日戰鬪ノ當初ヨリ既ニ明白トナレリ」ト此ノ如キ戰勢ナリシヲ以テ日本艦隊ハ疾ク敵ノ兩先頭艦「オスラービヤ」及ヒ「クニヤージ、スウオーロフ」ニ重大ノ損害ヲ與ヘ戰線ヲ去ルノ已ムナキニ至ラシメタリ

其ノ後ノ戰況ハ別ニ著シキ現象ナク露國艦隊ハ不利ノ位置ヲ避ケント百方勉メタルニ拘ラス日本艦隊ハ當ニ其ノ速力ヲ利用シテ同一ノ運動ヲ反覆シ次第ニ敵ヲ損傷シテ遂ニ勝利ヲ制スルニ至リタリ之ヲ要スルニ日露兩艦隊ノ戰鬪ハ同艦種編制ノ艦隊ト編制複雜而モ速力均一ナラサル艦隊トノ優劣ヲ實地ニ證明シタルモノナリ近頃知名ノ海軍戰術論者中速力ヲ非認シ戰線ニ立ツ軍艦ニハ格別高速力ヲ要セスト論スルモノ少カラサレトモ日本海々戰ノ事實ヲ知ラハ彼等トテモ幾分カ其ノ妄ヲ悟ラサルヲ得サルヘシ吾人ハ去五月二十六日（即チ日本海々戰前一日）ノ誌上ニ軍艦ノ速力ト題スル一文ヲ掲ケ速力ノ價値ヲ論シタリ蓋吾人ノ意速力ハ攻撃防禦孰レニモ一大要素タルヲ明ニスルニアリシナリ然ルニ意外ニモ此ノ論文ヲ掲ケシ後僅ニ一日ニシテ日本海々戰アリ吾人ノ意見ノ確實ナルヲ實地ニ證明シタリ故ニ我カ英國海軍當局者カ速力ノ重要ナルヲ認識シ高速力ヲ有スル戰艦及ヒ裝甲巡洋艦ヲ建造セントスルハ吾人ノ甚タ滿足スル所ナリ

其ノ他「タイムス」通信員ノ寄稿中有益ナル部分少カラサレトモ今悉ク之ヲ記スルノ餘白ナシ他日或ハ再之ニ言及スルノ機アラン

八三　日本海ノ海戰（在東京「タイムス」通信員）

（一九〇五年八月二十二日發刊「タイムス」所載）

（一）婆羅的艦隊ノ東航

日本ハ婆羅的艦隊カ佛領安南沿岸ニ來ルマテハ決シテ之ヲ重大視セサリシト言フモ不可ナカルヘシ同艦隊ノ安南港灣ニ入ルノ前ニハ殆ト打勝ツコト能ハサル幾多ノ障碍アリテ其ノ東航ヲ阻遏スルカ如ク見ヘタリ何トナレハ若シ同艦隊ニシテマダガスカルヲ發シ長途ノ航海ヲ經テ麻剌加海峽ヲ通過セシ後某友國ノ港灣ニ入リテ糧食及ヒ石炭ヲ補充シ又諸艦船ヲ修理シ得サリシトセハ又夫ノ三週間ヲ經テ到著セル第三艦隊ト會合スヘキ安全ノ地點ヲ定ムルコト能ハサリシトセハ又若シ夫ノ濃霧暴風多キ支那海ノ外ニハ糧食石炭ヲ積込ムヘキ地點ナシトセハ其ノ計畫ハ眞ニ狂氣ノ沙汰ニシテ初ヨリ業ニ已ニ失敗ノ運命ヲ有シタルヤ疑ナキナリ然レトモロヂエストウエンスキー中將カ敢テ此ノ狂氣的計畫ヲ行ヒタル前後ノ事情ヲ些細ニ討査セハ中將ハマダガスカルヲ發スルノ當時佛國港灣ニ於テ第三艦隊ト會合スルニ必要ナル援助ヲ得

ヘシト信シ居タルコト明ナリ然レトモ世人ハ佛蘭西カ局外中立ヲ嚴守スルノ堅固ナルヲ信セシヲ以テ露國艦隊ハ日本艦隊ト接觸スルノ前ニ必ス暴風怒濤ノ爲メニ破摧沈没ノ不幸ヲ招クヘク若シ同艦隊ニシテ此ノ不幸ヲ免レント欲セハ海牙平和會議條約及ヒ北京條約ヲ破リ支那或ハ蘭領印度ノ港灣ヲ奪略シテ之ヲ其ノ根據地トスルヨリ他ニ手段アラサルヘシト思惟セサルモノハアラサリキ之ヲ要スルニ其ノ當初ニ於テ爾ク航程ニ多日ヲ費シ爾ク其ノ序幕ノ困難ニタモ打勝ツコト能ハス爾ク明ニ其ノ絶東到達ノ好機會ヲ逸シ到底局外中立權ヲ蔑視スルカ如キ亂暴ノ行爲ヲ敢テセサレハ最後ノ目的ヲ達スルノ望ナキ婆羅的艦隊ノ此ノ遠航ハ終ニ敵ニ對シテ恐ルヘキ威嚇トナラスシテ却テ世ノ嘲罵ヲ招キタリ

（二）日本人ノ確信

然レトモ日本人ハロジエストウエンスキー中將カ安南港灣ヲ利用スルヲ見ルヤ其ノ之ニ對スル意氣ハ遽ニ一變シタリ即チ其ノ是迄輕視シ居タルロジエストウエンスキー中將ノ戰鬪力カ變シテ實力トナリテ自國ノ門戶マテ迫リ來リタルハ畢竟局外中立ヲ嚴守スルナラシト豫想セラレタル一强國ノ援助ニ依レルモノナルコトヲ知リタリ露國艦隊ノ此ノ發展ハ頗ル日本ノ感情ヲ傷ツケタリト雖モ其ノ自信ノ毫モ之カ爲メニ動カサレサリシハ今茲ニ特記スヘキ一事實ナリトス日本ハ某强國カ露國艦隊ニ援助ヲ與ヘタルヲ見テ大ニ憤激シ人心ノ頗ル動搖セシヤヲ疑ヒシ者スラアリタレトモ日本國民ノ脈搏トモ謂ツヘキ株式ハ全國一般ニ動搖セス日本ハ縱ヒ露國カ局外中立ヲ侵害シテ如何ナル便宜ヲ得ルモ我カ海軍能ク之ヲ打破スヘシト確信シテ毫モ不安ノ念ヲ抱カサリキ實ニ制海權未タ孰レノ手ニモ歸セス從テ其ノ得喪如何ニ由テ幾多重大ナル結果ヲ生シ來ルヤモ知ルヘカラサルノ當時ニ於テ日本國民ノ自信ノ斯ク確乎タルハ實ニ不思議ナリ若シ夫此ノ時ロジエストウエンスキー中將ニシテ日本艦隊ヲ殄滅スルカ若クハ縱ヒ殄滅セサルマテモ其ノ一部ヲ挫摧セハ滿洲ニ在ル五十萬ノ日本軍ハ忽チ本國トノ交通ヲ失ヒ其ノ災害ノ及フ所眞ニ測ルヘカラサルモノアリ或ハ日露全ク其ノ位置ヲ變シ日本ハ異域ニ駐屯スル全軍ヲ苦境ヨリ脱セシメンカ爲メ敵ノ命スル條件ニ從ヒ戰ヲ止ムルヨリ他ニ手段アラサルニ至ツシナラン ロジエストウエンスキー中將ハ何故ニ早ク此ノ擧ニ出テサリシカ是實ニ解シ難キノ一問題ナリ蓋一九〇四年中ハ旅順港ニハ有力ノ戰艦六隻一等裝甲巡洋艦一隻民製ノ防護巡洋艦四隻及ヒ小艦數隻アリシモ八月十日日本艦隊ノ封鎖ヲ破リテ浦鹽斯德ニ赴カント試ミ其ノ防護巡洋艦ノ一隻ハ破壞セラレ戰艦一隻及ヒ防護巡洋艦二隻ハ中立港ニ抑留セラレテ武裝ヲ解除シ自餘ノ諸艦モ亦廢艦トナリテ港內ニ引返シ斯ノ如クシテ遂ニ旅順ニハ直接戰鬪ノ役務ニ堪フヘキ現存艦隊ナキニ至リタリ後世ノ史家ハ露國ノ此ノ擧ヲ以テ本役中ノ一大失策トシテ記載スルナラン何トナレハ當時斯ノ如キ擧ヲ企ツルノ必要決シテアラサレハナリ若シ是等ノ軍艦ニシテ少クモ今三ケ月間港內ニ留リ居ラシカ其ノ間東鄕艦隊ハ港外ニ在リテ徹夜不眠ノ封鎖ノ爲メニ疲勞スルヤ疑ナク而テ婆羅的艦隊ニシテ此ノ三ケ月間日夜兼行セハ縱ヒ其ノ全艦隊ハ到著シ能ハストスルモ其ノ過半以上ハ優ニ支那海ニ達スルヲ得ルニ相違ナカレハナリ

露國ノ謀ニシテ此ニ出テンカロジエストウエンスキー中將カ少クモ六隻ノ戰鬪艦ト六隻ノ裝甲巡洋艦トヲ以テ西ヨリ東鄕艦隊ヲ攻擊シ得ルト同時ニウヰトゲフト少將モ亦六隻ノ戰鬪艦ト一隻ノ裝甲巡洋艦トヲ以テ旅順港ヲ出テハ東鄕艦隊ヲ挾擊シ得ハ如何當時東鄕大將ハ戰鬪艦四隻裝甲巡洋艦八隻ヨリ多カラサル艦隊ヲ以テ敵ノ戰鬪艦十二隻及ヒ裝甲巡洋艦六隻ニ當ラサルヲ得サルカ故ニ日本海軍ノ位置殆ト絶望ニ陷リタルナラン啻ニ是ノミニアラス若シ旅順口ノ軍艦ニシテ今少シク港內ニ留リテ婆羅的艦隊ノ到著ヲ待タンニハ浦鹽斯德ノ巡洋艦モ必ス持重シテ其ノ機會ヲ待ツヘク安ソ猪突日本海ニ出テ來リテ「リユーリツク」ヲ失フコトアランヤ然ラス「リユーリツク」ノ沈没モ畢竟八月十日ニ於ル旅順艦隊ノ大擧出動ニ附隨スル出來事ト見做スモ敢テ不可ナキナリ若シ旅順浦鹽兩艦隊ニシテ健在セハ東鄕大將ハ北ヨリ東ヨリ又西ヨリ同時ニ脅威セラルヽヲ以テ少クモ其ノ指揮下ニアル裝甲巡洋艦三隻ヲ分遣シテ浦鹽艦隊ノ動靜ヲ偵察セシメ僅ニ四隻ノ戰鬪艦ト五隻ノ裝甲巡洋艦トヲ以テ一面婆羅的艦隊ニ抗シ一面旅順艦隊ニ當ラサルヘカラス如何ニ日本海軍ノ砲手精練勇敢ナルモ斯ノ如キ艦數ノ差ヲ償フコト能ハサルナリ殊ニ日本軍艦入渠修理ノ暇ヲ得サリシハ日本ノ最不利トスル所ナリキ然ルニ露國ハ遂ニ此ノ千歳一遇ノ好機會ヲ逸シタリ嗚呼古來戰機ヲ誤リタル國多シト雖モ未タ曾テ露國カ今回ノ如ク其ノ戰鬪力ヲ分離四散シタルモノアラス浦鹽及ヒ旅順ノ兩艦隊スラ一致共力スルコト能ハス旅順艦隊ハ八月十日ニ脱出

ヲ試ミテ彼ノ如キ失敗ニ陷リタリ若シ旅順艦隊ニシテ日本ノ封鎖線ヲ穿破シテ遁入ノ目的ヲ達シタランニハ浦鹽巡洋艦隊ハ日本海ニ出動スルノ必要アラス若シ又旅順艦隊ニシテ撃退セラレタランニハ浦鹽巡洋艦隊ノ出動ハ既ニ時機ニ晩レ唯徒ラニ救フヘカラサルノ災厄ニ陷ルニ過キサルナリ浦鹽巡洋艦隊ハ確ニ東鄕艦隊ノ一部ヲ割キテ己ニ當ラシメタルニモセヨ尙且東鄕大將ハ斯ク二分セル艦隊ヲ以テ一面ハ旅順艦隊ヲ撃退シテ死地ニ陷ラシメ一面ハ浦鹽巡洋艦ヲ迎撃破摧シテ殆ト廢艦タラシメ唯婆羅的艦隊ヲ殘スノミトナレルヲ以テ益〻日本國民ヲシテ自國海軍ヲ信頼スルノ念ヲ厚ウセシメタリ若シ露國ニシテ當時少シク思慮ト謀計トヲ用ヒンカ浦鹽、旅順、婆羅的ノ三艦隊ヲ一致聯合シテ事ニ當ラシメ以テ日本艦隊ヲ殄滅スルコト敢テ難シトセサルナリ日本ハ爰ニ見ル所アリ開戰ノ初期ニ當リ早クモ旅順ヲ奪略セン爲メ冒險決死ノ行爲ヲ敢テセリ露國ノ如キ慧敏ナル國ニシテ斯ク其ノ好機會ヲ空ウセントハ開戰ノ當初何人モ豫知セサリシ所ナリ又苟モ有識ノ戰略家ナランニハ誰カ敵國カ斯ノ如キ愚ヲ爲スヘシト思惟スルモノアランヤ

斯テ日本ハ眞ニ重大ナル危難ヲ避ケ得タリシヲ以テ今ヤ意ヲロジエストウエンスキー艦隊ノ困難ナル東航ニ注クコトヽナリシモ初ハ左マテ之ヲ重大視セサリキ然レトモ佛國ノ彼ヲ援助スルヲ見ルニ及ヒテ彼ノ侮ルヘカラサルヲ覺知セリ然レトモ毫モ驚愕狼狽セサリキロジエストウエンスキーハ佛國領海ニ於テ石炭糧食ノ載積乘員ノ休養豫テ安南ノ一港灣ニ於テ會合スヘキ筈ナルネボガトフ少將ノ指揮セル艦隊ノ待合セ、及ヒ佛國ノ電信線ヲ利用シテ種々必要ナル情報ノ收集或ハ艦隊東航上ニ必要ナル準備ノ爲メ殆ト五週日ヲ費セリ其ノ間日本ニ於テハロジエストウエンスキーノ一擧一動ヲ偵察シ得タルモ佛國地方官憲カ柴棍ノ電信使用ヲロジエストウエンスキーニ許シ他ノ外國人ニハ之カ使用ヲ峻拒シタルヲ以テ柴棍在留ノ日本側通信員ノ不便一方ナラサリキ然レトモロジエストウエンスキー中將指揮下ノ艦隊ハ五月十六日ヲ以テ正々堂々トシテ佛國領海ニ於ル最後ノ寄泊地タルホンコーヘヲ發セシコトハ直ニ日本人ノ知ル所トナレリ願フニロジエストウエンスキーカ種々雜多ナル軍艦ヨリ成レル艦隊ヲ佛國港灣ヨリ外ニ寄泊スヘキ港灣ナキニモ拘ラス遠ク婆羅的海ヨリ支那海ニ安著セシメタルハ實ニ容易ナラサルノ業ニシテ此ノ一事ノミニテモロジエストウエンスキー中將ノ大設計家ニシテ且大航海者タルヲ示シテ餘リアリ此ノ點ニ就テハ日本人モ隔意ナク彼ヲ稱讃セリ

(三) 東鄕大將ノ豫測

世人ハ數月ノ間ロジエストウエンスキー中將ノ取ルヘキ航路ニ關シ種々想像ヲ逞ウセシカ當時露國ハ絕東ニ於テ浦鹽斯德ノ外ニハ海軍根據地ヲ有セサリシヲ以テ中將ノ到達目的地ノ浦鹽港タルヘキ一事ハ確ナリトス而テ支那海ヨリ浦鹽斯德ニ達スルニハ樺太南岸ト日本北洲北岸トノ間ナル宗谷海峽、北洲南岸ト日本本部北岸トノ間ナル津輕海峽及ヒ朝鮮南岸ト日本本部ノ南西岸トノ間ナル朝鮮海峽ノ三航路アリ露國艦隊果シテ此ノ三航路中何レヲ選取スルヤヲ決スルハ東鄕大將ノ一大急務ナリ何トナレハ東鄕大將ハ此ノ相距ルコト遠キ三航路ヲ同時ニ善ク防禦スルコト能ハサルノミナラス其ノ勢力ヲ中央ノ一地點ニ集中シ警報ヲ待チテ即時敵艦隊ノ來ル方面ニ赴クヲ得ヘキ通信組織ヲモ爲シ能ハサルナリ是ニ於テ東鄕大將ハ自カラ之ヲ判斷シ其ノ的中スルト否トニ拘ラス其ノ所信ニ據ルノ已ムヲ得サルニ至レリ而テ彼ハ果シテ敵艦隊ノ取ルヘキ航路ヲ何レニ在リト判斷シタリヤ朝鮮海峽即チ是ナリ其ノ斯ク決シタル理由ハ宗谷海峽ハ航程長ケレハ石炭補充ノ困難アルノ外ニ其ノ道筋ハ器械的障碍物ヲ設置スルニ容易ナレハ彼ハ必スヤ之ヲ取ラサルヘク津輕海峽モ霧期ノ際ニハ殊ニ困難ナル長航路ニシテ其ノ狹隘部ニハ敷設水雷撒布シアレハ彼又必ス之ヲ取ラサルヘシ左スレハ彼ノ取ルヘキ航路ハ朝鮮海峽タラサルヘカラスト言フニアリタリ

世ノ批評家中ニハロジエストウエンスキーノ朝鮮海峽ヲ選擇セシヲ以テ同中將ノ終ニ不幸ニ陷リタル主原因ト爲セシ者多シト雖モ東鄕其ノ人モ地ヲ換フレハロジエストウエンスキート同一ノ選擇ヲ爲シタルナラン而モ東鄕大將カ始終對馬ニ在テ露國艦隊ノ來ルヲ待チシヲ以テ考レハ同大將ハ有力ナル理由ヲ以テ露國艦隊ノ朝鮮海峽ヲ採ルヘキヲ豫測シテ毫モ疑ハサリシモノヽ如シ若シ東鄕大將ニシテ聊ニテモ疑フ所アリタリトセハ是唯露西亞人ハ例ニ依リテ常識ニ外レタル行爲ヲ繼續センヤモ知ルヘカラストノ點ニ過キサルナリ

然リト雖モ以上述フル所ノ理由ヲ除キ東鄕大將ヲシテ不安ノ念ヲ抱カシメタル一大原因アリ是他ニアラス若シロジエス

トウェンスキー中將ニシテ一タヒ東郷大將ノ對馬ニ在リテ已ノ來ルヲ待ツコトヲ知リタランニハ彼ハ忽チ路ヲ轉シテ宗谷若クハ津輕ニ向フナラントノ掛念ナリ露國海軍々人ハ戰鬪ヲ厭フ者ニアラサルナリ彼等ハ未タ曾テ人ヲシテ其ノ勇氣ヲ疑ハシメタルコトアラサルナリ然レトモ當時露國艦隊ノ目的トスル所ハ微傷タモ蒙ラスシテ浦鹽斯徳ニ達スルコト石炭ノ供給ト修理トニ便安ナル泊地ヲ得ルコト日本艦隊ヲシテ連日連夜奔命ニ疲レシムルコト絕エス日本ノ海上交通ヲ威嚇スルコト戰鬪ノ時期ヲ任意ニ選フコト等ニ在リ露國艦隊ニシテ是等ノ目的ヲ達シ得タランニハ實ニ戰捷ニ亞ケル顯著ノ功績ヲ奏シタルモノト謂ツヘキナリ是故ニ東郷大將ニ於テハ自己ノ所在ヲ秘シ以テ敵ヲ視界外ニ逸シ去ラシメサランコトヲ努メサルヘカラス然レトモ一大艦隊ヲシテ數ケ月ノ間能ク其ノ所在ヲ秘シ得ルコトハ到底不可能ノ如ク思ハレシカ東郷大將ハ實ニ能ク之ヲ遂行シタリ即チ同大將ハ朝鮮南岸ノ鎭海灣ヲ以テ主ナル海軍根據地トナシテ三月ヨリ五月ニ至ルマテ其ノ主力ヲ此ニ潛伏シ而テ自國人民ノ多クハ頗ル能ク其ノ所在ヲ知リタルニ相違ナシト雖モ始終軍機ヲ守リテ毫モ之ヲ洩ラサヽリキ如何ニモ露國ハ哨艦ヲ用ヒテ敵情偵察ヲ行フコト能ハス唯一ニ間諜ニ依賴スルヨリ外ナラサリシト雖モ彼カ如何ニ多クノ貴重ナル情報ヲ收集セシカ如何ニ多クノ信賴スヘキ代理者ヲ支那港灣ニ有セシカ如何ニ多クノ黨與ヲ在東京ノ外國人社會及ヒ外國公使館中ニ有セシカ如何ニ多クノ冒險家カ黄金ノ爲メニ働キツヽアルカヲ追想セハ東郷艦隊カ爾ク長ク潛伏シ果シタルコソ實ニ不思議ナレ

(四)露國艦隊東航ノ末期

斯テロジエストウェンスキーハ其ノ艦隊ヲ將ニ來ラントスル一大戰鬪ニ堪ヘシメ一大勝利ヲ博セシカ爲メ主將タルニ耻チサル敏腕及ヒ成算ヲ以テ百事ヲ準備シ愈五月十六日ヲ以テホンコーヘ灣ヲ出發セリ而テ其ノ取ルヘキ航路ハ對馬海峽ニアリタルカ元來同中將ノ此ノ選擇ヲ爲シタルハ戰略上之ヲ採ルヘキ理由ノ外ニ本人ノ常識以外ニ出ツル性癖モ加ツタルモノヽ如シ何トナレハ敵ニ遭遇スルノ恐ハ彼ヲ朝鮮海峽ニ行クヲ止メスシテ却テ彼ヲ此ノ海峽ニ誘致シタレハナリ然レトモ此ノ海峽ヲ取ルニ決スルモ此ニ達スルニハ尙二航路ノ選フヘキモノアリ一ハ臺灣海峽ニ由テ支那海ヲ航上シ直ニ對馬ニ向ヒ一ハ支那海ヲ去リテ太平洋ニ出テ次テ臺灣ノ東方ヲ經テ對馬ニ向フニアリ此ノ兩航路ハ行程ニ於テハ殆ト相同シト雖モ其ノ他ノ點ニ至リテハ二者大ニ異レリ臺灣海峽ヲ航上スルトキハ其ノ對馬ニ向フコトヲ明ナラシムルノミナラス臺灣諸港ニ潛伏セル日本水雷艇隊ノ出擊ニ遭フノ不利アルモ太平洋ニ出ツルトキハ啻ニ此ノ危險ヲ免ルヽノミナラス若シ對馬ニ向フコト能ハサル場合ニハ轉シテ津輕海峽ニ向フヲ得ルノ利アリ是ニ於テロジエストウェンスキーハ後者ヲ取ルコトニ決シ北律賓ト臺灣トノ間ナル海峽ニ向ヒ載炭ノ爲メ少シク延滯シタル後遂ニ太平洋ニ出テタリ

是ヨリ先キ露國ハ勿論全歐ヲ擧ケテ東郷大將ノ計畫ニ關シ區々ノ風說行ハレシカ今ハ東郷大將ハ蘇門答臘ト爪哇トノ間ナルサンダ海峽ニ於テ敵ノ來ルヲ待チツヽアリトノ風說盛ニシテ或ハ呂宋ト臺灣トノ間ヨリ太平洋ニ出ツルノ航路ハ水雷襲擊ノ地點トナルヘシ或ハ東郷大將ハ臺灣北岸ノ基隆ニ根據地ヲ設ケタレハ露國艦隊ノ太平洋ヨリ來ルト支那海ヨリスルトニ拘ラス之ヲ攻擊スルヲ得ヘシトノ揣摩臆說ヲ逞ウスル者アリシモ東郷大將カ專門的眼識ヲ以テ露將ノ意圖ヲ明察セシト同時ニ露將モ亦能ク東郷大將カ自國領海ニ於テ會戰スルノ利ヲ遺棄スルカ如キコトアラサルヲ看破セシコトハ日本海岸ニ近ツキシマテハ如何ナル艦船ヲモ依然ト其ノ艦隊ニ續航セシメタルヲ以テ明ナリトス思フニロジエストウェンスキーニシテ敵ニ接觸スルノ時機ノ迫レルヲ豫期シタランニハ何ヲ苦ミテ其ノ種々雜多ナル艦船即チ給糧船、給炭船、假裝巡洋艦其ノ他ノ特務船舶ヨリ成ル一集團ヲ日本海岸附近マテ引率シ來ランヤ是ロジエストウェンスキー中將カ豫テヨリ敵ト接觸スルハ日本海岸附近ニアリト覺悟シタルヲ知ルニ足レリ其ノ後彼ハ太平洋ヨリ再支那海ニ入リテ對馬ニ向ヒ其ノ航程ノ末期ニ近ツケルトキ此等ノ非戰鬪艦船ヲ解散シ其ノ數隻ヲ除クノ外ハ之ニ命スルニ揚子江ニ到リテ將ニ起ラントスル戰鬪ノ結果ヲ待ツヘキ旨ヲ以テセリ而テ五月二十五日是等非戰鬪艦船ノ呉淞ニ入リ來リシトキニハ同地ノ人心恟々トシテ種々ノ揣摩臆說ヲ逞ウセシモ日本海軍將校ハ此ノ警報ニ接シ心竊ニロジエストウェンスキー中將ニシテ若シ津輕海峽若クハ宗谷海峽ニ向フノ意アラハ是等特務艦船ノ任務ヲ尙數ケ月間解カサル筈ナルニ斯ク早ク此ノ手段ニ出テシハ彼ハ對馬ニ於テ其ノ運命ヲ賭スルノ覺悟ナルコトヲ確信シタリキ嗚呼ロジエストウェンスキー中將ハ實ニ一大失

策ヲ演シタリ何トナレハ非戰鬪艦船ノ解散ハ出來得ル限リ之ヲ秘シ世人ノ眼目ニ觸レシメサル如クセサルヘカラサルニ公然衆目環視ノ下ニ之ヲ行ヒ人ヲシテ露將カ此ノ擧ニ出テタル所以ヲ怪マシムルノミナラス是等ノ艦船カ艦隊ト別レ舳艫相啣ミテ揚子江ニ出現シタルハ慧眼ナル敵ヲシテ其ノ眞意ヲ悟ラシムルノ導標ヲ我ヨリ授クルニ異ラス而モロジエストウエンスキー中將ノ此ノ失錯ハ彼カ敵ヲ欺カンカ爲メニ行ヒタル巧構ナル一策ト對照セハ益〻奇怪ノ感ヲ禁スル能ハサルナリ巧構ナル一策トハ他ニアラス先是同中將カパシー海峽附近ニ到リシトキ巡洋艦ヲシテ諾威ノ一汽船ヲ臨檢セシメ日本某商會ノ委託ヲ受ケテ同國ニ赴カントスルモノナルヲ知リ暫時之ヲ抑留セシ後放還スルニ臨ミ婆羅的艦隊ハ數日ヲ出テスシテ對馬海峽ニ到ルヘキコトヲ告ケタルノ事實是ナリ蓋ロジエストウエンスキー中將ノ心中ニハ同汽船カ此ノ情報ヲ齎シテ日本ニ達スルハ己ノ對馬ニ到ルヨリ前ニアルヘク而テ日本人ハ斯カル情報ニ接セハ之ヲ信セスシテ却テ反對ノ意味ニ解釋シ對馬ニ行カサルモノト認ムルニ相違ナシト思考セシモノヽ如シ彼ハ尙一層此ノ詭計ヲ假粧センカ爲メ故ラニ艦隊ノ速力ヲ減シ以テ日本人ヲシテ露國艦隊ノ諾威汽船ヲ解放セシ地點ヨリ對馬海峽マテノ距離ト該艦隊カ是迄取リタル平均速力トヨリ推算セシメ當ニ對馬海峽ニ到著スヘキ日取トナルモ更ニ其ノ來ラサルヲ以テ同艦隊カ針路ヲ他ノ航路ニ轉シタルノ證據ナリト解釋セシメント謀レリ此ノ計略ハ實際上日本人ニ多少ノ懸念ヲ惹起サシメタリ

（五） 婆羅的艦隊ノ出現

五月二十五日モ空シク過キ翌二十六日トナリテモ更ニ露國艦隊ノ影タモ見エサレハ對馬ニ待チツヽアル日本人モ爰ニ始テ露國艦隊ノ或ハ轉針シタルニアラサルヤノ懸念ヲ起シタルナラン然ルニ二十七日午前五時豫テ對馬南方ノ各地點ニ配置セル日本哨艦ノ一隻ヨリ無線電信ヲ以テ「艦隊二〇三地點ニ見ユ敵ハ東水道ニ向フモノヽ如シ」ト警報セリ此ノ電報ノ意味ヲ解セント欲セハ日本ニ於テハ敵情ヲ探ルノ便ヲ謀ラン爲メ濟州島ト浦鹽斯德トノ間ナル全海面ヲ恰モ將棋盤ノ目ノ如ク正方形ニ分チ而テ其ノ各正方形毎ニ番號ヲ附記シ置ケルコトヲ知ラサルヘカラス斯テ二十七日ノ拂曉東郷大將幕僚ノ許ニ「二〇三地點」トノ警報來リシトキ幕僚ハ其ノ机上ニアル兵要圖ヲ見テ直ニ敵艦隊ノ現出セル地點ヲ知ルヲ得タリ因ニ一言センニ「二〇三」ナル字ハ日本人ニ取リテハ一種固有ノ効力アルカ如シ前ニハ二〇三高地ノ奪略ハ旅順口ノ運命ヲ定メ今又大海戰ノ序幕ト謂ツヘキ警報カ偶然二〇三地點ヨリ來リシハ不思議ノ暗合ト謂フヘシ又同警報中ニ所謂「東水道」トハ如何元來朝鮮南岸ト九州北岸トノ間ナル海區ノ中央ハ對馬ニヨリテ二航路ニ分レ其ノ内日本側ニアルモノヲ東水道ト曰ヒ朝鮮側ニアルモノヲ西水道ト曰フ即チ電報ノ意味ハ幾隻ノ露艦カ濟州島方面ヨリ朝鮮海峽ノ東口ニ向ヒ來ルトノ義ナリ然リト雖モ其ノ敵艦トハ果シテ如何ナル艦船ナルヤ朝來海上濛氣深クシテ其ノ近ツキ來ル艦船ハロジエストウエンスキー中將ノ主力隊ナルカ又ハ小艦ヲ犧牲ニ供シテ日本艦隊ノ行動ヲ南方ニ轉セシメ而テ其ノ主力隊ヲ北方ニ向ハシメントノ牽制策ニアラサルナキカハ殆ト同日ノ正午頃マテハ判明セサリシナリ而テ其ノ頃ニ至リ東郷大將ハ朝鮮海峽ノ東水道ニ向ヒ近ツキ來ルモノハ敵ノ第二第三艦隊ノ全勢力ニシテ最早牽制ノ行動ニアラサルコトヲ知リシカハ直ニ此ノ事ヲ東京ニ電報セシニ日本官吏社會ハ皆之ヲ聞キテ深キ感謝ノ情ヲ表セリ蓋初ヨリ戰捷ヲ自信シタル日本人ニ取リテハ彼我兩艦隊ノ正々堂々ト相會スルハ眞ニ賀スヘキ事ノ如ク見エタルモノナラン

（六） 日露對抗艦隊ノ勢力及ヒ砲力比較（前出ノモノト殆ト同一ナルヲ以テ略ス）

（七） 東郷大將ノ作戰計畫

元來東郷大將ノ作戰計畫ハ濟州島ト浦鹽斯德トノ間ナル全海面ヲ包括シテ四晝夜ニ亙リテ之ヲ七段ニ區分セシト雖モ其ノ内第一段及ヒ第二段ノ計畫ハ天候不良等ノ爲メ實施セラレサリシト言フノ外何等ノ報道モ世間ニハ達セサリキ第三段ハ日本海ノ南部ニ於ル彼我兩艦隊ノ合戰ニシテ第四段ハ此ノ兩艦隊ノ戰鬪ニ次ケル夜間ノ水雷攻擊ナリ第五段ハ水雷攻擊後翌朝味方ノ殘存艦ヲ欝陵島ヨリ竹島ニ至ル一線上ニ集合セシメ次テ日本海岸ノ方ニ東航シテ北方ニ逃走セントスル敵艦ヲ遮斷スルニアリ又第六段及ヒ第七段ハ說明セラレタルモノナク結局實行スルニ至ラサリキ是戰爭ノ進行上不必要トナレルニ因レリ

是ヨリ先キ東郷大將ハ朝鮮南岸ノ鎭海灣ヲ以テ根據地トセリ此ノ地タル前面ニ巨濟島ト稱スル島アリテ灣內ニ隱匿スル

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

艦隊ヲシテ日本海ヲ往來スル船舶ヨリ認メラルヽノ虞ナカラシメ而テ東郷大將ノ目的ハ同根據地ヨリ約百五十海里ヲ隔テタル沖ノ島近傍ニ於テ戰端ヲ開クニ際シ機ニ晩レサル如ク自己ノ艦隊ヲ沖ノ島ニ派スルニアルヲ以テ最詳ニ最早ク敵ノ行動ヲ探ラサルヘカラス是ヲ以テ東郷大將ハ其ノ指揮下ノ巡洋艦及ヒ特務艦船ヨリ成レル諸哨艦ヲ對馬附近航路ノ處々ニ配置シ且之ニ訓令スルニ一タヒ敵艦ヲ視認セハ之ト接觸シテ絶エス其ノ行動ヲ報告スヘキ旨ヲ以テセリ而テ是等哨艦ハ最忠實ニ最敏捷ニ此ノ貴重ナル任務ヲ盡シ時々刻々無線電信ヲ以テ敵ノ行動ヲ東郷大將ニ報セシヲ以テ海上濛氣ノ深キニモ拘ラス東郷大將ハ午前十時ト十一時トノ間ニハ既ニ敵ノ向フ方面ヨリ其ノ速力及ヒ諸艦ノ配列如何ニ至ルマテ盡ク之ヲ詳知セサルナキニ至レリ然ルニロジエストウエンスキー中將ハ對馬東水道ヲ航上スルノ際廬石嶽船首ニ當リテ日本船ノ出沒スルヲ見シモ其ノ果シテ何ノ兆タルヤヲ詳知スルコト能ハサリキ蓋露國艦隊ニハ哨艦ナク唯僅ニ濛霧ノ霧間ヨリ敵ノ行動ヲ瞥見スルノミナレハロジエストウエンスキー中將カ北東ヨリ敵ノ攻擊ヲ受クルナラント思惟セシモ敢テ不當ノ斷定ニハアラサルナリ蓋日本軍艦カ絶エスロジエストウエンスキー中將ノ行動ニ注目シ居ルコトハ同中將モ亦能ク之ヲ知レリ同日午前五時頃其ノ旗艦ニ備フル無線電信機ノ針動ニ依テ敵艦ノ何事カ己ノ行動ニ就キ通信シツヽアルコトヲ發見シタレトモ近傍ニ敵ノ主力アリトノ徵候ハ聊モアラサリシノミナラス百事反テ皆ロジエストウエンスキー中將カ尙安南沿岸ニ寄泊中ニ接受セル報道ノ果然事實タルヲ證明スルカ如ク見エタリ即チ日本艦隊ハ其ノ勢力ヲ分チ其ノ主力隊ヲ津輕及ヒ宗谷ノ二海峽ニ置キ對馬ニハ僅ニ哨戒勤務ノ爲メ劣等艦ノ一部隊ヲ殘スニ過キストノ報道ヲ確ムルモノヽ如ク見エタリ現ニロジエストウエンスキー中將カ濛氣ノ霧間ヨリ視認シタル敵艦ハ何レモ鎭遠ノ如キ劣等ノモノヽミナリキ鎭遠ハ一八九五年日清ノ役日本ノ捕獲シタル船齡二十二年ノ舊式戰艦ニシテ最早十二節半以上ノ速力ヲ出スコト能ハス同艦モ日本艦隊ニ一裝甲巡洋艦タモアラサリシ往時ニアリテハ日本人ノ多少重視スル所ナリシカ今ハ最早第一戰列ニ入ルニ適セサルモノトナリシニ東郷大將カ之ヲ第一戰列中ニ置キタルハ恰モロジエストウエンスキー中將カ「ニコライ」一世「ドミトリー、ドンスコイ」及ヒ「ウラヂーミル、モノマーフ」ノ如キ舊式艦ヲ「ボロヂノ」等ト同線内ニ列セシメタルト相似タル失錯ニハアラサルナキカ然レトモ鎭遠ハ舊式戰艦タルニモ拘ラス極テ有益ナル一任務ヲ遂ケ得タリ是他ニアラス同艦隊ハ敵ノ右舷船首ニ當リ出沒スル防護巡洋艦ノ中ニ加リ其ノ十二吋克砲ヨリ數彈ヲ放チ益々ロジエストウエンスキーヲシテ今度モ己ノ敵トスル所ハ第二等艦以下ノモノナリトノ感念ヲ深カラシメタルノ一事是ナリ乃チロジエストウエンスキーハ此ノ感念ニ基キテ全艦隊ヲ二列縱陣ニ編成シ其ノ右翼列即チ東列ニハ「クニヤージ、スウオーロフ」「アレクサンドル」三世「アリヨール」及ヒ「ボロヂノ」ノ最強戰艦四隻ヲ置キ左翼列即チ西列ハ之ヲ四隊ニ分チ其ノ先頭隊ハ「オスラービヤ」「シソイ、ウエリーキー」「ナワリン」及ヒ「ナヒーモフ」即チ一等戰艦一隻二等戰艦二隻及ヒ裝甲巡洋艦一隻ヨリ成メ第二隊ハ「ニコライ」一世ヲ先頭トシテ裝甲海防艦三隻之ニ次キ第三隊ハ著シク後方ニアリテ「オレーグ」及ヒ「アウローラ」ノ二防護巡洋艦先頭ニ占位シ「スウエトラーナ」及ヒ「アルマーズ」之ニ次キ第四隊ハ裝甲巡洋艦「ドミトリー、ドンスコイ」同「ウラヂーミル、モノマーフ」ハ二隻ヲ先頭トシテ特務船六隻及ヒ假裝巡洋艦一隻之ニ續航セリ蓋ロジエストウエンスキー中將ハ斯ノ如クシテ單縱陣ノ兩端ヲ强勢ナラシムヘシト云ヘル既定原則ノ一部分ヲ遵奉シタルモノナリ高速力巡洋艦「イズムルード」及ヒ「ジエムチウグ」ハ兩列ノ間ニ介在シテ偵察艦ノ任務ニ當レリ

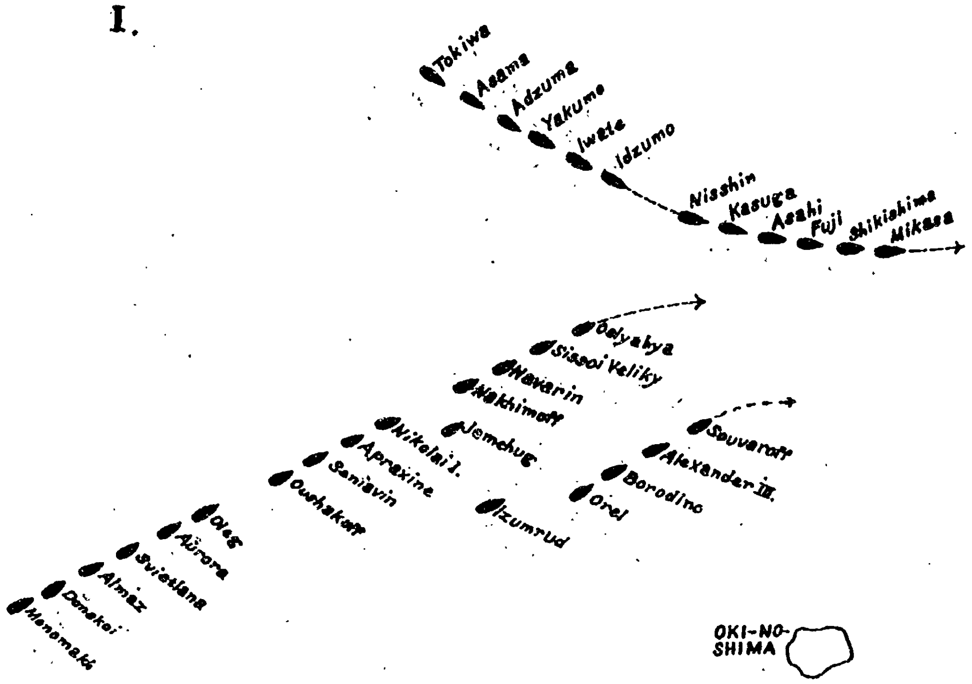
此ノ時日本主力艦隊ハ（二三ノ哨艦ヲ除ク）皆沖ノ島ノ北方ニ集レリ而テ東郷大將ハ敵ノ陣形ヲ審ニシ且敵カ東ヨリ攻擊セラルヘシト豫期セルコトヲモ知リシカハ反テ其ノ意外ニ出テ、西ヨリ彼ヲ攻擊セント決心シ其ノ主力艦隊ヲ二隊ニ分チ朝日、富士、三笠、敷島ノ四戰艦ト日進、春日ノ二裝甲巡洋艦（此ノ二艦ハ其ノ裝甲ノ配置方戰艦ト相似タルヲ以テ之ト共動スルニ適ス）トヲ以テ第一隊ト爲シ出雲以下六隻ノ裝甲巡洋艦ヲ以テ第二隊トシ此ノ二隊ハ敵ノ先頭部隊ニ當ルト同時ニ防護巡洋艦ハ南下シテ敵ノ後尾ニ廻リテ同種ノ敵艦ヲ衝クコトヽセリ斯シテ此ノ戰鬪ハ自カラ南北ノ二戰ニ分レタリ依テ余ハ之ヲ各別ニ說カント欲ス

（八）　主力隊ノ戰況

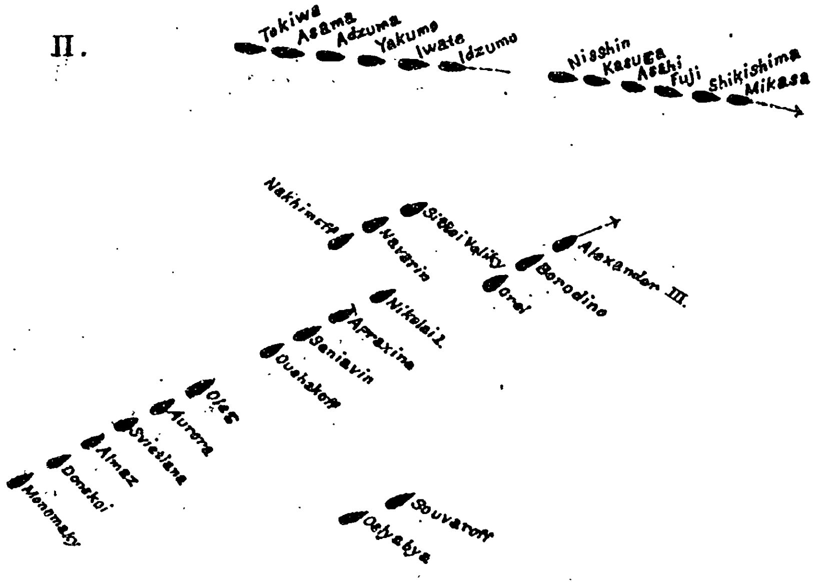
東郷大將ハ本支二戰ヲ開始スル爲メ其ノ艦隊ヲ兩分スルニ先タチ「皇國ノ興廢此ノ一擧ニアリ各員一層奮勵努力セヨ」ト

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

I.



II.

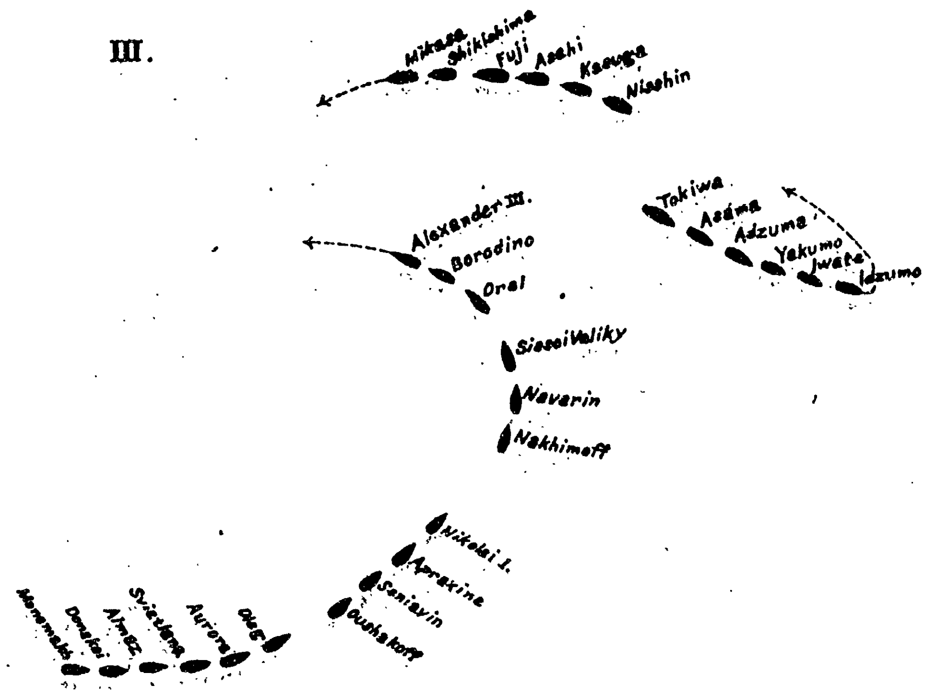


ノ信號ヲ揭揚シタリ而テ其ノ主力艦隊ヲ率ヰテ南西ニ向首シ便宜ノ地點マテ航進シテ敵ノ左舷側ニ達スルニ及ヒ急ニ針路ヲ北東ニ轉シテ其ノ兩隊ヲ單縱陣ニ制リ四十五度ノ角度ヲ以テ敵ノ先頭ヲ橫過スヘク向針シ敵ノ兩先頭艦就中先ツ「オスラービヤ」ニ對シ次テ「スウオーロフ」ニ對シ砲火ヲ集中セリ此ノ時日本艦隊ハ十五節ノ速力ヲ出シ露國艦隊ハ十二節ヲ出セリ此ノ日南西ノ風強ク濤高クシテ射擊極テ困難ナリキ露國艦隊ハ敵艦隊カ西ヨリ己ヲ壓迫シツヽアルヲ見シヲ以テ少シク變針シテ敵ト並航シ以テ敵ニ己ノ先頭ヲ橫過セサラシメント試ミタリ然レトモ其ノ運動ハ著シク速力ヲ增進セサレハ成シ能ハス若シ「スウオーロフ」以下右翼列ノ各戰艦ニシテ強壓通風全力ヲ出シタランニハ左列即チ「オスラービヤ」ヲ先頭トシテ速力緩慢ナル「シソイ、ウエリーキー」「ナワリン」及ヒ「ナヒーモフ」ノ續航セル一隊トハ忽チ分離スルニ至ラン午後二時八分露國艦隊ハ九千米突乃至一萬米突ノ距離ニ於テ砲火ヲ開始シ以テ其ノ優數ナル巨砲ヲ利用セント努メタレトモ日本艦隊ハ彼我ノ距離漸ク短縮シテ六千米突トナルマテ控ヘタリ東郷大將ハ是迄ハ限リアル自國ノ海軍力ヲ出來得ルタケ保全スルヲ以テ第一ノ義務トシ百方之ヲ減損セサランコトヲ努メ常ニ遠戰ヲ擇ヒシニ今回ノ大海戰ニ當リ近距離內ニ入リタルハ同大將ニ取リテハ新戰術ニシテ彼カ初テ之ヲ採リシ所以ノモノ今回ノ大海戰ハ實ニ露國カ絕東ニ於テ集合シ得ヘキ最後ノ艦隊タルヲ以テ彼ハ此ノ一擧ニ於テ其ノ主タル作戰目標ヲ全滅スルノ機會至レリト爲シタルニ因ルナリ

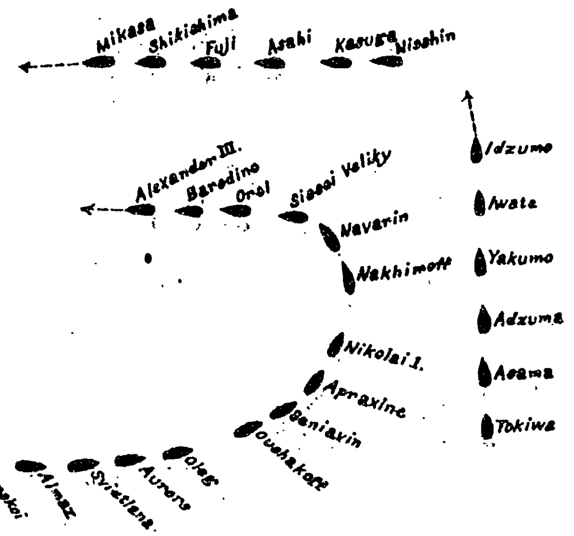
當日戰鬪開始ノ際ヨリ露國砲術ノ伎倆全ク劣レルコトハ明ナリキ之ヲ精細ニ觀察スルニ戰鬪ノ初期ニ於テ兩軍命中ノ割合ハ日本ハ敵ノ一ニ對シテ三ナリシカ忽ニシテ一ト四トノ差ヲ生スルニ至レリ此ノ戰鬪中日本兵員ノ始終平然トシテ戰鬪ニ從事シ傍ニ水ヲ盛リタル桶アルモ誰一人之ヲ飲マントスルモノナカリシハ美談トシテ名高キ事實ナリ加フルニ勝利我ニ在リトノ信念ハ遍ク日本將校下士卒ノ心ニ浸潤シタルヲ以テ是等歷戰錬腕ノ將卒ノ眼中ニハ此ノ強大ナル敵艦隊ヲ見テ之ト戰フヲ一種ノ娛樂トセリ而テ敵ト戰ハント欲スル熱心ハ東郷大將カ未タ視認スヘカラサル敵ニ向ヒ各戰隊ヲ率ヰテ數十海里ノ航程ヲ行キ此ノ浩渺タル海上ノ適當ナル地點ニ於テ敵ト會スル如クシタル卓絕ノ伎倆ニ由テ益々鼓舞振

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

III.



IV.



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

與セラレタリ東郷カ斯ク豫定通リ敵ニ會スルヲ得タル佼倆ハ海員ニアラサレハ眞ニ其ノ價値ヲ鑑識スルヲ得ス

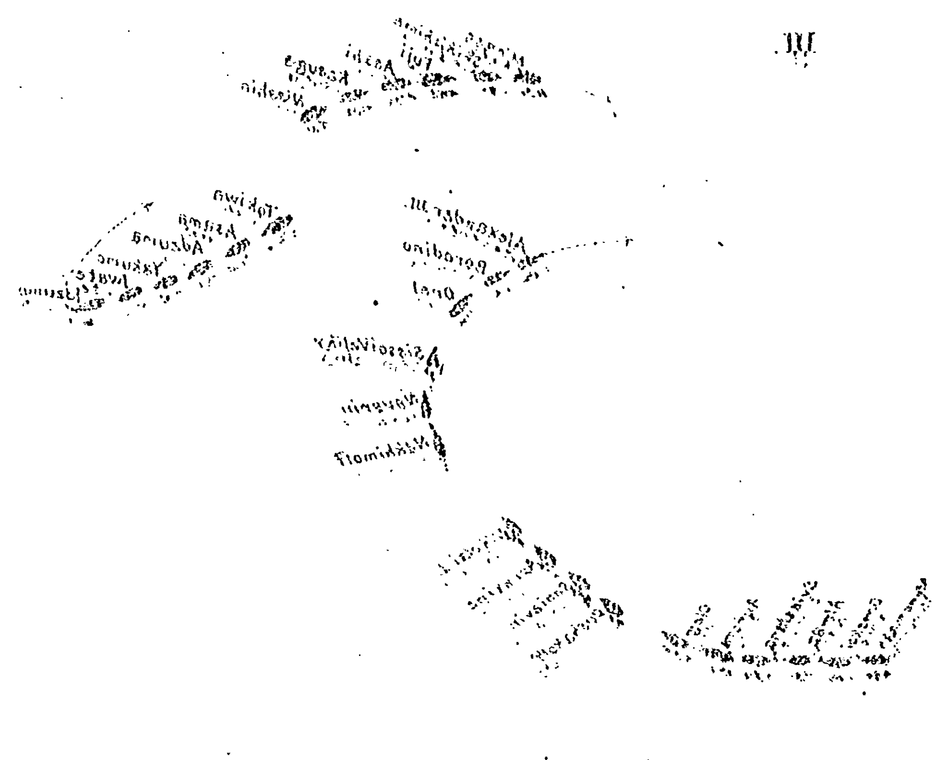
東郷艦隊漸ク近ツキテ敵ノ先頭ヲ横過スルニ迨ヒテ日本海軍ノ實施セル戰術ハ其ノ砲術ノ如ク又非常ニ卓越セルコトヲ證明セリ日本全戰線ノ砲火ハ敵ノ両先頭艦タル「オスラービヤ」及ヒ「スウオーロフ」ニ集中セシモ敵ノ後續部隊ハ未タ日本軍艦ニ其ノ砲ヲ向ケルコト能ハス爲メニ「オスラービヤ」及ヒ「スウオーロフ」ノミ劇シク敵彈ヲ蒙リ火災ヲ起シテ戰列ヲ脱スルコトヽナレリ是ニ於テ露軍ハ陣形ヲ變更シ「オスラービヤ」部隊(此ノ時ハ「シソイ、ウエリーキー」代テ先頭艦タリ)ハ少シク西方ニ轉シテ「ニコライ」部隊ノ砲撃ヲ遮障セサル如クシ而テ全艦隊ハ益々針路ヲ東方ニ取リテ日本艦隊ト並航セントセリ

此ノ運動ハ東郷艦隊ノ優速力ナルカ爲メ全然無効ニ歸シ終ニ露國艦隊ハ刻一刻益々多大ノ損傷ヲ蒙リテ方向ヲ東ヨリ西ニ變セシノミナラス其ノ陣形ヲ二列縦陣ヨリ單縦陣ニ變シテ右翼列ノ戰艦ヲ「シソイ、ウエリーキー」部隊ノ正面ニ置キ而テ全艦隊ハ東郷艦隊ト全ク反航セントセリ

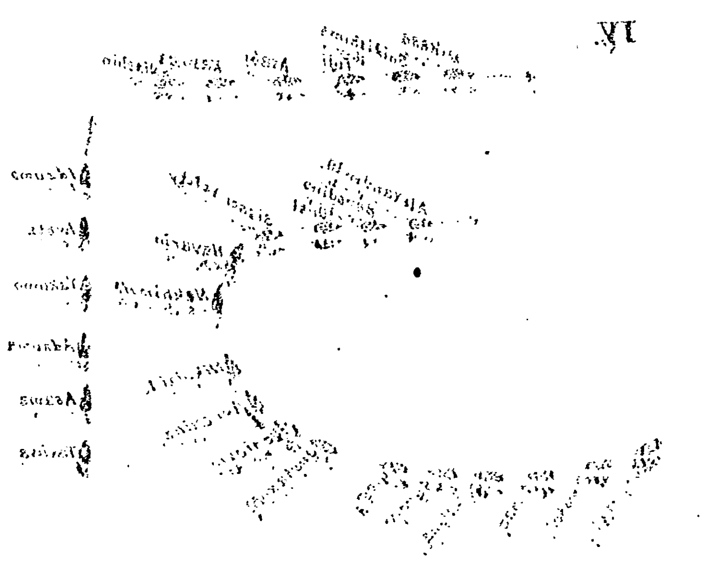
此ノ運動中「アレクサンドル」三世ハ重傷ヲ負ヒ且火災ヲ起シテ戰列ヲ脱シタレハ露國ハ是ニ至リテ其ノ最強艦三隻ヲ失フコトヽナレリ此ノ時東郷大將ハ其ノ主戰艦隊ノ針路ヲ西ニ變シ且速力ヲ増進シテ尙從前ノ如ク我カ戰艦ヲ以テ敵ノ先頭(此ノ時ハ右舷艦首)ヲ横過スルノ戰策ヲ續行セシカ其ノ間裝甲巡洋艦隊ハ一時其ノ戰艦隊ト直角トナリテ二隊自カラL字形ノ陣形ヲ成シ戰艦隊ハ北ヨリ敵ニ向テ砲火ヲ注キ裝甲巡洋艦隊ハ東ヨリセリ

日本側ニ於テモ多少ノ損害ヲ蒙リ裝甲巡洋艦淺間ノ如キハ舵機ヲ摧カレ且侵水甚シク一時止ムヲ得ス列外ニ落伍シ應急修理ヲ施シ又春日ハ其ノ八吋砲三門ノ作用ヲ失ヒタリ然レトモ勝利ハ既ニ日本ニ歸シタリト謂フモ妨ナキニ至レリ露國ハ僅々四十分ヲ出テサル内ニ最良戰艦三隻廢艦トナリ自餘ノ諸艦モ亦大損害ヲ蒙リ今ヤ戰ツテ勝タントスルノ念ヲ絶チ專ラ逃走セント試ミタリ加フルニ「フエリケルザム」少將ハ「オスラービヤ」ノ司令塔内ニ於テ戰死シ「ロヂエストウエンスキー」中將ハ重傷ヲ蒙リテ驅逐艦ニ轉乘シ「ニコライ」一世ニ坐乘ノ司令官「ネボガトフ」少將代リテ司令長官ト爲レリ

III.



IV.



露國艦隊ハ既ニ單縱陣ヲ制リ西ニ航走シ敵ノ爲メニ再其ノ先頭ヲ横過セラルヽヲ避ケント力メツヽアリシカ此ノ時又南方ニ壓迫セラレ一時間ヲ經サル内午後三時頃ニ東鄕主將ノ二戰隊ハ其ノ優速力ヲ利用シテ再敵ノ前路ニ出テタリ是ニ於テ敵ハ再針路ヲ變シ北方ニ向首セシヲ以テ東鄕大將ノ主戰艦隊モ亦急ニ針路ヲ反轉シ日進ヲ嚮導トシテ北西ニ向ヒ是迄ノ戰策ヲ繰返シタリ是實ニ此ノ戰鬪中終始一貫ノ特點ニシテ日本艦隊ハ反覆敵ノ先頭ヲ壓シ敵ハ絶エス之ヲ避ケントシテ針路ヲ變セリ日本艦隊ノ連續シテ間斷ナキ攻擊計畫ハ砲術ノ卓越及ヒ諸艦ノ優速力ト相俟チテ日本海軍戰勝ノ要因タリ午後三時過キ「オスラービヤ」ハ沈沒シタリ戰艦カ單ニ砲力ノミニ依テ擊沈セラレタルハ之ヲ以テ初メトス後チ半時間ヲ經テ「スウオーロフ」モ亦沈沒セリ同艦ハ既ニ一檣二煙突ヲ失ヒ全艦煙焰ニ包マレ僅ニ船體ヲ存セシカ日本驅逐隊ハ之ヲ目掛ケテ來襲シ「スウオーロフ」ノ僚艦ハ猛射防禦シタルニモ拘ラス午後四時四十五分一發ノ水雷之ニ命中シ爲メニ同艦ハ直ニ沈沒ハセサレトモ最早奈何トモスヘカラサルノ慘況ニ陷リタリ

斯テ露國艦隊ハ三時間程猛烈ナル砲擊ヲ受ケ其ノ戰艦中一トシテ多大ノ損傷ヲ負ハサルモノナキニ至リシカハ今ヤ（五時少シ前）一方ノ血路ヲ開キテ遁走セント企テ初メハ南方ニ向進シテ支那海ニ遁戻ラントシ次テ又前路ニ復シテ北東ニ向進セリ此ノ時東鄕大將ハ敵影ヲ煙霧ノ中ニ失シ尙彼ヲ前方ニアリト信シテ凡三十分間許南下セシモ遂ニ敵ノ主力カ北東ニ轉走セシヲ知リ針路ヲ北方ニ執リテ索敵シ而テ其ノ裝甲巡洋艦隊ヲ南方ニ遣リ同方面ノ戰鬪ニ參加セシメタリ東鄕大將ノ主戰艦隊ハ全速力ヲ以テ暫時北進セシカ後チ敵主力ノ殘艦即チ「アリヨール」「アレクサンドル」三世「ボロヂノ」「シソイ、ウエリーキー」「ナワリン」及ヒ「ナヒーモフ」六隻ノ一群カ北東ニ向ヒ遁走シツヽアルヲ發見セリ當時「ニコライ」一世外海防艦三隻ヨリ成ル一部隊ハ南下シテ防禦巡洋艦ヲ援ケツヽアリタルコト後ニ至テ知ラレタリ是ニ於テ東鄕大將ハ今ハ唯其ノ直率ノ戰艦四隻及ヒ裝甲巡洋艦二隻ノミヲ以テ之ト並航戰ヲ再始シ敵ノ前方ニ出テヽ其ノ先頭ヲ壓迫スルノ戰術ヲ繰返セシカ敵ハ初メ西ニ變針シ次テ北西ニ屈折スルニ至レリ此ノ並航戰ハ午後六時ヨリ日沒（午後七時二十八分）マテ連續セシカ其ノ終ル五分前ニ先頭ニ占位セシ「ボロヂノ」ハ沈沒セリ同艦ハ四十三分間火災ニ罹リ居タレハ火焔ノ火藥庫ニ及ヒシモノナランカ此ノ戰艦ノ破壞ニハ水雷攻擊ハ毫モ之ニ與ラス然レトモ又全ク砲擊ノ爲メニ致命セリトモ思ハレス他ノ一等戰艦即チ「アレクサンドル」三世ハ確ニ砲擊ノ爲メニ斃レタルモノニシテ同艦ハ戰列ヨリ午後七時七分「ナヒーモフ」ノ側ニ來リ遂ニ轉覆沈沒セリ

（九）防護巡洋艦ノ戰鬪

右ト同時ニ南方ニ於テハ盛ニ防護巡洋艦ノ戰鬪アリタリ東鄕大將カ敵ノ主力艦隊ノ左翼ニ出テントテ變針セシトキ其ノ裝甲巡洋艦隊ヲ南方ニ遣リ敵ノ後尾ニ占位セル巡洋艦ヲ衝カシメタルコトハ既ニ之ヲ記載セリ余ハ憾ムラクハ此ノ戰鬪ニ參加セル防護巡洋艦隊ノ編制ヲ詳ニセス蓋此ノ巡洋艦隊カ四箇戰隊ニ分タレタルコトハ一般ノ知ル所ナレトモ各戰隊ニ編入セル艦名ハ秘密ニ保タレタリ唯此ノ四箇戰隊ノ內二箇ハ當日戰鬪開始ノ時ヨリ之ニ參加シ其ノ一ハ出羽少將ノ率ヰル戰隊ニシテ笠置、千歲、八雲及ヒ常磐（姑ク原文ニ從フ）ヨリ成ルモノヽ如ク何レモ速力二十一節以上ニシテ八吋砲及ヒ六吋砲ヲ裝備シ他ノ一戰隊ハ瓜生少將ノ率ヰル戰隊ニシテ浪速、新高及ヒ音羽ヨリ成レリ此ノ三艦ハ前者ヨリモ較小型ニシテ速力モ稍劣リ且六吋ヨリ大ナル口徑ノ砲ヲ裝備セス露國側ニハ「ドミトリー、ドンスコイ」「ジエムチウグ」「スウエトラーナ」及ヒ「アルマーズ」ノ防護巡洋艦六隻アリ

出羽瓜生二少將ノ採リタル戰策ハ東鄕大將ノ戰策ト固ヨリ同一ナレトモ唯其ノ相異ル所ハ攻擊方向ノ相反スルニアリ即チ敵ノ前面ニ出テヽ其ノ先頭ヲ横過セス敵ノ後尾ニ出テ其ノ後方ヲ横過シテ右舷側ニ出テ砲火ヲ注クニアリ出羽瓜生ノ二少將ハ再三再四此ノ行動ヲ繰返セリ公報ニハ「出羽、瓜生ノ二戰隊ハ優速力ヲ利用シテ臨機我カ正面ヲ變シテ或ハ敵ノ左ニ現レ又ハ其ノ右ニ廻リ」云々トアリ露國巡洋艦ノ三隻ハ日本海軍ノ如何ナル艦船ヨリモ優速力ヲ有スルハ明白ノ事實ナリト雖モ十四海里ヨリ多クノ速力ヲ出シ得ヘカラサル「ドミトリー、ドンスコイ」及ヒ「ウラヂーミル、モノマーフ」ノ如キ巡洋艦ト行動ヲ俱ニセサルヲ得サルニ於テハ其ノ優絶ノ速力モ更ニ効力アラサルナリ此ノ二戰隊ノ攻擊ハ敵ヲ動搖潰亂セシメ其ノ特務艦船二隻ヲ擊沈シ各巡洋艦ニモ亦多少ノ損害ヲ加ヘタリト雖モ實際一隻モ擊沈セシモノナキヲ以テ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

未タ著シク敵艦破壊ノ結果ヲ見ルニ至ラサリキ

戰闘二時間ヲ經タル後他ノ二箇巡洋艦隊モ亦來リテ出羽瓜生ノ二戰隊ニ加リタリ然ルニ是ト殆ト同時ニ露國側ニテモ「ニコライ」一世外海防艦三隻南下シ來リテ其ノ巡洋艦ニ合力セシカハ爰ニ一大激戰起リ對戰中出羽瓜生両少將ノ旗艦ハ前後相次テ敵彈ヲ蒙リ應急修理ノ爲メ戰列ヲ出ツルノ止ムヲ得サルニ至レリ然レトモ未タ幾許ナラスシテ日本裝甲巡洋艦隊北方ヨリ來リシ爲メ彼我ノ形勢頓ニ變シ露國艦隊ハ潰亂滅裂シテ悉ク北方ニ遁走シ而テ日本ノ防護巡洋艦ノ三箇戰隊ハ水雷艇隊ト共ニ劇シク之ヲ追撃シ其ノ途中ニ於テ特務船一隻ヲ撃沈シ又進退ノ自由ヲ失セル「スウオーロフ」ヲ發見シ水雷ヲ以テ之ニ止メヲ刺シタリ此ノ戰艦ノ備砲中尚其ノ用ヲ爲スモノハ僅ニ艦尾ノ小砲一門ノミナリシモ其ノ乘員之ヲ以テ最終マテ抵抗ヲ試ミタリ日暮ニ至リ日本ノ各軍艦ハ東郷大將ノ命ニ從ヒ欝陵島ニ集合セソカ爲メ何レモ戰ヲ止メテ北東ニ向針セリ又東郷大將ハ此ノ集合地點ヨリ東方ニ哨線ヲ張リ浦鹽ニ向ハソトスル露艦ノ前路ヲ遮斷セシメタリ

(十) 水雷攻撃

日沒ニ至リ第二段ノ作戰ハ豫定ノ如ク開始セラレタリ是未曾有ノ大規模ヲ以テ實施シタル水雷攻撃ニシテ六個ノ驅逐隊及ヒ同數ノ水雷艇隊之ニ參加セリ東郷大將ノ策定ハ敵艦ヲ日本海ノ南部ニ要撃シテ先ツ其ノ副砲ヲ粉碎シ多少水雷艇防禦力ノ減殺セルヲ待チテ水雷攻撃ヲ決行セソトスルニアリタリ然ルニ此ノ日ハ朝來風強ク浪高クシテ脆弱ナル小艇ノ操縦大ニ困難ナリシヲ以テ此ノ段ノ作戰ニ於テハ成功ノ望極テ少カリシモノヽ如シ夕刻ニ至リテ風較和ラキシモ浪ハ尚靜マラス洋上ノ水雷攻撃ハ氣遣ハシキモノアリシモ將校下士卒皆以爲ラク水雷艇ノ襲撃タル本戰役開始ノ夜旅順港ニ於テ聊カ功ヲ奏シタル以來日本海軍々人特有ノ敏捷ト決心トヲ以テ屢之ヲ試ミタルモ未タ實効ヲ觀ス是固ヨリ天候ノ不良ニ因ルト雖モ海面靜穏ナル時ニ非サレハ其ノ用ヲ作サストセハ水雷艇ハ實ニ無力ノ兵器ト謂ハサルヘカラス水雷艇ノ効力如何ヲ試ミルハ此ノ時機ヲ逸シテ復得ヘカラスト奮躍先ヲ爭ヒテ發セソトス是ニ於テ東郷大將ハ五箇驅逐隊ヲ放遣シ一隊ハ北ヨリ二隊ハ北東ヨリ一隊ハ東ヨリ一隊ハ南東ヨリ進ミテ敵ノ主力隊ニ當ラシメ別ニ四箇水雷艇隊ハ南ヨリ進ミテ敵ノ主力ヨリ分離孤立セル各艦及ヒ其ノ巡洋艦ニ迫ラシメ又最終ニ一箇驅逐隊ト二箇水雷艇隊ヲ派シテ各別ノ針路ヲ執リタル敵艦ノ捜索攻撃ニ向ハシメタリ其ノ激烈ナル襲撃ハ午後八時十五分ニ始リ午後十一時頃マテ連續セリ就中幾許カノ襲撃隊ハ敵艦ニ向ヒ猛進肉薄シ敵ノ備砲ヲシテ其ノ距離餘リ近キ爲メ俯角ノ度ニ過キ照準スルコト能ハサラシメタリ斯テ露艦ハ遂ニ此ノ猛撃ニ耐ヘスシテ諸方ニ潰散セリ此ノ攻撃ニ依リ「シソイ、ウエリーキー」及ヒ「ナワリン」ノ二戰艦並ニ「ナヒーモフ」「モノマーフ」ノ二裝甲巡洋艦ハ最後ノ致命傷ヲ受ケ日本軍ニ於テハ水雷艇ヲ撃沈セラレタルモノ僅ニ三隻ノミ又襲撃隊ノ損害ヲ通算スルモ負傷六十五戰死二十二名ニ過キサリキ

斯ノ如キ成功ハ水雷艇ノ名譽ヲ回復スルニ與リテ大ニ力アルニ相違ナシト雖モ此ノ襲撃ニ從事セル水雷艇ノ多數ト露國軍人ノ士氣既ニ沮喪セル狀態ヨリ觀察シテ或ハ夫以上ノ大成功ヲ豫期スル者ナキニアラス然レトモ今爰ニ日本海軍將校ノ説ヲ紹介セソニ日ク當夜海上尚靜ナラスシテ水雷攻撃ノ爲メニハ不利ナリ若シ風波ナカリシナラソニハ露國軍艦ハ一隻モ撃沈ヲ免ルヽコト能ハサルヘク且其ノ水雷攻撃ヨリ種々ナル間接ノ結果ヲ生シタリ就中敵艦ノ四散及ヒ翌日ノ露艦全滅是ナリ此ノ海戰三段ノ効果ヲ評價セハ二十七日ノ晝戰ハ三分、水雷攻撃ハ二分、二十八日ノ追撃戰ハ四分ニシテ殘リ一分ハ撃滅ニ洩レタル敵艦ナリト

果シテ水雷攻撃ノ破壊的結果ハ翌二十八日ニ至リテ明ニ顯レタリ今ヤ露國艦隊敗餘ノ各艦ハ潰亂シテ十一個ノ斷片ニ分裂セリ「オレーグ」「アウローラ」及ヒ「ジエムチウグ」ノ三巡洋艦ハ既ニ戰列ヲ脱セルノミナラス東航ノ目的ヲモ中止シテ南走シ再朝鮮海峡ヲ過キテ馬尼剌ニ向針シ他ノ同級艦「アルマーズ」ハロジエストウエンスキー中將ノ直率艦隊ニ附屬セル驅逐艦九隻中ノ一ヲ伴ヒテ浦鹽斯徳ニ向ヒ他ノ二驅逐艦ハ上海ニ遁走セソトシテ其ノ一隻ハ途中沈没セリ外觀上僅ニ隊形ヲ保チシモノハネボガトフ少將ノ指揮セル戰艦「アリヨール」「ニコライ」一世裝甲海防艦「アプラクシン」「セニヤーウヰン」及ヒ防護巡洋艦「イズムルード」ヨリ成ル一群ノミナリシカ是スラ二十七日ノ晝戰ニ苦惱煩悶シ又其ノ夜ノ水雷攻撃ヲ蒙リ擾亂昏迷ノ餘其ノ方位ヲ失シタリ是ニ於テネボガトフ少將ハ朝鮮海岸ノ一地點ヲ見定ムルマテハ西方ニ向進

スルコトニ決シ航行中黎明ニ至リテ欝陵島ヲ視認スルヤ針路ヲ轉シテ浦鹽斯德ニ向ヒネボガトフ以下各員皆遁路開ケリト思惟シ前日ノ戰場ヲ距ル殆ト二百海里ノ地ニ於テ再前日ノ如キ悲劇ニ再會スルコトアラントハ期圖セサリキ東郷トネボガトフトノ間尚六十海里ヲ隔ツルトキ東郷ハ既ニ無線電信ニ依リ露國艦隊ノ近ツキ來ルヲ知リシカハ午前十時三十分頃ニハ露國艦隊ハ既ニ日本軍艦二十七隻及ヒ水雷艇若干隻ノ包圍スル所トナレリ此ノ時「イズムルード」ノミハ其ノ快速力ヲ利用シ敵ノ圍ヲ脱シテ遁走セシカ(後チウラヂーミル灣ニ於テ沈沒セリ)自餘ノ四艦ハ皆投降シタリ

（十一） ネボガトフノ降服

ネボガトフ少將ノ降服ニ就テハ種々ノ議論アリ同少將ハ全ク戰闘力ヲ失ヒタルヲ以テ部下二千ノ生命ヲ救ハン爲メ降レリト辯護セシカ論者之ヲ駁シテ曰ク縱ヒ彼「キングストン、バルブ」ヲ開キテ諸艦ヲ盡ク海底ニ沈ムルモ之カ爲メニ死スルモノハ極テ僅數ナラント日本ハネボガトフ及ヒ其ノ部下將校ニ宣誓歸國ヲ許スノ意アリシニ拘ラス露國皇帝ノ之ヲ裁可セサリシヲ觀レハ皇帝ノ意見モ亦該論者ト同一ナリシモノヽ如シ今若シ日本海軍將官ニシテネボガトフト同一ノ場合ニ際セハ如何決シテ敵ニ降ヲ請フ如キ者アラントハ思ハレサレトモ此ノ降服問題ニ關シ著名ナル日本海軍將校某ノ言ヒタルコトハ頗ル興味アリ（編者曰ク夫ヨリ本通信員ハ聯合艦隊參謀某氏ノ日本海々戰談ノ中ヨリネボガトフ少將降服ニ關スル一節ヲ譯載シタルノミニテ別ニ之ニ評ヲ加ヘタルニアラサレハ之ヲ略ス）

（十二） 日露兩軍ノ損害（編者曰ク此ノ項ハ東郷聯合艦隊司令長官海戰公報ノ譯載ニシテ別ニ本通信員ノ評アラサルカ故ニ之ヲ略ス）

（十三） 日本勝利ノ原因

此ノ大勝利ニハ如何ナル原因アリテ存スルカ又此ノ戰捷カ吾人ニ如何ナル新訓戒ヲ敎ヘタルカ論者中此ノ戰捷ヲ以テ日本カ潛水艇ヲ用ヒシニ因ルト爲ス者アリト雖モ此ノ海戰ニハ一モ潛水艇ハアラサリキ或ハ之ヲ旅順港外ニ於テ恐ルヘキ效力ヲ顯シタル浮流水雷ノ存在ニ歸スルモノアリト雖モ是亦此ノ戰闘ニハアラサリキ然ラハ其ノ勝因何ニアリシカ此ノ戰勝モ亦常ニ之ヲ博スヘキ要素ト思考セラレタル砲術ノ巧妙ト戰術ノ適良トニ歸因セスンハアラス日本砲彈ノ命中精度ハ敵ヨリモ遙ニ卓越シタルカ故ニ其ノ砲力ハ彼ニ三倍若クハ四倍セリ計數上ニ於テハ日本艦隊ニ裝備スル十二吋砲ハ露國ノ二十六門ニ對シテ僅ニ十六門ナリシモ實際ノ射擊ニ於テハ露國ノ二十六ニ對シ日本ハ四十八若クハ六十四ノ割合ヲ呈シタリ而モ此ノ大ニ卓越セル砲術ハ良戰術ニ依テ其ノ効力ヲ充分ニ發揮スルノ機會ヲ與ヘラレタリ日本軍艦ハ再三再四其ノ砲火ヲ敵艦隊ノ樞要艦ニ集中シ得ヘキ位置ニ現レタリ然レトモ彼カ此ノ戰術ヲ繰返スノ機會ヲ得タルハ其ノ艦ノ速力優等ナリシカ爲メナリ東郷大將ノ策定シタルハ如何ニ大ナル利益ヲ有セシヤヲ見ルノ容易ナルト同時ニ若シ東郷大將カ其ノ艦ノ優速力ヲ利用シテ露國艦隊ニ越航スルコトヲ得スンハ斯ノ如キ戰術モ多分之ヲ實施スル能ハサリシコトモ亦容易ニ知ルヲ得ヘシ露國ハ其ノ艦隊ヲ編制スルニ當リ各種ノ戰闘單位ヲ混合セシカ爲メニ艦隊速力ヲ最遲艦ノ速力ニ準シテ落サヽルヲ得サルニ至レリ以上述フル所ハ一モ嶄新ノ事實ニアラス唯古訓ヲ溫メタルニ過キサルナリ

（十四） 此ノ海戰ニ由テ得タル經驗

此ノ海戰ハ造船家ノ參考トナルヘキ資料ヲ呈セリヤト問フニ日本人ハ一モ造船上根本的改良トナルヘキモノヲ見スト答ヘタリ初ニハ此ノ海戰ニ依リ圖ラスモ砲彈ノ裝甲ニ對シテ優等ナルコト明白トナレリトノ聲頗ル盛ナリシモ此ノ斷案ハ細査詳究スルニ値セス此ノ海戰ニ於テ沈沒セル戰艦六隻中砲力ニ依テ擊沈セラレタルモノハ僅々二隻ニシテ而モ其ノ主要裝甲ノ貫通セラレタリト信スヘキ一理由タモアラサルナリ又捕獲艦「アリョール」ノ如キ其ノ非薄ナル裝甲部ハ裂碎セラレタレトモ其ノ主要裝甲部ハ全ク健全ナリシニアラスヤ其ノ他「オスラービヤ」及ヒ「アレク・サンドル」三世ハ多量ノ石炭糧食及ヒ彈藥ヲ滿載シ爲メニ吃水甚タ深クナリシヲ以テ高浪ハ跳リテ水線甲帶以上ノ破口ヨリ浸入シ防護甲板上ニ汜濫シ終ニ其ノ復原力ヲ傷ツケタルモノヽ如シ故ニ裝甲ノ配置方如何ニ關シテハ或ハ再考ヲ要スヘキ點アランモ知ルヘカラスト雖モ裝甲其ノ物ノ價値ニ至リテハ毫モ之カ爲メニ貶セラレサルナリ

此ノ海戰ノ經驗ニ徵シテ知リ得タル一事ハ輕砲ノ命中精度比較的不用ナルニアルモノヽ如シ就中浪荒キ海上ニ於テ二等巡洋艦ノ如キ動搖シ易キ艦上ヨリ發射スルトキハ殊ニ然リトス幾ト午後半日ヲ徹シテ南部ニ行ハレタル巡洋艦戰闘ニ就

テ考察スルニ其ノ戰術モ裝甲隊ニ於テ採リシ所ノモノト同一ナルノミナラス砲員ノ伎倆モ亦裝甲艦隊ノ乘員ニ比シテ優劣ナキニモ拘ラス一モ致命的結果ヲ生スルニ至ラサリシハ頗ル注意スヘキ事ニシテ戰艦及ヒ裝甲巡洋艦ノ作戰上ノ價値此ニ至テ益〻證明セラレタリ（編者曰ク通信員ハ結論トシテ「ヂヤパン、デーリー、メール」ノ社說欄内ニ譯載シアリタル日本海軍將校某氏ノ意見ヲ轉載シタルノミニテ別ニ之ニ評ヲ加ヘタルニアラサレハ之ヲ略ス）

八四　日本海々戰（兩軍主將ノ心算及ヒ合戰圖調製ノ困難）

（一九〇五年八月三十一日發刊「ネーヴァル、アンド、ミリタリー、レコード」所載）

吾人ハ東鄕提督カ三月上旬以來其ノ艦隊ノ所在ヲ韜マシタル根據地ヲ知ラサリシモ八月二十二日發刊「タイムス」ニ掲載セル在東京通信員ノ日本海々戰記事ニ由リテ始テ其ノ韓國南岸ノ鎭海灣ナリシコトヲ知レリ日本ニハ之ヲ知レル者數千ヲ以テ數ヘラレタルニモ拘ラス能ク秘密ヲ保チタリト云フ說アレトモ惟フニ虛說ナラン何爲ソ二三百ノ誠忠ナル海軍軍人ノ外斯カル多數ノ人々ヲシテ至重至要ナル艦隊ノ所在ヲ知ラシムル必要アランヤ或ハ曰ク日本ノ新聞記者ハ此ノ秘密ヲ探知セリト果シテ然ラハ我カ海軍當局者ハ之ニ由テ深ク學フ所アラサルヘカラサルナリ吾人ハ日本艦隊カ何月何日ニ對馬附近ニ移リタルヤヲ知ラサレトモ今之ヲ追究スル必要ナシ歐洲及ヒ米國ノ海軍將校カ日本艦隊ノ自國近海ニ戰場ヲ選定スヘキヲ豫想セシハ誠ニ當ヲ得タルモノニシテ惟フニロヂエストウエンスキー中將モ亦斯ク推定セシモノヽ如シ其以上ノ事ハ愈戰鬪ヲ交ユル當日マテ全ク五里霧中ニ在リシナリ「タイムス」通信員ハ東鄕提督カ「露國艦隊ハ浦鹽斯德ニ達スル直條航路ヲ採ルヘシ」トノ推斷ヲ基礎トシテ畫策セシハ多大ノ危險ヲ冒セルモノナリト曰フト雖モ吾人ハ之ヲ首肯セス東鄕提督ノ善謀善斷ハ萬人ノ許ス所ニシテ其ノ推斷ニ由テ敵ヲ對馬海峽ニ要セシハ決シテ冒險ノ擧ニ非ス彼ハ露國艦隊カ對馬ニ向フノ途中假ニ迂回航路ニ變スルトモ之ヲ他所ニ要スルノ成算確乎タルモノアリシカ故ニ泰然此ノ海峽ヲ扼セシナリ「タイムス」通信員ハ日本國民カ佛國中立條規蹂躙ニ就キテ激昂一方ナラサリシヲ傳フ成程ロヂエストウエンスキー中將ヲシテ途中ノ航海ヲ無事ニ仕遂ケ一時名聲ヲ嘖々タラシメタルハ一ニ佛國政府ノ好意中立ニ由レリト雖モ同政府ニシテ中立ヲ嚴守センニハ露國艦隊ハ遂ニ日本海ニ達スルヲ得ス從テ東鄕大將ハ之ヲ殄滅スルノ機ニ會セサリシナリ露國艦隊ノ決然佛領カンコーヘ港ヲ出發セシハ五月十六日ナルカ同艦隊ハ其ノ日マテ幾ト五週間安南沿岸ニ寄泊シ中立條規ヲ侵害シテ戰炭積糧其ノ他日本ノ存亡ニ關スル大海戰ヲ行フニ必要ナル各般ノ準備ヲ整ヘタリ吾人ハ如何ナル點ヨリ見ルモロヂエストウエンスキー中將ヲ以テ偉大ナル統率者ト做サス又卓絕ナル海軍將帥トモ認メス彼ハ唯露國一流ノ強情主義ヲ斷行シテ東航ヲ遂ケタルモノニシテ佛國政府ハ之ニ領海ヲ貸セシカ爲メ一時幾ト戰爭ノ渦中ニ卷込マレントシタリ又彼カ浦鹽斯德ニ達スル直條航路ヲ選ミタルハ誠ニ機宜ニ適ヘルモノニシテ其ノ目的ヲ達スル望ミ充分ナリシモ其ノ戰術ノ拙劣ナリシト砲手ノ未熟ナリシカ爲メ斯カル憫ムヘキ結果ニ逢著セシナリロヂエストウエンスキー中將ハ日本海ニ近ツクニ及ヒ其ノ率ヰ來レル特設船舶ヲ徐航セシメ之ヲ背後ニ殘セシカ是等船舶ノ五月二十五日揚子江口ニ現ルヽヤ日本ノ民心多少動搖シタリトノ說アレトモ東鄕大將ハ之ニ由テ敵艦隊ノ愈直條航路ヲ採ルコトヲ確メタルニ相違ナシ何トナレハ彼若シ迂回航路ヲ採ルトスレハ必ス此等ノ船舶ヲ伴ハサルヘカラサレハナリ又ロヂエストウエンスキー中將カ故ラニ徐航シテ對馬海峽ニ現ルヽ日ヲ後ラシタルコトハ結局二日間日本艦隊ヲシテ種々ノ疑惑ヲ惹起セシメタリトノ說アレトモ吾人ハ之ヲ信セス見ヨ日本ノ哨艦ハ敢テ遠ク南セス各其ノ指定セラレタル區域内ニ留リテ哨戒任務ヲ盡シタルニ非スヤ又日本艦隊ハ濟州島ト浦港トノ間ニ浩渺タル海面ヲ碁盤ノ目ノ如ク區劃シテ各區域ニ番號ヲ附シ以テ無線電信ノ信號ニ便ニシタリ是南方哨艦ノ一隻カ二十七日午前五時ニ敵艦隊「二〇三地點」ニ見ユトノ警報ヲ發電シタルヲ以テ知ル（ヘキナリ）東鄕大將ハ此ノ信號ニ由テ露國艦隊ノ來リタルコトヲ知リシト雖モ尙其ノ勢力ニ就テ疑ナキ能ハサリキ蓋敵艦隊司令長官ニシテ其ノ勢力ヲ分ツヲ利益トセハ自由ニ之ヲ分チ得ルヲ以テナリ而テ彼カ遂ニ之ヲ分タス爲メニ最良艦ノ速力ヲ二三節減スルノ已ムナキニ至リシハ吾人ノ認メテ以テ至當ノ處置ト爲ス所ナリ

吾人ハ此ノ海戰ニ於テ日本艦隊カ其ノ優等速力（幾ト三節）ニ由テ戰術上ノ利益ヲ得タルコトヲ否認スル者ニ非ス然レトモ熟考スルニ東鄕大將ハ其ノ攻擊セントスル敵ノ戰列ニ對シ自由ニ集彈發射シ平素論究セラレタル快速力ノ利ヲ遺憾ナク收メタルニハ相違ナシト雖モ之ニ由テ勝敗ヲ決シタルニアラス露國ノ砲手ニシテ精良ナランニハ全ク快速力ノ利ヲ

抹殺シタラシモ亦知ルヘカラサルナリ「タイムス」通信員ハ戰勢ヲ四期ニ分チ各期ニ於ル両艦隊ノ陣形ヲ圖解セリ其ノ圖解ノ正否ハ今俄ニ判スヘカラスト雖モ若シ之ヲ正確ナリトスレハ日露艦隊ハ其ノ優等速力ヲ利用シテ頗ル有効ニ集彈ヲ行ヒ得タルカ如シ凡交戰中陣形ヲ圖解スルハ極テ難事ニシテ數艦同時同刻ニ圖解ヲ取ルニアラサレハ正確ナルモノヲ編纂スルコト能ハストラファルガー海戰ノ陣形ニ就テ今尚海軍諸將及ヒ批評家ノ議論絶エサルヲ見テモ容易ニ之ヲ推知スルニ足ラン東郷大將ハ其ノ装甲艦(總計十二隻)ヲ二隊ニ分チ四戰艦ニ日進春日ノ二装甲巡洋艦ヲ加ヘテ第一隊ト爲シ他ノ六装甲巡洋艦ヲ以テ第二隊ト爲シ此ノ両戰隊ヲ以テ敵ノ先頭部隊ヲ攻撃シ又防護巡洋艦ノ戰隊ハ敵ノ同種戰隊ニ當ラシメタレハ装甲艦對装甲艦ト巡洋艦對巡洋艦トノ二種ノ戰闘起リタリ最初ノ著電ニヨレハ日本ノ装甲艦ハ二戰隊ニ分レ更ニ再分セラレタリトアレトモ其ノ誤報タリシコト後ニ至テ知ラレタリ露國艦隊ハ十二吋ノ巨砲ニ於テ日本ノ十六門ニ對シ二十六門ヲ有シ十吋砲及ヒ九吋砲ニ於テモ大ニ優數ナリシト雖モ八吋砲ニ於テハ日本ノ三十門ニ對シ僅ニ十三門ヲ有シ六吋砲ニ於テハ日本ヨリ少キコト三十九門ナリキ十二吋砲ノ發射速度ニ就テ日本將校ハ敵ノ一發ニ對シテ少クモ三發ノ割合ナリト打算シ露國將校モ其ノ然ルヲ認メタリ

「タイムス」通信員ハ東郷大將カ優等速力ニ由テ得タル利益ノ適例ヲ擧ケテ左ノ如ク言ヘリ

東郷大將ノ二戰隊ハ進ンテ露國艦隊ノ前路ヲ横切リショリ各艦何レモ露國ノ両先頭艦ニ集彈スルヲ得シモ露國ノ殿艦ハ其ノ砲ヲ敵ニ照準スルヲ得ス日本艦隊ハ戰術ニ卓絶スルコト毫モ砲術ニ譲ラサルコトヲ示シタリ云々忽ニシテ「オスラービヤ」「クニヤージ、スウオーロフ」ノ二艦ハ大火災ニ罹リテ列外ニ出テタリ此ノ時ロジエストウエンスキー中將ハ「ニコライ」一世外海防艦三隻ヨリ成ル後列ノ彈道ヲ遮蔽セサラント努メ日本ノ装甲艦戰隊ト並航スル爲メ東方ニ回頭驀進セシモ速力劣レル爲メ其ノ目的ヲ達セサリキ

吾人ハ在東京「タイムス」通信員ノ此ノ日本海戰闘詳報ニ關シブリッヂ、カスタンス両將ノ意見ヲ聽カンコトヲ欲スル者ナリ

人或ハ水雷艇隊ヲ以テ此ノ海戰ノ勝敗ヲ決セリト主張スルモノアリト雖モ日本將校ノ意見ハ唯其ノ勇敢ナル襲撃ヲ認メシノミニテ之ニ由テ此ノ大海戰ノ勝敗ヲ決シタルモノトセス其ノ水雷襲撃ハ露國艦隊ノ副砲及ヒ輕砲カ晝戰ノ砲力ニ由テ過半既ニ破壊セラレタル後ヲ受ケタルモノナリ日本装甲巡洋艦ノ中至大ノ損害ヲ受ケタルモノ二三隻アリ例令ハ春日カ八吋砲三門ヲ破壊セラレ吾妻カ修理ノ爲メ戰場ヲ退キタルカ如キ是ナリ東郷大將ハ此ノ海戰ニ於テ装甲巡洋艦ヲ戰艦ト殆ト同様ノ目的ニ使用セシモ右ノ如ク損害ヲ被リタルハ將來装甲巡洋艦ヲ戰線ニ用ヒテ戰艦ニ譲ラスト思惟スルノ不可ナルヲ敎フルモノニ非サルカネボガトフ少將ノ降服ニ就テハ日本將校ノ中「我若シ彼ノ位置ニ立タハ「キングストン」弁ヲ開キテ全艦ヲ沈メン」ト言フ者ナキニ非サレトモ概ネ彼ニ同情ヲ表シ居レリ

八五　日本海々戰

（一九〇五年十月發刊「エヂンバラ、レビウ」所載）

「天佑ト神助トニ因リ我カ聯合艦隊ハ五月二十七八日敵ノ第二、第三艦隊ト日本海ニ戰フテ遂ニ殆ト之ヲ撃滅スルコトヲ得タリ」トハ東郷大將カ此ノ偉大ナル海戰詳報ノ冒頭ニ掲ケタル文ナルカ此ノ海戰ハ我々英人カ本年本月百年祭ヲ擧行シタルトラファルガー海戰以後ノ最大海戰ト謂フヘシ實ニ去五月下旬對馬附近ニ於テ日本艦隊カ露國艦隊ヲ邀撃シテ獲タルカ如キ全捷ハ古來未タ曾テ之アラサル所ナルノミナラス又新式ノ海軍武器ヲ使用シテ其ノ効力ヲ十分ニ發揮シタルコトモ今回ノ日本海々戰ヲ以テ初ト爲ス此ノ記憶スヘキ戰争ニ關シテ日本政府ハ政略上今尚其ノ諸要點ヲ秘密ニ附シテ發表セサルヲ以テ吾人ハ其ノ詳細ヲ知ルニ由ナシト雖モ尚且其ノ大勢ヲ論シテ之ヲ讀者ニ紹介スルコトハ本記者ノ敢テ難シトセサル所ナリ

日本海ニ於テ此ノ如キ運命ニ遭遇シタル露國海軍中將ロジエストウエンスキーノ指揮下ニ屬セル大海軍力タル所謂婆羅的艦隊ノ事歴ハ今茲ニ詳説スルノ必要ナカルヘシ此ノ艦隊ハ太平洋第二艦隊ト稱セラレタルモノニシテ其ノ多クハ一九〇四年十月ヲ以テ露國ヲ發シテ絶東ヘノ航海中ドーバー海峡ノドッガーバンク沖ニ於テ永ク「北海事件」トシテ記憶セラル

ヘキ珍事ヲ惹起セシカ此ノ艦隊コソ即チロジエストウエンスキー中將ノ直接指揮セルモノニシテ長時日佛領マダガスカル島ニ滯留セシ後遂ニ同島ヨリ印度洋ヲ横キリ四月九日ヲ以テ新嘉坡ヲ通過セリ當時該艦隊ハ戰艦ヨリ補助巡洋艦及ヒ驅逐艦マテヲ合セテ軍艦二十六隻ト運炭船及ヒ其ノ他ノ附屬船十九隻トヨリ編制セラレタリロジエストウエンスキー中將カ斯ク雜種ナル艦船ヨリ成レル大艦隊ヲ率ヰテ無事此ノ長航海ヲ仕遂ケタルハ縱令平和ノ航海タリトスルモ同中將ノ爲メニ最多トスル所ナルニ況ヤ其ノ麾下各艦ニ乘組メル將校及ヒ兵員ノ不熟練ナルト不平心ヲ抱クモノヽ多數ナルトニ於テヲヤ嗚呼ロジエストウエンスキー中將ノ如キハ平和ノ時ナレハ如何ニ困難ナル勤務タリトモ能ク之ヲ達シ伎倆非凡ノ名聲ヲ博スルニ足ルト許セラルヽモ戰鬪ノ最高指揮官タル技能如何ノ試驗坩堝ニ入レラレ遂ニ捕虜ノ身トナレルハ記者實ニ同將ノ爲メニ一滴ノ涙ヲ忍フ能ハサルナリ實ニ海軍將官ノ戰爭ニ從事スルハ恰モ爐火上ノ試驗ヲ受クルト同一般ニシテ其ノ苦心ヤ想フヘシ

第二艦隊ハ佛領印度支那ノ安南海岸附近ニ滯留シテ遷延日ヲ送リネボガトフ少將ノ率ヰル第三艦隊ヲ待合ハセ居リシカ此ノ擧タル一交戰國カ其ノ敵ト交戰セソカ爲メ前進中ニ中立國ノ領海ヲ理不盡ニ使用シタルモノニシテ極テ重大ナル國際問題トナルヘキ性質ヲ有セリ若シ日本ノ大海戰ニ於テ露國ノ全敗ニ歸スルニアラサレハ必ス國際上紛爭問題トナリタルニ相違ナカルヘシ何トナレハ此ノ戰爭ノ勝敗ハ日本ニ取リテ實ニ國家ノ興廢ニ關スル重大事件ナレハナリ去レハ日本人カ某局外中立國ノ露國艦隊ニ長時日間ノ優待ヲ與ヘシヲ見テ深ク心ニ怨恨ヲ抱キシハ至當ノ事ナリト云フヘシ然モ彼等ハ平素ニ變ラス泰然自若ノ態度ヲ裝ヒ又高尙ナル精神ノ貴フヘキコトヲ世界ニ訓戒セリ

斯テ露國艦隊ハ五月十四日遂ニ中立國ノ領海ヲ出テ臺灣ノ南ヲ過キテパシー水道中ノパリンタン航路ヲ經テ太平洋ニ入リタリ(婆羅的艦隊ニ乘組メル一將校ノ言フ所ニ據ル)蓋ロジエストウエンスキーノ目的ハ早晩浦鹽斯德ニ達スルニアリタルヤ明ナリ而テ之ニ達スルノ航路四アリ其ノ一ハ北海道ノ北ヲ廻リテ宗谷海峽ヲ通航スルニアリト雖モ此ノ航路ハ行程長ク從テ多額ノ石炭ヲ要スルヲ以テ到底實行シ難シ第二ハ北海道ト日本本陸トノ間ナル津輕海峽ヲ通航スルニアリ

此ノ航路ハ露國艦隊ノ實際取リタル朝鮮海峽航路ニ比スレハ長キコト僅々八百五十海里ニ過キス且露國艦隊ハパシー水道ニ入ルマテハ其ノ伴ヒ來レル運炭船ヨリ給炭セシヲ以テ是等各艦ノ航續力ハ優ニ該艦隊ヲシテ此ノ航路ヲ通過セシムルヲ許スヘク加フルニ朝鮮海峽ヲ通過セル爲メニ崇リタル幾多ノ不利益中其ノ二三ヲモ免レタルナラン朝鮮海峽ハ臺灣水道若クハ該島東方ノ航路ヨリ近ツクヲ得ヘク而テ其ノ距離ノ差ハ二者甚タ大ナラスシテ臺灣東方ノ航路即チロジエストウエンスキーノ選ヒタル航路ハ臺灣水道ヲ取ルノ航路ニ比シテ距離ノ長キコト僅ニ百海里ニ過キサルナリ

日露戰爭中日本カ哨艦ヲ配備シテ敵情ヲ偵察シ其ノ行動ヲ報道セシメタル手際ハ實ニ巧妙ヲ極メタリロジエストウエンスキーカ浦鹽ニ達セソ爲メ朝鮮海峽ヲ通過セントスルノ計畫ハ日本既ニ之ヲ明察シ居タリトハ屢諸新聞(無論外國人)ニ掲ケラレタル所ナレトモ是必スシモ然ラス日本ハ苟モ大事ヲ圖ルニ當リ毫モ僻見ヲ懷カス是其ノ推察肯綮ニ中リ作戰ノ好結果ヲ得ル所以ナリ日本ハ敵ヲ監視シ其ノ行動ニ關スル情報ヲ送致スルニ當リ興味ナキモ而モ信憑スヘキ方式ヲ以テス日本ハ日本海軍ノ事情ヲ知悉セル人々ノ豫期セル通リロジエストウエンスキー及ヒ其ノ艦隊ヲ哨戒スルニ一種特別ノ手段ヲ執レリ日本側ノ報道ニヨレハ日本ハ一部隊ヲ其ノ主力艦隊ノ先頭部隊トシテ臺灣諸水道ニ配備シテ敵ノ擧動ヲ視察セシメタリ而テ該先頭部隊ノ司令官ハ露國艦隊ノバシー水道ヲ通過スルヲ視ルヤ直ニ朝鮮海峽ニ向フコトヲ確知セシヲ以テ成シ得ル限リ之ヲ追尾シ行々各處ノ信號所及ヒ電信局ニ敵情ヲ通報セリ依テ朝鮮海峽ニ全力ヲ集中シタル日本ノ主力艦隊ハ此ノ警報ニ接スルト同時ニ敵艦隊ノ來ルヘシト豫期セル方面ニ向ケテ直ニ哨艦ヲ派遣セリ

抑露國艦隊ノ安南海岸ヲ發シタリトノ報香港ニ達セシハ五月十七日ナルヲ以テ日本ハ遲クモ其ノ頃迄ニハ既ニ之ヲ知リタルニ相違ナシ次テ十九日露國艦隊ハバシー水道ヲ通過セシカ此ノ日ハ天候穩ナリシヲ以テ洋中ニテ載炭シ二十、二十一ノ兩日ハ東方ニ進行シ二十二日又晴天ナリシヲ以テ再載炭シテ北方ニ轉シ二十四五日ノ頃呉淞近傍ニ達シ此ニテ諸運送船ヲ上海ニ送リタリロジエストウエンスキー艦隊ノ安南海岸ヲ發シテ以來日本艦隊ハ哨艦ノ手段ニヨリ敵ノ行動ニ注意スル所アリ五月二十六日(或ハ前日)朝鮮海峽ノ入口ヲ距ル三百海里餘ナル舟山列島ノ北方馬鞍群島ニ於テ二十七隻ヨ

リ成ル露國艦隊ヲ目撃セリトノ上海電報香港ニ達セシヨリ考フレハ日本ハ既ニロジエストウエンスキーノ朝鮮海峡ヲ通過スルノ心算ナルコトヲ知リタルニ相違ナキヲ以テ是ヨリ日本ノ知ラント欲スル所ハ露國艦隊ノ朝鮮海峡ニ現ル丶日時ト敵艦隊カ該海峡ノ東西両水道中何レヲ選ンテ通過スルヤノ問題是ナリ

五月二十七日午前五時日本哨艦ノ一隻信濃丸（此ノ哨艦ハ其ノ名ニヨリ雇上商船ナルヲ知ル）ハ濟州島ノ南方ニ於テ敵ノ先頭部隊ヲ發見シ直ニ無線電信ヲ以テ敵ハ對馬ト日本トノ間ナル東水道ニ向フモノ丶如シト東郷大將ニ警報シ午前七時頃内方警戒線ノ左翼哨艦タリシ巡洋艦和泉モ亦敵艦隊ヲ發見シテ既ニ宇久島（對馬ノ南約四十六海里）ノ北西二十五海里ノ地點ニ達シ北東ニ航進スルヲ報シ片岡中將ノ率ヰル艦隊出羽中將ノ率ヰル戰隊續テ東郷少將（正路）ノ率ヰル戰艦モ午前十一時頃壹岐、對馬ノ間ニ於テ敵艦隊ト觸接セリ日本側ノ通信ニ從ヘハ片岡艦隊ハ有力ノ戰艦ヨリ成ラサルモノ丶如ク實際舊式ニシテ速力頗ル遲キ巡洋艦松島及ヒ橋立（露國官報ニ據ル）ノ外ニ嚴島及ヒ和泉ヨリ成リ出羽戰隊及ヒ東郷戰艦ハ千歳、新高、音羽、須磨、秋津洲等ノ中等大若クハ小形ノ快走巡洋艦ヲ以テ組織セラレ而テ出羽中將ノ旗艦ハ笠置ナリキ斯テ露國艦隊ハ是等戰隊ニ向テ砲火ヲ開キ之ヲ擊退シ得タリト思惟セシモ豈圖ラン日本戰隊ノ退キシハ露國艦隊ヲ朝鮮海峡近クニ誘致スルノ策ナラントハ日本人曰ク片岡中將ハ露國艦隊ヲ欺キテ陷穽ニ誘ヒタリト蓋ロジエストウエンスキーカ朝鮮海峡ノ通航ヲ企テタルコトハ既ニ明ナルヲ以テ日本戰隊ノ退去ハ或ハ實策ニアラサリシヤモ知ルヘカラスト雖モ此等ノ諸隊カ極テ重要ナル報道ヲ東郷司令長官ニ通報スルヲ得タルハ確ナル事實ナリ去レハ東郷司令長官ハ片岡出羽及ヒ東郷（正路）等ノ此ノ行動ニ關シテ左ノ如キ言ヲ爲セリ

是等ノ諸隊ハ時々敵ノ砲擊ヲ受ケシモ沖ノ島附近ニ至ルマテ始終能ク之ト觸接ヲ保持シ詳ニ時々刻々ノ敵情ヲ電報セシカハ此ノ日海上濛氣深ク展望五海里以外ニ及ハサリシモ數十海里ヲ隔ツル敵影恰モ眼界ニ映スルカ如ク未タ敵ヲ見サル前既ニ敵ノ戰列部隊ハ其ノ第二、第三艦隊ノ全力ニシテ特務艦船約七隻ヲ伴フコト敵ノ陣形ハ二列縱陣ニシテ其ノ主力ハ右翼列ノ先頭ニ占位シ特務艦船ハ後尾ニ續行セルコト又敵ノ速力ハ約十二節ニシテ尚北東ニ航進セルコト等ヲ知リ本職ハ之ニ依リ我カ主力ヲ以テ午後二時頃沖ノ島附近ニ敵ヲ迎ヘ其ノ左翼列先頭ヨリ擊破セントスル心算ヲ立ツルヲ得タリ

露國艦隊ノ行動ニ就テハ我輩未タ知ルコト多カラスト雖モ日本艦隊カ周到ナル偵察ト無線電信ノ巧妙ナル使用トニヨリテ得タル利益ノ明確ナルヲ視ハ我輩ハ露國艦隊カ何故ニ両ナカラ之ヲ用ヒサリシヤヲ驚カサラント欲スルモ得ザルナリ露艦中無線電信器械ヲ備ヘタルモノアルニモ拘ラス之ヲ使用シテ敵情ヲ通報シタル一徴證タモアラサルノミナラス敵ノ通信ニ妨碍ヲ加ヘタル形跡スラアラサリシナリ

已ニシテ日露艦隊ハ互ニ相接近シ來レリ我輩ハ茲ニ彼我艦隊ノ勢力ヲ揭ケテ讀者ニ示スヲ必要ト思考ス露國ノ海軍力ニ就テハ東郷司令長官ノ公報中各露艦ノ名稱ハ勿論戰鬪ニ參加シタル補助船舶ノ名稱ニ至ル迄悉ク揭ケアリシヲ以テ我輩ハ頗ル詳ニ之ヲ知ルヲ得タリト雖モ日本艦隊ノ勢力ニ至リテハ爾ク容易ニ之ヲ知ルコト能ハス蓋此ノ回ノ日露戰爭ニ於テ日本カ巧ニ軍事ノ秘密ヲ保チタルハ日本ノ戰捷ヲ博シタル一大要素ニシテ日本ハ今ニ至ルモ尚全ク此ノ政略ヲ廢セサルナリ然レトモ東郷大將ノ公報及ヒ將校下士卒ノ死傷報告ニ依リ各艦ノ名稱ヲ拾集セハ巡洋艦以上ノ日本軍艦ニシテ此ノ戰鬪ニ參加シタルモノニ對シ精密ノ表ヲ調製スルコト敢テ難カラサルヲ信ス兎ニ角實際存在セサリシモノヲ算入スルカ如キコトアラサルヘシ然レトモ驅逐隊及ヒ水雷艇隊ニ至リテハ我輩ノ殊ニ調査ニ苦ム所ナリ何トナレハ負傷及ヒ戰死者ノ報告及ヒ東郷大將ノ公報中驅逐艦ハ或場合ニハ其ノ名ヲ記載シアルモ大抵ハ其ノ所屬艇隊ノ番號ニテ記載シアリ殊ニ水雷艇ニ至リテハ其ノ名ヲ記載スルコト稀ニシテ唯二三ヲ除クノ外ハ唯何々艇隊所屬ノモノトシテ記載アルノミナレハナリ而テ一艇隊ニ屬スル艇數ニ就テハ未タ何等ノ報ニモ接セス想フニ其ノ艇數ハ各隊相等シカラサルカ如シ今試ニ一個艇隊ノ艇數ヲ内輪ニ算シ各隊三艇編成ノモノト見做シテ日本水雷艇隊ノ全力ヲ合計セハ敢テ甚シキ違算ナキニ近カランカ露國側ノ報告ニハ或ハ四十隻乃至六十隻ト算シ或ハ七十隻乃至九十隻トセルモノアリ日露兩艦隊ノ比較的戰鬪力ヲ成ルヘク正確ニ計算センカ爲メ此ノ二艦隊ヲ組織セル軍艦ヲ艦種ニ隨テ分ツコト左ノ如シ

露國
- 戰艦（新式）五隻「クニヤージ、スウオーロフ」「アリヨール」「アレクサンドル」三世「ボロヂノ」「オスラービヤ」
- 戰艦（舊式）三隻「ナワリン」「シソイ、ウエリーキー」「ニコライ」一世
- 海防艦三隻「アドミラル、アプラクシン」「アドミラル、ウシヤーコフ」「アドミラル、セニヤーウヰン」
- 裝甲巡洋艦（舊式）三隻「アドミラル、ナヒーモフ」「ドミトリー、ドンスコイ」「ウラヂーミル、モノマーフ」
- 防護巡洋艦（新式）六隻「アウローラ」「オレーグ」「ジエムチウグ」「イズムルード」「スウエトラーナ」「アルマーズ」

日本
- 戰艦（新式）四隻 三笠、敷島、朝日、富士
- 戰艦（舊式）一隻 鎭遠
- 裝甲巡洋艦（新式）八隻 日進、春日、吾妻、出雲、淺間、常磐、磐手、八雲
- 防護巡洋艦（新式）七隻 千歲、笠置、對馬、新高、音羽、須磨、明石
- 同（舊式）六隻 橋立、嚴島、松島、浪速、秋津洲、千代田
- 小巡洋艦二隻 千早、龍田
- 通報艦一隻 嚴

日本ノ軍艦中通報艦ヲ除ケハ其ノ二十八隻ニ對シ露國ノ軍艦二十隻ナルヲ見ル

露國驅逐艦
- 「ブイヌイ」「ベドウイ」
- 「ブイスツルイ」「グロームキー」
- 「ボードルイ」「ブレスチヤーシチー」
- 「グローズヌイ」「ブラーウイ」
- 外ニ一隻（名不詳）

日本驅逐艦
- 朝霧、薄雲、曙、朧、不知火、吹雪、
- 叢雲、漣、曉、陽炎、白雲、夕霧、
- 雷

水雷艇隊第十一箇隊
- 第一、第七、第九、
- 第十、第十一、第十五、
- 第十六、第十七、第十八、
- 第十九、第二十、

合計約三十三隻

以上記スル所ノ軍艦ノ外雙方トモニ特務船若干隻ヲ有セリ露國側ニ於テハ特務船ノ一隻ヲ假裝巡洋艦ニ仕立テ一隻ハ工作船ニ用ヒ他ノ一隻或ハ二隻ハ曳船ニ用ヒタリ此等ノ艦船中幾隻ハ擊沈セラレ又各船何レモ砲擊ヲ受ケ其ノ過半ハ將校及ヒ兵員ニ死傷ヲ生セシヲ以テ是等ノ船舶及ヒ乘員モ比較勢力ノ中ニ算入シ其ノ損害ヲ公報ノ總計ニ加ヘサルヘカラス露國ハ上記ノ外ニ病院船二隻ヲ有セシカ何レモ日本ノ爲メニ捕獲セラレテ引致セラレ其ノ一隻ハ國際法違反ノ爲メニ差押ヲ受ケ他ノ一隻ハ解放セラレタリ

露國
- 「カムチヤーツカ」
- 「イルツイシ」
- 「アナヅイリ」
- 「ルス」「コレーヤ」
- 「スウォーリ」

日本
- 熊野丸、滿州丸
- 亞米利加丸、春日丸
- 信濃丸、臺南丸
- 八幡丸

露軍ハ艦隊ニ隨航セル四隻ノ運送船及ヒ曳船二隻ヲ以テ艦隊ノ行動上大ナル妨碍トナリタリトテ頗ル不平ヲ唱フレトモ日本ハ啻ニ其ノ特務船ニ對シ何タル不平ヲモ唱ヘサルノミナラス其ノ一タル信濃丸ノ如キハ五月二十七日早朝敵ヲ發見シテ之ヲ通報シタル功績ニヨリ其ノ乘組員ハ日本陸海軍ニ於テ特ニ名譽トスル所ノ感狀ナルモノヲ授ケラレタリ

日露兩艦隊ノ裝備セル砲熕ハ驅逐艦及ヒ特務船ヲ除ケハ左ノ如シ

砲種	露國	日本

一二吋	二六	二三
一〇吋	七	三
九吋	一二	〇
八吋	一二	四
六吋	二五一	一九二
四吋七	三八	九八

是ニ由テ之ヲ觀レハ中口徑及ヒ輕砲ニ關シテハ日本大ニ露國ニ優ルモ重砲ニ於テハ露國大ニ日本ニ優ルヲ知ル又露國ノ十二吋砲二十六門ノ內十門ハ舊式戰艦三隻ニ配備シアレトモ新式戰艦四隻ニ於テハ何レモ日本ノ戰艦ト同シク各隻四門宛裝備シアルハ頗ル注意スヘキ事ナリ然レトモ新式軍艦ノ攻擊具ハ獨リ砲熕ノミニアラス水雷發射管ノ如キモ亦攻擊ノ一要具ニシテ雙方ノ戰艦共ニ之ヲ裝備セルノミナラス巡洋艦モ亦日本ノ巡洋艦二三隻ヲ除ク外ハ一トシテ此ノ兵器ヲ備ヘサルモノナク露國ハ九十四門ヲ有シ日本ハ九十七門ヲ有セリ然ルニ我輩ノ知ル所ニ由レハ二日間ニ亙レル戰鬪中一箇ノ水雷タモ此ノ百九十一門ノ何レヨリモ發射セサリシカ如シ假ニ之ヲ發射シタリトスルモ其ノ水雷ニシテ敵ニ損害ヲ加ヘタルモノハアラサリシナリ要スルニ戰艦及ヒ巡洋艦ニ水雷發射管ヲ裝備セシ爲メ是等軍艦ノ內部設計ニ少カラサル變更ヲ來シ爲メニ軍艦製造ノ費額ヲ大ニ增加スルノ一原因トナリタリ元來各軍艦ニ水雷發射管ヲ使用スルコト、ナリシハ米國南北戰爭中敵艦ノ水線下ニ於テ爆發シタル水雷ノ效力偉大ナリシ事實ヲ目擊シタリトノ甚タ曖昧ナル理由ニ基クモノナリ

日露兩艦隊ノ戰艦ハ最新製ノモノト雖モ艦首ニ撞頭ヲ附シタリ是敵艦ヲ衝破スルノ用ニ備ヘタルモノナレトモ雙方共此ノ撞頭ヲ以テ嘗ニ一回タモ衝擊ヲ試ミタルコトナキノミナラス今回ノ海戰ハ勿論此ノ全戰役中此ノ種ノ攻擊法ヲ用ヒンヘトノ考タモ起サ、リシカ如シ是亦リッサノ海戰ニ起リタル出來事ヨリ輕卒ノ推斷ヲ下シ殆ト四十年間モ軍艦中最貴重ナル艦種ニ撞頭ヲ備フルカ如キ無用ノ設計ヲ爲シ來レルモノナリ

日露兩艦隊ノ人員ニ至リテハ彼此ノ間ニ大ナル逕庭アリ即チ左ノ如シ

	露國	日本
軍艦	一〇、二八九人	一二、四一四人
特務船	一、六〇〇概算	一、八〇〇概算
驅逐艦	五二八	八二〇
假裝巡洋艦	三五〇概算	〇
水雷艇	〇	七四八
合計	一二、七六七	一五、七八二

朝鮮海峽ニ近キ一地點ハ戰略上種々ノ利益アルヲ以テ日本艦隊カ此ノ地點ヲ選ヒテ敵ノ近ツクヲ待ツハ素ヨリ必然ノ事ニ屬ス而テ該地點ノ有スル大利益ハ重要ナル佐世保軍港及ヒ造船廠ニ近キ處ニ在ルコト是ナリ對馬ヨリ浦鹽港ヘノ距離ハ津輕海峽ヨリ同港ニ到ルノ距離ニ比シテ大ナル差異アラサルコトモ亦其ノ一利タリ若シ日本艦隊ニシテ此ノ地點ヲ本據トセンカ日本聯合艦隊司令長官ハ日本海岸各地トハ勿論日本南西ノ諸島トモ電信交通ヲ爲シ得ルノミナラス其ノ哨艦及ヒ先頭部隊モ亦敵ノ津輕海峽ニ向フヲ發見スルニ及ヒテ早ク之ヲ司令長官ニ通報スルヲ得ヘシ殊ニ朝鮮海峽中ノ一地點ヲ根據トセハ其ノ艦隊ヲシテ內方警戒線上ヲ行動シ得セシムルノ利益アリ日本艦隊カ此ノ地點ヲ選ヒテ根據トセシマテニハ幾多ノ熟慮ヲ費セシニ相違ナク殊ニ我ノ行動ヲ敵ニ隱スノ難易如何ノ如キハ最熟慮ヲ費シタル要件タリシナラン何トナレハ此ノ地點ハ諜報ヲ受クルニ差支ナキト同時ニ本國トノ電信交通容易ニシテ而モ倘船舶ノ出入ヲ防止シテモ格別目立タサル程ニ通常航路ヲ外レタル地ニシテ始テ此ノ要件ヲ達シ得レハナリ而テ此ノ各要件ヲ實行シテ遺憾ナカラシムルノ地點ハ我カ諸新聞紙ノ所謂鎭海灣ナル一大澳ニシテ其ノ位置ハ朝鮮南岸馬山浦近傍ニ在リ此ニ潜伏スル艦隊ハ亘

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

濟島ノ爲メニ掩ハレ決シテ其ノ沖ヲ通過スル外國艦船ニ視認セラルヽノ虞アラサルナリ東郷大將ハ豫テ艦隊ヲ率ヰテ此ニ潛伏シ五月二十七日早朝其ノ哨艦及ヒ偵察艦ヨリ敵將ロジエストウエンスキーノ艦隊濟州島ノ南ニ現レタリトノ警報ヲ聞クヤ直ニ鎭海灣ヲ發シ朝鮮海峽ノ東水道ヲ距ル約八海里ノ點ヲ指シテ該水道ニ向ヒ（其ノ航程六時三十分間ヲ要スト云フ）次テ沖ノ島ノ北約十海里ノ處ヲ指シテ進ミ其ノ直率セル主戰艦隊ハ上村中將直率ノ裝甲巡洋艦瓜生中將ノ戰隊（瓜生中將ノ旗艦ハ舊式巡洋艦浪速）及ヒ各驅逐隊ト共ニ正午頃該地點ニ達シタリ此ノ日ヤ南西ノ風強クシテ浪高ク加フルニ海上濛氣深カリシト雖モ五海里ヲ隔ツル敵艦ヲ認ムルヲ得タルノミナラス尙夫ヨリ以外七八海里（露艦ヨリ發射シタル砲彈ノ射距離ニヨリテ敵ノ七八海里ヲ隔ツルヲ證セリ）ノ處ニ居リタル敵影モ大概視界ニ入リタリ東郷大將ノ公報ニ曰ク「此ノ日海上濛氣深キヲ以テ縱令砲煙及ヒ煤煙ナクトモ展望五海里以外ニ及ハサリシ」ト海上ノ模樣斯ノ如クナリシヲ以テ東郷大將ハ其ノ直率セル驅逐隊及ヒ艇隊ヲ對馬三浦灣ニ退去避泊セシメタリ

日本艦隊ハ初メ東方ニ進航シツヽアリシカ敵ノ左翼ニ出テンカ爲メ更ニ西方ニ針路ヲ執リ午後一時三十分頃出羽中將ノ率ヰル笠置（旗艦）千歲及ヒ其ノ他ノ諸艦ト合シタリ而テ片岡中將ノ巡洋艦隊ハ尙敵ト觸接ヲ保チツヽ漸次進ミ來レリ此ノ時海上ハ尙波濤荒ク（但夕刻ニ至リ風ハ大ニ和ケリ）驅逐艦及ヒ水雷艇ヲシテ其ノ効力ヲ顯サシムルコト能ハサリシヲ以テ戰鬪ノ初期ハ彼我互ニ砲擊ニテ勝敗ヲ決セントセリ午後一時四十五分ニ至リ東郷大將ハ前ニ記セル如ク西ニ轉進シツヽアル間ニ其ノ左舷ニ當リ南方數海里ニ始テ敵影ヲ發見セリ

此ノ時敵ノ主隊ハ二列縱陣ニシテ其ノ右翼列ノ先頭ニ「ボロヂノ」型戰艦四隻ヲ置キロジエストウエンスキー中將ノ旗艦「クニヤージ、スウオーロフ」之カ先頭ニ占位シ而テ「オスラービヤ」（フエリケルザム少將旗艦）ハ舊式戰艦「シソイ、ウエリーキー」「ナワリン」ノ二隻及ヒ舊式裝甲巡洋艦「アドミラル、ナヒーモフ」ヲ率ヰテ左翼列ノ先頭占位シ「ニコライ」一世及ヒ海防艦三隻ヨリ成ル一隊之ニ次キ「ジエムチウグ」「イズムルード」ノ二艦ハ兩列ノ間ニ介立シ尙其ノ後方濛氣ノ中ニ「オレーグ」「アウローラ」以下二三等巡洋艦ヨリ成ル一隊ト「ドミトリー、ドンスコイ」「ウラヂーミル、モノマーフ」其ノ他特務船等數海里ニ亙リテ連綿續航スルヲ仄ニ認ムルヲ得タリ蓋ロジエストウエンスキーカ其ノ艦隊ノ主力（東郷大將ト同シク中將自カラ之ヲ直率ス）ヲ右翼列ニ置キシ所以ハ敵ハ必ス我カ右翼ヲ攻擊シ左翼ニ出テサルヘシト豫期シタルカ故ナリト思フモノアレトモ實際ハ然ラス艦隊ノ首將タル者ハ航海上一般ニ善ク知ラレタル理由ニ基キ己ハ濱岸即チ水路上ノ危險最多キ方ノ列ニ占位スルノ習慣ニ從ヒ右ノ如ク爲シタルモノト思フ方事實ニ近シ何トナレハ朝鮮海峽ノ東水道ヲ經テ北東方ニ進航スル艦隊ノ左翼列ハ對馬ヲ除クノ外ハ左方一圓ニ渺茫タル海洋ナル右翼列ハ其ノ右方ニ日本ノ延長海岸及ヒ五島列島ト壹岐トノ間ニ數多ノ擴延セル離險ヲ控ヘ濃霧ノ時ニハ特ニ恐ルヘキモノナレハナリ斯クロジエストウエンスキー中將ハ其ノ艦隊ヲ二列縱陣ニ制リテ進行スルコトニ決セシモ未タ敵ノ攻擊セントスル點ノ何レニアルヤヲ確ムルコト能ハサルヲ以テ自己直率ノ主力ヲ右翼列ニ置キタルハ適當ノ處置ヲ爲シタルモノナリ

午後一時五十五分東郷大將ハ戰鬪開始ヲ令シ次テ左ノ記憶スヘキ信號ヲ揭揚セリ

皇國ノ興廢此ノ一戰ニ在リ各員一層奮勵努力セヨ

此ノ信號ハ今ヲ距ル百年前トラファルガーノ戰鬪開始ノ時ネルソンノ揭揚シタル信號ト相竝ヒテ兩々其ノ美ヲ競フモノト言フヘシ

日本ノ戰艦及ヒ裝甲巡洋艦合計十二隻ハ特設ノ一群團ニ編制セラレタリ即チ三須少將（此ノ戰鬪中後ニ負傷セリ）ノ率ヰル裝甲巡洋艦日進春日ノ二隻ハ戰艦々隊ノ一部ヲ成セリ上村中將ノ率ヰル他ノ裝甲巡洋艦六隻モ之ニ加リ戰鬪ノ初期ニ於テハ戰艦々隊ト共ニ働ケリ東郷大將ハ戰艦ト裝甲巡洋艦トヲ聯合シテ一隊ト爲シ以テ多數ノ各種戰艦ヲ有スル敵ノ優越セル勢力ヲ減殺セリ

午後二時四十五分即チ戰鬪開始後三十七分ニ至リ東郷大將ハ勝敗ノ機既ニ決セリト言ヘリ嗚呼巧妙練達ナル戰術家ノ指揮ノ下ニ訓練宜シキヲ得タル兵員ノ使用セル新式海軍武器ノ力モ亦大ナラスヤ

露國艦隊ノ左右兩列ハ日本艦隊ヨリ其ノ先頭部隊ニ向ケラレタル照準正確ナル集中砲火ニ堪ヘス遂ニ其ノ進航シツヽア

リタル北東ノ針路ヨリ初ハ東方ニ次ニハ南東ニ壓迫セラレタリ午後三時東郷大將報スラク「我カ主力隊ハ既ニ敵ノ前路ニ出テタリ」ト吾人ハ此ノ言ニ略彼我兩艦隊ニ於ル速力ノ差ヲ推知スルヲ得ルナリ初メ露國ノ先頭部隊ハ六海里餘ノ射距離ニ於テ砲火ヲ開始シ次テ兩軍約四十五度ヲ離レテ漸次一點ニ會スルノ針路ヲ取リツヽ進ミ射距離六千米突ニ入ルニ及ヒテ日本ノ主戰艦隊初テ砲火ヲ開キテ敵ノ前路ニ出テシカ其ノ間時ヲ費スコト五十二分露國ノ全隊ヲシテ不規則ナル單縱陣ヲ形成セシメタリ蓋二三ノ日本側報告ニ曰ヘル如ク大砲ノ射距離カ二千米突若クハ二千五百米突ニ短縮シタルハ多分此ノ時ナリシナラン要スルニ露國艦隊ノ針路ニシテ其ノ前針路即チ約北東ヨリ多少外方ニ逸出シタリトスルモ日本軍艦カ其ノ前路ニ出テント欲シテ費シタル時間(約五十二分)ニ依リ日本軍艦ノ速力ハ露國軍艦ノモノヨリ大ナリトノ徴證ト爲スヲ得ス

初メ東郷大將ハ上村中將ノ裝甲巡洋艦隊六隻ヲ自己ノ主戰艦隊ニ合シタレトモ尙同中將ニ相當ノ自由行動ヲ執ルコトヲ許シタリ是ヲ以テ上村中將ハ概シテ聯合艦隊司令長官ノ行動ニ從フト同時ニ自己直率ノ裝甲巡洋艦隊ヲ操縱シテ一時戰艦々隊ノ陣列ト殆ト直角ヲ爲セシカハ日本軍ハ恰モ一正方形ノ兩側ニ沿航シ露軍ハ斯シテ造ラレタル陷角以內ニ在リテ二方面ヨリ挾擊セラルヽコトヽナレリ

曩ニ兩軍戰艦ノ間ニ戰鬪開始セラルヽヤ片岡、瓜生、出羽及ヒ東郷(正路)ハ何レモ戰艦々隊ト分離シテ各自其ノ率ヰル所ノ巡洋艦ヲ以テ敵ノ巡洋艦ニ當リタリ故ニ日本ノ各巡洋艦ハ豫定ニ準シテ南方ニ進航シ以テ前進シ來レル敵ノ後尾ヲ壓迫セリ此ノ際出羽、瓜生兩戰隊ハ始終共同連繫シテ先ツ「オレーグ」「アウローラ」「スウエトラーナ」「アルマーズ」ノ快走巡洋艦及ヒ「ドミトリー、ドンスコイ」及ヒ「ウラヂーミル、モノマーフ」ノ速力緩慢ナル巡洋艦ヨリ成ル敵ノ巡洋艦隊ニ對シテ反航戰ヲ開始シ漸次敵ノ後尾ヲ衝ケリ此ノ時日本巡洋艦ノ優等ナル速力ヲ利用セシコトニ關シ東郷大將ノ公報ニ曰ク出羽、瓜生兩戰隊ハ屢艦首ヲ轉シ或ハ敵ノ左ニ現レ又ハ其ノ右ニ回リ約三十分間攻擊ヲ持續セリト日本巡洋艦ノ優等ナル速力ニ就テハ新聞通信員ノ報道ニ係ル日本海軍將校ノ談話中ニモ屢記載シアルヲ見タレトモ東郷司令長官カ優等ナル速力ニ對シ特ニ注意ヲ向ケラレタルハ同司令長官ノ公報中唯此ノ一章ノミナリ蓋船齡既ニ十九歲ノ浪速ノ如キ巡洋艦カ二十節ノ「アウローラ」「オレーグ」及ヒ二十三節ノ「アルマーズ」(日本艦隊中ニハ此ノ如キ速力ヲ有スル巡洋艦一隻モナシ)ト對峙シ敵艦ヲ苦境ニ陷ラシメシヲ見テ日本巡洋艦ノ速力敵艦ヨリ優レリト推斷セシハ强チ無理ナラス而テ此ノ砲擊ノ効力ノ如何ニ大ナリシヤハ東郷大將ノ公報中ニ「アウローラ」ト見エタル敵艦單獨敵中ヨリ突進シ來リシモ我カ猛射ニ多大ノ損傷ヲ負フテ擊退セラレタリトアルヲ以テ判知シ得ヘシ又午後三時後「ヂエムチウグ」モ亦日本戰艦々隊ニ向ヒ大膽ナル突擊ヲ試ミタリ露國軍艦ノ此等ノ働キハ一九〇四年ノ旅順沖ニ於ル露艦「パヤーン」及ヒ「ノーウヰク」ノ行動ニ比スヘキモノニシテ露國海軍ノ巡洋艦々長中ニハ如何ナル海軍國ニモ誇ルニ足ルヘキ人物アルヲ示セリ又同時頃露國驅逐艦三隻突擊ヲ企テタリシモ亦爲ス所ナカリキ

此ノ海戰ニ於テ露國巡洋艦ノ働キハ頗ル頑强ナリキ瓜生中將ノ旗艦浪速ハ後部水線ヲ擊タレテ一時避戰スルノ止ムヲ得サルニ至リ日本巡洋艦中ノ最大快走艦ニシテ出羽中將ノ旗艦タリシ笠置モ左舷炭庫ニ一彈ヲ蒙リ浸水甚シキヲ以テ修理ノ爲メ千歲ニ護送セラレ波浪靜ナル處ニ行クノ止ムヲ得サルニ至リシモ急速修理ヲ施スコト能ハサルヲ以テ出羽中將ハ一時油谷灣ニ赴キ將旗ヲ千歲ニ移シテ再戰鬪ニ參加シタリ

日本軍艦ハ二三巡洋艦ヲ除ク外一モ其ノ運動力ヲ失ヒタルモノナキヲ以テ自在ニ行動シテ處々ニ離散彷徨セル敵ノ敗艦ヲ搜索追擊スルヲ得タリ日本側ニ於テ此ノ運動自在力ヲ保チタルハ其ノ價値敵ヨリモ優等ナル速力ヲ有シタルニ均シ或ハ一層之ニ勝レリト謂ハサルヘカラス是往々運動自在力ヲ優等速力ト誤解スル所以ナリ

東郷大將曰ク夕刻ニ至リテ風較和キシモ波尙高ク洋中ノ水雷攻擊ハ我ニ不利尠カラサリシト此ノ言以テ當初日本側ニ於ル水雷攻擊ノ失敗ニ歸セシ所以ヲ證明ス露國公報ニ據レハ日本驅逐艦ノ行ヒタル最初ノ水雷攻擊ハ何等ノ効果ヲ奏セス午後十時マテハ一回モ爆發セサリシト東郷大將モ亦午後十一時迄ハ水雷攻擊ノ實効ヲ奏セサリシコトヲ示シテ曰ク敵ハ日沒ヨリ探照砲火ヲ以テ極力防戰セシモ遂ニ我カ攻擊ニ堪ヘス其ノ僚艦相失シテ四分五裂ノ狀態トナリ各血路ヲ求メテ

遁逃セシモ我カ襲撃隊之ヲ追蹑シテ玆ニ一塲ノ大混戰ヲ現出シ少クモ敵ノ戰艦「シソイ、ウェリーキー」巡洋艦「アドミラル、ナヒーモフ」「ウラヂーミル、モノマーフ」ノ三隻ハ此ノ間我カ水雷ニ罹リテ全ク其ノ戰鬪航海力ヲ失ヒタリト此ノ三艦ハ晝戰中多大ノ損傷ヲ蒙リタルモ尙敵ノ水雷攻撃ニ對シテ斯ク長時間對戰シ且日本水雷艇ノ第六十九號第三十四號第三十五號ヲ撃沈セシハ頗ル多トスルニ足レリ此ノ夜鈴木驅逐隊ハ敵艦三隻ノ北走スルヲ發見シテ直ニ之ヲ襲撃セシカ其ノ一ハ戰艦「ナワリン」ニシテ兩舷ニ連續二發宛ノ水雷ヲ受ケテ沈沒セリ自餘ノ日本驅逐隊及ヒ艇隊ハ終夜各方面ヲ捜索セシモ遂ニ獲ル所ナカリキ

五月二十八日ノ午後三時三十分頃日本驅逐艦漣及ヒ陽炎カ欝陵島ノ南西約四十海里ニ於テ東方ヨリ遁走シ來レル敵ノ驅逐艦二隻ヲ發見シ極力之ヲ追蹑シ午後四時四十五分追及シテ砲撃ヲ開キシニ敵ノ一艦白旗ヲ掲ケテ降意ヲ表セリ豈圖ランヤ此ノ艦コソ敵艦「ベドウイ」ニシテ敵ノ艦隊司令長官ロジェストウェンスキー及ヒ其ノ幕僚之ニ移乘シ居ラントハ嗚呼フェリクルザム少將ハ初日ヨリ戰鬪中「オスラービヤ」艦内ニ於テ戰死シネボカトフ少將ハ「アリヨール」及ヒ其ノ僚艦ト共ニ降伏シエンクウヰスト少將ハ三隻ノ巡洋艦ヲ以テ馬尼剌ニ遁走シ今ヤ露國將官中殘存セル者ハ艦隊司令長官ノミナリシニ是亦之ニ至リテ遂ニ敵手ニ落チ戰鬪ハ遂ニ日本ノ勝利ニ歸シタリ東鄕大將ハ日本海戰鬪詳報ノ備考トシテ露國艦隊ノ末路ヲ簡述セリ

艦種	隻數	内譯	處分
戰艦	八隻ノ内	六隻	撃沈
		二隻	捕獲
巡洋艦	九隻ノ内	四隻	撃沈
		三隻	馬尼剌ヘ逃走
		一隻	浦鹽斯德ヘ逃入
		一隻	ウラヂーミル灣ヘ逃走シテ擱岸破壞

艦種	隻數	内譯	處分
海防艦	三隻ノ内	二隻	捕獲
		一隻	撃沈
驅逐艦	九隻ノ内	一隻	捕獲
		四隻	撃沈
		一隻	上海ヘ逃入
		二隻	浦鹽斯德港ヘ逃入
		一隻	上海ヘ遁逃ノ途次沈沒
假裝巡洋艦		一隻	撃沈
特務船	六隻ノ内	四隻	撃沈
		二隻	上海ヘ逃入
病院船	二隻ノ内	一隻	抑留
		一隻	解放

合計　三十八隻

露國艦隊ノ損害斯ノ如ク多キヲ以テ其ノ乘員ノ死傷亦甚タ大ナリシニハ相違ナキモ尙一般ニ想像セシ程ニハ多大ナラサリキ既ニ記載セシ如ク露國艦隊ノ總乘員一萬二千七百六十七名ノ内捕虜トナリタル者七千二百八十二名（沈沒艦ノ乘員ハ大概救助收容セラレシニ因ル）アリ又逃走軍艦及ヒ驅逐艦ノ乘員及ヒ沈沒艦ノ乘員中僚艦ニ救助收容セラレタル人員ハ合シテ二千二百五十九人アリ而テ逃走諸艦中戰死セシ者ハ將校下士卒ヲ合セテ五十三名ナリキ左レハ露軍ニ於ル戰死及ヒ溺死合計三千二百七十九名ナリ（之ニ負傷者ヲ加フレハ總計三千七百二十七名ナリ最初ハ一萬四千人ナリトノ報アリシカ差亦甚敷哉）我軍ハ未タ百年前ニ於ル數回ノ大戰ニ於テ敗軍側ノ死亡ニ關シ正確ノ統計ヲ有セサレトモ種々ノ點

ヨリ觀察スレハ此等ノ大戰ニ於ル敗者ノ死傷ハ此ノ回ノ日本海々戰ニ於ル露軍ノ死傷ト大差ナカリシヲ知ルナリ蓋此ノ回ノ海戰ニ於テ露軍ニ於ル負傷者ハ捕虜ニテ二百七十八名遁走艦ノ乘員中ニテ百七十名合計四百四十八名ナリ然ルニ日本軍ニ於ル損害ハ驚クヘク少數ニシテ戰死百十五名負傷四百三十名ニ過キサリキ

露國海軍ノ全滅ニヨリ海上全ク日本艦隊ノ制扼ニ歸シタルコトハ日本カ直ニ樺太攻略ニ著手セシニヨリテ知ルヲ得ヘシ今ヤ平和克復セシト雖モ若シ此ノ戰爭ニシテ尚繼續シタランニハ日本帝國ハ全力ヲ滿洲及ヒ浦鹽方面ノ經營ニ傾注スルニ至レルナラン今ヲ距ル二千年前希臘史家ツシイヂデス曰ク海上ノ制扼ハ一大事ナリト而シテ後世ノ戰史著々此ノ言ノ眞理ナルヲ證明シタリ日本海軍ノ捷利ハ苟モ戰爭ノ情勢ヲ研究セシ者ノ始メヨリ豫期セシ所ニシテ露國自カラト雖モ恐ラクハ之ヲ豫期セシナラン然リト雖モ成功ノ偉大ナルヘシトハ日本人ト雖モ期待セサリシ所ナリ五月三十一日東京ノ某宴會席上ニ於テ伊東軍令部長ハ「斯ノ如キ全捷アラントハ余自カラモ豫期セサリシ」ト述ヘタリト伊東軍令部長ハ一八九四年黃海々戰ニ於ル戰勝者トシテ雷名アル人ナリ其ノ前日東鄕大將ハ海軍大臣ニ宛テ「敵ノ第二、第三艦隊ノ主力ハ殆ト全滅セシニ付御安心アリタシ」ト發電セリ是ニ由テ之ヲ觀レハ日本人ニモ多少ノ危懼アリタルヤ明ナリ

日露兩軍ノ兵力ヲ對比セハ露軍ノ日軍ニ及ハサルハ確實ナリ然ルニ戰鬪開始ノ時ニ當リロヂエストウエンスキーノ行動ハ毫モ此ノ不平均ヲ補修スルニ足ルモノアラサリキ殊ニ軍艦ノ近傍ニ特務船舶ノ現レタル如キハ既ニ十分薄弱ナリシ兵力ヲシテ更ニ一層薄弱ナラシムルノ原因トナレリ露國艦隊ノ陣形及ヒ行動ニ就テハ缺點ノ指摘スヘキモノ多シト雖モ露軍ノ著シク日本軍ニ劣リタル點ハ砲術ニアリシナリ假ニ露軍ノ戰術宜シキヲ得タリトスルモ若シ兩軍射擊ノ効力ニシテ依然舊ノ如クナランニハ勝利ハ尙日本軍ニ歸セシナラン砲ト砲トヲ以テ對戰セハ命中ノ正確ナルコト日本軍ハ露軍ニ優レリ加フルニ東鄕大將ハ充分有効射距離ニ入ラサル前ニ砲火ヲ開クヲ禁シ且我カ全線ノ砲火ヲシテ敵ノ二三艦ノミニ集中セシメ以テ敵ノ先頭ニ占位セル數艦ヲ擊破シタリ開戰ノ初メ露軍ノ射擊ハ恰モ射擊演習ノ際門外漢ヨリ名射手トシテ喝采セラル丶モノ丶伎倆ト一般ニシテ其ノ砲彈ハ敵艦ノ近傍ニ落チシモ日本軍ノ砲彈ハ其ノ照準セル敵艦ニ命中セリ是善ク訓練シタル砲長ト未熟ナル砲長トノ相異ル所以ナリ蓋標的近傍ヲ射擊スルハ左シタル練磨ヲ要セサルモ命中ハ巧妙ノ射手ニアラサレハ能ハサルナリ日本艦隊ノ蒙リタル敵彈ニ關シ日本側ノ一通信者ハ評シテ曰ク我カ將校以下兵員ノ死傷ハ何レモ甲板上ニ居ル者ノミニシテ甲板下ニ居ル者ニハアラサリキ是露軍ノ發シタル彈丸多クハ甲板上ヲ飛行キシヲ示スモノナリト此ニ日本軍ノ砲彈屢敵艦ニ命中セシヲ見レハ發射彈數モ亦多キコトヲ記憶セサルヘカラス即チ日本軍カ砲熕ヲ操縱スルコト露軍ヨリモ敏捷ナルト比較的多數ノ軍艦ヲ以テ少數ノ敵艦ニ砲火ヲ集中セシムル東鄕大將ノ卓越ナル戰術トハ先頭ニ現出セル敵ノ一艦ヲシテ獨リ多數ノ日本砲彈ヲ受ケサルヲ得サラシメタリ故ニ日本軍ノ發射セル砲彈ノ命中數ハ露軍ノモノニ比シ固ヨリ多シト雖モ其ノ命中ノ割合ニ至リテハ驚ク程大ナリト言フヲ得サルナリ露艦ノ內捕獲セラレ若クハ逃走セルモノニ於テ東鄕大將ノ旗艦三笠ヨリモ死傷者ノ多カリシハ僅ニ二隻ノミナリ然レトモ沈沒艦ニ於ル死者ハ驚クヘク多數ナリシカコハ重ニ溺死セルモノナリ捕獲セラレタル戰艦「アリヨール」及ヒ「ニコライ」一世ノ損害狀態ニ關スル各報ニ據ルニ日本十二吋砲ノ效果ニ重キヲ置カサリキ又「アリヨール」ノ舷側ニハ彈痕四十三ヲ數ヘシカ該艦ハ五月二十七日ト二十八日ノ兩日間砲火ニ包マレシヲ以テ其ノ蒙レル砲彈ノ夥多ナリシニ相違ナシ又其ノ前部砲塔ノ左砲砲口ヨリ約六呎ノ處ニテ折レ又前部煙突ノ上部打壞セラレ又艦載汽艇篩ノ如ク貫射セラレタルヲ見レハ日本砲彈ノ多クハ高ク飛行キ其ノ命中セシモノハ大口徑ノ砲彈ニアラサリシヲ知ルニ足レリ既述シタル伊東軍令部長ノ趣味アル演說中ニ「アリヨール」ハ我カ六吋砲ヨリ四十彈ヲ受ケタリト又或通信ニ據レハ該四十彈中ノ二三ハ少クモ八吋砲ノモノナリト云フ又「ニコライ」一世ノ艦首ニ面積百粍(約六吋)ノ穿孔アリシハ小彈ノ命中セシ徵證ニシテ其ノ前部煙突ノ破壞セラレシハ日本軍ヨリ放チタル彈丸ノ高ク飛ヒシヲ示スニアラスヤ然レトモ其ノ水線ニ面積五百粍(約二十吋)ノ穿孔アリタリ之ヲ要スルニ日本軍ノ砲擊カ敵ニ卓越シテ正確ナルハ發射ノ迅速敏捷ナルト殊ニ敵ノ一艦若クハ數艦ニ多數ノ砲彈ヲ集中セシメタルトニヨリテ益々其ノ効力ヲ發揮シタルモノニシテ是實ニ今回日本海戰ニ於テ得タル一大訓戒ナリトス

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

船體ノ大小ニ由テ沈沒ニ遲速アヲサルコトハ「ペトロパヴロウスク」及ヒ初瀨ノ運命既ニ之ヲ證明セリ日本海々戰前マテハ船體ノ巨大ハ砲彈ノ破壞力ヲ防キ或ハ少クモ之ヲ減殺スト信セシ人モアリシカ此ノ海戰ノ實驗ハ其ノ全ク然ヲサルコトヲ確證セリ「オスラービヤ」「アレクサンドル」三世及ヒ「ボロヂノ」ノ三戰艦カ砲彈ノ爲メニ擊沈セラレシハ其ノ例證ニアラスヤ露國側ノ一戰報ニ據レハ「ボロヂノ」ハ傾斜シテ後三分間ヲ出テスシテ沈沒シ「オスラービヤ」及ヒ「アレクサンドル」三世ハ顚覆沈沒シタリ佛國有名ノ造船家ベルタン氏ハ戰鬪中損傷ヲ蒙レル巨大ナル裝甲戰艦ノ傾斜スルコトヲ豫言シ英國有名ノ造船家サー、ナザニール、バルナビイモ亦此ノ海戰ヨリ二年前ニ左ノ言ヲナセリ

近代ノ軍艦ハ其ノ防護艦タルト裝甲艦タルトニ論ナク一タヒ水線下ニ負傷セハ五十年前ニハ知ヲレサル程ノ傾斜ヲナスニ至ルヘシ而モ今日ノ負傷艦カ沈沒スル前ニ顚覆ノ危險大ニ加ルハ必スシモ某艦種若クハ某海軍國製ノモノニ限ルニアラス

是我カ海軍當局者ノ最愼重ナル熟慮ヲ要スルモノナルハ何人モ怪シマサル所ナリ

右ノ如クシテ日本海々戰ハ須臾ニシテ幾箇ノ小群トナリテ此處彼處ニ散亂セル露國艦隊ノ追擊トナリ日本軍ハ迅速運動シ常ニ其ノ優勢ヲ以テ箇々分裂セル敵ノ小群ヲ擊破シタリ露國ノ敗殘艦ハ何レモ大ニ其ノ運動力ヲ減シタルモ日本軍ノ軍艦ハ一二ヲ除クノ外毫モ其ノ運動力ヲ失ハサリキ左レハ日本軍ノ有スル優勢トハ此ノ運動力ノ謂ニシテ優速トハ自カラ異レトモ往々之ヲ同一視セルカ如シ蓋優速ハ遁走ノ必要ヲ認メタルトキ十ニ八九マテ遁走シ得ルノ機會ヲ與フルモノナリ故ニ露國ノ巡洋艦中遁走セシモノハ皆快走艦ニシテ敵ト抗爭セシモノハ高速力ノ戰艦ト速力緩慢ナル裝甲巡洋艦トニ論ナク皆一齊ニ破滅セリ

今ヲ距ル三十年前本誌ハ海軍戰術研究ノ必要ヲ說キ且リッサ海戰ニ由テ下セル速斷ニ基キ當時大ニ流行セル撞頭ヲ排シテ砲熕ノ偉大ナル效力ヲ主張シ爾來屢本紙上ニ於テ其ノ意見ヲ反覆吐露セシカ此ノ回ノ日本海々戰ニ於テ愈此ノ意見ノ正當ナルヲ證シ合セテ魚雷ノ戰術的價値ニ關スル本記者ノ意見モ肯綮ニ中レリ魚雷ノ主張者中ニハ此ノ武器ノ現出ハ將來ノ海戰原理ヲ根本的ニ一變スヘシトノ突飛ノ豫想ヲ抱クモノアレトモ記者ハ此ノ海軍武器ニ關シ一層沈著ナル意見ヲ有シ「水雷攻擊ハ降服ヲ肯セサル頑强ナル敵若クハ尙一層危險ナル敵ニ止メヲ刺スノ一手段トシテ大ニ用アルモノヽ如シ」トノ社說ヲ揭ケシコトアリシカ去五月二十七日及ヒ二十八日ノ海戰ニ於テ其ノ所見ノ正鵠ヲ失セサルヲ知レリ日本水雷攻擊ノ犧牲トナリタル露艦ハ多少ノ防戰ヲ爲サヽルニアラスト雖モ何レモ日本艦隊ノ猛射ニヨリ殆ト運動力ヲ殺カレ且砲熕ヲ打壞セラレ乘員皆疲レ果テタルモノヽミナリキ

露國艦隊ハ敗衂シテ策ナキノ餘リ日本港灣ヲ距ルコト近キ地點ニ到リ或ハ是等港灣ヨリ水雷艇隊ノ突出スルヲ豫期セシナランカ當時海上ハ浪高クシテ砲戰ニハ差支アラサルモ驅逐艦及ヒ水雷艇ヲ用フルコト能ハサル程ナリシカハ此ノ種ノ艇隊ハ頗ル其ノ行動ノ自在ヲ妨ケラレシコト明ナリ又水雷艇ノ爲メニ轟沈セラレタル敗殘露艦中少クモ二三隻ハ水雷攻擊ヲ行ハサレハ或ハ日本海軍之ヲ捕獲シテ其ノ艦數ヲ加ヘタランモ知ルヘカラス何トナレハ水雷攻擊ヲ蒙リタル露艦ハ縱令其ノ一發タモ蒙ラサルモ無事遁走シ得タラント思惟スルノ理由一モアラサレハナリ

訓練、智識及ヒ經驗ノ點ニ於テ日本兵員ノ敵ニ優ルコトハ爭フヘカラサル事實ナリ然レトモ其ノ勇氣ニ至リテハ兩者ノ間更ニ優劣アラサルナリ露國水兵カ初メヨリ勝算ヲ期セサル戰爭ニ從事シテ屈撓セサル剛勇ニ至リテハ吾人ノ深ク歎賞ニ堪ヘサル所ナリ戰鬪開始ニ先タチ東郷大將ハ令ヲ各艦ニ傳ヘテ國家ノ興廢此ノ一戰ニ在ルヲ知ラシメ各員亦能ク此ノ令ヲ服膺シ互ニ協力戮心國家ニ奉スルノ意氣アリシモ露國水兵ニ至リテハ吾人ハ「クニヤージ、ポテムキン」「ゲオルギー、ポビードノセツ」二艦內及ヒレーヴエリ港ニ於テ起リタル兵員ノ謀叛ヨリ推察スルニ縱シ彼等ニ叛心ナシトスルモ兎ニ角彼等ノ胸裡ニ大ナル不平アリタルコトヲ信セサラント欲スルモ得ヘカラサルナリ實ニ彼露國水兵ハ其ノ手ニスル所ノ事業ニ意氣昂ラス互ニ其ノ伍伴ヲ疑ヒ合ヒタルニ相違ナシ日本側ノ通信ニ日本ニ於テ俘虜取扱ニ關シ左ノ記事アルヲ見タリ

是迄ハ露國ノ俘虜ヲ種族ノ如何ニ拘ラス合宿セシメタルニ爭論絕ユルコトナカリシカハ當局者ハポーランド、フイン

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ラシド及ヒスラブノ種別ヲ立テ各其ノ寢室ヲ異ニセシカ此ノ處置ハ大ニ彼等捕虜ニ和合ヲ恢復スルノ手段トナレリ

露國艦員ノ心中既ニ斯ノ如シ而テロヂエストウエンスキーハ斯ノ如キ兵員ヲ率ヰテ日本海軍軍人ニ當ラントス其ノ到底成功ノ望ナキハ火ヲ睹ルヨリモ明ナリ若シ夫ロヂエストウエンスキーニシテ精神上及ヒ物質上トモ現在ヨリ一層能キモノヲ具備シタリトスルモ尚且東郷大將ニ向テ勝利ヲ博スルコト覺束ナカルヘシ何トナレハ東郷大將ハ海軍將帥トシテ立派ナル性質ヲ有スルハ何人モ是認スル所ナルニ尚之ニ加フルニ其ノ率ヰル兵員ハ殆ト一年有半間斷ナク實戰ニヨリテ薫陶鍛錬セラレタル老功ノ武夫ナレハナリ嗚呼日本海軍ハ固有ノ特色タル各種美德良質ノ反照タリ其ノ戰ヘハ必ス勝ツ固ヨリ其ノ所ナリ

八六　日本海々戰ニ於ル水雷艇ノ効果

（一九〇五年十一月四日發刊「アーミー、アンド、ネヴィー、ジャーナル」所載）

日本海々戰ニ關シテ數多ノ評論出テタルモ日本ノ水雷艇及ヒ驅逐艦カ自國ノ艦隊ニ効果アル援助ヲ與ヘタリト云フ推論ハ極テ少キモノヽ如シ現ニ或記者ノ如キハ此等ノ艦艇ノ價値ヲ少ク計算シテ東郷大將ノ率ヰル艦隊ノ戰鬪力ニ利益ヲ與ヘサルノミナラス却テ損害ヲ與ヘタルコトヲ確認シタリ然レトモ此ノ重要ナル戰爭ノ報告書ヲ精細ニ閱讀スレハ一般ノ行動殊ニ茲ニ所謂スルカ如キ行動カ一日以上連續セル場合ニ於テ水雷艇ノ實用アルコトヲ明白ニ知ルヲ得ヘシ即チ海戰ノ序幕ト其ノ慘憺タル終局トノ間ニ於ル夜中日本ノ水雷艇ハ敵艦ヲ惱マス爲メニ使用セラレ其ノ眞價ヲ發揮シタリ夕陽沒シテ四面漸ク暗黒トナリ戰艦及ヒ巡洋艦ノ砲撃ヲ中止スルヤ日本ノ水雷艇隊ハ直ニ攻撃ヲ開始シ翌日再始セラルヘキ交戰ニ應スル準備トシテ露國艦隊ノ司令官等カ協同シテ敵ニ當ラントスル一切ノ行動ヲ盡ク妨害シ又露艦ヲシテ夜中其ノ損所ヲ修繕スル能ハサラシメタリ論者ノ主張スルカ如ク此等ノ水雷艇ハ實際上ノ損害ヲ敵ニ與ヘサリシトスルモ露國ノ艦隊ハ第一日ノ交戰ヲ中止シタル時ヨリ次日ノ攻撃ヲ受ケタル間ヲ通シテ殆ト混亂ト心配ノ情態ニ陷リタリ而テ其ノ水雷艇全部ノ喪失ニヨリ露艦ハ一層大ナル打撃ヲ受ケタリ吾人ハ茲ニ實戰ニ臨ム艦隊ノ附屬物トシテ水雷艇ノ價値ヲ承認ス若シ夫疲勞困憊セル敵ニ對スル夜襲ノ兵氣上ニ於ル効果ニ至テハ日本ノ艦船及ヒ水兵ノ情態ト露國ノ水兵將校ノ不規律ナル情態トヲ比較スレハ思ヒ半ハニ過クルモノアラン戰爭開始ノ時ヨリ其ノ夜ニ至ル交戰期間中露國ノ司令官等ハ提督ト何等ノ協議モ試ミス各艦長ハ專ラ日本ノ水雷攻撃ヲ免レント努メ加之彈藥ノ供給ハ甚シク妨ケラレタリ而テ主タル戰爭ノ翌朝ノ攻撃ニ於テ日本ノ艦隊ハ全ク敵ヲ壓伏シ露國艦隊ハ其ノ艦船ニ些少ノ修繕ヲ施サス又其ノ乘組員ハ疲勞ト睡眠ノ缺乏ト心配トニヨリ殆ト全滅ノ悲境ニ陷リタルナリ日露兩國ノ間ニ戰ハレタル幾多ノ海戰中水雷艇ノ事業ハ常ニ晦夜ニ乘シテ功ヲ奏シタルカ斯ク敵ノ爲メニ發見セラレスシテ巧ニ敵艦ニ近接セル事實ハ水雷艇ノ價値ヲ增加セシメタルト同時ニ其ノ危險モ亦非常ニ多カリシコトヲ知ラサルヘカラス

八七　東郷トネルソンノ比較

（一九〇五年十二月四日發刊「濠洲レビウ、オフ、レビウス」所載）

英國ヲ始メ各國ノ批評家ノ說ニヨレハ世界ノ海戰史ニ二個ノトラファルガーアリ即チ一ハ今ヨリ百年前英將ネルソンカ佛西聯合艦隊ヲ敵トシテトラファルガー沖ニ戰ヒタルモノ、一ハ今ヨリ六ケ月前東郷大將カ波羅的艦隊ヲ敵トシテ對馬ニ戰ヒタルモノニシテ就中後者ハ前者ヨリモ一層赫々タル偉功ヲ奏シタリ「甲鐵艦戰紀」ノ著者ヲ以テ世ニ知ラレタルウヰルソン氏ノ如キ慧眼ナル批評家スラモ日本海ノ勝利ハ却テ眞個ノトラファルガーヨリモ大ナリト評シネルソンハ敵艦隊ノ全滅ヲ期セシモ充分ニ其ノ目的ヲ達スルコト能ハス其ノ捕獲又ハ沈沒シタル敵艦ハ三十三隻ノ中十九隻ニ止リタリ之ニ反シ日本海々戰ニ於テハ夫ノ壯大ナル露國艦隊中厄ヲ免レタルモノ僅ニ三隻ノミナリシト論シタリ捕獲ノ多少ヲ以テ此ノ兩海戰ノ戰果ヲ測度スルハ固ヨリ不妥當ノ算定法タルヲ免レスト雖モ世間一般ノ意向ニテハ日本

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

海々戰ノ勝利ヲ目シテネルソンノ一命ヲ殞セル夫ノ最大事業ニモ遜色アラシムルモノヽ如ク視做セリ日本海ノ勝利ハ今ヲ距ルコト僅ニ半年餘ニシテ其ノ巨砲ノ轟聲ハ尚其ノ餘音ヲ世界ノ耳裡ニ留ムルモトラファルガーノ勝利ハ今ヨリ百年前ノ往事ナリ而テ去五月二十七日風濤荒キ海上ニ起レル此ノ戰闘ハ恰モ繪畫ニ見ルカ如キモノアリ露國艦隊ノ支離滅裂シテ混雜極リナキ團塊トナリタル慘狀及ヒ東郷ノ巨艦カ序列ヲ整ヘ鎖ノ如ク聯リテ露國大艦隊ノ周章狼狽セル周圍ヲ快速ニ飛ヒ回リ其ノ十二吋砲ノ猛火ヲ幾ト孤立類ルナキ敵ノ頭上ニ集中セル壯觀ハ今尚世界一般ノ腦裏ニ新シク又同夜日本ノ水雷艇隊及ヒ驅逐隊カ終夜遁走セントスル敵艦ヲ追ヒ其ノ發射シタル魚雷ノ爆聲カ大空ヲ震動スル間ニ幾回モ毒蛇ノ如キ猛勢ヲ以テ意氣銷沈セル敵ヲ襲撃シタル光景ニ至リテハ更ニ人ヲシテ一層活躍セシムルモノアリ而テ此ノ海戰ニ使用シタル兵器ノ精鋭ト其ノ猛威トハ聞ク者ヲシテ愕然タラシムルモノアリ此ノ海戰ヲトラファルガー以上ニ置クモ亦故ナキニアラサルナリネルソン時代ノ六十四斤砲ハ千碼以上ノ距離ニ達セサリシモ日本海軍ノ巨砲ハ五海里以上ヲ隔テテ厚サ十吋ノ装甲ヲ施セル戰艦ヲ撃沈シ得ヘシ否實際之ヲ撃沈シタリ就中僅ニ其ノ體ヲ水面ニ露シ急行列車ノ速力ヲ以テ駛走スル水雷艇ノ驚クヘキ襲撃カ霹靂ノ如クニ巨艦ヲ引裂クニ至リテハ人ヲシテ一層驚嘆ノ念ヲ深カラシム

然レトモ吾人ハ事ノ眞相ヲ看取シ我カ英國海軍史ノ一大光譽ヲ他國ニ奪ハレサランコトヲ努メ百年間我カ人口ニ膾炙シタルネルソンノ偉名ヲ漫ニ貶黜シ今世ニ遺レル餘榮ヲ傷ツクルカ如キコトナク之ヲ不朽ニ傳ヘサルヘカラスネルソント東郷トトラファルガート日本海々戰トノ間ニ比較ヲ立ツルハ既ニ輕卒粗漏ノ事タルヲ免レス況ヤネルソンノ名譽ヲ毀損スルカ如キ評ヲ加フルニ於テヲヤ試ニ看ヨ若シ百年前ニネルソンテフ者英國ニ出テス隨テ英國ノ主戰艦隊カ夫ノ如キ雄邁ナル戰術ヲ以テ優大ナル佛西聯合艦隊ニ向ヒ突撃シタル前例ヲ示サヽランニハ日本海々戰ハ或ハ全ク異ル戰況ヲ呈シタランモ知ルヘカラス何トナレハ東郷ハネルソンノ法式ニ習ヒ其ノ戰術ノ門弟トシテ順眞忠實ナル古來未タ其ノ比ヲ見サル程ニシテ彼ハ啻ニネルソンノ精神ヲ吸收シタルノミナラス至誠至信ヲ以テネルソンノ戰略ヲ尊崇シタレハナリ

日本海々戰ニ於テ東郷ハ一見ネルソンノ戰術ヲ踏襲セスシテ寧ロ之ヲ逆ニ使用シタル如キ感アリト雖モ決シテネルソンノ方式ヲ脱シタルニアラス其ノ實異曲同工ニ歸スヘキモノナリネルソンノトラファルガー海戰ニ於ル戰術ハ敵艦隊ヲ支離滅裂ニ歸セシメ其ノ漂泊スル間ニ其ノ一部分ニ對シ我カ全力ヲ集中スルニ在リタリ東郷ハ之ニ反シ敵艦隊ヲ破壞セスト全圍セスシテ其ノ前後兩面ヲ同時ニ攻撃シ以テ敵艦隊ヲ驅リテ密接ノ一團塊ニ化セシメタリ然レトモネルソンノ戰術ノ眞髓ハ離散彷徨セル敵艦隊ノ各艦ニ對シ逐次猛射ヲ加フルニ在リシモノニシテ東郷ハ唯此ノ戰術ヲ今世ニ適スル如ク修正シテ應用シタルニ過キス即チ今日ノ砲力ハ彈著距離絶大ナルヲ以テ東郷ハネルソンカ幾ト敵ニ肉薄シテ行ヒタル戰術ヲ五海里ノ遠距離ヨリ實施シ其ノ砲火ヲ逐次敵ノ大戰艦ニ集中シ斯シテ其ノ壓倒的優勢ヲ以テ敵艦ヲ逐次個々ニ殲滅シタリ是正シク我カネルソンノ方式ナラスヤ

此ノ二海戰ヲ比較セハ其ノ似タル所寡クシテ異ル所遙ニ多シ其ノ異ル點ハ何レモネルソンノ名譽ヲ證明スルニ足ルモノナリ其ノ一例ヲ擧クレハネルソンノ艦隊ハ敵ノ三十三隻ニ對シ二十七隻ニシテ既ニ明白ニ劣勢タリ況ヤ敵艦隊ノ各艦ハ殆ト皆我ヨリ大型ニシテ其ノ備砲ハ我カ二千百八十四門ニ對シ二千六百四十六門ヲ有セシニ於テヲヤ敵ノ聯合艦隊中ノ佛國艦隊ハトラファルガー海戰ノ數週前英將サー、ロバート、コールダー艦隊ニ遭遇シテ一戰ヲ試ミ勝敗決セス交綏シタリ而テトラファルガーニ於テ佛艦「ルヅーターブル」ハ彼我兩艦隊中他ニ其ノ比ヲ見サル勇戰ヲ爲シ其ノ「ミズン、トップ」ヨリ俯射シタル一彈ハ實ニネルソンヲ殪シタリ

右ノ如クトラファルガー海戰ニ於テネルソンハ優勢ノ敵ト戰テ勝ヲ制シタルモ日本海々戰ニ於テハ有力ナル一艦隊カ頗ル薄弱ナル一艦隊ニ對シ捷ヲ獲タルモノナリ露國艦隊ハ其ノ戰艦ノ隻數ニ於テハ日本ニ優リシモ兩軍戰闘力ノ全部ヲ合算セハ日本勢力ノ優大ナリシコト毫モ疑ヲ容ルヽニ足ラスウヲルソン氏ハ戰闘單位ノ個數ヨリ計算シテ日露兩艦隊ハ一ト二ノ割合ナリシトシ又ヂエーンノ實力算定式ニ據テ日露兩艦隊ノ實力ヲ比較セハ日本ハ露國ノ九十三ニ對シ百四十三ニ當リ即チ日本ハ五割方優勢ナリシモノナリ單ニ六吋砲ヨリ云フモ日本ハ露國ノ一分間三十一發ニ對シ九十二發ヲ發射シ得ヘキ割合ナリ又射撃ノ伎倆ニ於テモ日本ハ露國ノ一ニ對シ五乃至六ナリキ要スルニ日本艦隊ハ露國艦隊ヨリモ各點

ニ於テ優勢ナリシモノナリ以上ノ事實ヲ看來ラハトラファルガートト日本海ノ両海戰ノ比較ハ如何ニシテモ正當ニ成立チ得ヘキモノニアラス

東郷艦隊ハ又其ノ速力敵ニ優ルノ大利益アリ當時露艦隊ノ最高速力ハ十二海里ナルニ之ト同種艦ヨリ成レル東郷ノ主力隊ハ其ノ最高速力十六海里ナリキ故ニ東郷ハ已ニ有利ノ地點及ヒ距離ヲ擇ヒ交戰スルノ自由ヲ得タリトラファルガー海戰ニテ佛西聯合艦隊司令長官ヴィルヌーヴ中將ハロヂェストウェンスキーヨリモ戰術ニ長シ又之ヲ實施スヘキ好機會ヲ有シタリ微風ト靜波トハヴィルヌーヴヲシテ其ノ豫期以上ノ密實ナル貝陣形ヲ作ラシメネルソン及ヒコーリンウッド両中將カ突破シタル點ニ於テ聯合艦隊ノ線列ハ實ニ三重トナリ強堅ヲ極メタリロヂェストウェンスキーハ其ノ最脆弱ナル軍艦ヲ日本ノ最精鋭ナル砲熕ニ對セシメ其ノ戰艦ト敵艦隊トノ間ニ巡洋艦ヲ排列シタルカ爲メ味方ノ最有力ナル軍艦ハ之ニ妨ケラレ其ノ砲火ヲ敵ニ集中スルヲ得サリキ

以上ノ事實ハトラファルガーニ於ルネルソンカ日本海ニ於ル東郷ヨリモ困難ノ戰勢ニ當リ又不利益ノ境遇ニ在リシコトヲ證明スルニ足ルモノナリ又ネルソンハ東郷ヨリモ危險ノ地位ニ立チシ一事モ茲ニ附言セサルヘカラス東郷ニシテ若シ必要アラハ恰モネルソンノ旗艦「ヴヰクトリア」カ敵ノ司令長官旗艦「ブサントール」ニ肉薄シタルト同一ノ豪膽ヲ以テ其ノ旗艦三笠ヲロヂェストウェンスキー艦隊ニ接セシメタルヤ無論ナリト雖モ東郷ハ斯カル冒險ヲ試ムヘキ必要ヲ感セサリキ彼ハ五海里ノ遠距離ニ在リテ交戰シ其ノ敵ヲ擊滅シタルナリトラファルガーニ於テ英國艦隊ハ勇氣ヲ皷シテ敵艦隊ニ向ヒテ突進シ彼我ノ巨艦ハ相互ニ其ノ舷側ヲ密接シ佛西両國ノ水兵ハ英兵ノ侵入ヲ防クカ爲メ舷門ヲ閉鎖スルニ至レリ

ネルソンハ旗艦々長ハーヂーヲ隨ヘ平然トシテ戰鬪側ノ甲板上ヲ前後ニ歩行シ敵ヲ距ルコト僅ニ五十呎ノ處ニ身ヲ露シ終ニ佛艦「ルヅーターブル」ノ檣上ヨリ射擊セラレタリ斯ノ如ク接戰シ斯ノ如ク激戰シタルモノハ海戰史上未タ其ノ比ヲ見ス日本海々戰ニ於テ東郷ノ損害ハ晝戰ニ於テハ僅ニ軍艦一隻カ敵彈ニ擊タレ夜襲ニ於テハ水雷艇三隻沈没シタルニ過キサルモトラファルガーニテハネルソン及ヒコーリンウッドノ両旗艦ハ全部敵彈ヲ被リテ大破シ死傷總數ハ日本海々戰ニ於ル勝者ノ死傷ニ四倍セリ

敵艦捕獲ノ點ヨリ云ハヽ日本海ノ勝利ハトラファルガーノ光譽ヲ遮ルコト疑ナキモ東郷ノ諸艦ハ其ノ優速力ナルト無損害ナルトヨリシテ敵艦ヲ捕獲スルヲ得タルナリ況ヤトラファルガーニ於ル如ク戰後颶風起リテ戰果ヲ全ウスルヲ妨ケサリシニ於テヲヤ然ラハ何ヲ苦ミテカ捕獲ノ多少ニ由テ大海戰ノ効果ヲ速斷スルコトヲナサンヤトラファルガーノ戰勝ハ結局英國ヲシテ海上ニ覇タラシメタルモノニシテ我カ島國ハ今日尚此ノ地位ヲ保續ス東郷ノ勝利ハ要スルニ日本ヲ世界ノ第二國タル地位ニ昇ラシメタルニ過キス彼ハネルソンヲ學ヒタルノミ其ノ哨戒スヘキ海面ヲ數區ニ分チ徐ロニ敵ノ北上ヲ待チシハネルソンカツーロン沖ニ於テ佛國艦隊ノ出動スルヲ待受ケルト同方式ナリ又東郷ハネルソンカ西班牙カヂズ沖ニ於テ其ノ所在ヲ韜マシテ敵情ヲ窺ヒタル策ニ倣ヒ主力艦隊ヲ敵ノ視線外ニ隱シ置キ輕快ノ巡洋艦ヲ以テ敵ヲ偵察シ時々刻々敵ノ接近スル狀況ヲ報告セシメタリ又東郷カ皇國ノ興廢此ノ一戰ニ在リト掲揚シタル信號ハ即チネルソンノ永久忘ルヘカラサル大信號ヲ借リテ唯之ヲ日本語ニ改メタルニ過キサルノミ

八八　日本海々戰（ヂョン、レーランド）（一九〇六年發刊海軍年鑑所載）

英國海軍大將サー、サイプリアン、ブリッヂハ昨年發刊ノ海軍年鑑ニ於テ日露海戰中八月十日ノ黃海々戰ニ至ルマテノ出來事ヲ敍述シ之ニ批評ヲ加ヘ本戰役全局ノ經過ヲ概示シタリ然ルニ本年ニ至リ同大將ハ遺憾ナカラ昨年ノ後編ヲ草スル能ハサルカ故ニ之ヲ完結スルノ業ハ同大將ノ如キ斯道家ニアラサル者ノ手ヲ以テスルノ已ムナキニ至レリ余自カラ揣ラス此ノ任ニ當リ本編ヲ起稿セリ

對馬大海戰即チ勝者ノ所謂日本海々戰ニ於ル艦隊運動ノ多クハ今尚確知スヘカラスト雖モ此ノ一戰ノ戰術中ニハ海軍兵術ノ精華ヲ含有セシヤモ知ルヘカラス果シテ然リトセハ此ノ戰術ヲ知悉スルハ最切望スル所ナリ今日之ヲ詳ニセサレハ

百年ノ後ニ至リテモ尙此ノ海戰ノ戰術ニ關シテ議論絕エサルヘキハ現ニトラファルガー海戰ニ其ノ例アルヲ見テモ推知スヘキナリ東鄕大將ノ大艦隊操縱ニ巧ナルハ世ノ以テ天才トスル所ニシテ是恐ラクハ妥當ナラン然ルニ大將自身ハ此ノ海戰ニ關シテ多ク語ラサルヲ以テ海戰ノ零報片信ヲ綜合シテ眞相ヲ發見スルノ勞ハ一ニ懸リテ史家ノ雙肩ニアリ而テ其ノ戰況ヲ正確ニ敘述スルハ苟モ之ヲ試ミタル者ノ諒知スル如ク極テ難事タリ

余ハ對馬海戰ヲ記述スルニ先タチ露國東航艦隊ノ波羅的海ヨリ其ノ終焉場裏ニ至ルマテノ經過ニ就キ說ク所アラントス

當時英國ニ於テハ同艦隊ハ斷シテ極東マテ赴クコトナカルヘシト思惟シ若クハ旅順口陷落セハ彼ハ召還セラルヘシトスル者多カリシカ此等ノ說ハ露國ノ東航艦隊派遣ノ初志ト相容レサル見解ナリキ當時露國ニ於テモ將又英國ニ於テモ日本連勝ノ勢ヲ阻止スルヲ得ヘキモノハ制海權ノ回復ヨリ外ニ策ナキカ故ニ既ニ出發セル東航艦隊カ其ノ敵ト制海權ノ爭奪ヲ爲サスシテ引返スカ如キコトハ道理上有リ得ヘカラスト信セシ者尠カラス如何ニモ露國ノ海陸連敗ヨリ起レル災厄ヲ救濟スヘキ道ハ右ノ策ヲ除キテハ他ニ一モ施スヘキモノナシト雖モ波羅的艦隊ヲ組織スルハ容易ノ業ニアラサリシナリ何トナレハ之ニ編入セル艦船ハ老朽艦ニアラサレハ進水後日尙淺キモノヽミニシテ又將校下士卒ノ訓練ハ未タ完全ナラス其ノ軍紀ハ未タ振肅セス又其ノ使備ハ歷戰鍊腕ノ敵ニ對シテ到底競爭スルニ足ラサレハナリ露國新聞記者中或ハ此ノ急設艦隊ヲ見テ憐ムヘキ狀態ニアリト論シタル者往々之レアリ又司令長官ロジェストウェンスキーモ其ノ波羅的海出發前露帝ニ奏上スルニ部下各艦ノ現狀大ニ憂フヘキモノアルコトヲ以テシタリト云フ各艦ハ吃水餘リ深クシテ定量ノ石炭モ安全ニ搭載スルヲ得ス又其ノ備砲ハ不完全ニシテ照準器ハ不精確ナリキ同艦隊ノ新嘉坡ニ著スルヤ司令長官ハ心中ニ是等ノ弊ヲ感スルコト益々深キニ至リ遂ニ露帝ニ電奏スルニ是迄ハ勝利疑ハシカリシカ今ヤ到底之ヲ收ムルヲ得ストノコトヲ以テセリト云フ(一九〇五年十一月十八日發刊佛國海軍新聞「モニトール、ド、ラ、フロット」ニ見エタル露京發信)又佛國代議士ボー氏(衆議院豫算委員)ハ海軍豫算調査報告中ニ曰ク露國軍艦乘員ハ各方面ヨリ召集セラレ或ハ內地ノ村落ヨリ出ツル者アリ或ハ陸軍ヨリ來ル者アリ隨テ彼等ノ中ニハ一人モ海員ラシキ者ナク又彼等ハ不規律無訓練ニシテ砲員ハ砲術ヲ知ラス又將校ハ多クハ騎兵隊及ヒ步兵隊ヨリ

轉任シタル者ニシテ海軍士官トシテノ勤務ニ暗シト

此等ノ悲觀的所說ハ露國艦隊大敗ノ原因ヲ說明センカ爲メニ同艦隊ノ戰鬪力ヲ貶視スルヲ宜シトスル輩ヨリ出テタル見解ニシテ此等所說ノ多クハ種々雜多ノ艦船ヨリ成レル一大艦隊ノ首尾能ク波羅的海ヨリ極東マテ航海シ得タル其ノ功業ト合致セサルモノナリ實驗アル一記者ノ言フ所ニ據レハ波羅的艦隊ノ世界ノ半球ヲ同航セル事業ハ其ノ實平和的行動タルニ均シキニモセヨロジェストウェンスキー中將カ斯ク種々雜多ノ艦船ヨリ成レル一大集團ヲ率キテ無事ニ此ノ長航程ヲ行過シ得タルハ激賞スヘキモノナリ況ヤ前ニ言ヘル如ク其ノ部下將校下士卒ノ航海ニ無經驗ニシテ彼ヲ輔佐スルナキニ於テヲヤト此ノ說眞ニ然リ右ノ外ニ彼カ給炭船及ヒ供給船準備ニ就テ百方盡セシ所ノ辛勞モ亦考察セサルヘカラス就中其ノ大困難ノ幾分ハ中立港ニ入リテ載炭セシカ爲メ之ニ打勝チ得タルニモセヨ此ノ配船事業モ巧ニ遂ケ得タルナリ而シテ此ノ遠征ノ成敗ハ國運隆替ノ係ル所ニシテ衆望之ニ繫リ其ノ艦隊ノ東航準備ニ關シテハ百方努力スル所アリタリ露國ノ意ヲ察スルニ日本艦隊ハ增援ノ道ナキカ故ニ此ノ東航艦隊ニシテ縱令此ノ擧ニ全滅スルコトアルモ爲メニ日本艦隊ニ大損害ヲ加ヘ若クハ之ヲ破壞シタランニハ其ノ作戰目的ハ既ニ過半達シタルモノトセリ何トナレハ露國ハ當時波羅的海ニ於テ新艦建造中ナリシヲ以テ再擧ヲ圖ルノ時機ニ至ラハ更ニ一大艦隊ヲ派遣シ得ヘケレハナリ日本人ノ慧眼夙ニ之ヲ見ル所アリテ大ニ危險ヲ感シタリ實ニ然リ露人ノ勇敢ナルコト及ヒ其ノ敵ニ會シテ戰ヲ避クルモノニアラサルコトハ何人モ疑ヲ容レサル所ナルカ故ニ若シ彼等ニシテ一タヒ無難ニ浦鹽ニ達セハ茲ニ安全ナル避泊地ヲ得ルト同時ニ入渠及ヒ給炭ノ便宜ニ接スヘク又彼等ハ絕エス日本ノ海上交通ヲ威嚇スル者トナルヘク又彼等ハ敵ト戰フニ已ニ有利ノ時機ヲ選フヲ得ヘシ斯テ彼等ハ日本ヲシテ絕エス危險ヲ感セシメ晝夜警戒ニ惱マシメ終ニ勝ヲ制セシモ知ルヘカラサリシナリ

此ノ東航艦隊ハ一九〇四年十月十五日ヲ以テクロンスタットヲ出發シ北海通航中夫ノ漁船擊沈ノ慘劇(此ノ顚末ハ一九〇五年發刊ノ海軍年鑑ニ於テサースフィールド氏巧ニ論述セリ)ヲ演シ十月二十六日西班牙ヴィゴ港ニ著シ同國官憲ノ抗議スルニモ拘ラス艦隊中若干ノ軍艦ハ港內ニ於テ載炭シ十一月一日出港シモロッコ領タンヂールニ赴キ同港ニ於テモ亦擅ニ自餘ノ軍艦ニ載炭セシメタリ其ノ後

エストウエンスキーハ艦隊ヲ二分シフエリケルザム少將ニ舊式艦及ヒ驅逐艦ヲ率ヰテ蘇士運河ヲ通航セシメ自カラハ新式戰艦ヲ率ヰテ喜望峰迂回航路ヲ取リテ航進セリフエリケルザム少將ハ佛領アルジール希臘スダ灣佛領ジブーテルニ於テ載炭シ最後ニハ獨領ノ一港ダール、エス、サラーム附近ニ於テシ其ヨリ佛領マダガスカル島ニ向ヒタルモノヽ如シ之ト同時ニロヂエストウエンスキーハ阿非利加西岸ヲ航下シ佛領ダカール同ガブーン葡領モツサメデス及ヒ獨領アングラペケナ附近ニ於テ載炭ノ後遂ニマダガスカル島セント、マリー港附近ニ達シ一九〇五年一月九日ヲ以テ同島ノシペ港ニ於テフエリケルザム少將ト相合セリ彼ハマダガスカルニ於テ旅順陷落ノ兇報ニ接シタリ此ノ出來事ハ大ニ戰局ノ形勢ヲ變更セシメタルモノニシテロヂエストウエンスキーハ更ニ增援艦隊ヲ得ルニアラスンハ今後ノ行動到底望ナキニ至レリ是ニ於テ露國海軍部內及ヒ宮廷ニ於テハ政府ヲシテ成ルヘク速ニ增援艦隊ヲ派遣セシメンカ爲メ非常ニ盡力セリト雖モ容易ニ運ハス時日漸ク遷レリ其ノ間クラード中佐ノ一派ハ東航艦隊ハ之ニ援勢ヲ加フルニアラサレハ終ニ敗滅ニ歸スヘキ旨ヲ痛論シタリ東航艦隊ハ三月十六日迄マダガスカル島ニ寄泊セシカ其ノ間ニネボガトフ少將ハ舊式艦ヨリ成レル增援艦隊ヲ率ヰテ二月十五日リバウ港ヲ出發シ當時恰モ地中海航進中ナリキ此ノ增援艦隊即チ世ニ所謂第三艦隊ノ編制ハ一大難業ニシテ爲メニ費セシ所ノ勞ハロヂエストウエンスキー艦隊編制ノ當時ニ比スレハ幾倍大ナリシヤ知ルヘカラス而テ增援艦隊ノ遂ニ本隊ト合スルヤ司令長官ハ增援艦隊各艦ノ現狀ヲ見テ大ニ失望シ其ノ旨ヲ明言シタリト云フ然レトモ此ノ事ハネボガトフ少將カ其ノ直率セル艦隊ニ就テ語ル所ト一致セサレトモ姑ク之ヲ記シ置クモノナリ

ロヂエストウエンスキー艦隊ハ四月八日新嘉坡沖ニ現レ同地ヨリ佛領安南ノ一港カムラン灣ニ向ヒ十四日同灣ニ著シ二十六日マテ在泊シ專ラ石炭及ヒ需品ノ搭載ニ從事セリ其ノ中立國領海利用ハ日本ヲシテ憤慨ノ極ニ至ラシメタリト雖モ佛國極東艦隊司令長官ハ露國艦隊ヲ去ラシムルヲ得ス露國皇帝ノ特令ニ依リ遂ニ其ノ出港ヲ見ルニ至レリト云フ然ルニ翌二十七日艦隊ハ又々カムラン灣以北約六十海里ノ處ニアルホンコーヘ灣ニ現レ五月八日マテ滯泊シ其ノ內幾隻ハ十二日マテ同灣ニ殘リタリ其ノ間ニネボガトフ少將ハ漸ク近ツキ來リ五月九日柴棍附近ニ現レシモ佛國官憲ヨリ入港ヲ拒マレタリ然レトモ本隊ヨリ派シタル一哨艦ト相會シ其ノ嚮導ニ依リ遂ニホンコーヘ附近ニ於テロヂエストウエンスキート相合セリ其ノ勢力左ノ如シ

戰艦七隻、裝甲巡洋艦三隻、海防艦三隻、防護巡洋艦六隻、假裝巡洋艦五隻(「クベーニ」「ウラール」「テレーク」「ヂオン」「ヅネープル」)、驅逐艦七隻、義勇艦隊汽船七隻、他ノ運送船九隻、病院船二隻(「アリョール」及ヒ「カストローマ」)、工作船二隻(「カムチャーツカ」及ヒ「アナヅィリ」)、倉庫船、蒸氣曳船其ノ他特務船舶若干隻

ロヂエストウエンスキーハ右ノ如クシテ增援艦隊ト合シタレハ次ニ起レル一大問題ハ今後如何ナル航路ヲ採ルヘキヤニアリ彼ハ其ノ第一目的タル浦鹽ニ達スルニハ臺灣海峽若クハ同島ノ外側ヲ進ミ朝鮮海峽ヲ經又ハ日本諸島ノ外側ヲ進ミテ津輕海峽若クハ宗谷海峽ヲ經テ日本海ニ入ルノ各航路アリ彼カホンコーヘ出發後取リタル航路ハ臺灣ノ南方ニ沿ヒバシー海峽ヲ通過シテ太平洋ニ入リタルモノニシテ彼ハ之ニ依テ其ノ後如何ナル計畫ニ出ツヘキヤヲ端睨スヘカラサラシメタリ彼若シ其ノ後日本本洲ノ東方ニ進ミ津輕海峽ヲ通過シタランニハ此ノ航路ハ對馬航路ヨリモ遠キコト約八百五十海里若シ尙北上シテ北海道ヲ回リテ宗谷海峽ヲ通過シタランニハ其ノ航路ハ一層長距離ナルカ故ニ到底之ヲ採ラサルコトハ人ノ既ニ察スルカ如シ

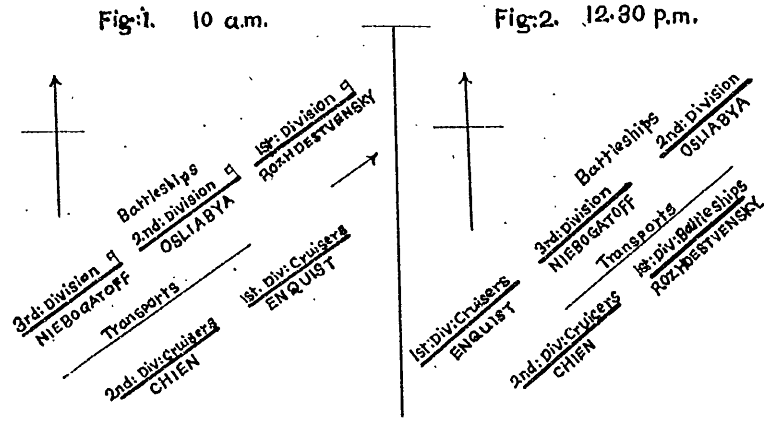
殊ニネボガトフ少將カ已ヲ辯護センカ爲メ露國新聞「ルス」ニ投シタル記事ヲ紹介センニ彼ノ言フ所ニ據レハロヂエストウエンスキー中將ハネボガトフニ作戰計畫ヲ示サス又ネボガトフ並ニ各艦長ト何事モ協議セス爲メニ彼等ハ啻ニ作戰上必要ナル協同動作ヲ取ル能ハサリシノミナラス其ノ最良ト信スル所ノ方策ヲ提出スルニ由ナシ又ネボガトフ少將ハフエリケルザム少將ノ訃音ニ接セサリキフエリケルザムノ死後ハ已之ニ代リテロヂエストウエンスキーノ次席將官トナリタルニモ拘ラスロヂエストウエンスキーハ已ヲシテ作戰計畫ニ就キ何等ノ意見タモ開陳セシメス又已ヲ招キテ軍議ニ列セシメサリキ故ニネボガトフ少將ハロヂエストウエンスキーノ作戰計畫ヲ窺知センカ爲メニ司令長官ノ命令ヲ研究シタレトモ其ノ命令ハ過半ハ各艦安全ナル載炭方ヲ實施スヘキ訓示及ヒ日々ノ演習中各艦操縱方ノ批難ナラサルハナシネボガ

トフノ言フ所ニ據レハ各艦ハ石炭ヲ過載シ爲メニ其ノ吃水ヲ規定水線以下ニ入ラシメタリト（露國新聞ノ内或ハロジエストウエンスキーノ部下ニ對スル態度決シテ斯ノ如キモノニアラスト打消スモノアリ）又ネボガトフ少將ハ同長官ノ取リタル航路ニ對シテ特ニ非議スル所アリロジエストウエンスキーハ獨斷ニテ斯カル重大ノ問題ヲ解決シ其ノ部下ヲシテ唯々諾々之ニ盲從セシムルノ已ムヲ得サルニ至ラシメタリト言ヘリネボガトフ少將ノ意見ハ宗谷海峽ヲ通過シ得ヘシト云フニアリ何トナレハ婆羅的艦隊ノ日本艦隊ト會戰シタル時ニハ尙三千海里ヲ航續シ得ヘキ石炭ヲ存シ又其ノ搭載セル需品モ亦適ニ所要額ニ超ユルヲ算知シタレハナリト（クラード中佐ハ對馬海戰ノ想像圖ヲ製スルニ當リ露國艦隊ハ尙充分ニ石炭ノ餘裕アリト言ヒロジエストウエンスキーカ朝鮮海峽ヲ通過セントシタルヲ痛ク非難セリ）然レトモロジエストウエンスキーノ對馬海峽ノ捷路ヲ採ルコトニ決シタル主因ハ石炭ヲ要スルノ比較的寡キヨリ起リシモノヽ如シ此ノ航路ヲ採ラハ佐世保鎭守府ノ近距離内ニ入ルノ恐アリト雖モ宗谷海峽ハ機械水雷ヲ以テ防禦セラルヘク津輕海峽ハ長行程ニシテ降霧ノ日ニハ航海困難ナルノミナラス水雷ノ敷設シアルコトヲ知リ居タルナリ是彼カ終ニ佐世保ニ近寄ルノ危險ヲ顧ルニ遑アラサリシ所以ニ外ナラス日本ハ五月十七日ニ至リ露國艦隊ノ最早安南海岸ニ在ラサル事實ヲ知リ同艦隊カ臺灣近海ヲ通過セシトキ其ノ行動ニ注目ヲ怠ラサリキ同艦隊ハ同二十日及ヒ二十一日ノ兩日東航シツツアリ翌二十二日ハ好天候ヲ利用シテ運送船ヨリ載炭シ後チ北轉シテ呉淞附近ニ到リ運送船若干隻ヲ上海ニ遣レリ是ニ於テクラード中佐以爲ラクロジエストウエンスキーハ上海ヨリ電信ヲ以テ在浦鹽エツセン少將ト打合セヲ爲サハエツセンハ勝敗將ニ決セントスル好時機ニ浦鹽ヨリ赴援スルヲ得タルナラント日本海軍ノ伊東大佐曰ク日本哨艦ハ五月二十六日九州南方ニ於テ初テ露國艦隊ト觸接シタリ且同日露國艦隊ハ馬鞍島附近ニ現レタリト是ロジエストウエンスキーカ前述ノ理由ニ基キ對馬海峽ヲ通過セントスルヲ示スモノナリ故ニ東郷大將ハ敵カ對馬海峽ヲ通過スルニ決シタルヲ最早疑フヘカラサルノ事ナリトシ唯其ノ東西兩水道孰レヲ擇フヘキヤノ一點ヲ確メ得サリシノミ此ノ際ニ於テスラモ露國艦隊ハ俄ニ變針シテ其ノ影ヲ韜マスヲ得タルナラント論スル者アレトモ露國艦隊ハ迅速ナル戰略運動ニ必要ナル一要素ヲモ有セサルノミナラス特務艦船ヲ携ヘタルカ爲メニ尙一層其ノ運動ヲ掣肘セラレタルヲ以テ容易ニ論者ノ言フ如クナラサルハ明白ナル事實ナリ

日本海軍ノ秋山中佐カ上官ノ許可ヲ得テ朝日新聞ニ寄セタル日本海々戰談ノ一節ニ曰ク東郷大將ノ作戰計畫ハ四晝夜ニ亙リ七段ニ區分セラレタルモノニシテ夫ノ實際戰場トナリタル地點若クハ其ノ附近ニ於テ敵ト相會スヘキ見込ヲ以テ策定シ其ノ區域ハ濟州島ヨリ朝鮮海峽ヲ經テ浦鹽ニ至ル海面ニ至ル間ナリ然レトモ其ノ第一、第二段ノ計畫ハ天候不良ノ爲メニ實施セラレス故ニ作戰計畫ハ第三段ヨリ初テ實施セラレタリ其ノ第六、第七段ハ既ニ全捷ヲ獲タルヲ以テ最早之カ實施ノ必要ヲ見ルニ至ラス第三段ハ日本艦隊ノ全力ヲ以テシタル二十七日ノ晝間攻擊ニシテ第四段ハ其ノ夜ノ水雷襲擊第五段ハ敗餘ノ敵艦ニ對スル要擊ナリト

五月二十六日ノ夜若クハ翌早朝露國司令長官旗艦ニ備フル無線電信機ノ針動ハ彼ヲシテ日本艦船カ己ノ附近ニアルコトヲ悟ラシメタリ同二十七日黎明海上濛氣深ク南西風强吹シ浪ヲ揚ルコト高シ爲メニ各艦ハ甚シク動揺シ就中驅逐艇ハ大ニ苦ミタリ東郷大將ハ日韓沿岸ニ輕快艦ヲ配備シ内外三線ヲ張リテ哨戒任務ニ就カシメタリシカ二十七日午前五時假裝巡洋艦信濃丸ハ敵艦隊ノ濟州島南方ニ向ヒ來航シツヽアルヲ二〇三地點（編者曰ク原著者ノ二〇三地點ニ關スル解釋ハ在東京「タイムス」通信員ト同樣ナレハ之ヲ略ス）ニ發見シ無線電信ヲ以テ東郷大將ニ警報シ之ニ附言スルニ露國艦隊ハ對馬東水道ニ向フモノヽ如クナルヲ以テセリ其ヨリ二時間ヲ經テ内方警戒線ノ左翼哨艦タリシ和泉亦敵艦隊ヲ發見シテ敵既ニ宇久島ノ北西二十五海里ノ地點ニ達シ北東ニ航進スル旨ヲ報シタリ茲ニ於テ日本巡洋艦隊ハ露國艦隊ト接觸ヲ保ツ如ク行動シ而テ東郷大將ハ其ノ直率ノ主戰艦隊ト上村中將直率ノ裝甲巡洋艦隊トヲ以テ馬山浦附近ナル鎭海灣ヲ出テ對馬ノ北方ヲ通過シテロツ島ノ北方ニ其ノ勢力ヲ集中セリ尙片岡中將ハ松島、橋立、嚴島等ノ舊式巡洋艦ヨリ成レル巡洋艦隊ヲ指揮セリ其ノ外ニ出羽中將ハ笠置ヲ旗艦トシ瓜生中將ハ浪速ヲ旗艦トシ各巡洋艦ノ一部隊ヲ率キ又東郷少將ノ指揮下ニモ一部隊アリ日本司令長官ハ其ノ公報中ニ同巡洋艦隊ヨリ時々刻々發シタル無線電信ニ依テ絕エス敵狀ヲ詳ニスルヲ得タリト云ヘリ

Russian Formation.



余ハ是ヨリ露國艦隊運動ト其ノ陣形ノ變換トヲ叙述セント欲スレトモ憾ムラクハ未タ全ク信據スルニ足ラサル點アリ讀者請フ之ヲ諒セヨ然レトモ五月二十七日午前八時露國ノ主力隊ハ單縦陣ヲ制リロジエストウエンスキー自カラ「スウオーロフ」ノ型戰艦四隻ヨリ成レル第一部隊ヲ率ヰテ先頭ニ立チ第二部隊ハ「オスラービヤ」ヲ先頭トシテ之ニ續クリ同艦ハフエリケルザム少將ノ旗艦ニシテ少將ハ海戰ノ當日ヨリ數日前病死シタルモ尚其ノ將旗ヲ揭揚シ居リタルモノヽ如シ其ノ次ハ第三部隊ニシテネボガトフ少將「ニコライ」一世ヲ旗艦トシ之ヲ指揮シ本戰線ノ殿タリシモノヽ如シ「イズムルード」艦長フエルセン男ノ報告ニ據レハ初メ艦隊速力ハ八海里ナリシカ日本巡洋艦ノ現ルヽニ及ヒテ十一海里ニ增シ午前九時四十分ノ針路ハ北二十三度東ナリ運送船隊ハ主力艦隊ノ右側ニ當リテ一線ニ列シ又其ノ右側ニハエンクウヰスト少將及ヒチエン大佐ノ率ヰル二巡洋艦隊アリタリトネボガトフ少將ハ已ノ行爲ヲ辯護セン力爲メロジエストウエンスキーハ戰鬪ノ前夜艦隊演習ヲ行ハシメタルヲ以テ徒ラニ其ノ兵員ヲ疲勞セシメタリト言ヒ尚進ミテ各艦ニハ其ノ出來得ル限リ石炭ヲ滿載セシメタルカ為メ水線甲帶ハ水面下約三呎ノ處マテ沒入シタリ實ニ石炭ハ艦内到ル處之ヲ見サルナク上甲板及ヒ各將校室ニマテモ之ヲ詰込ミタリト言ヘリ是時ニ取リテ考察スヘキ事ナリ然ルニ是等ノ豫備炭ハ炭庫既ニ空乏ニ至リシニモ拘ラス之ヲ使用セサリシヲ以テ當日ノ高浪ハ軍艦ノ動搖ヲ甚シカラシメタリトノ說アリ露國艦隊ハ午前九時日本巡洋艦隊カ己ト五十鏈ヲ隔テヽ「オスラービヤ」ノ左舷正横ニ其ノ戰鬪艦ヲ置キ驅逐艦四隻ヲ先立テヽ露國艦隊ト併航スルヲ視認シタリ同十時十五分右舷ニ當リ更ニ日本軍艦四隻ヲ目擊シタリ此ノ四艦ハ千歲、笠置、新高及ヒ對馬ト思ハルヘキモノニシテ此等ハ間モナク左舷ニ到リテ他ノ巡洋艦ト相合セリ午前十一時十五分ネボガトフ少將旗艦「ニコライ」一世及ヒ之ニ後續セル第三部隊ノ各艦ハ砲火ヲ開始セリエンクウヰスト少將ハ敵ノ巡洋艦ヲ擊退スルノ所置ヲ取ラサルモノヽ如クナリシモ而モ日本巡洋艦ハ間モナク其ノ影ヲ沒シタレハ同十一時三十分打方ヲ止メタリロジエストウエンスキーハ如何ナル犧牲ヲ以テシテモ敢進シテ浦鹽ニ達セント決心シ又東鄕ハ敵將ノ此ノ企圖ヲ知悉シ居タリロジエストウエンスキーノ此ノ企圖ハ日本海々戰ニ一種特別ノ性質ヲ附シタルモノニシテ讀者若シ之ヲ了解セス

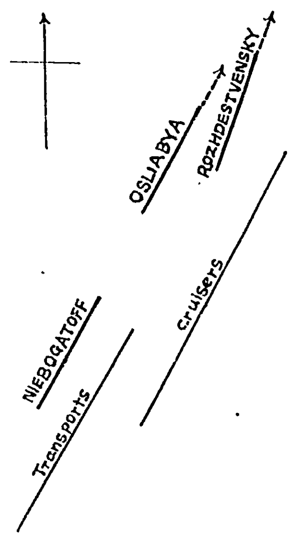
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ンハ此ノ海戰ニ依テ眞個ノ要訓ヲ得ルコト能ハサルヘシ彼カ北方ノ港灣ニ入リテ將來ノ作戰ニ必要ナル準備ヲ整ヘント欲スルノ目的ハ實ニ此ノ海戰ノ一大要因ニシテ彼ノ運動ハ皆之ヨリ胚胎セリ東鄕ハ絕エス其ノ優速力ヲ利用シテ敵ノ北走運動ヲ阻止スルコトヲ努メ又濃氣ノ爲メニ敵影ヲ失スルモ敵ノ執ルヘキ針路ヲ知悉セシカ故ニ再之ヲ發見スルヲ得タリ[illegible]

ロヂエストウエンスキーハ既ニ合戰トナリシ後漸ク隊列ヲ整フルノ運動ヲ開始シタリ此ノ失策ハ恐ラクハ幾分カ部下將校カ司令長官ノ命令ヲ實施セサルニ歸スヘキモ主トシテ司令長官兼定ノ目的確乎ナラサルヨリ起レルモノヽ如シ「イズムルード」艦長ノ報告ニ據レハロヂエストウエンスキーハ午後零時二十分ヲ過クルコト少時第一部隊及ヒ第二部隊ニ右八點ニ回ルヘキヲ令シタリ其ノ一齊回頭ナルカ若クハ逐次ナルカハ明記シアラサルモ兎モ角第二部隊ハ午後零時三十分ニ至ルモ尙斯ノ如ク爲シ居ラサリキ是ニ於テロヂエストウエンスキーハ北二十三度東ノ針路ヲ取ルヘキノ命令ヲ取消シタリト云フ此ノ針路ハ同日午前九時四十分定メタルモノニシテ其ノ後之ヲ變更シタルノ記事アラサルカ故ニ右ニ云ヘル北二十三度東ノ針路變換命令ノ意味ハ解シ難キ所アリト雖モ察スルニ第二部隊及ヒ後續艦ハ從來ノ針路ヲ保續セシニ拘ラス第一部隊ノミハ「スウォーロフ」ヲ先頭トシテ別ニ右翼ノ一列ヲ作リ而テ斯ク爲スカ爲メニ第一部隊ハ稍後方ニ落チタルモノナラン何レニシテモ左翼列ハ第二艦隊ヲ先頭ニ置キ「オスラービヤ」ヲ嚮導トシテ戰鬪ニ就キタルコト確實ナリ[illegible]

ロヂエストウエンスキーハ午後一時三十分若クハ四十五分ニ至テ日本主戰艦隊ヲ觀認スルヤ玆ニ初テ其ノ失策ヲ爲シタルヲ悟リシモノヽ如シ故ニ彼ハ「オスラービヤ」ニハ速力ヲ八海里ニ下スヘキヲ命シ又其ノ直率ノ第一部隊ニハ左八點ニ回頭スヘキヲ命シタリ此ノ運動ノ目的ハ艦隊ヲ原陣形タル單縱陣ニ復シ運送船隊ヲ右側ニ置カントスルニアリタリ其ノ後ノ運動ニ就テハ露國公報ニ於テ解シ難キモノアリ其ノ所載ニ據レハロヂエストウエンスキーハ再右側ニ轉シ後續艦隊モ亦間モナク之ニ倣ヘリト然レトモロヂエストウエンスキーハ依然右側ニ在リシコト明ニシテ彼ハ爾餘ノ各部隊カ已ニ作

Fig: 3.
Russian Formation 1·30 p.m.
Japanese bearing down.



ハサルヲ知リ其ノ將ニ爲サントシタル左轉ヲ遂ケ得サリシモノヽ如シ次テ彼ハ第二第三部隊ニ單縱陣ヲ制ル可キヲ命シ午後二時八分若クハ其ノ少時前「スウオーロフ」ハ砲火ヲ開始セリロヂエストウエンスキーノ制ラント欲シタル陣形カ此ノ時未タ全ク成ラサリシハ殆ト疑ナキカ如シ

此ノ初期ニ於テ日露両軍ノ公報ヲ對照スルニ大體ニ於テハ相同シ東郷大將曰ク午後一時四十五分ニ至リ正ニ我カ左舷南方數海里ニ始テ敵影ヲ發見セリ敵ハ豫期ノ如ク其ノ右翼列ノ先頭ニ「ボロヂノ」型戰艦四隻ノ主力戰隊ヲ置キ「オスラービヤ」「シソイ、ウエリーキー」「ナワリン」「ナヒーモフ」ヨリ成ル一隊ヲ左翼列ノ先頭ニ配シ「ニコライ」一世外海防艦三隻ヨリ成ル一隊之ニ次キ「ヂエムチウグ」「イズムルード」ノ二隻ヲ両列ノ間ニ介在セシメテ前方ヲ警戒セルモノヽ如ク尚其ノ後方濛氣ノ中ニ「オレーグ」「アウローラ」以下二三等巡洋艦ノ一隊「ドミトリー、ドンスコイ」「ウラヂーミル、モノマーフ」其ノ他特務艦船等數海里ニ亙リテ連綿航續スルヲ仄ニ認ムルヲ得タリト是ニ於テカ東郷大將ハ戰鬪介ヲ下シ午後一時五十五分夫ノネルソンノ信號ト相並ヒテ著名トナレル信號ヲ掲ケタリ曰ク皇國ノ興廢此ノ一戰ニ在リ各員一層奮勵努力セヨト而テ日本主戰艦隊ハ少時南西ニ向首シ敵ト反航通過スルト見セシカ午後二時五分左約十二點ニ向首シ急ニ東ニ折レ斯テ各艦ハ敵ノ両列ノ先頭艦ヲ斜ニ若クハ直角ニ通過セシカ爲メ逐次回リタルコト明ナリ上村中將ノ裝甲巡洋艦隊モ主戰艦隊ニ續航シテ其ノ運動ニ倣ヒ出羽戰隊瓜生戰隊片岡巡洋艦隊及ヒ東郷戰隊ハ東郷大將ノ豫定戰策ニ準シ孰レモ南下シテ敵ノ後尾ヲ衝ケリ此ノ各隊ノ戰況ハ後ニ説ク所アラントス

露國艦隊ハ敵カ斯ク敏速ニ斯ク巧妙ナル運動ヲ實施セシカ爲メ戰鬪ノ劈頭ニ於テ忽チ戰略上及ヒ戰術上重大ナル不利ニ陷リタリ戰略上ノ不利トハ露國艦隊ト其ノ達セント欲スル北方ノ一港トノ間ニ敵ノ介在スルコト是ナリ又戰術上ノ不利トハ露國ノ両先頭艦ハ猛烈ナル集彈發射ヲ蒙リ同時ニ後續諸艦ノ砲火ハ遮障セラレタルコト是ナリ故ニ露國艦隊ハ東方ニ變針セサルヲ得サルニ至リタレハ両軍線列ハ間モナク殆ト並航ノ姿勢ヲ爲セリリネウヰツチカ巡洋艦「アルマーズ」驅逐艦「グローズヌイ」同「ブラーウイ」乘組將校ノ報告ニ基キ作レル公報中ニ曰ク露國主戰艦隊ノ第一部隊ハ右二點ニ偏シ

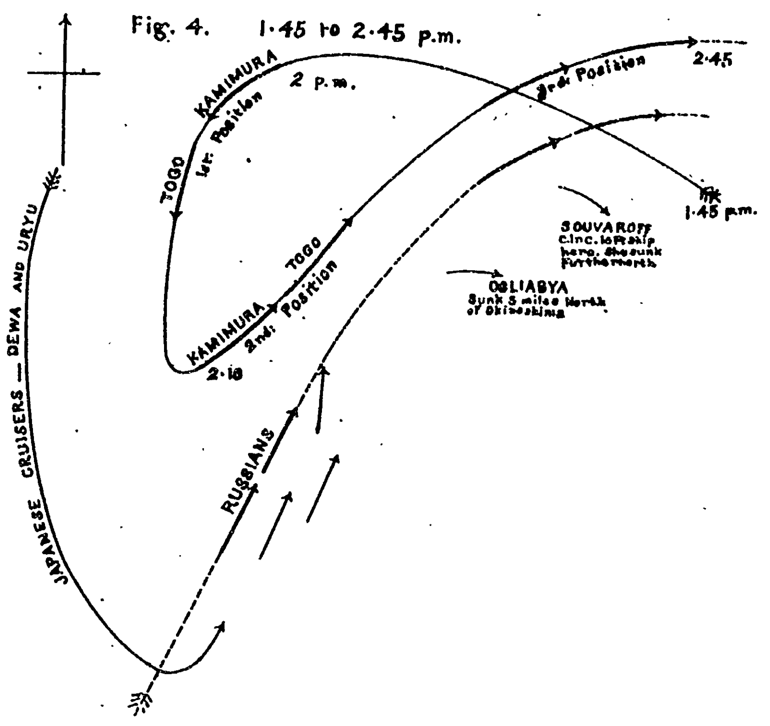
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二部隊ノ先頭ニ占位セリト故ニ露國艦隊ハ單縱陣ヲ作ランコトヲ力メ而テ右舷ニ回頭シ弧線ヲ描キシヲ以テ遂ニ不規則ナル單縱陣ヲ作ルニ至リタルモノヽ如シ露國艦隊ノ左翼列ハ午後二時八分約八千碼ノ距離ニ於テ（右翼列ハ約九千五百碼ニ於テ）砲火ヲ開始セシト雖モ日本艦隊ハ射距離七千碼以内トナルマテ之ニ應セス而テ其ノ射距離ハ速ニ短縮シツヽアリタリ、[illegible]

斯ク北東ヨリ露國艦隊ヲ壓迫シタル日本主力隊ハ二個戰隊ヨリ成リ第一戰隊ハ三笠（東郷旗艦）、敷島、富士、朝日、春日及ヒ日進ニシテ第二戰隊ハ出雲（上村旗艦）、磐手、八雲、吾妻、淺間及ヒ常磐是ナリ東郷大將ハ彼ノ戰略的運動ノ結果ヲ記シテ斜ニ敵ノ先頭ヲ壓迫シテ益〻之ヲ東方ニ擊壓セリト云ヘリ

是迄接受シタル各種ノ報道ニ徵スルニ此ノ時東郷大將ハ十五海里ノ速力ヲ出セシニ露國艦隊ハ（「イズムルード」艦長フエルセン男ノ言フ所ニ據レハ十二海里ヲ出セリト云フ然レトモ露國艦隊ノ所謂十二海里ハ恐ラク其ノ實際出セシ所ヨリハ少シク過算ナランカ何レニシテモ日本ノ速力ハ露國ヨリモ概ネ三海里優レルモノト視テ妨ケナカルヘシ佛國海軍中佐ダブルイ氏ハ「制海權爭奪戰」ト題スル一頁書ヲ出セシカ書中日露兩艦隊ノ速力ニ就キ說ク所頗ル注目スヘキモノアルヲ以テ之ヲ紹介スヘシ氏ハ速力ヲ以テ戰術上ノ一要素ト爲スコト勿論ナレトモ之ヲ目シテ一種ノ武器トスルハ大誤解ナルコトヲ讀者ニ感得セシメ是ト同時ニ日本海々戰ニ於テ速力ハ一大効用ヲ爲セリト雖モ世ハ未タ之ヲ重要視セサリシコトヲ指摘シ速力ノ利益ハ戰鬪ノ初期ニ於テ現レ勝敗ハ之ニ依テ決シタルニアラストスルモ少クモ與リテ力アリ即チ日本戰艦ノ側面運動カ其ノ効力ヲ逞ウシタルハ迅速之ヲ遂行セシカ爲メナリ若シ東郷ニシテ徐然トシテ緩カニ敵列ノ前面ニ進ミタルナランニハロヂエストウエンスキーハ較良キ陣形ヲ制リテ敵ノ攻擊ニ應スルノ餘裕ヲ得タルナラン然ルニ其ノ急速ナル攻擊ハ彼ヲ麻痺セシメ策ノ出ツル所ナキニ至ラシメタリト說述セリ此ノ日朝來濤ヲ揚クルコト高ク爲メニ石炭ヲ過載セル露國戰艦ハ動搖甚シク隨テ舷側裝甲以下ノ部分ハ時トシテ日本砲手ノ目ニ映シ又時トシテハ水線甲帶全部水面下ニ沒シタリ余ノ既ニ言ヘル如ク佛國代議士ボー氏モ亦海軍豫算調査報告中ニ曰ク此ノ過度ノ動搖ハ露艦カ其ノ炭庫內ノ

Fig. 4. 1·45 to 2·45 p.m.



石炭ヲ消盡シ而モ甲板上ニ堆積シタル豫備炭ヲ殆ト其ノ儘ニ委シ置キタル事實ニ基因スヘキモノナリト

東郷カ露國艦隊ノ先頭ヲ横過セソカ爲メ約十二點右方ニ同頭スルヤ彼ノ戰術ノ優秀ハ直ニ現レタリ何トナレハ彼ノ諸艦ハ怖ルヘキ威力ヲ以テ敵ノ兩先頭艦ニ砲火ヲ集中シ「オスラービヤ」ハ間モナク火災ヲ起シ又浸水甚シク其ノ結果ハ東郷ノ言ヘルカ如ク戰鬪ノ初期ニ於テ戰列ヨリ脱シ右舷ニ出テ一時間ノ後沈沒セリ後日生存捕虜ノ言ニ據レハ日本軍艦ヨリ發セル最初ノ二彈ハ同艦ニ中リテ浸水ヲ惹起シ爾テ其ノ浸水ノ大ナル同艦ノ傾度ヲ過甚ナラシメ其ノ力ヲ維持スルノミニテモ至難ヲ感シタリト

東郷ハ斯ク「オスラービヤ」ニ大打撃ヲ加ヘテ後引續キ敵ノ兩先頭艦ニ集彈發射セシカハ今ヤ司令長官旗艦「クニヤージ、スウオーロフ」モ亦忽ニシテ火災ヲ起シ至大ノ苦境ニ陷リ夫ノ「オスラービヤ」ハ左翼列ノ先頭ヨリ脱シタリ「ニコライ」一世ニ坐乘セルネボガトフ少將ハ司令長官旗艦ノ兩煙突破碎セラレ又艦内各所ヨリ猛焔ヲ吐キ同時ニ日本巡洋艦ノ之ニ迫ラントスルノ危險ヲ見テ赴援セリ此ノ事ハ當日戰鬪ノ初期ニ起リシヤ或ハ其ヨリ以後同旗艦カ敵ノ重圍ニ陷リ其ノ最後ノ一撃ニ對シテ奮戰中ノ時ナリシヤ詳ナラス若シネボガトフ少將ニシテ司令長官旗艦ノ初テ右翼列先頭ノ位置ヨリ脱シタルトキニ赴援セシモノトセハ彼ハ第三部隊ノ先頭ヲ離レサルヘカラス縦令彼ノ運動ハ何時行ハレタルニモセヨ彼ハ司令長官旗艦ニ對スル敵ノ壓迫ヲ緩メ同艦ヲシテ一時防戰ヲ止メ専ラ火災ノ消防ニ手ヲ盡スヲ得セシメタリネボガトフ少將ノ言フ所ニ據レハ出羽少將ノ旗艦笠置ハ「ニコライ」一世ノ砲彈ニ依リテ重大ナル損害ヲ蒙リ修理ノ爲メ陸岸ノ蔭ニ避退セサルヘカラサルニ至レリト東郷ノ公報亦此ノ事實ヲ確メタリ即チ曰ク笠置ハ水線下ニ一彈ヲ蒙リタルヲ以テ出羽司令官ハ其ノ將旗ヲ千歳ニ移セリト

今ヤ「アレクサンドル」三世ハ右翼列ノ先頭ニ占位スルニ至レリト雖モ此ノ時針路ハ右舷ニ偏シ居タルヲ以テ陣形ハ不規則ナル單縱陣ニ伸長シツヽアリ然レトモ日本艦隊ハ速力優越ナルヲ以テ能ク露國艦隊ノ先頭部隊ヲ壓迫スルヲ得タリ露國艦隊カ漸次右舷ニ偏セサルヘカサルニ至リタルハ實ニ日本艦隊カ彼等ノ先頭ヲ横過スルヲ防止セソカ爲メニシテ露國

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

艦隊ハ不規則ナカラモ其ノ所要ノ單縱陣ヲ作リシカ間モナク南方ニ壓セラレタリ戰鬪開始後約四十五分間ヲ出テスシテ「アレクサンドル」三世ハ大損害ヲ被リ火焰ニ包マレ著シク右舷ニ傾斜シ是亦戰列ヲ脫セサルヲ得サルニ至レリ「シソイ、ウエリーキー」モ亦同艦長オゼロフ大佐ノ言フ所ニ據レハ大火災ヲ起シ又敵彈ノ爲メニ十二個所ノ大孔ヲ生シタルヲ以テ浸水甚シク爲メニ各區劃氾溢シ船體右舷ニ傾斜セリト云フ此ノ時日本裝甲巡洋艦隊ノ全部ハ主戰艦隊ノ通跡ヲ追ヒ射距離ノ短縮スルニ隨ヒ露國艦隊ノ陣形愈亂レ後續諸艦亦火災ニ罹レルモノ多ク其ノ朧煙西風ニ靡キテ忽チ海上一面ヲ蔽ヒ濛氣ト共ニ全ク敵影ヲ包ミ主戰艦隊ノ如キハ一時打方ヲ止メサルヲ得サルニ至レリ日本軍艦モ亦多少ノ損害ヲ被リ裝甲巡洋艦淺間ハ後部水線ニ近ク三彈ヲ受ケテ舵機ヲ損シ且浸水甚シク一時已ムヲ得ス列外ニ落伍シテ應急修理ニ就ケリ

東鄕大將ハ其ノ艦隊ノ戰術的運動及ヒ其ノ猛烈精確ナル射擊ノ效果ニ就テ曰ク午後二時四十五分前後勝敗ハ決セリ我カ主力隊ハ如此敵ヲ南方ニ壓シ煙霧ノ中敵影ヲ發見スル每ニ緩徐ニ之ヲ砲擊シタリト此ノ時露國艦隊ノ目的ハ逃走セントスルノ一事ニアリ東鄕ノ目的ハ其ノ優速力ヲ利用シテ之ヲ阻止セントスルニアリシカ如シ東鄕大將曰ク午後三時頃ニハ既ニ敵ノ前路ニ出テ約南東ニ向針シアリシカ敵ハ俄ニ北方ニ向首シ我カ後尾ヲ回リテ浦鹽ニ遁走セントスルカ如シト此ノ運動ハ「ボロヂノ」ヲ先頭トシ右ニ十四點ニ回頭シテ遂ケ得タルモノヽ如シ而テ東鄕ハ之ニ應シ既ニ負傷セル露艦ヲ其ノ目的ヲ達セサラシメンカ爲メ主戰艦隊ヲシテ急ニ左十六點ニ一齊回頭セシメ裝甲巡洋艦日進ヲ嚮導トシテ北西ニ向ヒ敵ヲ遮ラントセリ東鄕曰ク裝甲巡洋艦隊モ主戰艦隊ノ通跡ヲ過キタル後正面ヲ變シテ之ニ續キ再敵ヲ南方ニ壓シ之ヲ猛射セリト斯テ露國艦隊ハ東鄕カ再己ノ先頭ヲ橫過セントカムルヲ見テ再南轉セリ而モ日本艦隊ハ又回頭シ其ノ優速力ヲ利用シテ直ニ敵ノ側面ニ出テタリ

此ノ時「オスラービヤ」ハ至大ノ悲境ニ陷リシヲ以テ驅逐艦「ブイヌイ」艦長ゾルノウオ大尉ハ驅逐艦「ブラーウイ」ト共ニ同艦ノ救助ニ赴キ其ノ將校下士卒百七十五名ヲ收容セリ此ノ二隻ノ驅逐艦ニ依リテ救ハレタル者ハ計約四百名アリシト

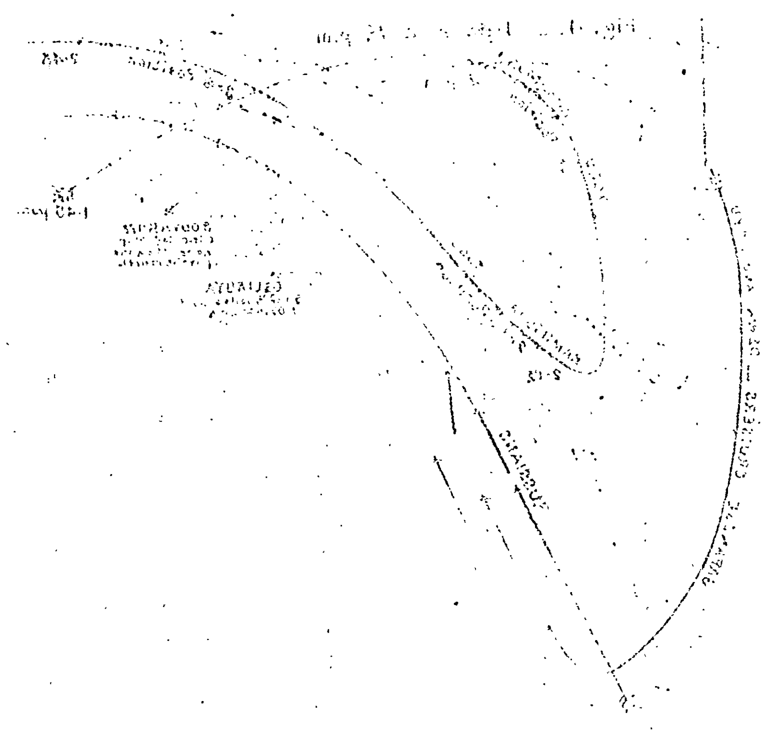
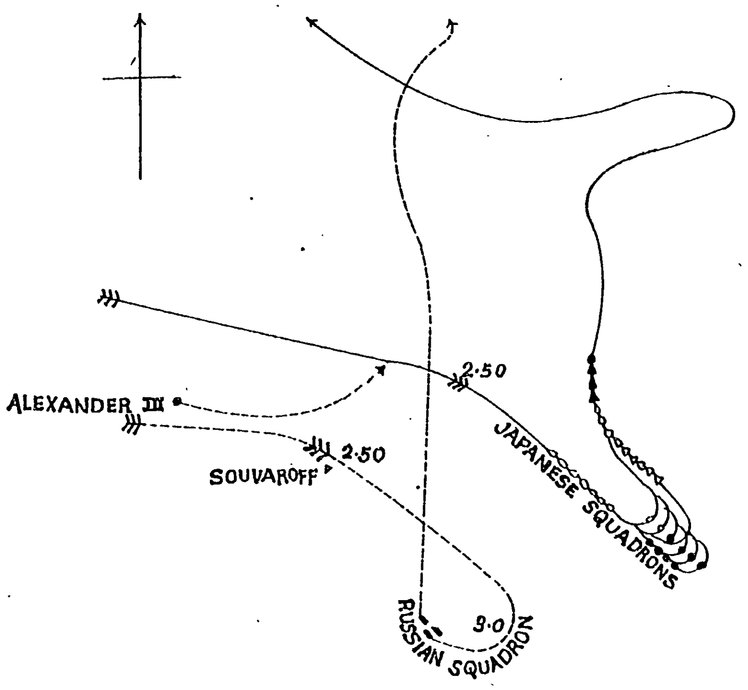


Fig: 5. 2.45 to 3.45 p.m.



伝ヲ斯テ「オスラービヤ」ハ午後三時十分沈沒セリ是實ニ戰鬪開始後未タ一時間ヲ出テサル時ナリ「スウオーロフ」モ亦至慘ノ狀態ニ陥リタリ同艦ハ既ニ一檣二煙突ヲ失ヒ全艦煙焰ニ包マレテ殆ト操縦スヘカラサルニ至レリ午後四時前ロジェストウェンスキー中將ハ驅逐艦「ブイヌイ」ニ移リ後又「ベドウイ」ニ轉セシカ「ベドウイ」ハ翌日驅逐艦漣ニ降伏スルノ止ムナキニ至レリ斯テ露國司令長官ハ日本ノ捕虜トナレリ

東郷大將ハ其ノ驅逐隊カ既ニ廢艦トナレル「スウオーロフ」ニ對シテ加ヘタル攻撃ヲ壯烈ノ事績トシテ特記セリ

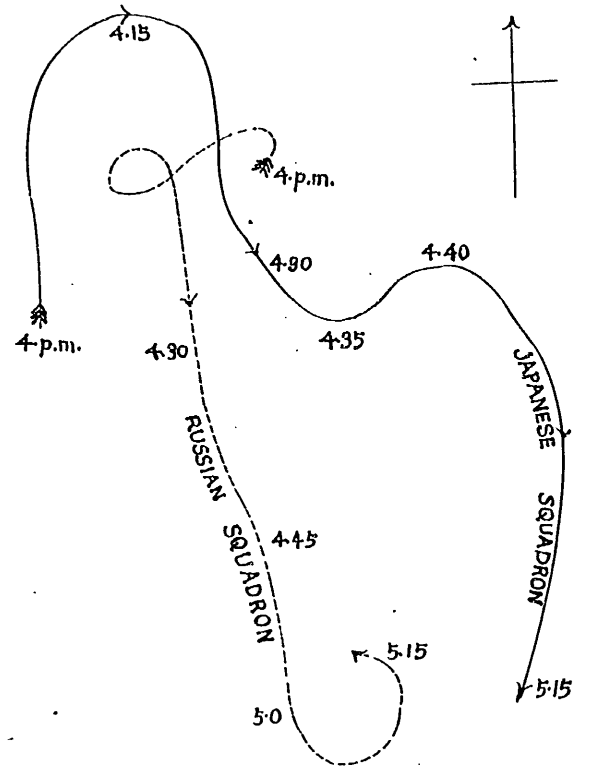
其ノ間「アレクサンドル」三世ハ既ニ大損害ヲ被リタルモ其ノ幾部分ヲ修理シ得テ僚艦ニ合セシカ僚艦亦重傷ヲ被リテ尚南方ニ撃歴セラレツヽアリタリ午後四時頃露國艦隊ハ西ニ變針セシモ東郷ハ包圍弧線ヲ描キテ東ニ回リ次テ再南方ニ向セ露國艦隊ヲ右舷ニ視テ之ト約並航ノ針路ヲ保續セリ然ルニ東郷ハ同四時三十五分如何ナル理由ナルカ知ルヘカラサレトモ右舷ニ轉シタルモノヽ如シ此ノ外方運動ハ恐ラク濛氣ノ爲メニ一時敵ト接觸ヲ失ヒタルモノナランカ東郷大將曰ク我カ主隊ハ裝甲巡洋艦隊ヲ先頭トシ之ヲ追撃セシカ少時ニシテ遂ニ敵影ヲ煙霧ノ中ニ失シ南下スルコト約八海里行々我カ射距離内ニ發見シタル敵ノ二等巡洋艦特務艦船等ヲ綏射セリト然レトモ是等艦船ハ既ニ日本巡洋艦ヨリ重大ナル損傷ヲ被リ居タルモノナリ日本巡洋艦ノ行動ニ就テハ後ニ記ス所アルヘシ東郷大將ハ敵ノ主力隊ヲ發見セサリシヲ以テ同五時三十分再針路ヲ北方ニ執リ同時ニ裝甲巡洋艦隊ハ散亂セル敵艦ノ處分ニ從事セリ

東郷大將ハ北方ニ向ヒ進航中敵ノ特務艦「ウラール」ニ出會シタルヲ以テ之ヲ撃沈シタリ間モナク敵艦六隻ノ一團北東ニ逃走セントスルヲ發見シ直ニ之ニ近ツキテ之ト並航戰ヲ開始セシカ忽ニシテ敵ノ前路ニ出テ是迄大ニ奏功シタル運動ヲ襲行シ其ノ優速力ヲ利用シテ敵ノ先頭艦ニ砲火ヲ集中セリ露艦ハ初メ北東ノ針路ヲ採リシカ日本艦隊ノ運動包圍弧線ヲ描キシカ爲メ次第ニ西方ニ屈折シ遂ニハ北西ニ向針スルニ至レリ日本艦隊ハ戰鬪ノ初期ニ於ル如ク間隔ヲ詰メテ序列ヲ爲セシモ露國艦隊ハ離散彷徨シ居タルヲ以テ日本ハ個々ノ露艦ニ對シ集彈發射ヲ行フノ位置ヲ占ムルヲ得タリ

此ノ時「スウオーローフ」ハ辛ウシテ浮力ヲ保續セシカ驅逐隊ノ襲擊ヲ受クルニ迫ヒテモ尚之ヲ擊退スルニ力メ居リシニ春

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

Fig: 6. 4 to 5·15 p.m.



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

雨ノ發射シタル二發ノ魚雷一ハ其ノ機關室附近ニ一ハ其ノ後部ニ命中セシカ爲メ午後七時二十分遂ニ沈沒セリ同艦ハ浸水及ヒ火災ノ爲メ列外ニ落伍シ同五時二十分頃二發ノ魚雷ヲ被リタルモ其ノ水上ニ泛ヒ得タルハ五時間以上ニ及ヘリ此ノ時夕陽已ニ舂キ日本驅逐隊水雷艇隊ハ此ノ怖ルヘキ破壞事業ヲ完結セシカ爲メニ出動シツヽアリキ故ニ主戰艦隊ハ直接攻擊ヲ緩メ日沒(午後七時二十八分)ト共ニ東方ニ變針シ全艦隊ニ明朝鬱陵島附近ニ集合スヘキ命令ヲ發シタリ

是ヨリ出羽中將瓜生中將東鄕少將ノ指揮セル三個ノ巡洋艦戰隊ノ戰況ヲ叙センニ此等ノ巡洋艦ハ笠置、千歲、新高、音羽、浪速、高千穗及ヒ對馬ノ外ニ尚數隻アラン戰鬪開始ノ令下ルヤ此ノ各戰隊ニ既ニ記シタルカ如ク敵ヲ左舷ニ見テ反航南下シ其ノ後尾ヲ衝カントセリ露軍ノ後尾ハ裝甲巡洋艦「ドミトリー、ドンスコイ」同「ウラヂーミル、モノマーフ」防護巡洋艦「アウローラ」同「オレーグ」其ノ他數隻ヨリ成リシカ日本巡洋艦隊ハ之ト反航南下中ニ砲擊ヲ加ヘ次テ其ノ後方ヲ回リテ其ノ右方ニ出テ更ニ並行戰ヲ試ミタリ[illegible]

エンクウヰスト少將ハ此ノ方面ニ於テ巡洋艦隊ヲ指揮シ居タルモ敵ノ攻擊ニ對シテハ一モ爲ス所アラサリシモノヽ如ク守勢ヲ取リ敵ヲシテ其ノ欲スルカ如ク味方ノ殿艦ヲ旋擊セシメタリ佛國海軍中佐ダブルイ中佐ノ言ヘルカ如ク此ノ方面ノ戰況ハ詳述ヲ要セスト雖モ而モ其ノ二時間戰鬪ノ結果ハ露國艦隊ノ後方部隊ヲシテ全然動搖潰亂セシメタリ特務船舶「アナヅイリ」「イルツイシ」「ルス」ノ三隻ハ損害甚シク就中「アナヅイリ」「イルツイシ」ノ二隻ハ直ニ沈沒シ「ルス」ハ後ニ至リ對馬海岸ニ於テ沈沒セリト云フ午後四時三十分片岡中將ハ橋立型三隻千代田及ヒ其ノ他數隻ヨリ成レル所謂巡洋艦隊ヲ率ヰテ到着シタリ露國巡洋艦ハ此ノ優大ナル勢力ノ壓迫ニ堪ヘスシテ遂ニ艦隊ノ後尾ヨリ離レテ遁逃シタリダブルイ中佐ノ推察スル所ニ據レハ日本艦隊ノ目的ハ敵ノ巡洋艦ト交戰スルニ非ス之ヲ擊攘シテ特務艦船ヲ攻擊セントスルニアリシナリエンクウヰスト少將ハ後ニ至テ曰ク余ハ司令長官ヨリ戰若シ利アラサル場合ニハ巡洋艦隊ヲ率ヰテ上海ニ逮セシコトヲ努ムヘシ同地ニテハ石炭ヲ補充シ得ヘキカ故ニ或ハ逃走スルヲ得ヘシトノ秘密訓令ヲ受ケ居タリ余カ部下諸艦ハ既ニ大損害ヲ受ケ死傷亦多ク夕刻ニ至リ勝利ノ望全ク絕エタルヲ以テ茲ニ秘密訓令ヲ實行スルニ決シタルナリ余ハ北走

セント努メタレトモ其ノ前路ニ當リテ日本驅逐艦ノ監視スルアリ又遙ニ巡洋艦ヲモ視認シタルヲ以テ徒ラニ之ト戰ヒ「アウローラ」「オレーグ」「ジェムチウグ」ノ三巡洋艦ヲ犠牲ニ供シ又其ノ乘員ヲ喪滅センヨリハ寧ロ之ヲ救フヲ以テ策ノ得タルモノト思惟シ浦鹽ニ向フノ念ヲ絶チ先ツ上海ニ達セントヲ力メタリ然ルニ余ハ翌夜日本ノ一艦隊カ同方面ニ向ヒ進航スルヲ見タリ是ニ於テ余ハ馬尼剌ニ赴クニ決シタルカ同地ニ著スルヤ僅々二十四時間ノ滯泊ヲ許サレタルノミニシテ到底其ノ間修理ヲ完了シ得ヘカラサルカ故ニ遂ニ武裝解除ニ決セリ「アウローラ」ニ於テハ其ノ備砲ノ多クハ其ノ用ヲ作サヽルノミナラス尙外ニ損害アリ死傷亦多シ「オレーグ」亦損傷甚シク其ノ舷側ニ於テ水線附近ニ一大孔ヲ被レリト然レトモ「ジェムチウグ」ニ就テハ別ニ言フ所アラサリキ

此ノ日ノ晝戰終結後夜ニ入リテ日本驅逐艦約二十隻及ヒ水雷艇六十四隻ハ敗餘ノ敵艦搜索ノ爲メニ出動セリネボガトフ少將ハ九隻ノ軍艦ヲ率ヰテ浦鹽ニ達セント努メツヽアリシカ其ノ言ニ據レハ此ノ夜日本驅逐隊及ヒ水雷艇隊ノ連續襲擊ヲ蒙リシモ余ノ直率部隊ニ屬スル各艦ハ損傷ヲ被ルコトナク燈火ヲ滅シテ無事ニ航行スルヲ得タリ余ノ旗艦ハ近距離ニ於テ攻擊ヲ被リタルモ巧ニ艦ヲ操縱シタルカ爲メ一發ノ魚雷ノ如キハ之ヲ避ケントシテ艦ヲ回シタル刹那艦尾ノ下ヲ通過シタリ「アリョール」ノ備砲ハ破損シテ用ヲ作サス其ノ他各艦ノ備砲ハ何レモ舊式ニシテ一分間約一發ノ砲彈ヲ發射スルニ過キサリシヲ以テ抗戰殊ニ困難ナリキ加フルニエンクウヰスト少將カ浦鹽行ヲ斷念シ僚艦ヲ棄テヽ馬尼剌ニ遁走シタルハ戰局ヲ困難ノ極度ニ達セシメタリ當時余ノ指揮下ニ在リシ各艦ハ「ニコライ」一世外ニ海防艦三隻「アリョール」「シソイ、ウェリーキー」「ナワリン」「アドミラル、ナヒーモフ」及ヒ「イズムルード」ナリシカ「シソイ、ウェリーキー」ハ其ノ區劃中浸水スルモノアリテ大ニ苦ミタリ又「アリョール」ノ上部構造物ハ全然粉碎セラレタリ然レトモ他ノ諸艦ニハ大ナル損傷ナカリキ是一ハ戰鬪ノ初期ニ於テ先頭艦カ敵彈ヲ遮障シタルト一ハ東郷カ專ラ樞要ノ新式艦ニ力ヲ注キタルニ因レリ

東郷大將ハ全艦隊ニ命スルニ二十八日朝鬱陵島附近ニ集合スヘキヲ以テセシカ其ノ後ネボガトフ少將ノ所在ニ就キ警報ニ接スルニ迨ヒ毫モ其ノ針路ヲ疑ハス直ニ之ニ近ツキ前日ノ勝利ヲ完結スヘキ策ヲ取レリネボガトフノ日本巡洋艦ヲ見ルヤ彼ハ合戰準備ニ就キ之ヲ攻擊セントシテ其ノ針路ヲ反轉セシモ日本巡洋艦ハ毫モ戰意ヲ示サヽリシカ故ニネボガトフハ再浦鹽ニ向針セリ然ルニ午前九時トナルヤ日本軍艦ハ各方面ヨリ現レ一時間ヲ經テ二十七隻ヲ數フルニ至レリ而テ就中大艦ハ其ノ優速力ヲ利用シテ敵ニ近ツキ隨意ニ其ノ射距離ヲ選ヒテ砲火ヲ開始セリ然ルニネボガトフノ舊式砲ハ敵艦ニ達セサルヲ以テ彈著距離內ニ入ラレカ爲メ敵ニ近ツカントセシニ日本艦隊ハ忽チ其ノ射程外ニ退キタリ斯ノ如キ不利ノ境遇ニアリテハ抵抗不可能ニシテ唯徒ラニ將校下士卒ヲ鏖殺スルノ外アラス各艦ノ端舟ハ大半破損シ使用ニ堪フヘキモノモ敵ノ猛射ノ下ニアリテ卸スコト能ハス況ヤ乘員ノ疲憊既ニ其ノ極ニ達シタルニ於テヲヤ故ニネボガトフハ旗艦艦長スミルノフ大佐及ヒ其ノ他將校ト軍議ヲ開キシカ今ハ最早敵ニ對シ何等ノ損害ヲモ加ヘ得ヘキ望ナシト云フニ一致シ是ニ於テ議終ニ降伏ニ決シタリ

ネボガトフ少將ノ降伏ハ大ニ議論ヲ囂々タラシメ其ノ官職ハ剝奪セラレ軍人ノ身上ニ加ヘラルヘキ最大恥辱ノ處罰ヲ蒙リ尙其ノ上法律上ノ人權モ一切剝奪セラレタリト云フ思フニ彼ハ「キングストン、バルブ」ヲ開キ其ノ麾下各艦ヲ沈沒セシメント欲セハ之ヲ爲シ得ルニ疑ナシト雖モ斯スレハ其ノ將校下士卒ノ救助セラルヽ者恐ラクハ極テ僅少ナリシナラン彼ノ辯明中ニ曰ク長時日要塞防守ノ後開城降伏シタル陸軍將校ハ現ニ罰セラレスシテ却テ榮譽ヲ受クト思フニ日本海軍將官ハネボガトフノ如ク降伏セサルヘシト雖モ著名ナル日本海軍ノ一將校ハ大ニ彼ニ同情ヲ表スルノ評論ヲ公ケニセリ

此ノ海戰ニ關スル報道ハ浦鹽ニ於テハ至大ノ憂慮ヲ以テ翹首待受ケラレシカ「アルマーズ」ハ五月二十九日午後六時此ノ大敗戰ノ第一報ヲ携ヘテ入港シ次テ驅逐艦「グローズヌイ」同「ブラーウイ」ハ生存者ヲ乘セテ入港シ斯テ滿洲軍總指揮官リネウヰツチ大將ハ此ノ災厄ノ第一公報ヲ發スルヲ得タリ「イズムルード」ハ此ノ海戰ニ於テ大ニ働キ終ニ戰場ヨリ遁走シ二十九日夜若クハ翌早朝ヲ以テ浦鹽ノ北方百五十海里ナルウラヂーミル灣ニ達セシカ岩礁ニ乘上ケタルヲ以テ艦長ハ

總員ヲ上陸セシメテ後其ノ艦ヲ爆破シタリ其ノ浦鹽ニ著シテ語ル所ノ戰況ハ露國側ヨリ出テタル戰報中最良トスヘキモノナリ

以上ハ對馬ノ大海戰ナリトラファルガー以來世界ニ起レル最大海戰ナリ此ノ海戰ハネルソンノ大勝後百年目ニ當リ而テ其ノ戰果ハ一八〇五年ノ如ク全捷ニシテ其ノ將來ニ及ス所ノ影響ハ遠大ナリ露國カ極東ニ於テ海上ノ覇ヲ唱ヘントスル雄圖ハ此ノ一戰ノ爲メニ將來幾世紀間モ挫折セラレ同國多年ノ希望タル太平洋及ヒ支那海ヘノ出口ハ爰ニ閉鎖セラレタリ彼カ此等ノ海洋ニ通スル門戶ヲ開カントスルハ元ト是其ノ野心ニ出テタルモノニシテ誰カ之ヲ其ノ國家ノ爲メニ必要缺クヘカラスト言フ者アランヤ此ノ海戰カ歐亞二大洲ニ對シ將來如何ナル結果ヲ來スヘキヤハ何人モ測ルヘカラスト雖モ其ノ直接ノ結果トシテ觀ルヘキハ露國ニ於テ陸戰ノ運命ヲ轉回スルノ望全ク絕エタルニアリ東鄕大將ハ日本海々戰詳報ノ結文ニ於テ此ノ奇績ヲ日本天皇陛下ノ御稜威ニ歸シ日本艦隊ノ損失死傷ノ僅少ナリシハ歷代神靈ノ加護ニ依ルモノト信仰セリ我カプリマス軍港ノ丘上ニ建テタル西班牙必勝艦隊擊滅紀念碑ハ「上帝ハ風ヲ起シ彼等ヲ潰亂セシメタリ」ト語ヲ不朽ニ傳フ實ニ然リ軍神ハ眞心ヲ以テ其ノ祭壇ニ禮拜スル者ニ幸ス然レトモ日本ノ大勝ハ一五八八年西班牙艦隊擊滅ノ當時ニ於ル英國ト等シク善ク世ニ知ラレタル原因ノ結果タルニ外ナラス之ヲ分析スレハ第一ニ政治家ハ確乎タル目的ト先見ノ明ヲ以テ其ノ志望ヲ達スルノ手段ヲ求メ百方之ヲ試ミサルハナカリキ第二ニ戰略家ハ其ノ作戰目的ヲ達センカ爲メニ備フル海軍力ヲ如何ニシテ利用スヘキカヲ知悉シ又戰術家ハ兵術ニ長シ又兵員ハ直射速射ヲ善クシ又將校ハ部下ヲ指揮スルニ適任ノ者タリキ日本軍人ノ愛國心勇氣紀律等無形ノ要素ハ其ノ手腕ヲ强メタリ有形ノ要素ニ於テモ日本艦隊ハ敵ニ優リシヤ疑ナシト雖モ斯ク國旗ヲ輝シタル所以ノモノハ實ニ將校下士卒ノ決心强力勇氣手練ニ外ナラサルナリ砲術ノ効力、速力ノ優等、裝甲及ヒ兵器ノ良質並ニ適良ノ配置方其ノ他有益ノ事項ハ此レ海戰ニ依テ學ヒ得ヘシト雖モ記者ハ此等ノ事項ヲ研究セント欲スルノ意アラス要ハ唯海軍將校ヲシテ自カラ此ノ海戰ヨリ要訓ヲ發見セシメントスルニアリ

八九　對馬海戰ニ由テ得タル敎訓（「英國海軍本部ノ退步」編者）

（一九〇六年二月發刊「ブラックウッド、マガジン」所載）

編者曰ク本論記者ハ一九〇六年五月刊行ノ「ブラックウッド、マガジン」誌上ニ「英國海軍本部ノ退步（レトログレード、アドミラルチー）」ト題スル一論ヲ揭ケ同國海軍行政ノ方針ヲ攻擊シ一時大ニ物議ヲ囂々タラシメタル論者ト同一ニシテ本論ノ主眼ハ速力ヲ以テ戰術上何等ノ利益モアラサルモノト爲シ唯敵ヲ避ケテ遁走スル場合ニ用アルノミト云フニ在リ譯者ハ本論ノ筆法ニ依リ其ノ何人ノ手ニ成リシヤヲ察スルニ難カラスト雖モ原文ニ其ノ名ヲ匿セルカ故ニ姑ク之ニ從ヒ「英國海軍本部退步論者」トス

戰鬪ノ勝敗ハ人ニ在リテ艦ニ在ラス艦ハ以テ戰ヲ決スヘキ兵器ニアラスシテ人ノ以テ戰ハント欲スル兵器即チ砲熕ヲ裝載スルノ具ナリ艦ヲ動スハ左ノ二目的ニ外ナラス

一　兵器ヲ最有効ニ使用センカ爲メナリ是其ノ戰術上ヨリ言フモノナリ

二　戰鬪力ヲ一ノ位置ヨリ他ノ位置ニ移サンカ爲メナリ是其ノ戰略上ヨリ言フモノナリ

吾人ハ今專ラ戰術上ノ見地ヨリ說ク所アラントス一方ノ艦隊カ敵艦隊ヨリモ巧ニ其ノ兵器ヲ利用スルハ各自ノ陣形及ヒ互對運動ノ如何ニ在リ而テ其ノ互對運動ハ其ノ移動範圍ノ大小（即チ速力）ヨリモ其ノ執ル所ノ方向（即チ針路）ニ關スル方ヲ多シトス余ハ昨年ノ日本海々戰ニ徵シテ之ヲ解說セントス

（一）　兩軍ノ戰列諸艦

一九〇五年五月二十七日ノ日本海々戰ニ參加シタル兩國ノ勢力ハ左表ニ示スカ如シ但本戰々列ニ加ラサル巡洋艦及ヒ其他ノ軍艦ハ今論究セント欲スル問題外ニ屬スルヲ以テ省略ス

露西亞艦隊

区分	艦名	排水量(噸)	公称速力(海里)	備砲
第一戦隊	(一)スウオーロフ	一三、五一六	一八	各一二吋砲四 六吋砲一二
	ボロヂノ			
	アレクサンドル三世			
	アリヨール			
第二戦隊	(二)オスラービヤ	一二、六七四	一八	一〇吋砲四 六吋砲一一
	ナワリン	一〇、二〇六	一六	一二吋砲四 六吋砲八
	シソイ、ウエリーキー	一〇、四〇〇	一六	一二吋砲四 六吋砲六
	ナヒーモフ	八、五二四	一七	六吋砲八 四吋七砲一〇
第三戦隊	(三)ニコライ一世	九、六七二	一五	一二吋砲二 六吋砲一二
	アプラクシン	四、一二六	一六	一〇吋砲三 四吋七砲四
	セニヤーウヰン	四、七〇〇	一六	一〇吋砲四 四吋七砲四
	ウシヤーコフ			

日本艦隊

区分	艦名	排水量(噸)	(公称速力海里)	装砲
主戦艦隊即チ戦艦艦隊	(四)三笠	一四、五〇〇	一八	一二吋砲四 六吋砲一四
	敷島	一四、八五〇		同 同
	富士	一二、四五〇		一二吋砲四 六吋砲一〇
	朝日	一五、二〇〇		一二吋砲四 六吋砲一四
	春日	七、二九四	二〇	一〇吋砲一 八吋砲二 六吋砲一四
	(五)日進			八吋砲四 六吋砲一四
装甲巡洋艦隊	(六)出雲	九、七五〇	二〇、七	八吋砲四 六吋砲一四
	吾妻	九、四〇〇	二〇	八吋砲四 六吋砲一二
	浅間	九、七〇〇	二一、五	八吋砲四 六吋砲一四
	常磐	九、七〇〇	二一、五	八吋砲四 六吋砲一四
	八雲	九、八五〇	二〇	八吋砲四 六吋砲一二
	磐手	九、七五〇	二〇、七	八吋砲四 六吋砲一四

備考 海戦ノ初期ニ於テ日本装甲巡洋艦ノ本戦々列ニ参加セシハ五隻或ハ六隻ナリシカハ分明ナラス又「ナヒーモフ」「ニコライ」一世ノ砲数ニハ疑アリ

(一)ロジエストウエンスキー中将旗艦
(二)フエリケルザム少将旗艦
(三)ネボガトフ少将旗艦
(四)東郷大将旗艦
(五)三須中将旗艦

（六）上村中將旗艦

兩國艦隊ノ砲數左ノ如シ

砲種	日本		露西亞	
十二吋砲	一六	一七	二六	四一
十吋砲	一		一五	
八吋砲	三〇	一一〇		
六吋砲	八〇		四八	五九
四吋七砲			一二	
合計	一二七		一〇〇	

露西亞ハ十二吋砲十吋砲ノ如キ大口徑砲ニ於テハ日本ノ二倍以上ナレトモ之ヨリ小ナル口徑ノ砲ニ至テハ日本ハ露西亞ノ約二倍ヲ有セリ

（二）速力及ヒ艦砲旋回弧

各部隊ノ公稱速力ハ該隊中最遲緩ナル軍艦ノ速力ナリ故ニ露西亞ノ第一戰隊ノ公稱速力ハ十八海里第二戰隊ハ十六海里第三戰隊ハ十五海里ナリ此ノ公稱速力ハ實地ニアリテハ大ニ減算セサルヘカラス若シ吾人カ實際航海速力ヲ公稱速力ノ六分ノ五ナリトセハ其ノ利用スヘキ速力ハ第一戰隊ニ在リテハ十五海里、第二戰隊ハ十三海里四分ノ一、第三戰隊ハ十二海里半ナリ東郷大將ハ兩軍主力隊相見ユル前露國艦隊ノ速力ハ約十二海里ナルコトヲ知リ若シ露軍ノ各戰隊ニ於テ其ノ艦カ日本ノ砲火ニヨリテ廢艦トナルマテ戰鬪中此ノ速力ヲ保續シタランニハ各戰隊ハ其ノ序列ヲ維持シ又針路ヲ變換スル爲メニ第一戰隊ハ三海里第二戰隊ハ一海里四分ノ一、第三戰隊ハ半海里ヨリ少カラサル速力ノ餘裕ヲ保留セシナルヘシ日本主戰艦隊ノ公稱速力ハ十八海里、裝甲巡洋艦隊ニ在リテハ二十海里ナリ若シ吾人ニシテ露西亞艦隊ニ於ルト等シク其ノ實際ノ航海速力ヲ各其ノ公稱速力ノ六分ノ五ナリトセハ其ノ利用スヘキ速力ハ十五海里ト十七海里ナリシナルヘシ又戰鬪開始ノ際日本艦隊ノ速力若シ十四海里半ナリシトセハ戰艦ハ其ノ序列ヲ維持スル爲メニ半海里ヨリ少カラサル速力ヲ裝甲巡洋艦ハ二海里半ヨリ少カラサル速力ノ餘裕ヲ保留セシナルヘシ

戰術問題ヲ考察スルニ當テハ先ツ砲火ヲ向クルヲ得ヘキ角度ノ大小及ヒ方位ヲ知ラサルヘカラス此ノ點ニ關シテハ未タ全ク信據スルニ足ルヘキ報ニ接セスト雖モ略其ノ眞ニ近キ所マテハ推測シテ左ニ掲記スルヲ得ヘシ其ノ記事中正横ナル語ハ艦ノ艏艉線ニ對スル垂直線ヲ云フ

露國第一艦隊ノ各艦即チ「スウオローフ」型四艦ノ全側砲ハ正横ヨリ四十五度ノ角度内ニ在ル目的ニ向クルヲ得ヘシ其ノ後部若クハ前部十二吋砲ハ此ノ限界角度ヨリ前方若クハ後方ニ向テハ發射スルヲ得スト雖モ其ノ六吋砲ハ二門ヲ除クノ外ハ恐ラクハ正横ヨリ四十五度餘マテモ發射スルヲ得ルナラン其ノ第二戰隊各艦ノ側砲ハ「正横（ワイト、ビーム）」ヨリ約四十度以内マテ

第三戰隊各艦ノ側砲ハ約三十度以内マテ敵ニ向クルヲ得ヘシ

日本戰隊及ヒ裝甲巡洋艦ハ何レモ其ノ全側砲ヲ正横ヨリ約三十度以内マテ敵ニ向クルヲ得ヘシ其ノ各艦ノ後部若クハ前部砲塔砲及ヒ三笠ノミニ於テハ其ノ後部若クハ前部六吋砲ハ此ノ限界角度ヨリ前方若クハ後方ニ發射スルヲ得サルヘシ故ニ露軍ハ艦砲旋回弧ノ大ナル點ニ於テハ日本ニ優レリ

日本海々戰中ニ起レル實際ノ出來事ハ恐ラクハ未タ之ヲ精記シタルモノアラサルヘキヲ以テ兩軍各戰鬪ニ全力ヲ注キ信據スヘキ海戰圖ヲ製スルニ必要ナル精確ノ觀察ヲ爲スニ遑アラス故ニ吾人ハ此ノ海戰圖ヲ完成スルニハ東郷大將ノ海戰詳報ニ載スル所ノ事實ヲ分析シ之ニ據テ吾人ノ胸裏ニ畫ケル推測ノ當否ヲ判斷セサルヲ得ス

東郷大將ノ公報ニ據レハ正午同大將ハ主戰艦隊裝甲巡洋艦隊及ヒ本論ノ問題外ニ在ル他ノ諸艦ト共ニ沖ノ島ノ北方十海里ニ在リタリト此ノ時ニ當リ同大將ハ敵カ已ニ南西方ニ在リテ二列縱陣ヲナシ約十二海里ノ速力ヲ以テ北東ニ進航シ來

レルコトヲ知レリ此ニ於テ同大將ハ敵ノ左翼列ヲ攻撃スル目的ヲ以テ自カラ西方ニ針路ヲ執レリ同大將ハ其ノ公報中ニ日本艦隊ノ速力及ヒ陣形ヲ示サスト雖モ日本ノ主戰艦隊及ヒ裝甲巡洋艦隊ハ共ニ單縱陣ナリシコト及ヒ或程度マテハ各艦隊獨立ニ行動スル自由ヲ有セシコトヲ信スヘキ理由アリ其ノ速力ハ十四海里半ナリト思ハル

（三）　兩軍相近ツクルトキ東郷ノ先決問題

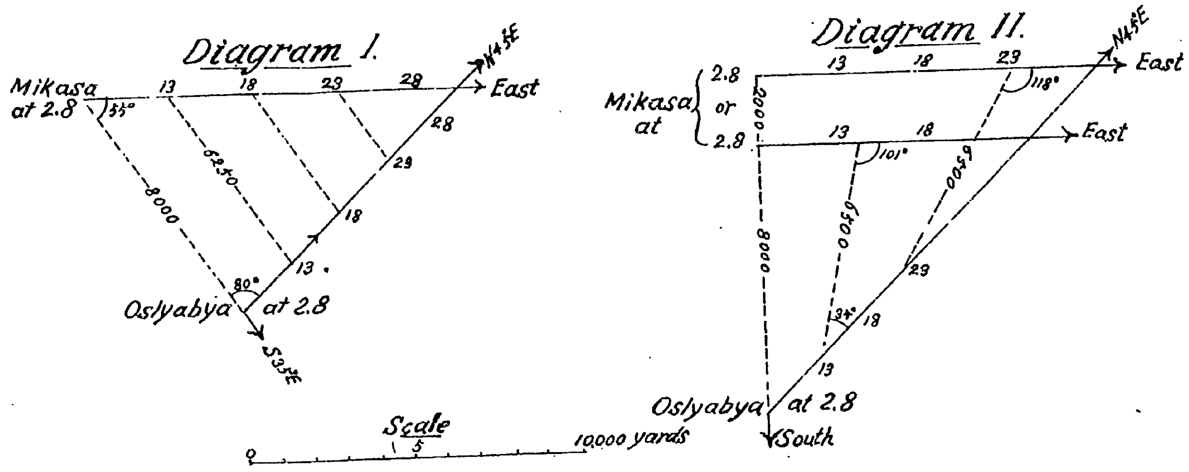
午後一時四十五分東郷大將ハ尙西方ニ進航中其ノ左舷南方數海里ニ於テ敵艦隊ヲ發見セリ其ノ言フ所ニ據レハ午後一時五十五分ニ夫ノ特別ナル一大信號ヲ揭揚シ間モナク主戰艦隊即チ戰艦々隊ハ少時南西ニ向首シ敵ト反航通過スルト見セシカ午後二時五分急ニ東ニ折レ其ノ正面ヲ變シ斜ニ敵ノ先頭ヲ壓迫シ裝甲巡洋艦隊ハ續航シテ其ノ後ニ連レリト斯テ全艦隊ハ單縱陣ヲ制レリ此ノ正面變換ハ公報中ニハ逐次ニ爲シタルコトヲ明記セサレトモ斯ノ如クシタルヤ疑ナシ（第五圖參看）

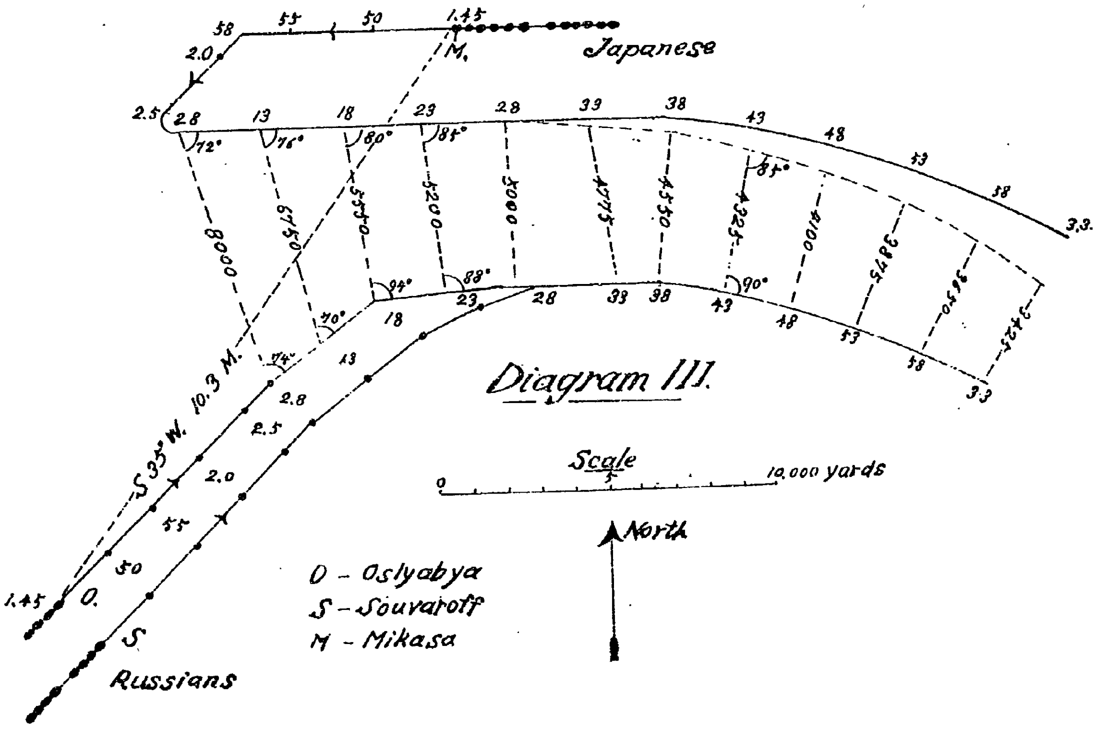
此ノ時日本司令長官ノ心中ニハ深ク此ノ正面變換ヲ爲スノ時機ヲ考察シ其ノ旗艦三笠カ東ニ回頭シ終リタルトキ同艦ヨリ敵ノ左翼列先頭艦「オスラービヤ」ニ對スル方向及ヒ距離如何ニ依テ之ヲ定メシモノナルヘシ三笠ハ午後二時五分ニ東ニ折レタルモノナレハ其ノ回頭ヲ終リシハ約同八分即チ露軍カ吾人ノ知ルコト能ハサル或距離ヨリ砲火ヲ開始セシ時ナヲサルヘカラス東郷大將曰ク我ハ暫ク之ニ耐ヘテ射距離六千米突（六千五百碼）ニ入ルニ及ヒ猛烈ニ敵ノ両先頭艦ニ砲火ヲ集中セリト

此ノ間ニ於ル問題ヲ摘要スレハ左ノ如シ曰ク露國艦隊ハ十二海里ノ速力ヲ以テ北東ニ進航シ午後二時八分ニ日本艦隊ニ對シ砲火ヲ開始セリ其ノ距離及ヒ方向ハ吾人之ヲ知ルコトヲ得ス此ノ間日本艦隊ハ十四海里半ノ速力ヲ以テ東航中ナリシカ露艦隊ノ砲火開始後吾人ノ知ルコト能ハサル時間ヲ經テ應砲ヲ初メ其ノ距離ハ六千五百碼ナリキ然ラハ午後二時八分ニ於ル距離及ヒ方向ハ如何

此ノ問題解決ニ資センカ爲メ二個ノ圖ヲ調製セリ第一圖ハ三笠ヨリ「オスラービヤ」ニ對スル方位ヲ南三五度東ナリト想

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/





アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

定シ此ノ方位ハ不易ニシテ艦隊其ノ針路及ヒ速力ヲ變セサルトキハ漸々相近接シ遂ニ衝突スルニ至ルヘキコトヲ示ス此ノ方位ハ日本艦隊ニ取リテ不利ナリ何トナレハ日本艦隊ハ其ノ正横前三十五度ニ露艦隊ヲ視ルヲ以テ其ノ後部ノ各砲ハ之ニ向クルヲ得ス之ニ反シ露國艦隊ハ其ノ正横前十度ニ敵ヲ視ルヲ以テ其ノ各砲ハ孰レモ僚艦ニ遮蔽セラルヽコトナク之ヲ利用スルコトヲ得レハナリ故ニ日本艦隊ニ取リテハ其ノ各砲ヲ利用セシトスルニハ敵ヲ正横前三十五度ヨリ尚小角度ニ視サルヲ得ス随テ日本艦隊ハ吾人ノ此ノ想定ヨリハ尚早ク東ニ回頭セシト欲セシナルヘシ然ラサレハ日本艦隊ハ敵艦隊ノ前路ヲ横過スルコト能ハサルカ故ニ其ノ先頭ヲ敵ニ暴露シ其ノ斜ニ壓迫スル所トナリ却テ敵ヲシテ我カ執ラシト欲スル戰術ヲ以テ我ニ對セシムルニ至ルヘキナリ

(四) 最初ノ距離及ヒ方位

第三圖ニ於テハ三笠ヨリ「オスラービヤ」ヲ視タル最初ノ方位ヲ南ナリト想定シ若シ午後二時八分ニ於ル両艦ノ距離ヲ一萬碼トセハ同二時二十三分ニハ其ノ距離六千五百碼ニ短縮スヘキコトヲ示ス斯ノ如クナルトキハ日本艦隊カ敵艦隊ニ應砲セスシテ其ノ砲火ニ耐ヘタルハ十五分間ニシテ其ノ砲火ヲ開始シタルトキハ「オスラービヤ」ヲ正横後二十八度ニ視タルモノトセサルヲ得ス故ニ此ノ想定ハ中ラサルモノヽ如シ若シ最初距離ヲ八千碼トセハ日本艦隊ハ六分間即チ午後二時十四分ニ至ルマテ應砲スルコトナク敵火ヲ冒セシナルヘシ斯ノ如クナルトキハ「オスラービヤ」ハ三笠ノ正横後十一度ニ三笠ハ「オスラービヤ」ノ正横前五十六度ニ在リシモノナラサルヘカラス以上ハ露國艦隊カ尚其ノ北東針路ヲ保續セシモノト視テノ想定ナリ然ルニ東郷大將ハ敵艦ハ稍其ノ右舷ニ轉舵セリト云ヘリ露國艦隊ノ斯セシハ恐ラクハ其ノ各砲ヲ敵ニ向クルニ便セシカ爲メナリシナラン其ノ結果トシテ日本艦隊ノ敵ノ砲火ニ耐ヘタル時間ハ六分間ヨリハ餘程長カリシナラン果シテ然ラハ東郷大將ハ恐ラクハ敵艦隊ノ第三戰隊ヲシテ其ノ第一戰隊ノ砲火ヲ遮蔽セシメシト欲セシモノト思ハルレトモ實際斯ノ如クナラサリシナラン然ラハ即チ三笠ヨリ「オスラービヤ」ヲ視タル最初ノ方位ハ南ト南三十五度東トノ間ナランカ依テ吾人ハ午後二時八分三笠ヨリ「オスラービヤ」ヲ視タル方位ヲ南十八度東ト想定シ其ノ時ノ距離ヲ八

千碼ト云フ

（五）兩軍ノ接近

今ヤ吾人ハ上戰最初ノ距離及ヒ方位並ニ東郷大將公報中ノ事實ニ基キ第三圖ニ於テ午後二時八分ノ位置並ニ前後ノ位置ヲ示サントス

露國艦隊ノ陣形ハ精確ニ知ルヲ得ス東郷ノ公報ニ據レハ二列縦陣ニシテ其ノ第一戰隊ハ右翼列ニ第二戰隊ハ左翼列ニ在リタリト云ヘリ又其ノ第三戰隊ノ位置モ亦疑ハシト雖モ右翼列ニ於テ第一戰隊ノ後尾四鏈（八百碼）ニ在リシコトハ眞ニ近キカ如シ故ニ吾人ハ第三戰隊ヲ此ノ位置ニ在リシモノト想定セントス其ノ二列縦陣ノ間隔及ヒ各部隊中艦ト艦トノ距離モ亦明瞭ナラス依テ今暫ク列ハ相距ル八鏈（千六百碼）ト視做ス斯スレハ敗戰後浦鹽斯徳ニ著シタル生存者ノ報告ニ基キタルリネウヰッチ大將ノ公報ト一致ス又各艦間ノ距離ハ通例ノ如ク二鏈（四百碼）ナリトス

右ノ如クシテ調製シタル第三圖ハ午後一時四十五分東郷大將カ初テ敵ヲ發見シタル時ニ於ル日露兩艦隊ノ位置及ヒ爾來五分間毎ニ日本先頭艦及ヒ露國兩先頭艦ノ位置ヲ示ス日露兩艦隊ノ通跡ヲ測ルニ午後一時四十五分「オスラービヤ」ハ三笠ヨリ約南三十五度西十海里三分ノ一ニ在リトセサルヲ得ス此ノ結果ハ吾人ノ想定ニ反スル所甚シキカ故ニ東郷ノ公報ト精密ニ對照スルノ必要起レリ彼カ六月十四日ニ發シタル日本海戰鬪詳報中ニ曰ク午後一時四十五分ニ至リ正ニ我カ左舷南方數海里ニ初テ敵影ヲ發見セリト此ノ言ニ據レハ此ノ時ノ距離ハ不明ニ屬ス又同公報ノ初部ニ曰ク時々刻々敵情ノ電報ニ接セシヲ以テ此ノ日海上濛氣深ク展望五海里以外ニ及ハサリシモ數十海里ヲ隔ツル敵影恰モ眼界ニ映スルカ如シ云々是彼ハ開戰數時前ノ天候ニ就テ言フ所ニシテ午後一時四十五分ニ於ル天候ニハアラサルナリ第三圖ハ兩艦隊初テ相見エシトキ其ノ距離恐ラクハ僅ニ五海里ニ止ラサリシコトヲ示ス此ノ距離ハ亦東郷ノ其ノ後ノ運動ト矛盾ス故ニ吾人ハ此ノ頃ノ天候變リ易キヲ以テ此ノ日モ亦然ラント信ス此ノ所見ハ彼カ此ノ海戰當日午前ノ第一報告ニ本日天候晴朗ナレトモ浪高シト言ヘルニ徴シテ確ムヘキナリ又五月三十一日東京ニ達シタル第七報ニ曰ク今回ノ海戰ハ彼我海軍共ニ殆ト

其ノ全力ヲ擧ケテ對抗シ戰場ノ局面頗ル廣大ナリシノミナラス當日ノ天候濛氣深クシテ砲煙煤煙ヲ混セサルモ尚展望五海里（十海里半）ニ及ハスト此ノ報ハ午後一時四十五分ニ於ル天候ニ就テ言フ所ナリシヤ否ヤハ明ナラサルカ故ニ未タ之ニ據テ本問題ヲ斷定スルヲ得ス然ルニ第三圖ハ此等ノ報ニ拘泥セス獨立精測シテ確定セシモノナレハ後來尚有力ノ反證出ツルマテハ吾人ハ之ヲ正確ナルモノト視テ妨ケナシ此ノ圖ニ於テ三笠ハ午後一時五十八分即チ東郷大將カ夫ノ特別ナル一大信號ヲ掲揚セシ後三分ニ於テ第一ノ正面變換ヲナシタルモノト想定ス或ハ一二分ノ遲速アランモ知ルヘカラスト雖モ此ノ差ハ敢テ意トスルニ足ラス此ノ時距離ハ約一萬三千六百碼ニシテ同二時五分ニ至リ三笠カ急ニ東ニ折レ其ノ正面ヲ變セシトキニハ九千四百碼ニ短縮シタリ其ノ間彼我近接ノ割合ハ一分間ニ六百碼ナリ

午後二時八分露軍ヨリ砲火ヲ開始セシトキソノ距離ハ八千碼ナリ此ノ時ニ於テ敵艦ニ命中シ得ヘキ望アル砲類ハ其ノ左翼列各艦前部砲塔ノ十吋砲及ヒ十二吋砲ノミニシテ後部砲塔ノ各砲ハ敵ニ向クルヲ得ス六吋砲ハ未タ其ノ射距離内ニ入ラサリキ又右翼列ハ九千五百碼以外ニ在リテ其ノ一部ハ左翼列ノ爲メニ其ノ發射ヲ遮蔽セラレタリ此ニ於テ露國艦隊ハ其ノ各砲ヲ敵ニ向クルコト最大緊要トナレリ而テ之ヲ遂行スルニハ右舷ニ轉舵シ單縦陣ヲ形成セサルヲ得ス依テ其ノ左右兩列共ニ漸次東方ニ變針シタリ東郷ノ公報中ニ曰ク敵ノ先頭部隊ハ主戰艦隊ノ壓迫ヲ受ケテ稍其ノ右舷ニ轉舵セリト卽チ吾人ハ午後二時八分ニ至リ露軍ノ兩先頭艦ハ右ニ一點（十一度）ニ一齊同頭シ各艦逐次ニ新針路ニ於テ一直線トナリタル後ハ其ノ各砲ヲ敵ニ向クルコトヲ得ルニ至ルモノト想定ス此ノ針路變換後距離ハ一分間ニ二百五十碼ノ割合ヲ以テ變更シツヽアリタリ如何ナル場合ニ於テモ單縦陣ヲ制ルニハ少クモ十分間以上ヲ要スルモノナルカ當日海戰ノ此ノ期ニ至リ露國艦隊ハ單縦陣ヲ形成セシカ爲メニ何等有効手段ヲ採リシヤ否ヤハ甚タ疑ハシ日本艦隊ノ攻撃ノ迅速其ノ豫想外ノ大發展及ヒ露國艦隊ノ二列陣形ヲ以テ之ヲ考フレハ單縦陣ヲ制ルヘキ信號命令ヲ發セサリシモノヽ如シ普通平凡ノ將校ハ特令アルニアラサレハ何事ヲモ決行スルヲ憚ルヲ常トス故ニ斯カル時ニ際シ司令長官其ノ處置ヲ誤リシ爲メ其ノ艦隊ヲ奈何トモスヘカラサル境遇ニ陷レタルトキハ大經驗ト大決斷トヲ有スル司令官ニアラサレハ到底其ノ直率ノ戰隊ヲ救濟ス

ヘカラサルモノナリ故ニ吾人ハ此ノ時(午後二時八分)左右兩列ハ其ノ各砲ヲ敵ニ向クルヲ得ヘキ位置ニ達セシカ爲メニ變針(兩先頭艦ハ一齊ニ爾餘諸艦ハ逐次ニ)セシモノト信ス[illegible]

(六)日本ノ露國兩先頭艦ニ對スル集彈發射[illegible]

午後二時十四分距離六千五百碼ニ至リテ日本艦隊初テ砲火ヲ開ケリ此ノ時主戰艦隊ノ大艦ハ既ニ東ニ折レ其ノ正面ヲ變シタル後ニシテ敵ニ對スル方位ハ其ノ砲火ヲ敵ノ兩先頭艦ニ集中スルヲ得ヘキモノニシテ實際之ヲ爲シタルハ東鄕ノ公報ニ據テ知ラレタリ此ノ兩先頭艦トハ「オスラービヤ」及ヒ「スウオーロフ」ニシテ前者ハ後者ニ比スレハ約千五百碼タケ敵ニ近キヲ以テ日本ノ戰闘側ニ在ル六十三門ノ砲熕ヨリ最猛烈ノ砲火ヲ受ケシコト疑ナキナリ「オスラービヤ」カ日本ノ先頭艦三笠ヨリノ最初ノ距離ハ六千五百碼ニシテ殿艦日進ヨリハ七千百碼ナリキ然ルニ既述セシカ如ク距離ハ一分間ニ二百五十碼ノ割合ヲ以テ短縮シツヽアリタリ裝甲巡洋艦隊ハ未タ其ノ正面變換ヲ完ウスルニ至ラサリキ[illegible]又轉シテ露國側ヲ顧ミレハ其ノ左翼列ニ於ル四艦ハ何レモ三笠ニ對シ同一ノ距離ヲ以テ其ノ砲火ヲ集中スルコトヲ得タリシナランモ又三笠ニ對シテ一層大ナル距離即チ約七千八百碼ニ在リタル右翼列ノ先頭艦ニ集ヨリ助勢ヲ得タリシナランモ露國艦隊カ斯ノ如キ集彈發射ヲナセシコトヲ證スヘキモノハ一トシテアラサリキ如何ナル戰機ニ於テモ日本ニ匹敵スヘカラサリシコトハ明瞭ナリ此ノ時ニ於ル兩軍戰闘側ノ砲數ハ大略次ノ如クナリシナラン

砲種	露軍左翼列		日本	
十二吋砲	八	一二	一六	一七
十吋砲	四		二	
八吋砲	[illegible]		六	四六
六吋砲	一九		四〇	
四吋七砲	五		[illegible]	
合計	三六		六三	

此ノ時ノ戰況ニ關シ東鄕曰ク敵ハ之カ爲メ益〻南東ニ壓セラルヽモノヽ如ク其ノ左右兩列共ニ漸次東方ニ變針シ自然ニ不規則ナル單縱陣ヲ形成シテ我ト並航ノ姿勢ヲ執レリト吾人ハ午後二時十八分「オスラービヤ」ハ日本ノ壓ニ堪ヘスシテ右舷ニ二十八度變針シ左翼列ヲ導キテ右翼列ニ合セントセシカ同二時三十分ニ至リテ左右兩列相合シタリト想定シ又右翼列ハ漸次變針シ同二時二十八分ニ至リ東航シツヽアリシモノトセリ東鄕ハ此ノ運動ヲ見テ敵ハ自然ニ不規則ナル單縱陣ヲ形成シテ我ト並航ノ姿勢ヲ執レリト言ヘリ第四圖ハ午後二時二十三分ニ於ル想定ノ狀態ヲ擴ケテ寫シ出セルモノナリ

東鄕ハ右ニ次テ曰ク左翼列ノ先頭艦タリシ「オスラービヤ」ノ如キハ須臾ニシテ擊破セラレ大火災ヲ起シテ戰列ヨリ脫セリ此ノ時ニ當リ裝甲巡洋艦隊モ既ニ盡ク主戰艦隊ノ後方ニ列シ我カ全隊ノ掩擊砲火ハ射距離ノ短縮ト共ニ益〻顯著ナル效果ヲ呈シタリト是此ノ時ノ戰況ヲ示スモノニシテ裝甲巡洋艦隊全部ハ午後二時十八分ニ至リ新針路ニ於テ一直線トナリシナルヘシト雖モ其ノ砲火ハ同二時二十三分ニ至ラサレハ其ノ効力ヲ逞ウスルニ至ラサリシナランモ此ノ時ニ至テハ戰艦ノ射擊モ亦尙一層精確ヲ加ヘタリ是射距離ノ短縮シタルト又距離變更ノ割合緩徐ナリシトニ由ルモノナリ距離ノ變更ハ一分間ニ六十碼ノ割合ヲ超エス

第四圖ハ午後二時二十三分「オスラービヤ」カ三笠ヨリ五千二百碼日進ヨリ五千五百碼隔リタルモノトシ「スウオーロフ」ハ「オスラービヤ」ヨリ六百碼タケ先ニ在ルモノト視テ描キタリ此ノ時日本裝甲巡洋艦ハ多クハ最近列ノ敵艦ノ有効射距離内ニ在リ實際ハ此ノ圖ヨリモ尙近距離ニアリタランモ知ルヘカラス

(七)「オスラービヤ」ハ九分間ニ擊破セラル

吾人ハ「オスラービヤ」ノ擊破セラレテ戰列ヲ離レタル時ヲ午後二時二十三分即チ日本カ砲火ヲ開始セシ時ヨリ九分後ト想定ス其ノ時間ノ短少ナルハ敢テ驚クニ足ラス有効射距離ニ於ル六十三門ノ集彈ハ其ノ結果實ニ驚歎スヘキモノナリ此

ノ場合ニ於テ之ヲ目擊セル露國人ハ榴彈其ノ甲板ニ雨注セリト言ヘリ又ロヂェストヴェンスキー中將ハ戰艦ニ取テノ勁敵ハ中レハ必ス炸裂スル榴彈ヨリ生スル火災ナリト言ヘリト云フ其ノ言フ所眞ニ然リ如何ニ大ニシテ如何ニ厚ク裝甲保護ヲ施セル艦ト雖モ斯カル集彈射擊ニ耐ヘカラサルナリ

（八）古今集彈發射法ノ比較 [illegible]

「オスラービヤ」ハ右ノ如ク榴彈雨注海煙猛吐ノ下ニ在リテ火災ヲ起シタルモノニシテ其ノ九分間ニ完ク擊破セラレシハ「ワリヤーグ」カ前記砲數ノ半ニモ足ラサル砲火ノ爲メニ十四分間ニシテ擊破セラレシヨリ考フレハ今更驚クヘキ事ニアラス歷史上其ノ類例少カラス一八一三年米艦「チサピーク」ハ十一分間ニシテ英艦「シヤンノン」ノ爲メニ擊破セラレタリ又トラファルガーニ於テ英艦「ヴヰクトリア」ハ佛艦「ビユサントール」ノ艦尾ヲ過クル際其ノ全側砲五十門ヲ以テ之ヲ縱射セシカ之カ爲メニ佛艦ハ砲二十門損破シ即死四百名ヲ算スルニ至レリ右ノ如キ大災害ヲ敵ニ蒙ラシムルニ費シタル時間ハ恐ラクハ十分間未滿ナリシナラン往昔ニ於ル此等ノ海戰ニ於テモ集彈發射ハ常ニ決勝的ノ結果ヲ生スルモノニシテ古今唯其ノ集彈發射ノ方法ヲ異ニスルノミネルソンノ時代ニ在リテハ砲熕ノ射距離短キカ故ニ有效距離內ニ入リテ優數ノ砲熕ヲ敵ニ向ケ集彈發射スルハ容易ノ業ニアラス是ニ於テ夫ノ三段備砲艦（編者曰ク昔ハ軍艦ヲ戰列艦「フリゲート」「コルベット」「ブリグ」「スクーナー」ニ類別シ戰列艦ハ約四等ニ分チ一等ハ上甲板及ヒ三段ノ砲甲板ヲ設ケ砲百十六門ヲ裝備シ二等三等四等ハ上甲板及ヒ二段ノ砲甲板ヲ設ケ二等ハ砲九十六門三等ハ八十六門四等ハ七十四門ヲ裝備ス）及ヒ十九世紀ノ紀念碑形砲砦ニ於ル如ク幾段ニモ砲ヲ戴架シ重層射擊ヲ以テ此ノ困難ニ打勝タント試ミシモ實戰ノ經驗ニ徵シ此ノ集彈發射法ハ不利ニシテ備砲七十四門ノ軍艦カ却テ三段備砲艦ヨリモ實用ニ適スルノ戰具タルコトヲ發見セリネルソンノ集彈法ハ數多密集ノ軍艦ヲ以テスルニ在リ英將ロドネーノ考案セル三段備砲艦特別用法ニ從ヒテ行ヘルニアラスロドネーノ考案ハ終ニ一回モ實戰ニ使用セラレサリキ今日ノ長射程ノ巨砲ヲ以テハ一艦又ハ一砲砦ニ在リテ集彈打方ヲナスノ必要ハ往時ニ比スレハ少シ今日ノ砲熕ハ數艦或ハ數個ノ砲砦ニ散置シ是ヨリ集彈發射スルヲ得ヘシ此ノ集彈發射法ハ砲砦ニ於テハ久シキ以來行ハレシカ今日ハ軍艦ニ於テモ亦行ハルヽニ至レリ數多ノ砲熕ヲ諸艦ニ分配シ集彈發射スルノ大原理ハ日本海々戰ニ依テ愈確乎動カスヘカラサルモノトナレリ此ノ大原理ハ砲熕ノ口徑大ナランヨリハ寧ロ其ノ數ノ多キヲ利トスルモノナリ是蓋英國カ率先シテ戰艦ノ寸法ヲ增大シツヽアルニ拘ラス合衆國ノ之ニ倣ハサル所以ノモノナラン [illegible]

「オスラービヤ」カ戰列ヨリ脫スルト同時ニ日本カ主トシテ右翼列ノ先頭艦ニ砲火ヲ集中スルニ至リシハ自然ノ勢ナリトス何トナレハ右翼列ノ先頭諸艦ハ漸次其ノ距離ヲ短縮シテ左翼列ノ前方ニ出テ東鄕ノ所謂不規則ナル單縱陣ヲ形成セシトシタレハナリ午後二時三十三分ニ至リ兩軍相對スル位置ハ概ネ左ノ如シ即チ兩艦隊ハ露國ノ第三戰隊ヲ除クノ外共ニ單縱陣ニテ約五千碼ヲ隔テ東ニ並航シツヽアリタリ露國第三戰隊ハ此ノ時他ノ戰隊ノ通跡ニ從ヒ逐次東ニ回頭シ始メタリ而テ兩軍ノ先頭艦三笠及ヒ「スウオーロフ」ハ殆ト互ニ正橫ノ位置ニ在リタリ日本ノ主戰艦隊六隻ハ何レモ「スウオーロフ」及ヒ其ノ二番艦ニ對シ集彈發射シ得ヘキ位置ヲ占メ其ノ距離ハ殆ト不易ニシテ三笠ヨリハ五千碼日進ヨリハ五千五百碼ナリシカ故ニ日本艦隊ハ此ノ位置ヲ利用シ集彈發射シタルモノト思ハル又日本ノ裝甲巡洋艦五隻若クハ六隻ハ露國ノ第一、第二戰隊ノ後續諸艦ニ對シ殆ト不易ノ距離則チ五千五百碼ノ處ヨリ之ヲ發射スルヲ得ヘカリシナリ然ルニ此等露艦ノ七隻ハ同距離ヨリ三笠ニ對シ集彈發射スルヲ得タリシナランモ之ヲ實施セサリシモノヽ如シ又露國第三戰隊ハ日本ノ裝甲巡洋艦ニ對シテハ五千五百碼乃至五千八百碼ヲ隔テ一分間每ニ百六十碼ノ割合ヲ以テ相近接シツヽアリタルカ故ニ唯此ノ敵艦ニノミ其ノ砲ヲ向クルヲ得タリ要スルニ露軍ハ此ノ戰機ニ至リテモ尙日本ト相競フコト能ハスシテ戰術上ノ不利ニ陷リタルコト明ナリ其ノ結果ハ東鄕ノ公報ニ見エタリ曰ク [illegible]

敵ノ旗艦「スウオーロフ」二番艦「アレクサンドル」三世モ大火災ニ罹リテ戰列ヲ離レ敵ノ陣形愈亂レ後續ノ諸艦亦火災ニ罹レルモノ多ク其ノ騰煙西風ニ靉キテ忽チ海上一面ヲ蔽ヒ濛氣ト共ニ全ク敵影ヲ包ミ主戰艦隊ノ如キハ爲メニ一時射擊ヲ中止セルノ狀況ナリ又我カ軍ニ於テモ各艦多少ノ損害ヲ蒙リ淺間ノ如キハ後部水線ニ近ク三彈ヲ受ケテ舵機ヲ損シ且浸水甚シク一時止ムヲ得ス列外ニ落伍セシカ幾許モナク應急修理シテ戰列ニ入レリ [illegible]

以上ハ午後二時四十五分ニ至ルマテ彼我主力ノ戰況ニシテ此ノ日ノ運命ハ既ニ決定セラレタルモノナリ [illegible]

露軍右翼列ノ二番艦ニシテ戰列ヨリ脱セシモノハ「ボロヂノ」若クハ「アレクサンドル」三世ノ内孰レナリシヤハ詳ナラサリシト雖モ何レニシテモ敢テ妨ケナシ吾人ハ午後二時三十八分即チ「オスラービヤ」ノ戰列ヲ脱セシ後十五分即チ日本ノ砲火開始後二十四分ニ至リテ露國ノ二先頭艦ハ擊破セラレ戰列ヨリ脱シタルモノト視ハ恐ラクハ大過ナカラン

（九） 優速力ハ戰術上ニ利スル所アラス

今ヤ吾人ハ日本海々戰ニ於テ優速力ノ戰術上ニ於ル利益ヲ驗スヘキ機會ニ接シタリ是迄ハ戰術上ノ利益ハ亘方位及ヒ亘距離ニ於テ回頭シ亘針路ヲ執ルニアリタリ午後二時三十三分ニ至リテハ兩艦隊ハ五千碼ヲ離レ東方ニ並航ノ針路ヲ執レリ其ノ速力ノ比ハ等シカラスシテ一方ハ十四海里半、一方ハ十二海里ナリキ同二時三十七分ニハ兩艦隊ハ恰モ互ニ其ノ正横ヲ見ルニ至レリ雙方ノ先頭艦カ互ニ其ノ正横ニ在リテ其ノ距離變セサル間ハ孰レノ方ニモ戰術上ノ利益アラス此ノ互角ノ戰勢ヲ保續セント欲セハ彼我如何ナル針路ヲ執ラサルヲ得サルカ曰ク彼我共ニ其ノ速力ニ正比例シ兩艦隊ノ距離ニ從テ變スヘキ半徑ヲ以テ一圈ヲ畫キ環航セサルヘカラス而テ其ノ距離愈短縮スルニ從ヒ圈モ亦小トナルモノナリ午後二時三十七分ニ至リ半徑ハ一方十四海里半、一方ハ十二海里トナルヘシ而テ針路ハ一分時間ニ約一度ノ割合ヲ以テ變スヘキモノナリ同二時三十七分ニ兩艦隊ノ先頭艦ハ共ニ東ニ並航シ恰モ互ニ其ノ正横ヲ視ルノ位置ニ在リタル時ヨリ環航シ始メタリトセハ同三時ニ至ラハ二十三度ニ變針シ而テ後南六十七度東ニ進航セシナルヘシ然ルニ同二時三十八分「スウオーロフ」ト其ノ後續艦ハ戰列ヨリ脱シタルカ爲メニ兩軍戰鬪艦ノ關係方位ヲ變スルコト九度ニ及ヘリ故ニ若シ露國新先頭艦、日本先頭艦ニ對シ尚正横方位ヲ保續セント欲セハ直ニ其ノ航路ニ於テ九度ノ變針ヲナサヽルヘカラス其ノ結果トシテ午後三時ニ於ル針路ハ南六十七度ニアラスシテ南五十八度ナルヘシ此ノ想定ハ東鄕ノ公報ニ載スル所ト幾ト符合ス彼ハ曰ク

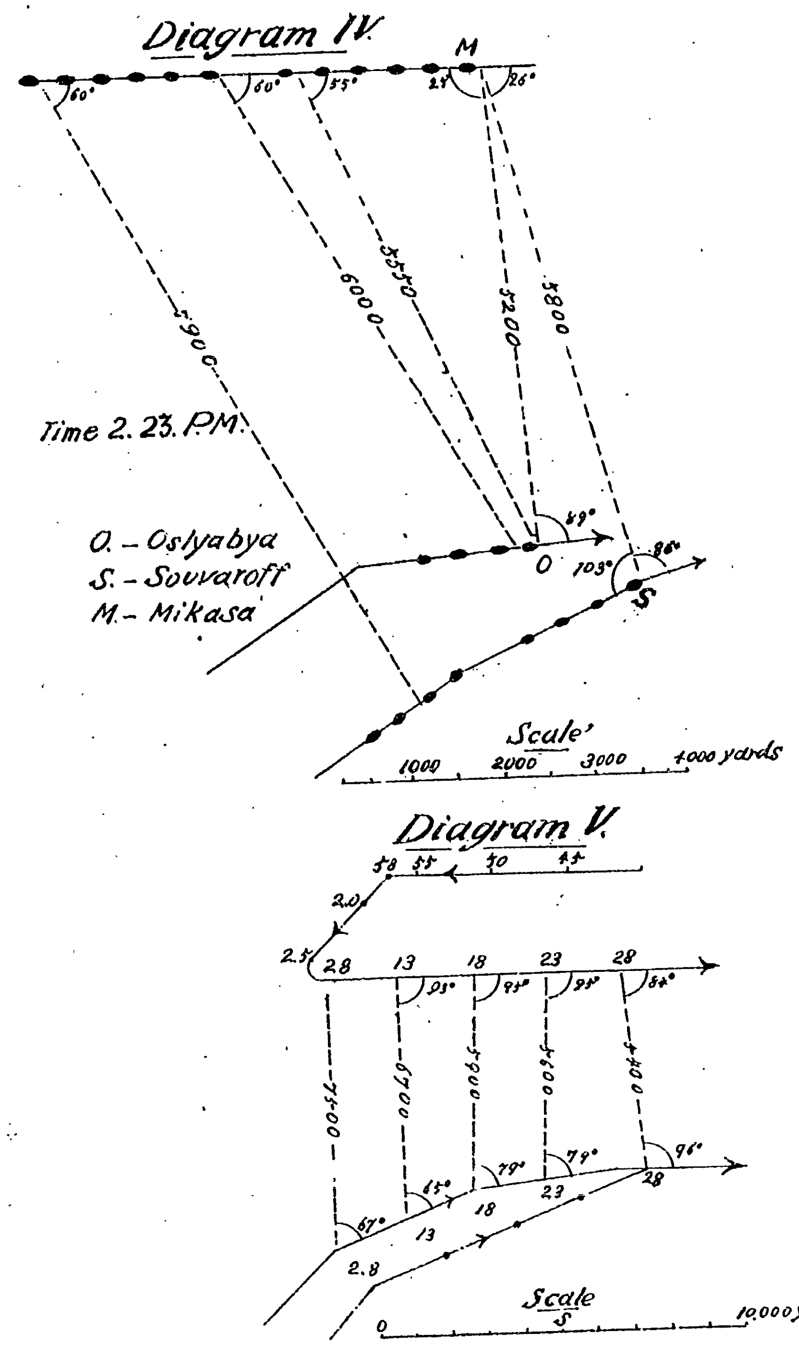
我カ主力隊ハ如此敵ヲ南方ニ壓歷シ煙霧ノ中敵影ヲ發見スル每ニ緩徐ニ之ヲ砲擊シツヽ午後三時頃ニハ既ニ敵ノ前路ニ出テ約南東ニ向針シツヽアリシカ敵ハ俄ニ北方ニ向首シ我カ後尾ヲ回リテ北走セントスルカ如キヲ以テ主戰艦隊ハ急ニ左十六點ニ一齊回頭シ日進ヲ嚮導トシテ北西ニ向ヒ裝甲巡洋艦隊モ其ノ通跡ヲ過キタル後正面ヲ變シテ之ニ續ケリ

本論ノ目的ニ向テハ最早此ノ後ノ戰況ヲ追續スルノ必要ヲ見ス露艦隊ハ前述ノ如ク左舷ニ一齊回轉セリ東鄕ハ尚敵ニ近接シ當日當所ニ於テ其ノ破壞ヲ完ウセント努ムヘキニ何故ニ彼ハ敵ニ向ハスシテ敵ト反對ニ回頭シ却テ其ノ距離ヲ遠クセシカハ明了ナラス彼ヲシテ斯ノ如ク爲スヲ得サラシメタル所以ノモノハ吾人之ヲ知ルコト能ハス或ハ終始稍獨立ノ行動ヲ執レル裝甲巡洋艦隊カ爾時其ノ右舷ニ在リ其ノ右舷回頭ヲ妨碍セシヲ以テナリシカ或ハ又彼ノ公報ニ謂フ所ノ露國艦隊ヲ包メル煙霧中ニ走入スルヲ躊躇セシカ爲メナリシヤモ知ルヘカラス其ノ原因ハ何レニモセヨ露國艦隊ハ之ニ依テ敵ヨリ遠サカリ其ノ全滅ノ厄運ヲ此ノ夜及ヒ翌日ニ延スコトヲ得タリ

（十） 射距離ノ變更

第三圖ニ於テ實線ノ曲線ハ兩艦隊環航シテ一方ノ艦隊ハ他艦隊ヲ正横ノ位置ニ視ルノミナラス絶エス約五千碼ノ不易距離ヲ持續スルヲ得ヘキコトヲ示ス實際兩艦隊ノ距離ニ關シテハ未タ確報ニ接セサルヲ以テ其ノ如何ナル狀態ノ下ニ變更セシヤヲ考察センコト必要ナリ若シ孰レカノ一カ他ノ一方ト接近セント欲セハ實際方位ヲ變更セスシテ之ヲ爲シ得ヘキモノナリ若シ速力十四海里半ノ先頭艦カ敵ニ對シテ不易距離ニ於テ環航スルニ必要ナルヨリ尚五度內方ノ針路ヲ執ラハ該艦ハ一分間ニ約四十二碼ノ割合ヲ以テ敵ニ接近シ而テ之ヲ普通ノ前進運動ニ比スレハ一分間ニ對シテ僅ニ約一碼半ノ遲延ヲ生スルニ過キサルヘシ第三圖ニ於テ點線ノ曲線ハ三笠カ前述想定ノ如ク進航セシモノト視テ描キ而テ其ノ關係方位ハ幾ト不易ニシテ其ノ距離ハ漸減シ午後二時二十八分ニハ五千碼ナリシモ同三時ニ至テハ三千五百六十碼トナルヲ示ス果シテ右ノ如クナレハ速力十二海里ノ先頭艦ハ一分間ニ三十五碼ノ割合ヲ以テ敵ニ接近シ又關係方位ヲ幾ト不易ニ保續スルナルヘシ而テ一方ハ何レノ場合ニ於テモ敵ノ接近セントスル企圖ヲ打破センカ爲メ速力劣等ノ艦ナラハ敵ヨリ稍多ク變針シ速力優等ノ艦ナラハ稍少ク變針シ以テ其ノ距離ヲ不易ニ保續スルコトヲ得ヘキナリ優等ノ砲火ヲ有スル艦隊

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



ハ實際ニ最短射距離ヲ左右シ得ヘキモノニシテ此ノ最短射距離ハ魚雷ノ有効距離トハ幾ト關係ヲ有セサルモノヽ如シ

第五圖ハ若シ兩艦隊カ十二海里ノ同速力ヲ有セシナラハ其ノ近接ヲ描クニ如何ナル修正ヲ要スルヤヲ示ス此ノ場合ニ於テ前題ト同一ノ結果ニ達セントセハ午後二時八分三笠ノ位置ヲ第三圖ニ示スカ如ク「オスラービヤ」ノ北十八度東八千碼ニ置カスシテ其ノ正北七千五百碼ニ在ラシムルカ如クセサルヘカラス斯ノ如クナルトキハ露軍ノ兩先頭艦ハ其ノ各砲ヲ敵ニ向ケ得ル爲メニ右舷ニ一點即チ十一度外方ニ回頭セスシテ三十二度回頭セサルヘカラス其ノ他ノ事ニ至テハ兩艦隊ハ環航ノ一點ヲ除クノ外ハ第三圖ニ於ルカ如シ斯ノ如クニシテ兩艦隊ハ並航ノ針路ヲ保續シ而テ其ノ相近ツクハ幾ト環航スルトキニ異ラス要ハ唯兩艦隊並航スル間ハ其ノ直線ナルト曲線ナルトヲ問ハス戰術上ノ利益ハ實際優速力ノ爲メニ戰術上ノ利益ヲ得スト云フニアリ

挿入ノ圖ハ此ノ海戰ノ實況ヲ寫シ出シタルモノニアラサレハ吾人ハ之ヲ以テ精細ノ合戰圖ト稱スルニアラスト雖モ其ノ大要ハ斯ノ如クナラント信ス即チ此ノ圖ハ實戰上起リタルラシク思ハルヽ所ト到底出來得ヘカラサル所トヲ指摘ス露國艦隊カ猛烈ナル射撃ヲ蒙リ陣形亂レタル模樣ハ爰ニ示サスシテ雙方ノ軍艦ハ孰レモ其ノ固有位置ニ在リタルモノト視做スモ事實ハ決シテ然ラス露國艦隊ニ於テ殊ニ甚シキコト必セリ將來尚ホ一層信據スヘキ詳報ノ世ニ出ツルアラハ讀者之ニ據テ此ノ圖ヲ修正完了セハ幸甚ナリ

(十一) 勝因ハ良戰術ニアリ快速力ニアラス

此ノ海戰ヲ攻究スルニ日本ノ勝利ハ戰術ノ優秀ニ歸スヘク速力ノ優等ニ歸スヘカラサルコトヲ確證スルニ足ル元來露國艦隊ノ陣形ハ誤謬ノ極ニ達シタルモノニシテ東郷大將ハ之ニ乘シ其ノ巧妙ナル運動ニ依テ敵ノ一部即チ其ノ兩先頭部隊ニ對シ優大ナル砲火ヲ集中シ後續部隊未タ來援セサル内ニ之ヲ擊破シ之ト同時ニ東郷ハ麾下各艦ヲシテ互援セシムル如ク排列シ其ノ一艦モ敵ノ集彈發射ニ暴露スルカ如キ孤立ノ地位ニ陷ラシメサリキ其ノ大勝ノ幾分ハ歷戰鍊腕ノ日本兵員カ射擊ニ長セシニ歸スヘキモノタルハ固ヨリ疑ヲ容レスト雖モ其ノ射擊ノ効果ハ主トシテ其ノ良戰術ヨリ起レルモノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

」ニシテ即チ此ノ海戰中勝敗將ニ決セントスル時機ニ當リ日本艦隊ハ直條ノ針路ヲ執テ進航シ絶エス其ノ砲ヲ敵ニ向クルヲ得タリシカ爲メナリ之ニ反シ露國艦隊ハ此ノ時機ニ際シ一モ右ノ如クセサリキ又露國艦隊ノ砲火ハ絶エス敵ノ優大ナル集彈發射ニ壓倒セラレ集彈發射ハ穿徹スヘカラサル裝甲ヲ以テ艦ヲ保護スルヨリモ適ニ有効ナル防彈法ナルニモ拘ラス終ニ之ヲ行フヲ得サリキ此ノ點ニ關シテ爰ニ注目セサルヘカラサル一事アリ則チ此ノ海戰ハ夫ノ「十二吋砲專用ノ議論」ヲ打破セルコト是ナリ看ヨ戰勝艦隊ハ敵ヨリモ適ニ優數ノ砲熕ヲ裝載セリ則チ敵ノ百門ニ對シ百二十七門ナリ然ルニ其ノ最大口徑砲ニ至リテハ敵ノ四十一門ニ對スル十七門ニシテ其ノ半數ニモ及ハサリキ十二吋砲彈ノ艦體構造上ニ及スヘキ効果ニハ無論重キヲ措クヘキモノナレトモ作戰材料ノ精選ニ孜々汲々タル論者ハ輙モスレハ戰鬪ノ大主眼ハ敵ノ裝甲ヲ穿徹スルヨリハ寧ロ乘員ノ士氣ヲ沮喪セシムルニ在ルコトヲ忘ルヘキモノヽ如シ隨テ彼輩ハ敵艦ヲ擊沈センヨリハ寧ロ其ノ乘員ヲ殲シ其ノ艦ヲ捕獲スルノ優レルコトヲ悟ラサルナリ六吋砲彈ノ雨ノ如ク降ルハ十二吋砲彈ノ緩徐ニ來ルヨリモ悲慘ナルコトハ現ニ之ヲ實驗セル露國海軍々人獨リ之ヲ知ルノミ砲ノ口徑愈大ナルニ從テ愈遠距離射擊ヲ善クスルヲ得ヘキハ疑ナシト雖モ決戰的距離(五千碼及ヒ其ノ以內)ニ在リテハ大差アラス故ニ艦隊司令長官タル者ハ決戰的距離ニ於テ敵ノ一部ニ對シ集彈發射ヲ行ヒ以テ其ノ餘艦カ未タ來援セサル內ニ之ヲ壓潰センコトヲ旨トセサルヘカラス一九〇四年八月十日ノ黃海々戰ニ於テ東鄕ハ遠戰ヲ試ミ徒ラニ敵艦擊滅ノ好機會ヲ逸シタルカ爲メ敵彈偶中ノ割合ヲ增シタリ然ルニ日本海々戰ニ於テハ平時ノ艦隊對抗演習ニ徵シテ知ラレタル如ク一方ニ於テ戰ハントスルトキ他ノ一方ニ於テ之ヲ避クルニアラサレハ雙方ノ艦隊ハ速ニ決戰的距離ニ入ルモノナルコトヲ證セリ故ニ軍艦ハ啻ニ遠戰ノミナラス近戰ニモ利スルノ目的ヲ以テ武裝セサルヘカラス

(十六)日本海々戰ニ據スル演習試行ノ勸告

吾人ハ昨年五月發刊ノ本雜誌ニ投書シタル「英國海軍本部退步(レトログレード、アドミラルチー)」ト題スル一論中「造船設計調査委員ヲ不健全」トスル項下ニ曰ク人避敵遁走シ得ルヲ以テ有益ナリト思考スルニアラサルヨリハ優速力ハ實際上ニ於テモ學理上ニ於テモ未タ曾

テ戰術上何等ノ利益ヲモ呈シタルコトアラスト吾人カ斯ク警告セシ所以ノモノハ英國海軍本部ノ造船設計調査委員カ盛ニ高速力ノ利ヲ說キ今後起工セラルヘキ各種軍艦ノ速力ヲ增加スルニ決シタルコトヲ知リシヲ以テナリ速力二三海里優等ナレハトテ實際之カ爲メニ一艦隊ノ戰術上ニ何等益スル所アラサルハ聰敏ナル一良將既ニ之ヲ證明シ又吾人ハ親シク海上ノ實地經驗ニ徵シテ之ヲ確メタルニ當局者ニ於テ右樣ノ說起ルハ吾人ノ了解ニ苦ム所ナリ不思議ニモ吾人カ「海軍本部退歩論」ヲ草シテ後一ケ月ヲ出テスシテ吾人ノ所見誤ラサルヲ實證スルノ一大海戰ハ日本海ニ起リタリ斯カル一大事件ニ關シテハ速斷スヘキモノニアラス之ヲ研究スルニ巨費ヲ要ス而テ其ノ問題ハ主トシテ戰術上ニ係ルモノナレハ之ヲ實地演習ニ附シ充分穿鑿セサルヘカラス吾人ハ其ノ必ス決行セラレンコトヲ勸告スル者ナリ今後我カ國ノ艦隊二個以上相會スルコトアラハ宜シク此ノ目的ヲ以テ對抗演習ヲ施行シ就中日本海々戰ノ戰術ヲ復演シ諸將校ヲシテ斯カル戰況ニ在リテハ如何ナル出來事ノ起ルヘキヤヲ實驗セシメ而テ後各自ニ其ノ判斷ヲ下サシメサルヘカラス

此ノ問題ノ要點ハ畢竟速力ハ軍艦要素ノ一ニシテ而モ之ヲ增進スルニハ他ノ要素ヲ犧牲ニ供セサルヲ得スト云フノ事實ニアリ此ノ犧牲ノ程度ハ特ニ之ニ適用スヘキ先例ニ據テ明ニ知ルヘキナリ戰艦「ブルワーク」同「モンタグ」裝甲巡洋艦「キングアルフレッド」ハ各百萬磅餘ノ費額ヲ要シタリ其ノ速力ハ一ハ十八海里一ハ十九海里一ハ二十三海里ナリ「モンタグ」ノ速力一海里ヲ增加スルカ爲メニ裝甲保護ニ於テハ「ブルワーク」ヨリモ二割ヲ減シタリ又「キングアルフレッド」ニ於テハ四海里ノ速力ヲ增加セシカ爲メ裝甲保護ニ於テ更ニ二割ヲ減シ兵器ニ於テ十二吋砲四門六吋砲六門ニ換フルニ九吋砲二門六吋砲八門ヲ以テスル差ニ相當ノ重量ヲ殺キタリ今試ニ米國軍艦ニ於テ一萬六千噸速力十八海里ノ戰艦「ルイヂヤナ」ト一萬三千七百噸速力二十二海里ノ戰艦「ウエスト、ヴアーヂニア」トヲ比較スルニ前者ハ戰鬪力五千三百噸(裝甲及ヒ兵器ノ重量)ト運動力千五百噸ヲ有ス後者ハ戰鬪力三千五十九噸ト運動力二千六十噸ナリ一萬六千噸十八海里ノ「ルイヂアナ」ノ費額ハ一萬三千噸速力十七海里ノ戰艦「アイダホ」ニ比スレハ略推察スルヲ得ヘシ而テ同國戰艦ハ幾ト同一ノ裝甲保護ト航續力ヲ有シ又其ノ舷側發射ハ何レモ四門ノ十二吋砲及ヒ四門ノ八吋砲ヨリ成リ「アイダホ」ニ在リテハ之ヲ補フニ四門ノ七吋砲「ルイヂアナ」ニ在リテハ六門ノ七吋砲ヲ以テス其ノ費額ハ「アイダホ」ハ約百二十萬磅「ルイヂアナ」ハ約百五十萬磅ナリ故ニ舷側砲ニ二門ノ七吋砲ト速力ニ一海里トノ增加ハ約三十萬磅ニ當ルノ割合ナリ此ノ增費ニ相當ノ効アリヤ否ヤハ未タ明ナラス

(亖) 砲力ハ速力及ヒ裝甲保護ヨリモ一層重要ナリ

軍艦ハ名義上戰艦ナルト裝甲巡洋艦ナルトヲ問ハス實際ハ何レモ皆主力艦ニシテ戰時ニハ必ス召集シテ戰列ニ加フヘキモノトセハ速力ノ爲メニ戰鬪力ヲ犧牲ニ供スルノ妥當ナルヲ認ムル能ハス何トナレハ戰鬪ハ主力艦ノ最高試驗ナリ而テ戰鬪ノ勝敗ハ戰術ノ優劣及ヒ戰鬪力ノ强弱ニ依テ決ス優速力ハ戰術上何等ノ利益ヲモ與ヘサルモノヽ如シ戰鬪力ノ强弱ハ其ノ防禦力即チ裝甲保護ノ堅脆ヨリハ寧ロ其ノ攻擊力即チ兵器ノ利鈍ニ由ルモノナリ速力ハ一ノ兵器ニアラス遁走スル場合ノ外ハ味方ヲ保護スルモノニアラス故ニ作戰ノ要訣ハ一艦隊ニ優等ノ速力又ハ裝甲保護ヲ與フルニアラスシテ之ニ優等ノ攻擊力即チ砲力ヲ賦スルニ在リ吾人カ特ニ一艦隊ニト云ヒ一軍艦ニト云ハサル所以ハ人ヲシテ一戰艦ヲ孤立ノ戰鬪單位ト思ハシムレハ往々誤解ヲ來スコトアルヲ以テ之ヲ避ケンカ爲メニ外ナラス

作戰材料ニノミ汲々タル論者ハ前述ノ議論ニ對シ目下製造中ノ軍艦ニ優速力ヲ賦スルノ設計ヲ如何ニ辯護セントスルカ又將ニ起工セントスル裝甲巡洋艦ニ於テ速力ノ爲メニ戰鬪力ヲ犧牲ニ供セントスル設計ヲ如何ニシテ得策ナリト信スルカ彼等ハ必ス他國ノ海軍カ已ニ倣フノ例ヲ枚擧スルナルヘシト雖モ此ノ辯疏ハ吾人ノ議論ヲ駁擊スルニ與リテ何等ノ力アルニアラス米國ハ英國ノ例ニ倣フニ躊躇ス而テ國會ノ協贊ヲ經ルニアラサレハ其ノ戰艦ノ大サ及ヒ速力ヲ增大セサルヘシ此ノ事タル人ヲシテ爽快ヲ感セシムル獨立獨歩ノ行爲ト謂ツヘシ何トナレハ兎角各國海軍省ハ各其ノ海軍政策ノ由テ起ル所ヲ異ニスルニモ拘ラス夫ノ綿羊カ無意識ニ互ニ其ノ群後ヲ逐ヒ臥房ニ赴クヲ學ヒ忽チ英國ノ例ニ盲從スト雖モ米國ニ至テハ超然トシテ此ノ群ニ加ラサレハナリ一八六六年墺伊リツサノ海戰後各國海軍省ハ擧テ皆至當ノ理由ナクシテ撞頭ヲ採用シタリ又米國內亂後各國又海防艦ヲ有利ト爲シ競フテ之ヲ製造シタリ然レトモ其ノ內過失ノ最大ナルモノ

ハ佛露二國ニ於テ見ル大形裝甲巡洋艦ノ發端ナリ此ノ失擧ハ今ヤ其ノ首唱者タル佛國造船家ノ自覺スル所トナレリ此ノ大形裝甲巡洋艦ハ元來英國ノ貿易ヲ破壞スルノ目的ヲ以テ計畫セラレタルモノナリシカ一九〇一年英吉利海峽ニ於テ擧行セラレタル演習ハ一八一二年ノ戰爭ニ由テ得タル教訓ヲ確定シテ斯ノ如キ大形裝甲巡洋艦ハ宜シク艦隊ニ移シ以テ戰艦ト共ニ行動スヘキモノナルコトヲ表彰セリ故ニ其ノ行動ハ事實上戰艦タリ既ニ戰艦タレハ戰鬪力ハ速力ヨリ一層重キヲ措クヘキ要素タリ今試ニ同艦隊ノ對抗スル場合ヲ採テ考究スルニ其ノ一方ハ佛國戰艦「レピユブリツク」ノ如キモノ六隻ヨリ成リ他ノ一方ハ同國裝甲巡洋艦「ヴイクトル、ユゴー」ノ如キモノ六隻ヨリ成ルトセハ前者ハ戰鬪力ニ於テ後者ハ速力ニ於テ其ノ敵ニ優リ乘員ハ雙方共ニ殆ト同數ニシテ孰レモ總計四千二百人內外ナリ然ルトキハ快走艦ハ何ヲ爲サントスルカ彼等ハ敵ヲ避ケテ遁走セント欲スルカ四千ノ乘員ハ首尾好ク同數ノ敵ヨリ遁走スル能ハサルヘシ況ヤ避敵ノ擧動ハ海軍々人タルノ名譽ヲ汚シ瀆職ノ罪ヲ免レサルニ於テヲヤ故ニ彼等ハ戰ハサルヘカラス然ルニ其ノ優速力ハ此ノ場合ニ於テ彼等ノ作戰ヲ助ケサルカ故ニ裝甲巡洋艦隊ハ必ス不利ノ位置ニ陷ルナラン

(十四) 快速力戰艦設計ノ誤解

「レピユブリツク」六隻ノ費額ヲ以テ「ヴイクトル、ユゴー」七隻ヲ製造スルコトヲ得ルハ明了ナリト雖モ一隻ヲ增セハ隨テ一隻ニ必要ナル定員ヲ置カサルヲ得ス是ニ於テ其ノ給養費ノ增加ヲ來スノミナラス七隻ニ分載シタル優數ノ砲ハ戰鬪力ニ於テハ六隻ノ戰艦ニ對峙スルニ足ラサルヲ如何セン要スルニ大形裝甲巡洋艦即チ快速力戰艦ハ二大過失ニ起因スルヤ明白ノ事實タリ其ノ一ハ大艦ヲ以テ貿易破壞ヲ行フニ最有效ナルノ具ト爲スニ在リ然ルニ是迄戰爭ニ由テ得タル經驗ニ徵スルニ事實ハ全ク之ニ反スルコト知ルヘキナリ何トナレハ敵ノ通商ヲ攻擊スルニハ我カ勢力ヲ諸方ニ散置セサルヲ得ス而テ之ヲ爲スニハ少數ノ大艦ヲ以テスルヨリハ多數ノ小艦ヲ以テスル方常ニ著效ヲ奏シタレハナリ其ノ二ハ敵ノ遁走スルニ際シ之ニ追及セントスルニ在リ是昇平久シキニ彌リシカ爲メニ生シタル一種ノ謬見ナリ英國カ再制海力爭奪戰ヲ起スノ曉ニ至ヲハ敵ハ必ス遁走セサルヘシ其ノ進ンテ戰ハント欲スルハ猶紀元前四百八十年希臘サラミスノ大海戰ニ於テ希臘ノ波斯ニ對スル如ク、紀元前二百六十四年以降二十三年間繼續シタル第一「ピユニツク」戰爭ニ於テ羅馬ノカルセーヂニ對スル如ク、第十七世紀中和蘭ノ英國ニ對スル如ク、一六九〇年英吉利海峽ビーチー、ヘッド沖海戰、一七〇四年西班牙ノマラガ岬沖ノ海戰及ヒ亞米利加獨立戰爭中佛國ノ英國ニ對スル如クナルヘシ此ノ危急ノ秋ニ際セハ速力ノ爲メニ戰鬪力ヲ犧牲ニ供シタル失策ヲ痛悔スルニ至ルナラン

要スルニ今日英國海軍當局者ノ抱懷スル戰爭ノ觀念ハ根本的ニ不健全ニシテ啻ニ從來ノ戰爭ニ由テ得タル原則ニ悖反スルノミナラス今ヤ既ニ終局ヲ告ケタル日露戰爭ノ訓戒ニモ背馳スルコト明白ノ事實ナリ彼等ハ戰艦ヲ設計スルニ當テハ徒ラニ其ノ大形ヲ恃ミ戰術ノ優劣ヲ顧ミス是其ノ心中攻勢ヨリハ寧ロ守勢ヲ執ルノ方針ヲ示スモノナリ換言スレハ人ヨリ寧ロ艦ヲ賴マント欲スルモノナリ又裝甲巡洋艦ニ在リテハ速力ノ爲メニ戰鬪力ヲ犧牲ニ供ス是其ノ意、敵ト戰フコトヲ思ハスシテ敵走レハ之ニ追及シ我走レハ追及セラレサランコトヲ主眼トス右二様ノ所見ハ倶ニ國家ノ元氣ヲ敗壞シ又我カ海軍世襲ノ美風ニ反スルモノナリ今若シ裝甲巡洋艦ヲ集團スルニ至ラハ勢ヒ我カ國ノ通商ハ敵ノ諸方ニ配置スル數多ノ小艦ヨリ攻擊セラルヽノ虞アルモ英國ニ於テハ之ニ應センカ爲メ一モ備フル所アラサルナリ憾ムラクハ此等ノ目的ニ向テ利用セラルヘキ軍艦ハ曩ニ老朽用ニ堪ヘストシテ海軍艦籍ヨリ削除セラレタリ是所謂太平ノ思想ナルノミ何トナレハ戰史上ノ事實ニ徵スルニ戰爭起レハ小形艦增加ノ必要ヲ感スルニ至レハナリ實ニ英國海軍本部モ露國海軍省ト均シク其ノ策ヲ誤ル所以ノモノハ事ヲ解セサル當局者カ專斷ヲ以テ其ノ意見ヲ決行スルノ權能ヲ委セラルヽカ故ナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/